



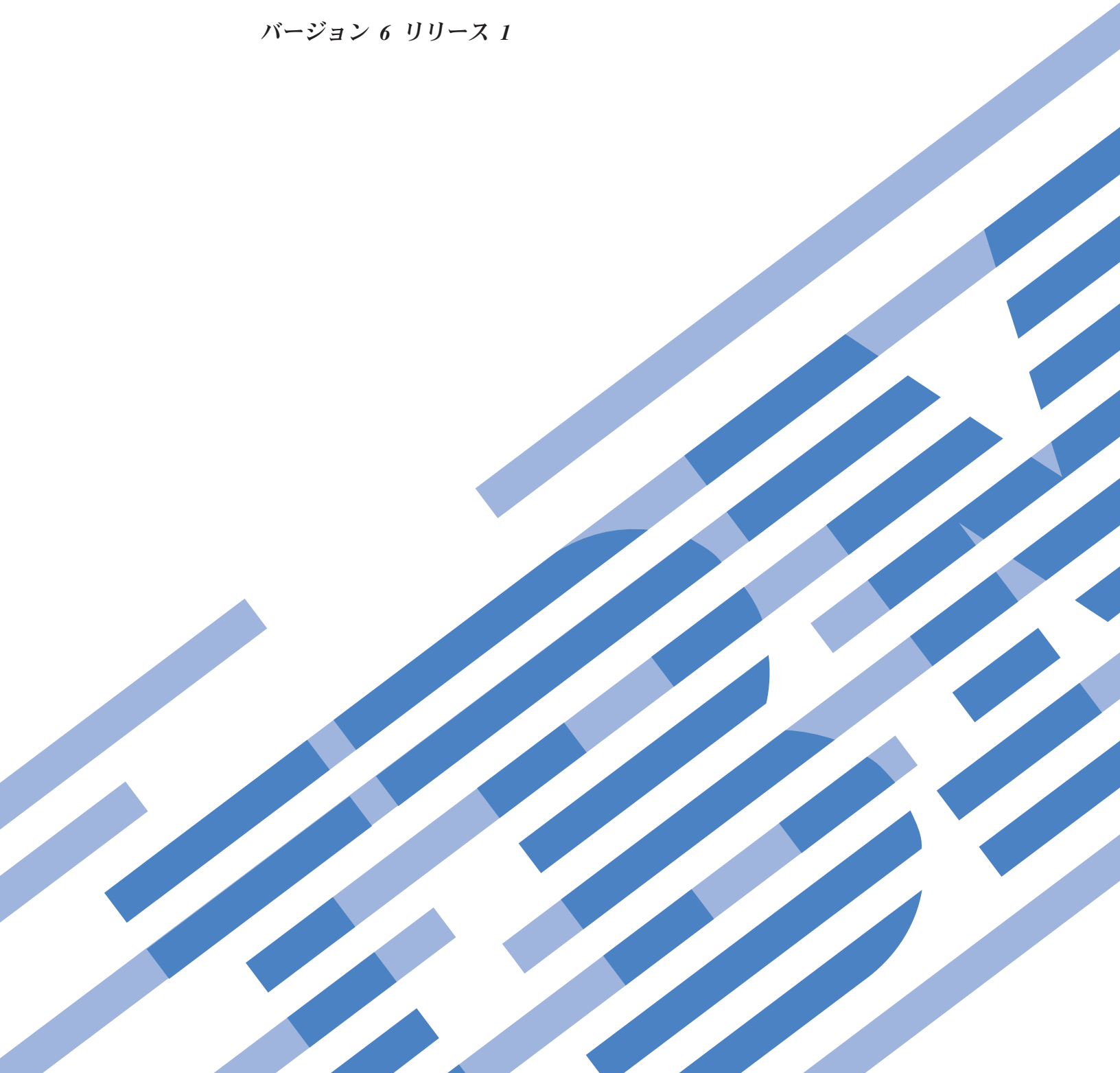
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、885 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with CRTJRNRCV (Create Journal Receiver)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJNRVCV)	1
パラメーター	1
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	1
ASP番号 (ASP)	2
ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)	2
テキスト'記述' (TEXT)	3
入りたい記憶装置 (UNIT)	3
権限 (AUT)	4
例	4
エラー・メッセージ	5

JAVAプログラムの作成 (CRTJVAPGM)	7
パラメーター	7
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	7
クラスパス (CLASSPATH)	8
JAVA DEVELOPER KITバージョン (JDKVER)	8
最適化 (OPTIMIZE)	9
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	9
借用権限の使用 (USEADPAUT)	10
プログラムの置き換え (REPLACE)	10
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)	10
プロファイリング・データ (PRFDTA)	11
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	11
ターゲット・リリース (TGTRLS)	11
LICオプション (LICOPT)	12
LICオプション・ファイル (LICOPTFILE)	12
例	13
エラー・メッセージ	13

論理ファイル作成 (CRTLF)	15
パラメーター	15
ファイル (FILE)	17
ソース・ファイル (SRCFILE)	17
ソース・メンバー (SRCMBR)	18
生成重大度レベル (GENLVL)	18
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	18
ファイル・タイプ (FILETYPE)	18
論理ファイル・メンバー (MBR)	19
物理ファイル・データ・メンバー (DTAMBR)	19
テキスト'記述' (TEXT)	21
ソース・リスト・オプション (OPTION)	21
システム (SYSTEM)	22
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	22
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	23
アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)	23
アクセス・パスの保守 (MAINT)	23
アクセス・パス回復 (RECOVER)	24
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	25
入りたい記憶装置 (UNIT)	25

レコード様式選択プログラム (FMTSLR)	25
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	26
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	27
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	27
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	27
分類順序 (SRTSEQ)	28
言語識別コード (LANGID)	28
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	29
権限 (AUT)	29
例	29
エラー・メッセージ	30

ライブラリー作成 (CRTLIB)	31
パラメーター	31
ライブラリー (LIB)	32
ライブラリー・タイプ (TYPE)	32
テキスト'記述' (TEXT)	32
権限 (AUT)	32
ASP番号 (ASP)	33
ASP装置 (ASPDEV)	34
作成権限 (CRTAUT)	34
オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)	35
例	35
エラー・メッセージ	36

回線記述の作成 (非同期) (CRTLINASC)	39
パラメーター	39
回線記述 (LIND)	40
資源名 (RSRCNAME)	40
IPL時のオンライン (ONLINE)	41
物理インターフェース (INTERFACE)	41
接続タイプ (CNN)	41
交換網バックアップ (SNBU)	42
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	42
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	43
文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)	43
パリティのタイプ (PARITY)	43
停止ビット (STOPBITS)	43
二重 (DUPLEX)	44
エコー・サポート (ECHO)	44
回線速度 (LINESPEED)	44
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	44
交換接続タイプ (SWTCNN)	45
自動返答 (AUTOANS)	45
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	45
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	46
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	46
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	47
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	47
呼び出し番号 (CALLNBR)	48
非活動タイマー (INACTTMR)	48

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	48
フロー制御 (FLOWCNTL)	48
XON文字 (XONCHAR)	49
XOFF文字 (XOFFCHAR)	49
レコードの終わりテーブル (EORTBL)	49
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	50
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	50
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	50
テキスト'記述' (TEXT)	51
接続された非交換制御装置 (CTL)	51
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	51
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	51
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	51
アイドル・タイマー (IDLTMR)	52
送信可タイマー (CTSTMR)	52
回復限界 (CMNRCYLMT)	52
権限 (AUT)	53
例	53
エラー・メッセージ	53
回線記述の作成(BSC) (CRTLINBSC) . . . 55	
パラメーター	55
回線記述 (LIND)	56
資源名 (RSRCNAME)	56
IPL時のオンライン (ONLINE)	57
適用業務タイプ (APPTYPE)	57
物理インターフェース (INTERFACE)	57
接続タイプ (CNN)	57
交換網バックアップ (SNBU)	58
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	58
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	59
端末アドレス (STNADR)	59
刻時 (CLOCK)	59
二重 (DUPLEX)	59
回線速度 (LINESPEED)	60
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	60
交換接続タイプ (SWTCNN)	60
自動返答 (AUTOANS)	61
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	61
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	61
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	61
呼び出し番号 (CALLNBR)	62
非活動タイマー (INACTTMR)	62
最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	62
文字コード (CODE)	62
受信タイマー (RCVTMR)	63
続行タイマー (CONTTMR)	63
回線争奪状態再試行 (CTNRTY)	63
データ状態再試行 (DTASTTRY)	63
TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)	64
TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)	64
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	64
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	64
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	65

テキスト'記述' (TEXT)	65
接続された非交換制御装置 (CTL)	65
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	65
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	65
SYN同期文字 (SYNCCHARS)	66
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	66
LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)	66
送信可タイマー (CTSTMR)	66
回復限界 (CMNRCYLMT)	67
権限 (AUT)	67
例	68
エラー・メッセージ	68

回線記述の作成(DDI) (CRTLINDDI) . . . 69

パラメーター	69
回線記述 (LIND)	70
資源名 (RSRCNAME)	71
IPL時のオンライン (ONLINE)	71
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	71
最大制御装置数 (MAXCTL)	72
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	72
ロギング・レベル (LOGLVL)	72
ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)	73
接続NWI (NWI)	73
DLC識別コード (NWIDLCL)	73
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	74
交換識別コード (EXCHID)	74
SSAPリスト (SSAP)	74
テキスト'記述' (TEXT)	75
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	75
グループ・アドレス (GRPADR)	76
トークン循環時間 (TKNRTTIME)	76
リンク速度 (LINKSPEED)	76
コスト/接続時間 (COSTCNN)	77
コスト/バイト (COSTBYTE)	77
回線の機密保護 (SECURITY)	77
伝搬遅延 (PRPDLY)	78
ユーザー定義1 (USRDFN1)	78
ユーザー定義2 (USRDFN2)	78
ユーザー定義3 (USRDFN3)	78
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	79
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	79
回復限界 (CMNRCYLMT)	79
MSG 待ち行列 (MSGQ)	80
権限 (AUT)	80
例	81
エラー・メッセージ	81

回線記述の作成(イーサネット) (CRTLINETH) . . . 83

CRTLINETHの共通エラー	83
パラメーター	83
回線記述 (LIND)	85
資源名 (RSRCNAME)	86
IPL時のオンライン (ONLINE)	86
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	86

接続NWI (NWI)	87
NWIタイプ (NWIATYPE)	87
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	88
関連したポート資源名 (ASSOCPORT)	88
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	88
交換識別コード (EXCHID)	89
イーサネット標準 (ETHSTD)	89
回線速度 (LINESPEED)	89
二重 (DUPLEX)	90
保守容易性オプション (SRVOPT)	90
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	90
SSAPリスト (SSAP)	91
ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)	92
PVC識別コード (PVCID)	92
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	93
LES ATMアドレス (LESATMADR)	93
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	94
LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)	94
テキスト'記述' (TEXT)	94
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	94
グループ・アドレス (GRPADR)	95
最大制御装置数 (MAXCTL)	95
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	95
テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)	95
リンク速度 (LINKSPEED)	95
コスト/接続時間 (COSTCNN)	96
コスト/バイト (COSTBYTE)	96
回線の機密保護 (SECURITY)	96
伝搬遅延 (PRPDLY)	97
ユーザー定義1 (USRDFN1)	97
ユーザー定義2 (USRDFN2)	97
ユーザー定義3 (USRDFN3)	98
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	98
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	98
回復限界 (CMNRCYLMT)	98
MSG 待ち行列 (MSGQ)	99
権限 (AUT)	99
例	100
エラー・メッセージ	100

回線記述の作成(ファクシミリ)

(CRTLINFAX) 101

パラメーター	101
回線記述 (LIND)	101
資源名 (RSRCNAME)	101
IPL時のオンライン (ONLINE)	102
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	102
テキスト'記述' (TEXT)	103
接続された非交換制御装置 (CTL)	103
権限 (AUT)	103
例	104
エラー・メッセージ	104

回線記述の作成(フレーム・リレー)

(CRTLINFR) 105

パラメーター	105
--------	-----

回線記述 (LIND)	106
接続NWI (NWI)	106
DLC識別コード (NWLDCI)	107
IPL時のオンライン (ONLINE)	107
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	107
最大制御装置数 (MAXCTL)	108
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	108
交換識別コード (EXCHID)	108
SSAPリスト (SSAP)	108
テキスト'記述' (TEXT)	109
リンク速度 (LINKSPEED)	110
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	110
コスト/接続時間 (COSTCNN)	110
コスト/バイト (COSTBYTE)	110
回線の機密保護 (SECURITY)	111
伝搬遅延 (PRPDLY)	111
ユーザー定義1 (USRDFN1)	111
ユーザー定義2 (USRDFN2)	112
ユーザー定義3 (USRDFN3)	112
回復限界 (CMNRCYLMT)	112
MSG 待ち行列 (MSGQ)	113
権限 (AUT)	113
例	114
エラー・メッセージ	114

回線記述の作成(PPP) (CRTLINPPP) 115

パラメーター	115
回線記述 (LIND)	116
資源名 (RSRCNAME)	117
接続タイプ (CNN)	117
フレーム・タイプ (FRAMING)	117
物理インターフェース (INTERFACE)	117
接続された非交換NWI (NWI)	118
NWIチャンネル番号 (NWLCHLNBR)	118
交換NWIリスト (SWTNWILST)	119
IPL時のオンライン (ONLINE)	119
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	119
回線速度 (LINESPEED)	120
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	120
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	121
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	122
交換接続タイプ (SWTCNN)	122
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	122
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	123
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	123
着信接続リスト (CNNLSTIN)	123
刻時 (CLOCK)	123
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	124
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	124
呼び出し番号 (CALLNBR)	125
フロー制御 (FLOWCNTL)	125
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	126
送信可タイマー (CTSTMR)	126
非活動タイマー (INACTTMR)	126
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	126

NRZIデータ・エンコード (NRZI)	127
テキスト記述 (TEXT)	127
非同期制御文字マップ (ACCM)	127
LCP認証値 (LCPAUT)	128
LCP構成値 (LPCPCFG)	129
圧縮 (COMPRESS)	129
回復限界 (CMNRCYLMT)	130
MSG 待ち行列 (MSGQ)	130
権限 (AUT)	131
例	131
エラー・メッセージ	131

回線記述の作成(SDLC) (CRTLINS DLC) 133

パラメーター	133
回線記述 (LIND)	136
資源名 (RSRCNAME)	136
IPL時のオンライン (ONLINE)	136
データ・リンクの役割 (ROLE)	136
物理インターフェース (INTERFACE)	137
接続タイプ (CNN)	137
交換網バックアップ (SNBU)	138
SHMノード・タイプ (SHMNODE)	138
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	138
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	139
交換識別コード (EXCHID)	139
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	139
最大制御装置数 (MAXCTL)	140
刻時 (CLOCK)	140
回線速度 (LINESPEED)	140
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	141
交換接続タイプ (SWTCNN)	141
自動返答 (AUTOANS)	142
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	142
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	142
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	143
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	143
SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)	143
SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)	144
SHM返答遅延タイマー (SHMANSPLY)	144
SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)	144
SHMアクセス・コード (SHMACC)	145
呼び出し番号 (CALLNBR)	145
端末アドレス (STNADR)	145
ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)	145
接続タイマー (CNNTMR)	146
短時間タイマー (SHORTTMR)	146
長時間タイマー (LONGTMR)	146
短時間再試行 (SHORTRTY)	147
長時間再試行 (LONGRTY)	147
呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)	147
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	148
二重 (DUPLEX)	148
非活動タイマー (INACTTMR)	148
ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)	149
非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)	149

アイドル・タイマー (IDLTMR)	149
接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)	149
ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)	149
フレーム再試行 (FRAMERTY)	150
フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)	150
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	150
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	150
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	150
テキスト記述 (TEXT)	151
接続された非交換制御装置 (CTL)	151
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	151
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	151
モジュラス (MODULUS)	152
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	152
送信可タイマー (CTSTMR)	152
リンク速度 (LINKSPEED)	152
コスト/接続時間 (COSTCNN)	153
コスト/バイト (COSTBYTE)	153
回線の機密保護 (SECURITY)	153
伝搬遅延 (PRPDLY)	154
ユーザー定義1 (USRDFN1)	154
ユーザー定義2 (USRDFN2)	154
ユーザー定義3 (USRDFN3)	155
回復限界 (CMNRCYLMT)	155
権限 (AUT)	155
例	156
エラー・メッセージ	156

回線記述の作成(TDLC) (CRTLINTDLC) 157

パラメーター	157
回線記述 (LIND)	157
接続したワークステーション制御機構 (WSC)	157
IPL時のオンライン (ONLINE)	158
テキスト記述 (TEXT)	158
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	158
接続された非交換制御装置 (CTL)	158
権限 (AUT)	158
例	159
エラー・メッセージ	159

回線記述の作成(トークンリング) (CRTLINTRN) 161

パラメーター	161
回線記述 (LIND)	163
資源名 (RSRCNAME)	163
NWIタイプ (NWIATYPE)	164
IPL時のオンライン (ONLINE)	164
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	164
最大制御装置数 (MAXCTL)	165
接続NWI (NWI)	165
DLC識別コード (NWDLCI)	165
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	166
回線速度 (LINESPEED)	166
二重 (DUPLEX)	167
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	167

LECフレーム・サイズ (LECFRAME)	168
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	168
交換識別コード (EXCHID)	168
SSAPリスト (SSAP)	169
ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)	170
PVC識別コード (PVCID)	170
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	170
LES ATMアドレス (LESATMADR)	171
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	171
LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)	171
テキスト記述 (TEXT)	172
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	172
LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)	172
TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)	172
TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)	173
構成変更ログ (LOGCFGCHG)	173
ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)	173
機能分野アドレス (FCNADR)	174
トークン早期解放 (ELYTKNRLS)	175
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	175
リンク速度 (LINKSPEED)	175
コスト/接続時間 (COSTCNN)	175
コスト/バイト (COSTBYTE)	176
回線の機密保護 (SECURITY)	176
伝搬遅延 (PRPDLY)	176
ユーザー定義1 (USRDFN1)	177
ユーザー定義2 (USRDFN2)	177
ユーザー定義3 (USRDFN3)	177
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	178
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	178
回復限界 (CMNRCYLMT)	178
MSG 待ち行列 (MSGQ)	178
権限 (AUT)	179
例	180
エラー・メッセージ	180

回線記述の作成 (無線) (CRTLINWLS) 181

パラメーター	181
回線記述 (LIND)	182
資源名 (RSRCNAME)	183
IPL時のオンライン (ONLINE)	183
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	183
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	184
交換識別コード (EXCHID)	184
イーサネット標準 (ETHSTD)	184
SSAPリスト (SSAP)	185
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	185
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	186
初期設定プログラム (INZPGM)	186
テキスト記述 (TEXT)	187
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	187
グループ・アドレス (GRPADR)	187
最大制御装置数 (MAXCTL)	187
リンク速度 (LINKSPEED)	188
コスト/接続時間 (COSTCNN)	188
コスト/バイト (COSTBYTE)	188

回線の機密保護 (SECURITY)	189
伝搬遅延 (PRPDLY)	189
ユーザー定義1 (USRDFN1)	189
ユーザー定義2 (USRDFN2)	189
ユーザー定義3 (USRDFN3)	190
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	190
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	190
回復限界 (CMNRCYLMT)	191
権限 (AUT)	191
例	192
エラー・メッセージ	192

回線記述の作成(X.25) (CRTLINX25) 193

パラメーター	193
回線記述 (LIND)	196
資源名 (RSRCNAME)	196
論理チャンネル項目 (LGLCHLE)	197
ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)	197
接続開始 (CNNINIT)	197
IPL時のオンライン (ONLINE)	198
物理インターフェース (INTERFACE)	198
接続タイプ (CNN)	198
接続された非交換NWI (NWI)	199
NWIチャンネル・タイプ (NWICHLTYPE)	199
NWIチャンネル番号 (NWICHLNBR)	200
交換NWIリスト (SWTNWILST)	200
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	200
回線速度 (LINESPEED)	201
交換識別コード (EXCHID)	201
パケット・モード (PKTMODE)	202
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	202
拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)	203
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	203
省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	203
最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)	203
モジュラス (MODULUS)	204
省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	204
パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)	204
ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)	205
接続番号 (CNNNBR)	205
呼び出し番号 (CALLNBR)	205
交換接続タイプ (SWTCNN)	205
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	206
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	206
着信接続リスト (CNNLSTIN)	206
自動返答 (AUTOANS)	207
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	207
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	207
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	207
即時呼び出し (CALLIMMED)	208
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	208
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	208
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	209
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	209

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	209
交換回線切断 (SWTDSC)	209
切断タイマー (SWTDSCTMR)	210
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	210
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	210
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	210
刻時 (CLOCK)	211
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	211
テキスト'記述' (TEXT)	211
X.25 DCEサポート (X25DCE)	211
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	212
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	212
アイドル・タイマー (IDLTMR)	212
フレーム再試行 (FRAMERTY)	213
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	213
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	213
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	214
送信可タイマー (CTSTMR)	214
リンク速度 (LINKSPEED)	214
コスト/接続時間 (COSTCNN)	214
コスト/バイト (COSTBYTE)	215
回線の機密保護 (SECURITY)	215
伝搬遅延 (PRPDLY)	216
ユーザー定義1 (USRDFN1)	216
ユーザー定義2 (USRDFN2)	216
ユーザー定義3 (USRDFN3)	216
回復限界 (CMNRCYLMT)	217
MSG 待ち行列 (MSGQ)	217
権限 (AUT)	217
例	218
エラー・メッセージ	218

ロケール作成 (CRTLOCALE) 219

パラメーター	219
ロケール名 (LOCALE)	220
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	220
コード化文字セットID (CCSID)	220
生成重大度レベル (GENLVL)	220
テキスト'記述' (TEXT)	221
出力 (OUTPUT)	221
ソース・リスト・オプション (OPTION)	221
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	222
データの共通権限 (DTAAUT)	222
オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)	223
例	223
エラー・メッセージ	224

メニュー作成 (CRTMNU) 225

パラメーター	225
メニュー (MENU)	226
メニュー・タイプ (TYPE)	226
表示装置ファイル (DSPF)	227
メッセージ・ファイル (MSGF)	227
コマンド入力行 (CMDLIN)	228
機能キーの表示 (DSPKEY)	228

プログラム (PGM)	228
ソース・ファイル (SRCFILE)	229
ソース・メンバー (SRCMBR)	230
ソース・リスト・オプション (OPTION)	230
組み込みファイル (INCFIL)	231
現行ライブラリー (CURLIB)	231
実行ライブラリー (PRDLIB)	231
文字識別コード (CHRID)	232
メニューの置き換え (REPLACE)	232
テキスト'記述' (TEXT)	233
権限 (AUT)	233
例	234
エラー・メッセージ	234

モード記述作成 (CRTMODD) 235

パラメーター	235
モード記述 (MODD)	236
最大セッション (MAXSSN)	236
会話の最大数 (MAXCNV)	236
ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)	236
事前結合セッション数 (PREESTSSN)	237
最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)	237
インバウンド・ペーシング値 (INPACING)	237
アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)	237
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	238
データ圧縮 (DTACPR)	238
インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)	239
アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)	240
セッション・レベル暗号 (SLE)	240
テキスト'記述' (TEXT)	241
サービス・クラス (COS)	241
権限 (AUT)	241
例	242
エラー・メッセージ	242

メッセージ・ファイル作成 (CRTMSGF) 243

パラメーター	243
メッセージ・ファイル (MSGF)	243
テキスト'記述' (TEXT)	244
ファイル・サイズ (SIZE)	244
権限 (AUT)	245
コード化文字セットID (CCSID)	245
例	246
エラー・メッセージ	246

MSG ファイルからのメニューの作成 (CRTMSGFMNU) 249

パラメーター	249
メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)	250
オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)	250
メニューの置き換え (REPLACE)	251
自由形式メニュー (FREEFORM)	251
DDSリスト (DDSLIST)	251
最大装置数 (MAXDEV)	252

権限 (AUT)	252
受取DDSソース・ファイル (TOFILE)	253
受取DDSソース・メンバー (TOMBR)	253
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	254
ターゲット・リリース (TGTRLS)	254
例	254
エラー・メッセージ	255

メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ) 257

パラメーター	257
MSG 待ち行列 (MSGQ)	258
テキスト'記述' (TEXT)	258
補助記憶域への強制書き込み (FORCE)	258
待ち行列サイズ (SIZE)	258
権限 (AUT)	259
警報可能 (ALWALR)	260
コード化文字セットID (CCSID)	260
メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)	261
例	261
エラー・メッセージ	262

ノード・グループの作成

(CRTNODGRP) 263

パラメーター	263
ノード・グループ(NODGRP)	263
リレーショナル・データベース (RDB)	264
ファイルの区分化(PTNFILE)	264
メンバーの区分化(PTNMBR)	265
テキスト'記述' (TEXT)	265
権限 (AUT)	265
例	266
エラー・メッセージ	266

ノード・リストの作成 (CRTNODL) . . . 267

パラメーター	267
ノード・リスト (NODL)	267
テキスト'記述' (TEXT)	268
権限 (AUT)	268
例	268
エラー・メッセージ	269

NETBIOS記述の作成 (CRTNTBD) . . . 271

パラメーター	271
NETBIOS記述 (NTBD)	272
テキスト'記述' (TEXT)	272
フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)	272
最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)	272
最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)	273
最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)	273
非活動タイマー (INACTTMR)	273
応答タイマー (RSPTMR)	273
肯定応答タイマー (ACKTMR)	274
最大未処理受信 (MAXIN)	274
最大未処理送信 (MAXOUT)	274
QUERYタイムアウト (QRYTMR)	274
NETBIOS再試行 (NTBRTY)	274

複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)	275
メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)	275
パケット再始動の確認 (PKTRESTART)	275
DLC再試行 (DLCRTY)	275
イーサネット標準 (ETHSTD)	276
権限 (AUT)	276
例	277
エラー・メッセージ	277

ネットワーク・インターフェースの作成

(FR) (CRTNWIFR) 279

パラメーター	279
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	280
資源名 (RSRCNAME)	280
IPL時のオンライン (ONLINE)	280
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	280
データ・リンク接続ID (DLCI)	281
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	281
物理インターフェース (INTERFACE)	281
刻時 (CLOCK)	282
回線速度 (LINESPEED)	282
LMIモード (LMIMODE)	283
ポーリング間隔 (POLLITV)	283
全面照会間隔 (FULLINQITV)	283
テキスト'記述' (TEXT)	284
回復限界 (CMNRCYLMT)	284
権限 (AUT)	284
例	285
エラー・メッセージ	285

NWS構成の作成 (CRTNWSCFG) . . . 287

パラメーター	287
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	289
構成タイプ (TYPE)	289
IPセキュリティ規則 (IPSECRULE)	289
サービス・プロセッサの初期設定 (INZSP)	290
ユニキャストの使用可能化 (ENBUNICAST)	291
サービス・プロセッサ名 (SPNAME)	291
SP IP アドレス (SPINTNETA)	291
SP証明書ID (SPCERTID)	292
格納装置ID (EID)	292
SP構成名 (SPNWSCFG)	293
リモート・システムID (RMTSYSID)	293
配布方式 (DELIVERY)	294
ターゲットCHAP認証 (CHAPAUT)	294
開始プログラムCHAP認証 (INRCHAPAUT)	295
ブート装置ID (BOOTDEVID)	296
動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)	297
リモート(開始プログラム)インターフェース (RMTIFC)	298
テキスト'記述' (TEXT)	299
権限 (AUT)	300
例	300
エラー・メッセージ	301

ネットワーク・サーバー記述の作成 (CRTNWS D)	303
パラメーター	303
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS D)	307
資源名 (RSRCNAME)	308
ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)	308
記憶域パス (STGPTH)	309
省略時IP セキュリティー規則 (DFTSECRULE)	311
マルチパス・グループ (MLTPTHGRP)	311
省略時記憶域パス (DFTSTGPTH)	311
取り外し可能媒体パス (RMVMEDPTH)	312
活動化タイマー (ACTTMR)	312
IPL時のオンライン (ONLINE)	312
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	313
シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)	313
区画 (PARTITION)	314
区画番号 (PTNNBR)	314
ドメインの役割 (DMNROLE)	314
ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)	315
言語バージョン (LNGVER)	315
コード・ページ (CODEPAGE)	317
サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	318
イベント・ログ (EVTLOG)	319
通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)	319
構成ファイル (CFGFILE)	320
サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)	320
サーバー記憶スペースASP (SVRSTGASP)	321
サーバー記憶域ASP装置 (STGASPDEV)	321
プール識別コード (POOL)	322
TCP/IPポート構成 (TCPPTCFG)	322
TCP/IP経路構成 (TCP RTE)	324
TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)	325
TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)	326
TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)	326
ポート (PORTS)	327
仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)	328
制約された装置資源 (RSTDDEV RSC)	329
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	330
仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)	330
日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)	331
ユーザー・プロファイル無効 (DSBUSRPRF)	331
IPLソース (IPLSRC)	332
IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)	332
IPLパラメーター (IPLPARM)	332
電源制御 (PWRCTL)	333
保守容易性オプション (SRVOPT)	333
権限 (AUT)	333
テキスト'記述' (TEXT)	334
例	334
エラー・メッセージ	335
NWS記憶スペースの作成 (CRTNWSSTG)	337
パラメーター	337

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	337
サイズ (NWSSIZE)	338
開始記憶スペース (FROMNWSSTG)	338
形式 (FORMAT)	338
データ・オフセット (OFFSET)	339
補助記憶域プールID (ASP)	340
ASP装置 (ASPDEV)	340
クラスター・ドメイン名 (CLUDMN)	341
クラスター・ポート構成 (CLUPORTCFG)	341
テキスト'記述' (TEXT)	341
例	342
エラー・メッセージ	342

出力待ち行列作成 (CRTOUTQ)	343
パラメーター	343
出力待ち行列 (OUTQ)	345
スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)	345
待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)	346
リモート・システム (RMTSYS)	346
リモート印刷装置待ち行列 (RMTPR TQ)	347
自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)	347
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	347
接続タイプ (CNNTYPE)	348
宛先タイプ (DESTTYPE)	348
SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)	349
データ変換プログラム (USRDTATFM)	349
製造タイプおよび型式 (MFRTYPMDL)	350
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	356
イメージ構成 (IMGCFG)	357
IPアドレス (INTNETADR)	359
VM/MVSクラス (CLASS)	359
用紙制御バッファ (FCB)	360
宛先オプション (DESTOPT)	360
区切りページの印刷 (SEPPAGE)	360
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	361
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	361
ユーザー定義ドライバ・プログラム (USRDRVPGM)	362
スプール・ファイルASP (SPLFASP)	362
テキスト'記述' (TEXT)	363
ファイルの表示 (DSPDTA)	363
ジョブ区切り (JOBSEP)	363
操作員制御 (OPRCTL)	364
データ待ち行列名 (DTAQ)	364
検査権限 (AUTCHK)	365
権限 (AUT)	365
例	366
エラー・メッセージ	366

オーバーレイの作成 (CRTOVL)	369
パラメーター	369
オーバーレイ (OVL)	369
ソース・ファイル (FILE)	370
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	370
データ・タイプ (DATATYPE)	370

テキスト'記述' (TEXT)	371
オーバーレイの置き換え (REPLACE)	371
権限 (AUT)	371
例	372
エラー・メッセージ	372

ページ定義の作成 (CRTPAGDFN) 375

パラメーター	375
ページ定義 (PAGDFN)	375
ファイル (FILE)	376
メンバー (MBR)	376
テキスト'記述' (TEXT)	376
ページ定義の置き換え (REPLACE)	377
権限 (AUT)	377
例	378
エラー・メッセージ	378

ページ・セグメントの作成 (CRTPAGSEG) 379

パラメーター	379
ページ・セグメント (PAGSEG)	379
ソース・ファイル (FILE)	380
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	380
テキスト'記述' (TEXT)	380
ページ・セグメントの置き換え (REPLACE)	381
権限 (AUT)	381
例	382
エラー・メッセージ	382

印刷記述子グループ作成 (CRTPDG) 383

パラメーター	383
記述子グループの印刷 (PDG)	383
テキスト'記述' (TEXT)	384
権限 (AUT)	384
例	385
エラー・メッセージ	385

PEXデータ作成 (CRTPEXDTA) 387

パラメーター	387
FROM収集 (FROMMGTCOL)	388
TOメンバー (TOMBR)	388
TOライブラリー (TOLIB)	388
スレッドの数 (NBRTHD)	388
データの置き換え (RPLDTA)	389
テキスト'記述' (TEXT)	389
例	389
エラー・メッセージ	389

物理ファイル作成 (CRTPF) 391

パラメーター	391
ファイル (FILE)	393
ソース・ファイル (SRCFILE)	393
ソース・メンバー (SRCMBR)	394
レコード長 (RCDLEN)	394
生成重大度レベル (GENLVL)	395
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	395

ファイル・タイプ (FILETYPE)	395
メンバー (MBR)	395
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	396
テキスト'記述' (TEXT)	396
ソース・リスト・オプション (OPTION)	397
システム (SYSTEM)	397
メンバーの満了日 (EXPDATE)	398
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	398
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	398
アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)	399
アクセス・パスの保守 (MAINT)	399
アクセス・パス回復 (RECOVER)	400
強制キー順アクセス・パス (FRCACPTH)	401
メンバー・サイズ (SIZE)	401
記憶域割り振り (ALLOCATE)	402
連続記憶域 (CONTIG)	402
入れたい記憶装置 (UNIT)	402
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	403
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	403
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	403
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	404
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	404
削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)	404
分類順序 (SRTSEQ)	405
言語識別コード (LANGID)	405
コード化文字セットID (CCSID)	406
更新操作可能 (ALWUPD)	406
削除操作可能 (ALWDLT)	406
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	406
ノード・グループ (NODGRP)	407
区画キー (PTNKEY)	407
権限 (AUT)	407
例	408
エラー・メッセージ	409

パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) 411

パラメーター	411
FROM収集 (FROMMGTCOL)	412
TOメンバー (TOMBR)	412
TOライブラリー (TOLIB)	413
テキスト'記述' (TEXT)	413
処理カテゴリー (CGY)	413
時間間隔 (分) (INTERVAL)	414
開始日および時刻 (FROMTIME)	414
終了日および時刻 (TOTIME)	415
例	416
エラー・メッセージ	416

パフォーマンス・サマリーの作成 (CRTPFRSUM) 417

パラメーター	417
集合 (COL)	417
ライブラリー (LIB)	417
例	418
エラー・メッセージ	418

プログラムの作成 (CRTPGM) 419

パラメーター	419
プログラム (PGM).	420
モジュール (MODULE)	421
テキスト'記述' (TEXT)	421
プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)	422
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	422
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	424
活性化グループ (ACTGRP)	424
作成オプション (OPTION)	425
明細のリスト (DETAIL)	426
更新可能 (ALWUPD)	426
*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)	426
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	427
プログラムの置き換え (REPLACE)	427
権限 (AUT)	427
ターゲット・リリース (TGTRLS)	428
再初期設定可能 (ALWRINZ)	428
ストレージ・モデル (STGMDL)	429
引き数最適化 (ARGOPT)	429
プロシージャ間分析 (IPA)	429
IPA制御ファイル (IPACTLFILE)	430
例	430
エラー・メッセージ	430

パネル・グループの作成 (CRTPNLGRP) 431

パラメーター	431
パネル・グループ (PNLGRP)	432
ソース・ファイル (SRCFILE)	432
ソース・メンバー (SRCMBR)	433
テキスト'記述' (TEXT)	433
ソース・リスト・オプション (OPTION)	433
組み込みファイル (INCFILE)	434
文字識別コード (CHRID)	434
権限 (AUT)	435
置き換え (REPLACE)	436
例	436
エラー・メッセージ	436

印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF) . . . 437

パラメーター	437
ファイル (FILE)	443
ソース・ファイル (SRCFILE)	443
ソース・メンバー (SRCMBR)	444
生成重大度レベル (GENLVL)	444
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	444
装置 (DEV)	444
印刷装置タイプ (DEVTYPE)	445
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	445
外字 (IGCEXNCHR)	446
テキスト'記述' (TEXT)	446
ソース・リスト・オプション (OPTION)	446
ページ・サイズ (PAGESIZE)	447
行/インチ (LPI)	448
1インチ当たりの文字数 (CPI)	449

フロント・マージン (FRONTMGN)	449
バック・マージン (BACKMGN)	450
オーバーフロー行番号 (OVRFLW)	450
レコードの折り返し (FOLD)	451
印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)	451
ページの位置合わせ (ALIGN)	452
制御文字 (CTLCHAR)	452
チャンネル値 (CHLVAL)	453
精度 (FIDELITY)	454
印刷品質 (PRTQLTY)	454
用紙送り (FORMFEED)	455
ソース用紙入れ (DRAWER)	455
出力ビン (OUTBIN)	456
フォント識別コード (FONT)	456
文字識別コード (CHRID)	457
10進数形式 (DECfmt)	457
フォント文字セット (FNTCHRSET)	458
コード化フォント (CDEFNT)	459
テーブル参照文字 (TBLREFCHR)	460
ページ定義 (PAGDFN)	460
書式定義 (FORMDF)	461
AFP文字 (AFPCHARS)	462
ページ回転度数 (PAGRRT)	462
面当たりページ数 (MULTIUP)	463
出力の減少 (REDUCE)	463
印刷テキスト (PRTTXT)	464
ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)	464
両面印刷 (DUPLEX)	464
単位 (UOM)	465
前面オーバーレイ (FRONTOVL)	465
背面オーバーレイ (BACKOVL)	466
行データ変換 (CVTLINDTA)	467
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	467
USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)	468
コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)	469
平とじ (EDGEStITCH)	469
中とじ (SADLStITCH)	471
形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)	472
書き出し据え置き (DFRWRT)	472
データのスプール (SPOOL)	473
スプール出力待ち行列 (OUTQ)	473
用紙タイプ (FORMTYPE)	474
コピー枚数 (COPIES)	474
ファイルの満了日 (EXPDATE)	474
ファイル満了までの日数 (DAYS)	474
印刷ページ範囲 (PAGERANGE)	475
スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)	475
ファイル区切り (FILESEP)	475
スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)	476
スプール・ファイルの保留 (HOLD)	476
スプール・ファイルの保管 (SAVE)	476
出力優先順位 (OUTQでの) (OUTPTY)	476
ユーザー・データ (USRDTA)	477
スプール・ファイル所有者 (SPLFOWN)	477
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	478
ユーザー定義データ (USRDFNDTA)	478

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	478
DBCSの回転 (IGCCHRRTT)	479
インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)	479
DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)	480
DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)	480
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	481
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	482
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	482
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	482
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	483
権限 (AUT)	483
ファイルの置き換え (REPLACE)	484
例	484
エラー・メッセージ	485
PROXYコマンドの作成 (CRTPRXCMD) 487	
パラメーター	487
コマンド (CMD)	488
ターゲット・コマンド (TGTCMD)	488
テキスト'記述' (TEXT)	489
権限 (AUT)	489
コマンドの置き換え (REPLACE)	490
例	490
エラー・メッセージ	490
PSF構成の作成 (CRTPSFCFG) 491	
パラメーター	491
PSF構成 (PSFCFG)	493
ユーザー資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)	494
装置資源ライブラリー・リスト (DEVRSCLIBL)	494
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	495
解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)	495
解放タイマー (RLSTMR)	497
再始動タイマー (RESTRTMR)	497
APPCおよびTCP/IP再試行カウント (RETRY)	498
APPC再試行間の遅延 (RETRYDLY)	498
肯定応答頻度 (ACKFRQ)	498
印刷装置応答タイマー (PRTRSPTMR)	499
PDF出力の生成 (PDFGEN)	499
PDF装置エミュレーションのタイプ (PDFDEVTYPE)	500
PDF用紙サイズ用紙入れ1 (PDFPPRDWR1)	500
PDF用紙サイズ用紙入れ2 (PDFPPRDWR2)	501
複数のPDFファイル (PDFMULT)	501
PDFフォント・インライン (PDFINCFNT)	502
PDFデータ待ち行列 (PDFDTAQ)	502
PDFメール・サーバー名 (PDFMAILSVR)	503
電子メールの送信側 (PDFSENDER)	503
PDF管理者 (PDFADMIN)	504
PDFユーザー・プログラム (PDFMAPPGM)	504
PDFマッピング・オブジェクト (PDFMAP)	505
PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)	505
PDFディレクトリー (PDFDIR)	506
AFPデータの保管 (AFPSAVE)	506
AFP出力待ち行列 (AFPOUTQ)	507

テキスト'記述' (TEXT)	507
自動セッション回復 (AUTOSSNRCY)	508
ブランク・ページ (BLANKPAGE)	508
ページ・サイズの制御 (PAGSIZCTL)	509
常駐フォント (RESFONT)	509
資源保持期間 (RSCRET)	509
エッジの方向 (EDGEORIENT)	510
アウトライン・フォントの使用 (USEOUTLFNT)	510
PSF定義オプション (PSFDFNOPT)	510
フォント置き換えメッセージ (FNTSUBMSG)	510
印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)	511
形式設定のフォント解像度 (FNTRSL)	511
フォント・マッピング・テーブル (FNTTBL)	511
単票用紙エミュレーション・モード (CSEMODE)	512
DBCS シミュレーション・フォントの使用 (MAPIGCFNT)	513
置き換え (REPLACE)	513
権限 (AUT)	513
例	514
エラー・メッセージ	514

QUERY管理機能書式の作成 (CRTQMFORM) 515	
パラメーター	515
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	515
ソース・ファイル (SRCFILE)	516
ソース・メンバー (SRCMBR)	516
テキスト'記述' (TEXT)	516
権限(AUT)	517
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	517
例	518
エラー・メッセージ	518

QUERY管理機能プログラム作成 (CRTQMQR) 519	
パラメーター	519
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	519
ソース・ファイル (SRCFILE)	520
ソース・メンバー (SRCMBR)	520
テキスト'記述' (TEXT)	520
分類順序 (SRTSEQ)	521
言語識別コード (LANGID)	521
権限(AUT)	522
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	522
例	523
エラー・メッセージ	523

Q&Aデータベース作成 (CRTQSTDB) 525	
パラメーター	525
Q/Aデータベース (QSTDB)	525
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	526
例	526
エラー・メッセージ	526

Q/A データベース・ロード作成 (CRTQSTLOD) 527

パラメーター 527
Q/Aデータベース (QSTDB). 527
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB) 527
例 528
エラー・メッセージ 528

RNDC構成の作成 (CRTRNDCCFG) . . . 529

パラメーター 529
自動構成 (AUTOCFG) 530
鍵ファイル (KEYFILE) 530
サーバーRNDC IPアドレス (RNDCADR) 530
DNSポート (RNDCPORT) 531
鍵名 (KEYNAME). 531
鍵サイズ (KEYSIZE) 531
エントロピー・ソース (ENTROPYSRC). 532
出力ファイル (TOSTMF) 532
例 532
エラー・メッセージ 533

S/36表示装置ファイルの作成 (CRTS36DSPF). 535

パラメーター 535
表示装置ファイル (DSPFILE) 536
オプション (OPTION) 536
S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR) 537
S/36ソース・ファイル (SRCFILE). 537
表示装置ファイルの置き換え (REPLACE) 537
SFGRリストの印刷 (PRINT) 538
最大装置数 (MAXDEV) 538
権限 (AUT) 538
生成オプション (GENOPT) 539
SFGRソース構文の検査 (SYNTAX) 540
受取DDSソース・ファイル (TOFILE) 540
受取DDSソース・メンバー (TOMBR) 540
エラーが起こった時,MSGを出す (HALT) 541
書き出し据え置き (DFRWRT) 541
ターゲット・リリース (TGTRLS). 541
例 542
エラー・メッセージ 542

S/36メニューの作成 (CRTS36MNU) . . . 545

パラメーター 545
コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR) 546
オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTMBR) 546
コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC) 546
オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTSRC) 547
メニュー・ライブラリー (LOADLIB) (MNULIB) 547
メニューの置き換え (REPLACE) 548
自由形式メニュー (FREEFORM) 548

オプション・テキスト MSG ファイルの保管 (KEEP) 548
DDSリスト (DDSLIST) 548
最大装置数 (MAXDEV) 549
権限 (AUT) 549
受取DDSソース・ファイル (TOFILE) 550
受取DDSソース・メンバー (TOMBR) 550
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA). 551
ターゲット・リリース (TGTRLS). 551
例 551
エラー・メッセージ 552

S/36 メッセージ・ファイルの作成 (CRTS36MSGF) 555

パラメーター 556
S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR) 556
S/36ソース・ファイル (SRCFILE). 556
メッセージ・ファイル・ライブラリー (MSGLIB) 557
メッセージ・ファイルの置換 (REPLACE) 557
メッセージ識別コードの接頭部 (MSGPFX) 558
オプション (OPTION) 558
#置き換えフィールド使用可 (SUBST) 558
S/36の制約の強制 (RESTRICT). 559
権限 (AUT) 559
受け取りCLソース・ファイル (TOFILE) 560
受け取りCLソース・メンバー (TOMBR) 561
エラーが起こった時,MSGを出す (HALT) 561
例 561
エラー・メッセージ 562

保管ファイル作成 (CRTSAVF) 563

パラメーター 563
保管ファイル (FILE) 564
テキスト'記述' (TEXT) 564
最大レコード数 (MAXRCDS) 564
補助記憶域プールID (ASP) 565
最大ファイル待機時間 (WAITFILE) 565
オープン・データ・パス共用 (SHARE). 565
権限 (AUT) 566
例 566
エラー・メッセージ 566

サブシステム記述作成 (CRTSBSD). . . 569

パラメーター 569
サブシステム記述 (SBSD) 571
記憶域プール (POOLS) 571
ジョブの最大数 (MAXJOBS) 572
テキスト'記述' (TEXT) 573
サインオン表示装置ファイル (SGNDSPF) 573
サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL) 574
権限(AUT) 574
ASPグループ (ASPGRP) 575
例 576
エラー・メッセージ 576

検索見出しの作成 (CRTSCHIDX) . . . 577

パラメーター	577
検索見出し (SCHIDX)	578
画面タイトル (TITLE)	578
テキスト'記述' (TEXT)	578
文字識別コード (CHRID)	578
権限(AUT)	579
例	580
エラー・メッセージ	580

スペル援助辞書作成 (CRTSPADCT) 581

パラメーター	582
スペル援助辞書 (SPADCT)	583
ソース・ファイル (SRCFILE)	583
ソース・メンバー (SRCMBR)	583
テキスト'記述' (TEXT)	584
基本辞書 (BASEDCT)	584
辞書の検査 (VFYDCT)	585
言語属性 (LNGATR)	585
停止語句リスト言語識別コード (SWLLANGID)	586
基本停止語句リスト (BASESWL)	587
ソース・リスト・オプション (OPTION)	587
権限 (AUT)	587
辞書の置き換え (REPLACE)	588
例	588
エラー・メッセージ	589

SQLパッケージの作成 (CRTSQLPKG) 591

パラメーター	591
プログラム (PGM)	592
リレーショナル・データベース (RDB)	592
RDBユーザー (USER)	592
RDBユーザー・パスワード (PASSWORD)	592
省略時のコレクション (DFTRDBCOL)	593
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	593
モジュール・リスト (MODULE)	593
テキスト'記述' (TEXT)	594
重大度レベル (GENLVL)	594
置き換え (REPLACE)	594
印刷ファイル (PRTFILE)	595
例	595
エラー・メッセージ	595

ソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF) 597

パラメーター	597
ファイル (FILE)	598
レコード長 (RCDLEN)	598
メンバー (MBR)	599
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	599
テキスト'記述' (TEXT)	599
システム (SYSTEM)	600
メンバーの満了日 (EXPDATE)	600
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	600
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	600
アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)	601
アクセス・パス・タイプ (ACCPH)	601
アクセス・パスの保守 (MAINT)	601

アクセス・パス回復 (RECOVER)	602
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	603
メンバー・サイズ (SIZE)	603
記憶域割り振り (ALLOCATE)	604
入れたい記憶装置 (UNIT)	604
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	604
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	605
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	605
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	606
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	606
コード化文字セットID (CCSID)	606
更新操作可能 (ALWUPD)	606
削除操作可能 (ALWDLT)	607
権限 (AUT)	607
例	607
エラー・メッセージ	608

サービス構成の作成 (CRTSRVCFG) 609

パラメーター	609
役割 (ROLE)	610
接続タイプ (CNNTYPE)	610
国別または地域ID (CNTRYID)	611
都道府県コード (STATE)	611
PRIMARY TELEPHONE NUMBER (TELNBR1)	612
ALTERNATE TELEPHONE NUMBER (TELNBR2)	612
資源名 (RSRCNAME)	612
モデム情報名 (MODEM)	613
ダイヤル音待機中 (DIALTONE)	613
リモート・システム (RMTSYS)	613
プロキシ・サーバー (PROXY)	614
ISPプロファイル名 (ISPPRF)	615
他への接続性 (CNNPNT)	615
接続ポイント・プロキシ (CNNPNTPRX)	616
例	616
エラー・メッセージ	618

サービス・プログラムの作成 (CRTSRVPGM) 619

パラメーター	619
サービス・プログラム (SRVPGM)	620
モジュール (MODULE)	621
エクスポート (EXPORT)	621
ソース・ファイル (SRCFILE)	622
ソース・メンバー (SRCMBR)	622
テキスト'記述' (TEXT)	623
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	623
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	624
活動化グループ (ACTGRP)	625
作成オプション (OPTION)	625
明細のリスト (DETAIL)	626
更新可能 (ALWUPD)	627
*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)	627
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	627
プログラムの置き換え (REPLACE)	627
権限 (AUT)	628
ターゲット・リリース (TGTRLS)	628

再初期設定可能 (ALWRINZ)	629
ストレージ・モデル (STGMDL)	629
引き数最適化 (ARGOPT)	630
プロシージャ間分析 (IPA)	630
IPA制御ファイル (IPACTLFILE)	630
例	630
エラー・メッセージ	631

テープ・カテゴリーの作成 (CRTTAPCGY) 633

パラメーター	634
カテゴリー (CGY)	634
例	634
エラー・メッセージ	635

テープ・ファイル作成 (CRTTAPF) 637

パラメーター	637
ファイル (FILE)	638
装置 (DEV)	639
ボリューム識別コード (VOL)	639
テープ・リール仕様 (REELS)	640
順序番号 (SEQNBR)	642
テープ・ラベル (LABEL)	642
ファイル・タイプ (FILETYPE)	643
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	643
テキスト'記述' (TEXT)	643
レコード長 (RCDLEN)	644
ブロックの長さ (BLKLEN)	644
バッファー・オフセット (BUFOFSET)	645
レコードのブロック形式 (RCDBLKFMF)	646
ファイル拡張 (EXTEND)	647
テープ密度 (DENSITY)	648
データ短縮 (COMPACT)	653
コード (CODE)	653
作成日 (CRTDATE)	653
ファイル満了日 (EXPDATE)	654
テープ終了オプション (ENDOPT)	654
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	654
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	655
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	655
権限 (AUT)	655
ファイルの置き換え (REPLACE)	656
例	656
エラー・メッセージ	657

テーブル作成 (CRTTBL) 659

パラメーター	659
テーブル (TBL)	660
ソース・ファイル (SRCFILE)	660
ソース・メンバー (SRCMBR)	661
テーブル・タイプ (TBLTYPE)	661
基底テーブル (BASETBL)	662
基底ソート順序 (BASESRTSEQ)	662
基底言語ID (BASELANGID)	663
コード化文字セットID (CCSID)	663
テキスト'記述' (TEXT)	663

権限(AUT)	663
例	664
エラー・メッセージ	664

時間帯記述作成 (CRTTIMZON) 667

パラメーター	667
時間帯記述 (TIMZON)	668
オフセット (OFFSET)	668
標準時間 (STDNAME)	668
夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)	669
標準時間メッセージ (STDMMSG)	669
夏時間調整時間メッセージ (DSTMMSG)	670
メッセージ・ファイル (MSGF)	670
夏時間調整時間開始 (DSTSTR)	670
夏時間調整時間終了 (DSTEND)	672
夏時間調整時間シフト (DSTSHIFT)	673
テキスト'記述' (TEXT)	673
年オフセット (YEAROFS)	673
別名 (ALTNAME)	674
権限(AUT)	674
例	674
エラー・メッセージ	675

ユーザー定義FSの作成 (CRTUDFS) 677

パラメーター	677
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)	678
データの共通権限 (DTAAUT)	678
オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)	679
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	680
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	681
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	681
省略時ディスク記憶域オプション (DFTDISKSTG)	682
省略時主記憶域オプション (DFTMAINSTG)	682
大文字小文字の区別 (CASE)	683
省略時のファイル形式 (DFTFILEFMF)	683
テキスト'記述' (TEXT)	684
例	684
エラー・メッセージ	684

ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF) 687

パラメーター	687
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	690
ユーザー・パスワード (PASSWORD)	690
パスワードを満了にセット (PWDEXP)	691
状況 (STATUS)	691
ユーザー・クラス (USRCLS)	691
援助レベル (ASTLVL)	692
現行ライブラリー (CURLIB)	692
呼び出す初期プログラム (INLPGM)	693
初期メニュー (INLMNU)	693
制限機能 (LMTCPB)	694
テキスト'記述' (TEXT)	695
特殊権限 (SPCAUT)	695
特殊環境 (SPCENV)	696

サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)	697
パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)	697
パスワード変更のブロック (PWDCHGBLK)	697
ローカル・パスワード管理 (LCLPWDMGT)	698
装置セッション限界 (LMTDEVSSN)	698
キーボード・バッファ方式 (KBDBUF)	699
最大許容記憶域 (MAXSTG)	699
最高スケジュール優先順位 (PTYLMT)	700
ジョブ記述 (JOBDD)	700
グループ・プロファイル (GRPPRF)	701
所有者 (OWNER)	701
グループ権限 (GRPAUT)	701
グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)	702
補足グループ (SUPGRPPRF)	702
アカウント・コード (ACGCDE)	703
文書パスワード (DOCPWD)	703
MSG 待ち行列 (MSGQ)	703
配布 (DLVRY)	704
重大度コード・フィルター (SEV)	705
印刷装置 (PRTDEV)	705
出力待ち行列 (OUTQ)	705
アテンション・プログラム (ATNPGM)	706
分類順序 (SRTSEQ)	707
言語識別コード (LANGID)	707
国別または地域ID (CNTRYID)	708
コード化文字セットID (CCSID)	708
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	708
ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)	709
ロケール (LOCALE)	709
ユーザー・オプション (USROPT)	710
ユーザーID番号 (UID)	710
グループID番号 (GID)	711
ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)	711
EIM関連 (EIMASSOC)	712
権限(AUT)	713
例	713
エラー・メッセージ	714
妥当性検査リストの作成 (CRTVLDL)	717
パラメーター	717
妥当性検査リスト (VLDL)	717
テキスト'記述' (TEXT)	718
権限(AUT)	718
例	718
エラー・メッセージ	718
WSCSTの作成 (CRTWSCST)	721
パラメーター	721
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	721
ソース・メンバー(SRCMBR)	722
テキスト'記述' (TEXT)	722
ソース・ファイル (SRCFILE)	722
権限(AUT)	723
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	723
例	724

エラー・メッセージ	724
CLソース変換 (CVTCLSRC)	725
パラメーター	725
FROMファイル (FROMFILE)	726
TOファイル (TOFILE)	726
メンバー (FROMMBR)	727
例	727
エラー・メッセージ	727
日付形式変換 (CVTDAT)	729
パラメーター	729
変換される日付 (DATE)	729
変換された日付のCL変数 (TOVAR)	730
開始日付形式 (FROMFMT)	730
終了日付形式 (TOFMT)	731
終了日付区切り文字 (TOSEP)	732
例	732
エラー・メッセージ	733
ディレクトリー変換 (CVTDIR)	735
パラメーター	735
オプション (OPTION)	735
実行優先順位 (RUNPTY)	736
ファイル・システム (FILESYS)	736
形式 (FORMAT)	736
詳細 (DETAIL)	736
補助記憶域プールID (ASP)	736
例	737
エラー・メッセージ	737
DLS名の変換 (CVTDLSNAM)	739
パラメーター	740
オブジェクト (OBJ)	740
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	740
処置 (ACTION)	740
結果の事前表示 (PREVIEW)	741
変換元CCSID (FROMCCSID)	741
変換先CCSID (TOCCSID)	742
例	742
エラー・メッセージ	743
研修の変換 (CVTEDU)	745
パラメーター	745
コースID (COURSE)	745
言語識別コード (LNG)	745
例	746
エラー・メッセージ	746
IPアドレスの変換 (CVTIPSIFC)	747
パラメーター	747
IPアドレス (INTNETADR)	747
出力 (OUTPUT)	748
例	748
エラー・メッセージ	748

ネットワーク ID/ロケーションの変換 (CVTIPSLOC)	749
パラメーター	749
ネットワーク識別コード (NETID)	749
ロケーション名 (LOC)	750
出力 (OUTPUT)	750
例	750
エラー・メッセージ	750

光ディスク・バックアップ変換 (CVTOPTBKU)	751
パラメーター	751
バックアップ・ボリュームID (BKUVOL)	751
1次ボリューム識別コード (PRIVOL)	751
例	752
エラー・メッセージ	752

パフォーマンス収集の変換 (CVTPFRCOL)	755
パラメーター	755
FROMライブラリー (FROMLIB)	755
TOライブラリー (TOLIB)	755
収集タイプ (COLTYPE)	756
例	756
エラー・メッセージ	756

PFRスレッド・データの変換 (CVTPFRTHD)	759
パラメーター	759
メンバー (MBR)	759
ライブラリー (LIB)	760
置き換え (REPLACE).	760
例	760
エラー・メッセージ	760

RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)	763
パラメーター	763
FROMファイル (FROMFILE)	763
オプション (OPTION)	764
プロトコル (PROTOCOL)	764
TOファイル (TOFILE)	765
例	765
エラー・メッセージ	766

TCP/IP CLソースの変換 (CVTTCPCL)	767
パラメーター	768
FROMファイル (FROMFILE)	768
TOファイル (TOFILE)	769
FROMメンバー (FROMMBR)	769
例	769
エラー・メッセージ	770

フォルダーへの変換 (CVTTOFLR)	771
エラー・メッセージ: CVTTOFLR	771
パラメーター	771

取り出し仮想ディスク (FROMVDSK)	772
受け取りフォルダー (TOFLR)	772
文書置き換え (REPLACE)	772
例	772
エラー・メッセージ	773

ユーザー証明書の変換 (CVTUSRCERT)	775
パラメーター	775
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	775
オプション (OPTION)	775
例	776
エラー・メッセージ	776

データ (DATA)	777
パラメーター	777
入力ファイル (FILE)	777
ファイル・タイプ (FILETYPE)	778
データの終わり文字 (ENDCHAR).	778
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA).	778
例	779
エラー・メッセージ	779

LDIF へのコピー (DB2LDIF)	781
パラメーター	781
インスタンス (INSTANCE).	781
LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)	782
管理者 (ADMIN)	782
サブツリー識別名 (SUBTREE).	782
cn=localhostのコピー (LOCALHOST).	782
cn=pwdpolicyのコピー (PWDPOLICY)	783
ネストされたレプリカのコピー (NESTRPLC).	783
操作属性のコピー (OPRATR)	783
パスフレーズ (PASSPHRASE).	784
暗号化ソルト (ENCSALT)	784
例	784
エラー・メッセージ	785

CL変数宣言 (DCL)	787
パラメーター	787
CL変数名 (VAR)	788
タイプ (TYPE)	788
記憶域 (STG)	788
変数の長さ (LEN)	789
初期値 (VALUE)	790
基底ポインター変数 (BASPTR)	790
変数で定義(DEFVAR).	790
アドレス (ADDRESS).	791
例	791
エラー・メッセージ	792

ファイル宣言 (DCLF)	793
パラメーター	795
ファイル (FILE)	795
レコード様式 (RCDFMT)	796
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	796
可変長フィールド可能 (ALWVARLEN).	796

ヌルのフィールド値可能 (ALWNULL)	797	照会タイムアウト (TIMEOUT)	830
グラフィックス使用可能フィールド (ALWGRAPHIC)	797	ドメイン検索リストの使用 (USEDMNSCHL)	830
2進数フィールドの宣言 (DCLBINFLD)	797	ドメイン検索リスト (DMNSCHLIST)	830
例	797	ソース・アドレス (SRCADR)	831
エラー・メッセージ	798	バッチ入力ファイル (BCHFILE)	831
処理オプションの宣言 (DCLPRCOPT)	799	IPバージョン (IPVSN)	832
パラメーター	799	ネットワーク・プロトコル (PROTOCOL)	832
サブルーチン・スタックの深さ (SUBRSTACK)	800	反復が必要 (SETRDFLAG)	833
ログ・コマンド (LOG)	801	権限のある応答のみ (SETAAFLAG)	833
RTVCLSRC可能 (ALWRTVSRCL)	801	認証データ (SETADFLAG)	833
テキスト記述 (TEXT)	801	DNSSEC検査を使用不可にする (SETCDFLAG)	833
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	802	複数行の印刷 (MULTILINE)	834
権限 (AUT)	802	短応答の印刷 (SHORT)	834
分類順序 (SRTSEQ)	803	短応答内のプリント・サーバー (IDENTIFY)	834
言語識別コード (LANGID)	804	照会の印刷 (PRTQRY)	834
ストレージ・モデル (STGMDL)	804	RRクラスの印刷 (PRTCLASS)	834
省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)	804	RR TTLの印刷 (PRTTTL)	835
活動化グループ (ACTGRP)	805	すべての照会照会の印刷 (PRTALL)	835
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	805	照会コマンドの印刷 (CMD)	835
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	807	照会コメントの印刷 (COMMENTS)	835
例	807	照会統計の印刷 (STATS)	836
エラー・メッセージ	808	質問セクションの印刷 (QUESTION)	836
オブジェクトの圧縮解除 (DCPOBJ)	809	応答セクションの印刷 (ANSWER)	836
パラメーター	809	権限セクションの印刷 (AUTHORITY)	836
オブジェクト (OBJ)	810	追加セクションの印刷 (ADDITIONAL)	836
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	811	鍵ファイル (KEYFILE)	837
プログラム・オプション (PGMOPT)	812	鍵名 (KEYNAME)	837
例	812	SERVFAILで停止 (STOPFAIL)	837
エラー・メッセージ	812	切り捨てられた応答を無視 (UDPTRUNC)	838
リンクの除去 (DEL)	815	権限サーバーのリスト (NSSCH)	838
パラメーター	816	代行パスのトレース (TRACE)	838
オブジェクト・リンク (OBJLNK)	816	UDP照会の試行回数 (UDPTRIES)	838
例	817	UDP再試行 (UDPNBRRTY)	839
エラー・メッセージ	817	ドット数 (NBRDOTS)	839
従属定義 (DEP)	819	EDNSのUDP bufferサイズ (BUFSIZE)	839
パラメーター	819	EDNSバージョンの設定 (EDNS)	839
制御条件 (CTL)	820	EDNSバージョンのクリア (NOEDNS)	840
従属パラメーター (PARM)	821	ベスト・エフォート表示 (BESTEFFORT)	840
真の従属の数 (NBRTRUE)	821	DNSSECレコードの要求 (DNSSEC)	840
メッセージ識別コード (MSGID)	822	DNSSECチェーンの追跡 (SIGCHASE)	840
例	822	トラステッド鍵ファイル (TRUSTEDKEY)	841
エラー・メッセージ	823	DNSSECトップダウン検査 (TOPDOWN)	841
DIG照会の開始 (DIG)	825	出力ファイル (TOSTMF)	841
パラメーター	825	例	841
照会名 (HOSTNAME)	827	エラー・メッセージ	844
照会タイプ (TYPE)	827	オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)	845
照会クラス (CLASS)	828	パラメーター	846
リバース・ルックアップ (REVERSE)	829	オブジェクトの仕様 (OBJ)	846
ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNSVR)	829	ロック有効範囲 (SCOPE)	849
DNSポート (PORT)	830	例	851
		エラー・メッセージ	852
		警報の削除 (DLTALR)	853
		パラメーター	853
		削除オプション (DLTOPT)	853

日数 (DAYS)	854	パラメーター	869
警報タイプ (ALRTYPE)	854	ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	869
資源警報 (ALRRSC)	855	例	870
警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)	855	エラー・メッセージ	870
ユーザー割り当て (ASNUSER)	855	構成リスト削除 (DLTCFGL) 873	
グループ (GROUP)	856	パラメーター	873
例	856	構成リスト (CFGL)	873
エラー・メッセージ	856	例	873
警報テーブルの削除 (DLTALRTBL) . . . 859		エラー・メッセージ	874
パラメーター	859	C ロケール記述の削除 (DLTCLD) . . . 875	
警報テーブル (ALRTBL)	859	エラー・メッセージ: DLTCLD	875
例	860	パラメーター	875
エラー・メッセージ	860	ロケール名 (CLD)	875
APARデータの削除 (DLTAPARDTA) 863		例	876
パラメーター	863	エラー・メッセージ	876
問題識別コード (PRBID)	863	クラス削除 (DLTCLS) 877	
起点 (ORIGIN)	863	パラメーター	877
例	864	クラス (CLS)	877
エラー・メッセージ	864	例	879
権限ホルダー削除 (DLTAUTHLR) . . . 865		エラー・メッセージ	879
パラメーター	865	コマンド削除 (DLTCMD) 881	
オブジェクト (OBJ)	865	パラメーター	881
例	865	コマンド (CMD)	881
エラー・メッセージ	866	例	882
権限リスト削除 (DLTAUTL) 867		エラー・メッセージ	882
パラメーター	867	付録. 特記事項 885	
権限リスト (AUTL)	867	プログラミング・インターフェース情報	886
例	867	商標	887
エラー・メッセージ	868	使用条件	888
バインド・ディレクトリーの削除		コードに関するライセンス情報および特記事項	888
(DLTBNDIR) 869			

ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJRNRCV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)コマンドは、ジャーナル・レシーバーを作成します。ジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続する（ジャーナル作成(CRTJRN)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドによって）と、そこにジャーナル項目を入れることができます。そのジャーナル・レシーバーに対して、優先補助記憶域プール(ASP)および記憶スペースのしきい値を指定することができます。

制約事項:

- ジャーナル・レシーバーは、ライブラリーQTEMP中に作成することはできません。
- このコマンドを使用してリモート・ジャーナル用のジャーナル・レシーバーを作成することはできません。
- ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、ASP(*LIBASP)を指定しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	単純名	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
ASP	ASP番号	1-32, *LIBASP	オプション
THRESH-OLD	ジャーナル・レシーバーしきい値	1-1000000000, <u>1500000</u> , *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

作成されるジャーナル・レシーバー名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

レシーバー名

作成するジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーは現行ライブラリーの中に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが作成されるライブラリーを指定します。

上

ASP番号 (ASP)

システムがジャーナル・レシーバー用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP) を指定します。

*LIBASP

ジャーナル・レシーバーの記憶域スペースは、ジャーナル・レシーバーのライブラリーの記憶域スペースとして、同じ補助記憶域プールから割り振られます。

ASP ID

ジャーナルの記憶域スペースを割り振るASPのIDを指定するには、1から32の範囲内で値を指定します。有効な値は、システムでのASPの定義方法によって異なります。

注: 値1はシステムASPであり、その他の値はユーザーASPを示します。

上

ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)

ジャーナル・レシーバーの記憶スペースしきい値(KB)を指定します。ジャーナル処理時にしきい値を超えた場合には、次の1つが起こります。

- ジャーナルがMNGRCV(*USER)属性を持っている場合は、メッセージCPF7099がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っている場合は、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時に、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送り、ジャーナル変更操作が成功するまで、10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。

ジャーナル・メッセージ待ち行列はCRTJRN（ジャーナル作成）またはCHGJRN（ジャーナル変更）コマンドで指定します。

注: MNGRCVパラメーターの値は、CRTJRNまたはCHGJRNコマンドでジャーナルに対して指定します。MNGRCV(*SYSTEM)を指定していないで、しきい値を超えた場合には、CHGJRNコマンドを出すなどの処置を行うことができます。

注: ジャーナルにRCVSIZEOPT(*RMVINTENT)が指定されていると、そのジャーナル項目によって占められている内部スペースはレシーバーのしきい値に向けて適用されます。 ジャーナル・レシーバーが切り離されると、この内部項目用のスペースが解放されることがあります。 そのときには、ジャーナル・レシーバーのサイズは指定されたしきい値より小さくなります。

1500000

これが省略時のしきい値です。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを示します。

***NONE**

しきい値は指定されません。メッセージCPF7099は送信されず、このレシーバーをジャーナルに接続する時にMNGRCV(*SYSTEM)を指定することはできません。

1から100000000

ジャーナル・レシーバーのしきい値を、記憶域のキロバイト数(KB)で指定します。 各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを指定します。 100,000より小さい値は自動的に100,000にリセットされます。 ジャーナル・レシーバーのスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、該当すれば、指定されたメッセージ待ち行列にメッセージが送信され、ジャーナル処理は続行されます。

注:

1. 指定されたRCVSIZEOPTパラメーターからの*MAXOPT値の1つを持たないジャーナルにこのジャーナル・レシーバーを接続しようとしている場合には、指定する必要がある最大しきい値は1,919,999キロバイトです。
2. 100,000より小さい値を指定すると、その値は自動的に100,000にリセットされます。 そうでない場合には、しきい値を超えたというメッセージが頻繁に出される可能性があります。 また、しきい値が小さすぎる場合にも、ジャーナル作成(CRTJRN)コマンドまたはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドのいずれかでジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続したときに、しきい値を超えたというメッセージが出されることがあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。 これは、オペレーティング・システムのバージョン1リリース3モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が嚴重に保たれています。

ジャーナル・レシーバーをディスク・アームに分離するためには、ASPパラメーターを使用してください。 ユーザーASPの使用法の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

このパラメーターには*ANYまたは1から32の値を指定することができます。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

例

```
CRTJRNRCV  JRNRCV(MYLIB/JRNRCCLA) ASP(3)
           THRESHOLD(100000) AUT(*ALL)
           TEXT('RECEIVER FOR WEEK 37')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの中にJRNRCCLAという名前のジャーナル・レシーバーを作成します。ジャーナル・レシーバーの記憶域スペースは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3から割り振られます。このレシーバーの接続先のジャーナルがMNGRCV(*USER)の属性を持っている場合には、JRNRCCLAのサイズが100000 KB (102,400,000バイト) より大きくなると、メッセージCPF7099がジャーナル・メッセージ待ち行列に送られます。このジャーナル・レシーバーに対する共通権限は*ALLです。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF70FD

システム内部のジャーナル状況オブジェクトが再作成された。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

CPF70FD

システム内部のジャーナル状況オブジェクトが再作成された。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9839

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9840

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

JAVAプログラムの作成 (CRTJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム作成(CRTJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルからJAVAプログラムを作成します。できあがったJAVAプログラム・オブジェクトは、クラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイル・オブジェクトの一部になります。JAVAプログラムは、JAVA (JAVAプログラム実行) コマンドによって開始された時に実行されます。

制約事項:ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません: QOPENSYS,"ROOT", またはユーザー定義ファイル・システム。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
CLASSPATH	クラスパス	パス名, *NONE, *ENVVAR	オプション
JDKVER	JAVA DEVELOPER KITバージョン	文字値, *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化	10, *INTERPRET, 20, 30, 40	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
USEADPAUT	借用権限の使用	*NO, *YES	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*NONE, *ENTRYEXIT, *FULL	オプション
PRFDTA	プロファイリング・データ	*NOCOL, *COL	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション
LICOPT	LICオプション	文字値, *OPTIMIZE	オプション
LICOPTFILE	LICオプション・ファイル	パス名, *NONE	オプション

上

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

JAVAプログラムを作成する元になるクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルの名前を指定します。ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイル (1つまたは複数) を識別するクラス・ファイルの名前またはパターンを指定してください。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたク

ラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。パターン
の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASS*.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイル（1つまたは複数）を識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名
前またはパターンを指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイ
ルはJARファイルであると見なされます。パターンは名前の最後の部分に指定することができます
。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾され
ているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなり
ません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。
パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPP*.ZIP'です。

上

クラスパス (CLASSPATH)

JAR間バインディングのクラスを見つけるために使用されるパスを指定します。ディレクトリーはコロンに
よって区切ります。

*NONE

クラスを見つけるためのクラス・パスにこれ以上のディレクトリーまたはJARファイルは追加され
ません。

*ENVVAR

クラス・パスは環境変数CLASSPATHによって判別されます。

クラス・パス

クラスを見つけるために使用されるパス。クラス・パスの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2:/
QIBM/PRODDATA/JAVA400'です。

JAR間バインディングを行うためにはCLASSPATHまたはJDKVERのいずれかを指定しなければなりませ
ん。CLSFがクラス・ファイルの時にはCLASSPATHが*NONEでなければなりません。

上

JAVA DEVELOPER KITバージョン (JDKVER)

JAR間バインディングのクラスを見つけるためのクラス・パスに追加するJAVA DEVELOPMENT KIT
(JDK)バージョンを指定します。

*NONE

クラスを見つけるためのクラス・パスには、このJDKバージョン用のこれ以上のディレクトリーは
追加されません。

JAVA-DEVELOPMENT-KITバージョン

クラスを見つけるためのクラス・パスにこのJDKバージョン用のJARファイルおよびディレクトリ
ーが追加されます。JDKバージョンの例は'1.2.2'です。

JAR間バインディングを行うためにはCLASSPATHまたはJDKVERのいずれかを指定しなければなりませ
ん。CLSFがクラス・ファイルの時にはJDKVERが*NONEでなければなりません。

上

最適化 (OPTIMIZE)

JAVAプログラムの最適化レベルを指定します。

OPTIMIZEパラメーターは、バージョン6リリース1モディフィケーション0以前のターゲット・リリースにJavaプログラムを作成する場合にのみ使用されます。V6R1M0以降のターゲット・リリースでは、この値は無視され、OPTIMIZE(*INTERPRET)が使用されます。

V6R1M0のJavaプログラムには、マシン・インストラクションは含まれません。クラス・ファイルは事前検証され、内部形式に変換されます。ただし、Javaプログラムはバイトコードから解釈されるか、さもなければJust In Time (JIT)コンパイラーによって実行されます。

V6R1M0以前のターゲット・リリースの場合、OPTIMIZEパラメーターはJavaプログラムの最適化レベルを指定します。V6R1M0以前のターゲット・リリースにJavaプログラムを作成する場合、OPTIMIZEパラメーターの値はJavaプログラム内でカプセル化されますが、マシン・インストラクションは生成されません。OPTIMIZEパラメーターのカプセル化された値は、ターゲット・リリースのオペレーティング・システムでのJavaプログラムの再変換のときに使用されます。

10 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入りますが、最小限の追加コンパイラー最適化しか行われません。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

*INTERPRET

作成されたJAVAプログラムには、機械の命令は入っていません。Javaプログラムは、その開始時にバイトコードから解釈されるか、JITコンパイラーによって実行されます。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

20 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、一部の追加コンパイラー最適化が行われます。変数は、デバッグ中に表示できますが、変更することはできません。

30 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル20より多くのコンパイラー最適化が行われます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、その変数の現在の値でない可能性があります。

40 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル30より多くのコンパイラー最適化が行われます。プログラム呼び出しおよび命令トレースはすべて使用不可になります。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に行われる権限検査に、プログラムを実行しているユーザー(*USER)だけが含まれるか、プログラムを実行しているユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方が含まれる必要があるかを指定します。プログラム・ユーザーまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルが、プログラムで使用できるオブジェクトの制御（プログラムがそれぞれのオブジェクトに対してもつ権限を含む）に使用されます。ユーザー・プロファイルの属性を変更できるのは、プログラム所有者またはQSECOFR権限を持つユーザーだけです。

*SAME

ユーザー・プロファイル属性は変更されません。

***USER**

プログラムは、プログラムのユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行します。

***OWNER**

プログラムの処理時に、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理中にオブジェクトの検索およびアクセスには、両方のユーザー・プロファイルのオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有しているユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行中のプログラムの権限には含められません。

上

借用権限の使用 (USEADPAUT)

このプログラムの実行時に、呼び出しスタック内の前のプログラムからのプログラム借用権限が権限のソースとして使用されるかどうかを指定します。

***NO** このプログラムの実行時には、前の呼び出しレベルからのプログラム借用権限は使用されません。

***YES** このプログラムの実行時には、前の呼び出しレベルからのプログラム借用権限が使用されます。QUSEADPAUTシステム値に権限リストが指定されて、ユーザーがその権限リストを認可されていない場合には、*NOが使用されます。

上

プログラムの置き換え (REPLACE)

このファイルと関連した既存のJAVAプログラムを作成中の新しいJAVAプログラムで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** このファイルと関連した既存のJAVAプログラムを作成される新しいJAVAプログラムによって置き換えます。

***NO** このファイルと関連した既存のJAVAプログラムが置き換えられるのは、そのクラス・ファイルが既存のプログラムの作成以降に変更された場合だけです。そうでない場合には、新しいJAVAプログラムの作成は停止され、メッセージが表示されます。複数の作成を指示するためにパターンを使用した場合には、処理は次のファイルから続行されます。

上

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

ENBPFCOLパラメーターは、バージョン6リリース1モディフィケーション0以前のターゲット・リリースにJavaプログラムを作成する場合にのみ使用されます。V6R1M0以降のターゲット・リリースでは、この値は無視され、ENDPFCOL(*NONE)が使用されます。

V6R1M0以前のターゲット・リリースの場合、次の値を指定できますが、値*ENTRYEXITおよび*FULLは、Javaプログラムがターゲット・リリースのオペレーティング・システムで再変換されるまで効力をもちません。

***NONE**

パフォーマンス・データの収集は使用可能にされません。パフォーマンス・データは収集されません。

***ENTRYEXIT**

プロシージャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。

***FULL**

プロシージャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。パフォーマンス・データは、外部プロシージャーへの呼び出し前後にも収集されます。

上

プロファイリング・データ (PRFDTA)

PRFDTAパラメーターが範囲外の日付になっています。パラメーター値は無視され、PRFDTA(*NOCOL)が使用されます。

***NOCOL**

JAVAプログラムはプロファイル作成データを収集できません。

***COL** *COLは、以前のバージョンオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみ提供されるものです。無視され、*NOCOLが使用されます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

CLSFキーワードと一致するファイルを探そうとするときにディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

***NONE**

オブジェクト名のパターンと一致するファイルのみを処理します。サブツリーは処理されません。ディレクトリーにサブディレクトリーが含まれている場合には、サブディレクトリーもサブディレクトリー内のオブジェクトも処理されません。

***ALL** CLSFパラメーターで指定された名前と一致するファイルのJAVAプログラムを作成するために、CLSFに指定されたパスのサブツリー全体が処理されます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用するつもりオペレーティング・システムのリリースを指定します。ターゲット・リリースの指定時には、リリースを指定するためにVXRXXMXという形式を使用します。ここで、VXはバージョン、RXはリリースで、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R2M0はバージョン5,リリース2,モディフィケーション・レベル0です。

有効値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変更されます。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザー・システムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されるものです。また、このオブジェクトは、導入済みのオペレーティング・システムの以降のリリースのシステムで使用することができます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXという形式で指定してください。このオブジェクトは、指定されたリリースまたは導入済みのオペレーティング・システムの以降のリリースのシステムで使用することができます。

上

LICオプション (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができます。これは、選択された各タイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している上級プログラマー用です。

***OPTIMIZE**

OPTIMIZEパラメーターで指定された最適化レベルと暗黙に関連づけられているコンパイル時オプションの設定を使用します。OPTIMIZE(*INTERPRET)が指定された場合には、コンパイル時最適化は実行されません。

‘ライセンス内部コード・オプション・ストリング’

JAVAプログラム・オブジェクトの作成時には、選択されたライセンス内部コード・コンパイル時最適化オプションが使用されます。ある種のオプションでは、作成されたJAVAプログラムのデバッグ能力が低下する場合があります。

注: LICOPTオプションに関する追加情報はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「Java 開発キット (JDK)」トピック・コレクションに記載されています。

上

LICオプション・ファイル (LICOPTFILE)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションをリストするファイル名を指定します。

***NONE**

指定されているファイルはありません。

‘ライセンス内部コード・オプション・ファイル名’

このファイルは、JAVAプログラム・オブジェクトの作成時に使用されるライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定するために使用されます。ある種のオプションでは、作成されたJAVAプログラムのデバッグ能力が低下する場合があります。

注: LICOPTオプションに関する追加情報はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「Java 開発キット (JDK)」トピック・コレクションに記載されています。

上

例

例1: Javaプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それをクラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けます。Javaプログラムには事前検証済みクラス・ファイル情報が入りますが、この情報は、JavaプログラムがRUNJVA (Run Java)またはJAVA CLコマンドを介して呼び出される場合に使用されます。

例2: LICOPTファイルを指定するJAVAプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')  
           LICOPTFILE('/PROJECTA/MYLICOPTFILE.TXT')
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それをクラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けます。コマンドはテキスト・ファイルMYLICOPTFILE.TXTに含まれるライセンス内部コード・オプションを読み取って、省略時のライセンス内部コード・オプションの前にそれを付加します。

例3: 多数のJAVAプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/*.CLASS') SUBTREE(*ALL)
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それを、PROJECTAディレクトリーのどれかのクラス・ファイルおよびPROJECTAの下のディレクトリーのどれかのクラス・ファイルと関連付けます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB524

&1 JAVA PGMが作成され、&4個はエラーがあった。&2 JAVA PGMが現行のものでした。&3 JAVA PGMは作成されませんでした。

JVAB532

"&1"についてJAVAプログラムを作成することができません。

JVAB535

監視されていない例外を受け取った。

上

論理ファイル作成 (CRTLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

論理ファイル作成(CRTLF)コマンドは、このコマンドに指定した情報およびソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から論理ファイルを作成します。

論理ファイルは、1つまたは複数の物理ファイルに入っているデータ・レコードをプログラムに渡す方法を記述するデータベース・ファイルです。論理ファイルにはデータ・レコードは入っていません。データ・レコードは、論理ファイルと関連した物理ファイルに入っています。

物理ファイルに入っているデータ・レコードはいくつかの物理ファイル・メンバーにまとめられます。論理ファイルは1つまたは複数の論理ファイル・メンバーを通じてデータ・レコードにアクセスします。各論理ファイル・メンバーは1つまたは複数の物理ファイル・メンバーに入っているデータを記述し、各論理ファイル・メンバーはそのデータに対する独自のアクセス・パスをもっています。通常、データベース・ファイルには1つのメンバーしかなく、そのメンバーはファイルの作成時に省略時の値によってファイルに追加されます。

制約事項:

- 1つ以上の物理ファイルの上にキー付き論理ファイルを作成するには、DDSでPFILEまたはJFILEキーワードに指定されたそれぞれのファイルのオブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が必要です。

キーなしの論理ファイルを作成するには、*OBJOPR権限だけが必要です。

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
FILETYPE	ファイル・タイプ	*DATA, *SRC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, *FILE, *NONE	オプション
DTAMBR	物理ファイル・データ・メンバー	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 物理ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURRENT	
要素 2: メンバー	単一値: *NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前		
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 4
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, 1, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*MAX1TB, *MAX4GB	オプション
PAGESIZE	アクセス・パス論理ページ・サイズ	*KEYLEN, 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*IMMED, *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*NO, *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
FMTSLR	レコード様式選択プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: レコード様式選択プログラム	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, 30, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, 60, *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SRC, *JOB, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

ファイル (FILE)

作成する論理ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則と合っていないければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルはジョブの現行ライブラリーに入れられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

注: 論理ファイルとその基礎となっている物理ファイルがそれぞれ異なるライブラリーに入っていて、その論理ファイルまたは物理ファイルが復元時（災害時回復時やファイルの削除時など）に存在していない場合には、アクセス・パスは復元されません。アクセス・パスは再作成されます。アクセス・パスを再作成ではなく復元できるようにするためには、論理ファイルとその基礎となっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていないければなりません。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

ソース・ファイル (SRCFILE)

論理ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

論理ファイルの作成に使用されるソース記述はDDSソース・ファイル(QDDSSRC)に入っています。

名前 論理ファイルの作成に使用されるDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成中の論理ファイル用のソースDDSが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成される論理ファイルの各メンバーにデータ・レコードが入っているか、あるいはプログラムまたは別のファイル用のソース・レコードが入っているかを指定します。

***DATA**

論理ファイルにはデータ・レコードを入れます。

***SRC** 論理ファイルにはソース・レコードを入れます。この値は結合論理ファイルの場合には指定することができません。

上

論理ファイル・メンバー (MBR)

論理ファイルの作成時に追加する論理ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** 追加するメンバーの名前は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

***NONE**

ファイルの作成時にメンバーを追加しません。

名前 追加する論理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

物理ファイル・データ・メンバー (DTAMBRs)

このコマンドで追加する論理ファイル・メンバーに関連したデータが入っている物理ファイルおよびメンバーを指定します。論理ファイル・メンバーは、論理ファイル自体の基礎となっているすべての物理ファイルおよびメンバー(*ALL)に基づかせるか、または合計ファイルおよびメンバーのサブセットに基づかせることができます。

注: DDMファイルである論理ファイルにメンバーを追加する時は、物理ファイル（指定された場合）も明示的にそのライブラリーおよびメンバー(1つまたは複数)の指定があるDDMファイルでなければなりません。論理ファイルがDDMファイルである場合には、*CURRENTはサポートされていません。

論理ファイルが作成される場合には、PFILEまたはJFILE DDSキーワードに指定された物理ファイルが使用されて論理ファイルが作成されます。PFILEまたはJFILEキーワード上の物理ファイルにライブラリー名が指定されていない場合には、ファイル作成時のライブラリー・リスト(*LIBL)を使用して物理ファイルを検索し、ライブラリー・リストの物理ファイルを使用して論理ファイルを作成します。PFILEまたはJFILEキーワードの修飾済み物理ファイルは（ライブラリー名が指定されているかどうかにかかわらず、あるいはファイルを検索するためにライブラリーが使用されたかどうかにかかわらず）、論理ファイルに対応した物理ファイルです。論理ファイルに対応した物理ファイルの名前は、論理ファイルの記述の中に保管されません。論理ファイルにメンバーが追加される時には、論理ファイル・メンバーに対応した物理ファイル・メンバーを指定するためにDTAMBRsパラメーターが使用されます。DTAMBRsパラメーターに指定する各物理ファイル名は、論理ファイル（論理ファイルの記述に保管されている）に対応した物理ファイルの名前でなければなりません。

単一値

***ALL** 追加される論理ファイル・メンバーは、論理ファイルによって使用されるすべての物理ファイルおよびメンバー（このCRTLFコマンドの入力時に存在するもの）に基づいています。物理ファイル中の少なくとも1つに、少なくとも1つのメンバーが存在していなければなりません。物理ファイルの名前は、DDSのPFILEまたはJFILEパラメーターに指定されます。

要素1: 物理ファイル

修飾子1: 物理ファイル

名前 追加される論理ファイル・メンバーによってアクセスされるデータが入っている物理ファイルの名前を指定してください。

物理ファイル名はDDS中のPFILEまたはJFILEキーワード上の名前と一致していなければならないが、DDS中のPFILEまたはJFILEパラメーターに指定された回数よりも多くDTAMBRsパ

ラメーターに指定することはできません。結合論理ファイルの場合には、JFILEキーワードに指定されたすべての物理ファイルがDTAMBRSPARAMETERに指定されなければならない。DDS中のPFILEまたはJFILEキーワード上の物理ファイルの物理ファイル名が指定されていない場合には、論理ファイル・メンバーはその物理ファイルのどのメンバーにも対応していません。

修飾子2: ライブラリー

*CURRENT

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名を指定しない場合には、論理ファイル記述からの現行ライブラリー名(*CURRENT)が使用されます。ライブラリー名を指定する場合には、その物理ファイルは論理ファイルに関連した物理ファイルでなければなりません。論理ファイルが同じ名前をもつ複数の物理ファイルと対応している場合には、ライブラリー名を指定しなければなりません。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

単一値

*NONE

メンバー名は指定されません。

その他の値 (最大32個指定可能)

名前 追加される論理ファイルによってアクセスされるデータが入っている物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

FILEパラメーターが結合論理ファイルまたは到着順論理ファイルを指定している場合には、DDSのPFILEまたはJFILEキーワードに指定されている各物理ファイルのDTAMBRSPARAMETERにデータ・メンバーを1つだけ指定しなければなりません。*ALLは、基礎となるそれぞれの物理ファイルの中に1つしかメンバーが入っていない場合にのみ有効です。物理ファイルのいずれかが複数のメンバーを持っている場合には、DTAMBRSPARAMETERに特定の物理ファイル・メンバーを指定しなければなりません。

JFILEキーワードには、同じ物理ファイル名を複数回指定することができます。この場合には、現われるそれぞれのファイル名は基礎となる別の物理ファイルとして扱われるので、DTAMBRSPARAMETERに指定する必要があります。

最大32個までの修飾済み物理ファイル名および物理ファイル・メンバー名を指定することができます。また、メンバー名の合計数が32を超えてはいけません。例えば、1つのファイルが32個のメンバーを指定するか、2つのファイルがそれぞれ16個ずつのメンバーを指定するか、あるいは32個のファイルがメンバーをそれぞれ1つずつ指定することができます。

DDMファイルの場合:

- DTAMBRSPARAMETERに指定するファイル名は、基礎となるリモート物理ファイルを表すDDMファイルの名前でなければなりません。メンバー名がDDMファイルのリモート・ファイル名の一部として指定されている場合には、DTAMBRSPARAMETERにそのメンバー名だけを指定しなければなりません。このメンバー名は実際のリモート・ファイル・メンバー名でなければなりません。
- 基礎となる物理ファイルは、メンバーが追加される論理ファイルと同じシステム位置になければなりません。
- DDMファイル中のリモート・ファイル名にメンバー名が指定されていない時には、すべてのメンバーがアクセス可能です。1つのメンバー名だけが指定されている時には、そのメンバーだけが、そのDDMファイルを通してアクセス可能です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

*SRCまたは*SOURCE

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

*NOSRCまたは*NOSOURCE

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

*LIST ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

*NOLIST

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

*NOSECLVL

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

*SECLVL

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

*NOEVENTF

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

*EVENTF

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

システム (SYSTEM)

論理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

*LCL 論理ファイルはローカル・システムで作成されます。

*RMT 論理ファイルはリモート・システムで作成されます。ファイル (FILE)パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムを識別するDDMファイルの名前および作成される論理ファイルの名前でなければなりません。

*FILETYPE

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、論理ファイルはローカル・システムで作成されます。そうでない場合には、FILEパラメーターのファイルはDDMファイルでなければならず、論理ファイルはリモート・システムで作成されます。DDMファイルはリモート・システムおよび作成される論理ファイルの名前を識別します。

上

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

論理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

1 1つだけのメンバーをファイルに入れることができます。

*NOMAX

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

整数 ファイルに入れることができるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

上

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

結合論理ファイルまたはキー順アクセス・パスをもつファイルと関連付けられるアクセス・パスが占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

注: 結合論理ファイルの場合には、結合論理ファイルがキー付きファイルでなくても、このパラメーターはすべての結合2次アクセス・パスに適用されます。

***MAX1TB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

***MAX4GB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

上

アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)

アクセス・パスの作成時に使用されるアクセス・パス論理ページ・サイズを指定します。

アクセス・パス論理ページ・サイズは、索引の各ページのサイズを決定するためにシステムによって使用されます。この論理ページ・サイズは、ページ不在の場合に補助記憶域からジョブの記憶域プールに移動できるアクセス・パスのバイト数です。

***KEYLEN**

アクセス・パス論理ページ・サイズは、1つ以上のキーの合計長によって決定されます。

- 8** 8Kの論理ページ・サイズ。
- 16** 16Kの論理ページ・サイズ。
- 32** 32Kの論理ページ・サイズ。
- 64** 64Kの論理ページ・サイズ。
- 128** 128Kの論理ページ・サイズ。
- 256** 256Kの論理ページ・サイズ。
- 512** 512Kの論理ページ・サイズ。

上

アクセス・パスの保守 (MAINT)

キー・フィールドのあるファイルまたは結合論理ファイルの場合には、論理ファイルのすべてのメンバーに使用されるアクセス・パスの保守のタイプを指定します。

***IMMED**

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行われるたびに更新されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*IMMEDを指定しなければなりません。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスはメンバーがクローズされるまで維持され、メンバーがクローズされると削除されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*REBLDを指定することはできません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、論理ファイル・メンバーがオープンされるまで延期されます。その後で、ファイルが最後にオープンされた以降に追加、削除、または変更されたレコードについてのみアクセス・パスが変更されます。ファイルがオープンされている間は、基礎となるファイル・メンバーに対して行われたすべての変更は、このパラメーターに何が指定されていても、オープンされたファイル自身のメンバーのアクセス・パスにただちに反映されます。ファイルのオープン時に再作成に要する時間が長くなるのを防ぐためには、連続するオープン操作相互間のアクセス・パスに対する変更数が少ない時にのみ*DLYを指定すべきです。すなわち、ファイルが頻繁にオープンされる場合、あるいはこのアクセス・パスに対するレコード中のキー・フィールドがめったに変更されない場合などです。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

クローズ操作と次のオープン操作の間における変更の数がアクセス・パス・サイズのおよそ10パーセントに達した場合には、システムは変更の保管を停止し、アクセス・パスは次回にファイルがオープンされる時に完全に再作成されます。最後にメンバーがオープンされた以降にそのメンバーに追加、削除、または変更されたレコードが入っているメンバーがオープンされた時に、アクセス・パスが更新されます。

上

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パス上に即時または遅延保守を備えているファイルの場合に、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった後で、ファイルの回復処理がいつ実行されるかを指定します。このパラメーターは、結合論理ファイルまたはキー順アクセス・パスのあるファイルに対してのみ有効です。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMED または*DLYが指定されている場合には、アクセス・パスは初期プログラム・ロード(IPL) (ユーザーがジョブを実行する前)、IPLの終了後(並行ジョブの実行中)、または次のファイル・オープン時に再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL中は、アクセス・パス回復一時変更画面に、回復すべきパス、および各パスに対するRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされるときに再作成されます。

***NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。*NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

***AFTIPL**

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了直後に処理を開始す

ることができます。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。固有キーが必要なファイルの場合の省略時の値は*AFTIPLです。

- *IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(*IPL)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

上

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー・フィールドのあるファイルまたは結合論理ファイルの場合に、アクセス・パスの変更をファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。FRCACCPH(*YES)は、ジョブの異常終了によって、再作成する必要があるアクセス・パスが損傷を受ける可能性を最小限（除去はされない）にします。

注: 結合論理ファイルの場合には、結合ファイルがキー付きファイルでなくても、このパラメーター値はすべての結合2次ファイルに対して適用されます。

- *NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連したレコードは補助記憶装置に書き出されません。

- *YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連したレコードは補助記憶装置に書き出されます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*REBLDが指定されている場合、*YESを指定することはできません。

対話式ジョブでアクセス・パスが変更される場合には、FRCACCPH(*YES)ではシステムの応答時間が遅くなります。アクセス・パスが頻繁に変更される場合には、システム全体のパフォーマンスがいくらか影響を受けます。

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、i5/OSのバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

このパラメーターには値*ANYまたは1から255の値を指定することができます。

上

レコード様式選択プログラム (FMTSLR)

論理ファイル・メンバーに複数の論理レコード様式が入っている時に呼び出されるレコード様式選択プログラムを指定します。

レコードがデータベース・ファイルに書き出され、レコード様式名が高水準言語プログラムに入っていない時には、ユーザー作成の選択プログラムが呼び出されます。選択プログラムはそのレコードを入力として受け取り、使用するレコード様式を決定して、それをデータベースに戻します。

このパラメーターは、論理ファイルにレコード様式が1つしかない場合には正しくありません。

単一値

*NONE

この論理ファイル用のセレクターはありません。

修飾子1: レコード様式選択プログラム

QDDSSRC

様式選択プログラムの名前はQDDSSRCです。

名前 呼び出す様式選択プログラムの名前を指定してください。様式選択プログラムとして指定されたプログラムは、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターに*OWNERを指定して作成することはできません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラム名を見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

上

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。

論理ファイルに対して指定する強制書き出し率を、その基礎となるファイルの最小強制書き出し率より小さいか等しくすることはできません。より大きい強制書き出し率を指定した場合には、それは無視され、ユーザーに処置を指示するメッセージが出されます。

例えば、3つの物理ファイルの強制書き出し率が2, 6,および8,である場合には、これらの3つの物理ファイルに基づく論理ファイルの強制書き出し率はそれらの最小のものに限定しなければなりません。すなわち、この場合は2です。FRCRATIOパラメーターが指定されていない場合でも2が使用されます。このように、プログラムが論理ファイルに2つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに（基礎となるどの物理ファイルが影響を受けるかに係わらず）、これらのレコードは強制的に永続記憶域に入られます。

この論理ファイルに関連する物理ファイルをジャーナル処理する場合には、大きい強制書き出し率または*NONEを指定します。ジャーナル管理の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

*NONE

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

30 プログラムはファイル資源の割り振りを30秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムで使用可能な最大で、32767秒です。

整数 プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

注: 論理ファイル・メンバー (MBR)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このファイルに使用する分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決められます。

単一値

***SRC** データ記述仕様(DDS)の中でALTSEQキーワードに指定されたテーブルが使用されます。DDSの中でALTSEQが使用されない場合には、このパラメーターで*JOBに指定された値を使用してください。

***JOB** 使用される分類順序の値は、論理ファイルの作成のためにこのコマンドを出すジョブ用の値です。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 ソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

***JOB** ジョブに指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト)を押します。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによるファイルのオープン時に、論理ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合は、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: メンバーなしの論理ファイルの作成

```
CRTL F FILE(INVEN/STOCKCTL) SRCFILE(SRCLIB/STKLFSRC)
      MBR(*NONE)
```

このコマンドは、INVENライブラリーにSTOCKCTLという名前の論理ファイルを作成します。この論理ファイルの作成には、SRCLIB ライブラリーのソース・ファイルSTKLFSRCのソース記述が使用されます。このファイルは、メンバーなし(*NONEが指定されている)で作成されて、後で(MAXMBRSパラメーターの省略時値が1メンバーであるため)メンバーを1つだけ追加することができます。この論理ファイルは、論理ファイルの作成に使用されたDDSソース・ファイルで指定されている物理ファイルに入っているデータにアクセスします。CRTLFCOMMANDを正常に完了するためには、ユーザーはDDSで指定されたすべての物理ファイルに対するオブジェクト操作権限を持っていなければなりません。論理ファイルがキー付きの場合には、オブジェクト管理権限も必要です。

例2: メンバーを持つ論理ファイルの作成

```
CRTL F FILE(PAYLIB/PAYCODESEQ) SRCFILE(PAYLIB/PAYTXSRC)
      DTAMBR(S(PAYTRANS FIRSTQTR) AUT(*EXCLUDE)
      TEXT('PAY TAXES IN CODE SEQUENCE')
```

このコマンドは、PAYLIBライブラリーにどちらもPAYCODESEQという名前の論理ファイルと論理ファイル・メンバーを作成します。ファイルとそのメンバーは、同じライブラリーにあるPAYTXSRC ソース・ファイルから作成されます。論理ファイル・メンバーは、物理ファイルPAYTRANSのFIRSTQTRメンバーに入っているデータにアクセスします。論理ファイルは、所有者専用として保護されます。所有者は、メンバーを作成するためにPAYTRANSに対するオブジェクト操作権限を持っていなければなりません。論理ファイルがキー付きの場合には、オブジェクト管理権限も必要です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3204

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを見つけることができない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

ライブラリー作成 (CRTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドは、新しいライブラリーをシステムに追加します。ライブラリーにオブジェクトを入れる前に、ライブラリーが作成されていなければなりません。ライブラリーが作成されると、そのライブラリーは、QSYS (システム) ライブラリー内に存在するかのように見えます。

制約事項:

1. QRCLまたはQRPLOBJという名前のライブラリーはシステムASP (ASP 1)にしか作成できません。
2. QRCLXXXXXまたはQRPLXXXXXという名前のライブラリーは、'XXXXX' ('XXXXX'は、右寄せにされ、左にゼロが埋め込まれた1次ASPの番号) に一致するASP番号のASPにしか作成できません。例えば、ライブラリーQRPL00033は、A SP番号33に一致するASP装置にしか作成できません。
3. ライブラリーQSPLNNNNが1次または2次ASPに作成される時には、'NNNN' ('NNNN'は、右寄せにされ、左にゼロが埋め込まれた1次または2次ASPの番号) に一致するASP番号のASPに作成されなければなりません。
4. 名前がQSYSXXXXX, QSYS2XXXXX,またはSYSIBXXXXX ('XXXXX'は数値) のライブラリーは作成できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TYPE	ライブラリー・タイプ	*PROD, *TEST	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト・記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ASP	ASP番号	1-32, 1, *ASPDEV	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *ASP, *ASPGRPPRI, *SYSTEM	オプション
CRTAUT	作成権限	名前, *SYSVAL, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクト監査の作成	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション

上

ライブラリー (LIB)

作成されるライブラリーを指定します。

注: 文字Qで始まる名前を使用してはいけません。 システムはそれらの名前のライブラリーをシステム・ライブラリーと見なします。

これは必須パラメーターです。

名前 作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

ライブラリー・タイプ (TYPE)

作成されるライブラリーのタイプを指定します。

*PROD

これはプロダクション・ライブラリーです。 プロダクション・ライブラリーの中のデータベース・ファイルは、ユーザーがデバッグ・モードで、プロダクション・ライブラリーの保護を要求した場合には、更新用にオープンすることはできません。 ユーザーは、テストを始めるためのデバッグ開始(STRDBG)コマンドの実動ファイルの更新(UPDPROD)パラメーターに*NOを指定することによって、プロダクション・ライブラリーのすべてのデータベース・ファイルを更新から保護できます。 ただし、この保護では、プログラムがデータベース・ファイルを削除することや、ライブラリー内の他のオブジェクト（データ域など）を変更することは防止できません。

*TEST

これはテスト・ライブラリーです。 テスト・ライブラリー中のオブジェクトは、たとえ特殊な保護がプロダクション・ライブラリーに対して要求されていても、すべてテスト中に更新することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ライブラリーを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストはブランクに設定されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このライブラリーに対する省略時の共通権限を指定します。 これは、ライブラリーに対する特定権限をもっていないユーザー、ライブラリーに指定された権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがライブラリーに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限です。

*LIBCRTAUT

ライブラリーに対する権限は、QSYSライブラリーの作成権限と同じです。 QSYSライブラリーの

作成権限はライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用して表示することができます。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによってQSYSの作成権限を変更しても、新しい権限は既存のライブラリーに影響しません。

***CHANGE**

変更(*CHANGE)権限では、所有者に限定されているもの、あるいはオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限によって制御されるものを除き、ライブラリーに対するすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーはライブラリーに対して基本的な機能を変更および実行することができます。変更(*CHANGE)権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限および全データ権限が提供されます。

***ALL** 全(*ALL)権限では、所有者に限定されているものまたは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって制御されるものを除くすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーは、ライブラリーの存在を制御したり、ライブラリーの機密保護を指定したり、ライブラリーを変更したり、ライブラリーに対する基本的な機能を実行したりできます。ユーザーは、ライブラリーの所有権を変更することもできます。

***USE** 使用(*USE)権限では、プログラムの実行またはファイルの読み取りなどの基本操作をライブラリーに対して実行するために必要な権限が提供されます。ライブラリーは変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーは、ライブラリーにアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたライブラリーに対する権限が認可されます。ライブラリーを作成する時には、権限リストが存在していなければなりません。

上

ASP番号 (ASP)

ライブラリーの記憶域が割り振られるシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。ASPに作成されるライブラリーの場合には、ライブラリー内のすべてのオブジェクトがライブラリーと同じASPに入っていなければなりません。ASP装置(ASPDEV)パラメーターに*ASP以外の値を指定した時、ASP番号(ASP)パラメーターを指定する場合には、*ASPDEVが指定できる唯一の有効な値です。またASPDEVパラメーターに*ASP以外の値を指定すると、ASPパラメーターを除外できます。その場合には、その省略時値は無視されます。

1 ライブラリー用の記憶域スペースはシステム補助記憶域プールASP 1から割り振られます。

***ASPDEV**

ライブラリーの記憶域は、ASPDEVパラメーターに指定された1次または2次ASPから割り振られます。

番号 システムまたは基本ユーザーASPの番号である1~32の範囲の値を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。 **ASP番号(ASP)**パラメーターに*ASPDEV以外の値を指定した時、**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターを指定する場合には、ASPDEV(*ASP)が唯一の有効な値となります。 ASPパラメーターを除外した場合には、ASPDEVパラメーターのその他の値が有効となります。 この場合には、ASPパラメーターに省略時値として使用された値は無視されます。

***ASP** ライブラリーの記憶域は、システムASPから、あるいはASPパラメーターに指定された基本ユーザーASPから割り振られます。

*ASGRPPRI

ライブラリー用の記憶域はスレッドのASPグループの1次ASPから割り振られます。スレッドと関連付けられているASPグループがない場合には、エラー・メッセージが送られます。

*SYSTEM

ライブラリー用の記憶域はシステムASP (ASP 1)から割り振られます。

名前 1次または2次ASP装置の名前を指定してください。ライブラリー用の記憶域は1次または2次ASPから割り振られます。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

上

作成権限 (CRTAUT)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの省略時の共通権限を指定します。これは、オブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、オブジェクトに指定された権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限です。

ユーザーがオブジェクトをこのライブラリーに作成する時には、オブジェクトの作成コマンドの**権限(AUT)**パラメーターによってオブジェクトに対する共通権限が決定されます。オブジェクトの作成コマンドのAUT値が*LIBCRTAUTである場合には、オブジェクトの共通権限はライブラリーのCRTAUT値に設定されます。

*SYSVAL

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の省略時の共通権限は、QCRTAUTシステム値の値によって決定されます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限が使用される権限リストの名前を指定してください。

上

オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

注: このパラメーターに*SYSVAL以外の値を指定するには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。

***SYSVAL**

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の監査値は、QCRTOBJAUDシステム値の値によって決定されます。

***NONE**

このオブジェクトを使用または変更しても、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることにはなりません。

***USRPRF**

監査項目がアクセス用に機密保護ジャーナルに送られるかどうかを決定するために、このオブジェクトにアクセスしているユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。特定ユーザーの監査をオンにするには、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドの**オブジェクト監査値(OBJAUD)**パラメーターが使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更アクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更または読み取りアクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

上

例

例1: プロダクション・ライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(MYLIB) TEXT('MY PRODUCTION LIBRARY')
```

ライブラリーMYLIBがシステムに追加されます。このライブラリーはプロダクション・ライブラリーです。所有者だけがそれに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限をもちます。ライブラリーMYLIBに対する他のユーザーの権限は、AUTパラメーターが*LIBCRTAUTとみなさ

れるので、ライブラリーQSYSの作成権限によって決定されます。テキスト'MY PRODUCTION LIBRARY'は、MYLIBのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

例2:テスト・ライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(Z) TYPE(*TEST) AUT(*EXCLUDE)
      TEXT('THIS IS A TEST LIBRARY')
```

テスト・ライブラリーZがシステムに追加されます。Zは、他のユーザーに権限が認可されていないので、その所有者だけが使用できます。指定されたテキスト('THIS IS A TEST LIBRARY')は、Zのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

例3:独立補助記憶域プール(ASP)へのライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)
      TEXT('INVENTORY LIBRARY ON SALES ASP')
```

ライブラリーINVENTORYは、システムのSALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)に追加されます。SALES ASPは活動化されて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、状況が「使用可能」になっていなければなりません。このライブラリーはプロダクション・ライブラリーです。所有者だけがそれに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限をもちます。ライブラリーINVENTORYに対する他のユーザーの権限は、AUTパラメーターが*LIBCRTAUTとみなされるので、ライブラリーQSYSの作成権限によって決定されます。テキスト'INVENTORY LIBRARY ON SALES ASP'は、INVENTORYのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF21A0

ライブラリーを作成または変更するためには*AUDITが必要である。

CPF210E

理由コード&2が原因で、ライブラリー&1が使用できません。

CPF2111

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2138

ライブラリー&3を作成することはできない。

CPF2166

ライブラリー名&1は無効である。

CPF2172

ASPに指定されている値に対してASPDEV値が無効である。

CPF218A

ライブラリー&1をASP &2に作成することはできない。

CPF218B

ライブラリー&1はASPDEV &2には作成できない。

CPF2197

ライブラリー&1をユーザーASP &2に作成することはできない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

上

回線記述の作成（非同期）(CRTLINASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期回線記述の作成(CRTLINASC)コマンドは、非同期回線の回線記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS232V24, *RS530V36, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTTP, *SWTTP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
BITSCHAR	文字当たりのデータ・ビット数	8, 7	オプション
PARITY	パリティのタイプ	*NONE, *ODD, *EVEN	オプション
STOPBITS	停止ビット	1, 2	オプション
DUPLEX	二重	*FULL, *HALF	オプション
ECHO	エコー・サポート	*NONE, *ALL, *CNTL	オプション
LINESPEED	回線速度	50, 75, 110, 150, 300, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800, 115200	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO, *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE, *V25BIS, *OTHER	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, *NONE, END	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *NONE	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>300</u> , *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	128-4096, <u>896</u>	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	* <u>NO</u> , *YES, *HARDWARE	オプション
XONCHAR	XON文字	01-FF, <u>11</u>	オプション
XOFFCHAR	XOFF文字	01-FF, <u>13</u>	オプション
EORTBL	レコードの終わりテーブル	値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: レコード終結文字	00-FF, <u>00</u>	
	要素 2: 後書き文字	0-4, <u>0</u>	
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	* <u>DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	* <u>FULL</u> , *HALF	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	* <u>OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	0-254, <u>1</u>	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-120, <u>25</u> , *NOMAX	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

- *YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。
- *NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

- *RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)
RS-232/V.24物理インターフェース
- *V35 (BSCおよびSDLCのみ)
V.35物理インターフェース
- *X21 (X.25およびSDLCのみ)
X.21物理インターフェース
- *X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)
X.21 BIS/V.24物理インターフェース
- *X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)
X.21 BIS/V.35物理インターフェース
- *RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)
RS-449/V.36物理インターフェース
- *INTMODEM
統合モデム・インターフェースが使用されます。

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

- *NONSWTTP
非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。
- *SWTTP
交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。
- *NONSWTCAL
非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。
- *NONSWTANS
非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

*NO ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

*YES ローカル・モデムにSNBU機能があります。

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

***NO** この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

***YES** この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

上

文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)

文字当たりのデータ・ビット数を指定します（パリティ・ビットがある場合はこれを除きます）。

8 文字当たりのデータ・ビット数に8が使用されます。

注: 8ビット（パリティ付き）は特定の入出力プロセッサでは使用できません。

7 文字当たりのデータ・ビット数に7が使用されます。

上

パリティのタイプ (PARITY)

エラー検査に使用されるパリティのタイプを指定します（パリティ・ビットは、そのパリティ・ビットを含めて、すべての数字の算術合計を出すためにデータの各バイトに挿入される2進数字で、常に奇数か、あるいは常に偶数です）。

注: リモート・システムは同じパリティを使用しなければなりません。

***NONE**

パリティ・ビットはデータ・バイトに挿入されません。

***ODD** パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は奇数です。

***EVEN**

パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は偶数です。

上

停止ビット (STOPBITS)

各文字の終わりに追加するビット数を指定します。これらのビットは、回線のローカル終端とリモート終端の同期化を維持するために使用されます。

注: リモート・システムはローカル・システムと同じ数の停止ビットを使用しなければなりません。

1 1ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。

2 2ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。

注: 300 BPSまたはそれ以下の回線速度では、2ビットのストップ・ビットをお奨めします。

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン（全二重モデムの場合）であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる（半二重モデムの場合）かどうかを指定します。

*HALF

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

*FULL

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています（二重モデムの場合）。

上

エコー・サポート (ECHO)

システムが受信したすべての文字をリモート・システムに送り返す（エコー）か、レコード終結文字以外のすべての文字を送り返すか、あるいはエコーが使用禁止であるかどうかを指定します。

注：この回線がエコーを必要とするリモート・システムとの通信をサポートする場合には、*ALLまたは*CNTLを指定してください。*ALLまたは*CNTLを指定した場合には、二重 (DUPLEX)パラメーターにも*FULLを指定しなければなりません。

*NONE

受信した文字はリモート・システムに対してエコーされません。

*ALL 受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

*CNTL

レコード終結文字の前に受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3(ローカル折り返し)およびループ2(これはリモート折り返し)をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使われます。

***IBMLPDA1**

リンク問題判別援助機能-1(LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使われます。

***IBMLPDA2**

リンク問題判別援助機能-2(LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使われます。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換(非同期、BSC、SDLC、またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ(非同期、BSC、またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使われます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使われます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用に使われます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線(非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線)の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

*OTHER

IBMコマンド・セットは、非同期プロトコルで使用されるこの他のコマンド・タイプの1つの例です。ダイヤル呼び出しの数字およびその他のすべての呼び出し関連データは、アプリケーション・プログラムによってデータ・ストリームに直接入れられます。

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにモデムに送信するV25BISコマンド・ストリングを指定します。

*NONE

V25BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

END ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

出されるコマンドを表す文字を最大40文字まで指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のAからZ、数字0から9、および次の特殊文字です。

- ・ ピリオド
- < 小なり記号
- (左括弧
- + プラス符号
- & アンパーサンド
- * アスタリスク
-) 右括弧
- ; セミコロン
- マイナス符号
- / スラッシュ
- , コンマ
- _ 下線

- > 大なり記号
- ? 疑問符
- : コロン
- = 等号

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFATYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- ピリオド
- より小記号
- 左括弧
- プラス符号
- アンバーサンド
- アスタリスク
- 右括弧
- セミコロン
- マイナス符号
- スラッシュ
- コンマ
- 下線
- より大記号
- 疑問符
- コロン
- 等号
- スペース
- 番号記号
- 二重引用符
- 感嘆符
- 単価記号
- 曲折記号
- パーセント
- 左大括弧
- 右大括弧
- 円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(CNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位)を指定します。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9秒の時間の範囲を示します。

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

フロー制御 (FLOWCNTL)

ハードウェアがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

*NO ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

***YES** システムは非同期プロトコルのフロー制御機能を使用します。*YESが指定されている場合は、ハードウェアはフロー制御文字を認識します。これは、XOFF文字が受信されると、XON文字が受信されるまで、ハードウェアが送信を停止することを意味します。また、文字の受信ができない時にハードウェアがリモート・ロケーションにXOFF文字を送信することも意味します。ハードウェアが再び文字を受信可能な時に、XON文字をリモート・システムに送信します。

***HARDWARE**

このオプションが指定された場合には、ハードウェアは、文字の受信が可能でない時にRTS信号を除去することによってデータの送信を停止する信号をモデムに送ります。文字の受信が再び可能な場合には、ハードウェアはそのモデムに対してRTS信号を出します。また、ハードウェアはCTSおよびRTS信号をモデムからモニターして、これがオフになった時にデータの送信を停止します。

注:

1. *YESまたは*HARDWAREを指定した場合には、DUPLEX(*FULL)を指定しなければなりません。
2. ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されません。

上

XON文字 (XONCHAR)

16進値のフロー制御文字XONを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

XON文字

XON文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XOFF文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCII ブランク) などのユーザーの通常のデータ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

上

XOFF文字 (XOFFCHAR)

16進値のフロー制御文字XOFFを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

XOFF文字

16進数XOFF文字を指定します。XOFF文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XON文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCII ブランク) などのユーザーの通常のデータ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

上

レコードの終わりテーブル (EORTBL)

データを受信したときにハードウェアが論理レコードを認識できるようにするテーブルを指定します。データ・ストリームにレコード終結文字(EOR)として行送り(LF)を定義し、データ・ストリーム内でLF文字が検出されたときに、ハードウェアがデータを戻すようにすることができます。

EORテーブルは1組の対の要素として指定され、この対の最初の要素はEOR文字で、2番目の文字はEOR文字の後に続く文字数を指定します。最大8項目まで指定することができます。00の値はレコード終結文字が定義されないことを表します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

EOR文字

レコード終結文字を指定します。有効なレコード終結文字は16進数の01から7F (7ビット/文字の場合) または01からFF (8ビット/文字の場合) の範囲内です。レコード終結文字は非同期通信サポートによる変換の後にその行に現れた通りに指定されます。

後書き文字

レコード終結文字が検出された後に受信した追加の文字数を指定します。後書き文字数は0から4です。

上

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

上

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU)機能をもっている場合だけです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

*OFF しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

アダプターが受信バッファをシステムへ転送する前の文字間でシステムが待機する時間(0.5秒間隔で)を指定します。

遊休タイマー

1から254の値を0.5秒間隔で指定するか、あるいはタイマーなしを表す0を指定します。

注: また、遊休タイマーは文字間タイマーとも呼ばれます。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

***NOMAX**

システムは無期限に待機します。

CTSタイマー

10から120秒の範囲の値を指定します。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間(分数)を指定してください。有効な値の範囲は0から120(1分間隔)です。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

例

```
CRTLINASC LIND(ITF) RSCRNAME(LIN031)
```

このコマンドは、資源名がLIN031のITFという名前の非同期回線記述を作成します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(BSC) (CRTLINBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC回線記述の作成(CRTLINBSC)コマンドにより、BSC回線の回線記述を作成することができます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	<u>*PGM</u> , *RJE, *EML	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	<u>*RS232V24</u> , *RS449V36, *RS530V36, *V35, *X21BISV24, *X21BISV35	オプション
CNN	接続タイプ	<u>*NONSWTTP</u> , *SWTTP, *MPTRIB	オプション
SNBU	交換網バックアップ	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VRYPWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, <u>*NOWAIT</u>	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	<u>*NO</u> , *YES	オプション
STNADR	端末アドレス	04-FE	オプション
CLOCK	刻時	<u>*MODEM</u> , *SYSTEM	オプション
DUPLEX	二重	<u>*HALF</u> , *FULL	オプション
LINESPEED	回線速度	600, 1200, 2400, 4800, 7200, <u>9600</u> , 14400, 19200, 48000, 56000, 57600	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	<u>*NORMAL</u> , *V54, *IBMWRAP	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	<u>*BOTH</u> , *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	<u>*NONE</u> , *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>300</u> , *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	8-8192, <u>1024</u>	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
RCVTMR	受信タイマー	30-254, <u>30</u>	オプション
CONTTMR	続行タイマー	16-24, <u>20</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTNRTY	回線争奪状態再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
DTASTTRTY	データ状態再試行	0-255, <u>7</u>	オプション
TMTRTY	TTDまたはWACK送信再試行	0-65534, <u>60</u> , *NOMAX	オプション
RCVRTY	TTDまたはWACK受信再試行	0-65534, <u>45</u> , *NOMAX	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	* <u>DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	* <u>FULL</u> , *HALF	オプション
SYNCCHARS	SYN同期文字	<u>2</u> , 4	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	* <u>OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
STXLRC	LRCへのSTX文字の組み込み	* <u>NO</u> , *YES	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

- *YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。
- *NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

- *PGM このBSC回線は、ユーザー作成のプログラム(RJEまたはEMLではない)により使用されます。
- *RJE このBSC回線は、リモート・ジョブ入力機能により使用されます。
- *EML このBSC回線は3270エミュレーションで使用されます。

上

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

- *RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)
RS-232/V.24物理インターフェース
- *V35 (BSCおよびSDLCのみ)
V.35物理インターフェース
- *X21 (X.25およびSDLCのみ)
X.21物理インターフェース
- *X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)
X.21 BIS/V.24物理インターフェース
- *X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)
X.21 BIS/V.35物理インターフェース
- *RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)
RS-449/V.36物理インターフェース
- *INTMODEM
統合モデム・インターフェースが使用されます。

上

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

- *NONSWTPP
非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*EMLを選択した場合には、この値を選択することはできません。

***SWTPP**

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*EMLを選択した場合には、この値を選択することはできません。

***MPTRIB**

マルチポイント従属回線

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*RJEを選択した場合には、この値を選択することはできません。

上

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

***NO** ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

***YES** ローカル・モデムにSNBU機能があります。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。

- 回線の管理のために適所にタスクを配置する
- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

***NO** この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

***YES** この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

上

端末アドレス (STNADR)

マルチポイント従属回線の場合に、16進数アドレスを指定します（このアドレスによってローカル・システムがリモート・システムに認識されます）。16進数アドレスはこのシステムに割り当てられたポーリング・アドレスです。

*ASCIIの文字コードが指定された場合には、6ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。*EBCDICの文字コードが指定された場合には、2ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。

端末アドレス

04からFEの16進数値を指定します。BSC制御文字を指定することはできません。

上

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*MODEM

回線の刻時機能はモデムによって提供されます。

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン（全二重モデムの場合）であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる（半二重モデムの場合）かどうかを指定します。

***HALF**

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

***FULL**

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300 600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

***NORMAL**

ユーザー・モデムに対する診断テストの実行は試みられません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された通り)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (リモート折り返し) をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換 (非同期, BSC, SDLC, またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ (非同期, BSC,またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期，BSC，SDLC,またはX.25回線）の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか，あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは，モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*YES 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

*NO 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか，あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*NO 回線接続は，X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

*YES 回線接続は，X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。（自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。）

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは，システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために，逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された（接続）番号(CNNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位)を指定します。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9秒の時間の範囲を示します。

上

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

EBCDIC文字セット・コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

受信タイマー (RCVTMR)

受信時間切れが起きる前にシステムがリモート・システムからのデータを待機する時間の長さを指定します。

受信タイマー

30から254の値を0.1秒間隔で指定します。

上

続行タイマー (CONTTMR)

システムでデータの送信または受信の準備ができていない時に、回線が作動不能にならないよう制御文字を送信する前にシステムが待機している時間を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

続行タイマー

16から24の値を0.1秒間隔で指定します。

上

回線争奪状態再試行 (CTNRTY)

エラーを表示し、回線を作動不能にする前に行う回線争奪状態における再試行の回数を指定します。

BSCの場合、回線争奪とは伝送終結(EOT)文字が受信または送信されてから、開始順序(ENQ)が肯定応答(ACK)されるまで存在する状態です。

データ通信では、回線またはリンクが使用可能なときにはいつでも、どちらのユーザーからでも伝送することのできる、ある種の半二重回線またはリンクの制御方法です。両方のユーザーが同時に要求を伝送しようとした場合には、回線を獲得するユーザーはプロトコルまたはハードウェアによって決定されます。

回線争奪状態再試行

回線争奪状態再試行の回数に対して0から21の値を指定します。

上

データ状態再試行 (DTASTRTY)

エラーを示し、セッションを終了する前に行うデータ状態再試行回数を指定します。

BSCの場合、データ状態とはBSCが通信回線で文字を送信または受信している状態です。

データ状態再試行

データ状態再試行の回数に対して0から255の値を指定します。

TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)

一時テキスト遅延(TTD)を送信する再試行回数，またはセッション障害を示す前の送信前待機を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

*NOMAX

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の送信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)

セッション障害を示す前の，一時テキスト遅延(TTD)または送信待機要求(WACK) の受信の再試行回数を指定します。このパラメーターは，アプリケーション・タイプがプログラム相互間の場合にのみ有効です。

*NOMAX

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の受信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に，モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり，呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り，「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

*CDSTL

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後，システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU)機能をもっている場合だけです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

SYN同期文字 (SYNCCHARS)

伝送中に送信するBSC SYN（同期）制御文字の数を指定します。 SYN制御文字は、同期を確立し、維持するために使用され、データまたは他の制御文字がない時の埋め合わせとしても使用されます。

- 2 同期パターンは連続した2文字のSYN文字で構成されています。
- 4 同期パターンは連続した4文字のSYN文字で構成されています。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。 永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。 これらを個別に指定することはできません。

- *OFF しきい値エラーは報告されません。
- *MIN エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。
- *MED エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。
- *MAX エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)

テキストの開始(STX)制御文字が、水平冗長検査(LRC)の計算に含まれるかどうかを指定します。 これは、ASCII文字コードを使用する回線にのみ適用されます。

- *NO STX制御文字はLRCの計算に含まれていません。
- *YES STX制御文字はLRCの計算に含まれています。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINBSC  LIND(BRANCHES)  RSRNAME(LIN021)
           ONLINE(*NO)  CNN(*SWTPP)
           AUTOCALL(*YES)  ACRSRNAME(LIN032)
           SWCTLLST(BRANCH1  BRANCH2)
```

このコマンドは、2番目のIOAの最初のポートのBSC回線記述を作成します。これは、3番目のIOAの2番目のポートで自動ダイヤルに設定されるか、自動応答に設定されます。SWCTLLST内には制御装置記述がすでに存在しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(DDI) (CRTLINDDI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述 (分散データ・インターフェース) 作成(CRTLINDDI)コマンドは、FDDI (ファイバー分散データ・インターフェース) ローカル・エリア・ネットワークなどのデータ記述インターフェースの回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID	必須, キー, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, 40	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-4444	オプション
LOGLVL	ロギング・レベル	*OFF, *ERRORS, *ALL	オプション
LCLMGRMODE	ローカル管理機能モード	*OBSERVING, *NONE	オプション
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	400000000000-7FFFFFFFFFFF, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFFF, *SYSGEN	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-4444, *MAXFRAME	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	値 (最大 12 回の繰り返し): 800000000000-FFFFFFFFFFFFE, *NONE	オプション
TKNRTTIME	トークン循環時間	4-167, *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
LINKSPEED	リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*PKTSWTNET, *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCNAMEパラメーターに指定された値は、*NWIDからその他の値に、あるいはその他の値から*NWIDに変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

*NWID

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

名前 資源名を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する

- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

40 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはシステムIDが交換される時に決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

注: MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための44バイトを差し引く必要があります。

4105 最大フレーム・サイズは4105バイトです。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定された場合には、この値は1556に変わります。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から4444バイトです。

上

ロギング・レベル (LOGLVL)

DDIローカル・エリア・ネットワーク(LAN)管理機能によって使用されるエラー・ロギング・レベルを指定します。このパラメーターを使用して、非送信請求LANエラーがログに記録されるかどうかを判別されます。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

注: RSRCTYPE(*NWID)を指定した場合には、LOGLVLパラメーターは使用されません。

***OFF** エラーはモニターされません。

*ERRORS

LANマネージャー・エラー・メッセージだけをログに記録します。

*ALL LANマネージャー・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。

上

ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)

この端末が監視ネットワーク管理機能であるかどうかを指定します。監視ネットワーク管理機能は、リング上のこの端末およびその他の端末のネットワーク・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

監視モードでだけ使用可能な情報の例としては、一般的なリング操作には影響しないリモート端末でのエラー、またはリングを結合または終了している端末に関する情報などがあります。

注: RSRCTYPE(*NWID)またはLOGLVL(*OFF)が指定された場合には、LCLMGRMODEは使用されません。

*OBSERVING

この端末のLANマネージャー機能はすべてのアダプターによって生成された情報を検索します。

*NONE

この端末のLANマネージャー機能はローカル・アダプターによって生成された情報だけを検索します。

注: ローカル・エリア・ネットワーク・マネージャーはこの端末に関連したメッセージ、および*NONEを指定した場合にリングにアクセスするその機能をログに記録します。

上

接続NWI (NWI)

接続されている非交換フレーム・リレーNWIを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NWI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 接続された非交換フレーム・リレーNWIの名前を指定してください。

上

DLC識別コード (NWIDLCI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定されていない場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)を指定した場合には、ADPTADR(*ADPT)を指定することはできません。

*ADPT

この値はユーザーに対してこのDDIアダプター・カードの事前設定のDDI省略時アドレスを提供します。ユーザーは、正常にオンに構成変更した後この回線記述でDSPLINDを実行することによってこれを表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

DDIネットワーク中のこのシステムのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000から7FFFFFFFFFFFです。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

056から始まる8桁の16進数からなる交換IDを指定します。

上

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、バスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用する16進数論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。有効なSSAP値はAA (TCP/IPの場合)、および4で割り切れる04から9Cの値(SNAの場合)です。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SYSGEN

システムは自動的に3つのSSAP、16進数04 (SNAの場合) および16進数の06 (TCP/IPアプリケーションの場合) を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

有効なSSAP値を使用して、最大24のSSAPを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なSSAPのフレーム・サイズ値は次の通りです。

*MAXFRAME

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送信または受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。このパラメーターの有効な値の範囲は265から4444バイトですが、MAXFRAMEパラメーターの値を超えてはいけません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、次の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C（SNAの場合）
- 2の倍数の02からFE（非SNAの場合）

*SNA SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれない値でなければなりません。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれない値でなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

上

グループ・アドレス (GRPADR)

使用される分散データ・インターフェース・グループ・アドレスを指定します。グループ・アドレスはおの12桁の16進数として指定しなければなりません。有効な値の範囲は800000000000からFFFFFFFFFFEです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*NONE

グループ・アドレスは指定されません。

グループ・アドレス

使用されるグループ・アドレスを指定します。

上

トークン循環時間 (TKNRTTIME)

要求されたトークン回転時間を指定します。この値は端末がネットワークでの送信権を要求する時に使用されます。リングが使用する値は、そのリング上にあるすべての接続端末のうち最も小さい値によって決まります。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TKNRTTIME(*CALC)を指定しなければなりません。

*CALC

システムは制御装置にリンクされる回線のタイプに基づいて値を計算します。

トークン回転時間

4から167ミリ秒の範囲の値を指定します。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*MAX 16M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

4M リンク速度は4M BPSです。

*MIN 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M,および16Mです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

- 0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

- 0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管（例えば、与圧パイプ）が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

- *MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITEです。

*LAN ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

*PKTSWTNET

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話伝搬遅延が使用されます。

*SATELLITE

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

*NO 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

*YES 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

*NONE

システムは、自動的に構成された遊休制御装置記述を自動的に削除したり、オフに構成変更したりすることはありません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINDDI LIND(DDILAN1) RSRNAME(LIN011)
          TEXT('FIBER DISTRIBUTED DATA INTERFACE (FDDI) LINE')
```

このコマンドは、システム上のアダプターLIN011に設置されているFDDI回線用にDDILAN1という名前のDDI回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(イーサネット) (CRTLINETH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イーサネット回線記述の作成(CRTLINETH)コマンドはイーサネット回線の回線記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

CRTLINETHの共通エラー

共通の構成エラーを防ぐために、回線記述を構成する前に、スイッチまたはハブのポート構成を決定してください。オペレーティング・システムがネットワークと正しく通信するためには、回線記述パラメーターとポート構成が一致していなければなりません。

回線記述を構成する際には次のガイドラインを使用してください。

- スwitchまたはハブが回線速度または二重のいずれかを自動折衝する場合は、LINESPEEDおよびDUPLEXパラメーターの両方に*AUTOを指定してください。例えば、LINESPEED(100M)およびDUPLEX(*FULL)は指定しないでください。
- スwitchまたはハブが回線速度または二重のいずれかを自動折衝しない場合には、システムで対応する値を指定してください。例えば、switchが回線速度100Mおよび全二重を指定している場合には、コマンドでLINESPEED(100M)およびDUPLEX(*FULL)を指定します。

頻繁に問題が起こる1つの原因は自動折衝可能アダプターの二重の設定値とswitchまたはハブの間のミスマッチです。自動折衝の場合は、switch、ハブ、または自動折衝可能アダプターのいずれでも二重を検出できません。したがって、ユーザーにミスマッチを知らせる手段がありません。二重のミスマッチ症状には次のものがあります。

- A6E3, A6F4参照コード
- ローパフォーマンス
- TCP/IPの再送回数の多さ

一般的な参照コードは次のとおりです。

A6E3 二重ミスマッチ、ケーブルの問題、または自動折衝のタイムアウト

A6F4 リンクを確立できない、回線速度のミスマッチ、二重のミスマッチ、またはケーブルがない。

A42B スwitchまたはハブが自動折衝に関与していません。良好なリンクが確立できない可能性があります。回線記述を再構成して、switchまたはハブを一致させる必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID, *NWSD	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション
NWITYPE	NWIタイプ	*FR	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション
NWS	ネットワーク・サーバー 記述	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1:	名前	
	要素 2: ポート番号	1-2, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
ASSOCPORT	関連したポート資源名	名前, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*ETHV2, *IEEE8023, *ALL	オプション
LINESPEED	回線速度	文字値, 10M, 100M, 1G, 10G, *AUTO	オプション
DUPLEX	二重	文字値, *AUTO, *HALF, *FULL	オプション
SRVOPT	保守容易性オプション	文字値, *NONE	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	1496-8996, <u>1496</u> , 8996	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8996, *MAXFRAME, 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496, 8996	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
ACCTYPE	ATMアクセス・タイプ	*SVC, *PVC	オプション
PVCID	PVC識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	*YES, *NO	オプション
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, *NONE	オプション
LECDSCTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, <u>10</u> , *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000- FDFDFDFDFDFDF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, <u>40</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
GENTSTFRM	テスト・フレームの生成	*YES, *NO	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, *MIN, 4M, <u>10M</u> , 16M, 100M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

通信ポートを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCNAMEパラメーターで指定された値は、*NWSDから別の値に、あるいは別の値から*NWSDに変更することはできません。

*NWID

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

*NWSD

資源名は使用されるネットワーク・サーバーによって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。

2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。

- 回線の管理のために適所にタスクを配置する
- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

接続NWI (NWI)

使用するネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NWI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 使用するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

上

NWIタイプ (NWITYPE)

ネットワーク・インターフェース・タイプを指定します。

注: このパラメーターは、RSRCTYPEが*NWIでない場合には無視されます。

***FR** ネットワーク・インターフェース・タイプはフレーム・リレーです。

上

使用されるフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース・データ・リンク接続IDを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されていない場合は、NWI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)

この回線が接続されるネットワーク・サーバー名を指定します。

注: RSRCNAME(*NWS)が指定された場合には、NWSを指定する必要があります。RSRCNAME(*NWS)が指定されない場合には、NWS(*NONE)を指定する必要があります。

可能なネットワーク・サーバー記述の値は次の通りです。

*NONE

ネットワーク・サーバー記述は指定されません。

名前 使用される既存のネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・サーバー・ポートの値は次の通りです。

ネットワーク・サーバー・ポート

回線の接続先のネットワーク・サーバー・ポートを指定します。有効な値は、1,2または仮想ポート*VRTETHPTPまたは*VRTETHNで、Nは0から9です。

上

関連したポート資源名 (ASSOCPORT)

WINDOWSネットワーク・サーバーとネットワークの間の接続を確立するために使用されるポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: ASSOCPORTパラメーターが有効なのは、RSRCNAME(*NWS)が指定されている場合だけです。

*NONE

関連付けられたポート資源名は回線と関連付けられていません。

名前 資源名を指定してください。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

このイーサネット・アダプター・カードの事前設定の省略時アドレスが使用されます。

注: RSRCNAME(*NWS)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、この値は無効です。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*ADPTを指定する必要があります。

ローカル・アダプター・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のアダプター・アドレスを指定

します。指定される値はローカルに管理される個別のアドレスでなければなりません。有効な値は、*ADPTまたは16進数の020000000000からFFFFFFFFFFFFです。2桁目は2, 6, A,またはEでなければなりません。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

上

イーサネット標準 (ETHSTD)

ネットワーク上で使用されるイーサネット標準を識別します。

*ALL すべてのイーサネット標準がネットワーク上で使用されます。

*ETHV2

イーサネット・バージョン2

*IEEE8023

IEEE 802.3標準

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*AUTO

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

10M 回線速度は秒当たり1000万ビットです。

100M 回線速度は秒当たり1億ビットです。

1G 回線速度は秒当たり1ギガ・ビット(10億ビット/秒)です。

10G 回線速度は秒当たり10ギガビット(100億ビット/秒)です。

注: 値1Gと10Gは、ギガビット・イーサネットを指定します。ギガビット・イーサネットが使用可能となるのは、厳密にTCP/IPプロトコルを実行しているときだけです。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、1Gまたは10Gを指定する必要があります。

上

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは、データの送信と受信を同時に行うことができます。

注: 最適なパフォーマンスを得るためには、この設定はこの回線が接続しているスイッチまたはハブの設定と一致している必要があります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

*AUTO

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

*HALF

回線は半二重モードを使用して通信します。

*FULL

回線は全二重モードを使用して通信します。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*FULLを指定する必要があります。

上

保守容易性オプション (SRVOPT)

保守容易性オプションを指定します。このパラメーターを使用すると、保守容易性オプションが、サービス・プロバイダーの指示の下で使用されるものとして提供されるようになります。

*NONE

保守容易性オプションは提供されません。

文字値 サービス・プロバイダーによって指示された値を指定します。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

1496 最大フレーム・サイズは1496バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は1496から8996です。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された場合には、このパラメーターに有効な値は1496バイトだけです。最大フレーム・サイズが1496バイトより大きい場合には、LINESPEED(1G)またはLINSPEED(*AUTO)とDUPLEX(*FULL)またはDUPLEX(*AUTO)を使用する必要があります。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)が指定されている場合には、8996を推奨します。

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SYSGEN

システムがソース・サービス・アクセス・ポイントを判別します。

- ETHSTD(*ALL)またはETHSTD(*IEEE8023)が指定された場合には、システムがSSAP 04, 12, AA, およびC8を生成します。
- ETHSTD(*ETHV2)が指定された場合には、システムがSSAP 04および08を生成します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のサービス・アクセス・ポイントを指定します。ETHSTDが*ALLまたは*IEEE8023の場合には、TCP/IPアプリケーションではSSAPは16進数の06またはAAでなければなりません(ETHSTDが*ETHV2の場合には、06およびAAは使用できませんが、TCP/IPはまだ実行可能です)。SNAアプリケーションでは、4の倍数で04から9Cの範囲の値を指定します。例えば、7Cは有効な選択項目です。非SNAアプリケーションでは、2の倍数の02からFEの範囲の値を指定します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。

注: ETHSTD(*ETHV2)を指定した場合には、AAを指定することはできません。ただし、TCP/IPを実行することは可能です。

システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。

- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。
- LAN印刷アプリケーションでは、*NONSNAのSSAPタイプの12のSSAP値を指定します。

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。

ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)が指定されている場合には、*CALCはTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)が指定されている場合には、*CALCはSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

このSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から8996 (イーサネット標準 (ETHSTD)パラメーターで*ETHV2が指定された場合には、SNA SSAPで265から1493)です。

注: 資源名 (RSRCNAME)パラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ETHV2が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1486バイトです。RSRCNAMEパラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ALLまたは*IEEE8023が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1489バイトです。1486または1489より大きい最大フレーム・サイズが有効となるのは、TCP/IP用にAA SSAPが指定された場合だけです。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、指定されたSSAP値に基づいてSSAPタイプを判別します。

*SNA システムは通信用にIBMのシステム・ネットワーク体系を使用します。4の倍数の04から9CのSSAP値だけがサポートされます。

*NONSNA

システムはSNA通信を使用しません。2の倍数の02からFEのSSAP値だけがサポートされます。

*HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)

ATMネットワークへのアクセスのタイプを指定します。

*SVC この回線はスイッチド・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

*PVC この回線はパーマネント・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

注: ACCTYPE(*PVC)を指定する場合には、PVCIDが必要です。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

*YES LECSアドレスが使用されます。

*NO LECSアドレスは使用されません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

可能な単一値は次の通りです。

*NONE

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセレクター・バイト値は次の通りです。

セレクター・バイト

リモート・サーバーのセレクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

*NONE

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ(分数)を指定します。

10 LEクライアントは10分待機します。

*NOMAX

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

グループ・アドレス (GRPADR)

グループ・アドレスとは、そのローカル・アダプター・アドレスの他に、イーサネット回線上のノードのサブセットが応答するアドレスのことです。

*NONE

グループ・アドレスは定義されません。

グループ・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のグループ・アドレスを指定します。有効な値は16進数の010000000000からFDFFFFFFFです。指定される値の2桁目は1, 3, 5, 7, 9, B, D,またはFでなければなりません。最大12のアドレスを指定することができます。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

40 制御装置の数は40です。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべてのSNA制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさでなければなりません。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターと、その値の*OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定できますが、リリースV2R3M0で開始されるシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

上

テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)

システムが、ネットワークの使用可能性を判別するために、自動的にテスト・フレームを生成するかどうかを指定します。

***YES** システムがテスト・フレームを生成します。

***NO** システムはテスト・フレームを生成しません。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

- 4M** リンク速度は秒当たり400万ビットです。
- 16M** リンク速度は秒当たり1600万ビットです。
- 100M** リンク速度は秒当たり1億ビットです。
- *MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。
- *MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

- 0** 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

- 0** 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

***SECURECND**

安全だが、防護されない配管が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述（この回線と関連した）を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間)遊休にすることができます。

*NONE

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。値1440は24時間です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

98 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる時間間隔の値は、次の通りです。

- 5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:イーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(BOSTON) RSRNAME(LIN041)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のBOSTONという名前のイーサネット回線記述を作成します。

例2:ネットワーク・サーバー記述に接続されたイーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(ETHLIN) RSRNAME(*NWS) NWS(REMODEL 1)
```

このコマンドは、REMODELという名前のネットワーク・サーバー記述のポート1に接続されたETHLINという名前のイーサネット回線記述を作成します。

例3:ギガビット・イーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(GIGETH) RSRNAME(LIN041) LINESPEED(1G)
          DUPLEX(*FULL) MAXFRAME(8996)
```

このコマンドは、最大ギガビット・イーサネット接続構成を使用してイーサネット回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(ファクシミリ) (CRTLINFAX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成 (ファックス) (CRTLINFAX)コマンドは、ファクシミリ (ファックス) 回線の回線記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

ファクシミリ・ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

資源名は、入出力アダプター(IOA)資源名とIOA上のポート番号から構成されます。例えば、IOAの資源名がLIN01である場合には、ポート1および2の資源名は、LIN011およびLIN012となります。

ファクシミリIOAの両方のポートの資源名を指定しなければなりません。指定されたすべての回線は同じ入出力プロセッサに接続されていなければなりません。

RSRCNAME-1

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される最初の資源名を指定します。

RSRCNAME-2

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される2番目の資源名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続された非交換制御装置 (CTL)

このオブジェクトが接続される制御装置記述の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、この回線記述の前に関連した制御装置記述が作成されている場合だけです。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINFAX LIND(FAXLINE) RSRcname(LIN041 LIN042)
```

このコマンドは、資源名がLIN041およびLIN042のFAXLINEという名前のFAX回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(フレーム・リレー) (CRTLINFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述 (フレーム・リレー・ネットワーク) 作成(CRTLINFR)コマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション, 定位置 2
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, 40	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-8182, 1590	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8182, *MAXFRAME, 265, 502, 1014, 2038, 4086, 8182	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*PKTSWTNET, *NONSECURE, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*PKTSWTNET, *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

接続NWI (NWI)

非交換接続では、この回線を永続的に接続する先の、DLCIを含むフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述を指定します。ネットワーク・インターフェースにDLCIが指定されない場合には、記述を指定することはできません。ネットワーク・インターフェースにDLCIが指定された場合には、記述を指定する必要があります。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 この回線を永続的に接続する先のネットワーク・インターフェースの名前を指定してください。

上

DLC識別コード (NWIDLICI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定されていない場合は、NWIDLICI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWIDLICI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線によってサポートされる制御装置の最大数を指定します。

40 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズが異なっている場合があります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。MAXFRAMEの推奨値は次の通りです。502, 1014, 1590, 2038, 4086, および 8182バイト。

1590 最大フレーム・サイズは1590バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効な値の範囲は265から8182 です。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

(*SYSGEN値が指定されない場合) 056で始まる8桁の16進数の交換IDを指定します。

上

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。最も一般に使用されるSNA SSAPは16進数の04です。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SYSGEN

システムは自動的に3つのSSAPを作成します。すなわち、システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションの場合の16進数04、ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーション用の16進数のC8、および伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションの場合の16進数のAAを作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- TCP/IPアプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。
- SNAアプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。
- HPRアプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

*MAXFRAME

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ(送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ)を指定します。このパラメーターの有効な値は265から8182バイトです。

注: この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、次の16進数の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C (SNAの場合)
- C8 (HPRの場合)
- 2の倍数の02からFE (非SNAの場合)

*SNA SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)です。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の02からFEの16進数(02, 04, 06, など)です。

*HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

上

テキスト'記述'(TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

64000 リンク速度は64000 BPSです。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000です。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*UNDGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管（例えば、与圧パイプ）が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITEです。

*PKTSWTNET

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話伝搬遅延が使用されます。

*SATELLITE

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINFR LIND(FRLIN) NWI(NEWONE) NWIDLCI(1001)
          ONLINE(*YES)
          VRYWAIT(*NOWAIT) MAXFRAME(1600) LINKSPEED(2400)
```

このコマンドは、フレーム・リレー回線FRLINを作成します。FRLINは、DLCI番号1001を使用してNEWONEという名前のフレーム・リレーNWIに接続されています。FRLINは、初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。したがって回線は非同期的にオンに構成変更されます。この回線の最大フレーム・サイズは1600で、リンク速度は2400 ビット/秒(BPS)です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(PPP) (CRTLINPPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成 (POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)) (CRTLINPPP)コマンドは、PPP回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
CNN	接続タイプ	*SWTPP, *NONSWTPP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション, キー
FRAMING	フレーム・タイプ	*ASYNC, *SYNC	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	文字値, *RS232V24, *RS449V36, *V35, *X21, *INTMODEM	オプション
NWI	接続された非交換NWI	名前	オプション
NWICHLNBR	NWIチャンネル番号	文字値	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャンネル・タイプ	*B	
	要素 3: NWIチャンネル番号	*CALC, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30	
ONLINE	IPL時のオンライン	*NO, *YES	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
LINESPEED	回線速度	文字値, 115200	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	文字値, *UNRESTRICTED, *V110, *DOV, *ASYNCMODEM, *SYNCMODEM	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *NONE	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	文字値, 2048	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	文字値, *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SWTNWISLCT	交換NWI選択	文字値, <u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, <u>*NETATR</u>	オプション
CLOCK	刻時	<u>*MODEM</u> , *INVERT, *LOOP	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	文字値, <u>*ATCMD</u> , *V25BIS	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, <u>*NONE</u> , END	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	文字値, <u>*HARDWARE</u> , *NO	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	文字値, <u>*NOMAX</u>	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	文字値, <u>60</u>	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*YES, <u>*NO</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
ACCM	非同期制御文字マップ	16 進値, <u>00000000</u>	オプション
LCPAUT	LCP認証値	要素リスト	オプション
	要素 1: リモート対等チャレンジ・タイマー	整数, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 最大認証試行回数	1-255, <u>5</u>	
LCPCFG	LCP構成値	要素リスト	オプション
	要素 1: 構成再試行タイマー	0.1-60.0, <u>3.0</u>	
	要素 2: 最大構成障害回数	1-255, <u>5</u>	
	要素 3: 最大構成要求回数	1-255, <u>10</u>	
	要素 4: 最大終了要求回数	1-255, <u>2</u>	
COMPRESS	圧縮	文字値, <u>*STACLZS</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために, TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

接続タイプ (CNN)

使用される回線接続のタイプを指定します。

注: *NONSWTCALおよび*NONSWTANSが有効となるのは, INTERFACE(*INTMODEM),あるいはINFTRFTYPE *ASYNCMODEMまたは*SYNCMODEMの場合だけです。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*NONSWTCAL

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

*NONSWTANS

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

フレーム・タイプ (FRAMING)

回線が非同期フレームを使用するか, あるいは同期フレームを使用するかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*ASYNC

非同期フレームが使用されます。

*SYNC

同期フレームが使用されます。

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

***RS232V24**

RS232/V.24インターフェースが使用されます。

***RS449V36**

RS449/V.36インターフェースが使用されます。

***X35** X.35インターフェースが使用されます。

***X21** X.21インターフェースが使用されます。

***INTMODEM**

統合モデム・インターフェースが使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続された非交換NWI (NWI)

非交換接続の場合には、この回線を永続的に接続するチャンネルが入っているネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル番号 (NWICHLNBR)

非交換接続では、この回線記述によって使用されるネットワーク・インターフェース記述のチャンネル番号(1から30)を指定します。2、23または30のチャンネルが各ネットワーク・インターフェース記述で使用可能であり、これは、そのネットワーク・インターフェースが基本であるかまたは1次速度であるか、また、どんなタイプのネットワーク・タイプであるかによって異なりますが、チャンネルに永続的に接続できる回線記述は1つだけです。ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドを使用して、NWIDのチャンネル番号に関する情報を表示します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWISLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRCNAME(*Nwid)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

*NONE

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

*CALC

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性質に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 9600 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な値は600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000,または2048000ビット/秒です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

*UNRESTRICTED

データ・チャネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

***V110** 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャネルは56K BPSで作動します。

***DOV** DATA OVER VOICE (DOV)デジタル・データをISDN音声呼び出しによって転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER,またはTOLLMIZERとも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラー・サービ

スが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

*ASYNCMODEM

統合非同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。このオプションは、アナログ電話回線上で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するために使用してください。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

*SYNCMODEM

統合同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプションを使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*ASYNCMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)を指定した場合にかぎり有効です。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のaからz,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンパーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは, 'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

PPPフレームの情報フィールドの最大長 (埋め込みは含まれるが, プロトコル・フィールドは含まれない) を指定します。また, これは, 最大受信単位(MRU)とも呼ばれます。折衝によってPPPの実現に同意すると, MRUの他の値を使用することができます。

2048 最大フレーム・サイズは2048バイトです。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズ (バイト数) を指定します。有効な値の範囲は1500から4096バイトです。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

交換回線で, 回線を着信呼び出し, 発信呼び出し, あるいは着信および発信両方の呼び出しに使用するかどうかを指定します。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは, オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

注: RSRCTYPE(*Nwid)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*FIRST

選択は, 交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

*CALC

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは, オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1へのダイヤルアウト操作のISDN/T1割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1への呼び出しを行うために使用される接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

名前 接続リストから項目名を指定します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN/T1交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用のすべての情報（または接続）を検索するために使用される接続リストの名前を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

上

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時にループバックされます。モデム(DCE)がこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35、および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*V35、*X21、*X21BISV35、および*RS449V36です。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*ATCMD

アテンション(AT)コマンド・セット(HAYESコマンド・セットと呼ばれることもある)は、モデム・コマンドの1つのグループであり、これによって非同期で作動中にアプリケーション・プログラムがモデムを制御できます。アプリケーション・プログラムはすべてのATコマンドをそのデータ・ストリームに直接入れる必要があります。サポートされるATコマンドは使用されている特定のモデムによって異なります。

*V25BIS

逐次自動呼び出し用の国際電気通信連合-電気通信(ITU-T) (前はCCITTと呼ばれた) V.25 BIS標準を使用します。

上

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにそのモデムに送信するASCII V.25 BISコマンド・ストリングを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NONE

V.25 BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

***END** ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大40文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のaからz、数字の0から9、および次の特殊文字です。

・ ピリオド

<	小なり記号
(左括弧
+	プラス符号
&	アンパーサンド
*	アスタリスク
)	右括弧
;	セミコロン
-	マイナス符号
/	スラッシュ
,	コンマ
_	下線
>	大なり記号
?	疑問符
:	コロン
=	等号

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用する回線のローカル電話番号を指定します。このパラメーターは、CRI機能がV.25 BISに必要な時に使用されます。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムは制御装置記述のCNBRパラメーターから呼び出された（接続）番号を使用し、区切り文字(;)を追加し、呼び出し元番号を最後に連結します。モデムとネットワークの両方がCRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートする場合だけは、呼び出し元番号を指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)ダイヤル・コマンドがV.25 BIS回線で使用されます。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRI自動ダイヤル呼び出しのローカル電話番号を表す最大32文字を指定します。

上

フロー制御 (FLOWCNTL)

システムがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NO ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

*HARDWARE

ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されます。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

25 システムは、CTS状態が開始または終了するのを25秒まで待ちます。

タイマー値

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

交換回線での作業を切断するまでにシステムが待つ時間（秒数）を指定します。

*NOMAX

非活動タイマーは使用不能にされます。

タイマー値

15から65535秒の範囲の値を指定します。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出し後にDSR状態に入るモデムがエラーの信号を出すまでに、システムが待つ時間を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

60 システムは、エラーの信号を出すまでに60秒待ちます。

タイマー値

30から120秒の範囲の値を指定してください。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。デジタル電話回線では、*NOにすることを推奨します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

注:

1. 回線上のすべてのデータ通信装置は同じデータ伝送コーディング・メソッドを使用しなければなりません。
2. NRZIデータ・エンコードを使用するには、フレーム指示(FRAMINGパラメーター)は*SYNCでなければなりません。

*YES NRZIデータ・エンコードが使用されます。

*NO NRZIデータ・エンコードは使用されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

非同期制御文字マップ (ACCM)

回線のデータ通信装置により除去または導入された可能性がある伝送データに制御文字のマッピングを指定します。

注: FRAMING(*ASYNC)を指定しない限り、ACCM(00000000)を指定しなければなりません。

ホスト・システムは、このマップで指定されたすべての文字を2バイト・エスケープ・シーケンスとしてリモート・ピアに送信します。さらに、このマップで指定されたすべての文字は、リモート・ピアによって2バイト・エスケープ・シーケンスとしてホスト・システムに送信されなければなりません。このマップに指定されたエスケープ以外の文字は、ホスト・システムによって破棄されます。

重要

このパラメーターの省略時の値は、通常は変更する必要がありません。変更の影響がはっきりと分からない限りは、このパラメーターに別の値を指定しないでください。

00000000

'00'Xから'1F'X'の間のASCII制御文字はエスケープされます。

制御文字マップ

32ビットの値を8桁の16進数として指定します。この32ビットの値の各ビットは、文字をエスケ

プするかしないかを指示します。ビット値を1に設定すると、対応する文字がエスケープされます。ビットを0に設定すると、制御文字はエスケープされません。

32ビット値のビットの序数は影響を受ける文字を判別します。左端のビット（番号0）は文字'00'Xと対応します。右端のビット（番号31）は文字'1F'Xと対応します。例えば、

- ACCM(80000000)を指定すると、文字'00'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D20'Xとして送受信する必要があります。文字'01'Xから'1F'Xまではマップされません。
- ACCM(00000001)を指定すると、文字'1F'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D3F'Xとして送受信する必要があります。文字'00'Xから'1E'Xまではマップされません。
- ACCM(0000A000)を指定すると、文字'11'Xおよび'13'Xはそれぞれ、2バイトのエスケープ・シーケンス'7D31'Xおよび'7D33'Xとして送受信する必要があります。

上

LCP認証値 (LCPAUT)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアを認証する方法を制御する値を指定します。

リモート・ピア・チャレンジ・タイマー値は、定期的によりリモート・ピアに認証チャレンジを出す間隔を分けて指定します。

*NONE

PPPリンクが最初にオープンされている時のみ、リモート・ピアが1回だけ認証されます。追加の認証チャレンジは出されません。

チャレンジ間隔

リモート・ピアの認証が再検査するための間隔（分数）を指定します。

最大認証試行回数の値は、リモート・ピアに送信される無応答認証チャレンジの最大回数を指定し、その後でピアは応答できないと見なされます。

注:

1. ホスト・システムが構成再試行タイマー（パラメーターLCPCFGの要素1）によって指定された間隔内に応答を受け取らない場合には、チャレンジは無応答とみなされます。
2. この値は、ピアが認証に失敗したときにホスト・システムが応答する方法には影響を与えません。リモート・ピアからの応答が認証に失敗した場合には、ホスト・システムは常に再試行せずに通信を終了します。
5. ホスト・システムが5回の認証チャレンジを送信した後でリモート・ピアが応答しない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

通信を打ち切る前に、リモート・ピアに送信される無応答チャレンジの最大数を指定します。

上

LCP構成値 (LCPCFG)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアと相互に受け入れ可能なリンク構成値を折衝する方法を制御する値を指定します。

重要:

このパラメーターの省略時の値は通常変更する必要はありません。これを変更した場合の影響を完全に把握している場合以外は、このパラメーターに異なった値を指定しないでください。

構成再試行タイマーの値は、ホスト・システムがリモート・ピアに無応答の構成、終了、または認証チャレンジ要求を再送信するまで待機する間隔（秒数）を指定します。

3.0 無応答構成要求は3秒ごとに再送信されます。

再試行間隔

未確認の要求が再送信される時間間隔を指定してください。

最大構成障害回数値は、リモート・ピアとの間で相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定し、その後で構成が集中していないと見なされます。

5 構成が5回の試行後に収束していない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定します。

最大構成要求値は、リモート・ピアに送信される無応答構成要求の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

10 ホスト・システムがリモート・ピアに10回の構成要求を送信して応答を受信していない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

ホスト・システムが通信を終了するまでに行う最大構成試行回数を指定します。

最大打ち切り要求数値は、リモート・ピアに送信される無応答打ち切り要求パケット数の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

2 2回の終了要求を送信した後で応答が受信されない場合には、ホスト・システムは即時に通信を終了します。

最大試行回数

通信を打ち切ることをリモート・ピアに通知するために、実行される最大試行回数を指定します。

上

圧縮 (COMPRESS)

圧縮機能が提供されることを指定します。

注: このパラメーターによって圧縮プロトコルを使用可能にすることができますが、圧縮が使用されることを保証するものではありません。データ圧縮は、ローカル・システムとリモート・ピア・システム接続の両方が指定された圧縮プロトコルの使用に同意しない限り活動化されません。

*STACLZS

ホスト・システムは、STAC LZSデータ圧縮の使用を折衝することができます。

***NONE**

ホスト・システムは、POINT-TO-POINT圧縮プロトコルの折衝または使用を許可されません。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は無限の回復を指定します。

可能なその他の単一値:は次の通りです。

***SYSVAL**

システム値QCMNRCYLMTに指定された回復限界が使用されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINPPP LIND(PPP01) RSCRNAME(LIN031)
```

このコマンドは、資源名がLIN031のPPP01という名前のPPP回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

回線記述の作成(SDLC) (CRTLINS DLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述(SDLC)作成(CRTLINS DLC)コマンドは、同期データ・リンク制御(SDLC) 回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	値 (最大 6 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
ROLE	データ・リンクの役割	*NEG, *PRI, *SEC	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS232V24, *RS530V36, *V35, *X21, *X21BISV24, *X21BISV35, *RS449V36, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *MP, *SHM, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
SHMNODE	SHMノード・タイプ	*T21, *T20	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*YES, *NO	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-254, 1	オプション
CLOCK	刻時	*MODEM, *SYSTEM, *LOOP, *INVERT	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LINESPEED	回線速度	600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600 , 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL , *V54, *IBMWRAP, *IBMLPDA1, *IBMLPDA2	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH , *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES , *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO , *YES	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *NONE	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE , *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
SHMALLTMR	SHM呼び出しタイマー	1-60, *NONE	オプション
SHMAXCNN	SHM最大接続タイマー	1-254, 8 , *NOMAX	オプション
SHMANSPLY	SHM返答遅延タイマー	1-254, 11 , *NOMAX	オプション
SHMALLFMT	SHM呼び出し形式	0-15, *DNIC , *DCC	オプション
SHMACC	SHMアクセス・コード	文字値, X''	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
CNNPOLLRTY	ポーリング接続再試行	0-64, 7	オプション
CNNTMR	接続タイマー	1-32767, *NOMAX	オプション
SHORTTMR	短時間タイマー	10-600, 50	オプション
LONGTMR	長時間タイマー	100-6000, 600	オプション
SHORTRTY	短時間再試行	0-254, 7	オプション
LONGRTY	長時間再試行	0-254, 1	オプション
CPSRTY	呼び出し進行中信号再試行	値 (最大 11 回の繰り返し): *CPS41, *CPS42, *CPS43, *CPS44, *CPS45, *CPS46, *CPS47, *CPS48, *CPS49, *CPS71, *CPS72	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265, <u>521</u> , 1033, 2057	オプション
DUPLEX	二重	<u>*HALF</u> , *FULL	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>300</u> , *NOMAX	オプション
POLLRSPDLY	ポーリング応答遅延	0-2048, <u>0</u>	オプション
NPRDRCVTMR	非生産受信タイマー	160-4200, <u>320</u>	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	5-300, <u>30</u>	オプション
CNNPOLLTMR	接続ポーリング・タイマー	2-300, <u>30</u>	オプション
POLLPAUSE	ポーリング・サイクル休止	0-2048, <u>0</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, <u>7</u>	オプション
FAIRPLLTMR	フェア・ポーリング・タイマー	5-60, <u>15</u>	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	<u>*FULL</u> , *HALF	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
MODULUS	モジュラス	<u>8</u> , 128	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-28, <u>7</u>	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
LINKSPEED	リンク速度	<u>*INTERFACE</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>*CNN</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>*CNN</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	<u>*NONSECURE</u> , *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, <u>*TELEPHONE</u> , *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプションナル

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

データ・リンクの役割 (ROLE)

システムが1次端末であるか、2次端末であるか、あるいはシステムが1次および2次の役割を動的にネゴシエーションするかを指定します。

1次端末は制御端末で、2次端末は応答端末です。1次端末は、2次端末にコマンドを送信することによりデータ・リンクを制御し、2次端末はコマンドに応答します。

***NEG** この値により、このシステムとリモート・システムはどちらの端末が1次端末であるかをネゴシエーションすることができます。

*PRI このシステムがこの通信回線上の1次局となります。

*SEC このシステムがこの通信回線上の2次局となります。

上

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

*RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-232/V.24物理インターフェース

*V35 (BSCおよびSDLCのみ)

V.35物理インターフェース

*X21 (X.25およびSDLCのみ)

X.21物理インターフェース

*X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

*X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

*RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-449/V.36物理インターフェース

*INTMODEM

統合モデム・インターフェースが使用されます。

上

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*MP 非交換マルチポイント回線

*SHM X.21短期保留モード回線

*NONSWTCAL

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

*NONSWTANS

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

上

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

*NO ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

*YES ローカル・モデムにSNBU機能があります。

上

SHMノード・タイプ (SHMNODE)

X.21短期保留モード回線の場合に限り、X.21短期保留モード回線を使用する制御装置の物理装置タイプを指定します。このパラメーターは、CNN(*SHM)が指定されている場合にのみ有効です。

*T21 物理装置タイプ2.1の制御装置を指定します。データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターに*NEGも指定する必要があります。

この値は次の制御装置を使用する時に指定しなければなりません。

- APPC制御装置

*T20 物理装置タイプ2.0の制御装置を指定します。データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターに*PRIまたは*SECを指定しなければなりません。

この値は次の制御装置を使用する時に指定しなければなりません。

- ホスト制御装置
- リモート・ワークステーション制御装置
- 金融機関用制御装置

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

*NO この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

*YES この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰反転(NRZI)データ・コーディングを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

*YES NRZIデータ・コーディングが使用されます。

*NO NRZIデータ・コーディングは使用されません。

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

- 1 1つの制御装置が使用されます。次の場合には省略時の値(1)を使用します。
- 非交換POINT-TO-POINTおよび交換POINT-TO-POINTの接続タイプ
 - 二重双方向同時データ転送を使用するホスト・システムとの通信で非交換POINT-TO-POINT およびマルチポイント接続タイプ。(ホスト・システムは、LINEマクロ命令でLINE ADDRESS=(NNN,FULL)を指定することによって、そのNCP生成に二重データ転送を指定します。)
 - ROLE(*SEC)およびSHMNODE(*T20)を指定した短期保留モード回線

ROLE(*PRI)またはROLE(*NEG)を指定した短期保留モード回線は、最大64の制御装置をサポートすることができます。

制御装置の最大数

1から254の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*MODEM

回線の刻時機能はモデムによって提供されます。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCEがこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を提供することができます。

*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35、および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されません。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*V35、*X21、*X21BISV35、および*RS449V36です。

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 9600 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な値は600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000,または2048000ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (これはリモート折り返し) をサポートします。

*IBMWRAP

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

*IBMLPDA1

リンク問題判別援助機能-1 (LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

*IBMLPDA2

リンク問題判別援助機能-2 (LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換 (非同期, BSC, SDLC, またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ (非同期, BSC,またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期，BSC，SDLC，またはX.25回線）の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか，あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注：*YESは，モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*YES 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

*NO 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか，あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*NO 回線接続は，X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

*YES 回線接続は，X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注：有効であるのは，INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のaからz,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロン
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符

単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは, 'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

上

SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)

指定された間隔でSHM再接続が行なわれない場合には、リモート・システムの状態を検査するために、X.21短期保留モード(SHM)回線で接続が再確立される間隔を指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*NONE

接続を検査するための呼び出しは行われません。

短期保留モード呼び出しタイマー

接続を検査するための呼び出しを行う1から60分の間隔を指定します。

上

SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)

使用可能なポートより制御装置の方が多い場合にシステムが接続の存続を許す時間の長さを指定します。システムは指定時間の経過後に接続を解消し、**SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)**パラメーターで指定された時間だけその後の呼び出しを遅らせて、中断されていた制御装置を再呼び出しする前に、待機している呼び出しを行います。

注: このパラメーターが有効なのは、**データ・リンクの役割 (ROLE)**パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および**接続タイプ (CNN)**パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

8 システムは、他の制御装置を検査する前に8秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

最大接続タイムアウト

1から254秒の範囲の値を指定します。

上

SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)

システムが発信呼び出しを行う前に、制御装置の呼び出しを待機する時間の長さを指定します。SHM応答遅延タイマーは次の1つが真になった時に開始されます。

- SHM最大接続タイマー(SHMMAXCNNパラメーター)で指定された時間が満了した。
- 着信呼び出しを受け取る間もなく、SHMMAXCNNパラメーターの値の2倍に等しい時間が経過した。

注: このパラメーターが有効なのは、**データ・リンクの役割 (ROLE)**パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および**接続タイプ (CNN)**パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

11 システムは、発信呼び出しを行う前に1.1秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

ANS遅延タイムアウト

1秒の10分の1から254秒の範囲の値を指定します。例えば、10秒は10分の100秒と等しくなります。

上

SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)

X.21短期保留モードの回線呼び出し番号の形式を指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*DNIC

データ・ネットワークID (DNIC)が使用されます。

*DCC データ国別コード(DCC)が使用されます。

呼び出し形式

SHM呼び出し元番号の市外局番または国別または地域コードの長さです。0から15の範囲の値を指定します。

SHMアクセス・コード (SHMACC)

X.21短期保留モード回線のアクセス・コードを指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された（接続）番号 (CNNNBRパラメーター) を選択し、区切り文字(;)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

端末アドレス (STNADR)

交換2次または折衝可能な回線の場合に、リモート・システムが呼び出しに応答する場合、これがリモート・システムによってポーリングされた時、ローカル・システムが応答する宛先の16進数の端末アドレスを指定します。

端末アドレス

01からFEの16進数値を指定してください。

ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)

交換1次回線または折衝可能な回線の場合には、エラーを指示して端末を作動不良にする前に、ポーリング接続の再試行を行う回数を指定します。

ポーリング接続再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

上

接続タイマー (CNNTMR)

X.21回線交換インターフェースの場合に、自動応答接続要求が着信呼び出しの受け入れを待機する時間の長さを指定します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

接続タイマー

1から32767の値を0.1秒間隔で指定します。

上

短時間タイマー (SHORTTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト時に使用される短時間タイマーを指定します。システムは次の接続試行までこのタイムアウト時間の間待機します。

1. SHORTTMRパラメーターを使用するのは、X.21回線交換または短期保留モード回線の場合だけです。
2. この省略時の値は、呼び出し再試行回数および呼び出し遅延に関してほとんどの国または地域の要件を満たしています。この省略時の値がユーザーの国または地域の要件を満たしていない場合には、この値はその国または地域の要件に従って構成する必要があります。この値を変更する前に、新規の値がユーザーの国または地域の要件に従っていることを確認してください。

ユーザーの国または地域の要件が不明な場合には、IBMの貴社担当者またはIBM代理店がこの情報を提供することができます。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試行呼び出しの試みには再試行の「バースト」による特徴があります。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

50 システムは5秒間待機します。

短時間タイマー

10から600の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

上

長時間タイマー (LONGTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト間で使用される長時間タイマーを指定します。再試行のバーストの後で、システムは次の試行までこのタイムアウト期間の間待機します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

600 システムは60秒間待機します。

長時間タイマー

100から6000の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

上

短時間再試行 (SHORTRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行のバースト時に行なわれる再試行の回数を指定します。

短時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

上

長時間再試行 (LONGRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、接続要求の処理時のバースト再試行の試行回数を指定します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

1 1回の再試行が試みられます。

長時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

上

呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)

X.21回線交換インターフェースまたはX.21短期保留モード回線でどの呼び出し進行中信号が再試行されるかを指定します。最大11個の値を指定することができます。重複した値は無視されます。

有効な値は、*CPS41, *CPS42, *CPS43, *CPS44, *CPS45, *CPS46, *CPS47, *CPS48, *CPS49, *CPS71, および*CPS72です。

このパラメーターを指定できるのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMまたは*SWTPPが指定され、**物理インターフェース (INTERFACE)**パラメーターで*X21が指定されている場合だけです。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

フレーム・サイズ

標準フレーム・サイズは次の通りです。

- 265 (すべての回線タイプ)
- 521 (すべての回線タイプ)
- 1033 (すべての回線タイプ)
- 1994 (トークンリングのみ)
- 2057 (SDLCまたはトークンリング)
- 4105 (TDLCまたはトークンリング)
- 4060 (トークンリングのみ)
- 8156 (トークンリングのみ)
- 16393 (トークンリングのみ)

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン (全二重モデムの場合) であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる (半二重モデムの場合) かどうかを指定します。

*HALF

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

*FULL

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

2次または折衝可能回線の場合に、エラーを報告して回線を切断する前に、システムが有効なフレームの流れのを待機する時間(1/10秒単位)を指定します。このタイマーは、接続時に開始されてフレームが送られた時に再始動され、その後で有効なフレーム検査文字列をもつフレームが受け取られた時にリセットされます。

300 システムは有効なフレームに対して30秒(10分の300秒) 待機します。

非活動タイマー

150から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)

2次回線または折衝可能回線の場合で、送信するフレームがない時にシステムがデータ・ポーリングに応答する前に、待機しなければならない最小時間を指定します。

ポーリング応答遅延

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは遅延なしを示す0を指定します。

非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、2次端末が連続して送信している時に、システムが最終フレームまたはアイドル信号のいずれかを待つ時間を指定します。このタイマーが満了した場合には、非生産受信条件が報告されます。

非生産受信タイマー

160から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

アイドル・タイマー (IDLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合には、アイドル信号用の回線のサンプリングの前にシステムが待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。アイドル信号が検出された時に、エラー回復手順が開始されます。

遊休タイマー

5から300の値を0.1秒間隔で指定します。

接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリングを再送信する前に、システムが接続ポーリングへの応答を待つ時間を指定します。

接続ポーリング・タイマー

2から300の値を0.1秒間隔で指定します。

ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリング・リスト中の最後のリモート・システムがポーリングされた後で、システムが休止する時間を指定します。

ポーリング・サイクル休止

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは休止なしを示す0を指定します。

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)

マルチポイント回線の場合に、システムがデータ転送要求を保留しないで端末のポーリングを再開する前に待機する秒数を指定します。

公平ポーリング・タイマー

5から60の値を1秒間隔で指定します。

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

名前 接続する1つ以上の非交換制御装置の名前を指定してください。最大254の制御装置名を指定できます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

*MAX エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。

128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

上

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システムが応答を返す前にリモート・システムに送ることのできるフレームの最大数を指定します。モジュラス8の場合には、フレームの最大数は1から7まででなければなりません。モジュラス128の場合には、8から28まででなければなりません。

最大未処理フレーム数

未処理フレーム数に対して1から28の値を指定します。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)

リンク速度は物理インターフェースのタイプが基になっています。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、X.21およびRS-449V.36では64000 BPSです。

*MIN 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

*MAX 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効なリンク速度は次の通りです。すなわち、1200、2400、4800、7200、

9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10Mおよび16Mビット/秒です。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINSDLC LIND(BOSTON) RSRNAME(LIN041)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のBOSTONという名前のSDLC回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(TDLC) (CRTLINTDLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TDLC回線記述の作成(CRTLINTDLC)コマンドにより、平衡型データ・リンク制御回線の回線記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
WSC	接続したワークステーション制御機構	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト・記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

接続したワークステーション制御機構 (WSC)

5150装置および他の表示装置が接続されているワークステーション制御機構の名前を指定します。

名前 ワークステーション制御装置を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。このネットワーク制御装置は、TCP/IP OVER接続を実行するために使用されます。

上

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

名前 最大56までのAPPC制御装置名を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:TDLC回線記述の作成

```
CRTLINTDLC LIND(WSFLINE) WSC(CTL01)
```

このコマンドは、ワークステーション制御装置CTL01に接続されているWSFLINEという名前のTDLC回線記述を作成します。

2:ネットワーク制御装置と関連したTDLC回線記述の作成

```
CRTLINTDLC LIND(NETLINE) WSC(CTL01) NETCTL(NETC01)
```

このコマンドは、ワークステーション制御装置CTL01に接続されているNETLINEという名前のTDLC回線記述を作成します。NETC01は、TCP/IP OVER接続で実行するためにネットワーク制御装置として使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(トークンリング) (CRTLINTRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トークンリング・ネットワーク回線記述の作成(CRTLINTRN)コマンドにより、トークンリング・ネットワークの回線記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID, *NWSD	必須, キー, 定位置 2
NWITYPE	NWIタイプ	<u>*FR</u>	オプション, キー
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, <u>*NOWAIT</u>	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, 40	オプション
NWI	接続NWI	名前, <u>*NONE</u>	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, <u>*NONE</u>	オプション
NWS	ネットワーク・サーバー 記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1:	名前	
	要素 2: ポート番号	1-3, *INTERNAL	
LINESPEED	回線速度	4M, 16M , 100M, *AUTO, *NWI	オプション
DUPLEX	二重	文字値, <u>*HALF</u> , *FULL, *AUTO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 265, 521, 1033, 1466, 1556, 1600, 1994, 4060, 8156, 16393	オプション
LECFRAME	LECフレーム・サイズ	1516, 4544 , 9234, 18190	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, <u>*ADPT</u>	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, <u>*SYSGEN</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-16393, *MAXFRAME , 265, 521, 1033, 1466, 1994, 4060, 8156, 16393	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC , *NONSNA , *SNA , *HPR	
ACCTYPE	ATMアクセス・タイプ	*SVC , *PVC	オプション
PVCID	PVC識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	*YES , *NO	オプション
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セレクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, *NONE	オプション
LECDSTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, 10 , *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト・記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
ACTLANMGR	LAN管理機能の活動化	*YES , *NO	オプション
TRNLOGLVL	TRLAN管理機能ロギング・レベル	*OFF , *MIN , *MED , *MAX	オプション
TRNMGRMODE	TRLAN管理機能モード	*OBSERVING , *CONTROLLING	オプション
LOGCFGCHG	構成変更ログ	*LOG , *NOLOG	オプション
TRNINFCN	ピーコンのトークンリング通知	*YES , *NO	オプション
FCNADR	機能分野アドレス	単一値: *NONE その他の値 (最大 31 回の繰り返し): C00000000001, C00000000002, C00000000004, C00000000008, C00000000010, C00000000020, C00000000040, C00000000080, C00000000100, C00000000200, C00000000400, C00000000800, C00000001000, C00000002000, C00000004000, C00000008000, C00000010000, C00000020000, C00000040000, C00000080000, C00000100000, C00000200000, C00000400000, C00000800000, C000001000000, C00002000000, C00004000000, C00008000000, C00010000000, C00020000000, C00040000000	オプション
ELYTKNRLS	トークン早期解放	*YES , *NO , *LINESPEED	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, 4M, 10M, <u>16M</u> , 100M, *MIN, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コストバイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCTYPEパラメーターで指定された値は、*NWSDから別の値に、あるいは別の値から*NWSDに変更することはできません。

***NWID**

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

***NWSD**

資源名は使用されるネットワーク・サーバー記述によって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

NWIタイプ (NWITYPE)

ネットワーク・インターフェース・タイプを指定します。

注: このパラメーターは、RSRCTYPEが*NWIDでない場合には無視されます。

***FR** ネットワーク・インターフェース・タイプはフレーム・リレーです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

上

接続NWI (NWI)

使用するネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NWI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 使用するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

上

DLC識別コード (NWI DLCI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されていない場合は、NWI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)

この回線が接続されるネットワーク・サーバー名を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWS)が指定された場合には、NWSパラメーターも指定する必要があります。

ネットワーク・サーバー記述がTYPE(*AIX)のタイプのものである場合には、ネットワーク・サーバー・ポートに指定できるのは*INTERNALだけであり、その回線はトークンリング回線でなければなりません。

可能なネットワーク・サーバー記述の値は次の通りです。

*NONE

ネットワーク・サーバー記述は指定されません。

名前 使用される既存のネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・サーバー・ポートの値は次の通りです。

*INTERNAL

回線の接続先の内部ネットワーク・サーバー・ポート。各ネットワーク・サーバーに構成される内部ネットワーク・サーバー・ポートは1つだけです。

ネットワーク・サーバー・ポート

回線の接続先のネットワーク・サーバー・ポートを指定します。有効な値は1および2です。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

注: RSRCTYPE(*NWS)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、このパラメーターに*NWIを指定しなければなりません。

4M 回線速度は4M BPSです。

16M 回線速度は16M BPSです。

100M 回線速度は100M BPSです。

*AUTO

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

***NWI** 使用される回線速度はネットワーク・インターフェース用です。

注: LINESPEED(*NWI)が有効となるのは、RSRCTYPE(*NWS)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合だけです。

二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは*AUTOの場合には、このパラメーターは*AUTOに設定されます。

166 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは、データの送信と受信を同時に行うことができます。

*HALF

回線は半二重モードを使用して通信します。

*FULL

回線は全二重モードを使用して通信します。

*AUTO

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

注: 二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは*AUTOの場合には、このパラメーターは*AUTOに設定されます。

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合は、省略時の値1556バイトが使用されます。RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*ATM)が指定されている場合は、省略時の値4060が使用されます。その他の場合は、省略時の値4105バイトが使用されます。

注

1. トークンリング・アダプターが4M LINESPEEDだけしかサポートしない場合には、4472の値またはそれより小さい値を指定することができます。
2. RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から8148バイトです。MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための44バイトを差し引く必要があります。
3. RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*ATM)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から16393バイトです。MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための20バイトを差し引く必要があります。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。ネットワーク・インターフェースがフレーム・リレーの時には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は265 から8148バイトです。そうでない場合には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) は265から16393バイトの範囲です。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディファイケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECフレーム・サイズ (LECFRAME)

この回線記述で送信および受信することができるLANエミュレーション・クライアント(LEC)フレーム・サイズを指定します。

注: MAXFRAMEは、常にこのフィールドより20は少なくなければなりません。

4544 LECフレーム・サイズは4544バイトです。

1516 LECフレーム・サイズは1516バイトです。

9234 LECフレーム・サイズは9234バイトです。

18190 LECフレーム・サイズは18190バイトです。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

ローカル・システムのトークンリング・アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

この値はユーザーに対してこのトークンリング・アダプター・カードの事前設定のトークンリング・アドレスを提供します。このアドレスは、正常にオンに構成変更した後この回線記述で回線記述表示(DSPLIND)コマンドを実行することによって表示することができます。

注: RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合、あるいはRSRCNAME(*NWSD)が指定された場合には、この値は有効となりません。

ローカル・アダプター・アドレス

トークンリング・ネットワーク中のこのシステムを記述するためのユーザー選択のアダプター・アドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000 から7FFFFFFFです。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

上

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SYSGEN

システムはソース・サービス・アクセス・ポイント04, 12, AAまたはC8を生成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。
- システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。
- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムは、SSAP最大フレーム・サイズについてこのコマンドのMAXFRAMEパラメーターに指定された値を使用します。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ(送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ)を指定します。RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から8148バイトです。その他の場合は、このパラメーターの有効な値の範囲は265から16393バイトです。

注: この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

***SNA** 使用されるSSAPがSNA通信に使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の16進数の04から9C(04, 08, 0Cなど)です。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の16進数の02からFE(02, 04, 06など)です。

***HPR** SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)

ATMネットワークへのアクセスのタイプを指定します。

- *SVC この回線はスイッチド・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。
- *PVC この回線はパーマネント・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

注: ACCTYPE(*PVC)を指定する場合には、PVCIDが必要です。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

- *YES LECSアドレスが使用されます。
- *NO LECSアドレスは使用されません。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

可能な単一値は次の通りです。

*NONE

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセクター・バイト値は次の通りです。

セクター・バイト

リモート・サーバーのセクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

*NONE

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ(分数)を指定します。

10 LEクライアントは10分待機します。

***NOMAX**

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

上

LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)

この回線用にローカル・エリア・ネットワーク(LAN)マネージャーが活動化されるかどうかを指定します。

注:

1. RSRCNAME(*NWID)が指定されている時には、ACTLANMGR(*YES)を指定しなければなりません。
2. ACTLANMGR(*NO)では、TRNLOGLVL, TRNMGRMODE, LOGCFGCHG,およびTRNINFBCNの値は無視されます。

***YES** LANマネージャー・サポートがこの回線で活動化されます。

***NO** LANマネージャー・サポートはこの回線で活動化されません。

上

TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)

TRLAN管理プログラムによって使用されるエラー・ログ・レベルを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TRNLOGLVL(*OFF)を指定しなければなりません。

***OFF** 指定された回線でのエラーの報告はすべて停止されます。

***MIN** 性能低下を示す条件だけを報告する最小報告レベルが使用されます。

***MED** 最小報告レベルに加えて、潜在的な性能低下を示す条件を報告する中間報告レベルが使用されま
す。

***MAX** *MINおよび*MED報告レベルについて報告される情報を含む、すべてのエラー条件を報告する最大
報告レベルが使用されます。

上

TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)

この回線でどちらのモードのネットワーク管理機能を活動状態にするかを指定します。制御管理機能は、端
末の除去および経路テストの実行など、監視管理機能では実行できない機能を実行することができます。

ただし、活動状態にできる制御管理機能は任意の1つのリングで1つだけです。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TRNMGRMODE(*OBSERVING)を指定しなければなりません。

***OBSERVING**

この回線のマネージャーは、監視のネットワーク・マネージャーとして機能します。

***CONTROLLING**

この回線のマネージャーは、制御のネットワーク・マネージャーとして機能します。

上

構成変更ログ (LOGCFGCHG)

この回線のネットワーク管理機能が最も近い活動アップストリーム隣接(NAUN)に起こる変更を記録するか
どうかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、LOGCFGCHG(*LOG)を指定しなければなりません。

***LOG** 回線マネージャーは変更をログに記録します。

***NOLOG**

回線マネージャーは変更をログに記録しません。

上

ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)

ビーコン条件が起こった時にこの回線のネットワーク管理機能がメッセージをQSYSOPRメッセージ待ち行
列に送るかどうかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)を指定した場合には、TRNINFBCN(*YES)を指定する必要があります。

***YES** ビーコン状態が起こった場合には、この回線のマネージャーがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメ
ッセージを送信します。

***NO** ビーコン状態が起こった場合に、この回線のマネージャーはQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッ
セージを送信しませんが、代わりに、QHSTログに項目をログに記録します。

機能分野アドレス (FCNADR)

トークンリング機能分野アドレスが使用されるかどうかを指定します。

*NONE

機能アドレスは使用されません。

機能アドレス

ビット有効値の形式でエンコードされる16進数の機能アドレスのグループを指定します。有効な値の範囲は16進数のC00000000001からC00040000000です。最初の桁はCでなければなりません。機能アドレスは固有なものでなければなりません。

活動状態のモニター

C00000000001

リング・パラメーター・サーバー

C00000000002

ネットワーク・サーバー・ハートビート

C00000000004

リング・エラー・モニター

C00000000008

構成報告書サーバー

C00000000010

同期帯域幅マネージャー

C00000000020

位置指定ディレクトリー・サーバー

C00000000040

NETBIOS

C00000000080

ブリッジ

C00000000100

IMPLサーバー

C00000000200

リング許可サーバー

C00000000400

LANゲートウェイ

C00000000800

リング集線接続

C00000001000

LANマネージャー

C00000002000

ユーザー定義

C00000004000からC00040000000

トークン早期解放 (ELYTKNRLS)

この回線でトークン早期解放オプションを使用するかどうかを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)を指定した場合には、ELYTKNRLS(*LINESPEED)を指定しなければなりません。

*LINESPEED

早期トークン解放オプションを使用するか否かについては、この回線のLINESPEED パラメーターが選択します。

***YES** この回線は早期トークン解放オプションを選択します。

***NO** この回線は早期トークン解放オプションを選択しません。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターと、その値の*OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定できますが、リリースV2R3M0で開始されるシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

4M リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述（この回線と関連した）を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間)遊休にすることができます。

***NONE**

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。 値1440は24時間です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: トークンリング回線記述の作成

```
CRTLINTRN  LIND(TRLAN1)  RSRNAME(LIN011)
            TEXT('TOKEN-RING LINE')
```

このコマンドは、資源名がLIN011で、交換ID 05612345のトークンリング回線(TRLAN1)を作成します。

例2: トークンリング回線記述の作成

```
CRTLINTRN  LIND(TRNLIN)  RSRNAME(*NWS)  NWS(REMODEL 2)
```

このコマンドは、REMODELという名前のネットワーク・サーバー記述のポート2に接続されたTRNLINという名前のトークンリング回線記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成（無線）(CRTLINWLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成（無線）(CRTLINWLS)コマンドは、無線ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)回線の回線記述を作成します。

注: 拡張無線回線構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定されたソース・ファイルおよびメンバーに入っています。この回線をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ) およびINZFILE(QEWLSRC)を使用し、INZMBRパラメーターに構成初期設定データが入っているソース・メンバーを指定することをお勧めします。拡張無線回線構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, <u>*NOWAIT</u>	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	020000000000-FEFFFFFFFFF, <u>*ADPT</u>	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, <u>*SYSGEN</u>	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*ETHV2, *IEEE8023, <u>*ALL</u>	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: <u>*SYSGEN</u> その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-1496, <u>*MAXFRAME</u> , 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496	
	要素 3: SSAPタイプ	<u>*CALC</u> , *NONSNA, *SNA	
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, <u>*NONE</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, * <u>NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000- FDFDFDFDFDF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, <u>40</u>	オプション
LINKSPEED	リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, <u>280000</u> , 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	* <u>NONSECURE</u> , * <u>ENCRYPTED</u>	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	* <u>LAN</u> , *MIN, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, * <u>NO</u>	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。例えば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1の場合には、その資源名はLIN011となります。

注: 資源名の判別に役立てるためには、TYPEパラメーターに*CMNを指定してハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用することができます。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

事前設定の無線アダプター・アドレスがローカル・アダプター・アドレスとして使用されます。アダプター・アドレスは、正常にオンに構成変更した後に回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

ローカル無線アダプター・アドレスを指定して、事前設定のローカル・アドレスを上書きします。ローカル・アダプター・アドレスは個別アドレスでなければなりません（これはグループ・アドレスとすることはできません）。有効な値の範囲は020000000000からFFFFFFFFの16進数形式です。このアドレスの2桁目（左から）は2, 6, A,またはEでなければなりません。

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

イーサネット標準 (ETHSTD)

この回線で使用されるETHERNET標準フレーム・タイプを指定します。

***ALL** すべてのETHERNET標準を使用することができます。ただし、システム・ネットワーク体系(SNA)データはIEEE 802.3フレームに入れられます。

*ETHV2

ETHERNETバージョン2のフレームがすべてのデータで使用されます。

*IEEE8023

IEEE 802.3のフレームがすべてのデータで使用されます。

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ETHERNETバスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用される16進数の論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。

注: ETHERNETバージョン2 (ETHSTDパラメーターに*ETHV2として指定されている) では、06およびAAのSSAPの値を使用することはできません。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SYSGEN

ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)の場合には、オペレーティング・システムは3つのSSAPを作成します。すなわち、SNAアプリケーションにSSAP 04、TCP/IPアプリケーションにAAおよび06です。ETHSTD(*ETHV2)では、システムはSNA用の16進数の04を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

最大24のSSAPを指定し(TCP/IPの場合の16進数AAおよび06も含む) , SNAアプリケーションでは4で割りきれられる16進数の04から9Cです。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

*MAXFRAME

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)を指定した場合には、*CALCがTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)を指定した場合には、*CALCがSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

それぞれのSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。最大フレーム・サイズの有効な値の範囲は265から1496です。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムが使用する値を判別します。

*SNA SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれられる値でなければなりません。

*NONSNA

SNA通信以外の通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれられる値でなければなりません。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***NONE**

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この回線記述をオンに構成変更する前に、ソース・ファイル名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成の初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***NONE**

ソース・ファイル・メンバー名は指定されません。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。この回線記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値のこの結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

***NONE**

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラム名は次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この回線記述が作成される時にそれが呼び出されます。ソース・ファイルの名前および構成初期設定データを含むメンバーがパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。このパラメーターは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)ネットワークに接続される回線に指定することができます。

上

グループ・アドレス (GRPADR)

アダプターを無線グループ・アドレスの一部として組み込むかどうかを指定します。このアドレスは、同じグループ・アドレスの無線ネットワーク上のすべてのアダプターを識別するために使用されます。

*NONE

グループ・アドレスは使用されません。

グループ・アドレス

ローカル・アダプターを追加する宛先のアダプター・グループのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数形式の010000000000からFDFFFFFFFです。2桁目(左から)は奇数でなければなりません。すべてのグループ・アドレスは固有としなければなりません。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

この回線でサポートされるSNA制御装置の最大数を指定します。

40 制御装置は最大40までが回線によってサポートされます。

制御装置の最大数

回線でサポートされる制御装置の最大数を指定します。この数字は、この回線に対して現在接続

されているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。有効な値の範囲は1から256です。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

280000 280000 BPSのリンク速度が使用されます。

4M 400万BPSのリンク速度が使用されます。

***MIN** 4M以下のリンク速度が使用されます。

***MAX** 4M以上のリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, および4Mです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

回線の機密保護レベルを指定します。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターが有効なのは、システムで拡張対等通信ネットワーク (APPN) が使用される場合だけです。

*LAN ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

***NO** 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

*NONE

システムは、自動構成した遊休制御装置記述を自動的に削除またはオンに構成変更しません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

可能な単一値の値は次の通りです。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINWLS  LIND(MYLINE)  RSRcname(LIN041)
            INZFILE(*NONE) INZMBR(*NONE)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のMYLINEという名前の無線回線記述を作成します。構成初期設定データのソース・ファイル名およびメンバー名は未指定のまま、後で変更できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

回線記述の作成(X.25) (CRTLINX25)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

X.25回線記述の作成(CRTLINX25) コマンドは、X.25回線に対する回線記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
LGLCHLE	論理チャンネル項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 論理チャンネル識別コード	文字値	
	要素 2: 論理チャンネルのタイプ	*PVC, *SVCIN, *SVCBOTH, *SVCOUT	
	要素 3: PVC制御装置	名前	
NETADR	ローカル・ネットワーク・アドレス	文字値	必須, 定位置 4
CNNINIT	接続開始	*LOCAL, *REMOTE, *WAIT, *CALLER	必須, 定位置 5
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	<u>*X21BISV24</u> , *X21BISV35, *RS232V24, *RS449V36, *X21, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	<u>*NONSWTTP</u> , *SWTTP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
NWI	接続された非交換NWI	名前	オプション
NWICHLTYPE	NWIチャンネル・タイプ	<u>*B</u>	オプション
NWICHLNBR	NWIチャンネル番号	1-30	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャンネル・タイプ	<u>*B</u>	
	要素 3: NWIチャンネル番号	1-30, *CALC	
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, <u>*NOWAIT</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LINESPEED	回線速度	*CALC, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600 , 12000, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 576000, 640000, 704000, 768000, 832000, 896000, 960000, 1024000, 1088000, 1152000, 1216000, 1280000, 1344000, 1408000, 1472000, 1536000, 1600000, 1664000, 1728000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, *SYSGEN	オプション
PKTMODE	パケット・モード	*YES, *NO	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	*UNRESTRICTED , *V110, *DOV, *SYNCMODEM	オプション
EXNNETADR	拡張ネットワーク・アドレス指定	*YES, *NO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	1024 , 2048, 4096	オプション
DFTPFSIZE	省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	64, 128 , 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*TRANSMIT , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MAXPKFSIZE	最大パケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*DFTPFSIZE , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*DFTPFSIZE , *TRANSMIT , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MODULUS	モジュラス	8 , 128	オプション
DFTWDWSIZE	省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, 2	
	要素 2: 受信値	1-15, *TRANSMIT	
ADRINSERT	パケットへネットワーク・アドレスの挿入	*YES , *NO	オプション
NETUSRID	ネットワーク・ユーザー識別コード	文字値	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH , *ANS, *DIAL	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUE	接続リスト項目	名前	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, *NETATR	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES , *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO , *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE , *V25BIS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CALLIMMED	即時呼び出し	<u>*NO</u> , *YES	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SWTDSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, <u>170</u>	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>0</u>	
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	1-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
CLOCK	刻時	<u>*MODEM</u> , *LOOP, *INVERT	オプション
SWTNWISLCT	交換NWI選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
X25DCE	X.25 DCEサポート	<u>*NO</u> , *YES, *NEG	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	3-600, <u>40</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, <u>7</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	<u>*NORMAL</u> , *V54, *IBMWRAP	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	<u>*FULL</u> , *HALF	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
LINKSPEED	リンク速度	<u>*INTERFACE</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>128</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>128</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

上

論理チャネル項目 (LGLCHLE)

X.25回線記述作成(CRTLINX25)またはX.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用する時に、論理チャネル・テーブルで最大256個までの項目が追加、除去、または変更されることを指定します。チャネル項目は、チャネルID、論理チャネルのタイプ、およびPVC制御装置から成っています。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なチャネルIDの値は次の通りです。

*PROMPT

*PROMPTを指定すると、現行の論理チャネル項目の処理に使用できる対話式表示が示されます。

チャネルID

論理チャネル識別子用に001からFFFの範囲の3文字の16進数を指定します。最初の桁（左から右へ）は論理チャネル・グループ番号です。2番目と3番目の桁は論理チャネル番号を構成します。論理チャネル識別子を指定します。有効な値の範囲は16進数の001からFFFです。

可能なチャネル・タイプ値は次の通りです。

*PVC 論理チャネルはパーマネント・バーチャル・サーキットです。

*SVCIN

論理チャネルは着信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCBOTH

論理チャネルは着信と発信の両方の呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCOUT

論理チャネルは発信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

PVC制御装置

論理チャネルに割り当てるPVC制御装置の名前を指定してください。このフィールドが有効となるのは、チャネル・タイプに対して*PVCが指定された場合だけです。

上

ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)

このシステムのローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。EXNNETADRパラメーターに*YESを指定した場合には、最大17桁までを指定することができます。そうでない場合には、最大15桁までを指定することができます。

ローカル・ネットワーク・アドレス

ローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。

上

接続開始 (CNNINIT)

X.25データ・リンク接続の確立のために使用される方法を指定します。

*LOCAL

ローカル・システムは、接続を確立するために非同期平衡モード設定(SABM)通信コマンドを出して接続を開始します。

*REMOTE

リモート・システムはSABM通信コマンドを出して接続を開始します。ローカル・システムは接続が確立されるのを待機します。

*WAIT

ローカル・システムは、リンクの活動化を試みる前に、DCEからの切断(DISC) または切断モード(DM)を待機します。

*CALLER

接続は、呼び出しの方向に基づいてローカル・システムまたはリモート・システムのいずれかから開始されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

*X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

*X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

*X21 (X.25およびSDLCのみ)

X.21物理インターフェース

*RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-232/V.24物理インターフェース

*RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-449/V.36物理インターフェース

*INTMODEM

統合モデム・インターフェースが使用されます。

上

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

注: *NONSWTCALおよび*NONSWTANSが有効となるのは、INTERFACE(*INTMODEM),またはINFTRFTYPE *SYNCMODEMの場合だけです。

***NONSWTTP**

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***SWTTP**

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***NONSWTCAL**

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

***NONSWTANS**

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続された非交換NWI (NWI)

非交換接続の場合には、この回線を永続的に接続するチャンネルが入っているネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRNAME(*Nwid)およびCNNが*SWTTPでない場合にのみ有効です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル・タイプ (NWICHLTYPE)

非交換接続の場合に、この回線記述が使用するサービス総合デジタル網(ISDN) チャンネルのタイプを指定します。このパラメーターは、**接続された非交換NWI (NWI)**パラメーターで指定されたネットワーク・インターフェース記述のISDN Bチャンネル(データ伝送チャンネル)を使用するように事前設定されています。

***B** Bチャンネルが使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル番号 (NWIHLNBR)

非交換接続では、この回線記述によって使用されるネットワーク・インターフェース記述のチャンネル番号(1から30)を指定します。2, 23または30のチャンネルが各ネットワーク・インターフェース記述で使用可能であり、これは、そのネットワーク・インターフェースが基本であるかまたは1次速度であるか、また、どんなタイプのネットワーク・タイプであるかによって異なりますが、チャンネルに永続的に接続できる回線記述は1つだけです。ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドを使用して、NWIDのチャンネル番号に関する情報を表示します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

*NONE

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

*CALC

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 回線速度は9600 BPSです。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

回線速度

回線速度に次の値(BPSで)の1つを指定します。

600	57600	576000	1152000	1728000
1200	64000	640000	1216000	1792000
2400	128000	704000	1280000	1856000
4800	192000	768000	1344000	1920000
7200	256000	832000	1408000	1984000
14400	320000	896000	1472000	2048000
19200	384000	960000	1536000	
48000	448000	1024000	1600000	
56000	512000	1088000	1664000	

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示 (DSPLIND) コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

パケット・モード (PKTMODE)

ISDNまたはT1仮想回線サービスをアクセスするかどうかを指定します。

*NO ISDN/T1ネットワークを使用して、ISDN/T1に対しては外部のX.25パケット交換網への透過アクセスを提供します (ケースA)。

*YES ISDN/T1バーチャル・サーキットサービスをアクセスします (ケースB)。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRCTYPE(*Nwid)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

*UNRESTRICTED

データ・チャネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

*V110 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャネルは56K BPSで作動します。

*DOV DATA OVER VOICE (DOV) デジタル・データをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER, またはTOLLMIZERとも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラ・サービスが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

*SYNCMODEM

統合非同期モデムからのデータをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプションを使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

上

拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)

アドレス名で17桁使用できるように、ネットワークのアドレッシングを拡張するかどうかを指定します。

***NO** ネットワーク・アドレスは最大15文字とすることができます。

***YES** ネットワーク・アドレスは最大17文字とすることができます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

1024 省略時のフレーム・サイズは1024です。

最大フレーム・サイズ

次の値の1つを指定します。すなわち、1024, 2048,または4096です。

上

省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

この回線で送信および受信用に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。指定する値はX.25ネットワークで使用される省略時の値と一致しなければなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

128 省略時のパケット・サイズは128です。

送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPKTSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の受信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPKTSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)

この回線での送信および受信用の最大パケット・サイズを指定します。この値はX.25ネットワークで送信および受信用にサポートされている最大パケット・サイズと一致しなければなりません。指定する値は、指定された省略時のパケット・サイズより小さくはなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

*DFTPKTSIZE

送信用の最大パケット・サイズは送信用の省略時のパケット・サイズと同じです。

最大送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用のパケット・サイズを指定します。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。

128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

上

省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

この回線に接続される制御装置との送信および受信用の省略時のパケット・ウィンドウ・サイズを指定します。制御装置は、制御装置コマンドで **X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)**パラメーターを指定して、この省略時値を指定変更できます。

指定できる送信の値は次の通りです。

2 省略時のパケット・ウィンドウ・サイズは2です。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)

システムが呼び出し要求パケットにローカル・ネットワーク・アドレスを挿入するかどうかを指定します。

*YES ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されます。

*NO ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されません。

上

ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)

交換回線の場合には、このパラメーターによって、ネットワーク加入者は、この回線のローカル・システムが送信したすべての呼び出し要求パケットに対してネットワーク・ユーザー識別(NUI)情報をNUI選択項目機能にエンコードすることを要求することができます。

ネットワーク・ユーザーID

NUIを最大長214文字の16進数を指定します。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この回線と接続するために使用する番号を指定します。これはモデムによってダイヤル呼び出しされる電話番号です。最大32文字まで指定できます。

接続番号

接続番号を指定します。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(C>NNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとして指定することができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換(非同期、BSC、SDLC、またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ(非同期、BSC、またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

*ANS 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

*DIAL 回線は発信呼び出し専用 사용됩니다。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続では、ISDNに対するダイヤルアウト操作のためにそのISDN割り当て番号を含む接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*NONE

ダイヤルアウト操作のためにユーザー指定の接続リストは使用されません。OSI 通信サブシステムが導入されている場合には、接続リストは自動的に構成されます。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続では、ISDNに対してを呼び出しを行うために使用する接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用の呼び出し情報（または接続）の検索に使用される接続リストの名前を指定します。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*YES 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

*NO 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*NO 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

*YES 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。（自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。）

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のAからZ、数字の0から9、および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロン
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは, 'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

即時呼び出し (CALLIMMED)

交換回線の場合に、回線がオンに構成変更された直後に(CNNBRパラメーターに指定された番号を使用している) 呼び出しが行なわれるかどうかを指定します。

*NO システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みません。

*YES システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みます。

上

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期，BSC，SDLC，またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

*NO この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

*YES この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

208 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号のダイヤル呼び出しの前に待機する時間間隔を指定します。

6 6の省略時の値は3秒の遅延を提供します。

ダイヤル前遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

0から254の範囲の値を指定します。

交換回線切断 (SWTDSC)

最後のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が削除されて交換回線切断タイマー(SWTDSCCTMR)が満了した時に、回線を除去するかどうかを指定します。

*YES 交換接続が除去されます。

*NO 交換接続は除去されません。

切断タイマー (SWTDSCTMR)

交換X.25回線をネットワークまたはリモート・システムから切り離すために使用されるタイマーを指定します。最小接続タイマーは、システムが接続を活動状態のままにしておく最小の長さの時間を指定します。このタイマーは接続が確立された時に開始されます。切断遅延タイマーは、回線上に活動中のSVCがない時、あるいは最後のSVCが完了して**最小接続タイマー**が満了した時に、交換接続の切断を試みる前にシステムが待機する時間の長さを指定します。

可能な**最小接続タイマー**値は次の通りです。

最小接続タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

可能な**切断遅延タイマー**値は次の通りです。

切断遅延タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

上

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

1から60秒の範囲の値を指定します。

上

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCEがこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERTで有効なインターフェースは*X21、*X21BISV35、および*RS449V36です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

*FIRST

選択は、交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

*CALC

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

X.25 DCEサポート (X25DCE)

システムがX.25回線終端装置(DCE)サポートを通じて通信するかどうかを指定します。これによって、システムはX.25ネットワークを通さずに別のシステムと通信することができます。

- *NO システムはX.25 DCEサポートを介して通信しません。
- *YES システムはX.25 DCEサポートを介して通信します。
- *NEG オペレーティング・システムは、X.25 DCEサポートを介して通信するかどうかを、別のシステムと折衝します。この値を指定できるのは、交換回線の場合だけです。

上

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

最大64の交換非同期制御装置の名前を指定するか、あるいはX.25スイッチド・バーチャル・サーキット (SVC)との接続を確立できる交換非同期X.25制御装置の無制限数に対して*ALLを指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効となるのは、制御装置記述の作成（非同期）(CRTCTLASC)コマンドで作成した交換非同期X.25制御装置を接続するために回線を使用する場合だけです。CNNBR(*ANY) またはANSNBR(*ANY)を指定した制御装置を接続することによって、このリストの順序が変更される場合があります。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*ALL 制御装置記述の作成（非同期）(CRTCTLASC)コマンドを使用して作成したすべてのX.25交換制御装置、および交換回線リスト(SWTLINLST)パラメーターのこの回線記述のリストを使用して、X.25交換制御装置(SVC)との接続を確立することができます。

*NONE

交換非同期制御装置は指定されません。

名前 交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

再送信前に送られた各フレームに対してネットワークからの肯定応答をシステムが待機する最大時間数(0.1秒間隔で)を指定します。

注: IDLTMR値は次の式より大きいか等しくなければなりません。すなわち、 $(2 * P + (MAXPKTSIZE * 8) / LINESPEED + D) * 10$ です。この"P"はユーザーとネットワークを接続する媒体の伝搬遅延(秒数)であり、MAXPKTSIZEは最大送信パケット・サイズであり、"D"はDCE(データ回線終端装置)処理オーバーヘッド(秒数)です。これらの2つの値に関する情報については、ネットワーク提供会社に連絡してください。

40 このパラメーターの省略時の値は40です。

遊休タイマー

3から600の範囲の値を指定します。それぞれの単位は0.1秒を表し、0.3から60秒の範囲のタイムアウト値を提供します。

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

- *OFF しきい値エラーは報告されません。
- *MIN エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。
- *MED エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。
- *MAX エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

- *V54 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3(ローカル折り返し)およびループ2(これはリモート折り返し)をサポートします。

*IBMWRAP

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

*IBMLPDA1

リンク問題判別援助機能-1(LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

*IBMLPDA2

リンク問題判別援助機能-2(LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)

リンク速度は物理インターフェース・タイプに基づいたものになります。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、また、X.21では64000 BPSとなります。

*MIN 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

*MAX 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200,2400,4800,7200,9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M,および16Mです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET,および*SATELLITEです。

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*LAN ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

*PKTSWTNET

パケット交換網を使用する伝搬遅延

*SATELLITE

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

216 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行すること

ができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTLINX25  LIND(X251)  RSRNAME(LIN011)
           LGLCHLE((111 *PVC CTL1) (222 *SVCIN))
           NETADR(12345)  CNNINIT(*LOCAL)  TEXT('X.25 LINE')
```

このコマンドは、資源名がLIN011で、2つの論理チャネル (PVC制御装置に接続) をもち、ネットワーク・アドレスが12345で、ローカル接続開始のあるX.25回線(X251)を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

上

ロケール作成 (CRTLOCALE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロケール作成(CRTLOCALE)コマンドは、SRCFILEパラメーターで提供されたファイルからのソース情報を使用してロケール・オブジェクト(*LOCALE)を作成します。

ロケールは、データがどのように処理、印刷、および表示されるかを判別することのできるオブジェクトです。ロケールは、言語、教養データ、および文字セットを定義するカテゴリで構成されています。ロケールは、システム・オブジェクトの形式としてはオペレーティング・システムに同梱されていません。代わりに、ロケール定義ソース・ファイルが提供されています。

ロケールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/ISERIES/INFOCENTER))にある「グローバル化」情報を参照してください。

制約事項

ロケールはQSYSファイル・システム中に作成しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LOCALE	ロケール名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	パス名	必須, 定位置 2
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *JOB, *UTF	必須, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	<u>10</u> , 20	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*PRINT</u> , *NONE	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・リスト	整数, <u>*SRC</u> , *NOSRC	
	要素 2: 第2レベル・メッセージ	整数, *SECLVL, <u>*NOSECLVL</u>	
REPLACE	オブジェクトの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DTAAUT	データの共通権限	名前, <u>*INDIR</u> , *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通権限	単一値: <u>*INDIR</u> , *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

上

ロケール名 (LOCALE)

作成するロケールのパス名を指定します。

上

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

作成するロケールの記述が入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルのCCSIDが65535である場合には、このコマンドではそれがジョブの省略時のCCSIDと見なされます。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ロケール・オブジェクトのロケール情報を記憶するコード化文字セットID(CCSID) を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** ロケール情報としてジョブCCSIDが使用されることを指定します。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***UTF** 2つのロケール(UTF8用に1つ、UTF32用に1つ) が作成されることを指定します。UTF8ロケール名には、指定されたロケール名に_8が追加されます。UTF32ロケール名には、指定されたロケール名に_4が追加されます。CCSID(*UTF)を指定した場合には、指定するロケール名は長さが8文字に制限されます。

コード化文字セットID

ロケール情報として使用するCCSIDを指定してください。

上

生成重大度レベル (GENLVL)

作成操作を制御することのできる重大度レベルを指定します。作成操作で生成されたメッセージの重大度レベルは、発生したエラーのタイプを示します。

注: 重大度レベルが20を超えるエラーが発生した場合には、ロケールは作成されません。

考えられる値は次の通りです。

10 レベル10の重大度のエラーでもロケールが作成されます。

20 レベル20の重大度のエラーでもロケールが作成されます。

テキスト'記述' (TEXT)

ロケールについて簡単に説明するテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。リストに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに指定される値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。コンパイル時のパフォーマンスを改善するためには、リストを必要としない時にこの値を指定しておかなければなりません。

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRC** ロケールを作成するために使用されるソース入力印刷されます。

***NOSRC**

ロケールを作成するために使用されるソース入力は印刷されません。

***NOSECLVL**

第1レベルのエラー・メッセージ・テキストだけがソース・リストに組み込まれます。

***SECLVL**

第2レベルのエラー・メッセージ・テキストが印刷されます。

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

既存のバージョンのロケールを現行のロケールで置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *YES** 既存のロケールが新しいバージョンで置き換えられます。古いバージョンはライブラリーQRPLOBJに移され、システム日付および時刻に基づいて名前が変更されます。元のロケールのテキスト記述は、新しいロケールのテキスト記述として使用されません。古いロケールは次のIPL時に削除されるか、あるいはロケール削除(DLTLOCALE)コマンドを使用して削除することができます。
- *NO** ロケールは置き換えられず、エラー・メッセージが出されます。

上

データの共通権限 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

- *RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。
- *RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。
- *RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。
- *WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。
- *R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。
- *W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。
- *X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

上

オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

***OBJREF**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

上

例

```
CRTLOCALE  LOCALE('QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.LOCALE')
            SRCFILE('QSYS.LIB/MYLIB.LIB/LSRC.FILE/USLOCALE.MBR')
            CCSID(37)  TEXT('LOCALE FOR USA')
```

このコマンドは、QSYS.LIBファイル・システム中のMYLIBという名前のライブラリー中にCCSIDが37のUSLOCALEという名前のロケールを作成します。テキスト・パラメーターは、これをUSAのロケールとして記述します。

```
CRTLOCALE  LOCALE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.EXAMPLE')
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/LSRC.FILE/EXAMPLE.MBR')
           CCSID(*UTF)  TEXT('UTF LOCALE EXAMPLES')
```

このコマンドは、CCSIDが1232のEXAMPLE_4という名前およびCCSIDが1208のEXAMPLE_8という名前の2つのロケールをQSYS.LIBファイル・システム中のMYLIBという名前のライブラリーに作成します。テキスト・パラメーターは、これらをUTFロケールの例として記述します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE1

ロケール・オブジェクト&1が作成されなかった。

上

メニュー作成 (CRTMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー作成(CRTMNU)コマンドは、メニュー・オブジェクトを作成するために使用します。このコマンドを使用して、表示装置ファイル(*DSPF)メニュー、およびプログラム(*PGM)メニューの両方を作成することができます。また、メニューは、メニュー表示(GO)コマンドを使用して表示することができます。

制約事項:

- メニューを作成するライブラリーに対する変更(*CHANGE),読み取り(*READ),および追加 (*ADD)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TYPE	メニュー・タイプ	*DSPF, *PGM, *UIM	必須, 定位置 2
DSPF	表示装置ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CMDLIN	コマンド入力行	*LONG, *SHORT, *NONE	オプション
DSPKEY	機能キーの表示	*NO, *YES	オプション
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QMNUSRC	
	修飾子 2:	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MENU	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INCFILE	組み込みファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 組み込みファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *NOCHG , *MNULIB , *CRTDFT	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, *NOCHG , *NONE	オプション
CHRID	文字識別コード	整数, *DEVD , *JOBCCSID , *CHRIDCTL	オプション
REPLACE	メニューの置き換え	*YES , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT , *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE	オプション

上

メニュー (MENU)

作成するメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

名前 メニューの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

新しいメニューを保管するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メニューを保管するライブラリーを指定してください。

上

メニュー・タイプ (TYPE)

作成されるメニューのタイプを指定します。

注: 表示装置ファイル (DSPF)およびメッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに値を指定する場合には、***DSPF**を指定しなければなりません。プログラム (PGM)パラメーターは、ここに***PGM**を指定した場合にだけ有効です。

これは必須パラメーターです。

***DSPF** メニューを作成するために、既存の表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルが使用されます。

*PGM 作成中のメニューが、メニューの要求時にプログラムを呼び出します。

*UIM メニューは、ソース・ファイル (SRCFILE)およびソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定されたファイルで見つかったUIMタグ言語を使用して作成されます。

上

表示装置ファイル (DSPF)

メニュー・オブジェクトの作成に使用する表示装置ファイルを指定します。この表示装置ファイルには、メニュー様式と呼ばれる、表示装置ファイル自体と同じ名前の1つのレコード様式が含まれていなければなりません。ファイルにはヘルプ様式も含めることができます。

ヘルプ様式は、命名規則#HXXYYに従っています。ここで、XXはヘルプ様式が適用される最初のメニュー・オプションであり、YYはその最後のメニュー・オプションです。(例えば、#H0306はメニュー・オプションの3から6までに適用されます。#H0000は、メニューの一般ヘルプを指定します。

表示装置ファイルは、独立標識域(INDARAキーワード)を持ち、サブファイル記述を含んでいてはなりません。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー・タイプ (TYPE)パラメーターに*DSPFが指定された場合だけです。

修飾子1: 表示装置ファイル

*MENU

表示装置ファイルは、メニュー (MENU)パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 使用する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

表示装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 表示装置ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

メニュー・オプションが選択された時に実行するコマンドが入っているメッセージ・ファイルを指定します。このファイル中のメッセージのMSGIDはUSRXXXXの書式になります。ここで、XXXXはコマンド入力行に入力されたメニュー・オプションの番号です。

注: 作成中のメッセージ・ファイルをメニューに使用する場合には、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを使用して、メッセージ・ファイル・メンバーをファイルに追加する必要があります。

修飾子1: メッセージ・ファイル

***MENU**

実行するコマンドを含むメッセージ・ファイルは、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定したメニュー名と同じ名前です。

名前 使用するメッセージ・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

コマンド入力行 (CMDLIN)

長いコマンド入力行を使用するか、短いコマンド入力行を使用するか、それともコマンド入力行（オプション行）を使用しないかを指定します。

***LONG**

153バイトの長さのコマンド入力行が使用されます。

***SHORT**

73バイトの長さのコマンド入力行が使用されます。

***NONE**

コマンド入力行は使用されません。4バイトのオプション行が使用されます。

上

機能キーの表示 (DSPKEY)

メニューを表示する時に、機能キーの凡例をメニューの下部に表示するかどうかを指定します。

***NO** 機能キーの凡例は画面の下部に表示されません。

***YES** 機能キーの凡例が画面の下部に表示されます。

上

プログラム (PGM)

メニューの表示時に呼び出すプログラムを指定します。

次の3つのパラメーターがプログラムに渡されます。

- 最初のパラメーターは、呼び出すプログラムを識別するメニュー・オブジェクトの10文字の名前です。
- 2番目のパラメーターは、メニュー・オブジェクトが入っているライブラリーの10文字の名前です。

- 3番目のパラメーターは、呼び出されるプログラムで変数として宣言されている2文字の2進数戻りコードです。プログラムは、次の1つの戻りコードを設定してくるはずですが。

戻り コード	16進数	説明
0	0000	プログラム (メニューの表示) の再呼び出し
-1	FFFF	要求された機能の終了
-2	FFFE	要求された前の機能
-4	FFFC	要求されたホーム機能 (ホーム・メニューの表示)

修飾子1: プログラム

*MENU

呼び出されるプログラムは、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

メニュー記述ソース・ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QMNUSRC

ソース・ファイルQMNUSRCにはメニュー記述ソース・ステートメントが入っています。

名前 メニュー記述ソース・ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

メニュー記述が入っているソース・ファイルのメンバーを指定します。

*MENU

メンバー名は、メニュー (MENU)パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 メニュー記述が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

コンパイル時に作成される出力のオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドでは変更できません。

ソース・リスト・オプション

*SRCまたは*SOURCE

ソース・リストが作成されます。

*NOSRCまたは*NOSOURCE

エラーが検出されないかぎり、ソース・リストは作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

*NOSECLVL

メッセージをリストの終わりに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されません。

*SECLVL

メッセージをリストの終わりに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されます。

事象ファイル作成オプション

*NOEVENTF

コンパイラーはCoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)の事象ファイルを作成しません。

*EVENTF

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトが使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は通常、ユーザーに代わりCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

組み込みファイル (INCFILE)

組み込むメンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

注: ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)がソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定された基本ソース・ファイルのCCSIDと異なっている場合には、そのCCSIDが基本ソース・ファイルのCCSIDに変更されます。CCSIDは、オブジェクトの作成に使用するすべてのソース・メンバーで同一でなければなりません。

単一値

*SRCFILE

組み込みファイルは、SRCFILEパラメーターに指定したファイルと同じファイルです。

修飾子1: 組み込みファイル

名前 組み込むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

メニューを表示する時に、現行ライブラリーとして使用するライブラリーを指定します。

*NOCHG

このメニューの処理によって現行ライブラリーが変更されることはありません。

*MNULIB

現行ライブラリーは、メニューの表示中にはそのメニューが入っているライブラリーに変更されません。

*CRTDFT

メニューの表示時には、現行ライブラリーはありません。

名前 メニューの表示時に現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

実行ライブラリー (PRDLIB)

メニューの表示時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはライブラリーを開始した時のものに復元されます。

***NOCHG**

プロダクト・ライブラリーは、メニューの表示時に変更されず、メニューの終了後も復元されません。

***NONE**

メニューの表示中に、ライブラリー・リストのプロダクト・ライブラリー項目は使用されません。

名前 メニューの表示時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

メニューが表示される時にメニュー・オブジェクトの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) が装置の文字IDに変更されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターを指定できるのは、**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに*UIMが指定された場合だけです。

***DEVD**

変更は行なわれません。メニュー・オブジェクトの文字IDは、装置の文字IDと同じです。

***JOBCCSID**

メニュー・オブジェクトの文字IDは、**ソース・ファイル (SRCFILE)**パラメーターに指定されたファイルのCCSIDから装置の文字IDに変更されます。

***CHRIDCTL**

システムはCHRIDCTLジョブ属性を検査して、このメニューのCHRIDコマンド・パラメーターに*JOBCCSIDまたは*DEVDを使用するかどうかを決定します。

上

メニューの置き換え (REPLACE)

同じ名前の既存のメニューを置き換えるかどうかを指定します。

注: メニューは、このジョブまたは別のジョブによって使用中の場合には、置き換えることはできません。

***YES** 既存のメニューがシステム・ライブラリーQRPLOBJに移動されて、新しいメニューで置き換えられます。

***NO** 既存のメニューは新しいメニューで置き換えられません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

メニューに関連したテキスト記述を指定します。

*SRCMBRTXT

メニューのテキストは、ソース・ファイル・メンバーと対応したテキストから取り出されます。メニューが*UIMのタイプの場合には、この特殊値がテキストを取り出すのはソース・ファイル・メンバーからだけであることに注意してください。その他メニュー・タイプでは、テキストはブランクに設定されます。

*BLANK

メニューにはテキスト記述は指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

CRTMNU MENU(ARLIB/ARPER) TYPE(*PGM)

このコマンドは、名前ARPERのメニューをライブラリーARLIBに作成します。このメニューは、メニュー実行時にプログラム（これも名前ARPER）を呼び出します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6AC3

メニューは作成されなかった。

上

モード記述作成 (CRTMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述作成(CRTMODD)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置のモード記述を作成します。モード記述は、ローカル・ロケーションとリモート・ロケーション間のセッション特性およびリンクのセッション数を定義します。モードの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)およびAPPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワークング・カテゴリーを参照してください。

APPCサポートには、システム・ネットワーク体系(SNA) が使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODD	モード記述	通信名	必須, 定位置 1
MAXSSN	最大セッション	1-512, <u>8</u>	オプション
MAXCNV	会話の最大数	1-512, <u>8</u>	オプション
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション数	0-512, <u>4</u>	オプション
PREESTSSN	事前結合セッション数	0-512, <u>0</u>	オプション
MAXINPAC	最大インバウンド・ペーシング値	1-32767, *CALC	オプション
INPACING	インバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
OUTPACING	アウトバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	241-32767, *CALC	オプション
DTACPR	データ圧縮	1-2147483647, *NETATR, *NONE, *ALLOW, *REQUEST, *REQUIRE	オプション
INDTACPR	インバウンド・データの圧縮	*RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
OUTDTACPR	アウトバウンド・データの圧縮	*RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
SLE	セッション・レベル暗号	*NONE, *ALL	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
COS	サービス・クラス	通信名, #CONNECT, #BATCH, #INTER, #BATCHSC, #INTERSC	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

モード記述 (MODD)

モード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

最大セッション (MAXSSN)

このモードに対して確立される活動セッションの最大数を指定します。この数は、**ローカル制御セッション数**プロンプト(LCLCTLSSN)で指定されるローカル制御セッション数と、リモート・ロケーションで指定されるローカル制御セッション数との合計より大きいか等しくなければなりません。

セッションの最大数

セッションの最大数を指定してください。

有効な値の範囲は1から512です。

上

会話の最大数 (MAXCNV)

リモート・システムと同時に確立できる会話の最大数を指定します。会話の最大数は、同期会話と非同期会話の合計です。この値は、**最大セッションプロンプト** (MAXSSNパラメーター) で指定された値より大きいか等しくなければなりません。同期会話は、ソース・プログラムとターゲット・プログラムの両方が通信を行なっている会話です。非同期会話は、ソース・プログラムは会話から切り離されたが、ターゲット・プログラムはまだデータを読み取っている会話です。

会話の最大数

会話の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から512です。

上

ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)

このモードを確立するために活動状態でなければならないローカル制御セッションの最小数を指定します。この値は、**最大セッションプロンプト**(MAXSSNパラメーター) に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

ローカル制御セッション

ソース・セッションとして使用されるローカル制御セッションの数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

上

事前結合セッション数 (PREESTSSN)

モードが開始された時に確立されるローカル制御セッションの最大数を指定します。追加のセッションは、必要に応じて、**最大セッションプロンプト**(MAXSSNパラメーター)に指定されたローカル制御セッションの最大数まで確立されます。この値は、**ローカル制御セッション数プロンプト**(LCLCTLSSNパラメーター)に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

確立セッションの数

モードが開始された時に確立される並行ローカル制御セッションの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

上

最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用される最大SNAペーシング値を指定します。**ペーシング**は、送信システムの伝送速度を制御してデータの消失を防止するために、受信システムで設定されます。

注: 最適な速度が得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムが使用する値を判別します。この値は、INPACINGパラメーターに指定された値の2倍である2*INPACINGとなるように計算されます。

最大インバウンド・ペーシング

最大インバウンド・ペーシング値として、1から32767 RUの範囲の値を指定してください。

上

インバウンド・ペーシング値 (INPACING)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用されるシステム・ネットワーク体系(SNA)ペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

インバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

上

アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)

発信要求単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

アウトバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

注: 最適な長さが得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

要求単位の最大長

着信要求単位に、241から32767バイトの範囲内の、最大長の値を指定してください。

その他の共通の値は、次の通りです。

- SDLC回線 : 256, 512, 1024, 2048
- トークンリング・ネットワーク回線: 256, 512, 1024, 1985
- X.25 (QLLC)回線 : 247, 503, 1015
- X.25 (ELLC)回線 : 241, 497, 1009

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

*NETATR

DTACPRネットワーク属性からの値が使用されます。

*NONE

セッションで圧縮を使用することはできません。

*ALLOW

リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合、セッションで使用されるデータ圧縮レベルはより低い要求レベルになり、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)で指定されたレベルになります。

*REQUEST

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、この要求は、リモート・システムによって拒否されるか、あるいはより低い圧縮レベルに変更される場合があります。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。インバウンドおよびアウトバウンド・データ用に要求される圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*REQUIRE

データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮を受け入れない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されているレベルです。

回線速度

データが圧縮される最高回線速度を指定してください。セッションで使用されるリンクの回線速度が指定したこの回線速度より小さいか等しい場合には、*REQUESTが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。そうでない場合には、*ALLOWが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。有効な値の範囲は1から2147483647ビット/秒(BPS)です。

上

インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)

インバウンド・データの圧縮に必要なレベルを指定します。データ圧縮プロンプト(DTACPRパラメーター)に*NONEが指定されている場合、データ圧縮は行われません。

注: 最適のディクショナリー基本圧縮は動的圧縮アルゴリズムであり、LEMPERL-ZIVと類似していて、前に表示されたストリングを9ビット、10ビット、および12ビット・コードに圧縮します。このアルゴリズムは次のパラメーターでLZとして参照されます。

***RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

*NONE

圧縮は起こりません。

上

アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)

アウトバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。データ圧縮プロンプト(DTACPRパラメータ一)に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

***RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なくて済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なくて済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なくて済みます。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

***NONE**
圧縮は起こりません。

上

セッション・レベル暗号 (SLE)

セッション暗号化の所要のレベルを指定します。

***NONE**
データの暗号化または暗号解読は行われません。

***ALL** すべてのデータは、ネットワークに送信される前に暗号化され、ネットワークから受信された時に復号化されます。

注: セッション・レベルで暗号化を使用するためには、IBM共通のI5/OS暗号化アーキテクチャー・サービスが、暗号化プロセッサ機構または暗号化プロセッサ商用機構とともに導入されていなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

サービス・クラス (COS)

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)によって使用される経路制御ネットワーク特性（サービス・クラス記述によって表される）を指定します。

- #CONNECT
- #BATCH
- #INTER
- #BATCHSC
- #INTERSC

サービス・クラス名

サービス・クラス名を指定します。

注: APPCのモードを使用している場合には、サービス・クラス名は無視されます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTMODD  MODD(MODE1)  COS(COSD1)
          TEXT('MODE USING COSD1 CLASS-OF-SERVICE')
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1を指定するモードMODE1を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261B

エラーのために、モード記述&1は作成されなかった。

上

メッセージ・ファイル作成 (CRTMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル作成(CRTMSGF)コマンドは、メッセージ記述を記憶するためにユーザー定義のメッセージ・ファイルを作成します。メッセージ・ファイルは、定義済みメッセージを使用するすべてのユーザーが権限を持っているライブラリーに記憶されなければなりません。システムは、システム・ライブラリーQSYSに記憶された弊社提供のメッセージ・ファイル、すなわちCPFメッセージ・ファイルQCPFMSG (i5/OS システムおよびマシン・インターフェース・メッセージ用) およびQRPGMSG (RPGメッセージ用) などのライセンス・プログラム・メッセージ・ファイルとともに出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
SIZE	ファイル・サイズ	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 初期記憶域サイズ	整数, <u>10</u>	
	要素 2: 記憶域増分サイズ	整数, <u>2</u>	
	要素 3: 最大増分値	整数, *NOMAX	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *MSGD, *JOB	オプション

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

作成するメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

メッセージ・ファイル名

作成するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを作成するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ・ファイルが作成されるライブラリーを指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

上

ファイル・サイズ (SIZE)

メッセージ・ファイルの初期記憶域サイズ、その記憶域の各増分のサイズ、およびサイズの増分可能な回数を指定します。記憶域サイズは、Kバイト(KB)単位で表現されます。(1KBは1024バイトの記憶域と等しいものです。)

要素1: 初期記憶域サイズ

10 メッセージ・ファイルは、10KBの記憶域を割り当てられています。

初期Kバイト

ファイルの初期サイズ(0より大であることが必要)を指定します。

要素2: 記憶域増分サイズ

2 メッセージ・ファイルのサイズが増分されるたびに、2KBの記憶域がメッセージ・ファイルに追加されます。

増分値 メッセージ・ファイルのサイズが増分されるたびに追加するKバイト数を指定してください。

要素3: 最大増分値

***NOMAX**

メッセージ・ファイルに追加されるサイズは、ユーザーによって制限されません。最大サイズはシステムによって決定されます。

増分回数

メッセージ・ファイルのサイズを増分することのできる最大回数を指定してください。ファイルの初期サイズに対する追加を行わないようにするためには、0を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

コード化文字セットID (CCSID)

メッセージ・ファイルと関連付けられるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを常に一時変更します。メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用するためには、メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDを*MSGDに変更してください。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照してください。

*HEX メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65535に設定されます。65535というCCSIDは、メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時に変換が行われず、またメッセージ・ファイルからメッセージ記述を検索する時に変換が行われないことを意味します。メッセージ記述と関連付けられているCCSIDは、いつかメッセージ・ファイルが*MSGDに変更された場合に備えて保管されます。

*MSGD

メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65534に変更されます。65534というCCSIDは、メッセージ・ファイルからメッセージ・テキストを検索する時に、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用することを意味します。メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時には、変換が行われません。メッセージ記述にはADDMSGD またはCHGMSGDコマンドで指定されたCCSIDのタグが付けられます。

***JOB** メッセージ・ファイルと関連したCCSIDは、このコマンドを呼び出すジョブのCCSIDです。

コード化文字セットID

メッセージ・ファイルの作成に使用するCCSIDを指定してください。このメッセージ・ファイルに追加されたどのメッセージ記述も、指定されたCCSIDからこのメッセージ・ファイルのCCSIDに変換されます。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバルゼーション」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDの値だけです。

上

例

```
CRTMSGF  MSGF(INVLIB/INVMSGGS)
         TEXT('INVENTORY APPLICATION MESSAGES')
```

このコマンドは、事前定義インベントリ適用業務メッセージが保管されるINVMSGGSという名前のメッセージ・ファイルを作成します。このファイルはライブラリーINVLIBに保管され、そのファイルのすべてのユーザーには*USE権限が必要です。AUTパラメーターは省略時の値となるので、すべてのユーザーがファイルに対する*CHANGE権限を持ち、これは、すべてのユーザーがそのファイルからメッセージを検索できることを意味します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2497

&2の&1のサイズがマシンの限界を超えている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

MSG ファイルからのメニューの作成 (CRTMSGFMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイルからのメニュー作成(CRTMSGFMNU)コマンドは、指定したメッセージ・ファイルからメニュー（表示装置ファイル）を作成します。このメニューを固定形式で作成するか、2つの欄に1-24のオプションを配列して作成するか、または自由形式で作成するかを指定することができます。

ソース・メンバーからメニューを作成したい場合には、システム/36メニュー作成(CRTS36MNU)コマンドを使用してください。

制約事項: このコマンドを実行するには、オペレーティング・システムのオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、固有にかまたはシステム/36環境内で実行することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMDTXTMSGF	メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル、位置 1
	修飾子 1: メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OPTTXTMSGF	オプション・テキスト・メッセージ・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル、位置 2
	修飾子 1: オプション・テキスト・メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CMDLIB, *CURLIB	
REPLACE	メニューの置き換え	*NO, *YES	オプションル
FREEFORM	自由形式メニュー	*NO, *YES	オプションル
DDSLIST	DDSリスト	*PARTIAL, *FULL	オプションル
MAXDEV	最大装置数	1-256, 5	オプションル
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプションル
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CMDLIB, *CURLIB	
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE	オプションル
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプションル
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV	オプションル

上

メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)

対応するオプションを選択した時に実行するコマンドのテキストが入っているコマンド・テキスト・メッセージ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターは、画面ファイル生成プログラム(SFGR)またはシステム/36メッセージ・ソース・メンバーでなく、既存のメッセージ・ファイルを識別しなければなりません。使用されるメッセージIDはUSRで始まっていなければなりません。CMDTXTMSGF名には後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号がないメッセージ・ファイル名です。実行時メニュー・プロセッサは、メッセージ・ファイル名を判別するために、メニュー名に後書き##記号を付加します。これが、入っているメッセージのテキストが選択された任意のオプションで実行されるコマンドになっている、メッセージ・ファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

メッセージ・ファイル名##

メニューの作成に使用するメッセージ・ファイル名を指定してください。後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号のないメッセージ・ファイル名と同じです。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。CMDTXTMSGFライブラリーも、メニュー表示装置ファイルが作成されたライブラリーです。これは、実行時MENU処理プログラムの要件です。

上

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)

選択できるオプションを記述するために、メニューに表示されるテキストが入っているオプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。使用するメッセージIDは、**ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)**パラメーターで*YESが指定されていない限り、USRで始めなければなりません。*YESを指定した場合には、USZで始めることができます。

*NONE

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルは使用されません。オプション・テキストを指定するために、**メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)**パラメーターが使用されます。

メッセージ・ファイル名

作成中のメニューのオプションの記述に使用するオプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CMDLIB

メニュー##コマンド・メッセージ・ファイル(CMDTXTMSGF)パラメーターで指定したライブラリーが、オプション・テキスト・メッセージ・ファイルを見つけるために使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、オプション・テキスト・メッセージ・ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

メニューの置き換え (REPLACE)

元の表示装置ファイルが新しいファイルと置き換えられるかどうかを指定します。

***NO** 既存の表示装置ファイルは変更されません。

***YES** 既存の表示装置ファイルは、作成中のファイルと置き換えられます。その他のタイプのファイルは置き換えられません。

注: 既存のプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メニューは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しいメニュー表示装置ファイルにコピーされます。

上

自由形式メニュー (FREEFORM)

メニューを自由形式で作成するか、固定形式で作成するかを指定します。

***NO** 自由形式は使用されません。2つの欄をもつ固定形式メニューが作成されます。オプション・テキスト・メッセージ番号はオプション番号と対応します。

YES** 自由形式メニューが作成されます。YES**を指定した場合には、**オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)**パラメーターに値を指定しなければなりません。オプション・テキスト・メッセージ番号は画面の行番号と対応します。

上

DDSリスト (DDSLIST)

部分的または完全なDDSコンパイル・リストのどちらが提供されるかを指定します。

***PARTIAL**

部分リストが提供されます。

***FULL**

完全なDDSリストおよび相互参照表が提供されます。

上

最大装置数 (MAXDEV)

同時にメニューを使用できる装置の最大数を指定します。

5 装置の最大数は5です。

装置数 一度にメニューを使用できる装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

OPTION(*CREATE)およびREPLACE(*YES)が指定されていて、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

メニュー画面を作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このソース・ファイルは、事前に存在している必要はありません。CRTSRCPF（ソース物理ファイル作成）コマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新規ソース・ファイルが作成されます。TOMBR(*NONE)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

DDSソースを保管するソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CMDLIB

ソース・ファイルを見つけるために、メニュー##コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)パラメーターに指定されたライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバー名を指定します。このメンバーが存在していない場合には、これが作成されます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

*NONE

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、存在していれば置き換えられます。

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

表示装置ファイルに2バイト文字データが入っているかどうかを指定します。

***NO** 表示装置ファイルに2バイト文字データは入っていません。オプション・テキスト・メッセージIDはUSRで始めなければなりません。

***YES** 表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルには2バイト文字データが入っています。オプション・テキスト・メッセージIDはUSZで始めることができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

例

```
CRTMSGFMNU CMDTXTMSGF(MYMENU##) REPLACE(*YES) FREEFORM(*NO)
```

このコマンドは、MYMENUという名前のメッセージ・ファイルを使用してメニューを作成します。メッセージ・ファイルはそのジョブの現行ライブラリー中に入っていて、各メニュー・オプションで実行するコマンドが含まれています。OPTTXTMSGFパラメーターが指定されていないので、オプション・テキストの代わりに、そのコマンドのテキストが画面に表示されます。REPLACE(*YES)は、既存の表示装置ファイルを置き換えることを指定します。作成される表示装置ファイルは固定形式であり、12個の要素のある2つの欄に1-24のオプションが配列されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP5750

コマンド・メッセージ・ファイルのメッセージ1-24にはブランク・テキストしか入っていない。

SSP5751

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル名は##で終わらなければならない。

SSP5752

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5753

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル&1が見つからない。

SSP5754

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル&1が見つからない。

SSP5755

¥BMENU作業ファイルを作成することができない

SSP5756

コマンド・メッセージ・ファイル名は2桁より長くなければならない。

SSP5757

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルが0001-0024の範囲内のMICをもっていない。

SSP5762

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル名はメニュー名と同じであってはならない。

SSP5770

自由形式メニューにはオプション・テキスト・メッセージ・ファイルが必要である。

SSP5774

コマンドおよびオプション・メッセージ・ファイルは同じであってはならない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

上

メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列作成(CRTMSGQ)コマンドは、ユーザー定義のメッセージ待ち行列を作成し、それを指定されたライブラリーに記憶します。メッセージ待ち行列は、その待ち行列との間でメッセージを送受信するすべてのユーザーが*USE権限を持っているライブラリーに入れなければなりません。送られるメッセージは、事前定義メッセージまたは即時メッセージのいずれかとすることができます。メッセージ待ち行列には、その作成時に次の属性が初期設定されます。すなわち、DLVRYパラメーターは*HOLD に設定され、PGMパラメーターの第1要素は*DSPMSGに設定され、PGMパラメーターの第2要素は*ALWRPYに設定され、SEVは00に設定され、RESETは*NOに設定されます。これらの初期設定された属性はCRTMSGQコマンドでは指定できず、待ち行列が作成された後で、CHGMSGQコマンドを使って変更しなければなりません。

注: メッセージ待ち行列QSYSOPRは、「メッセージ待ち行列満杯時の処置」が*WRAP として出荷されます。値を*SNDMSGに変更した後で、損傷したために待ち行列を再作成する必要がある場合には、その値は出荷時の値の*WRAPにリセットされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGQ	MSG 待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
FORCE	補助記憶域への強制書き込み	*NO, *YES	オプション
SIZE	待ち行列サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 初期記憶域サイズ	整数, 3	
	要素 2: 記憶域増分サイズ	整数, 1	
	要素 3: 最大増分値	整数, *NOMAX	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ALWALR	警報可能	*NO, *YES	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *MSG, *HEX, *JOB	オプション
MSGQFULL	メッセージ待ち行列満杯時処置	*SNDMSG, *WRAP	オプション

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

作成するメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 作成するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を作成するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が作成されるライブラリーを指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで入力します。

上

補助記憶域への強制書き込み (FORCE)

メッセージ待ち行列記述に施された変更、または待ち行列に追加または待ち行列から除去されたメッセージをただちに補助記憶装置に強制記憶するかどうかを指定します。これによって、たとえシステム障害が起っても、待ち行列に対する変更または送受したメッセージが失われないようにすることができます。

***NO** メッセージ待ち行列およびその中のメッセージに対して施された変更は、すぐには補助記憶装置に強制記憶されません。

***YES** メッセージ待ち行列記述および待ち行列の中のメッセージに対する変更は、すべてただちに補助記憶装置に強制記憶されます。

上

待ち行列サイズ (SIZE)

メッセージ待ち行列の初期記憶域サイズ、その記憶域に対する各追加時のサイズ、およびサイズを増分できる回数を指定します。記憶域サイズは、Kバイト(KB)単位で表現されます。

要素1: 初期記憶域サイズ

3 最初、メッセージ待ち行列は3KBの記憶域を割り当てられています。(1KBは1024バイトの記憶域と等しいものです。)

初期Kバイト

待ち行列の初期サイズ(0より大であることが必要) を指定します。

要素2: 記憶域増分サイズ

次の1つを使用して、サイズを増分するたびにメッセージ待ち行列のサイズに追加される記憶域の量をキロバイトで指定します。

- 1 メッセージ待ち行列のサイズが増分されるたびに、1KBの記憶域がそのメッセージ待ち行列に追加されます。

増分値 メッセージ待ち行列のサイズが増分されるたびに追加されるKバイト数を指定してください。

要素3: 最大増分値

次の1つを使用して、メッセージ待ち行列のサイズを増分することができる最大回数を指定します。

*NOMAX

メッセージ待ち行列に記憶域を追加できる回数は、ユーザーによって制限されません。最大サイズはシステムによって決定されます。

増分回数

記憶域を待ち行列に追加できる最大回数を指定してください。待ち行列の初期サイズに対して追加できないようにするためには、0を入力してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- *ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- *USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

警報可能 (ALWALR)

作成する待ち行列がそこに送られる警報メッセージから警報が生成されることを許可するかどうかを指定します。

***NO** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可しません。

***YES** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可します。

上

コード化文字セットID (CCSID)

このメッセージ待ち行列と関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を指定します。このCCSIDは、即時メッセージと、変換可能な文字フィールド(*CCHAR)として定義されているメッセージ・データにのみ、適用されます。

***HEX** このメッセージ待ち行列に送られたり、このメッセージ待ち行列から受け取ったり、このメッセージ待ち行列から表示されるメッセージは、変換されません。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65535です。

***MSG** このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは変換されません。表示または受信機能で変換が必要になる場合に備えて、送信元ジョブによって指定されたCCSIDが保管されます。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65534です。

***JOB** メッセージ待ち行列のCCSIDは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDになります。

コード化文字セットID

このメッセージ待ち行列と関連付けられたCCSIDを指定してください。このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは、このCCSIDに変換されます。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER))にある「グローバル化」情報を参照してください。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

上

メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)

メッセージ待ち行列がいっぱいの時に取る処置を指定してください。

*SNDMSG

メッセージ待ち行列が満杯の場合には、満杯のメッセージ待ち行列に対してメッセージを送信しているプログラムまたはユーザーにCPF2460 (メッセージ待ち行列を拡張することはできません。) がいっぱいのメッセージ待ち行列にメッセージを送信しているプログラムまたはユーザーに対して送信されます。

*WRAP

メッセージ待ち行列が満杯の場合には、最も古い通知および回答済みメッセージから順にメッセージ待ち行列から除去され、新しいメッセージを追加するスペースが使用できるようになります。通知メッセージと応答済みメッセージを除去しても要求されたメッセージを追加する十分なスペースが得られない場合には、要求されたメッセージを追加するスペースができるまで、未応答の照会メッセージが除去されます。未回答の照会メッセージが除去される前に、省略時の応答が送られます。メッセージ待ち行列が折り返しされると、CPI2420またはCPI2421がいっぱいだった待ち行列に送られ、折り返されたことを示します。これらのメッセージを送るのに待ち行列に空きがない場合には、待ち行列にメッセージを送ったユーザーのジョブ・ログに送られ、待ち行列QSYSOPRがいっぱいの時にはQHSTに送られます。

注:

待ち行列が*WRAPを使用しており、ジョブがメッセージを送ると待ち行列が折り返される時には、折り返しを実行するために次の条件の場合にメッセージが除去されます。

- 待ち行列がジョブの中断モードまたは通知モードである。
- 待ち行列が待ち時間を指定された受け取り機能であったため、ジョブがメッセージ待機状態である。
- 待ち行列がALCOBJコマンドを経由してジョブにより割り振られる。

システム折り返し機能だけが、これらの条件の時に待ち行列からメッセージを除去できます。その他のジョブはまだ、これらの条件の時でも待ち行列からメッセージを除去することができません。*SNDMSGでは、これらの条件で他のジョブが待ち行列からメッセージを除去することはできません。

また、待ち行列が*WRAPを指定し、中断モードの時には、折り返し機能は中断処理プログラムが受け取ったメッセージだけを除去します。例えば、中断処理プログラムが待ち行列からすべてのメッセージを受け取らないうちにいっぱいになるような場合には、折り返しを実行するためにメッセージを除去することができないので、CPF2460が出される場合があります。

上

例

```
CRTMSGQ  MSGQ(MYQ)  SIZE(3 3 *NOMAX)
          TEXT('MESSAGE QUEUE FOR INVENTORY TRANSACTIONS')
          AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、MYQという名前のメッセージ待ち行列を作成し、それを省略時の値によって現行ライブラリー(*CURLIB)に保管します。すべてのユーザーに、メッセージを待ち行列に送り、そのメッセージを読み取ることが許可されます。

メッセージ待ち行列は、3キロバイト(KB)の初期サイズで作成され、そのサイズは3 KBの増分で増加されます。その最大サイズに対する制限は、オブジェクトに対するシステムの限界であり、約16,000 KBとなります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2497

&2の&1のサイズがマシンの限界を超えている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

ノード・グループの作成 (CRTNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループ作成(CRTNODGRP)コマンドは、分散データベース・ファイルの作成に使用されるノード・グループを作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RDB	リレーショナル・データベース	値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2
PTNFILE	ファイルの区分化	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイルの区分化	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PTNMBR	メンバーの区分化	名前, *FIRST	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ノード・グループ(NODGRP)

作成されるノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

名前 作成されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ノード・グループがジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ノード・グループのライブラリーの名前を指定してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

ノード・グループに入れるリレーショナル・データベースを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 使用される各リレーショナル・データベースの名前を指定してください。リレーショナル・データベース名には最大18文字を指定することができます。これらは、RDBディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE)コマンドを使用して前もってシステムのリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義しておかなければなりません。少なくとも2つのリレーショナル・データベース名を指定しなければなりません。その項目の1つはローカル・システムと対応していなければなりません。その他のすべての項目はリモートISERIESシステムと対応していなければなりません。最大32のリレーショナル・データベース名を指定することができます。

ノード・グループを作成する時には、指定された各リレーショナル・データベースにノード番号が割り当てられます。ノード番号は1から始めて、連続して割り当てられます。最初のリレーショナル・データベースにはノード番号1が割り当てられ、2番目のデータベースにはノード番号2が割り当てられます。ノード・グループが作成されると、DSPNODGRP (ノード・グループの表示) コマンドを使用して、ノード番号とリレーショナル・データベース名との対応を表示することができます。

上

ファイルの区分化(PTNFILE)

ノード・グループの区画属性の決定に使用されるファイルの名前を指定します。ノード・グループには、1024の区画をもつテーブルが入っています。各区画には、ノード番号が入っています。区画ファイルによって、1024の各区画のノード番号を設定することができます。区画ファイルの形式の詳細説明については、DB2マルチシステムOS/400用を参照してください。

修飾子1: ファイルの区分化

***NONE**

ノード・グループ・オブジェクトの区画属性の設定には、区画ファイルは使用されません。等しい数の区画に、有効なそれぞれのノード番号が割り当てられます。例えば、2つのリレーショナル・データベースが指定された場合には、有効な2つのノード番号(1および2)が存在し、区画は等しく分割されるので、512の区画がノード番号1となり、他の512の区画がノード番号2となります。

名前 使用される区画ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバーの区分化(PTNMBR)

ノード・グループの区画属性の決定に使用される区画ファイル中のメンバーを指定します。

***FIRST**

区画ファイル内の最初のメンバーが使用されます。

名前 使用されるメンバーの名前を指定してください。

注: このパラメーターは、**ファイルの区分化(PTNFILE)**パラメーターに*NONEを指定した時には無効です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ノード・グループを簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:省略時の区分化のあるグループの作成

```
CRTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP1)
           RDB(SYSTEMA SYSTEMB SYSTEMC SYSTEMD)
           TEXT('NODE GROUP FOR TEST FILES')
```

このコマンドは、4つのノードをもつノード・グループを作成します。区画属性の省略時の値では、各ノード番号に1/4の区画が割り当てられます。このノード・グループは、分散ファイルを作成するために物理ファイル作成(CRTPF) CLコマンドのNODGRPパラメーターで使用できます。作成され、このノード・グループを指定する分散ファイルは、4つのノード・システムにまたがるデータをもつこととなります。分散ファイル中のレコードに区画キーを構成するフィールドに一樣な値が配布されている場合には、レコードは、ノード・システム間で均等に広がります。

例2:特定の区分化をもつグループの作成

```
CRTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP2) RDB(SYSTEMA SYSTEMB SYSTEMC)
           PTNFILE(LIB1/PTN1)
           TEXT('PARTITION MOST OF THE DATA TO SYSTEMA')
```

このコマンドは、3つのノードをもつノード・グループを作成します。区画属性は、PTN1という名前のファイルから取られます。このファイルは、特定のシステムに高いパーセンテージのレコード（または行）が必ず入れられるように設定できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3165

ライブラリー&2のノード・グループ&1を作成することができなかった。

上

ノード・リストの作成 (CRTNODL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト作成(CRTNODL)コマンドによって、ユーザーはノード・リスト・オブジェクトを作成することができます。このオブジェクトは、ネットワーク内のシステムのセットを識別するノード名の記憶に使用されます。

注: ノード・リストは、システムのセットで実行したい操作を指示するために、システム機能で使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ノード・リスト (NODL)

作成されるノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*CURLIB

ノード・リストはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ノード・リストを作成したいライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト・オブジェクト名

作成したいノード・リストの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ノード・リスト項目を簡単に記述するテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限がないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループにこのオブジェクトに対する特定の権限がないユーザーに認可する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通権限は、ターゲット・ライブラリー（オブジェクトを入れるライブラリー）の CRTAUT値から取られます。この値はオブジェクトの作成時に決められます。オブジェクトの作成後にライブラリーの CRTAUT値が変更された場合に、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるかまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作を、ファイルに対して実行することができます。ユーザーはこのファイルに対して基本的な機能を実行することができ、またこのファイルを変更することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの所有権を他に移すことができます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

上

例

例1:テキスト記述なしでのノード・リスト作成

```
CRTNODL  NODL(QGPL/NODL01)
```

このコマンドは、NODL01と呼ばれるライブラリーQGPLにノード・リストを作成します。ノード・リストにはQGPLに定義されたものと同じ共通認可があり、テキスト記述がありません。

例2:テキスト記述によるノード・リスト作成

```
CRTNODL  NODL(MYLIB/NODL02)  AUT(*EXCLUDE)
        TEXT('THIS IS MY NODE LIST NUMBER 2')
```

このコマンドは、共通*EXCLUDE権限を使用してライブラリーMYLIBにノード・リストNODL02を作成します。このノード・リストのテキスト記述は、「THIS IS MY NODE LIST NUMBER 2」です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

NETBIOS記述の作成 (CRTNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述作成(CRTNTBD)コマンドは、NETBIOS構成記述を作成します。この後、NETBIOSをサポートするIOPに対するネットワーク・サーバー記述などの構成オブジェクトで、このオブジェクトからNETBIOSパラメーターを参照することができます。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
FULLBUFDTG	フル・バッファ・データグラム	*YES, *NO	オプション
ADPWDWITV	最適ウィンドウ間隔	0-65535, <u>1000</u>	オプション
MAXWDWERR	最大ウィンドウ・エラー	0-10, <u>0</u>	オプション
MAXRCVDATA	最大受信データ・サイズ	512-16384, <u>4168</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1000-65535, <u>30000</u>	オプション
RSPTMR	応答タイマー	50-65535, <u>500</u>	オプション
ACKTMR	肯定応答タイマー	50-65535, <u>200</u>	オプション
MAXIN	最大未処理受信	1-127, <u>1</u>	オプション
MAXOUT	最大未処理送信	1-127, <u>1</u>	オプション
QRYTMR	QUERYタイムアウト	500-10000, <u>500</u>	オプション
NTBRTY	NETBIOS再試行	1-50, <u>8</u>	オプション
ALWMULTACK	複数肯定応答可能	*YES, *NO	オプション
PREBLTPKT	メッセージ・パケット事前作成	1-200, <u>5</u>	オプション
PKTRESTART	パケット再始動の確認	0-9999, <u>2</u>	オプション
DLCRTY	DLC再試行	1-65535, <u>5</u>	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*IEEE8023, *ETHV2	オプション
AUT	権限	*CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

NETBIOS記述 (NTBD)

作成中のNETBIOS構成オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

NETBIOS記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)

データグラムの完全な送信バッファ・サイズを要求するかどうかを指定します。

***NO** 完全な送信バッファ・サイズは要求されません。データグラムの長さは、送信バッファのサイズからオーバーヘッドを引いた値に等しくなります（最大512バイト）。大きなメッセージは切り捨てられます。

注: オーバーヘッドのサイズは、NETBIOSヘッダー(44バイト)、LANヘッダー（最大36バイト）、およびバッファ保留オーバーヘッド（最大6バイト）のサイズの合計です。

***YES** 完全な送信バッファ・サイズが要求されます。

上

最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)

最適ウィンドウ・アルゴリズムの実行から実行までの間の時間（ミリ秒）を指定します。それぞれのリンクで、このアルゴリズムはMAXINおよびMAXOUTパラメーターの値を変更して、NETBIOSプロトコルを使用しているリモート・ワークステーションに設定された値と一致するように変更されます。このアルゴリズムは、値を変更する時にアダプター受信バッファおよび送信ロードを含むリンクの条件を考慮します。

1000 最適ウィンドウ・アルゴリズムの実行相互間の時間は1000ミリ秒です。

最適ウィンドウ間隔

アルゴリズムの実行間の時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は0から65535です。

注: 値0は、アルゴリズムを使用不能にします。

上

最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)

MAXOUTパラメーターの値を小さくする前に、最適ウィンドウ・アルゴリズムで許容される除去パケット数を指定します。

0 除去されるパケットの数は0です。

ウィンドウ・エラー

許容されるウィンドウ・エラーの数を指定してください。有効な値の範囲は0から10です。

上

最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)

セッションで受信できるフレームの最大データ・サイズを指定します。送信のパートナーは、この指定サイズまたはパートナーの送信バッファで利用可能なサイズの小さい方に制限します。NETBIOSは、パスのブリッジによって転送される最大サイズを考慮に入れます。

4168 受信できる最大データ・サイズは4168バイトです。

最大受信データ・サイズ

受信可能な最大データ・サイズ（バイト数）を指定してください。有効な値の範囲は512から16384です。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

リンクが使用可能であることをNETBIOSプロトコル・ドライバーが確認する前に、リンクを非活動化できる時間の長さを指定します。

30000 リンクは30000ミリ秒の間非活動化することができます。

非活動タイマー

活動待機時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は1000から65535です。

上

応答タイマー (RSPTMR)

前の送信からの肯定応答が受信されない場合に、リンク・レベルのフレームを再送信するまでに待機する時間の長さを指定します。

500 NETBIOSプロトコル・ドライバーは500ミリ秒待機します。

応答タイマー

待機時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は50から65535です。

上

肯定応答タイマー (ACKTMR)

送信フレーム数がMAXINパラメーターに指定された最大値より小さい場合に、NETBIOSプロトコル・ドライバーが受信フレームの肯定応答を遅延する時間の長さを指定します。

200 ドライバーは200ミリ秒間遅延します。

肯定応答タイマー

遅延時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は50から65535です。

上

最大未処理受信 (MAXIN)

肯定応答を送信する前に受信できるNETBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

1 肯定応答は1パケットの受信語に送信されます。

最大受信数

受信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1から127です。

上

最大未処理送信 (MAXOUT)

肯定応答を必要とする前に送信できるNETBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

注: このパラメーターはADPWDWITV(0)が指定された時にだけ使用されます。

1 肯定応答は1パケットの送信後に予定されます。

最大伝送数

送信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1から127です。

上

QUERYタイムアウト (QRYTMR)

送信再試行間で待機する時間（ミリ秒）を指定します。

500 待機する時間は500ミリ秒です。

照会タイムアウト

500から10000ミリ秒の範囲内の値を指定してください。

上

NETBIOS再試行 (NTBRTY)

受信パーティーが存在しないと見なす前にNETBIOSレベルで試みられる送信再試行回数を指定します。

8 再試行回数は8です。

NETBIOS再試行回数

1から50回の試行の範囲内の値を指定してください。

上

複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)

受信データの肯定応答をデータ要求と結合できるかどうかを指定します。

注: NETBIOSプロトコル・ドライバーが着信データと一緒に肯定応答を送信および受信すると、LANのパフォーマンスが改善されます。

***YES** 肯定応答をデータ要求と結合することができます。

注: 両方の送信パーティーが肯定応答とデータ要求の結合をサポートしていなければなりません。そうでなければこの値は無視されます。

***NO** 肯定応答をデータ要求と結合することはできません。

上

メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)

それぞれのセッションに対して事前構築されるNETBIOSメッセージ・パケットの数を指定します。

5 NETBIOSメッセージ・パケットの数は5です。

事前構築パケット

1から200の範囲内のメッセージ・パケットの値を指定してください。

上

パケット再始動の確認 (PKTRESTART)

資源不足条件が起こった時に、追加のパケットを送信する前に受信しなければならない送信確認の数を指定します。NETBIOSプロトコル・ドライバーは、ポートから資源不足条件を受け取ると、パケットの送信を停止します。

2 送信確認の最大数は2です。

パケット再開始

送信確認の数を指定してください。有効な値の範囲は0から9999です。

上

DLC再試行 (DLCRTY)

受信データ・リンク制御(DLC)層が応答しないと見なすまでに行なわれる追加の送信の試行回数を指定します。

5 追加の送信試行回数は5です。

DLC再試行

1から65535の範囲内の値を指定してください。

イーサネット標準 (ETHSTD)

NETBIOS通信に使用されるETHERNET標準フレーム・タイプを指定します。

*IEEE8023

IEEE 802.3フレームが使用されます。

*ETHV2

ETHERNETバージョン2フレームが使用されます。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

例

CRTNTBD NTBD(MYNETBIOS) ADPWDWITV(6000)

このコマンドは、アダプター・ウィンドウ・アルゴリズムが6000ミリ秒(6秒)ごとに実行されることを指定するMYNETBIOSという名前のNETBIOS記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26C3

エラーが原因でIPX記述&1は作成されなかった。

CPF27A6

NETBIOS記述&1はエラーが原因で作成されなかった。

上

ネットワーク・インターフェースの作成(FR) (CRTNWIFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース (フレーム・リレー・ネットワーク) 作成(CRTNWIFR)コマンドは、フレーム・リレー(FR)ネットワークのネットワーク・インターフェースを作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
DLCI	データ・リンク接続ID	単一値: *NONE その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: DLCI番号	1-1018	
	要素 2: 回線記述	名前	
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*NO, *YES	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS449V36, *V35, *X21	オプション
CLOCK	刻時	*MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
LINESPEED	回線速度	56000-2048000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 1024000, 1536000 , 2048000	オプション
LMIMODE	LMIモード	*TE, *FH, *NONE, *ANNEXA	オプション
POLLITV	ポーリング間隔	5-30, 10	オプション
FULLINQITV	全面照会間隔	1-255, 6	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, 2	
	要素 2: 時間間隔	0-120, 5	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

ネットワーク・インターフェース記述名

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

上

資源名 (RSRCNAME)

これは必須パラメーターです。

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。通信ポートの資源名を指定してください。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。たとえば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1である場合には、資源名はLIN011となります。

資源名 資源名を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** ネットワーク・インターフェースは初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** このネットワーク・インターフェースは、IPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・インターフェースのオンへの構成変更が非同期で行われるか同期で行われるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・インターフェースは非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、構成変更(VRYCFG)コマンドを完了する前に、ネットワーク・インターフェースがオンに構成変更されるまで、あるいは指定された時間が過ぎるまで、待機します。

注:

1. ネットワーク・インターフェース記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響し、ONLINE(*YES)が使用される場合には、ネットワーク・インターフェースを同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. ネットワーク・インターフェースをオンに構成変更するのに要する時間は、ネットワーク・インターフェースを管理するようにタスクを準備し、通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化し(IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードを含む)、データ回線終端装置(DCE)との通信を確立するのにかかる時間です。オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

上

データ・リンク接続ID (DLCI)

作成するフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースの回線記述のデータ・リンク接続IDを指定します。

*NONE

データ・リンク接続IDは指定されません。

要素1: DLCI番号

DLCI番号

回線のDLCI番号を指定してください。

要素2:回線記述

回線記述

DLCI回線記述を指定してください。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これにより、信号が長時間同じ状態にとどまることはなくなります。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

*NO NRZIデータ・エンコードは使用されません。

*YES NRZIデータ・エンコードが使用されます。

上

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

***RS449V36**

RS-499/V.36物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレーおよびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

***V35** V.35物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレー、BSC,およびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

***X21** X.21物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレー、X.25,およびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

上

刻時 (CLOCK)

ネットワーク・インターフェースに刻時機能が提供される方式を指定します。

***MODEM**

モデムが刻時を提供します。

***LOOP**

システムがモデムからの刻時を逆転し、それを回線上で送信刻時として使用します。

***INVERT**

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1536000

回線速度は1536000 BPSです。

56000 回線速度は56000 BPSです。

64000 回線速度は64000 BPSです。

128000 回線速度は128000 BPSです。

192000 回線速度は192000 BPSです。

256000 回線速度は256000 BPSです。

320000 回線速度は320000 BPSです。

384000 回線速度は384000 BPSです。

448000 回線速度は448000 BPSです。

512000 回線速度は512000 BPSです。

1024000

回線速度は1024000 BPSです。

1536000

回線速度は1536000 BPSです。

2048000

回線速度は2048000 BPSです。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値の範囲は56000 BPSから2048000 BPSまでです。

上

LMIモード (LMIMODE)

このアダプターのローカル管理インターフェース(LMI)が端末装置として構成されるかあるいはフレーム・ハンドラーとして構成されるかを指定します。

***TE** ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、システム・リンク管理フレームとの互換性を持つために、ANSI T1.617 ANNEX Dで作動するように設定されていなければなりません。

***FH** ローカル・システムは、フレーム・ハンドラーとして別のシステムとインターフェースするように構成されます。この構成では、ローカル・システムはフレーム・リレー・ネットワークとして働くこととなります。

*ANNEXA

ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、システム・リンク管理フレームとの互換性を持つために、ITU (以前はCCITT) Q.933 ANNEX Aとして動作しなければなりません。

*NONE

ローカル・システムは、LMI機能を実行することなしにフレーム・リレー・ネットワークまたは別のシステムとインターフェースするように構成されます。

上

ポーリング間隔 (POLLITV)

ポーリング・サイクルの率を指定します。ポーリング・サイクルは状況照会メッセージと状況メッセージ交換から構成されます。状況メッセージはDLCIの状況を含みます。

10 10秒のポーリング間隔が使用されます。

ポーリング間隔

使用するポーリング間隔を指定してください。有効な値の範囲は5から30秒です。

上

全面照会間隔 (FULLINQITV)

満杯状況照会が要求される前に行なわれるポーリング・サイクルの数を指定します。

6 6ポーリング・サイクルの満杯照会間隔が使用されます。

満杯照会間隔

要求する満杯状況サイクルのポーリング・サイクルの数を指定してください。有効な値の範囲は1から255です。

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・インターフェースを簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5 5秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

その他の単一値

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTNWIFR  NWID(THISONE)  RSRNAME(LINE031)
          ONLINE(*YES)  VRYWAIT(15)
          DLCI((32 LINEABC) (409 LINEDEF) (94 LINELAST))
          INTERFACE(*V35) LMIMODE(*TE)
```

このコマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースTHISONEを作成します。THISONEは、LINE031という名前の資源を表します。 THISONEは、15秒というオンに構成変更待ち時間で初期プログラム・ロード(IPL)時にオンに構成変更されます。これは3つのDLCI (32, 409,および94)で作成されますが、それぞれ回線記述LINEABC, LINEDEF,およびLINELASTを示します。 THISONEによって指定された入出力アダプター(IOA)ポートの物理インターフェースのタイプは*V35です。ローカル管理インターフェース・モードは、端末装置(TE)としてフレーム・リレー・ネットワークとのインターフェースとなるように構成されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF27A0

エラーのためにネットワーク・インターフェース記述&1は作成されなかった。

上

NWS構成の作成 (CRTNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の作成 (CRTNWSCFG)コマンドは、ネットワーク・サーバー構成および関連する妥当性検査リストを作成します。ネットワーク・サーバー構成は、接続セキュリティーまたはリモート・システムの属性を定義するものです。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)付きで出荷されます。このコマンドの出荷時には、権限が機密保護担当者だけに与えられます。機密保護担当者は、このコマンドの使用を他のユーザーに認可することができます。
- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- IPSECRULE, CHAPAUT, INRCHAPAUT, またはSPCERTIDパラメーターに省略時値以外の値を指定するためには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1
TYPE	構成タイプ	*CNNSEC, *RMTSYS, *SRVPRC	必須, 定位置 2
IPSECRULE	IPセキュリティー規則	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 文字値, *GEN, *REGEN	オプション
INZSP	サービス・プロセッサの初期設定	*MANUAL, *AUTO, *NONE	オプション
ENBUNICAST	ユニキャストの使用可能化	*YES, *NO	オプション
SPNAME	サービス・プロセッサ名	文字値, *SPINTNETA	オプション
SPINTNETA	SP IP アドレス	文字値	オプション
SPCERTID	SP証明書ID	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素	*COMMONNAME, *EMAIL, *ORGUNIT	
	要素 2: 比較値	文字値	
EID	格納装置ID	単一値: *AUTO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 製造番号	文字値	
	要素 2: 製造タイプおよび型式	文字値	
SPNWSCFG	SP構成名	通信名	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTSYSID	リモート・システムID	単一値: <u>*SPNWSCFG</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 製造番号	文字値	
	要素 2: 製造タイプおよび型式	文字値	
DELIVERY	配布方式	文字値, <u>*DYNAMIC</u> , <u>*MANUAL</u>	オプション
CHAPAUT	ターゲットCHAP認証	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値, <u>*NWSCFG</u>	
	要素 2: CHAP機密事項	文字値, <u>*GEN</u>	
INRCHAPAUT	開始プログラムCHAP認証	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値, <u>*NWSCFG</u>	
	要素 2: CHAP機密事項	文字値, <u>*GEN</u>	
BOOTDEVID	ブート装置ID	単一値: <u>*SINGLE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: バス	0-255	
	要素 2: 装置	0-31	
	要素 3: 機能	0-7	
DYNBOOTOPT	動的ブート・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ベンダー ID	文字値, <u>*DFT</u>	
	要素 2: 代替クライアントID	文字値, <u>*ADPT</u>	
RMTIFC	リモート(開始プログラム)インターフェース	値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SCSIインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター アドレス	16 進値, <u>*NONE</u>	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 5: ISCSI修飾名	文字値, <u>*GEN</u>	
	要素 2: LANインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター アドレス	16 進値, <u>*NONE</u>	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
	TEXT	テキスト'記述'	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , <u>*ALL</u> , <u>*USE</u> , <u>*EXCLUDE</u> , <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション

上

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 作成するネットワーク・サーバー構成の名前を指定してください。

上

構成タイプ (TYPE)

作成するネットワーク・サーバー構成のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CNNSEC

接続セキュリティがIPセキュリティ(IPSEC)規則属性を定義します。

*RMTSYS

リモート・システムが、サーバーをブートするために必要なハードウェアおよび構成属性を定義します。

*SRVPRC

サービス・プロセッサが、サーバーを位置指定および管理するために使用される属性を定義します。

上

IPセキュリティ規則 (IPSECRULE)

ホスティング・システムとリモート・システムの間で使用される構成IPセキュリティ規則(IPSEC)規則を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*CNNSEC)が指定されている場合だけです。

単一値

*NONE

IPセキュリティ規則(IPSEC)プロトコルのセキュリティ設定は構成されません。

その他の値 (最大16個指定可能)

***GEN** ランダム事前共用キーを生成します。

*REGEN

システムがオンに構成変更されるたびに、自動的にランダム事前共用キーを生成します。

文字値 長さが最大32文字までの有効な事前共用キーを指定します。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント

- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

上

サービス・プロセッサの初期設定 (INZSP)

リモート・システムのサービス・プロセッサを保護する方法を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

***MANUAL**

セキュリティ・パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に手動で構成されます。*MANUALは最高のセキュリティを提供します。

このオプションを使用するためには、リモート・システムのサービス・プロセッサがユーザー名、パスワードおよび証明書によって事前に構成されていることが必要です。証明書管理が必須です。公衆ネットワークを介してサービス・プロセッサに接続する場合は、パスワードを保護するためにこの方式が最適です。

***AUTO**

パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に自動的に構成されます。

*AUTOは、リモート・システムのサービス・プロセッサの事前構成を必要としないセキュリティを提供します。リモート・システムのサービス・プロセッサでは、証明書が有効期限に近づいた時に、証明書が自動的に再生成されます。このオプションは、相互接続ネットワークが物理的に安全であるか、あるいはファイアウォールによって保護される場合に最適です。

注: 管理者は、サービス・プロセッサ証明書が失効した場合、あるいは証明書の有効期限前に新規証明書またはパスワードが必要になった場合に、NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG)コマンドを使用して証明書を再生成することが必要になります。

***NONE**

セキュリティは提供されません。

これは、相互接続ネットワークが物理的に安全である場合にのみ使用してください。

注: 一部のサービス・プロセッサはセキュア接続をサポートしていません。これらのサービス・プロセッサには*NONEを使用してください。詳細は、BladeCenterおよびSystem xとのSystem iの統合(<http://www.ibm.com/systems/i/bladecenter/>)にあります。

上

ユニキャストの使用可能化 (ENBUNICAST)

ユニキャスト・パケット配布を使用するかどうかを指定します。ユニキャストとは、パケットが指定されたサービス・プロセッサ名 (SPNAME) または SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターに直接送られる伝送方式です。

ユニキャスト・パケット配布を使用する場合は、サービス・プロセッサ名 (SPNAME) または SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターを指定する必要があります。

*AUTOが指定され、システム・ハードウェアがそれをサポートしている場合には、格納装置ID (EID) パラメーターのシステム識別は自動的に検索されます。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

***YES** ユニキャストを使用可能にします。

***NO** ユニキャストを使用不可にします。

上

サービス・プロセッサ名 (SPNAME)

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

注:

1. ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。
2. ENBUNICAST(*NO)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***SPINTNETA**

リモート・システムは、SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定してください。

上

SP IP アドレス (SPINTNETA)

リモート・システムのサービス・プロセッサIPアドレスを指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

注:

1. ENBUNICAST(*NO)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。
2. SPNAME(*SPINTNETA)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。

文字値 サービス・プロセッサのIPアドレスを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

SP証明書ID (SPCERTID)

SP証明書IDは、サービス・プロセッサの証明書を識別する3つの可能なフィールドの1つを指定します。

このパラメーターは、証明書がサービス・プロセッサからのものであることの追加の検証を行うために指定されます。選択されたフィールドの内容は、証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に入力されたフィールドの値と正確に一致していなければなりません。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

このパラメーターは、INZSP(*MANUAL)が指定された場合に必須であり、*NONEの値とすることはできません。

単一値

*NONE

サービス・プロセッサ証明書は構成されません。

要素1: 構成要素

***COMMONNAME**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の共通名を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「ASMドメイン・ネーム」フィールドと相互に関連します。

***EMAIL**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の電子メール・アドレスを選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「電子メール・アドレス」フィールドと相互に関連します。

***ORGUNIT**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の組織単位を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「組織単位」フィールドと相互に関連します。

要素2: 比較値

文字値 証明書コンポーネントの比較値を指定してください。255文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで入力します。

上

格納装置ID (EID)

サービス・プロセッサを収容する格納装置を識別する製造番号、機種および型式を指定します。

指定された場合は、ネットワーク上のシステムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

単一値

***AUTO**

ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合に、自動的にIDを検索します。

要素1: 製造番号

文字値 マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字値 マシンの機種および型式を指定してください。

値は TTTTMMM の形式で入力されます。ここで、TTTT はマシンの機種、MMM はマシンの型式番号です。

上

SP構成名 (SPNWSCFG)

リモート・システムの管理に使用するサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

名前 サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

上

リモート・システムID (RMTSYSID)

リモート・システムを識別する製造番号、機種および型式を指定します。指定された場合は、ネットワーク上のリモート・システムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

注: システムの製造番号がネットワーク上で固有のものである場合には、マシンの機種および型式は省略することができます。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

***SPNWSCFG**

サービス・プロセッサ(*SRVPRC)のネットワーク・サーバー構成の格納装置ID(EID)パラメーターに指定された製造番号および機種/型式を使用します。

要素1: 製造番号

文字値 マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字値 マシンの機種および型式を指定してください。

値は TTTTMMM の形式で入力されます。ここで、TTTT はマシンの機種、MMM はマシンの型式番号です。

上

配布方式 (DELIVERY)

リモート・システムを構成するために必要なパラメーターを配布する方法を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

*DYNAMIC

パラメーターは、動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用して、リモート・システムに動的に配布されます。

*MANUAL

パラメーターは、BIOSユーティリティー（システムBIOSまたはアダプターBIOS - CTRL-Q)を使用して、リモート・システムに手動で構成されます。

上

ターゲットCHAP認証 (CHAPAUT)

System iのiSCSIターゲットがリモート・システムのiSCSIイニシエーターを認証するためのChallenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

*NONE

CHAP認証は使用可能になりません。

要素1: CHAP名

*NWSCFG

システムは、ネットワーク・サーバー構成名を使用して、CHAPの名前を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい名前を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号

- ピリオド
- コロン
- セミコロン

要素2: CHAP機密事項

***GEN** システムはランダムCHAP機密事項を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい機密事項を指定してください。

注: ターゲットとイニシエーターのCHAP機密事項は同じではありません。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

上

開始プログラムCHAP認証 (INRCHAPAUT)

リモート・システムのiSCSIイニシエーターがSystem iのiSCSIターゲットを認証するためのChallenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)を指定します。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

*NONE

CHAP認証は使用可能になりません。

要素1: CHAP名

*NWSCFG

システムは、ネットワーク・サーバー構成名を使用して、CHAPの名前を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい名前を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号

- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

要素2: CHAP機密事項

***GEN** システムはランダムCHAP機密事項を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい機密事項を指定してください。

注: ターゲットとイニシエーターのCHAP機密事項は同じであってはなりません。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

上

ブート装置ID (BOOTDEVID)

ブート元に使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのPCI機能アドレス (バス/装置/機能) を指定します。

注: 複数のiSCSIイニシエーター・ポートが導入済みのリモート・システムでは、ブート元に使用するポートを指定する必要があります。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

***SINGLE**

単一のiSCSIイニシエーター・ポートがリモート・システム上で使用されます。

要素1: バス

0から255

ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのバス番号を指定します。

要素2: 装置

0-31 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートの装置番号を指定します。

要素3: 機能

0-7 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートの機能番号を指定します。

上

動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)

内部動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー構成を指定します。

注: これは拡張構成機能です。

このパラメーターは、iSCSIターゲット・ホスト・バス・アダプター(HBA)ファームウェアの一部である内部DHCPサーバーを構成するために使用されます。これは、リモートiSCSIイニシエーター・ポートのIPアドレスおよびディスクレス・ブート・パラメーターを指定するために使用されます。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

このパラメーターが有効なのは、DELIVERY(*DYNAMIC)が指定されている場合だけです。

要素1: ベンダー ID

クライアントおよびサーバーは、省略時のベンダーIDに事前構成されます。ネットワーク管理者は、クライアントがハードウェア、オペレーティング・システムまたはその他の識別情報を伝えるために、その固有の識別値を定義するようにクライアントを構成することができます。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション60が使用されます。

***DFT** 省略時のベンダーIDが使用されます。

文字値 使用されるリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのベンダーID。

要素2: 代替クライアントID

サーバーに対して固有のIDを指定するためにクライアントによって使用されます。それぞれのクライアントのIDは、クライアントの接続先である有効なDHCPネットワーク（すなわち、クライアントのローカル・サブネットおよびDHCPリレーを使用して到達可能なリモート・サブネット）で使用されるその他すべてのクライアントIDの間で固有のものでなければなりません。この固有性の要件を満たすクライアントIDを選択する責任は、ベンダーおよびシステム管理者にあります。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション61が使用されます。

***ADPT**

省略時のクライアントIDは、リモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのアダプター・アドレスで構成されます。この値はリモート・システムを識別するために使用されます。

文字値 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのクライアントIDを指定します。

上

リモート(開始プログラム)インターフェース (RMTIFC)

リモート・システムのiSCSIイニシエーター・ホスト・バス・アダプター(HBA)構成を指定します。各iSCSIイニシエーター・ポートには、SCSIインターフェースとLANまたはTCP Offload Engine (TOE)インターフェースをサポートする2つの機能があります。

このパラメーターが有効なのは、TYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

注: 少なくとも1つのSCSIインターフェースと1つのLANインターフェースが必要ですが、それらはリモート・システムの別々のイニシエーター・ポート上にあっても構いません。

このパラメーターは最大4回繰り返し指定することができます。

要素1: SCSIインターフェース

SCSIインターフェースを指定します。

***NONE**

このイニシエーター・ポートにSCSIインターフェースは構成されません。

要素1: アダプターアドレス

16進値 イニシエーター・ポートの12文字の16進アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 イニシエーター・ポートのIPアドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 イニシエーター・ポートのサブネット・マスクを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

***NONE**

このイニシエーター・ポートにゲートウェイ・アドレスは構成されません。

文字値 イニシエーター・ポートのゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素5: iSCSI修飾名

***GEN** システムはiSCSI修飾名を自動的に生成します。

文字値 イニシエーター・ポートのiSCSI修飾名を指定します。

iSCSI修飾名には次の文字を使用できます。

- 小文字に変換される英字の大文字のAからZ (RFC 3722を参照)
- 英字の小文字のAからZ
- 数字0から9
- ピリオド(.)
- ダッシュ(-)
- コロン(:)

要素2: LANインターフェース

LANインターフェースを指定します。

***NONE**

このイニシエーター・ポートにLANインターフェースは構成されません。

要素1: アダプターアドレス

16進値 イニシエーター・ポートの12文字の16進アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 イニシエーター・ポートのIPアドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 イニシエーター・ポートのサブネット・マスクを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

***NONE**

このイニシエーター・ポートにゲートウェイ・アドレスは構成されません。

文字値 イニシエーター・ポートのゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー構成を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:セキュリティ接続のネットワーク・サーバー構成

```
CRTNWSCFG NWSCFG(MYSEC)
TYPE(*CNNSEC)
IPSECRULE(*NONE)
TEXT('接続セキュリティ')
```

このコマンドは、セキュリティー規則のない接続セキュリティー構成を作成します。

例2: サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成

```
CRTNWSCFG NWSCFG(CAT4SP)
  TYPE(*SRVPRC)
  INZSP(*MANUAL)
  ENBUNICAST(*YES)
  SPINTNETA('1.5.10.75')
  SPCERTID(*ORGUNIT 'ACME CORP')
  EID(RTYM14A 3305R8U)
  TEXT('CAT4SPサービス・プロセッサ')
```

このコマンドは、サービス・プロセッサ構成を作成します。サービス・プロセッサはIPアドレス1.5.10.75を使用して接続されます。リモート・システムは製造番号RTYML4Aによって識別されます。サービス・プロセッサは、'ACME CORP'組織単位で構成された証明書を使用して、手動で保護されます。

例3: リモート・システムのネットワーク・サーバー構成

```
CRTNWSCFG NWSCFG(CAT4SVR)
  TYPE(*RMTSYS)
  SPNWSCFG(CAT4SP)
  RMTSYSID(*SPNWSCFG)
  DELIVERY(*DYNAMIC)
  RMTIFC(((1111111111111111 '1.5.10.10'
            '255.255.255.0' '1.5.10.129' *GEN)
            (1FFFFFFFFF '1.5.10.20'
            '255.255.255.0' '1.5.10.129'))))
  TEXT('CAT4SVRサービス・プロセッサ')
```

このコマンドは、リモート・システムを構成するために動的配布方式を使用するリモート・システム構成を作成します。システムは、SPNWSCFGパラメーターによって指定されたCAT4SPサービス・プロセッサを使用して識別されます。SCSI用のISCSIリモート・インターフェースは、1.5.10.10のIPアドレスおよび1.5.10.20のLANアドレスを使用して構成されます。ISCSI修飾名は自動的に生成されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF96C9

ネットワーク・サーバー構成&1が作成されませんでした。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

ネットワーク・サーバー記述の作成 (CRTNWS D)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述作成(CRTNWS D)コマンドは、ネットワーク・サーバーの記述を作成します。この記述には、サーバー・ソフトウェア・パラメーター、ネットワーク・プロトコル記述、および接続された通信装置の定義（例えば回線記述）が含まれます。

このコマンドは、初期サーバー構成の作成に必要なすべてのステップが組み込まれているネットワーク・サーバー構成(CFGNWS)メニューから実行しなければなりません。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

このコマンドの使用法の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「System iの統合」カテゴリーを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWS D	ネットワーク・サーバー 記述	通信名	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE, *AUTO	必須, 定位置 2
TYPE	ネットワーク・サーバー・タイプ	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: サーバー接続	*IXSVR, *ISCSI, *GUEST, *WINDOWSNT	
	要素 2: サーバー・オペレーティング・システム	*WIN32, *LINUX32, *WIN64, *LINUX64, *LINUXPPC, *AIXPPC, *OPSYS	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
STGPTH	記憶域パス	値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	名前, *NONE	
	要素 2: IPセキュリティ規則	要素リスト	
	要素 1: リモート・インターフェース 1規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 2: リモート・インターフェース 2規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 3: リモート・インターフェース 3規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 4: リモート・インターフェース 4規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
DFTSECRULE	省略時IP セキュリティ規則	1-16, *NONE	オプション
MLTPTHGRP	マルチパス・グループ	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 1-4	オプション
DFTSTGPTH	省略時記憶域パス	1-4, <u>1</u> , *MLTPTHGRP	オプション
RMVMEDPTH	取り外し可能媒体パス	1-4, <u>1</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-1800, <u>120</u>	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	1-15, *NOWAIT	オプション
SHUTDTIMO	シャットダウン・タイムアウト	2-45, *TYPE	オプション
PARTITION	区画	文字値, *NONE	オプション
PTNNBR	区画番号	1-65535, *NONE	オプション
DMNROLE	ドメインの役割	*DMNCTL, *BKUCTL, *SERVER	オプション
PRPDMNUSR	ドメイン・ユーザーの伝搬	*YES, *NO	オプション
LNGVER	言語バージョン	整数, *PRIMARY	オプション
CODEPAGE	コード・ページ	整数, *LNGVER	オプション
MSGQ	サーバー・メッセージ待ち行列	単一値: *JOBLOG, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
EVTLOG	イベント・ログ	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SYS, *SEC, *APP	オプション
CMNMSGQ	通信メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 通信メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CFGFILE	構成ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 構成ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SVRSTGSIZE	サーバー記憶スペースのサイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース導入サイズ	整数, *DFT	
	要素 2: システム・サイズ	整数, *DFT	
SVRSTGASP	サーバー記憶スペースASP	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース導入ASP	1-255, <u>1</u>	
	要素 2: システム ASP	1-255, <u>1</u>	
STGASPDEV	サーバー記憶域ASP装置	要素リスト	オプション
	要素 1: ソースASPの導入	名前	
	要素 2: システムASP装置	名前	
POOL	プール識別コード	*BASE, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TCPPORTCFG	TCP/IPポート構成	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	1, 2, 3, 4, *INTERNAL, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: 最大伝送 単位	整数, <u>1500</u>	
	要素 5: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
TCPRTE	TCP/IP経路構成	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 経路宛先	文字値, *DFTRROUTE	
	要素 2: サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	
	要素 3: ネクスト・ホップ	文字値	
TCPHOSTNAM	TCP/IPローカル・ホスト名	文字値, <u>*NWSD</u>	オプション
TCPDMNNAME	TCP/IPローカル・ドメイン名	文字値, <u>*SYS</u>	オプション
TCPNAMSVR	TCP/IP ネーム・サーバー・システム	単一値: <u>*SYS</u> , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
PORTS	ポート	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート番号	1-2, *INTERNAL, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: 回線記述	名前	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VRTETHPTH	仮想イーサネット・パス	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート番号	*VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	名前	
	要素 3: IPセキュリティ規則	要素リスト	
	要素 1: リモート・インターフェース 1規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 2: リモート・インターフェース 2規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 3: リモート・インターフェース 3規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 4: リモート・インターフェース 4規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
RSTDDEVRSC	制約された装置資源	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *ALLTAPE, *ALLOPT	オプション
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・システム名	名前, *DFT	
	要素 2: 接続セキュリティ名	名前, *DFT	
VRTETHCTLP	仮想イーサネット制御ポート	1024-65535, 8800	オプション
SYNCTIME	日付および時刻の同期化	*TYPE, *YES, *NO, *NONE	オプション
DSBUSRPRF	ユーザー・プロファイル無効	*AUTO, *NO	オプション
IPLSRC	IPLソース	*NWSSTG, *PANEL, *STMF, A, B, D	オプション
IPLSTMF	IPLストリーム・ファイル	パス名, *NONE	オプション
IPLPARM	IPLパラメーター	文字値, *NONE	オプション
PWRCTL	電源制御	*YES, *NO	オプション
SRVOPT	保守容易性オプション	文字値, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS D)

作成されるネットワーク・サーバー記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

通信名 ネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。名前は有効な通信名でなければなりません

ん。名前をコード・ポイントX'5B'の文字で終わらせることはできません。その文字はASCII文字セットのドル記号(\$)文字に変換されます。名前の末尾をドル記号(\$)にすることはできません。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。これは必須パラメーターです。

注: 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。ファイル・サーバーの入出力プロセッサ(IOP)または入出力アダプター(IOA)の資源名を指定してください。資源名の判別に関する詳細については、IBM Systems Hardware Information Centerで参照できます。

*NONE

ハードウェア資源はネットワーク・サーバー記述と関連していません。

1. この値が有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTまたは*ISCSIを指定している時だけです。
2. *NONEが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーター上で*ISCSIがサーバー接続に指定されている時だけです。
3. *NONEは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で *GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合には無効になります。
4. *NONEは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定し、さらにハードウェアがPOWER 5より前のものである場合のみ有効な値となります。

*AUTO

ハードウェア資源は、区画に基づいて決定されます。この値が有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定している時だけです。

名前 資源名を指定してください。

上

ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)

作成するネットワーク・サーバー記述のタイプを指定します。この情報は、サーバー接続およびサーバー・オペレーティング・システムを含む2つの部分から構成されています。

要素1: サーバー接続

*IXSVR

統合ネットワーク・サーバー記述を作成してください。*IXSVRにはサーバー・オペレーティング・システム値が必要です。

*ISCSI

ISCSI接続を使用するネットワーク・サーバー記述を作成します。*ISCSIにはサーバー・オペレーティング・システム値が必要です。

*GUEST

論理区画で実行中のゲスト・オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。 *GUESTに対してサーバー・オペレーティング・システム値は任意選択です。

注: *GUESTを指定することは、サーバー・オペレーティング・システムに*LINUXPPC付きの *GUESTを指定するのと同様です。

*WINDOWSNT

WINDOWSネットワーク・サーバー記述を作成してください。 *WINDOWSNTの場合には、サーバー・オペレーティング・システム値は無視されます。

注: *WINDOWSNTを指定することは、サーバー・オペレーティング・システムに*WIN32付きの *IXSVRを指定するのと同様です。

要素2: サーバー・オペレーティング・システム

注: *WINDOWSNTが最初の要素に指定されている場合には、この要素は無視されます。

*WIN32

Windows x86-32オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

*LINUX32

Linux x86-32オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

*WIN64

Windows x86-64オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。この値が有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で *ISCSIを指定している時だけです。

*LINUX64

LINUX x86-64オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。この値が有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で *ISCSIを指定している時だけです。

*LINUXPPC

Linux on POWERオペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

*AIXPPC

AIX on POWERオペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

*OPSYS

i5/OSオペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

注: *OPSYSは、POWER 5以降のハードウェアに限り有効です。

上

記憶域パス (STGPTH)

記憶域スペースが使用できる記憶域パスを指定します。この情報は、 **ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター**記述およびこのパスの**IPセキュリティ規則**を含む2つの部分から構成されています。このパラメーターには最大4つの値を入力できます。記憶域パスは、少なくとも1つ入力しなければなりません。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で *ISCSIを指定している時だけです。

要素1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

名前 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)の装置記述の名前を指定します。

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWS上での記憶域パス (STGPTH)パラメーターで固有でなければなりません。

*NONE

この記憶域パスは、このネットワーク・サーバー記述によって構成されません。

要素2: IPセキュリティ規則

タイプ*CNNSECのNWS構成(NWSCFG)で定義されたIPセキュリティ規則(IPSECRULE)パラメーターの相対項目を指定します。これは、各リモート・ポート機密保護に使用されます。

要素1: リモート・インターフェース 1規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース1が省略時IPセキュリティ規則 (DFTSECRULE)パラメーターで指定されたIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース1はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース1は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素2: リモート・インターフェース 2規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース2はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース2はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース2は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素3: リモート・インターフェース 3規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース3はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース3はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース3は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素4: リモート・インターフェース 4規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース4はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

***NONE**

リモート・インターフェース4はIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース4は指定したIPセキュリティー規則を使用します。

上

省略時IP セキュリティー規則 (DFTSECRULE)

タイプ接続セキュリティー(*CNNSEC)のネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)で定義されているIPセキュリティー規則 (IPSECRULE)パラメーターの定義済み項目を指定します。これは、省略時の機密保護規則を使うよう構成されている記憶域および仮想イーサネット接続に使用されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *ISCSIを指定している時だけです。

***NONE**

リモート・インターフェースはIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェースは指定したIPセキュリティー規則を使用します。

上

マルチパス・グループ (MLTPTHGRP)

記憶域パス (STGPTH)パラメーターで定義された記憶域パスを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、記憶域パス (STGPTH)パラメーターを参照してください。
2. このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *ISCSIを指定している時だけです。

単一値

***NONE**

マルチパス・グループは定義されません。

その他の値 (最大4個指定可能)

1から4 相対記憶域パスを少なくとも1つ指定します。

上

省略時記憶域パス (DFTSTGPTH)

記憶域パス (STGPTH)パラメーターで定義された記憶域パスを指定するか、あるいはマルチパス・グループ (MLTPTHGRP)パラメーターで定義されたマルチパス・グループを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、記憶域パス (STGPTH)パラメーターを参照してください。

2. このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して **サーバー接続**で ***ISCSI**を指定している時だけです。

1 省略時記憶域パスは、記憶域パス1を使用します。

2から4 省略時記憶域パスは記憶域パス2, 3,または4を使用します。

***MLTPHGRP**

省略時記憶域パスは、マルチパス・グループ記憶域パスを使用します。

上

取り外し可能媒体パス (RMVMEDPTH)

記憶域パス (**STGPTH**)パラメーターに定義された記憶域パスを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、 **記憶域パス (STGPTH)**パラメーターを参照してください。

2. このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して **サーバー接続**で ***ISCSI**を指定している時だけです。

1 取り外し可能媒体は、記憶域パス1を使用します。

2から4 取り外し可能媒体は記憶域パス2, 3,または4を使用します。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

リモート・サーバーのサービス・プロセッサへの接続の確立、あるいはリモート・サーバーのパワーオンでシステムが待機する時間 (秒数) を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して **サーバー接続**で ***ISCSI**を指定している時だけです。

120 活動化時間120秒が使用されます。

整数 30から1800 (秒数) の範囲の値を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

注:

1. **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で***IXSVR**または***ISCSI**を指定している時には、このパラメーターは無視されます。統合サーバーをオンに構成変更するには、TCP/IPインターフェースの変更(CHGTCPIFC)コマンドを使用し、AUTOSTARTパラメーターをサーバーの専用 LAN回線記述用に***YES**に設定してください。そうしない場合には、IPL処理が完了した後にサーバーをオンに変更するため始動プログラムを呼び出すことができます。

2. ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTが指定されている時には、*NOの指定をお勧めします。これで、IPL処理が完了すると、サーバーをオンに構成変更するために、始動プログラムが呼び出されることになります。
 3. 複数のネットワーク・サーバー記述がファイル・サーバー資源に作成されている場合には、ONLINE(*YES)を指定するネットワーク・サーバー記述は1つだけにしてください。複数のネットワーク・サーバー記述にONLINE(*YES)を指定すると、アルファベット順で最初の記述だけがIPL時にオンに構成変更されます。
- *YES** このネットワーク・サーバー記述は、IPL時に自動的にオンに構成変更されます。ネットワーク・サーバー記述に接続されたすべての構成オブジェクトもオンに構成変更されることになります。
- *NO** このネットワーク・サーバー記述は、IPL時に自動的にオンに構成変更されることはありません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・サーバー記述を非同期または同期のどちらでオンに構成変更するかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、オペレーティング・システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

注: TYPEが*WINDOWSNTまたは*IXSVRの場合にネットワーク・サーバー記述をオンに構成変更するとIOPがリセットされます。オンに構成変更待機時間は、リセット時間に加える時間を指定します。

***NOWAIT**

オペレーティング・システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・サーバー記述は、非同期にオンに構成変更されます。

1から15

待機する分数を指定してください。オペレーティング・システムは、構成変更(VRYCFG)コマンドを完了する前に、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されるまで、または指定された時間が経過するまで待機します。

上

シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)

シャットダウン・タイムアウト値を分数で指定します。これは、ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更される前に、統合サーバーのオペレーティング・システムがシャットダウンのために消費できる時間を制限する場合に使用されます。

***TYPE**

このシャットダウン・タイムアウト値は、ネットワーク・サーバー記述のタイプに基づきます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合、シャットダウン・タイムアウト値は31になります。それ以外のすべてのNWSDについては、シャットダウン・タイムアウト値は15になります。

2から45

待機する分数を指定してください。統合サーバーのオペレーティング・システムが正常にシャットダウンされるまで、あるいはネットワーク・サーバー記述をオフに構成変更する前に指定の時間が経過するまで、i5/OSは待機します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合、範囲は31-45分になります。

上

区画 (PARTITION)

この統合サーバーによって使用される論理区画の名前を指定します。最大48文字を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定している時には、区画 (PARTITION)または区画番号 (PTNNBR)パラメーターを指定することができますが、両方のパラメーターを指定することはできません。 ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定した時には、区画 (PARTITION)および区画番号 (PTNNBR)パラメーターを*NONEに設定できます。

*NONE

区画名は、この統合サーバーによって使用されません。

名前 この統合サーバーによって使用される区画の名前を指定します。 区画名PRIMARYを指定することはできません。

上

区画番号 (PTNNBR)

この統合サーバーによって使用される論理区画の番号を指定します。

注:

1. ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定している時には、区画 (PARTITION)または区画番号 (PTNNBR)パラメーターを指定することができますが、両方のパラメーターを指定することはできません。
2. ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定した時には、区画 (PARTITION)および区画番号 (PTNNBR)パラメーターを*NONEに設定できます。

*NONE

区画番号は、この統合サーバーによって使用されません。

整数 この統合サーバーによって使用される区画の番号を指定します。

上

ドメインの役割 (DMNROLE)

この統合サーバーによって実行されるドメイン制御装置の役割を指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、このパラメーターは無効です。

***DMNCTL**

この統合サーバーは、そのドメイン内のドメイン制御装置です。

***BKUCTL**

この統合サーバーは、そのドメイン内のバックアップ制御装置です。

***SERVER**

この統合サーバーは、独立サーバーです。

上

ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)

このネットワーク・サーバー記述でドメイン・ユーザー登録を許可するかどうかを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、このパラメーターは無視されます。

***YES** ドメイン・ユーザー登録の伝搬がこのネットワーク・サーバー記述に許可されます。

***NO** ドメイン・ユーザー登録の伝搬がこのネットワーク・サーバー記述に許可されません。

上

言語バージョン (LNGVER)

統合サーバー・プロダクトの言語バージョンを指定します。言語バージョンを変更するためには、所要の言語を指定した新しいネットワーク・サーバー記述を作成しなければなりません。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、このパラメーターは無効です。

***PRIMARY**

現在導入済みの1次各国語の言語バージョンが使用されます。

整数 使用される統合サーバー・プロダクトの言語バージョンを指定してください。言語は、統合サーバー・プロダクトの導入されているバージョンの1つでなければなりません。導入されている言語を判別するには、「ライセンス・プログラム(LICPGM)の処理」メニューを使用してください。言語バージョンは、コマンドに整数値として入力します。

サポートされる言語バージョン値には次のものがあります。

- 2902** エストニア語
- 2903** リトアニア語
- 2904** ラトビア語
- 2905** ベトナム語
- 2906** ラオ語
- 2909** ベルギー英語
- 2911** スロベニア語

- 2912 クロアチア語
- 2914 セルビア語
- 2922 ポルトガル語
- 2923 オランダ語
- 2924 英語
- 2925 フィンランド語
- 2926 デンマーク語
- 2928 フランス語
- 2929 ドイツ語
- 2930 日本語全般
- 2931 スペイン語
- 2932 イタリア語
- 2933 ノルウェー語
- 2937 スウェーデン語
- 2938 英大文字DBCS
- 2939 ドイツ語多国語文字セット
- 2940 フランス語多国語文字セット
- 2942 イタリア語多国語文字セット
- 2950 英語大文字
- 2954 アラビア語
- 2956 トルコ語
- 2957 ギリシャ語
- 2958 アイスランド語
- 2961 ヘブライ語
- 2962 日本語漢字
- 2963 ベルギー・オランダ語各国間共通文字セット
- 2966 ベルギー・フランス語各国間共通文字セット
- 2972 タイ語
- 2974 ブルガリア語
- 2975 チェコ語
- 2976 ハンガリー語
- 2978 ポーランド語
- 2979 ロシア語
- 2980 ブラジル・ポルトガル語
- 2981 カナダ・フランス語各国間共通文字セット
- 2984 英語DBCS

- 2986 韓国語
- 2987 中国語（繁体字）
- 2989 中国語（簡体字）
- 2992 ルーマニア語
- 2994 スロバキア語
- 2995 アルバニア語
- 2996 ポルトガル語多国語文字セット
- 2998 ペルシア語

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバルゼーション」トピック・コレクションを参照してください。

上

コード・ページ (CODEPAGE)

この統合サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定します。指定の国別または地域コードには、特定のコード・ページだけを使用することができます。

*LNGVER

選択した言語バージョン(LNGVER)と対応する省略時のコード・ページを使用することを指定します。ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、値437が使用されます。

整数 統合サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定してください。各国別または地域コードで使用できるコード・ページ値は、次の通りです。

- 437 米国
- 850 多国語
- 852 ラテン語2 (チェコスロバキア、ハンガリー、ポーランド、旧ユーゴスラビアの各国)
- 857 トルコ語
- 860 ポルトガル語
- 861 アイスランド
- 862 ヘブライ語圏
- 863 カナダ (フランス語圏)
- 864 アラビア語圏
- 865 北欧ゲルマン系言語
- 866 ロシア語
- 932 日本語
- 934 韓国語
- 938 中国語

942	日本語SAA
944	韓国語SAA
948	中国語SAA
950	中国語（繁体字）(DBCS)
1381	中国語（簡体字）(DBCS)

上

サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

統合サーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定します。

このメッセージ待ち行列に送られるメッセージのタイプの詳細については、統合サーバーのタイプに関連した適切な資料を参照してください。

注: *NONE以外の値が指定されている場合には、すべての統合サーバー活動はモニター・ジョブ・ログまたは指定されたメッセージ待ち行列に記録されます。適切な手順でi5/OSシステムでこの情報を保護してください。

i5/OSで統合サーバー情報に対するアクセスを制限する1つの方法として、サーバー活動を収めるメッセージ待ち行列を作成できます。このメッセージ待ち行列をAUT(*EXCLUDE)で作成してください。その結果、統合サーバー活動にアクセスすることができるユーザーにはすべて、GRTOBJAUTコマンドによってそのメッセージ待ち行列に対する明示権限を与えることができます。このパラメーターにはこのメッセージ待ち行列を指定してください。

単一値

***JOBLOG**

メッセージは、モニター・ジョブのジョブ・ログに入れられます。

***NONE**

メッセージは、どのメッセージ待ち行列にも入れられません。

修飾子1: サーバー・メッセージ待ち行列

名前 統合サーバーによって出されたメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

イベント・ログ (EVTLOG)

イベント・ログのメッセージがサーバーから受け取られるかどうかを指定します。

注:

1. イベント・ログ・メッセージは、**サーバー・メッセージ待ち行列(MSGQ)**パラメーターに指定されたメッセージ待ち行列に入れられます。このパラメーターに*NONE以外の値を指定した場合には、MSGQ値を*NONEとすることはできません。詳細については、MSGQパラメーターの説明を参照してください。
2. **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*GUESTを指定した時、あるいは**サーバー・オペレーティング・システム**で*LINUX32または*LINUX64を指定した時には、このパラメーターは無効です。

単一値

***ALL** すべてのイベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***NONE**

イベント・ログ・メッセージは受け取られません。

その他の値 (最大3個指定可能)

注: それぞれの値は、一度しか指定することができません。

***SYS** システム・イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***SEC** 機密保護イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***APP** アプリケーション・イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

上

通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で*ISCSIを指定した時だけです。

単一値

***SYSOPR**

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージは、システム操作員のメッセージ待ち行列に入れられます。

修飾子1: 通信メッセージ待ち行列

名前 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

構成ファイル (CFGFILE)

統合サーバーの活動化または詳細定義に使用する構成データが入っているソース・ファイルを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定している時には、このパラメーターは無効です。

単一値

***NONE**

構成ファイルは指定されません。

修飾子1: 構成ファイル

名前 サーバーの構成データ・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。サーバーが活動化される時点で、ファイル内のすべてのメンバーが処理されます。このファイルは、サーバーが活動化される時点までにシステム上に存在していなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)

記憶スペースのサイズをメガバイト単位で指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定している時には、このパラメーターは無効です。

要素1: ソース導入サイズ

サーバーを導入するために使用されるファイルを収めるドライブのサイズを指定します。

***DFT** 省略時のドライブ・サイズが使用されます。

整数 導入ソース・ドライブのサイズに使用するメガバイト数を指定します。有効な値の範囲は200から2047メガバイトです。

要素2: システム・サイズ

統合サーバーのオペレーティング・システムが導入されているドライブのサイズを指定します。

***DFT** 省略時のドライブ・サイズが使用されます。

整数 システム・ドライブ・サイズに使用するメガバイト数を指定します。有効な値の範囲は500から1024000メガバイトです。

上

サーバー記憶スペースASP (SVRSTGASP)

統合サーバーを導入するために使用されるファイルが入れられることになる記憶域スペースおよび統合サーバーのオペレーティング・システムが入れられることになる記憶域スペースの補助記憶域プール(ASP) IDを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して**サーバー接続**で *GUESTを指定している時には、このパラメーターは無効です。

注: 同じ要素にSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

要素1: ソース導入ASP

統合サーバーを導入するために使用されるファイルを収める記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶域スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）に作成されます。

2から255

使用されるASPの番号を指定してください。有効な値は、システム定義されているASPにより異なります。

要素2: システム ASP

統合サーバーのオペレーティング・システムが入っている記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶域スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）に作成されます。

2から255

使用されるASPの番号を指定してください。有効な値は、システム定義されているASPにより異なります。

上

サーバー記憶域ASP装置 (STGASPDEV)

統合サーバーを導入するために使用されるファイルが入れられることになる記憶域スペースおよび統合サーバーのオペレーティング・システムが入れられることになる記憶域スペースの補助記憶域プール(ASP) 装置を指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して**サーバー接続**で *GUESTを指定している時には、このパラメーターは無効です。

注: ASPは(ASP装置をオンに構成変更することによって) 活動化されていなければならない、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

注: 同じ要素にSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

要素1: ソースASPの導入

統合サーバーを導入するために使用されるファイルを収める記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバーの記憶域スペースとして使用するASPの装置名を指定してください。

要素2: システムASP装置

統合サーバーのオペレーティング・システムが入っている記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

名前 ネットワーク・サーバーの記憶域スペースとして使用するASPの装置名を指定してください。

上

プール識別コード (POOL)

この統合サーバーが使用する共用データの記憶域プールを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*IXSVRまたは*WINDOWSNTを指定した時には、このパラメーターは無効です。

*BASE

基本プールは、この統合サーバーで使用されるものです。

*SHRPOOLNN

この統合サーバーで使用される共用プールを指定します。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1から*SHRPOOL60によって識別されます。

上

TCP/IPポート構成 (TCPPOORTCFG)

統合サーバーのポートに固有のTCP/IP構成値を指定します。

この情報には、統合サーバー・ポートの識別、そのポートに割り当てられているIPアドレス、サブネット・マスク、MTU、および省略時のゲートウェイを含む5つの部分があります。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定している時には、*NONEを指定することができません。

単一値

*NONE

TCP/IPポート構成がありません。

その他の値 (最大5個指定可能)

要素1: ポート

注: それぞれの値は、一度しか指定することができません。

- 1 統合サーバーのポート番号1が構成されます。
- 2 統合サーバーのポート番号2が構成されます。
- 3 統合サーバーのポート番号3が構成されます。
- 4 統合サーバーのポート番号4が構成されます。

*INTERNAL

統合サーバー内部トークンリング・ポートが構成されます。

注: 対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*ISCSIまたは*GUESTを指定した時には、*INTERNALは無効です。

*VRTETHPTP

統合サーバー仮想イーサネットのPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

*VRTETHN

仮想イーサネット・ポート'**N**'が構成されます。ここで'**N**'は0から9の数字です。

要素2: IPアドレス

文字値 統合サーバー・ポートと関連したインターネット・アドレスを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。

注: 選択するIPアドレスは、すべてのネットワーク・サーバー記述およびI5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。

要素3: サブネット・マスク

文字値 統合サーバー・ポートと関連したサブネット・マスクを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: 最大伝送単位

1500 最大伝送単位(MTU)値は1500バイトです。

整数 インターフェースのMTU値を指定します。

要素5: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値 統合サーバー・ポートに関連したゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

TCP/IP経路構成 (TCPROUTE)

統合サーバーの伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成に対してリモート宛先システムまたはネットワークへの経路を指定します。経路指定は3つの要素(経路宛先、サブネット・マスク、およびネクスト・ホップIPアドレス)から成っています。最大24個の経路指定を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定している時には、このパラメーターは無視されます。

2つの値で経路が固有なものとして識別されます。これらは経路宛先フィールドとサブネット・マスクです。*DFTRROUTEの場合には、ネクスト・ホップ要素で経路が固有なものとして識別されます。

単一値

*NONE

統合サーバーに必要な経路指定がありません。TCPROUTECFG(*NONE)が指定されているときは、*NONEを指定する必要があります。*NONEを指定することができるのは、経路の指定の必要がない場合です。

要素1: 経路宛先

追加されるリモート・ネットワークまたはホストを指定します。IPアドレスを構成する4つのバイトはすべて指定しなければなりません。一部は0にできます。例えば、9.5.11サブネット上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスクと組み合わせて使用すると、経路宛先はネットワークまたはシステムへの経路を識別します。

*DFTRROUTE

TCP/IPの省略時の経路が使用されます。省略時の経路項目は、未定義のネットワークまたはシステムに送られるデータを経路指定するためにシステムによって使用されます。複数の*DFTRROUTE項目を指定することができます。各*DFTRROUTE項目は指定された順序で使用されます。

*DFTRROUTE項目上の一定のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用可能でない場合には、指定された後続の*DFTRROUTE項目のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用されます。これは、活動状態の*DFTRROUTE項目のゲートウェイが見つかるか、あるいはネクスト・ホップ・ゲートウェイ値のリストが使い果たされるまで続きます。

文字値 追加する経路宛先を指定してください。経路宛先は次のように指定できます。クラスAの場合 *NNN.0.0.0*、クラスBの場合 *NNN.NNN.0.0*、クラスCの場合 *NNN.NNN.NNN.0*、組み合わせの場合 *NNN.NNN.NNN.NNN*。NNNは0から255の範囲の10進数です。

注: その組み合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスはクラスAネットワーク・アドレスですが、9.5サブネット上のホストへの9.5.0.0といった経路を指定できることを意味します。

例外:

- 最初のバイト (オクテット) は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト (オクテット) は255であってはなりません。
- SUBNETMASK値に*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト (オクテット) は0であってはなりません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路は使用できません。

要素2: サブネット・マスク

経路宛先要素に*DFTRROUTEまたは経路宛先を入力した場合には、サブネット・マスク値を指定しなければなりません。サブネット・マスクは、TCP/IP に対して経路宛先に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワーク部分およびサブネット部分を構成するかを識別するビット・マスクを指定します。サブネットは、経路宛先IPアドレスとサブネット・マスクを結合することによって識別されます。

*NONE

サブネット・マスクはありません。経路宛先要素に*DFTRROUTEを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。*NONEは*DFTRROUTEの経路宛先値にしか有効ではありません。

*HOST

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、255.255.255.255となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。IPアドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式です。この場合、*nnn*は0から255の範囲の10進数です。例えば、129.35.11.0という宛先経路のIPアドレス値はクラスBのサブネットです。そのアドレスのネットワークID部分は129.35です。サブネット・マスクの始め2バイトは255を示さなければなりません。例えばサブネット・マスクは、255.255.X.Xのようにないなければなりません。Xはユーザーが決定します。特定のクラスのアドレスのネットワーク部分に関連するサブネット・マスクの部分は255になっていなければなりません。

要素3: ネクスト・ホップ

ネクスト・ホップ値は、経路上の次のシステム（ゲートウェイ）のIPアドレスを指定します。ネクスト・ホップ要素で指定されたIPアドレスが統合サーバー・ポートの1つに関連したネットワークを経由して直接に到達できないかぎり、経路を追加することはできません。

IPアドレスの概要については、*FASTPATH FOR TCP/IP*ブックを参照してください。

文字値 経路上の次のシステムのIPアドレスを*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定してください。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ただし、IPアドレスのホストID部分およびネットワークID部分は全桁0または全桁1とすることはできません。IPアドレスのネットワークID部分およびホストID部分がすべて2進0または1となっているIPアドレスは正しくありません。

上

TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)

統合サーバーと関連付けるホスト名を短い形式で指定します。

ホスト名は1から63文字のテキスト・ストリングにすることができます。

ホスト名には次の文字を使用できます。

- 英字AからZ
- 数字0から9
- マイナス符号(-)
- ピリオド(.)
- 下線(_)

***NWSD**

統合サーバーのホスト名がネットワーク・サーバー記述の名前と同じであることを指定します。
TCP/IPポート構成(TCPPORTCFG)パラメーターに*NONEを指定した場合には、*NWSDを指定しなければなりません。

名前 統合サーバーと関連付けるホスト名を指定してください。

上

TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)

統合サーバーに関連したローカル・ドメイン名を指定します。

ドメイン名は、1文字から255文字までのテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切られた1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには、最大63文字まで入れることができます。ドメイン名では、次の文字を使用できます。

- 英字AからZ
- 数字0から9
- マイナス符号(-)
- 下線(_)
- ピリオド(.)。ピリオドは、ドメイン・スタイル名のラベルを区切る場合にのみ使用することができます (RFC 1034を参照)。

大文字と小文字を使用することができますが、その区別は重要ではありません。大文字と小文字は入力されたそのままになります。ホスト名の最初と最後の文字は英字または数字でなければなりません。

注: TCPPORTCFG(*NONE)が指定されている場合には、*SYSを指定する必要があります。また、TCPPORTCFGパラメーターで*INTERNALポートしか指定しない場合には、*SYSも指定する必要があります。

***SYS** 統合サーバーのローカル・ドメイン名は、i5/OSシステム用に構成されているのと同じ値であることを指定します。

文字値 統合サーバーに関連付けるTCPドメイン名を指定します。

上

TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)

統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。一般に、これはi5/OSシステムの場合と同じ値です。

注: TCPPORTCFG(*NONE)が指定されている場合には、*SYSを指定する必要があります。

単一値

***SYS** 統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムは、i5/OSの場合と同じにする必要があります。

***NONE**

統合サーバーによって使用されるネーム・サーバーがありません。

その他の値（最大3個指定可能）

文字値 統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定してください。リモート・ネーム・サーバー・システムは3個まで指定できます。ネーム・サーバー・システムは指定されている順序にしたがって使用されます。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

ポート (PORTS)

統合サーバーで、*INTERNALポート、*VRTETHポート、あるいは2回線ポートに接続された回線の名前を指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定している時には、このパラメーターは無効です。

*NONE

このサーバーに回線は接続されません。回線は、回線記述の作成時に、その中にこのサーバー記述を指定することによって、後で接続することができます。

要素1: ポート番号

***INTERNAL**

*INTERNALを指定した場合には、回線記述はトークンリング・ネットワーク(TRN)の名前でなければなりません。また*INTERNALは、1つのトークンリング回線記述にしか指定することはできません。対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*ISCSIを指定した時には、この値は無効です。

***VRTETHPTP**

統合サーバー仮想イーサネットのPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

***VRTETHN**

仮想イーサネット・ポート'**N**'が構成されます。ここで'**N**'は0から9の数字です。

- 1 統合サーバーのポート番号1が構成されます。この値は、サーバー接続タイプ*ISCSIでは無効です。
- 2 統合サーバーのポート番号2が構成されます。この値は、サーバー接続タイプ*ISCSIでは無効です。

要素2: 回線記述

名前 既存の回線記述の名前を指定してください。トークンリング・ネットワーク(TRN)またはイーサネット(ETH)回線記述の名前を指定することができます。この回線は、RSRCNAME(*NWS)を指定して作成されていなければならない、また、現在別のサーバーに接続されているものであってはなりません。トークンリング・ネットワーク(TRN)回線記述の名前は、サーバー接続タイプ*ISCSIでは無効です。

上

仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)

イーサネット回線記述が使用できる仮想イーサネット・パスを指定します。この情報は、仮想イーサネット・ポート、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター記述、およびこのパスのIPセキュリティー規則を含む3つの部分から構成されています。このパラメーターには最大5つの値を入力できます。

*VRTETHPTH回線記述が使用するパスである仮想イーサネット・パスを少なくとも1つ入力しなければなりません。

注: このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *ISCSIを指定している時だけです。

要素1: ポート番号

*VRTETHPTP

統合サーバー仮想イーサネットのPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

*VRTETHN

仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の数字です。

要素2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

名前 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)記述の名前を指定してください。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWS上での各VRTETHPTHパラメーターで固有である必要はありません。

要素3: IPセキュリティー規則

タイプ*CNNSECのNWS構成(NWSCFG)で定義されたIPセキュリティー規則(IPSECRULES)パラメーターの相対項目を指定します。これは、各リモート・ポート機密保護に使用されます。

要素1: リモート・インターフェース 1規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース1が省略時IPセキュリティー規則 (DFTSECRULE)パラメーターで指定されたIPセキュリティー規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース1はIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース1は指定したIPセキュリティー規則を使用します。

要素2: リモート・インターフェース 2規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース2はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティー規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース2はIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース2は指定したIPセキュリティー規則を使用します。

要素3: リモート・インターフェース 3規則

***DFTSECRULE**

リモート・インターフェース3はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

***NONE**

リモート・インターフェース3はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース3は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素4: リモート・インターフェース 4規則

***DFTSECRULE**

リモート・インターフェース4はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

***NONE**

リモート・インターフェース4はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース4は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

上

制約された装置資源 (RSTDDEVRS)

制限されていて、統合サーバーによって使用できないテープおよび光ディスク装置の資源名を指定します。

統合サーバーが活動状態であり、要求がアプリケーションを実行中のクライアントから出された時に、この資源が使用されます。クライアント・アプリケーションとi5/OSベースのアプリケーションが同時にこの装置資源を使用することはできません。装置資源をアプリケーションによって使用する予定の場合には、アプリケーションが使用準備のできている時に使用可能にする必要があります。

注:

1. テープ装置資源および光ディスク装置資源だけが制約できます。
2. 有効でないかまたは検出されないその他の装置資源を指定する場合には、ネットワーク・サーバー記述をオンに構成変更できません。

単一値

***NONE**

装置資源は統合サーバーから制約されません。したがって、システムに存在するテープ装置資源または光ディスク装置資源を使用できます。

***ALL** すべてのテープ装置および光ディスク装置資源が統合サーバーによる使用から制約されます。

その他の値 (最大10個指定可能)

***ALLOPT**

すべての光ディスク装置資源が統合サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

*ALLTAPE

すべてのテープ資源が、統合サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

名前 統合サーバーによって使用できない制限された装置の資源名を指定してください。最大10個の制限された装置資源名を指定することができます。

上

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

このNWSDで使用するネットワーク・サーバー構成記述を指定します。この情報は、リモート・システム名および接続セキュリティ名を含む2つの部分から構成されています。

注: このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *ISCSIを指定している時だけです。

要素1: リモート・システム名

***DFT** システム生成された省略時リモート・システム・ネットワーク・サーバー構成名、'NWSDNAMERM'を使用します。ここでNWSDNAMEは、このネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成記述の名前を指定してください。

要素2: 接続セキュリティ名

***DFT** システム生成された省略時接続セキュリティ・ネットワーク・サーバー構成名である'nwsdnameCN'を使用します。ここでnwsdnameは、このネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存の接続セキュリティ・ネットワーク・サーバー構成記述の名前を指定してください。

上

仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)

仮想イーサネット制御に使用するTCPポートを指定します。

このポートは、仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)パラメーター上のネットワーク・サーバー記述 (NWSD)オブジェクトと関連したネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)装置で構成されたローカル・エリア・ネットワーク(LAN)インターフェースを通してLISTENします。

注: このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *ISCSIを指定している時だけです。

8800 TCPポート番号8800を使用します。

整数 仮想イーサネット制御に使用されるポートを識別するポート番号を指定します。有効な値の範囲は1024から65,535です。

上

日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)

i5/OSが統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化するかどうかを指定します。

時刻の同期化が正しく働くようにするためには、QTIMZONシステム値を正しい値に設定しなければなりません。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

*TYPE

i5/OSはネットワーク・サーバー記述タイプに基づいて同期を実行します。ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*IXSVR, *ISCSI,または*WINDOWSNTを指定した場合、同期は、SYNCTIME(*YES)が指定されたものとして実行されることになります。

***YES** i5/OSは、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化します。

ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定した場合、次のことが行われます。

- ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された場合には、このリセットがただちに実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。
- ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている場合には、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された時にこのリセットが実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。

***NO** i5/OSは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と一度だけ同期化します。

*NONE

i5/OSは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化することはありません。

上

ユーザー・プロファイル無効 (DSBUSRPRF)

対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合に、統合サーバーのユーザー・プロファイルを使用不可にするかどうかを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、このパラメーターは無効です。

*AUTO

対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合、統合サーバーのユーザー・プロファイルは使用不可になります。

***NO** 対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合、統合サーバーのユーザー・プロファイルは使用不可になりません。

上

IPLソース (IPLSRC)

区画を開始するロード・イメージのソースを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で *GUESTを指定している時だけです。

*NWSSTG

この区画は、このネットワーク・サーバー記述に接続された最初のネットワーク・サーバー記憶スペースのロード・イメージを使用して開始されます。

*STMF

この区画は、IPLストリーム・ファイル(IPLSTMF)パラメーターによって指定されたストリーム・ファイルのロード・イメージを使用して開始されます。

注: **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー・オペレーティング・システム**で *OPSYSを指定している時には、この値は無効です。

*PANEL

この区画は、操作員パネルで指示されたソースから開始されます。

- A この区画はAソースから開始されます。
- B この区画はBソースから開始されます。
- D この区画はDソースから開始されます。

上

IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)

この区画をロードするイメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で*GUESTを指定し、 **IPLソース(IPLSRC)**パラメーターに*STMF を指定している時だけです。

*NONE

ストリーム・ファイルは指定されません。

パス名 ロード・イメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。 最大5000文字を指定することができます。

上

IPLパラメーター (IPLPARM)

IPL時にロード・イメージに渡す文字のストリングを指定します。 これはゲスト・オペレーティング・システムのコマンドおよび構成情報から構成されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で *GUESTを指定している時だけです。

*NONE

IPLパラメーターはロード・イメージへ渡されません。

注: *NONEは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合のみ有効な値となります。

文字値 ロード・イメージに渡すための、IPLパラメーターを含む最大256文字のSTRINGを指定します。

上

電源制御 (PWRCTL)

統合サーバー区画が、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに電源遮断されるかどうか、また、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに電源投入されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で *GUESTを指定している時だけです。

***YES** 統合サーバー区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに電源遮断され、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに電源投入されます。

***NO** 統合サーバー区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されても電源遮断されず、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されても電源投入されません。

上

保守容易性オプション (SRVOPT)

保守容易性オプションを指定します。このパラメーターを使用すると、保守容易性オプションが、サービス・プロバイダーの指示の下で使用されるものとして提供されるようになります。

***NONE**

保守容易性オプションは提供されません。

文字値 サービス・プロバイダーによって指示された値を指定します。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

注: Windowsサーバーの導入(INSWNTSVR)またはLinuxサーバーの導入(INSLNXSVR)コマンドは、ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、*ISCSI、*IXSVR、または*WINDOWSNTのサーバー接続を作成する場合に使用されます。CRTNWSDCOMMANDのネットワーク・サーバー記述の使用に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「System iの統合」カテゴリを参照してください。

例1: *GUEST NWSDCOMMANDの作成

```
CRTNWSDCOMMAND NWSDCOMMAND(LINUX1) RSRCCNAME(*NONE) TYPE(*GUEST)
PARTITION(TEST)
VRYWAIT(*NOWAIT) CODEPAGE(437) POOL(*SHRPOOL5)
TCPPOORTCFG((1 '9.5.3.2' '255.255.255.0' 2048))
TCPHOSTNAME(*NWSDCOMMAND) TCPDMNNAME(*SYS) TCPNAMESVR(*SYS)
```

このコマンドは、LINUX1という名前のネットワーク・サーバー記述を作成します。LINUX1には関連した資源名がありません。LINUX1は、TESTという名前の論理区画で稼働中のゲスト・オペレーティング・シ

システムと関連したネットワーク・サーバー記述です。 LINUX1がオンに構成変更されると、TCP/IPプロトコル・スタックが活動化されます。コード・ページ437 (米国) が使用されます。ポート1にはTCP/IPのIPアドレスが割り当てられます。共用ストレージ・プール5がこのNWSDで使用されます。TCP/IPローカル・ホスト名は、ネットワーク・サーバー記述名と同じです。TCP/IPローカル・ドメイン名は、IBM System i5と同じであり、同じTCP/IPネーム・サーバー・システムが使用されます。

例2: *GUEST NWSDの作成

```
CRTNWSD NWSD(MYNWSD) RSRNAME(CMN04) TYPE(*GUEST *OPSYS)
PARTITION(TEST) VRYWAIT(*NOWAIT) CODEPAGE(437)
```

このコマンドは、資源名がCMN04のMYNWSDという名前のネットワーク・サーバー記述を作成します。LINUX1は、TESTという名前の論理区画で稼働中のゲスト・オペレーティング・システムと関連したネットワーク・サーバー記述です。論理区画のオペレーティング・システムは、i5/OSです。コード・ページ437 (米国) が使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26AC

ネットワーク・サーバー記述&1はエラーが原因で作成されなかった。

上

NWS記憶スペースの作成 (CRTNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース作成(CRTNWSSTG)コマンドは、ネットワーク・サーバーによって使用される記憶スペースを作成します。ネットワーク記憶スペースは、ネットワーク・サーバー記述にリンクされていなければ使用することができません。詳細については、ネットワーク・サーバー記憶リンク追加(ADDNWSSTGL)コマンドを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
NWSSIZE	サイズ	整数, *CALC	オプション, 定位置 2
FROMNWSSTG	開始記憶スペース	名前, *NONE	オプション
FORMAT	形式	*NTFS, *FAT, *FAT32, *OPEN, *NTFSQR	オプション
OFFSET	データ・オフセット	*FORMAT, *ALIGNLGLPTN, *ALIGNLGLDSK, *NONE	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-255, <u>1</u>	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前	オプション
CLUDMN	クラスター・ドメイン名	文字値	オプション
CLUPORTCFG	クラスター・ポート構成	要素リスト	オプション
	要素 1: 接続ポート	*VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: クラスターIPアドレス	文字値	
	要素 3: クラスター・サブネット・マスク	文字値	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

上

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

作成するネットワーク・サーバー記憶スペースの名前を指定してください。

上

サイズ (NWSSIZE)

作成するネットワーク・サーバー記憶スペースのサイズを指定します。

*CALC

FROMNWSSTGパラメーターが*NONEの場合、計算されるサイズは、指定した次のFORMATタイプに基づきます。

- *NTFSは、この記憶スペースのサイズを'2' MBに設定します。
- *FATまたは*OPENは、この記憶スペースのサイズを'1' MBに設定します。
- *FAT32は、この記憶スペースのサイズを'512' MBに設定します。
- *NTFSQRは、この記憶スペースのサイズを'500' MBに設定します。

FROMNWSSTGパラメーターに有効なネットワーク・サーバー記憶スペース名が指定されている場合には、FROMNWSSTGパラメーターに指定された記憶スペースと同じサイズで新しい記憶スペースが作成されます。

1から1024000

ネットワーク・サーバー記憶スペースのサイズをメガバイトで指定してください。

- FORMAT(*NTFS)の範囲は2から1024000 MBです。
- FORMATタイプが*FAT, *FAT32,および*OPENの範囲は1から1024000 MBです。
- FORMAT(*NTFSQR)の範囲は500から1024000 MBです。

FROMNWSSTGネットワーク・サーバー記憶スペースが指定されている場合には、NWSSIZE パラメーターが、FROMNWSSTGパラメーターに指定されたネットワーク・サーバー記憶スペースのサイズ以上になっていなければなりません。

上

開始記憶スペース (FROMNWSSTG)

新しいネットワーク・サーバー記憶スペースにコピーされる既存のネットワーク・サーバー記憶スペースの名前を指定します。

*NONE

既存のネットワーク・サーバー記憶スペースからのコピー操作は実行されません。

名前 作成される新しいネットワーク・サーバー記憶スペースにコピーするために使用される既存のネットワーク・サーバー記憶スペース名。

上

形式 (FORMAT)

記憶スペースの初期作成時に、記憶スペースはシステムによってフォーマットされません。記憶スペースをネットワーク・サーバー記述にリンクさせ、ホスティングするオペレーティング・システムによってフォーマットすることが必要になります。

*NTFS

この記憶スペースのフォーマットは、接続タイプが*WINDOWSNT, *IXSVR,または*ISCSIのネットワーク・サーバー記述で使用されるマスター・ブート・レコード(MBR)区分化方式を用いた統合サーバーでの使用時に最大の利点があります。

記憶スペースは、Windowsネットワーク・サーバー記述へのリンク時にWindows NTファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。

***FAT** 記憶スペースはファイル割り振りテーブル・ファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。

***FAT32**

記憶スペースは32ビット・ファイル割り振りテーブル・ファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。

***OPEN**

記憶スペースはオープン・ソース・ファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。

この記憶スペースのフォーマットは、接続タイプ*GUEST、さらに一部のLinux配布版を使用する接続タイプ*IXSVRまたは*ISCSIのネットワーク・サーバー記述で使用される統合サーバーでの使用時に最大の利点があります。詳しいガイドラインについては、それぞれの製品資料を参照してください。

***NTFSQR**

このフォーマットで作成された記憶スペースには、この記憶スペースが統合サーバーのクラスター化に使用されるクォーラム資源ディスクとしてリンクできるようにするための特殊な属性が含まれます。

記憶スペースは、Windowsネットワーク・サーバー記述へのリンク時にWindows NTファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。

上

データ・オフセット (OFFSET)

基礎となるネットワーク・サーバー記憶スペースをホスティング・システム・ページに合わせて位置調整するためにシステムで使用するデータ・オフセット・セクター位置合わせを指定します。

注: これは拡張構成機能です。このパラメーターの設定を誤ると、実際の仮想ディスク・パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

ネットワーク・サーバー記憶スペースの仮想ディスクにアクセスする場合は、省略時の値以外のデータ・オフセット値を指定することでパフォーマンスが向上する可能性があります。実際のパフォーマンスに影響を与える要因は数多くあります。ネットワーク・サーバー記憶スペースのパフォーマンスに影響を与えるいくつかの要因としては、以下のことがあげられます。

- ネットワーク・サーバーのオペレーティング・システムのバージョンと配布。
- ディスクの区分化方法
- 使用されるファイル・システム
- アプリケーションとOSのデータ・アクセス・パターン

***FORMAT**

使用されるデータ・オフセット・セクター位置合わせは、選択されたネットワーク・サーバー記憶スペースのフォーマット・タイプによって決定されます。

フォーマット・タイプ*OPENを指定すると、省略時でディスク・イメージの先頭セクターがホスティング・システム・ページに合わせて位置調整されます。これはOFFSET(*ALIGNLGLDSK)を指定

することと同じです。このフォーマット・タイプが、共に使用するネットワーク・サーバー・タイプに応じたタイプかどうかを決定するには、そのネットワーク・サーバー・タイプに関する資料を参照してください。

他のすべてのフォーマット・タイプの場合は、省略時で先頭の論理区画がページで位置合わせされます。

フォーマット・タイプ*NTFS, *FAT, *FAT32,または*NTFSQRを指定すると、省略時で論理区画の先頭セクターがホスティング・システム・ページに合わせて位置調整されます。これはOFFSET(*ALIGNLGLPTN)を指定することと同じです。区画サイズが、以下のようにネットワーク・サーバー記憶スペースの合計サイズを基にした倍数の場合は、2次区画も位置合わせされません。

- 1024 MB以下の記憶スペースの場合、区画は1 MBの倍数になります。
- 1025 MBから511000 MBの記憶スペースの場合、区画は63 MBの倍数になります。
- 511000 MB以上の記憶スペースの場合、区画は252 MBの倍数になります。

*NONE

データ・オフセット・セクター位置合わせは使用されません。

*ALIGNLGLPTN

使用されるデータ・オフセット・セクター位置合わせは、先頭の論理区画セクターを位置合わせします。これは、フォーマット・タイプが*NTFS, *FAT, *FAT32,または*NTFSQRの場合に省略時で使用される値です。また、これは、PC BIOSマスター・ブート・レコードを使用してディスクを区分化する、大部分のPCサーバーのネットワーク・サーバー記述タイプ(*WINDOWSNT, *IXSVR, *ISCSI)に適しています。

*ALIGNGLDSK

使用されるデータ・オフセット・セクター位置合わせは、先頭の論理ディスク・セクターを位置合わせします。これは、フォーマット・タイプが*OPENの場合に省略時で使用される値です。また、これは、未加工のディスク・イメージへのアクセスに必要なほとんどの*GUESTおよび一部のネットワーク・サーバー・タイプに適しています。

上

補助記憶域プールID (ASP)

新しいネットワーク・サーバー記憶スペースが入れられる補助記憶域プール(ASP)を指定します。

注: 値はASPパラメーターとASPDEVパラメーターの両方には指定できません。

1 ネットワーク・サーバー記憶スペースは、システム補助記憶域プールASP 1に作成されます。

ASP番号

ネットワーク・サーバー記憶スペースは、ユーザー補助記憶域プール2から32または独立補助記憶域プール33から255に作成されます。

上

ASP装置 (ASPDEV)

ネットワーク・サーバー記憶スペースに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。

注: ASPは(ASP装置をオンに構成変更することによって) 活動化されていなければならない、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

注: 値はASPパラメーターとASPDEVパラメーターの両方には指定できません。

ASP装置名

ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名。

上

クラスター・ドメイン名(CLU DMN)

クラスターのドメイン名を指定します。これは、クラスター・サービス・アカウントが作成されるドメインです。

注: FORMAT(*NTFSQR)が指定されている場合は、このパラメーターが必須です。

上

クラスター・ポート構成(CLU PORTCFG)

クラスター・サービスに特定のTCP/IP構成値を指定します。この情報は、クラスター接続ポート、クラスターIPアドレス、およびクラスター・サブネット・マスクの3つの識別部分で構成されています。

注: FORMAT(*NTFSQR)が指定されている場合は、このパラメーターが必須です。

要素1: 接続ポート

このクラスター用に構成する仮想イーサネット・ポートを指定します。この接続は、各クラスター・ノード間の専用クラスター接続として使用されます。

要素2: クラスターIPアドレス

このクラスターのIPアドレスを指定します。IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。

要素3: クラスター・サブネット・マスク

クラスターIPアドレスと関連したサブネット・マスクを指定します。サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクは*NNN.NNN.NNN.NNN*という形式です。ここで、*NNN*は、0から255の範囲の10進数です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

記憶スペースを説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: NTFS形式記憶スペースの作成

```
CRTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE3) NWSSIZE(200) FORMAT(*NTFS)
```

このコマンドは、200 MBのサイズを持つSTGSPACE3と呼ばれるネットワーク・サーバー記憶スペースを作成します。

例2: 既存する記憶域スペースのコピー

```
CRTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE4) NWSSIZE(*CALC)  
FROMNWSSTG(FROMSTG) ASP(3)
```

このコマンドは、FROMSTGと同じサイズと形式を持つSTGSPACE4と呼ばれるネットワーク・サーバー記憶スペースを作成し、内容をSTGSPACE4にコピーします。これは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3に作成されます。

例3: 既存の記憶スペースのコピーと拡張

```
CRTNWSSTG NWSSTG(OPENWEB3) NWSSIZE(10000)  
FROMNWSSTG(WEBDATA) OFFSET(*ALIGNFST)
```

このコマンドは、新規サイズ10000 MBを持つOPENWEB3という名前のネットワーク・サーバー記憶スペースを作成し、内容をWEBDATAからコピーします。この新規記憶スペースOPENWEB3には、セクター・ゼロに合わせてページ位置を最適化するための独自のデータ・オフセット位置合わせセクターが設定されています。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPFA42D

記憶域スペース&1が作成されなかった。

上

出力待ち行列作成 (CRTOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列作成(CRTOUTQ)コマンドは、スプール・ファイルのための新しい出力待ち行列を作成します。各スプール・ファイルごとに1つの項目が出力待ち行列に入れられます。ファイルが出力装置に書き出される順序は、スプール・ファイルの出力優先順位および待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)パラメーターに指定された値によって決定されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MAXPAGES	スプール・ファイル最大サイズ	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ページ数	整数	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
	要素 3: 終了時刻	時刻	
SEQ	待ち行列上のファイルの順序	*FIFO, *JOBNBR	オプション
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR, *NONE, *PASTHR, *NWSA	オプション
RMTprtQ	リモート印刷装置待ち行列	文字値, *USER, *SYSTEM	オプション
AUTOSTRWTR	自動開始する書出プログラム	1-10, *NONE	オプション
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CNNTYPE	接続タイプ	文字値, *SNA, *IP, *USRDFN	オプション
DESTTYPE	宛先タイプ	文字値, *OS400, *OS400V2, *PSF2, *S390, *NDS, *OTHER	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	*YES, *NO	オプション
USRDTATFM	ユーザー・データ変換	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・データ変換	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MFRTPMDL	製造タイプおよび型式	文字値, *IBM42011, *WSCST	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *NONE	オプション
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CLASS	VM/MVSクラス	A , B , C , D , E , F , G , H , I , J , K , L , M , N , O , P , Q , R , S , T , U , V , W , X , Y , Z , 0 , 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7 , 8 , 9	オプション
FCB	用紙制御バッファ	文字値, *NONE , *USRDTA , *PRTF	オプション
DESTOPT	宛先オプション	文字値, *NONE , *USRDFNTXT , *NOWAIT	オプション
SEPPAGE	区切りページの印刷	*YES , *NO	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA , *DTAQ , *FILE , *PSFCFG , *USRIDX , *USRQ , *USRSPC	
USRDRVPGM	ユーザー・ドライバー・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SPLFASP	スプール・ファイルASP	*SYSTEM , *OUTQASP	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DSPDTA	ファイルの表示	*NO , *YES , *OWNER	オプション, 定位置 2
JOBSEP	ジョブ区切り	0-9, 0 , *MSG	オプション, 定位置 3
OPRCTL	操作員制御	*YES , *NO	オプション, 定位置 4
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
AUTCHK	検査権限	*OWNER , *DTAAUT	オプション
AUT	権限	名前, *USE , *ALL , *CHANGE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

出力待ち行列 (OUTQ)

作成する出力待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 作成したい出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 一時ライブラリーQTEMPは有効なライブラリー名ではありません。出力待ち行列は永続ライブラリーになければなりません。

スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)

開始時刻と終了時刻の間で印刷が許可されるスプール・ファイルの最大サイズをページ数で指定します。スプール・ファイルがページの制限を超える場合には、終了時刻になるまで印刷が据え置かれます (DFR状況)。正確なページ数が不明のファイルの場合には、見積ページ数が使用されます。(見積ページ数を見つけるためには、スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドを使用することができます。)時刻は24時間時計でHHMMSSの形式で指定しなければなりません。

単一値

*NONE

この出力待ち行列から印刷可能なスプール・ファイルのサイズに制限はありません。

その他の値 (最大5個指定可能)

要素1: ページ数

整数 印刷可能な最大スプール・ファイルをページ数で指定してください。

要素2: 開始時刻

時刻 スプール・ファイルの最大サイズの制限が始まる時刻を指定してください。

要素3: 終了時刻

時刻 最大スプール・ファイル・サイズの制限が終る時刻を指定してください。

待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)

出力待ち行列上のスプール・ファイルの順序を指定します。

***FIFO** 待ち行列は、各ファイルの優先順位内で先入れ先出しになっています。これは、同じ優先順位の他のすべての項目の後に、新しいスプール・ファイルが待ち行列に入れられることを意味します。

***JOBNBR**

スプール・ファイルの待ち行列項目は、スプール・ファイルを作成したジョブのジョブ番号（実際には、ジョブを入力したシステムが使用した日付および時刻）を使用して、優先順位にしたがって分類されます。

上

リモート・システム (RMTSYS)

出力待ち行列に対して（STRRMTWTRコマンドを使用して）リモート書き出しプログラムが開始された時にファイルが送られるリモート・システムを指定します。これは、SNADSによって「アドレス」として、またTCP/IPによって「ホスト」として参照されます。

***NONE**

出力待ち行列はローカル印刷にのみ使用されます。OUTQパラメーターにこの出力待ち行列が指定されている時には、STRRMTWTRコマンドを使用することはできません。

***PASTHR**

ユーザー・ジョブによって作成されたスプール・ファイルを送る時に、ユーザーが（STRPASTHRコマンドを使用して）パススルーを行ったシステムが使用されます。別のシステムからパススルーされたジョブによって作成されたスプール・ファイルでなかった場合には、そのスプール・ファイルは保留されます（HLD状況）。

***INTNETADR**

INTNETADRパラメーターは、リモート書き出しプログラムが出力待ち行列に対して開始される時にシステムを識別するために使用されます。ホスト・テーブルまたはドメイン・ネーム・サーバーがTCP/IPネットワークにある場合には、このパラメーターの代わりにリモート・システム名を使用できます。

注：この値はCNNTYPEパラメーターに*IPが指定されている場合にのみ有効です。

***NWSA**

RMTprtQパラメーターは、出力待ち行列へのリモート書き出しプログラムが開始される時に、システムを識別するために使用されます。この値が正しいのは、*NDSがDESTTYPEパラメーターに指定されている場合だけです。

リモート・システム名

リモート・システムの名前を指定してください。接続タイプ（CNNTYPEパラメーター）が*SNAとして指定されている時には最初の8文字だけが使用されます。リモート・システムの名前を小文字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

上

リモート印刷装置待ち行列 (RMTPRTO)

リモート書き出しプログラムがスプール・ファイルを送るリモート・システム(RMTSYSパラメーター) の印刷装置待ち行列を指定します。

*USER

スプール・ファイルを作成したユーザー・プロファイルによって、リモート・システムでのユーザーIDが決定されます。この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPE パラメーター) が*SNAとして指定された場合だけです。

*SYSTEM

リモート・システムの省略時のシステム印刷装置を使用して、印刷装置待ち行列が決定されます。リモートIBM System iの場合には、QPRTDEVシステム値に指定された印刷装置と関連する出力待ち行列が印刷装置待ち行列として使用されます。

注: この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPEパラメーター) が*SNAまたは*USRDFNとして指定され、DESTTYPEが*OS400または*S390の場合だけです。

名前 リモート・システムの印刷装置待ち行列の名前を指定します。 リモートIBM System iの場合には、これはスプール・ファイルが作成される出力待ち行列の名前となります。

リモート・システムの名前を小文字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

IBM System iではない宛先システムの場合には、この名前はシステムに依存し、装置の実際の名前とするか、あるいは印刷待ち行列の名前とすることができます。

この出力待ち行列は、通常、ライブラリー名/出力待ち行列名として指定されます。ライブラリー名修飾子が指定されていない場合には、省略時の値として*LIBLが使用されます。

上

自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)

システムによって自動始動されるリモート書き出しプログラムの数を指定します。 リモート・システムが*NONEとして指定されているユーザー作成の出力待ち行列の場合には、このパラメーターは無視されます。

*NONE

この出力待ち行列に対してシステムによって自動始動される書き出しプログラムはありません。

1から10

システムによってこの出力待ち行列に対して自動始動される書き出しプログラムの数を指定してください。

上

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

この出力待ち行列に対して開始されたりリモート書き出しプログラムによってメッセージが作成された時に、メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾子1: 書出プログラムMSG用待ち行列

QSYSOPR

メッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

名前 リモート書き出しプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

接続タイプ (CNNTYPE)

リモート・システムとの接続のタイプを指定します。

***SNA** スプール・ファイルはSNADSを使用して送られます。これは、ネットワーク・スプール・ファイル送信(SNDNETSPLF)コマンドと類似しており、SNADSの構成を必要とします。

***IP** スプール・ファイルはTCP/IPを使用して送られます。これは、TCP/IPスプール・ファイル送信(SNDTCPSPLF)コマンドと類似しており、TCP/IPプロダクトの導入を必要とします。

***USRDFN**

スプール・ファイルはユーザー定義の接続を使用して送信されます。

上

宛先タイプ (DESTTYPE)

リモート・システム(RMTSYSパラメーター)のタイプを指定します。このパラメーターは、スプール・ファイルを送るために使用される形式を決定するために、スプール・ファイルに入っているデータのタイプ(CRTPRTFコマンドのDEVTYPEパラメーター)とともにリモート書き出しプログラムによって使用されません。スプール・ファイル中のデータのタイプがシステムによってサポートされていない場合には、スプール・ファイルはリモート書き出しプログラムによって保留されます。

***OS400**

接続タイプ(CNNTYPE)が*SNAとして指定されている時には、スプール・ファイルはIBM System iに送られます。CNNTYPEが*IPである時には、この値はTCP/IP (V2R3以降)をサポートするすべてのリリースで指定することができます。

注: 他のパラメーター値を選択する時に最大の柔軟性を許可する場合には、この値を指定してください (可能な場合)。

***OS400V2**

スプール・ファイルはi5/OS (OS/400) V2R3以前を実行しているシステムに送られます。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*SNAの場合だけです。

***S390** スプール・ファイルはSystem zに送られます。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*SNAの場合、またはCNNTYPEが*USRDFNの場合だけです。

***PSF2** スプール・ファイルはPSF/2プロダクトを実行しているパーソナル・コンピューターに送られます。この値が有効なのは、CNNTYPEが*IPである場合だけです。

***NDS** スプール・ファイルはNETWARE4に送信するためのものです。この値が有効なのは、CNNTYPEが*USRDFNである場合だけです。

***OTHER**

スプール・ファイルは他のどの特殊値とも対応しないシステムに送られます。これには、i5/OS (OS/400) V1R3以前を実行しているシステム、System/36システム、およびSystem/38システムが含まれます。

上

SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)

ファイルがリモート印刷装置待ち行列に送られる時に、装置タイプ*SCSのスプール・ファイルをASCIIデータに変換するためにホスト印刷変換機能を使用するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPEが*SNAまたは*NONEとして指定されている時には無効です。

***YES** SCSデータ・ストリームが変換されます。

***NO** SCSデータ・ストリームは変換されません。

上

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは、RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

単一値

***NONE**

ユーザー定義データ変換プログラム名は指定されません。

修飾子1: ユーザー・データ変換

名前 ドライバー・プログラムによって使用されるデータ変換プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

製造タイプおよび型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能またはユーザー・データ変換プログラムを使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

MFRTYPMDLに*WSCSTXXXが指定された場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

*IBM42011

IBM 4201-1 PROPRINTERが使用されます。

*WSCST

WSCSTパラメーターの値が使用されます。

文字値 ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定してください。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター (HPモード) IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)
*IBM4029	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E IBM 4029-020レーザー・プリンター6 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
*IBM4029HP	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード) IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード) IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード) IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)
*IBM4037	IBM 4037 5E印刷装置
*IBM4039HP	IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス

(HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス
 (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス
 (HPモード)

*IBM4070 IBM 4070 IJ (IBMモード)
 *IBM4070EP IBM 4070 IJ (EPSONモード)
 *IBM4072 IBM 4072 EXECJET
 *IBM4076 IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)
 *IBM42011 IBM 4201-1 PROPRINTER
 *IBM42012 IBM 4201-2 PROPRINTER II
 *IBM42013 IBM 4201-3 PROPRINTER III
 *IBM42021 IBM 4202-1 PROPRINTER XL
 *IBM42022 IBM 4202-2 PROPRINTER II XL
 *IBM42023 IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
 *IBM42071 IBM 4207-1 PROPRINTER X24
 *IBM42072 IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
 *IBM42081 IBM 4208-1 PROPRINTER XL24
 *IBM42082 IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
 *IBM4212 IBM 4212 PROPRINTER 24P
 *IBM4216 IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
 *IBM4226 IBM 4226-302印刷装置
 *IBM4230 IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
 IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
 *IBM4232 IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
 *IBM4244ASF IBM 4244印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
 *IBM4244DUAL IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
 *IBM4244MAN IBM 4244印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
 *IBM4247ASF IBM 4247印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
 *IBM4247DUAL IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
 *IBM4247MAN IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
 *IBM4308 IBM INFOPRINTカラー8
 *IBM4312 IBMネットワーク印刷装置12
 *IBM4317 IBMネットワーク印刷装置17
 *IBM4320 IBM INFOPRINT 20
 *IBM4322 IBM INFOPRINT 21
 *IBM4324 IBM ネットワーク印刷装置24
 *IBM4332 IBM INFOPRINT 32
 *IBM4340 IBM INFOPRINT 40
 *IBM47121 IBM 4712-1トランザクション印刷装置
 *IBM47122 IBM 4712-2トランザクション印刷装置
 *IBM47221 IBM 4722-1文書印刷装置
 *IBM47222 IBM 4722-2文書印刷装置
 *IBM4770 IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
 *IBM4912 IBM INFOPRINT 12
 *IBM5152 IBM 5152グラフィック印刷装置
 *IBM5201 IBM 5201-2 QUIETWRITER
 *IBM5202 IBM 5202-1 QUIETWRITER III
 *IBM5204 IBM 5204-1 QUICKWRITER
 *IBM5216 IBM 5216 WHEELPRINTER
 *IBM5575 IBM 5579-H02型印刷装置
 IBM 5579-K02型印刷装置
 IBM 5577-T02型印刷装置
 IBM 5579-S02型印刷装置
 IBM 5577-K02型印刷装置
 IBM 5577-J02型印刷装置
 IBM 5577-G02型印刷装置
 IBM 5577-H02型印刷装置
 IBM 5577-F02型印刷装置
 IBM 5577-B02型印刷装置
 IBM 5575-H02型印刷装置
 IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
 IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
 IBM 5573-K02型印刷装置
 IBM 5573-J02型印刷装置

	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置
*IBM6400	IBM 6400印刷装置(IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置(EPSONモード)
*IBM6404	IBM 6404印刷装置(IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置(EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-K02型印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGESフィーチャー付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21
*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT1116	IBM INFOPRINT 1116
*INFOPRINT1120	IBM INFOPRINT 1120
*INFOPRINT1125	IBM INFOPRINT 1125
*INFOPRINT1130	IBM INFOPRINT 1130
*INFOPRINT1140	IBM INFOPRINT 1140
*INFOPRINT1145	IBM INFOPRINT 1145
*INFOPRINT1220C	IBM INFOPRINTカラー1220
*INFOPRINT1222	IBM INFOPRINT 1222
*INFOPRINT1226	IBM INFOPRINT 1226
*INFOPRINT1228C	IBM INFOPRINTカラー1228
*INFOPRINT1312	IBM INFOPRINT 1312
*INFOPRINT1332	IBM INFOPRINT 1332
*INFOPRINT1334C	IBM INFOPRINTカラー1334
*INFOPRINT1352	IBM INFOPRINT 1352
*INFOPRINT1354C	IBM INFOPRINTカラー1354
*INFOPRINT1357C	IBM INFOPRINTカラー1357
*INFOPRINT1372	IBM INFOPRINT 1372
*INFOPRINT1400C	IBM INFOPRINTカラー14xxシリーズ印刷装置

*INFOPRINT1410	IBM INFOPRINT 1410 MFP
*INFOPRINT1412	IBM INFOPRINT 1412
*INFOPRINT1422	IBM INFOPRINT 1422
*INFOPRINT1500	IBM INFOPRINT 15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1500C	IBM INFOPRINTカラー15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600	IBM INFOPRINT 16xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600C	IBM INFOPRINTカラー16xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT2000	IBM INFOPRINT 2000
*INFOPRINT2085	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2190	IBM INFOPRINT 2190
*INFOPRINT2210	IBM INFOPRINT 2210
*INFOPRINT2235	IBM INFOPRINT 2235
*INFOPRINT2705	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2706	IBM INFOPRINT 2105ES
*INFOPRINT2761	IBM INFOPRINT 2060ES
*INFOPRINT2775	IBM INFOPRINT 2075ES
*INFOPRINT2785	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2790	IBM INFOPRINT 2090ES
*INFOPRINT6500	IBM INFOPRINT 6500 (Epsonモード)
*CANLIPS3	CANON LIPS3 DBCS印刷装置
*CANLIPS3NPB	*CANLIPS3と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*CPQPM15	COMPAQ PAGEMARK 15 (HPモード)
*CPQPM20	COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
*EPAP2250	EPSON ACTIONPRINTER 2250
*EPAP3250	EPSON ACTIONPRINTER 3250
*EPAP5000	EPSON ACTIONPRINTER 5000
*EPAP5500	EPSON ACTIONPRINTER 5500
*EPDFX5000	EPSON DFX-5000
*EPDFX8000	EPSON DFX-8000
*EPEPL7000	EPSON EPL-7000
*EPEPL8000	EPSON EPL-8000
*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860
*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HP11	HP LASERJETシリーズII
*HP11D	HP LASERJET IID
*HP11P	HP LASERJET IIP
*HP11II	HP LASERJET III
*HP11IID	HP LASERJET IIID
*HP11IIP	HP LASERJET IIIP
*HP11ISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C

*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置DBCS入力用
*HPPAINT	HP PAINTJET
	HP PAINTJET XL
	HP PAINTJET XL300
*LEX2380	LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381	LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390	LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391	LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227	LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC	LEXMARK Cシリーズ印刷装置
*LEXMARKC510	LEXMARK C510カラー印刷装置
*LEXMARKC750	LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC752	LEXMARK C752カラー印刷装置
*LEXMARKC910	LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912	LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE	LEXMARK Eシリーズ印刷装置
*LEXMARKE322	LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323	LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKE330	LEXMARK E330印刷装置
	LEXMARK E332N印刷装置
*LEXMARKT	LEXMARK Tシリーズ印刷装置
*LEXMARKT420	LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520	LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522	LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620	LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622	LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630	LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632	LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634	LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW	LEXMARK Wシリーズ印刷装置
*LEXMARKW812	LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820	LEXMARK W820印刷装置
*LEXMARKX422	LEXMARK X422 MFP
*LEXOPTRA	LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC	LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN	LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS	LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC	LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
	LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT	LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW	LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2	NEC P2 PINWRITER
*NECP2200	NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE	NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200	NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300	NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200	NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300	NEC P6300 PINWRITER
*NECPCPR201	NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
	NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
*NONE	印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された ページ記述子言語をサポートします。 注：装置タイプが*SCSまたは*AFPDSの スプール・ファイルは、これらの印刷装置 のホスト印刷変換機能では処理できま せん。
*OKI184IBM	OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM	OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM	OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM	OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
*OKI391IBM	OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM	OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)

*OKI590IBM	OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM	OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400	OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置
*OKI800	OKIDATA OL800 LEDページ印刷装置
*OKI810	OKIDATA OL810 LEDページ印刷装置
*OKI820	OKIDATA OL820 LEDページ印刷装置
*OKI3410	OKIDATA PACEMARK 3410
*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC2310	PANASONIC DP-2310印刷装置
*PANASONIC3010	PANASONIC DP-3010印刷装置
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置
*PANASONIC3520	PANASONIC DP-3520印刷装置
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置
*PANASONIC4520	PANASONIC DP-4520印刷装置
*PANASONIC6010	PANASONIC DP-6010印刷装置
*PANASONIC6020	PANASONIC DP-6020印刷装置
*PDF	Portable Document Format
*PDFEMBDDT	Portable Document Format。すべてのTrueType フォント参照が出力文書に組み込まれます。
*PDFIBMWT	Portable Document Format。システムに付属の IBM WorldTypeフォントが標準PDFフォント参照 にマップされます。
*RICOH1515	RICOH AFICIO 1515印刷装置シリーズ
*RICOH2015	RICOH AFICIO 2015印刷装置シリーズ
*RICOH2018	RICOH AFICIO 2018印刷装置シリーズ
*RICOH2022	RICOH AFICIO 2022印刷装置シリーズ
*RICOH2027	RICOH AFICIO 2027印刷装置シリーズ
*RICOH2032	RICOH AFICIO 2032印刷装置シリーズ
*RICOH2035	RICOH AFICIO 2035印刷装置シリーズ
*RICOH2045	RICOH AFICIO 2045印刷装置シリーズ
*RICOHAP400	RICOH AFICIO AP400印刷装置シリーズ
*RICOHAP600N	RICOH AFICIO AP600N印刷装置シリーズ
*RICOHAP900	RICOH AFICIO AP900印刷装置シリーズ
*RICOHAP3200	RICOH AFICIO AP3200印刷装置シリーズ
*RICOHAP4510	RICOH AFICIO AP4510印刷装置シリーズ
*RICOHCL2000	RICOH AFICIO CL2000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL3100	RICOH AFICIO CL3000Eカラー印刷装置シリーズ RICOH AFICIO CL3100Nカラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL4000	RICOH AFICIO CL4000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL5000	RICOH AFICIO CL5000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7000	RICOH AFICIO CL7000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7100	RICOH AFICIO CL7100カラー印刷装置シリーズ
*RICOHMP1100	RICOH AFICIO MP1100印刷装置シリーズ
*RICOHMP1350	RICOH AFICIO MP1350印刷装置シリーズ
*RICOHMP9000	RICOH AFICIO MP9000印刷装置シリーズ
*RICOHSP4100N	RICOH AFICIO SP4100N印刷装置シリーズ RICOH AFICIO SP4110N印刷装置シリーズ
*RICOHSP9100DN	RICOH AFICIO SP9100DN印刷装置シリーズ
*RICOHSPC811DN	RICOH AFICIO SPC811DNカラー印刷装置シリーズ
*WORKIO_BL	PANASONIC WORKiO DP-23xxシリーズ印刷装置

	PANASONIC WORKiO DP-30xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_BM	PANASONIC WORKiO DP-35xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_CR	PANASONIC WORKiO DP-Cxxxシリーズ・カラー印刷装置
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)
*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置 (HPモード)
*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
*WSCSTCONT132	印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
*WSCSTEXECUTIVE	印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
*WSCSTLEDGER	印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
*WSCSTLEGAL	印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
*WSCSTLETTER	印刷装置はリストされていない(レターサイズ用紙)
*WSCSTNONE	印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
*WSCST	印刷装置はリストされていない

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーションや印刷装置などの指定のASCII装置をカスタマイズするために使用される属性テーブルからなるオブジェクトを指定します。カスタマイズできる特性の例は文字表示、フォント仕様、および制御キー順序などです。

このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

単一値

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

修飾子1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

名前 ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって作成されたワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

イメージ構成 (IMGCFG)

この出力待ち行列のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、さまざまなイメージおよび印刷データ・ストリーム形式の変換サービスを提供します。このパラメーターが使用されるのは、リモート書き出しプログラムの場合だけです。

提供されるイメージ構成オブジェクトのリストについては、以下のイメージ構成オブジェクト(IMGCFG パラメーター) テーブルを参照してください。

普及している多くの印刷装置について推奨されるIMGCFGについては、以下の印刷装置別推奨イメージ構成オブジェクト・テーブルを参照してください。

*NONE

イメージ構成は指定されません。

文字値 この出力待ち行列に使用するイメージ構成を指定してください。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----	
*IMGA01	PCL 300-DPI印刷装置
*IMGA02	PCL 600-DPI印刷装置
*IMGA03	PCL 1200-DPI印刷装置
*IMGA04	PCL 300-DPIカラー印刷装置
*IMGA05	PCL 600-DPIカラー印刷装置
*IMGA06	PCL 1200-DPIカラー印刷装置
*IMGA07	PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
*IMGA08	PCL 600-DPI カラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGA09	PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)
----- ポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGB01	ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGB02	ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGB03	ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGB04	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGB05	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGB06	ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGB07	ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB08	ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB09	ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
*IMGB10	ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
*IMGB11	ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
*IMGB12	ポストスクリプト400-DPI印刷装置
*IMGB13	ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
*IMGB14	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGB15	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
----- IPDSデータ・ストリーム-----	
*IMGC01	IPDS 240-DPI印刷装置
*IMGC02	IPDS 300-DPI印刷装置
*IMGC03	IPDS 600-DPI印刷装置
*IMGC04	IPDS 1200-DPI印刷装置
*IMGC05	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC06	IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC07	IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC08	IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC09	IPDS 240-DPI印刷装置(IM/1イメージのみ)
*IMGC10	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き) (IM/1イメージのみ)
*IMGC11	IPDS 240-DPI印刷装置(CCITT G4圧縮)
----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGD01	PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD02	PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置

*IMGD03	PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD04	PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGD05	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGD06	PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGD07	PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD08	PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD09	PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD10	PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD11	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ PAGEMARC 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01

IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター	*IMGB05

上

IPアドレス (INTNETADR)

印刷要求が送られる先のリモート・システムのIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、RMTSYS(*INTNETADR)およびCNNTYPE(*IP)またはCNNTYPE(*USRDFN)が指定された場合だけです。

IPアドレス

IPアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分のビットがすべて2進数の1または0であるIPアドレスは無効です。

コマンド入力行から入力する場合には、値をアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

上

VM/MVSクラス (CLASS)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルのVM/MVS SYSOUTクラスを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

A クラスはAです。

文字値 配布クラス値を指定してください。有効な値の範囲は、AからZおよび0から9です。

上

用紙制御バッファ (FCB)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルの用紙制御バッファを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

*NONE

用紙制御バッファは使用されません。

*USRDTA

ユーザー・データ(USRDTA)スプール・ファイル属性の最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。ユーザー・データがブランクの場合には、用紙制御バッファは使用されません。

*PRTF

ファイルをスプールするために使用される印刷装置ファイルの最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。

名前 使用される用紙制御バッファの名前を指定してください。

上

宛先オプション (DESTOPT)

宛先従属オプションを指定します。CNNTYPE(*IP)が指定された場合には、宛先従属オプションが制御ファイル(LPDサーバーに送信される)に追加されます。CNNTYPE(*SNA)が指定されると、スプール・ファイルがリモート・システムに送信された後の処理方法を判別するのにこのフィールドが使用されます。

*NONE

宛先オプションは指定されません。

*USRDFNTXT

スプール・ファイルが作成された時点のユーザー・プロファイルのユーザー定義テキストが使用されます。CNNTYPE(*SNA)が指定されている場合には、この値は無視されます。

*NOWAIT

CNNTYPE(*SNA)が指定された場合に、*NOWAITの値はオペレーティング・システムがスプール・ファイルを送信した後はそれを記憶しないことを指示します。

'宛先オプション'

アポストロフィで囲まれた128文字を超えない文字を指定してください。

上

区切りページの印刷 (SEPPAGE)

リモート・システムで印刷する時に、分離ページを要求するかしないかを指定します。

***YES** 分離ページが要求されます。

***NO** 分離ページは要求されません。

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

単一値

*NONE

ユーザー定義のオプションは指定しません。

その他の値 (最大4個指定可能)

文字値 スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

単一値

*NONE

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

名前 スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー定義オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

- *DTAARA (データ域)
- *DTAQ (データ待ち行列)
- *FILE (ファイル)
- *PSFCFG (PSF構成)
- *USRIDX (ユーザー索引)
- *USRQ (ユーザー待ち行列)
- *USRSPC (ユーザー・スペース)

上

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは, RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

単一値

*NONE

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

修飾子1: ユーザー・ドライバー・プログラム

名前 スプール・ファイルを処理するためのユーザー指定のドライバー・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合, QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

スプール・ファイルASP (SPLFASP)

スプール・ファイルが物理的に存在する補助記憶域プール(ASP)を指定します。

*OUTQASP

スプール・ファイルは出力待ち行列が入っているのと同じASPにあります。

*SYSTEM

スプール・ファイルはシステムASPにあります。出力待ち行列が1次または2次ASP上のライブラリーにある場合には, この値は許可されません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

ファイルの表示 (DSPDTA)

出力待ち行列の読み取り権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルのデータを表示することができるか、あるいはユーザー自身のファイルのデータしか表示することができないかを指定します。

***NO** 待ち行列の使用を認可されたユーザーは、ある種の特殊権限を持っていない限り、ユーザー自身のファイルのデータしか表示、コピー、または送信することができません。

***YES** 待ち行列の読み取り権限を持つユーザーは、待ち行列上のすべてのファイルのデータを表示、コピー、または送信することができます。

***OWNER**

ファイルの所有者またはスプール制御(*SPLCTL)特殊権限を持つユーザーは、待ち行列上のスプール・ファイルを表示、コピー、または送信することができます。

ジョブ区切り (JOBSEP)

出力待ち行列上のファイルを使用する各ジョブについて、ジョブの出力の先頭に置く区切りの数を指定します。それぞれの区切りには、ジョブの名前、ジョブ・ユーザー名、ジョブ番号、ジョブ実行の時刻と日付、などのジョブを識別する情報が含まれています。

このパラメーターは、印刷装置書出プログラムによってのみ使用されます。他のすべてのタイプの書き出しプログラムは、このパラメーターに指定された値を無視します。

0 各ジョブの出力の前にジョブ区切りを印刷しません。

***MSG** 各ジョブの終了を操作員に通知するメッセージがメッセージ待ち行列に送られます。このメッセージ待ち行列は、印刷装置書出プログラム開始(STRPRTWTR)コマンドの**MSG 待ち行列 (MSGQ)**パラメーターによって識別されます。

0から9 各ジョブの出力の前に置く区切りの数を指定します。

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーに、この出力待ち行列上のファイルの管理または制御を許可するかどうかを指定します。

- *YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは、待ち行列を制御し、待ち行列上のファイルを変更することができます。
- *NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他の特殊権限を持っている場合を除いて、この待ち行列および待ち行列上の項目を制御または変更することはできません。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列を指定します。スプール・ファイルが出力待ち行列で印刷可能 (RDY) 状況になっている時には、データ待ち行列に項目が記録されます。ユーザー・プログラムは、データ待ち行列受け取りAPI (QRCVDTAQ) を使用してデータ待ち行列から情報を受け取ることによって、出力待ち行列でスプール・ファイルが使用可能になる時点を判別することができます。

出力待ち行列でスプール・ファイルがRDY状況になるたびに、項目がデータ待ち行列に送られます。スプール・ファイルは、出力待ち行列から取り出されるまでに、いくつかの状況変更があることがあります (例えば、RDY-保留(HLD)-解放(RLS) - RDYと状況が変わることがあります)。こうした状況の変化によって、スプール・ファイルがRDY状況になるたびに、データ待ち行列にそのスプール・ファイルの項目が入れられます。

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドを使用してデータ待ち行列が作成される時には、メッセージの最大長 (MAXLENパラメーター) 値は少なくとも128にし、順序 (SEQパラメーター) 値は*FIFOまたは*LIFOにしてください。出力待ち行列上のデータ待ち行列の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「印刷」カテゴリを参照してください。

単一値

***NONE**

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列はありません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 出力待ち行列と関連したデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

検査権限 (AUTCHK)

出力待ち行列に対してどのタイプの権限を持っているユーザーが待ち行列上のすべてのファイルを制御することができるかを指定します。ある種の特殊権限を持つユーザーもスプール・ファイルを制御できる場合があります。

*OWNER

出力待ち行列権限テストを通過するためには、要求元は出力待ち行列に対する所有権限を必要とします。要求元は、出力待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルを待ち行列の所有者と共用するか、あるいは所有者の権限に合うプログラムを実行することで所有権限を持つことができます。

*DTAAUT

出力待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルを制御することができます。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***USE** 使用権限によって、ユーザーは、待ち行列上にスプール・ファイルを入れるなど、出力待ち行列に対して基本的な操作を実行することができます。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*CHANGE

*DTAAUTを**検査権限 (AUTCHK)**パラメーターに指定して待ち行列を作成した場合には、変更権限によって、ユーザーは出力待ち行列記述を変更し、他のユーザーが作成したファイルを制御することができます。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTOUTQ  OUTQ(DEPTAPRT) AUT(*EXCLUDE) SEQ(*FIFO)
          TEXT('SPECIAL PRINTER FILES FOR DEPTA')
```

このコマンドは、DEPTAPRTという名前の出力待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。AUT(*EXCLUDE)が指定され、OPRCTL(*YES)とみなされているので、この出力待ち行列は、待ち行列を作成したユーザーおよびジョブ制御権限またはスプール制御権限を持っているユーザーによってのみ使用および制御することができます。SEQ(*FIFO)が指定されているので、スプール・ファイルは先入れ先出し法の順序で待ち行列に入れられます。部門Aのユーザーにこの出力待ち行列の使用が許可されている場合には、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用して、それらのユーザーに必要な権限を認可する必要があります。この待ち行列上のファイルに入っているデータは、そのファイルを所有するユーザー、待ち行列の所有者、ジョブ制御権限を持っているユーザー、およびスプール制御権限を持っているユーザーだけが表示することができます。省略時の値では、それぞれのジョブの出力の先頭にジョブ分離ページは印刷されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2192

オブジェクト&1をライブラリー&3に作成することはできない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2212

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2799

ライブラリー&2にメッセージ待ち行列&1が見つかりませんでした。

CPF33F1

ライブラリー&2のデータ待ち行列&1が見つからない。

CPF3352

一時ライブラリー&1は出力待ち行列&2に対して正しくない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3354

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3356

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF3371

スプール・ユーザー・プロファイルQSPLに損傷があるか、または見つからない。

CPF34D6

エラーのために&2中の出力待ち行列&1が作成されなかった。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

上

オーバーレイの作成 (CRTOVL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オーバーレイ作成(CRTOVL)コマンドは、物理ファイルからオーバーレイ資源を作成します。物理ファイルには、オーバーレイ資源情報が入っています。たとえば、オーバーレイ資源情報は、S/370ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OVL	オーバーレイ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *OVL	オプション, 定位置 3
DATATYPE	データ・タイプ	*AFPDS, *AFPU	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	オーバーレイの置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

オーバーレイ (OVL)

作成するオーバーレイを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オーバーレイ

名前 オーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

オーバーレイを記憶するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 オーバーレイを保管しようとするライブラリーの名前を指定してください。

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたオーバーレイ・レコードが入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 使用するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

オーバーレイ・レコードが入っているファイル・メンバーの名前を指定します。

***OVL** ファイル・メンバーの名前は、このコマンドの**オーバーレイ (OVL)**パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (**FILE**)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

データ・タイプ (DATATYPE)

入力ファイルのソース仕様タイプを指定します。

*AFPDS

入力は、事前に作成された高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)が入っているデータベース・ファイルです。

*AFPU

入力は、Advanced Function Printing Utilities for i5/OS (AFPユーティリティー) で作成されたソース・ファイルです。

注: この値は、AFPユーティリティーがシステムに導入されている場合にだけ有効です。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、オーバーレイ資源を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されません。原始ステートメント入力ユーティリティ(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

オーバーレイの置き換え (REPLACE)

作成中のオーバーレイと同じ名前をもつ既存のオーバーレイを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のオーバーレイは置き換えられます。

***NO** 同じ名前のオーバーレイがシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のオーバーレイは置き換えられません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTOVL OVL(MYLIB/MYSIGNTR)
FILE(MYLIB/MYSIGNTR) MBR(MYSIGNTR)
AUT(*EXCLUDE) TEXT('REPRESENTATION OF MY SIGNATURE')
```

このコマンドは、オーバーレイMYSIGNTRをMYLIBに作成します。ライブラリーMYLIBのファイル名MYSIGNTRがメンバーMYSIGNTRと共に入力データとして使用されます。*EXCLUDEを指定することにより、他のユーザーは署名にアクセスできません。テキストはオーバーレイを記述しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF88C2

&1コマンドの場合には、データ・タイプ・パラメーター値*AFPUは正しくない。

CPF9809

ライブラリー&1にアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

ページ定義の作成 (CRTPAGDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ定義作成(CRTPAGDFN)コマンドは、ユーザー提供のデータベース・ファイルを内部空間オブジェクトにコピーすることによってページ定義を作成します。ユーザーは、リモート・システム（システム/370など）または外部媒体（通常、テープ）からデータベースにソース・データをロードし、オペレーティング・システムで処理できるSAA形式にしなければなりません。

制約事項: スプール・ファイルをシステム/370システムにネットワークする場合には、ページ定義名の最初の2文字は'P1'でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PAGDFN	ページ定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *PAGDFN	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	ページ定義の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ページ定義 (PAGDFN)

作成するページ定義を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ定義

名前 ページ定義の名前に最大8文字を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ページ定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ページ定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ファイル (FILE)

このシステムに送られたページ定義レコードが入っているデータ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 使用するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバー (MBR)

ページ定義レコードが入っているデータ・ファイル・メンバーを指定します。

***PAGDFN**

データ・ファイル・メンバーの名前は、このコマンドのページ定義 (**PAGDFN**)パラメーターに指定されます。

名前 データ・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、ページ定義を作成するために使用されるデータ・ファイル・メンバーから取り出されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

ページ定義の置き換え (REPLACE)

作成中のページ定義と同じ名前をもつ既存のページ定義を置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のページ定義は置き換えられます。

***NO** 同じ名前のページ定義がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のページ定義は置き換えられません。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

```
CRTPAGDFN  PAGDFN(*CURLIB/P1DFLT) FILE(*CURLIB/PAGDFNS)
           MBR(*PAGDFN) AUT(*EXCLUDE)
           TEXT('DEFAULT PAGE DEFINITION')
```

このコマンドは、ページ定義P1DFLTを現行ライブラリーまたはライブラリーQGPL（現行ライブラリーがない場合）に作成します。入力データは、現行ライブラリーのメンバーP1DFLTと共にソース・ファイルPAGDFNSから取られます。権限に*EXCLUDEを指定すると、所有者に対するオブジェクトの使用が制限されます。テキストはページ定義を記述しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9809

ライブラリー&1にアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

ページ・セグメントの作成 (CRTPAGSEG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ・セグメント作成(CRTPAGSEG)コマンドは、ユーザー提供のデータベース・ファイルを内部空間オブジェクトにコピーすることによって、ページ・セグメント空間オブジェクトを作成します。ユーザーは、ページ・セグメント資源をリモート・システム（システム/370など）または外部媒体（テープなど）からデータベースにロードし、その資源をオペレーティング・システムによって処理できるSAA形式にしなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PAGSEG	ページ・セグメント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ・セグメント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *PAGSEG	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	ページ・セグメントの置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ページ・セグメント (PAGSEG)

作成するページ・セグメントを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ・セグメント

名前 ページ・セグメントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ページ・セグメントを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ページ・セグメントを見つけるために使用されるライブラリー名を指定してください。

上

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたページ・セグメント・レコードが入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 使用するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

ページ・セグメント・レコードが入っているファイル・メンバーを指定します。

***PAGSEG**

ファイル・メンバーの名前は、このコマンドの**ページ・セグメント (PAGSEG)**パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (FILE)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、ページ・セグメントを作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。原始ステートメント入力キューティリティー(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ページ・セグメントの置き換え (REPLACE)

作成中のページ・セグメントと同じ名前をもつ既存のページ・セグメントを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のページ・セグメントは置き換えられます。

***NO** 同じ名前のページ・セグメントがシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のページ・セグメントは置き換えられません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTPAGSEG  PAGSEG(MYLIB/PAGSEG1) FILE(*LIBL/PAGSGMTS)
            MBR(*PAGSEG)
            AUT(*ALL) TEXT('CANNED PARAGRAPH 1')
```

このコマンドは、ページ・セグメントPAGSEG1をMYLIBに作成し、PAGSGMTSメンバーPAGSEG1をコマンドに対する入力データとして使用します。AUTパラメーターに*ALLを指定することにより、任意のユーザーがそれに対して最もオブジェクト指向の高いコマンドを実行できます。テキストには、オブジェクトの記述が入っています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

印刷記述子グループ作成 (CRTPDG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ作成(CRTPDG)コマンドは、印刷記述子グループについての情報およびその関連印刷記述子名を保管できるタイプ*PDGのオブジェクトを作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PDG	記述子グループの印刷	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 記述子グループの印刷	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, X''	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

記述子グループの印刷 (PDG)

作成する印刷記述子グループの名前およびライブラリーを指定します。

印刷記述子グループ名

作成するPDGの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

PDGを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたPDGが記憶されるライブラリー名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキスト記述はブランクのままにされます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

CRTPDG PDG(LETTERS)

このコマンドは、印刷記述子グループLETTERSを作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF6D81

印刷記述子グループ&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

PEXデータ作成 (CRTPEXDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ作成(CRTPEXDTA)コマンドは、PERFORMANCE EXPLORER 管理収集オブジェクト (オブジェクト・タイプ*MGTCOL)中のデータに基づいて、PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルを作成します。

PERFORMANCE EXPLORERツールの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/perfmgmt/resource.html>)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. 指定されたTOLIBライブラリーに対する*ADDおよび*EXECUTE権限と、FROMLIBライブラリーに対する*READおよび*EXECUTE権限が必要です。
3. 管理収集オブジェクトに対する*READ権限が必要です。
4. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限を持っているか、iSeriesナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してi5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。機能IDをQIBM_SERVICE_TRACEに指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作の実行を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。
5. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用権限を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMMGTCOL	FROM収集	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROM収集	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FROMMGTCOL	オプション, 定位置 2
TOLIB	TOライブラリー	名前, *FROMMGTCOL	オプション, 定位置 3
NBRTHD	スレッドの数	1-256, *CALC	オプション
RPLDTA	データの置き換え	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション

上

FROM収集 (FROMMGTCOL)

PERFORMANCE EXPLORER管理収集オブジェクトの名前を指定します。このオブジェクトのデータは、指定されたメンバーのPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに保管されます。

これは必須パラメーターです。

名前 管理収集オブジェクトの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するとき、このライブラリーがユーザー用に作成されます。

名前 管理収集オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

TOメンバー (TOMBR)

PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルにデータを保管するために使用するメンバー名を指定します。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトの名前がメンバー名として使用されます。

名前 PERFORMANCE EXPLORERデータの保管に使用されるデータベースのメンバー名を指定してください。

上

TOライブラリー (TOLIB)

PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルにデータを保管するために使用されるライブラリーを指定します。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトに指定されたライブラリーが使用されます。

名前 PERFORMANCE EXPLORERデータの保管に使用されるデータベースのライブラリー名を指定してください。

上

スレッドの数 (NBRTHD)

データを処理するためにCRTPEXDTAコマンドで使用する同時スレッド数を指定します。1以上の数値を指定することによって、マルチプロセッサ・システムでは特に、CRTPEXDTAコマンドで使用可能なCPUサイクルを利用することができます。また、これによってコマンドの処理速度は高くなりますが、システム上の他のジョブのパフォーマンスを低下させることもあります。CRTPEXDTAコマンドを実行するジョブの優先順位を高いものに変更することによって、この影響を最小限にすることができます。また、ディス

ク・サブシステムが追加スレッドを処理できることを検査する必要があります。通常、CRTPEXDTAコマンドでは、活動状態のそれぞれのスレッドに1つのディスク・アームが必要です。

***CALC**

システムは、CPUまたはディスク資源を過剰に使用しないCRTPEXDTA処理を行なうためにスレッドの適切な数を計算します。通常、これは、使用可能な各プロセッサで1または2個のスレッドです。

スレッド数

収集されたデータの処理に使用するために、CRTPEXDTAのスレッド数を指定します。

上

データの置き換え (RPLDTA)

既存セットのファイル・メンバーのデータを新しいパフォーマンス・データで置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られます。これにより、ユーザーが不用意に既存のデータを上書きすることがなくなります。

***YES** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、古いデータは失われ、新しいデータで置き換えられます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

収集されるデータのタイプを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: PEXデータの作成

```
CRTPEXDTA FROMMGTCOL(QPEXDATA/MYCOL) TOMBR(TEST)
          TOLIB(QPEXDATA) NBRTHD(2)
```

このコマンドは、ライブラリーQAPEXDATAのメンバー名TESTにPERFORMANCE EXPLORER (PEX)データを作成します。収集されたデータは、ライブラリーQAPEXDTAの管理収集オブジェクトMYCOL内にあります。データの処理には2つのスレッドが使用されます。

上

エラー・メッセージ

なし

物理ファイル作成 (CRTPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル作成(CRTPF)コマンドは、このコマンドに指定した情報および（任意選択で）ソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から物理ファイルを作成します。

物理ファイルは、データ・レコードが入っているデータベース・ファイルです。データ・レコードは物理ファイル・メンバーにまとめられ、各メンバーにはそのデータに対する独自のアクセス・パスがあります。通常、データベース・ファイルには1つのメンバーしかなく、そのメンバーはファイルの作成時に省略時の値によってファイルに追加されます。所要の物理ファイルに到着順の1つの文字フィールドのみをもつレコード様式がある場合、あるいはファイルがソース・ファイルである場合には、DDSソース・ファイルは必要ありません。ファイルの作成後にその属性を一時変更するためには、データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドを使用してからファイルをオープンしてください。ファイルの作成後にその属性を変更するためには、物理ファイル変更(CHGPF)コマンドを使用してください。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
RCDLEN	DDSがない場合のレコード長	整数	オプション, 定位置 4
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
FILETYPE	ファイル・タイプ	*DATA, *SRC	オプション
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, *FILE, *NONE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 5
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, 1, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*MAX1TB, *MAX4GB	オプション
PAGESIZE	アクセス・パス論理ページ・サイズ	*KEYLEN, 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*IMMED, *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*NO, *YES	オプション
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, 10000	
	要素 2: 増分レコード数	整数, 1000	
	要素 3: 最大増分値	整数, 3	
ALLOCATE	記憶域割り振り	*NO, *YES	オプション
CONTIG	連続記憶域	*NO, *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, 30, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, 60, *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大%	1-100, *NONE	オプション
REUSEDLT	削除済みレコードの再使用	*YES, *NO	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SRC, *JOB, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *JOB, *HEX	オプション
ALWUPD	更新操作可能	*YES, *NO	オプション
ALWDLT	削除操作可能	*YES, *NO	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES, *NO	オプション
NODGRP	ノード・グループ	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PTNKEY	区画キー	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

上

ファイル (FILE)

作成する物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成する物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルが入れられる場所は、ジョブの現行ライブラリーです。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルを入れるライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

レコード様式とそのフィールド、およびファイルとそのメンバーのアクセス・パスを記述するデータ記述仕様(DDS)が入っているソース・ファイルを指定します。DDSで作成される仕様について、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリおよびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるDDSトピック・コレクションで説明しています。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、レコード長 (RCDLEN)パラメーターに値を指定することはできません。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

名前QDDSSRCのDDSソース・ファイルには、物理ファイルの作成に使用されるソース記述が入っています。

名前 物理ファイルの作成に使用するDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルが入れられるのはジョブの現行ライブラリーです。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成される物理ファイルのDDSが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーはSRCFILEパラメーター（その省略時の値のQDDSSRC）に指定されたソース・ファイルに入っています。SRCMBRを指定した場合には、RCDLENを指定することはできません。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された物理ファイルのメンバー名と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

レコード長 (RCDLEN)

物理ファイルに記憶されているレコードの長さ（バイト数）を指定します。RCDLEN およびFILETYPE(*DATA)を指定した場合には、フィールドが1つだけのレコード様式をもつ物理ファイルが作成されます。その結果、このファイルは到着順アクセス・パスに制限されます。レコード様式もフィールドもFILEパラメーターに指定されたファイルの名前と同じ名前を割り当てられます。レコード長には1から32766バイトの範囲の値を指定することができます。

RCDLENおよびFILETYPE(*SRC)を指定した場合には、レコード様式はソース順序番号、日付、およびソース・ステートメントという3つのフィールドをもちます。RCDLENパラメーターでソース順序番号のための6桁、日付フィールドのための6桁、およびソースの開始のための1桁を提供しなければなりません。これらは各レコードで必要です。これらのフィールドは、固定した属性および名前で定義されます。レコードがCPYFコマンドでファイルにコピーされ、レコードが指定された長さより長い場合には、レコードは右端で切り捨てられます。

RCDLENを指定した場合には、SRCFILEおよびSRCMBRを指定することはできません。RCDLENは、ソース・ファイルを必要としない時（各レコードに1つのフィールドしか存在しない時、あるいは作成されるファイルがソース・ファイルである時）にレコード様式の固定レコード長を指定するために使用されます。このファイルを処理する高水準言語プログラムでプログラム中にレコードのフィールドを記述しなければなりません。

2バイト文字セットに関する考慮事項

IGCDTA(*NO)を指定した場合には、フィールドは文字のデータ・タイプを割り当てられ、その長さは指定されたレコード長と同じになります。レコード長には1から32766バイトの範囲の値を指定することができます。IGCDTA(*YES)を指定した場合には、フィールド漢字混用のデータ・タイプを割り当てられ、4から32766の範囲の値を指定することができます。

FILETYPE(*SRC)およびIGCDTA(*YES)を指定した時には、RCDLENパラメーターでソース順序番号のための6桁、日付フィールドのための6桁、およびソースの開始のための4桁を提供しなければなりません。

整数 各レコードのバイト数を指定してください。

生成重大度レベル (GENLVL)

作成操作が正常に実行されない重大度レベルを指定します。重大度レベルがこの値に等しいかまたはそれより大きいエラーが起これると、操作は終了します。

このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成中の物理ファイルの各メンバーにデータ・レコードが入るのか、あるいはプログラムまたは別のファイルのソース・レコード（ステートメント）が入るのかを指定します。例えば、ファイルにはRPGプログラムのRPGソース・ステートメントまたは別の物理ファイル、論理ファイル、または装置ファイルのDDSソース・ステートメントを入れることができます。

***DATA**

物理ファイルにはデータ・レコードが入ります。

***SRC** 物理ファイルにはソース・レコードが入ります。

上

メンバー (MBR)

物理ファイルの作成時に追加される物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

***FILE** メンバーの名前は、作成する物理ファイルと同じになります。

***NONE**

ファイルの作成時に物理ファイル・メンバーは追加されません。

名前 新規ファイルに追加する物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。 外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

注: DBCSデータの使用はDDSで指定されているので、このパラメーターは、DDSを使用して作成された物理ファイルには意味がありません。

***NO** ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っていません。

***YES** ファイルにDBCSデータが入っています。

2バイト文字セットに関する考慮事項

ユーザーが物理ファイルを作成し、RCDLENパラメーターを指定した場合には、システムは省略時のレコード様式を作成します。

- IGCDTA(*YES)を指定した場合には、省略時のレコード様式はDBCSデータを含むことができます（レコードが漢字混用（DDS仕様の35桁目のO）データ・タイプで指定された場合と同様です）。
- IGCDTA(*NO)を指定した場合には、省略時のレコード様式はDBCSデータを含むことができません（レコードが文字（DDS仕様の35桁目のAまたはブランク）データ・タイプで指定された場合と同様です）。

RCDLENパラメーターに値が指定されていない場合には、システムはIGCDTAパラメーターの値を無視します。

ユーザーは、物理ファイルのIGCDTA値を一時変更することはできません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは物理ファイルを作成するために使用されているソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがデータベース・ファイルである場合には、テキストはそのソース・ファイル・メンバーから取られます。データベース・ソース・メンバーのテキストは、原始ステートメント入力キューティリティーを使用するか、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドを使用して、追加または変更できます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

SRC**またはSOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーはCoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)のイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

システム (SYSTEM)

物理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

***LCL** 物理ファイルはローカル・システムに作成されます。

***RMT** 物理ファイルはリモート・システムで作成されます。ファイル (FILE)パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムおよび作成される物理ファイルの名前を識別する分散データ管理機能(DDM) ファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、物理ファイルはローカル・システムで作成されます。そうでない場合には、ファイルはDDMファイルでなければならず、物理ファイルはリモート・システムで作成されます。DDMファイルはリモート・システムおよび作成される物理ファイルの名前を識別します。

上

メンバーの満了日 (EXPDATE)

物理ファイルのメンバーの有効期限を指定します。

***NONE**

満了日が指定されていません。

日付 ファイル・メンバーを使用できなくなる日付を指定してください。値に日付区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

上

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

1 物理ファイルにはメンバーを1つしか入れることができません。

***NOMAX**

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

1から32767

物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定してください。

上

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

次の種類のアクセス・パスで占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

- キー順アクセス・パスをもつ物理ファイルと関連付けられるアクセス・パス。
- 参照制約または固有制約のために作成され、物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによってこのファイルに追加できるアクセス・パス。

このパラメーターは、論理ファイル用に作成されるアクセス・パスや、物理ファイル中のデータを参照するQUERYのために作成されるアクセス・パスには適用されません。

***MAX1TB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

***MAX4GB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

上

アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)

アクセス・パスの作成時に使用されるアクセス・パス論理ページ・サイズを指定します。

アクセス・パス論理ページ・サイズは、索引の各ページのサイズを決定するためにシステムによって使用されます。この論理ページ・サイズは、ページ不在の場合に補助記憶域からジョブの記憶域プールに移動できるアクセス・パスのバイト数です。

***KEYLEN**

アクセス・パス論理ページ・サイズは、1つ以上のキーの合計長によって決定されます。

- 8** 8Kの論理ページ・サイズ。
- 16** 16Kの論理ページ・サイズ。
- 32** 32Kの論理ページ・サイズ。
- 64** 64Kの論理ページ・サイズ。
- 128** 128Kの論理ページ・サイズ。
- 256** 256Kの論理ページ・サイズ。
- 512** 512Kの論理ページ・サイズ。

上

アクセス・パスの保守 (MAINT)

キー・フィールドのあるファイルの場合には、物理ファイルのすべてのメンバーに使用されるアクセス・パスの保守のタイプを指定します。

***IMMED**

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行われるたびに更新されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*IMMEDを指定しなければなりません。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスはメンバーがクローズされるまで維持され、メンバーがクローズされると削除されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*REBLDを指定することはできません。

***DLY**

アクセス・パスの保守は、物理ファイル・メンバーが使用のためにオープンされるまでは延期されます。この結果、ファイルが最後にオープンされてから追加、削除、または変更されたレコードに対してのみアクセス・パスが変更されます。ファイルがオープンされている場合には、MAINTに何が指定されているかに関係なく、そのメンバーに行われた変更は即時にメンバーのアクセス・パ

スに反映されます。ファイルがオープンされる時に再作成に時間がかからないようにするためには、後続のオープンとオープンの間へのアクセス・パスに対する変更の数が少ない時、すなわちファイルが頻繁にオープンされる時あるいはこのアクセス・パス変更でレコードのキー・フィールドがあまり変更されない時にのみ、*DLYを指定してください。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

クローズと次のオープンの間の変更の数がほぼアクセス・パスのサイズの10パーセントに達すると、システムは変更の保管を停止し、次にファイルがオープンされる時にアクセス・パス全体が再作成されます。

上

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パスのメンテナンスが即時または遅延であるファイルについて、システム障害が起こった時にアクセス・パスを変更する場合にファイルの回復処理をどの時点で実行するかを指定します。このパラメーターは、キー順アクセス・パスをもつファイルにのみ有効です。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMEDが指定されている場合には、初期プログラム・ロード(IPL)中（ユーザーがジョブを実行する前）、またはIPLの終了後（同時にジョブが実行中）、あるいは次のファイル・オープン時に、アクセス・パスを再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL時に、アクセス・パス回復一時変更画面には回復しなければならないアクセス・パスおよび各アクセス・パスのRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。アクセス・パスの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされる時に再作成されます。

***NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。*NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。ファイルのアクセス・パスが有効でない場合には、ファイルが次にオープンされる時に再作成されます。

注: *NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

*AFTIPL

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブがIPLの完了直後に処理を開始できるようになります。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。

注: *AFTIPLは、固有キーが必要ないすべてのファイルの省略時の値です。

***IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(*IPL)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

上

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー・フィールドのあるファイルの場合に、アクセス・パスの変更をファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。FRCACCPH(*YES)は、再作成が必要となるようなアクセス・パスの損傷のために異常なジョブ終了が起こる可能性を最小限にします（取り除くわけではありません）。

***NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に強制書き出しされません。

***YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に強制書き出しされます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターで*REBLDが指定されている場合には、*YESを指定することはできません。

対話式ジョブでアクセス・パスが変更される場合には、FRCACCPH(*YES)ではシステムの応答時間が遅くなります。アクセス・パスが頻繁に変更される場合には、システムの全般的なパフォーマンスが低下します。

上

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバーに追加される各増分のレコード数、および増分が自動的に適用される回数を指定します。各ファイル・メンバーのレコード数は、メンバーに入れることができるレコード数として指定します（この数には削除済みレコードが含まれます）。

レコードの最大数に達すると、（メンバーがいっぱいであることを告げる）メッセージがシステム操作員に送られ、要求を終了するのか、あるいはメンバーのレコード数を拡張するのかが選択できるようにします。操作員がメンバーの拡張を選択すると、メンバーの最大レコード数に対して、増分レコード数x指定した増分数の算出分が増やされます。ただし、この最大レコード数を増加することで、必ずしも実際のメンバー・サイズ（バイト）に同じ効果が得られるわけではありません。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに追加できるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大レコード数は、システムによって決定されます。*NOMAXが指定されている場合には、記憶域割り振り (ALLOCATE)パラメーターに*NOを指定しなければなりません。

要素1: 初期レコード数

各メンバーの初期レコード数を指定してください。

10000 最初に、最大10,000のレコードをファイルの各メンバーに書き出すことができます。

1から2147483646

メンバーが自動的に拡張される前に、ファイルの各メンバーに書き込むことのできるレコード数を指定してください。

要素2: 増分レコード数

メンバーのレコード数が初期レコード数を超えるか、あるいは現行の増分レコード数を超える場合は、そのメンバーに追加される追加レコード数を指定します。

1000 最大レコード数は1000レコード分増やされます。

整数 メンバーに追加される追加レコード数を指定します。

増分レコード数の値に0を指定した場合、メンバーは自動的に拡張されません。最大増分値が0の場合は、この値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。

3 最高3回の増分がメンバーに自動的に追加されます。

整数 メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。有効な値の範囲は0から32767です。0を指定した場合には、メンバーは自動的に拡張されません。

上

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに追加された各物理ファイル・メンバーに初期記憶スペースが割り振られるかどうかを指定します。この割り振りでは、**メンバー・サイズ (SIZE)**パラメーターに指定されたレコード数を保持するだけの十分なスペースが提供されます。その容量を超えないでメンバーにレコードを追加できない時に起こる割り振りは、システムおよびSIZE パラメーター値によって決定されます。

***NO** ファイルに追加された各メンバーに割り振る記憶スペースの容量は、システムによって決定されず。

YES** 新しいメンバーが追加されるたびに、SIZEパラメーターの最初の値に指定された容量の記憶スペースが割り振られます。YES**が指定された場合には、SIZEパラメーターに***NOMAX**を指定してはいけません。

上

連続記憶域 (CONTIG)

ファイルに追加する各物理ファイル・メンバーに対して、初期記憶域割り振りのすべてのレコードを相互に隣り合わせて保管する必要があるかどうかを指定します。

***NO** レコードを連続して記憶する必要はありません。

***YES** レコードを含む空間では、レコードを連続して記憶することができます。レコードを分離しなければならない場合には、メンバーが追加され、レコードを連続して記憶できないことを示すメッセージがユーザーに送られます。

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、i5/OSのバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

このパラメーターには値***ANY**または1から255の値を指定することができます。

402 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。この物理ファイルがジャーナル処理されている場合には、大きい数または*NONEを使用してください。*NONEの場合には、ジャーナルと物理ファイルの同期に時間がかかることがあります。

*NONE

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

30 プログラムはファイル資源の割り振りを30秒間待機します。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

*IMMED

プログラムは待機しません。レコードがロックされた時には、レコードの即時割り振りが必要です。

*NOMAX

待機時間は、システムによって許容された最大値(32,767秒)です。

1から32767

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

注: **メンバー (MBR)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

このパラメーターに*NOを指定したファイルをプログラムがオープンするたびに、そのファイルの新しいODPが作成されて使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

物理ファイル内の各メンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定します。比率の検査はメンバーのクローズ時に行われます。削除済みレコードの比率がこのパラメーターで指定した値より大きかった場合には、ユーザーに通知するためにシステム・ヒストリー・ログ(QHST)にメッセージが送られます。

***NONE**

ファイル・メンバー中の削除レコードの比率は検査されません。

1から100

ファイル内の任意のメンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定してください。

上

削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)

削除したデータ項目が使用していたスペースを将来の挿入要求で再利用するかどうかを指定します。

注:

- このパラメーターで*YESを指定した場合には、データ記述仕様(DDS)ソース中の物理ファイルのキー順序属性を"FIFO"または"LIFO"とすることはできません。
- このパラメーターに*YESの値を指定した場合には、削除されたレコード・スペースを再利用するファイルの場合に到着順序は無意味となります。レコードはファイルの終わりに追加されない可能性があります。

***NO** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用しません。

***YES** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用します。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このファイルに使用する分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決められます。

単一値

***SRC** データ記述仕様(DDS)の中でALTSEQキーワードに指定されたテーブルが使用されます。DDSの中でALTSEQが使用されない場合には、このパラメーターで*JOBに指定された値を使用してください。

***JOB** 使用される分類順序の値は、物理ファイルを作成するためにこのコマンドを出しているジョブの値です。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 ソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQパラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQおよびCCSIDパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

***JOB** ジョブに指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ファイルのフィールドの文字データを記述するために使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

このパラメーターが適用されるのは、ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに値が指定されていない場合、およびレコード長 (RCDLEN)パラメーターに値が指定されている場合だけです。このパラメーターに省略時の値(*JOB)以外の値を指定した場合には、SRCFILEパラメーターは使用されず、RCDLENパラメーターに値を指定する必要があります。

注: FILETYPE(*DATA)を指定した時にDDSなしで作成されるファイルは、そのジョブのCCSIDの値と関係なく、65535のCCSIDをもちます。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

整数 使用するCCSIDを指定してください。CCSIDの詳細はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。

上

更新操作可能 (ALWUPD)

この物理ファイルのレコードを更新できるかどうかを指定します。

***YES** この物理ファイル中のレコードを更新することができます。

***NO** この物理ファイル内のレコード、またはこの物理ファイルのレコードにアクセスする論理ファイル内のレコードは、更新することができません。

上

削除操作可能 (ALWDLT)

この物理ファイルのレコードが削除できるかどうかを指定します。論理ファイルのレコードは、論理ファイルの基礎となる各物理ファイルのレコードが削除できる場合にのみ削除することができます。

***YES** この物理ファイル中のレコードを削除することができます。

***NO** この物理ファイル内のレコード、またはこの物理ファイル内のレコードにアクセスする論理ファイル内のレコードは、削除することができません。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムが物理ファイルをオープンする時に、そのファイル中のレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合には、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

*NO ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

ノード・グループ (NODGRP)

ファイルが配布されるノード・グループを指定します。

単一値

*NONE

ファイルは分散ファイルではありません。 ファイルと関連したすべてのデータは、ローカル・システムにあります。

修飾子1: ノード・グループ

名前 このファイルに関連したノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

区画キー (PTNKEY)

データ配布のための区分キーとして使用されるフィールドまたはフィールドのセットを指定します。最大300のフィールド名を指定することができます。

注: ノード・グループ (NODGRP)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。NODGRPパラメーターにノード・グループ名が指定されている場合には、1つ以上のフィールド名を指定しなければなりません。

名前 区画キーに含めるフィールドの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド

(CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: 物理ファイルの作成

```
CRTPF FILE(PAYLIB/PAYTXS) SRCFILE(SRCLIB/PAYTXS)
      MBR(*NONE) MAXMBRS(5)
```

このコマンドは、PAYLIBライブラリーにPAYTXSという名前の物理ファイルを作成します。物理ファイルの作成には、SRCLIBライブラリーのソース・ファイルPAYTXSのメンバーPAYTXSのソース記述が使用されます。このファイルはメンバーなし(*NONEが指定されている)で作成されるので、後でメンバーが追加されるまでデータをファイルに入れることはできません。このファイルには5つまでのメンバーを入れることができます。

省略時値では、後で追加される各ファイル・メンバーにデータ・レコードが入れられます。各メンバーのアクセス・パスは引き続き保持されます。メンバーの容量に1000レコードを追加する自動拡張(最大増分3)が行われるまで、それぞれのメンバーは最大10,000レコードを持つことができます。各メンバーの記憶スペースは必要に応じて割り振られるだけで、スペースが連続しているかどうかの制約はなく、初期記憶域割り振りは行われません。ユーザーは、このファイルに対するオブジェクト操作、読み取り、追加、削除、および更新権限を持ちます。

例2: 物理ファイルおよびメンバーの作成

```
CRTPF FILE(ORDERCTL/ORDERS) SRCFILE(ORDERCTL/ORDERSRC)
      SRCMBR(MFGORD) MAXMBRS(50) SIZE(1000 100 5)
      ALLOCATE(*YES)
```

このコマンドは、ORDERCTLライブラリーにどちらもORDERSという名前の物理ファイルと物理ファイル・メンバーを作成します。ファイルとそのメンバーは、同じライブラリーにあるORDERSRC ソース・ファイルのMFGORDソース・メンバーから作成されます。ファイルに入れられるレコードの記憶スペースが連続している必要はありません。このファイルには、最大50のメンバーを入れることができます。記憶域の初期割り振りでは最大1000レコード分が提供され、100レコードごとに最大5つの追加増分スペースを自動的に追加することができます。これらの割り振り値は、後で追加されるこの物理ファイルの各メンバーにも適用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3204

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを見つけることができない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ作成(CRTPFRTDA)コマンドは、管理収集(*MGTCOL)オブジェクトに保管されているパフォーマンス情報から、一組のパフォーマンス・データベース・ファイルを作成します。データベース・ファイルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「パフォーマンス」トピックを参照してください。

パフォーマンス・データベース・ファイルおよびファイル・メンバーは、管理収集オブジェクトに入っているデータと、このコマンドで要求する情報とに基づいて、必要に応じて作成されます。データベース・ファイルがすでに存在していて、要求したメンバーがそのいずれかのデータベース・ファイルに存在している場合には、収集が生成される前に、メンバーが消去されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMMGTCOL	FROM収集	単一値: *ACTIVE その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROM収集	名前, *SELECT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FROMMGTCOL	オプション
TOLIB	TOライブラリー	名前, *FROMMGTCOL	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *FROMMGTCOL, *GEN, *BLANK	オプション
CGY	処理カテゴリー	単一値: *FROMMGTCOL その他の値 (最大 28 回の繰り返し): 名前, *APPN, *CMNBASE, *CMNSAP, *CMNSTN, *DISK, *DOMINO, *DPS, *HDWCFG, *HTTP, *IOPBASE, *IPCS, *JOBMI, *JOBOS, *JAVA, *LCLRSP, *LPAR, *POOL, *POOLTUNE, *SNA, *SNADS, *SUBSYSTEM, *SYSBUS, *SYSCPU, *SYSLVL, *TCPBASE, *TCPIFC, *USRTNS, *WAS	オプション
INTERVAL	時間間隔 (分)	*FROMMGTCOL, 0.25, 0.5, 1.0, 5.0, 15.0, 30.0, 60.0	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMTIME	開始日および時刻	単一値: <u>*FROMMGTCOL</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOTIME	終了日および時刻	単一値: <u>*FROMMGTCOL,</u> <u>*ACTIVE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	

上

FROM収集 (FROMMGTCOL)

一組のパフォーマンス・データベース・ファイルの作成に使用される管理収集を指定します。

単一値

*ACTIVE

現在活動中の収集オブジェクトが使用されます。

*SELECT

ユーザーが処理する収集オブジェクトを選択できるように、指定したライブラリーで使用可能なすべての収集オブジェクトをリストします。これは、コマンドが対話式ジョブで実行される場合のみ使用可能です。

修飾子1: FROM収集

名前 使用する管理収集オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、管理収集を入れるのに使用されます。

名前 管理収集のライブラリーの名前を指定します。

上

TOメンバー (TOMBR)

出力データが書き込まれるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。この名前のメンバーが各パフォーマンス・データベース・ファイルに存在していなければ、指定された名前のメンバーが作成されます。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトの名前がパフォーマンス・データベース・ファイル・メンバー名として使用されます。

名前 出力を書き込むメンバーの名前を指定してください。

上

TOライブラリー (TOLIB)

パフォーマンス・データのデータベース・ファイルが存在するライブラリーを指定します。指定されたライブラリーに見つからないファイルは、それぞれそのライブラリーに自動的に作成されます。

*FROMMGTCOL

パフォーマンス・データベース・ファイルは、管理収集オブジェクト(FROMMGTCOLパラメーター)と同じライブラリーに入れられるか、または作成されます。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルがあるか、またはそれを作成するライブラリーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

収集と関連したパフォーマンス・データベース・ファイルの組内の各メンバーに対して使用されるテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトと関連したテキストがメンバー・テキストとして使用されます。

***GEN** 「ライブラリー<ライブラリー名>の<収集名>から作成」というテキストが生成されます。そのメンバーがすでに存在している場合には、変更は行われません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

処理カテゴリー (CGY)

管理収集オブジェクト内のカテゴリーのうち、データベース・ファイルに処理されるものを指定します。

単一値

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクト内に存在するすべてのカテゴリーがデータベース・ファイルに処理されます。

その他の値 (最大28個指定可能)

カテゴリー名

管理収集オブジェクトから処理するパフォーマンス情報のカテゴリーの名前を指定してください。複数のカテゴリー名を指定することができます。有効なカテゴリー名は次の通りです。

名前	記述
-----	-----
*APPN	APPN

*CMNBASE	通信 (基本)
*CMNSAP	通信(SAP)
*CMNSTN	通信 (端末)
*DISK	ディスク
*DOMINO	LOTUS DOMINO (IBM System i版)
*DPS	データ・ポート・サービス
*HDWCFG	ハードウェア
*HTTP	HTTPサーバー (APACHEにより強化)
*IOPBASE	入出力プロセッサ (基本)
*IPCS	ネットワーク・サーバー
*JOBMI	ジョブ (MIタスクおよびスレッド)
*JOBOS	ジョブ (オペレーティング・システム)
*JAVA	Java
*LCLRSP	ローカル応答時間
*LPAR	論理区画
*POOL	プール
*POOLTUNE	プール調整
*SNA	SNA
*SNADS	SNADS
*SUBSYSTEM	サブシステム
*SYSBUS	システム・バス
*SYSCPU	システムCPU
*SYSLVL	システム・レベル・データ
*TCPBASE	TCP/IP (基本)
*TCPIFC	TCP/IP (インターフェース)
*USRTNS	ユーザー定義トランザクション・データ
*WAS	Websphereアプリケーション・サーバー

上

時間間隔 (分) (INTERVAL)

データベース・ファイルへの連続入力間の時間間隔を指定します。データベース内では、これらの収集間隔は間隔番号と間隔時間で識別されます。

間隔番号は1で始まり、各間隔ごとに増加します。間隔時間は、クロック時刻に同期された間隔の終わりの時刻に基づいて決められます (例えば、INTERVAL(15)が指定されている場合には、間隔は01:00:00, 01:15:00, 01:30:00,および01:45:00として生成されます)。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトからの省略時の間隔が使用されます。

分数 0.25分(15秒) から60分の範囲内の間隔値を指定してください。

上

開始日および時刻 (FROMTIME)

パフォーマンス・データベース・ファイルを作成するために使用される、管理収集オブジェクト内のパフォーマンス・データの開始日および時刻を指定します。この時刻が間隔値と組み合わせられて、各データベース間隔の日付および時刻が決定されます。

単一値

*FROMMGTCOL

開始日および時刻は、管理収集オブジェクトが作成された日付および時刻です。

要素1: 開始日付

日付 収集データが生成される開始の日付を指定してください。この日付は、システム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合にはQDATSEP）で指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

時刻 データベース間隔を生成するため指定された開始日の開始時刻を指定してください。

開始日が指定されて、開始時刻が指定されないと、開始時刻には次のように省略時の値が使用されます。

- 開始日が収集の最初の日付を指定している場合には、開始時刻は収集の開始時刻に設定されます。
- 開始日が収集の最初の日付を指定していない場合には、開始時刻は真夜中(00:00:00) に設定されます。

上

終了日および時刻 (TOTIME)

パフォーマンス・データベース・ファイルを作成するために使用される、管理収集オブジェクト内の最後のパフォーマンス・データの終了日および時刻を指定します。

単一値

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクト内の収集の終わりの日付および時刻が、データベース生成の終了日および時刻になります。

*ACTIVE

データベースの生成は、現在活動中の収集が終了するまで続きます。

このオプションにより、データベースの生成は活動中の収集と並行して行われます。データベースは、管理収集オブジェクトに現在あるデータに指定された開始時刻に基づいて生成されます。収集オブジェクトにデータが追加されると、そのつどその追加データが処理されます。これは、現在の収集が終了するまで続きます。

このオプションでは処理が極めて長時間にわたる場合があるので、CRTPFRTAをバッチ・ジョブで実行する時だけTOTIME(*ACTIVE)を指定することをお奨めします。

要素1: 終了日付

日付 データベース・ファイルを作成するために収集オブジェクトからのデータが使用される終了日を指定してください。この日付は、システム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合にはQDATSEP）で指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻

時刻 データベース・ファイルを作成するために収集オブジェクトからのデータが使用される、指定された終了日の時刻を指定してください。

時刻の値を指定する方法の詳細については、**開始日および時刻 (FROMTIME)**パラメーターの**開始時刻要素**の記述を参照してください。

終了日が指定されて、終了時刻が指定されないと、終了時刻には次のように省略時の値が使用されます。

- 終了日が収集の最後の日付を指定している場合には、終了時刻は収集の終了時刻に設定されます。
- 終了日が収集の最後の日付を指定していない場合には、終了時刻は23:59:59に設定されます。

上

例

例1:すべてのデータの生成

```
CRTPFDRDTA FROMMGTCOL(Q099365001) TOMBR(JAN1) TOLIB(MYLIB)
```

この例では、ライブラリーQPFRDATA中の管理収集オブジェクトQ099365001内に含まれるすべてのカテゴリでデータベースが生成されます。パフォーマンス・データベース・ファイルがライブラリーMYLIB中に作成され、この収集メンバー名はJAN1となります。

この管理収集オブジェクト内のオブジェクトの始めからその収集の終わりまで、データが生成されます。データベース間隔は、収集が開始された時に指定された省略時の収集間隔です。

例2:特定データの選択

```
CRTPFDRDTA FROMMGTCOL(Q099364002) TOMBR(JAN1J) TOLIB(MYLIB)
            CGY(*JOBMI) INTERVAL(15)
            FROMTIME(('01/01/98' '14:00:00'))
            TOTIME(('01/01/98' '16:00:00'))
```

この例では、ライブラリーQPFRDATA中の管理収集Q099364002の*JOBMIカテゴリ情報を使用して、データベース・ファイルQAPMJOBMIだけが生成されます。データがより頻繁に収集される（例えば、管理収集オブジェクトに5分ごとに収集されたデータが入られる）場合でも、データベース間隔は15分となります。生成されたファイルには、収集オブジェクトにより大きな時間間隔のデータが含まれる場合でも、2:00 PMから4:00 PMの間に収集されたデータしか含まれていません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0A0E

CRTPFDRDTAが終了しました。ファイルは変更されていません。

CPF0A1A

活動状態の収集はありません。

CPF0A2B

ライブラリー&2の管理収集オブジェクト&1を処理できません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

上

パフォーマンス・サマリーの作成 (CRTPFRSUM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス要約の作成(CRTPFRSUM)コマンドでは、既存の収集サービスのパフォーマンス・データベース・ファイル収集の要約情報を含む追加のパフォーマンス・データベース・ファイルを作成します。

既存の収集(CRTPFRDTAコマンドによって作成された)は処理され、要約されたデータがこれらの特殊ファイルに入れられます。このデータは、Performance Viewerなどのツールによるパフォーマンス・データベースのデータの処理を容易に速めます。データベース・ファイルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「パフォーマンス」トピックを参照してください。

パフォーマンス・データベース・ファイルおよびファイル・メンバー（各収集はファイル・メンバー）は、指定された収集に基づいて、必要に応じて作成されます。データベース・ファイルがすでに存在していて、要求したメンバーがそのいずれかのデータベース・ファイルに存在している場合には、この追加のデータが生成される前に、メンバーが消去されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COL	集合	名前, *SELECT	オプション, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, QPFRDATA	オプション

上

集合 (COL)

処理するパフォーマンス・データベース・ファイル収集の名前を指定します。

*SELECT

指定したライブラリーで使用可能なすべての収集は、「パフォーマンス収集の選択」画面にリストされます。このオプションは、対話式ジョブで実行されている場合にのみ有効です。

名前 要約するパフォーマンス・データが入っている収集の名前を指定します。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データベース・ファイルがあるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

データベース・ファイルを見つけるために、弊社提供パフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:データの生成

```
CRTPFRSUM COL(JAN1) LIB(MYLIB)
```

この例では、CRTPFRTAの例1の処理に基づいて、要約データを生成するためにライブラリーMYLIBの収集JAN1が処理されます。この要約データを含む収集メンバー名JAN1を持つ追加のデータベース・ファイルが、ライブラリーMYLIBに作成されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF0A03

パフォーマンス・データ・ファイルは上位互換でない。

CPF0A04

パフォーマンス・データ・ファイルは下位互換でない。

CPF0A76

パフォーマンス収集&1が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

プログラムの作成 (CRTPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラムの作成(CRTPGM)コマンドは、1セットのモジュールとバインド・ディレクトリーからバインドされた1つのプログラムを作成します。

制約事項:

- プログラムを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- 指定されたモジュール、サービス・プログラム、およびバインド・ディレクトリーに対して使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MODULE	モジュール	単一値: *PGM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *ENTMODTXT, *BLANK	オプション
ENTMOD	プログラム入口プロシージャ・モジュール	単一値: *FIRST, *ONLY, *PGM その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム入口プロシージャ・モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
BNDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
	要素 2: 活動化	*IMMED, *DEFER	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活性化グループ	名前, <u>*ENTMOD</u> , *NEW, *CALLER	オプション
OPTION	作成オプション	値 (最大 5 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *NODUPPROC, *DUPPROC, *NODUPVAR, *DUPVAR, *WARN, *NOWARN, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	<u>*NONE</u> , *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション
ALWUPD	更新可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWLIBUPD	*SRVPGMライブラリー更新可能	*YES, <u>*NO</u>	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*USER</u> , *OWNER	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
ALWRINZ	再初期設定可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	<u>*SINGLVL</u> , *TERASPACE, *INHERIT	オプション
ARGOPT	引き数最適化	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IPA	プロシージャ間分析	*YES, <u>*NO</u>	オプション
IPACTLFILE	IPA制御ファイル	パス名, <u>*NONE</u>	オプション

上

プログラム (PGM)

作成するプログラム・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

プログラム・オブジェクトはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラム・オブジェクトが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

モジュール (MODULE)

プログラム・オブジェクトを作成するために複写されてバインドされるモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。このリストのモジュールは、最終プログラム・オブジェクトに複写されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***PGM** プログラム (PGM)パラメーターに指定された名前がモジュール・オブジェクト名として使用されます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定した1つ以上のライブラリーで、すべてのモジュール・オブジェクトを検索します。

総称名 指定した1つ以上のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのモジュール・オブジェクトを指定します。

名前 プログラム・オブジェクトを作成するために複写されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

*ENTMODTXT

プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)パラメーターに指定されたモジュールのテキスト記述が使用されます。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)

このプログラムで使用されるプログラム入りロプロシージャ仕様が入っているモジュール名を指定します。

単一値

***FIRST**

プログラム入りロプロシージャ仕様をもつ、モジュールのリストから最初に見つかったモジュールがプログラム入りロプロシージャとして選択されます。

***ONLY**

モジュールのリストからの、1つのモジュールだけがプログラム入りロプロシージャとして仕様をもつことができます。プログラム入りロプロシージャ仕様をもつモジュールが複数検出された場合には、エラーが出されます。

***PGM プログラム (PGM)**パラメーターに指定された名前およびライブラリーが、プログラム入りロプロシージャ仕様があるモジュールの名前およびライブラリーとなります。

修飾子1: プログラム入口プロシージャ・モジュール

名前 プログラム入りロプロシージャ仕様が入っているモジュールの名前を指定してください。このプログラムに入れるモジュールのリスト中にこのモジュールない場合には、それがモジュールのリストに追加されます。このモジュールにプログラム入りロプロシージャ仕様がなない場合には、そのプログラムは作成されません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

モジュールのインポート要求が満たされているかどうかを確認するために、バインド時に調べるサービス・プログラムのエクスポートのリストを指定します。サービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、一連のモジュールのエクスポートによって満たされない未解析のモジュールのインポート要求がある場合だけです。BNDSRVPGM パラメーターに指定したモジュールのインポート要求を満たしているサービス・プログラムは、作成されたプログラムにバインドされます。BNDSRVPGMパラメーターに指定したサービス・プログラム名およびライブラリーは、実行時に使用するために保管されます。最大300の名前を指定することができます。

各サービス・プログラムの活動化を制御できます。参照サービス・プログラムを、プログラムの作成と同時に活動化するかどうか、または参照サービス・プログラムからエクスポートされたプロシージャが呼び出されるまで据え置くかどうかを指定できます。活動化の遅延によってアプリケーションのパフォーマンスが向上することがあります。

単一値

*NONE

サービス・プログラムは指定されません。

要素1: サービス・プログラム

修飾子1: サービス・プログラム

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのサービス・プログラム・オブジェクトを検索します。

注: この値をユーザー制御環境で指定する必要があるのは、何がユーザー・プログラムにバインドされるか正確に分かっている場合だけです。*ALLと一緒に*LIBLを指定すると、プログラムの実行時に予測できない結果になることがあります。何がユーザー・プログラムにバインドされるかうまく制御されるように、総称サービス・プログラム名または特定のライブラリーを指定してください。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリー内で、後ろに*がある文字で始まるすべてのサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

名前 記号の分析解決時に検査されるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

要素2: 活動化

*IMMED

バインド・サービス・プログラムは、作成中のプログラムが活動化されるとすぐに活動化されます。

*DEFER

バインド・サービス・プログラムの活動化は、そのプログラムがエクスポートした関数が呼び出されるまで据え置かれることがあります。

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーのリストを指定します。バインド・ディレクトリーのモジュールおよびサービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、モジュールおよびサービス・プログラムからのエクスポート (MODULEまたはBNDSRVPGMパラメーターに指定された) で満たせない未解決のモジュール・インポート要求がある場合だけです。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

バインド・ディレクトリーは指定されません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループを呼び出す時に、このプログラムと関連している活動化グループを指定します。活動化グループは次を提供します。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- アプリケーションのクリーンアップを処理するための論理境界

***ENTMOD**

ACTGRP(*ENTMOD)を指定する場合は、プログラム入り口プロシージャ・モジュール(ENTMODパラメーター)が調べられます。モジュール属性がRPGLE, CBLLE,またはCLLEである場合は、ACTGRP(QILE)またはACTGRP(QILETS)が使用されます。STGMDL(*SNGLVL)を指定するとQILEが使用され、STGMDL(*TERASPACE)を指定するとQILETSが使用されます。モジュール属性がRPGLE, CBLLE,またはCLLEでない場合は、ACTGRP(*NEW)が使用されます。

***NEW** このプログラムが呼び出される時に、新しい活動化グループが作成されます。その後、呼び出されたこのプログラムは、新しく作成された活動化グループと関連付けられます。

*CALLER

このプログラムが呼び出される時に、プログラムは呼び出し元の活動化グループ内で活動化されま
す。

名前 このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

上

作成オプション (OPTION)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用されるオプションを指定します。

このパラメーターには最大5個までの値を指定することができます。

プログラム・オブジェクト

***GEN** プログラム・オブジェクトが生成されます。

*NOGEN

プログラム・オブジェクトは生成されません。

重複プロシージャ名

*NODUPPROC

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびプログラムからエクスポートさ
れる各プロシージャ名は固有としなければなりません。

*DUPPROC

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエク
スポートされるプロシージャ名が固有である必要はありません。複数の重複プロシージャが許
される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムの
リスト中の最初のエクスポート・プロシージャが選択されるプロシージャとなります。

重複変数名

*NODUPVAR

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエク
スポートされる各変数名は固有でなければなりません。

*DUPVAR

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエク
スポートされる変数名が固有である必要はありません。複数の重複変数が許される場合には、イン
ポート要求を満たす、指定されたモジュールおよび要求サービス・プログラムのリスト中の最初の
エクスポート変数が選択される変数となります。

診断メッセージの発行

*WARN

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断
メッセージが出されます。

*NOWARN

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、診断メッセージが出されません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されていなければなりません。

***UNRSLVREF**

プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されている必要はありません。実行時にプログラムがこれら未解決の1つのインポートを使用しようとした場合には、MCH4439実行時例外が出されます。

上

明細のリスト (DETAIL)

印刷する詳細のレベルを指定します。

***NONE**

リストは生成されません。

***BASIC**

CRTPGMに渡すオプションのリスト、および処理統計が入っています。また、このリストには、簡単な要約表も入っています。

***EXTENDED**

*BASICリストで提供される情報の他に、このリストには、拡張要約表およびバインド情報リストも入っています。

***FULL**

このリストには、*EXTENDEDリストおよび相互参照表が入っています。

注: 印刷リストが要求された場合には、印刷装置ファイル*LIBL/QSYSPRTを使用してリストが生成されます。

上

更新可能 (ALWUPD)

プログラム更新(UPDPGM)コマンドを使用した作成中のプログラムの更新が可能かどうかを指定します。

***YES** プログラムはUPDPGMコマンドを使用して更新することができます。

***NO** UPDPGMコマンドでは、作成中のプログラムを更新できません。

上

***SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)**

プログラム更新(UPDPGM)コマンドを使用して更新する時に、作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を変更できるかどうかを指定します。

***NO** *YESが**更新可能 (ALWUPD)**に指定されている場合であっても、UPDPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することはできません。

***YES** ALWUPD(*YES)が指定されている時に、UPDPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することができます。

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に実行される権限検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはプログラムを実行中のユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。

*USER

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

*OWNER

プログラムの実行時に、プログラム所有者とプログラム・ユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している場合に、既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のプログラムをQRPLOBJライブラリーに移動して、これを置き換えます。プログラムの現在の活動化は、QRPLOBJライブラリー内のプログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

注: 処理のために置き換える両方のプログラムは、同じユーザーが所有していなければなりません。

***NO** 置き換えは行われません。 **プログラム (PGM)**パラメーターに指定された名前とライブラリーをもつプログラムがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

*PRV オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

再初期設定可能 (ALWRINZ)

プログラムがまだ活動状態である間に、そのプログラムの静的記憶域を再初期設定できるかどうかを指定します。

- *NO** プログラムがまだ活動状態である間は、そのプログラムの静的記憶域を再初期設定することはできません。
- *YES** プログラムがまだ活動状態である間に、そのプログラムの静的記憶域の再初期設定が可能です。

上

ストレージ・モデル (STGM DL)

プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

***SNGLVL**

プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***TERASPACE**

プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***INHERIT**

プログラムは継承記憶域モデルで作成されます。プログラムは、活動化されると、それが活動化されて入れられる活動化グループの記憶域モデルを採用します。言い換えれば、呼び出し元の記憶域モデルを継承します。*INHERIT記憶域モデルを選択する場合は、*CALLERを活動化グループ (ACTGRP)パラメーターに指定する必要があります。

上

引き数最適化 (ARGOPT)

引数の最適化(ARGOPT)がプログラムの作成中に実行されるかどうかを指定します。引数の最適化は、呼び出し集中型アプリケーションのパフォーマンスを向上するために、ILEプロシージャに引数 (パラメーター) を渡す手法です。このオプションによって、プログラムの作成に必要な時間が増えることがあります。

- *NO** 引数の最適化はプログラムの作成中には実行されません。
- *YES** 引数の最適化はプログラムの作成中に実行されます。

上

プロシージャ間分析 (IPA)

プログラムの作成時にプロシージャ間分析(IPA)を使用するかどうかを指定します。IPAの詳細については、ILE概念 (SD88-5033)を参照してください。

- *NO** プロシージャ間分析は実行されません。
- *YES** プロシージャ間分析が実行されます。

上

IPA制御ファイル (IPACTLFILE)

プロシージャー間分析(IPA)サブオプション情報が入っているファイルのパス名を提供します。このパラメーターは、IPA(*YES)が指定された時にだけ有効です。

*NONE

IPA(*YES)が指定されている時には、IPA制御ファイル情報は使用されません。

パス名 IPA(*YES)が指定された時に使用するIPA制御ファイルのパス名を指定します。名前が修飾名の場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾IPA制御ファイル名の例は '/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYIPACTLFNA ME' などです。

上

例

CRTPGM PGM(STAR)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー内に、あるいは現行ライブラリーがない場合はQGPLライブラリー内に、STARという名前のプログラム・オブジェクトを作成します。このプログラムは、これもSTARという名前で、ジョブの現行ライブラリーを使用して見つけられる1つのモジュール・オブジェクトから作成されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF3C50

プログラム&1は作成されていない。

CPF5D12

プログラムまたはサービス・プログラムの準備中にエラーが起こった。

上

パネル・グループの作成 (CRTPNLGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パネル・グループ作成(CRTPNLGRP)コマンドは、データ記述仕様(DDS)画面、CLコマンド、または検索見出しと関連して表示することのできるオンライン・ヘルプ情報を入れるパネル・グループを作成します。

制約事項:

- パネル・グループを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- パネル・グループがすでに存在している場合には、パネル・グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PNLGRP	パネル・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QPNSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PNLGRP	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション, 定位置 4
INCFILE	組み込みファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 組み込みファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEVVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	パネル・グループの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

パネル・グループ (PNLGRP)

作成するパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: パネル・グループ

名前 作成するパネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

パネル・グループを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

パネル・グループ記述のソース・ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。正しいソース・ファイルのレコード長の値は13から92です。

修飾子1: ソース・ファイル

QPNSRC

パネル・グループ記述のソース・ステートメントはソース・ファイルQPNSRCに入っています。

名前 パネル・グループ記述のソース・ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

パネル・グループ記述が入っているソース・ファイルのメンバーを指定します。

*PNLGRP

パネル・グループ記述が入っているメンバーは、**パネル・グループ (PNLGRP)**パラメーターで指定された名前と同じ名前です。

名前 パネル・グループ記述が入っているメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

パネル・グループを簡単に説明するテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

指定したソース・ファイル・メンバーに対応したテキストが使用されます。

*BLANK

テキストは使用されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

コンパイル時に作成される出力のオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドでは変更できません。

ソース・リスト・オプション

*SRCまたは*SOURCE

ソース・リストが作成されます。

*NOSRCまたは*NOSOURCE

エラーが検出されないかぎり、ソース・リストは作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

*NOSECLVL

メッセージをリストの終わりに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されません。

*SECLVL

メッセージをリストの終わりに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されます。

事象ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーはCoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)の事象ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトが使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は通常、ユーザーに代わりCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

組み込みファイル (INCFILE)

組み込むメンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

注: ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)がソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定された基本ソース・ファイルのCCSIDと異なっている場合には、そのCCSIDが基本ソース・ファイルのCCSIDに変更されます。CCSIDは、オブジェクトの作成に使用するすべてのソース・メンバーで同一でなければなりません。

単一値

***SRCFILE**

組み込みファイルは、SRCFILEパラメーターに指定したファイルと同じファイルです。

修飾子1: 組み込みファイル

名前 組み込むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

パネル・グループが表示される時にパネル・グループの対話変数の文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) が変更されるかどうかを指定します。

単一値

***DEV**

変更は行なわれません。対話変数およびパネル・グループの文字IDは、装置の文字IDと同じです。

***SYSVAL**

対話変数の文字IDは、装置に対する省略時のQCHRIDシステム値に変更されます。パネル・グループの文字IDは、装置の文字IDと同じです。

***JOBCCSID**

対話変数の文字IDは、ジョブのCCSIDから装置の文字IDに変更されます。パネル・グループの文字IDは、SRCFILEパラメーターのソース・ファイルのCCSIDから装置の文字IDに変更されます。

***CHRIDCTL**

システムは、CHRIDCTLジョブ属性を検査して、このパネル・グループのCHRIDパラメーターで*JOBCCSIDと*DEVのどちらを使用するかを決定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用したい図形文字セットを指定します。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

注: ワークステーションまたは印刷装置の文字IDによっては、変換が必要な場合があります。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTL)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE**

ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

置き換え (REPLACE)

指定したライブラリー中の同じ名前の既存のパネル・グループを置き換えるかどうかを指定します。

注: パネル・グループは、このジョブまたは別のジョブによって使用中の場合には、置き換えることはできません。

***YES** 既存のパネル・グループは、これをシステム・ライブラリーQRPLOBJに移動することによって置き換えられます。

***NO** 既存のパネル・グループは置き換えられません。そのようなパネル・グループが存在している場合には、作成操作が正常に行なわれません。

上

例

```
CRTPNLGRP  PNLGRP(PAYLIB/PAYROLL)
           SRCFILE(QPNLSRC)  OPTION(*SECLVL)
```

このコマンドは、名前PAYROLLのパネル・グループをライブラリーPAYLIB中に作成し、ライブラリー・リストのソース・ファイルQPNLSRCを使用し、第2レベル・メッセージ・テキストをリストに印刷します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5A02

パネル・グループ&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドは、このコマンドに指定された情報および（任意指定として）ソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から印刷装置ファイルを作成します。

印刷装置ファイルは印刷装置にレコードを送るために使用されます。印刷装置ファイルは使用される印刷装置およびスプーリング要件を識別します。印刷装置ファイルにはデータは入っていません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: 印刷装置	名前, *JOB, *SYSVAL	
DEVTYPE	印刷装置タイプ	*SCS, *IPDS, *LINE, *AFPDSL, *USERASCII, *AFPDS	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	ノート
PAGESIZE	ページ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ-1ページ当たりの行数	0.001-255.0, 66	
	要素 2: 幅-1行当たりの文字数	0.001-378.0, 132	
	要素 3: 測定方法	*ROWCOL , *UOM	
LPI	行/インチ	6 , 6.0, 3.0, 4.0, 7.5, 7.5, 8.0, 9.0, 12.0	オプション
CPI	1インチ当たりの文字数	10 , 10.0, 5.0, 12.0, 13.3, 13.3, 15.0, 16.7, 16.7, 18.0, 20.0	オプション
FRONTMGN	フロント・マージン	単一値: *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
BACKMGN	バック・マージン	単一値: *FRONTMGN , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
OVRFLOW	オーバーフロー行番号	1-255, 60	オプション
FOLD	レコードの折り返し	*NO , *YES	オプション
RPLUNPRT	印刷不能文字の処置	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字の置き換え	*YES	
	要素 2: 置き換え文字	X'40'-X'FE', *BLANK	
ALIGN	ページの位置合わせ	*NO , *YES	オプション
CTLCHAR	制御文字	*NONE , *FCFC, *MACHINE	オプション
CHLVAL	チャンネル値	単一値: *NORMAL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: チャンネル	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12	
	要素 2: チャンネルの行番号	要素リスト	
	要素 1: 回線	1-255	
FIDELITY	精度	*CONTENT , *ABSOLUTE	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*STD , *DEVD, *DRAFT, *NLQ, *FASTDRAFT	オプション
FORMFEED	用紙送り	*DEVD , *AUTOCUT, *CONT, *CUT, *CONT2	オプション
DRAWER	ソース用紙入れ	1-255, 1 , *E1, *FORMDF	オプション
OUTBIN	出力ビン	1-65535, *DEVD	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FONT	フォント	単一値: *CPI, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, 2, 002, 3, 003, 5, 005, 8, 008, 10, 010, 11, 011, 12, 012, 13, 013, 18, 018, 19, 019, 20, 020, 21, 021, 25, 025, 26, 026, 30, 030, 31, 031, 36, 036, 38, 038, 39, 039, 40, 040, 41, 041, 42, 042, 43, 043, 44, 044, 46, 046, 49, 049, 50, 050, 51, 051, 52, 052, 55, 055, 61, 061, 62, 062, 63, 063, 64, 064, 66, 066, 68, 068, 69, 069, 70, 070, 71, 071, 72, 072, 74, 074, 75, 075, 76, 076, 78, 078, 80, 080, 84, 084, 85, 085, 86, 086, 87, 087, 91, 091, 92, 092, 95, 095, 96, 096, 98, 098, 99, 099, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 304, 305, 306, 307, 318, 319, 400, 404, 416, 420, 424, 428, 432, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, *JOB	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
FNTCHRSET	フォント文字セット	単一値: *FONT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字セット	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 文字セット	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: コード・ページ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード・ページ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
CDEFNT	コード化フォント	単一値: *FNTCHRSET その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: コード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
TBLREFCHR	テーブル参照文字	*YES , *NO	オプション
PAGDFN	ページ定義	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FORMDF	書式定義	単一値: *NONE , *DEVD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書式定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
AFPCHARS	AFP文字	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
PAGRIT	ページ回転度数	*AUTO , *DEVD , *COR , 0, 90, 180, 270	オプション
MULTIUP	面当たりページ数	1-4, 1	オプション
REDUCE	出力の減少	*TEXT , *NONE	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *JOB , *BLANK , X''	オプション
JUSTIFY	ハードウェア位置調整	0 , 50, 100	オプション
DUPLEX	両面印刷	*NO , *YES , *TUMBLE , *FORMDF	オプション
UOM	単位	*INCH , *CM	オプション
FRONTOVL	前面オーバーレイ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, 0	
要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, 0		

キーワード	記述	選択項目	ノート
BACKOVL	背面オーバーレイ	単一値: <u>*FRONTOVL</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, <u>0</u>	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, <u>0</u>	
	要素 4: コンスタント・バック	<u>*NOCONSTANT</u> , *CONSTANT	
CVTLINDTA	行データ変換	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション
USRRSCLIBL	USER資源ライブラリー・リスト	単一値: <u>*DEV</u> , *NONE, *JOBLIBL, *CURLIB その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
CORNERSTPL	コーナー・ステープルとじ	<u>*NONE</u> , *BOTRIGHT, *TOPRIGHT, *TOPLEFT, *BOTLEFT, *DEV	オプション
EDGESTITCH	平とじ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*BOT, *RIGHT, *TOP, *LEFT, *DEV	
	要素 2: 基準線オフセット	0.0-57.79, <u>*DEV</u>	
	要素 3: ステープルの数	1-122, <u>*DEV</u>	
	要素 4: ステープル・オフセット	単一値: <u>*DEV</u> その他の値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79	
SADLSTITCH	中とじ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*TOP, *LEFT, *DEV	
	要素 2: ステープルの数	1-122, <u>*DEV</u>	
	要素 3: ステープル・オフセット	単一値: <u>*DEV</u> その他の値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79	
FNTRSL	形式設定用フォント解像度	<u>*DEV</u> , *SEARCH, 240, 300	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPOOL	データのスパール	<u>*YES</u> , *NO	オプション
OUTQ	スパール出力待ち行列	単一値: <u>*JOB</u> , *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: スパール出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, <u>*STD</u>	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255, <u>1</u>	オプション
EXPDATE	ファイルの満了日	日付, <u>*NONE</u> , *DAYS	オプション
DAYS	ファイル満了までの日数	1-366	オプション
PAGERANGE	印刷ページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, <u>1</u> , *ENDPAGE	
	要素 2: 終了ページ	整数, <u>*END</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MAXRCDS	スプール出力レコードの最大数	1-99999999, 100000 , *NOMAX	オプション
FILESEP	ファイル区切り	0-9, 0	オプション
SCHEDULE	スプール出力のスケジュール	* FILEEND , *IMMED, *JOBEND	オプション
HOLD	スプール・ファイルの保留	* NO , *YES	オプション
SAVE	スプール・ファイルの保管	* NO , *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	* JOB , 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, SOURCE	オプション
SPLFOWN	スプール・ファイル所有者	* CURUSRPRF , *JOB, *CURGRPPRF, *JOBGRPPRF	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: * NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNDTA	ユーザー定義データ	文字値, NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: * NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *PSFCFG, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC	
IGCCHRRTT	DBCSの回転	* NO , *YES	オプション
IGCCPI	インチ当たりのDBCS数	* CPI , *CONDENSED, 5, 6, 10	オプション
IGCSOSI	DBCSのSO/SIのスペース	* YES , *NO, *RIGHT	オプション
IGCCDEFNT	DBCSコード化フォント	単一値: SYSSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: DBCSコード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: DBCSコード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, LIBL , *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, NONE	
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名, NONE	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: NONE , *PDF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, LIBL , *CURLIB	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, IMMED , *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	* NO , *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	* YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	* YES , *NO	オプション

ファイル (FILE)

作成する印刷装置ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則と合っていないければなりません。そうでない場合には、ファイルはプログラム自体の中で名前変更されなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

印刷装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

ソース・ファイル (SRCFILE)

印刷装置ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル（指定されている場合）を指定します。DDS中で指定できる仕様の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリおよびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるDDSトピック・コレクションを参照してください。

単一値

*NONE

この印刷装置ファイル用のDDSソース・ファイルはありません。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 この印刷装置ファイルのDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成される印刷装置ファイルのデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。
名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

装置 (DEV)

印刷装置記述の名前を指定します。非スプール出力の場合には、これは印刷出力を作成するために使用される印刷装置を識別します。スプール出力の場合には、ファイルは**OUTQ**パラメーターによって決まる出力待ち行列に入れられます。OUTQ(*DEV)が使用された場合には、ファイルは装置と同じ名前をもつ出力待ち行列に入れられます。

***JOB** 印刷装置はジョブと対応した印刷装置です。

*SYSVAL

ジョブの開始時にシステム値QPRTDEVによって指定された印刷装置が印刷装置として使用されます。

名前 印刷装置ファイルと一緒に使用する印刷装置の名前を指定してください。

上

印刷装置タイプ (DEVTYPE)

印刷装置ファイル用に作成されるデータ・ストリームのタイプを指定します。

***SCS** SNA文字ストリーム(SCS)が作成されます。 3287, 3812 SCS, 3816 SCS, 4214, 4234 SCS, 4245, 5219, 5224, 5225, 5256, 5262, 6252,または6262ワークステーション印刷装置を使用する時には、このパラメーターを指定しなければなりません。

- *SCSを指定していて、スプール印刷装置ファイルがIPDS*印刷装置に送られる場合には、IPDS印刷装置ファイルのエミュレーションするために、SCS印刷装置ファイルが変換されます。詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

2バイト文字セットに関する考慮事項

5553および5583の漢字使用可能印刷装置を使用する時には、DEVTYPE(*SCS)を指定しなければなりません。SNA文字ストリーム(SCS)のデータ・ストリームが作成されます。

***IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)が作成されます。このパラメーターは、IPDS印刷装置を使用する時に指定することができます。

*USERASCII

ASCIIデータ・ストリームはスプール出力待ち行列に入れられます。System i5では渡された値を変更したりその妥当性の検査は行われないので、16進データ・ストリーム全体をバッファーに入れるのはユーザーの責任で行うこととなります。

*AFPDS

高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)が作成されます。システムの中にはこのデータ・ストリームをMODCA-Pとして参照するものもあります。

*AFPDSLIN

混合データ(行データとAFPDSデータ)が作成されます。この値は、PSFによってサポートされている印刷装置を使用する場合に指定できます。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

***LINE** 行データが作成されます。この値は、PSFによってサポートされている印刷装置を使用する場合に指定できます。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

外部記述ファイルの場合

***NO** ファイルの2バイト文字セット(DBCS)属性はフィールド記述に指定されています。

***YES** DBCS属性には、フィールド記述に指定されたもののほかに、(1)代替データ・タイプ(IGCALTTYP)のデータ記述仕様(DDS)キーワードを有効にするものと、(2)フィールド、値、またはメッセージのDBCS属性を識別するものがあります。

上

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。DBCS外字を処理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

***YES** システムはDBCS外字を処理します。

***NO** システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として印刷されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

446 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

***SRCまたは*SOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力（エラーのリストを含む）が作成されます。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

ページ・サイズ (PAGESIZE)

この装置ファイルによって使用される印刷装置用紙の長さおよび幅を指定します。長さは、1ページ当たりの行数またはUOMパラメーターに指定した単位によって指定されます。幅は、1行当たりの印刷桁（文字数）か、または単位（UOM）パラメーターに指定した単位によって指定されます。

ページ・サイズは、データがページ上に印刷される方法を参考にして指定しなければなりません。例えば、8.5インチ幅で11.0インチの長さの用紙を使用し、10ピッチ・フォントで1インチ当たり6行で印刷する場合には、PAGESIZE(66 85) PAGRTT(0)を指定してください。しかし、ページを回転するためには、11.0幅で8.5インチの長さのページのページ・サイズを指定し、PAGESIZE(51 110) PAGRTT(90)を入力してください。

注: データが用紙に入りきらない場合に自動縮小または自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRTT(*AUTO)またはPAGRTT(*DEVD)とPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

データが用紙に入りきるがどうかに関係なく自動縮小を実行できるようにするためには、このコマンドに PAGRTT(*COR)を指定してください。

要素1: 長さ—1ページ当たりの行数

66 ページの長さは66印刷行／ページです。

0.001から255.0

この印刷装置ファイルによって使用されるページの長さを指定してください。指定する値は、使用する用紙の実際の長さを超えるものであってはなりません。

要素2: 幅—1行当たりの文字数

132 ページ幅は132印刷文字／行です。

0.001から378.0

この印刷装置ファイルによって使用されるページの幅を指定してください。指定する値は使用する用紙の実際の幅を超えるものであってはなりません。

要素3: 測定方法

***ROWCOL**

ページの長さおよびページ幅は、行数と桁数で測定されます。

***UOM** ページの長さおよびページ幅は、UOMパラメーターに指定して単位で測定されます。

上

行／インチ (LPI)

この装置ファイルで使用される印刷装置の行間隔の設定値（行／インチ）を指定します。

5256印刷装置の行の間隔は手操作で設定しなければなりません。このパラメーターの1インチ当たりの行数 (LPI)の値が（前の印刷装置ファイルの値から）変わると、LPI値の変更を要求する照会メッセージが印刷装置に関連したメッセージ待ち行列に送られます。

4214, 4224, 4230, 4234, 4245,および5262印刷装置の行間隔は、印刷コマンドで設定します。これらの印刷装置の場合には、印刷装置のコントロール・パネルで1インチ当たりの行数による行間隔を設定することもできます。1インチ当たりの行数の値は、印刷装置で設定しないでください。LPI値がコントロール・パネルで一時変更された場合には、システムは、次に受け取る印刷装置ファイルのLPI値で設定された値を一時変更します。

6 印刷装置の行送りは、1インチ当たり6行です。

3 印刷装置の行送りは1インチ当たり3行です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

4 印刷装置の行送りは1インチ当たり4行です。

7.5 印刷装置の行送りは1インチ当たり7.5行です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

8 印刷装置の行送りは1インチ当たり8行です。

注: LPI(8)で指定されたファイルで2バイト文字セット(DBCS)データを印刷する時には、2行間隔を使用してください。そうでない場合には、漢字データが正しく印刷されません。しかし、英数字データはLPI(8)が指定されていても、1行間隔で正しく印刷されます。

- 9 印刷装置の行送りは1インチ当たり9行です。
- 12 印刷装置の行送りは1インチ当たり12行です。

上

1インチ当たりの文字数 (CPI)

印刷装置の文字密度(1インチ当たりの文字数)を指定します。

複数フォントをサポートする印刷装置の場合には、フォント特有値に指定する値がCPIを暗黙に示します。FONT(*CPI)を指定した場合には、使用されるフォントはCPI値に基づいて決定されます。次の図は各CPI値の省略時のフォントIDを記述したものです。

CPI	フォントIDの省略時値
5	245
10	011
12	087
13.3	204
15	222
16.7	400
18	252
20	281

- 10** 文字密度は1インチ当たり10文字です。
- 5** 文字密度は1インチ当たり5文字です。
- 12** 文字密度は1インチ当たり12文字です。
- 13.3** 文字密度は1インチ当たり13.3文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 15** 文字密度は1インチ当たり15文字です。
- 16.7** 文字密度は1インチ当たり16.7文字です。
- 18** 文字密度は1インチ当たり18文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 20** 文字密度は1インチ当たり20文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

上

フロント・マージン (FRONTMGN)

用紙の表側の端からの起点の下方向および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

***DEV**

印刷装置からの非印刷ボーダーは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

要素1: 下方向オフセット

0.0から57.79

ページの先頭からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

要素2: 横方向オフセット

0.0から57.79

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

上

バック・マージン (BACKMGN)

用紙の裏側の端からの起点の下方向および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*FRONTMGN

フロント・マージン (FRONTMGN)パラメーターに指定されたオフセットが使用されます。

*DEV D

印刷装置からの非印刷ポスターは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

要素1: 下方向オフセット

0.0から57.79

ページの先頭からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

要素2: 横方向オフセット

0.0から57.79

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

上

オーバーフロー行番号 (OVRFLW)

印刷装置で新しいページへのオーバーフローが起こるページ上の行番号を指定します。指定した行番号が現在行になると、その行で印刷が行われたかどうかに関係なく、オーバーフローが通知されます。

60 60行目に達するかあるいは60行目が印刷された後で、印刷装置は新しいページにオーバーフローします。

1から255

オーバーフロー行番号を指定してください。指定する値は、**ページ・サイズ (PAGESIZE)**パラメーターで指定されたページの長さを超えてはなりません。オーバーフローを判別する時には、印刷装置ファイルに指定されたマージンは無視されます。

上

レコードの折り返し (FOLD)

レコード長がページ幅より大きい時にレコードのすべての桁を印刷するかどうかを指定します。印刷装置タイプ (**DEVTYPE**)パラメーターで*IPDSが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

折り返しが指定されていて、レコードがページ幅を超える場合には、最初の行に印刷できないレコードの部分は、レコード全体が印刷されるまで、次の行(1行または複数行)に続けられ(折り返され)ます。

次の条件の下ではFOLDパラメーターは無視されます。

- DEVTYPE(*SCS)が指定されていない場合。
- OFFICEVISIONによって印刷する場合。
- S/36実行環境の時。

2バイト文字セットに関する考慮事項

2バイト文字セット(DBCS)ファイルを印刷する時には、システムはこのパラメーターを無視します。システムは、DBCSレコードが1行の印刷行に収まるものと想定します。レコードがページ幅を超える場合には、システムは次の行にレコードの印刷を続行します。

***NO** レコードは折り返されません。レコードがページ幅より長い場合には、最初の1行に収まるレコードの部分だけが印刷されます。

***YES** レコードの長さがページ幅より大きいものは、次の行に折り返されます。

上

印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)

印刷不能文字を置き換えるかどうかと、印刷不能文字にどの置き換え文字(もしあれば)を使用するかを指定します。印刷不能文字は、印刷装置で印刷できない文字です。

2バイト文字セットに関する考慮事項

2バイト文字セット(DBCS)の場合に、印刷不能文字とは処理不能な文字のことです。DBCS使用可能印刷装置を使用する時には、次の点を考慮してください。

- IGCEXNCHR(*YES)も指定されている場合には、システムは印刷不能な外字をDBCS(漢字)の下線文字で置き換えます。場合によっては、システムが印刷不能文字をDBCSの下線文字で置き換えることができないことがあります。この場合には、未定義の文字が印刷されます。

- IGCEXNCHR(*NO)も指定されている場合には、装置がすべての外字を未定義文字で置き換えます。英数字の場合に置き換え文字としてブランクを選択すると、システム・パフォーマンスが向上することがあります。

詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

単一値

***NO** 印刷不能文字は置き換えられません。印刷不能文字が検出されると、プログラムにメッセージが送られます。

要素1: 文字の置き換え

***YES** 印刷不能文字は置き換えられます。印刷不能文字が検出されても、プログラムには通知されません。

要素2: 置き換え文字

***BLANK**

印刷不能文字が検出された場合には、置き換え文字としてブランク(X'40')が使用されます。

X'40'からX'FE'

印刷不能文字が検出されるたびに使用する置換文字を指定してください。この文字は、このパラメーターにも*YESを指定した場合にだけ使用されます。有効な値の範囲は40から99およびA1からFEです。

上

ページの位置合わせ (ALIGN)

印刷を開始する前に、各ページを印刷装置内で位置合わせする必要があるかどうかを指定します。

ALIGN(*YES)およびSPOOL(*NO)が指定されていて、用紙の位置合わせが必要な場合には、システムは印刷装置記述に指定されたメッセージ待ち行列にメッセージを送り、そのメッセージに対する応答を待ちます。CRTPRTFコマンドにSPOOL(*YES)が指定されていて、STRPRTWTRコマンドにALIGN(*FILE)が指定されている場合には、このパラメーターを使用して、システムが位置合わせメッセージを送信するかどうかを判別します。

このパラメーターは単票用紙を使用する時には無視されます(スプールおよび直接出力)。ページ位置合わせはテキスト専用ファイルの場合にのみ行うことができます。図形またはバー・コードを含む印刷ジョブの場合には、ページ位置合わせを行うことはできません。

***NO** ページの位置合わせは必要ありません。

***YES** 出力を印刷する前にページの位置合わせが必要です。

上

制御文字 (CTLCHAR)

印刷装置ファイルが印刷制御文字を含む入力をサポートするかどうかを指定します。

***NONE**

印刷制御文字は印刷データでは渡されません。

*FCFC

すべてのレコードの先頭文字に米国規格協会(ANSI)用紙制御文字が含まれています。 *FCFCを指定した場合には、レコード長に、1桁目の文字による用紙制御コード用の1桁が含まれていなければなりません。これは、印刷されるデータに渡されます。

*MACHINE

どのレコードでも先頭の文字にはマシン・コード制御文字が入っています。 *MACHINEを指定する場合には、先頭文字用紙制御コード用の余分な1桁をレコード長に含める必要があります。 この値は、外部記述の印刷装置ファイルには無効です。

合わせてTBLREFCHR(*YES)も指定した場合には、レコード長は制御文字とテーブル参照文字のための余分の2桁を加えたものでなければなりません。

上

チャンネル値 (CHLVAL)

行番号が割り当てられたチャンネル番号のリストを指定します。 このパラメーターは制御文字 (CTLCHAR) パラメーターに*FCFCが指定されている場合にのみ使用してください。

単一値

*NORMAL

チャンネルIDへのスキップの省略時の値が使用されます。省略時の値は次のテーブルを参照してください。

コード	行を印刷する前の処置
' '	1行の行送り (ブランク・コード)
0	2行の行送り
-	3行の行送り
+	行送りを抑制
1	1行目へのスキップ
2-11	1行の行送り
12	オーバーフロー行へのスキップ(OVRFLWパラメーター)

要素1: チャンネル

1から12

対応する「スキップ先」行番号と関連付けられる米国標準規格チャンネル番号を指定してください。このパラメーターに有効な値の範囲は1から12で、それぞれチャンネル1から12に対応しています。CHLVALパラメーターは、チャンネル番号をページ行番号と関連付けます。例えば、CHLVAL(2 20)を指定した場合には、チャンネルID 2は行番号20で割り振られます。したがって、レコードの最初の桁に用紙制御2を入れた場合には、印刷装置は行印刷の前に20行目にスキップします。

注: 印刷装置が停止し、次に処理されるレコードに、印刷装置が現在ある行番号と同じ値のチャンネル値用紙制御番号がある場合には、印刷装置は次のページのその値 (行番号) に進みます。ただし、印刷装置がページの先頭 (行番号1)に位置設定され、チャンネル値用紙制御値が行番号1と対応している場合、印刷装置は新しいページに進みません。

チャンネルIDに行番号が指定されておらず、そのチャンネルIDがデータに見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。各チャンネル番号は、1回だけ指定することができます。

要素2: チャンネルの行番号

1から255

同じリストのチャンネル番号に割り当てられた行番号を指定してください。有効な行番号の範囲は1から255です。チャンネル番号に割り当てられた行番号がなく、データにそのチャンネル番号が見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。

上

精度 (FIDELITY)

AFP(*YES)で構成された印刷装置で印刷エラーが見つかった時に、印刷を続行するかどうかを指定します。

*CONTENT

エラーが見つかった時に、印刷は続行されます。

*ABSOLUTE

エラーが見つかった時に、印刷は停止します。

上

印刷品質 (PRTQLTY)

3812 SCS, 3816 SCS, 4214, 4224, 4230, 4234, および5219印刷装置の場合に、作成される印刷品質を指定します。

一部の非衝撃式のIPDS印刷装置は、トナー節約機能をサポートします。この機能は装置に依存します。PRTQLTY値に*DRAFTを指定すると、トナー節約機能をサポートしている印刷装置でその機能が活性化されます。

5219印刷装置の場合には、印刷リボンが進む速度を変えることによって各種の印刷品質が作成されます。高品質モード(*STDまたは*NLQ)では通常の印刷リボン速度になります。ドラフト・モード(*DRAFT)では、高品質モードで進む1/3の長さでリボンが進みます。5219印刷装置には、このパラメーターで指定された*DRAFTの値を一時変更するリボン保護スイッチがあります。

3812 SCSおよび3816 SCS印刷装置の場合には、PRTQLTYに*DRAFTが指定されていて、PAGRTTが*DEVDである時にのみ、印刷装置のソフト・スイッチで選択した自動ハードウェア選択（コンピューター出力の減少印刷）が行われます。PAGRTT(*COR)が指定されている場合には、PRTQLTYパラメーターは印刷出力に影響を与えません。

4224, 4230, および4234印刷装置の場合には、印刷可能文字を作成するために使用されるドット・マトリックス・パターンの密度を変えることによって標準印刷品質が作成されます。標準モード(*STD)は通常のモードです。高品質モード(*NLQ)では、1行のデータを作成するために印刷装置によって複数回通過することが要求されます。ドラフト・モード(*DRAFT)は、高速印刷になります。

4214印刷装置の場合には、ドラフト(*DRAFT)、高品質(*NLQ)、および装置の省略時の値(*DEVD)の各モードだけがサポートされます。その他の値は高品質(*NLQ)モードに設定されます。

4214, 4224, 4230, 4234, および5219印刷装置に有効な値の詳細については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

注:

- 4214印刷装置の場合には、品質モード(*STDまたは*NLQ)は、1インチ当たりの10文字および12文字の場合にのみサポートされています。 PRTQLTY(*STDまたは*NLQ) と1インチ当たり5, 15,または16.7文字が指定されている場合には、データはドラフト・モードで印刷されます。
- 4234印刷装置の場合には、PRTQLTY(*DRAFT)が指定されている時には、制限された文字セット（62文字）だけサポートされています。ドラフト印刷品質でサポートされている文字セットの説明は、4234印刷装置操作員の手引きにあります。
- 4224印刷装置および4230印刷装置の場合には、サポートされるフォントが3つすべての印刷品質で使用可能であるとはかぎりません。OCR-AおよびOCR-Bフォントは、PRTQLTY(*NLQ)でのみサポートされます。COURIERフォントおよびESSAYフォントは、PRTQLTY(*NLQ)およびPRTQLTY(*STD)でのみ使用可能です。GOTHICフォントは、PRTQLTY(*DRAFT)またはPRTQLTY(*FASTDRAFT)でのみ使用可能です。印刷品質と選択したフォントとの間に不一致がある場合には、フォントは印刷品質に合うように変更されます。
- データが用紙に収まらない場合に自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRIT(*DEVD)およびPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

上

用紙送り (FORMFEED)

この印刷装置ファイルによって使用される用紙送り機構を指定します。

*DEVD

用紙は印刷装置記述に指定されている方法で印刷装置に送られます。

*CONT

印刷装置で連続用紙が使用されます。連続用紙送り接続機構が印刷装置になければなりません。

*CONT2

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構がなければなりません。

*CUT 印刷装置で単票用紙が使用されます。用紙は1枚1枚手動で送らなければなりません。

*AUTOCUT

単票用紙が半自動的に印刷装置に送られます。用紙送り接続機構が印刷装置になければなりません。

上

ソース用紙入れ (DRAWER)

単票用紙が印刷装置（FORMFEED(*AUTOCUT)で指定）に送られる時に、使用されるソース用紙入れを指定します。

1 用紙は最初の給紙トレイから単票送り機構へ送られます。

*E1 封筒はカット用紙送り機構の封筒用紙入れから送られます。

*FORMDF

用紙は、書式定義に指定された用紙入れから用紙送りされます。書式定義が指定されていない場合には、用紙入れ1が使用されます。

1から255

用紙を供給する用紙入れを指定してください。

上

出力ビン (OUTBIN)

複数の出力ビンが可能な印刷装置上の出力の宛先を指定します。

***DEV**

出力の宛先は、その装置の省略時の出力ビンです。

1から65535

出力の宛先の出力ビンを指定してください。

上

フォント識別コード (FONT)

この印刷装置ファイルで使用するフォントIDおよびポイント・サイズを指定します。

有効なフォントID,表示装置の値,各フォント・スタイルに関連した1インチ当たりの文字数,各フォント・スタイルの記述,および特定の印刷装置でフォントがサポートされているかどうかの詳細については,PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

注:一部のフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。詳細については,各印刷装置の手引き書を参照してください。

単一値

***CPI** 指定されたピッチ(1インチ当たりの文字数(CPI))のフォントのIDが使用されます。

***DEV**

装置記述に指定されたフォントIDおよびポイント・サイズが使用されます。

要素1: 識別コード

ID この印刷装置ファイルで使用するフォントID(数字)を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズは指定されません。使用される印刷装置のタイプに基づいてシステムが選択します。

0.1から999.9

ポイント・サイズを指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

印刷出力ファイルの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。このパラメーターによって、異なる文字IDをもつテキストを印刷することができます。このパラメーターに指定された値は、印刷装置に、16進バイト・ストリングを変換して、テキスト作成時に予定された同じ文字を印刷するように指示するために使用されます。文字IDの詳細はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリーを参照してください。

単一値

***DEVD**

装置が処理するように設計されている文字識別コード (CHRID)パラメーターからの省略時の値が使用されます。*DEVD値は、ファイルが印刷装置の省略時の値と同じ文字IDをもつので、文字の選択が正常に行われることを意味します。

***SYSVAL**

アプリケーションが実行するシステムに対して指定された文字識別コード (CHRID)パラメーターの値が使用されます。

***JOBCCSID**

印刷装置ファイルの文字IDはジョブのコード化文字セットID (CCSID)から取られます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された*JOBCCSID特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDのタグは付けられないので、*JOBCCSIDサポートと組み合わせて使用することはできません。

***CHRIDCTL**

システムは、このファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで*JOBCCSIDを使用するか*DEVDを使用するかを判別するために、CHRIDCTLジョブ定義属性を検査します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 印刷装置に合った図形文字セットの値を指定してください。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置に合ったコード・ページの値を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

上

10進数形式 (DECfmt)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECfmtジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

上

フォント文字セット (FNTCHRSET)

文字セットとコード・ページからなるダウンロード・フォントを指定します。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*FONT

フォント識別コード (FONT)パラメーターに指定された値が使用されます。

要素1: 文字セット

修飾子1: 文字セット

名前 フォント文字セットの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フォント文字セットを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント文字セットが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: コード・ページ

修飾子1: コード・ページ

名前 コード・ページの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コード・ページ名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード・ページ・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素3: ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1から999.9

使用するポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

上

コード化フォント (CDEFNT)

1バイト文字セット(SBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPD)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*FNTCHRSET

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターに指定された値が使用されます。

要素1: コード化フォント

修飾子1: コード化フォント

名前 コード化フォントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コード化フォント・オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード化フォント・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1から999.9

使用するポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

テーブル参照文字 (TBLREFCHR)

行データにテーブル参照文字が存在するかどうかを指定します。

***NO** 行データにテーブル参照文字はありません。

***YES** 行データにテーブル参照文字があります。

データとともに用紙制御文字が使用される場合には、テーブル参照文字は用紙制御文字の後に続きますが、データ・バイトの前にあります。用紙制御文字が使用されない場合には、テーブル参照文字はデータ・レコードの最初のバイトとなります。用紙制御文字と同様に、テーブル参照文字が使用される場合には、すべてのデータ・レコードにTRCバイトが含まれていなければなりません。

ページ定義 (PAGDFN)

行データを形式設定するために使用されるページ定義を指定します。

LINE**, ***AFPDSL**INE,またはUSERASCII**データを使用してページ定義を指定できます。PSF for i5/OSは、行データとページ定義をIPDSに変換します。

印刷装置ファイルにページ定義を指定し、PSF for i5/OSによってスプール・ファイルが印刷される場合、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されません。

- CDEFNT
- CHRID
- CPI
- FNTCHRSET
- FOLD
- FONT
- LPI
- MULTIUP
- PAGESIZE
- PAGRTT
- REDUCE

単一値

***NONE**

ページ定義は指定されません。

PSF for i5/OSでは、***LINE**または***AFPDSL**INEを指定するとページ定義が必要になるため、***NONE**を指定した場合は、印刷ファイル・パラメーターからインライン・ページ定義が作成され、PSF for i5/OSに渡されます。

修飾子1: ページ定義

名前 指定されたライブラリーに存在していなければならないページ定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1から8文字です。 ページ定義を使用するときには、装置タイプ*AFPDSLIN、*LINE、または*USERASCIIを指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

書式定義 (FORMDF)

ファイルを印刷する時に使用する書式定義を指定します。 書式定義は、オーバーレイ、用紙上のページ・データの位置、およびページのコピー数と修正を含む用紙の特性を定義する資源オブジェクトです。 書式定義は印刷しているファイルとともにインラインにあるか、あるいはライブラリー中にあります。

印刷装置ファイルに書式定義(*DEVDFまたは書式定義名)を指定すると、PSF for i5/OSでスプール・ファイルが印刷される時に、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されます。

- DUPLEX (*FORMDFを指定した場合)
- DRAWER (*FORMDFを指定した場合)
- PAGRTT
- PRTQLTY
- FORMFEED
- FRONTMGN
- BACKMGN
- MULTIUP
- REDUCE
- CORNERSTPL
- EDGESTITCH
- SADLSTITCH

単一値

***NONE**

書式定義は使用されません。

PSF for i5/OSには書式定義が必要になるため、*NONEを指定した場合は、印刷ファイル・パラメーターからインライン書式定義が作成され、PSF for i5/OSに渡されます。

***DEVDF**

書式定義の名前は印刷装置定義に指定されています。

修飾子1: 書式定義

名前 指定されたライブラリーに存在しなければならない書式定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1から8文字です。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

AFP文字 (AFPCHARS)

行データおよびページ定義で使用される1つまたは複数のAFP文字（コード化フォント）を指定します。

単一値

***NONE**

AFP文字（コード化フォント）は指定されません。

その他の値（最大4個指定可能）

文字値 行データおよびページ定義で指定するコード化フォントの4バイトの名前を4つまで指定してください。データ内でTBLREFCHRが使用されている時に使用する最大4つまでのコード化フォントを識別するために、4バイトの名前がX0に連結されます。

上

ページ回転度数 (PAGRTT)

印刷装置への用紙のロードの方法に関連して、ページ上のテキストの回転の角度を指定します。ページを回転する時のページ・サイズの指定の指示については、PAGESIZEパラメーターの下の注を参照してください。

データが用紙に収まらない場合に自動回転を使用可能にするためには、このコマンドのこのパラメーターおよびPRTQLTY(*DRAFT)に*AUTOまたは*DEVVDを指定してください。

***AUTO**

用紙に印刷データを収まるようにするために出力の自動回転が実行されることを指示します。回転しても収まらない場合には、使用される印刷品質に関係なく、自動的にコンピューター出力の縮小が行われます。このパラメーターは、回転をサポートする印刷装置の場合にだけ有効です。

***COR** コンピューター出力の縮小(COR)が使用されます。CORによって、13.2インチ幅、11.0インチの長さのページで予定していた印刷出力を、11.0インチ幅、8.5インチの長さのページまたは8.5インチ幅、11.0インチの長さのページで印刷することができます。

コンピューター出力縮小印刷の場合には、カット・シートIPDS印刷装置で次の操作が実行されます。

- ファイルに図形、バー・コード、可変LPI、可変フォント、可変ページ回転、または可変用紙入れが含まれている場合には、*CORへの自動回転は行われません。
- テキストは、0度の回転位置（印刷装置にロードした最初の端の左下隅）から右回りに90度回転されます。

注：非衝撃式連続用紙印刷装置の横長用紙の場合には、回転は0度の回転位置（印刷装置にロードした最初の端の左下隅）から左回りになります。

- 印刷出力には0.5インチの上および左マージンが追加されます。
- 12ピッチ・フォントは15ピッチ・フォントに変更され、15ピッチ・フォントは20ピッチ・フォントに変更されます。その他のすべてのフォント幅は13.3ピッチ・フォントに変更されますが、ただし4028印刷装置の場合には、15ピッチ・フォントに変更されます。
- 垂直スペーシング(LPIパラメーターで指定)は、通常のスケーリングの70パーセントです。
- ページ・サイズは、幅8.5インチ、長さ11インチに設定されます。

*DEVD

オペレーティング・システムは、装置の省略時の回転値を印刷装置に送ります。ページ回転は、印刷装置の仕様次第です。ページ回転の影響については、印刷装置または印刷装置エミュレーションの解説書を参照してください。

- 0 回転は行われません。
- 90 テキストは90度右回りに回転されます。
- 180 テキストは180度右回りに回転されます。
- 270 テキストは270度右回りに回転されます。

上

面当たりページ数 (MULTIUP)

スプール出力の場合にだけ、複数ページの出力を1ページの物理ページに印刷するかどうかを指定します。

注：1面に複数のページを印刷すると、オーバーレイは縮小されません。

詳細および例については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

- 1 1ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 2 2ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 3 3ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 4 4ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。

上

出力の減少 (REDUCE)

マルチプル・アップ印刷を行う時に、出力を減らすかどうかを指定します。

詳細および例については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

***TEXT**

マルチプル・アップ印刷を行う時に、テキスト出力が減らされます。

***NONE**

マルチプル・アップ印刷を行う時に、出力は減らされません。

上

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

***JOB** 現行ジョブからの値が使用されます。

***BLANK**

テキストを印刷しません。

文字値 30文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)

右マージンの印刷位置合わせの度合いを制御するために、ページ上の文字の印刷位置を指定します。調整は、オープンされている印刷装置ファイルのレコード長に合わせて行われます。

注: JUSTIFYパラメーターは、3812 SCS, 3816 SCS,および5219印刷装置でのみサポートされます。

0 行末調整は行われません。

50 テキスト中のブランクにスペースを追加して、右マージンをある程度そろえます。

100 右マージンの位置が揃うまで、テキストのスペースを拡張します（ブランクがすでに存在している位置に追加されます）。

上

両面印刷 (DUPLEX)

出力が用紙の片面または両面に印刷するかどうかを指定します。

***NO** 出力は用紙の片面に印刷されます。

***YES** 出力は、各印刷ページの上部が用紙の同じ側にくるように、用紙の両面に印刷されます。これは通常、用紙の側部でとじられる出力に対して行われます。

***TUMBLE**

出力が用紙の両面に印刷され、印刷されたページの片面の上部が、その裏の印刷されたページの上部とは反対側になります。これは通常、用紙の上部でとじられる出力に対して行われます。

***FORMDF**

書式定義に両面値が指定されている場合には、出力は用紙の両面に印刷されます。書式定義が指定されていない場合には、出力は用紙の片面に印刷されます。

上

単位 (UOM)

使用する単位を指定します。

*INCH

単位としてインチが使用されます。

***CM** 単位としてセンチメートルが使用されます。

上

前面オーバーレイ (FRONTOVL)

ページの表側に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷されるときに使用される起点から下および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトを指定します。

単一値

*NONE

オーバーレイは使用されません。

要素1: オーバーレイ

修飾子1: オーバーレイ

名前 オーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 下方向オフセット

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

0.0から57.79

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素3: 横方向オフセット

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

0.0から57.79

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。
UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

上

背面オーバーレイ (BACKOVL)

ページの裏側に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷されるときに使用される起点から下および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトを指定します。

コンスタント・バック機能によって、印刷アプリケーションにブランク・ページを追加することなくブランク・ページでオーバーレイを印刷することができます。コンスタント・バック機能を指定すると、アプリケーション・プログラムによって生成された各ページに対してブランク・ページが生成され、指定されたバック・オーバーレイを印刷できるようになります。生成されたブランク・ページは、ユーザー・プログラムからの変数データがページに印刷されないために定数形式と呼ばれます。コンスタント・バック機能は両面印刷だけにサポートされています。これは印刷装置ファイルにDUPLEX(*NO)が指定されていると無視されます。

コンスタント・バックに*CONSTANTが指定されていると、下方向オフセットおよび横方向オフセットの値は無視されることに注意してください。これらの値はオフセット0.0と見なされます。

単一値

*FRONTOVL

前面オーバーレイ (FRONTOVL)パラメーターに指定された値が使用されます。

*NONE

オーバーレイは使用されません。

要素1: オーバーレイ

修飾子1: オーバーレイ

名前 オーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 下方向オフセット

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

0.0から57.79

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素3: 横方向オフセット

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

0.0から57.79

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素4: コンスタント・バック

*NOCONSTANT

コンスタント・バックは指定されません。

*CONSTANT

コンスタント・バックが指定されます。

上

行データ変換 (CVTLINDTA)

データがスプールされる前に回線データおよびページ定義をAFPDSに変換するかどうかを指定します。

*NO AFPDS変換は行われません。

*YES データがスプールされる前に回線データおよびページ定義でAFPDS変換が行われることを指定します。

上

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

スプール・ファイルに対してIPDS（高機能プリンター・データ・ストリーム）パススルーを実行するかどうかを指定します。

*DEV

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトでIPDSPASTHRに指定される値が使用されます。装置用のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、値*NOが使用されます。

*NO IPDSパススルーは実行されません。

*YES スプール・ファイルがIPDSパススルーに適格である場合に、IPDSパススルーを実行することを指定します。

注: すべてのSCSまたはIPDSスプール・ファイルがIPDSパススルーに適格なわけではありません。正しく印刷するためにAFPDSに変換する必要がある特殊機能が含まれていることがあります。印刷装置ファイルに

対してIPDSパススルーを指定すると、IPDSパススルーに適格なスプール・ファイルだけが余分な変換を迂回することができます。IPDSパススルーに適格でないスプール・ファイルは、その場合であってもAFPDSに変換されてから、IPDSに変換し戻されます。

IPDSパススルーはPSF for i5/OSがサポートされたすべての印刷装置に有効というわけではありません。常駐フォントをサポートしていない印刷装置（または接続機構）では、IPDSパススルーをサポートすることはできません。これは、データ・ストリーム内で参照される常駐フォントはその印刷装置にダウンロードされるホスト・フォントにマップされなければならないからです。以下を除くすべてのIBM IPDS印刷装置は、IPDSパススルーによってサポートできます。3820, 3825, 3827, 3828, 3829, 3831, 3835, 3900-001 およびINFOPRINT MANAGERまたはPRINT SERVICES FACILITY FOR OS/2のいずれかによって提供された分散印刷機能を使用してシステムに接続された印刷装置。

V3R7, V4R1およびV4R2では、IPDSPASTHRは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。印刷装置ファイルでIPDSPASTHR(*DEVVD)を指定することにより、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでのこのサポートの使用を続行できます。IPDSPASTHRパラメーターに*DEVVD以外の値を指定すると、USRDFNDTAパラメーターのIPDSパススルー値は無視されます。

上

USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)

スプール・ファイル用のAFP資源を検索するために使用するユーザー資源ライブラリーのリストを指定します。AFP資源がユーザー資源ライブラリー内で見つからない場合には、PSF構成オブジェクトのDEVRSCLIBLパラメーターに指定されたライブラリー・リストが検索されます。装置のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、ライブラリーQFNTCPL, QFNT01からQFNT19, およびQFNT61から69が検索されます。

単一値

***DEVVD**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトで、USRRSCLIBLに指定された値が使用されます。装置に対してPSF構成オブジェクトが指定されない場合には、値 *JOBLIBLが使用されます。

***NONE**

ユーザー・ライブラリーは指定されません。

***JOBLIBL**

スプール・ファイルを作成したジョブのライブラリー・リストがAFP資源の検索で使用されることを指定します。このライブラリー・リストは、スプール・ファイルの作成時にそのスプール・ファイルと一緒に保管されます。

***CURLIB**

スプール・ファイルを作成したジョブの現行ライブラリーがAFP資源の検索に使用されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

その他の値（最大4個指定可能）

名前 AFP資源を検索するために使用するライブラリーの名前を指定してください。最高4個までのライブラリー名を指定することができます。

V3R7, V4R1,およびV4R2の場合には、USRRSCLIBLは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。PSF for i5/OSは、印刷装置記述に指定されるPSF構成オブジェクトにUSRRSCLIBL(*PRTF)が

指定された場合にその値を使用します。印刷装置ファイルにUSRRSCLIBL(*DEVD)を指定することによって、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでこのサポートの使用を続行することができます。USRRSCLIBLパラメーターに*DEVD以外の値を指定する場合には、USRDFNDTAパラメーターのユーザー資源ライブラリー値はすべて無視されます。

上

コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)

コーナー・ステープルに使用する参照コーナーを指定します。ステープルは参照コーナー位置で媒体に打ち込まれます。どの参照コーナーがサポートされているかについては、印刷装置に関する文書を参照してください。ページ回転はコーナー・ステープルの配置には影響しません。

***NONE**

コーナー・ステープルは指定されません。

***DEVD**

参照コーナーは、装置によって使用される省略時の参照コーナーです。

***BOTRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右下隅です。

***TOPRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右上隅です。

***TOPLEFT**

参照コーナーは、媒体の左上隅です。

***BOTLEFT**

参照コーナーは、媒体の左下隅です。

上

平とじ (EDGESTITCH)

仕上げ操作軸に沿って1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。このパラメーターのどの要素がサポートされているか、および各要素のどの値がサポートされているかについては、印刷装置の解説書を参照してください。要素に対する値の仕様が印刷装置によってサポートされない場合には、その要素に*DEVDの値を指定してください。ページ回転は平とじの配置には影響しません。

単一値

***NONE**

平とじは指定されません。

要素1: 基準線

平とじに使用する基準線を指定します。仕上げ操作軸に沿って媒体に1つまたは複数のステープルを入れることで平とじになります。

***DEVD**

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

***BOTTOM**

基準線は、媒体の下端です。

***RIGHT**

基準線は、媒体の右端です。

***TOP** 基準線は、媒体の上端です。

***LEFT**

基準線は、媒体の左端です。

要素2: 基準線オフセット

基準線から媒体の中央に向かう平とじのオフセットを指定します。

***DEVD**

基準線オフセットは、装置によって使用される省略時の基準線オフセットです。

0.0から57.79

基準線からの平とじのオフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

要素3: ステープルの数

仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

***DEVD**

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

1から122

平とじに使用するステープルの数を指定してください。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

要素4: ステープル・オフセット

仕上げ操作軸に沿ったステープルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

単一値

***DEVD**

ステープル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステープル位置です。「ステープル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステープルのステープル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

その他の値 (最大122個指定可能)

0.0から57.79

平とじでのステープルごとのステープル・オフセットを指定してください。最大122までのステープル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステープル・オフセット値を指定する場合には、ステープル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

上

中とじ (SADLSTITCH)

基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸に沿って、1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。このパラメーターのどの要素がサポートされているか、および各要素のどの値がサポートされているかについては、印刷装置の解説書を参照してください。要素に対する値の仕様が印刷装置によってサポートされない場合には、その要素に*DEVDの値を指定してください。ページ回転は平とじの配置には影響しません。

単一値

***NONE**

中とじは指定されません。

要素1: 基準線

中とじに使用する基準線を指定します。基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸にそって、1つまたは複数のステープルを媒体に入れることで中とじになります。

***DEVD**

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

***TOP** 基準線は、媒体の上端です。

***LEFT**

基準線は、媒体の左端です。

要素2: ステープルの数

仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

***DEVD**

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

1から122

中とじに使用されるステープルの数を指定してください。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

要素3: ステープル・オフセット

仕上げ操作軸に沿ったステーブルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

単一値

***DEVD**

ステーブル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステーブル位置です。「ステーブル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステーブルのステーブル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

その他の値 (最大122個指定可能)

0.0から57.79

中とじの各ステーブルにステーブル・オフセットを指定してください。最大122までのステーブル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステーブル・オフセット値を指定する場合には、ステーブル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

上

形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)

複数の解像度を報告するために構成された複数解像度印刷装置への印刷時に、スプール・ファイルでフォント・メトリックと解像度が指定されていない場合、あるいはスプール・ファイルに含まれている解像度でフォントを使用できない場合は、PSF for i5/OSが使用する解像度を指定します。

フォント資源用のライブラリー・リストの検索に使用されるアルゴリズムに関する詳細については、印刷装置プログラミングの「PSF構成オブジェクトの処理」という章の「ユーザーおよび装置資源ライブラリー・リスト」の項を参照してください。

***DEVD**

装置のPSF構成オブジェクトのFNTRSLパラメーターに指定された値が使用されます。PSF構成オブジェクトが装置に指定されていない場合には、*SEARCHの値が使用されます。

***SEARCH**

ライブラリー・リストから、名前が一致するホスト・フォントの最初のオカレンスを検索することを指定します。そのフォントの解像度がスプール・ファイルの印刷のために使用されます。選択されたフォントの解像度を指定するためにメッセージPQT3546が送られます。

240 フォント解像度はインチ当たり240ピクセルです。

300 フォント解像度はインチ当たり300ピクセルです。

上

書き出し据え置き (DFRWRT)

出力を印刷装置に送る前にシステム・バッファーに保持するかどうかを指定します。

***YES** システムは、印刷装置に送る前にバッファーに保持する出力の大きさを制御します。

***NO** このパラメーターに*NOが指定され、**データのスパール (SPOOL)**パラメーターに*NOが指定されている場合には、出力はバッファに保持されません。その代わりに、プログラムが書き出し操作を実行すると、ただちに出力が印刷装置に送られます。

このパラメーターに*NOが指定され、SPOOLパラメーターに*YESが指定されている場合、および**スパール出力のスケジュール (SCHEDULE)**パラメーターに*IMMEDが指定されている場合には、出力のページが使用可能になるか、あるいはシステム・バッファがいっぱいになるまで、出力はバッファに保持されます。

SCHEDULEパラメーターに*IMMEDが指定されていない場合には、このパラメーターに*NOを指定しても影響はありません。

上

データのスパール (SPOOL)

印刷装置ファイルの出力データをスパールするかどうかを指定します。*NOが指定されている場合には、スパリングに関連のあるこのコマンドの他のパラメーターは無視されます。**TOストリーム・ファイル (TOSTMF)**パラメーターが*NONEでない場合、このパラメーターは無視されます。

***YES** データはスパールされます。

***NO** データはスパールされません。出力が使用可能になると印刷装置に送られて印刷されます。

上

スパール出力待ち行列 (OUTQ)

スパール出力ファイルの場合にだけ、印刷装置ファイルの出力待ち行列の名前を指定します。

単一値

***JOB** ジョブ記述に指定されている出力待ち行列が使用されます。

***DEV** DEVパラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。

修飾子1: スパール出力待ち行列

名前 出力データがスパールされる出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために現行ジョブ・ライブラリー・リストが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

用紙タイプ (FORMTYPE)

出力を印刷する用紙のタイプを指定します。用紙のタイプを指示するために使用されるIDはユーザー定義のもので、最大10桁の長さとすることができます。

***STD** コンピューター・システムの標準印刷装置用紙が使用されます。

文字値 印刷出力のためにこの印刷装置ファイルで使用される用紙タイプのIDを指定してください。

上

コピー枚数 (COPIES)

スプール出力専用の場合には、印刷中の出力のコピー数を指定します。

1 出力は1部だけ印刷されます。

1から255

印刷するコピー枚数を指定してください。

上

ファイルの満了日 (EXPDATE)

スプール・ファイルの満了日を指定します。スプール・ファイルは、指定された日付のシステム現地時間の23:59:59に満了します。

***NONE**

満了日は指定されません。

***DAYS**

満了日は、**ファイル満了までの日数 (DAYS)**パラメーターに指定した値を使用して計算されます。

日付 その日以後にスプール・ファイルが満了スプール・ファイル削除(DLTEXPSPLF)コマンドによってシステムから除去することに適格となる日付を指定してください。値に日付区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

上

ファイル満了までの日数 (DAYS)

スプール・ファイルを保持する日数を指定します。

注: ファイルの満了日 (EXPDATE)パラメーターの値が*DAYSである場合には、このパラメーターに値を指定する必要があります。EXPDATEパラメーターが*DAYS以外の値である場合には、このパラメーターに値を使用することはできません。

1から366

その間隔以後にスプール・ファイルが満了スプール・ファイル削除(DLTEXPSPLF)コマンドによってシステムから除去することに適格となる日数の間隔を指定してください。スプール・ファイルに適用される実際の満了日は、指定された日数を印刷装置ファイルのオープンの日付に加算することによって計算されます。

印刷ページ範囲 (PAGERANGE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 印刷はページ1から開始されます。

*ENDPAGE

終了ページの値を開始ページとして使用してください。

整数 開始ページ番号を指定してください。

要素2: 終了ページ

***END** 印刷は、スプール・ファイルの終わりまで続行されます。

整数 終了ページ番号を指定してください。

上

スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)

スプール出力の場合だけ、この印刷装置ファイルを使用してジョブのスプール・ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。この最大数に達した場合には、照会メッセージがプログラム・メッセージ待ち行列に送られます。

100000 この印刷装置ファイルを使用する各ジョブのスプール出力ファイルには、最大100000のレコードを入れることができます。

*NOMAX

スプール・ファイルに入れることができるレコードの最大数に制限はありません。

1から999999

許容されるレコードの最大数を指定してください。

上

ファイル区切り (FILESEP)

スプール出力ファイルの場合にだけ、各印刷ファイルの始めに置かれる分離ページの数（同じ出力の複数のコピーの間に置かれるものを含む）を指定します。

0 分離ページを使用しません。

0から9 印刷ファイルの間に入れる分離ページの数指定してください。0を指定した場合には、このファイルに分離ページは印刷されません。この場合には、各ファイルの印刷出力（またはファイルのコピー）は、新しいページの先頭から始まります。

上

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、スプール出力ファイルがいつ書き出しプログラムで使用可能となるかを指定します。

***FILEEND**

スプール出力ファイルは、ファイルがクローズされると同時に書き出しプログラムで使用可能となります。

***JOBEND**

スプール出力ファイルは、ジョブが完了した後で書き出しプログラムで使用可能となります。

***IMMED**

ファイルがプログラムでオープンされると同時に、スプール出力ファイルが書き出し機能に対して使用可能となります。

上

スプール・ファイルの保留 (HOLD)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルが保留されるかどうかを指定します。スプール・ファイルの解放は、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって行うことができます。

***NO** スプール出力ファイルは出力待ち行列に保持されません。

***YES** スプール出力ファイルは、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されるまで保持されます。

上

スプール・ファイルの保管 (SAVE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、出力が作成された後でスプール・ファイルを保管するかどうかを指定します。

***NO** スプール・ファイル・データは出力待ち行列に保管されません。

***YES** スプール・ファイル・データは、スプール・ファイルが削除されるまで出力待ち行列に保管されます。

上

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

***JOB** スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

1から9 1（最高値）から9（最低値）までの数字を指定してください。

上

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール・ファイルの場合にかぎり、ファイルを識別する特定のユーザー指定データを指定します。

*SOURCE

スプール・ファイルがアプリケーション・プログラムによって作成されたものである場合には、そのプログラムの名前が使用されます。そうでない場合には、ブランクが使用されます。

文字値 10桁を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定します。

上

スプール・ファイル所有者 (SPLFOWN)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルの所有者を指定します。

*CURUSRPRF

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なユーザーによって所有されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定
- QSYSETUID() -ユーザーIDの設定
- QSYSETEUID() -有効ユーザーIDの設定
- QSYSETREUID() -実ユーザーIDおよび有効ユーザーIDの設定

***JOB** スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。

*CURGRPPRF

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なグループ・プロファイルによって所有されます。現在有効なグループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は、*CURUSRPRFと同様に決定されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリを参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定
- QSYSETGID() -グループIDの設定
- QSYSETEGID() -有効グループIDの設定
- QSYSETREGID() -実グループIDおよび有効グループIDの設定

*JOBGRPPRF

スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。グループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は*JOBと同様に決定されます。

上

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

単一値

*NONE

ユーザー定義オプションは指定されません。

その他の値 (最大4個指定可能)

文字値 スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

上

ユーザー定義データ (USRDFNDTA)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定します。

*NONE

ユーザー定義データは指定されません。

文字値 スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

上

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

単一値

*NONE

ユーザー定義オブジェクトは指定されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー・アプリケーションで使用するユーザー定義オブジェクトまたはスプール・ファイルを処理するユーザー指定のプログラムを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成オブジェクト

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

上

DBCSの回転 (IGCCHRTT)

印刷時に印刷装置が2バイト文字セット(DBCS)文字を左回りに90度回転させるかどうかを指定します。システムは、回転されたDBCS文字を縦書きになるように印刷します。英数字は回転しません。

***NO** システムは、印刷時にDBCS文字を回転しません。

***YES** システムは印刷時にDBCS文字を90度左回りに回転します。印刷装置は各文字を個別に回転させます。

上

インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)

インチ当たりの文字数(CPI)で2バイト文字セット(DBCS)文字の印刷文字密度を指定します。

注: このパラメーターは、英数字の印刷文字の密度を指定するものではありません。英数字は、CPIパラメーターに指定された値で印刷されます。

- *CPI** DBCS文字の密度は、**1インチ当たりの文字数 (CPI)**パラメーターに指定された値に基づきます。システムは、英数字2桁分に2バイト文字を1字印刷します。
- CPI(10)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり5文字で印刷されます。
 - CPI(12)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6文字で印刷されます。
 - CPI(13.3)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6.7文字で印刷されます(IGCCPI(*CONDENSED)と同じ)。
 - CPI(15)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり7.5文字で印刷されます。
 - CPI(18)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり9文字で印刷されます。
 - CPI(20)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり10文字で印刷されます。
- 5** DBCS文字密度は5文字／インチです。
- 6** DBCS文字密度は6文字／インチです。
- 10** DBCS文字密度は10文字／インチです。

***CONDENSED**

システムが3インチごとに20個のDBCS文字を印刷する、圧縮印刷が使用されます。この値は5553または5583印刷装置の場合にのみ有効です。

上

DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)

システムがどのようにシフト制御文字を印刷するかを指定します。

***YES** システムはシフト制御文字をブランクとして印刷します。

***NO** システムはシフト制御文字を印刷しません。シフト制御文字は印刷装置出力上で位置を占めません。

***RIGHT**

システムはシフトイン文字を印刷する時には2つのブランクを印刷しますが、シフトアウト文字は印刷しません。

上

DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)

2バイト文字セット(DBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。

単一値

***SYSVAL**

システム値QIGCCDEFNTに指定されたDBCSコード化フォントが使用されます。

要素1: DBCSコード化フォント

修飾子1: DBCSコード化フォント

名前 使用するDBCSコード化フォントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コード化フォント名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード化フォント名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1から999.9

ポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

上

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

出力データが書き出されるディレクトリーまたはストリーム・ファイルを指定します。パス名のすべてのディレクトリーが存在しなければなりません。新規ディレクトリーは作成されません。このパラメーターは、**ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)**パラメーターが***NONE**でない場合、あるいは**印刷装置タイプ (DEVTYPE)**パラメーターが***AFPS**の場合に限り有効です。

TOSTMF値がディレクトリーを参照している場合、システムは、印刷装置ファイル名から派生した固有の名前を使用してストリーム・ファイルをそのディレクトリー内に作成します。TOSTMF値がファイル名の場合には、その名前のストリーム・ファイルが既に存在してはなりません。

***NONE**

SPOOLパラメーターが***YES**の場合、出力はスプール・ファイルに書き出され、**SPOOL**パラメーターが***NO**の場合、出力は印刷装置(**DEV**)に直接書き出されます。

パス名 出力データを書き出すディレクトリーまたはストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

印刷装置ファイル出力をストリーム・ファイルに書き出す前に、この出力を最終形式に変換するために使用するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定します。このパラメーターは、**TO**ストリーム・ファイル (**TOSTMF**)パラメーターが***NONE**でない場合に限り有効です。

単一値

*NONE

出力は、ストリーム・ファイルに書き出される前に、最終形式には変換されません。

***PDF** 出力は、ストリーム・ファイルに書き出される前にPortable Document Format (PDF)に変換されません。

修飾子1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

名前 カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

- *NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共有されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。
- *YES** ファイルをオープンする時に***YES**も指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによるファイルのオープン時に、印刷装置ファイルのレコード様式のレベルIDが検査されるかどうかを指定します。検査する場合には、プログラム中のレコード様式IDは装置ファイル中のものと一致していなければなりません。複数のファイルに同じレコード様式名が存在できるため、各レコード様式にはその作成時に内部システムIDが指定されます。

- *YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合には、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。
- *NO** レコード様式のレベルIDは検査されません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(***OBJEXIST**)およびオブジェクト管理権限(***OBJMGT**)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

CHANGE**権限では、オブジェクト操作(OBJOPR**)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- *ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(***AUTLMGT**)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- *USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(***USE**)権限は、オブジェクト操作(***OBJOPR**)、読み取り(***READ**)、および実行(***EXECUTE**)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

注: ファイルに対する権限値はユーザーのユーザー・プロファイルによって決められます。既存のファイルが置き換えられる場合には、新しいファイルに対する権限値は置き換えられたファイルからコピーされません。

***YES** 新しい印刷装置ファイルが正常に作成された場合には、同じ名前およびライブラリーの既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しい印刷装置ファイルを作成することはできません。

上

例

例1: 印刷装置ファイルの作成

```
CRTPRTF FILE(DSPHIST) SRCFILE(PRSNNL/JOBHIST) FILESEP(3)
```

このコマンドは、PRSNLライブラリーに保管されているJOBHISTという名前のDDSソース・ファイルを使用して、DSPHISTという名前の印刷装置ファイルを作成します。FILESEPを除く他のパラメーターは省略時値が使用されます。

この印刷装置は、66行の長さで印刷幅が132桁の標準用紙を使用します。SCSデータ・ストリームが使用されます。1インチ当たり6行を印刷して、60行を印刷した後で新しいページにオーバーフローします。印刷イメージは、装置記述で指定されたものが使用されます。出力はジョブに対して指定された出力待ち行列にスプールされ、ファイルがクローズされるまで印刷できません。印刷後にスプール・ファイルは保持または保管されません。出力の1コピーが印刷され、その前にそれぞれファイル名、スプール番号、およびジョブ名と番号が入っている分離ページが印刷されます。印刷テキストは現行ジョブで指定されたものが使用されます。

例2: DBCSデータが入っている印刷装置ファイルの作成

```
CRTPRTF FILE(IGCLIB/IGCPRT) IGCDA(*YES)  
FORMFEED(*AUTOCUT) IGCCHRTT(*YES)
```

このコマンドは、DBCSデータが入っている印刷装置ファイルIGCPRT（ライブラリーIGCLIBに保管されている）を作成します。カット・シートが自動的に給紙され、印刷時には2バイト文字が回転されます。

例3: ストリーム・ファイルを生成する印刷装置ファイルの作成

```
CRTPRTF FILE(QGPL/MYFAXPRT) TOSTMF('.'.') WSCST(QWPTIFFPB)  
DEVTYPE(*AFPDS)
```

このコマンドは、印刷装置ファイルMYFAXPRT（ライブラリーQGPLに保管される）を作成します。この印刷装置ファイルは、（PackBit圧縮の）TIFFイメージ形式を含むストリーム・ファイルを現行作業ディレクトリーに生成するものです。オペレーティング・システムは、ストリーム・ファイルに対して、先頭に印刷装置ファイル名MYFAXPRTが付くランダムな名前を生成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF339F

満了日は今日以降の日付でなければなりません。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

PROXYコマンドの作成 (CRTPRXCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロキシー・コマンド作成(CRTPRXCMD)コマンドは、新しいユーザー定義プロキシー・コマンド定義オブジェクトを作成します。このプロキシー・コマンド定義オブジェクトは、*CMDのオブジェクト・タイプを持ちます。

作成されたプロキシー・コマンドは、プロキシー変更(CHGPRXCMD)コマンドで変更できます。プロキシー・コマンドを参照するその他のコマンド固有インターフェースは、実際にはターゲット・コマンド(TGTCMD)パラメーターに指定されたコマンドに対して機能します。ターゲット・コマンドは、正規コマンドまたは別のプロキシー・コマンドとすることができます。最大5つのプロキシー・コマンドを一緒に連結することができます。チェーン中の最後のターゲット・コマンドは、正規コマンドでなければなりません。コマンド変更(CHGCMD)コマンドまたはコマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドをプロキシー・コマンドに対して使用すると、ターゲット・コマンドが変更されます。プロンプトによって、あるいはプロキシー・コマンドを実行すると、ターゲット・コマンドでプロンプトが出されるか、ターゲット・コマンドが実行されます。

コマンドに固有でないその他のオブジェクト操作はプロキシー・コマンドに機能し、ターゲット・コマンドには影響がありません。例えば、プロキシー・コマンドを別のライブラリーに移動、プロキシー・コマンドの保管、プロキシー・コマンドの削除などの操作は、プロキシー*CMDオブジェクトのみに機能し、ターゲット*CMDオブジェクトは影響を受けません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TGTCMD	ターゲット・コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ターゲット・コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *SYSTEM, *NLVLIBL	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *TGTCMD, *CMDPMT, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	コマンドの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

コマンド (CMD)

作成されるプロキシー・コマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 作成されるプロキシー・コマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

プロキシー・コマンドは、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プロキシー・コマンドが入るライブラリーの名前を指定してください。

上

ターゲット・コマンド (TGTCMD)

コマンドを処理するために使用されるターゲット・コマンドを指定します。このコマンドは、コマンドがプロキシー・コマンドのプロンプト、コンパイル、または実行で使用されるまで必要ありません。プロキシー・コマンドに指定されたパラメーターは、検証および解釈のためにターゲット・コマンドに渡されます。ターゲット・コマンドは、正規コマンドまたは別のプロキシー・コマンドとすることができます。最大5つのプロキシー・コマンドと一緒に連結することができます。チェーン中の最後のターゲット・コマンドは、正規コマンドでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ターゲット・コマンド

名前 このプロキシー・コマンドのターゲット・コマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***SYSTEM**

コマンドを見つけるために、QSYSライブラリーだけが使用されます。出口プログラムがQIBM_QCA_CHG_COMMAND出口点に登録されている場合には、その出口プログラムがコマンドを変更できます。

***NLVLIBL**

ライブラリー・リスト中の各国語バージョン(NLV)ライブラリーとQSYSライブラリーだけがコマンドを見つけるために検索されます。出口プログラムがQIBM_QCA_CHG_COMMAND出口点に登録されている場合には、その出口プログラムがコマンドを変更できます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***TGTCMD**

ターゲット・コマンドのテキスト記述がプロキシー・コマンドのテキスト記述として使用されます。このコマンドの実行時に、ターゲット・コマンドが存在しない場合には、プロキシー・コマンドのテキスト記述は、ターゲット・コマンドの修飾名となります。

***CMDPMT**

テキスト記述は、コマンドのプロンプトが表示される場合に示されるコマンド・タイトルと同じになります。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50バイトを超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***USE** ユーザーは、プロンプトやコマンドの実行など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。 権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。 この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

コマンドの置き換え (REPLACE)

作成されるコマンドと同じ名前、同じライブラリーにある既存のコマンド・オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

***YES**を指定した場合、同じ名前のコマンド・オブジェクトが同じライブラリーにすでに存在していると、既存のコマンドは名前変更されてライブラリーQRPLOBJに移動され、次回にオペレーティング・システムのIPLが行われると削除されます。

***YES** 作成操作が正常に実行されると、既存のコマンドが新しいコマンドで置き換えられます。

***NO** 既存のコマンドは置き換えられないので、既存のコマンドと同じ名前およびライブラリーの新しいコマンドを作成することはできません。

上

例

```
CRTPRXCMD CMD(QGPL/WJ) TGTCMD(WRKJOB)
          TEXT('WRKJOB SHORTCUT')
```

WJという名前のプロキシー・コマンドがライブラリーQGPLに作成されます。 WJコマンドが実行される場合、あるいはプロンプトが出される場合には、WJコマンド・パラメーターを処理するために、ライブラリー・リスト中のターゲット・コマンドWRKJOBが使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0201

コマンド&2はライブラリー&3に作成されなかった。

上

PSF構成の作成 (CRTPSFCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PSF構成の作成 (CRTPSFCFG)コマンドは、このコマンドで指定した情報から印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを作成するために使用します。

PSF構成オブジェクトによって、装置記述作成 (印刷装置) CRTDEVPRTコマンドでサポートされていない装置解放タイマー設定などのAFP印刷装置用の追加パラメーターを指定することができます。PSF構成オブジェクトのオブジェクト・タイプは*PSFCFGです。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。
- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
USRRSCLIBL	ユーザー資源ライブラリー・リスト	*JOBLIBL, *CURLIB, *NONE	オプション
DEVRSCLIBL	装置資源ライブラリー・リスト	単一値: *DFT その他の値 (最大 30 回の繰り返し): 名前	オプション
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	*NO, *YES	オプション
ACTRLSTMR	解放タイマーの活動化	*NORDYF, *IMMED, *PRTNORDYF, *PRTIMMED	オプション
RLSTMR	解放タイマー	1-1440, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
RESTRTMR	再始動タイマー	1-1440, *IMMED	オプション
RETRY	APPCおよびTCP/IP再試行カウント	1-99, 15, *NOMAX	オプション
RETRYDLY	APPC再試行間の遅延	0-999, 90	オプション
ACKFRQ	肯定応答頻度	1-32767, 100	オプション
PRTRSPTMR	印刷装置応答タイマー	5-3600, *NOMAX	オプション
PDFGEN	PDF出力の生成	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SPLF, *STMF, *MAIL	オプション
PDFDEVTYPE	PDF装置エミュレーションのタイプ	*IP40240, *IP40300, *P4028, *P3812	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PDFPPRDWR1	PDF用紙サイズ用紙入れ1	*LETTER, *LEGAL, *STATEMENT, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A5, *A4, *A3, *B5, *B4	オプション
PDFPPRDWR2	PDF用紙サイズ用紙入れ2	*LETTER, *LEGAL, *STATEMENT, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A5, *A4, *A3, *B5, *B4	オプション
PDFMULT	複数のPDFファイル	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 複数のグループ確認	*YES	
	要素 2: 処理オプション	*SPLIT, *INDEX	
PDFINCFNT	PDFフォント・インライン	*YES, *NO	オプション
PDFDTAQ	PDFデータ待ち行列	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFデータ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFMAILSVR	PDFメール・サーバー名	単一値: *SNDDST その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値, *LOCAL	オプション
PDFSENDER	電子メールの送信側	名前, *SPLFOWN, QSPLJOB	オプション
PDFADMIN	PDF管理者	文字値, *NONE	オプション
PDFMAPPGM	PDFユーザー・プログラム	単一値: *NONE, *IBMPGM その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFユーザー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFMAP	PDFマッピング・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFマッピング・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFOUTQ	PDF出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDF出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFDIR	PDFディレクトリー	文字値	オプション
AFPSAVE	AFPデータの保管	*NO, *YES	オプション
AFPOUTQ	AFP出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: AFP出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUTOSSNRCY	自動セッション回復	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能	*YES	
	要素 2: メッセージ・オプション	*INFO, *INQ	

キーワード	記述	選択項目	ノート
BLANKPAGE	ブランク・ページ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PAGSIZCTL	ページ・サイズの制御	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RESFONT	常駐フォント	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RSCRET	資源保持期間	<u>*YES</u> , *NO	オプション
EDGEORIENT	エッジの方向	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション
USEOUTLFNT	アウトライン・フォントの使用	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション
PSDFNOPT	PSF定義オプション	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 6 回の繰り返し): 文字値, <u>*NONE</u>	オプション
FNTSUBMSG	フォント置き換えメッセージ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FNTCAPTURE	印刷装置でのホスト・フォント 取込	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FNTRSL	形式設定のフォント解像度	<u>*SEARCH</u> , 240, 300	オプション
FNTTBL	フォント・マッピング・テーブル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: フォント・マッピング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CSEMODE	単票用紙エミュレーション・モード	<u>*NONE</u> , *CHKFIRST, *CHKALL	オプション
MAPIGCFT	DBCS シミュレーション・フォントの使用	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション
REPLACE	置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

PSF構成 (PSFCFG)

作成する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PSF構成

名前 作成するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

現行ライブラリー中にPSF構成オブジェクトを保管します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 PSF構成オブジェクトを保管したいライブラリーの名前を指定します。

上

ユーザー資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)

AFP資源の検索時に使用するユーザー資源ライブラリー・リストを指定します。スプール・ファイルで指定されたAFP資源を検索する時には、印刷サービス機能(PSF)は最初にユーザー資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索してから装置資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索します。

*PRTFは、USRRSCLIBLパラメーターの有効な値から取り除かれました。USRRSCLIBL(*PRTF)で作成され、他のリリースから移行されたPSF構成オブジェクトは、印刷装置ファイルの新しいUSRRSCLIBLパラメーターに値*DEVDが指定されているかぎり、前のリリースと同じように正常にサポートされます。この環境でCHGSPFCFG コマンドを実行すると、前のリリースで値*PRTFが表示されていた位置に値*SAMEが表示されることになります。

*JOBLIBL

AFP資源の検索時に、スプール・ファイルを作成したジョブのライブラリー・リストを使用します。ユーザーが新しいスプール・ファイルを作成するたびに、その時点のジョブのライブラリー・リストが保管されます。

*CURLIB

AFP資源の検索時に、スプール・ファイルを作成したジョブの現行ライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*NONE

AFP資源の検索にユーザー資源ライブラリー・リストは使用されません。装置資源ライブラリー・リストだけが使用されます。

上

装置資源ライブラリー・リスト (DEVRSCLIBL)

AFP資源の検索時に使用する装置資源ライブラリー・リストを指定します。スプール・ファイルで指定されたAFP資源を検索する時には、印刷サービス機能(PSF)は最初にユーザー資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索してから装置資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索します。

単一値

*DFT AFP資源の検索時に、これらのライブラリーが存在する場合にはPSFはこれを検索します。

- QFNTCPL
- QFNT01 - QFNT19
- QFNT61 - QFNT69

注: 上記のリストのすべてのシステム・ライブラリーが作成されたわけではない場合には、欠落しているシステム・ライブラリーの名前を使用してライブラリーを作成することができます。このようなことが起こり、DEVRSCLIBLパラメーターに*DFTを指定している場合には、そのユーザー作成ライブラリーの中の資源が別のユーザーに誤って検出される可能性があります。これを避けるには、システム管理担当者は、欠落しているすべてのシステム・ライブラリーをPUBLIC *USE権限で作成しなければなりません。

その他の値

名前 PSFがAFP資源の検索に使用するライブラリーの名前を30個まで指定します。

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

装置に対してIPDSパススルーが行われるかどうかを指定します。IPDSパススルーは、不必要なデータ・ストリーム変換を除去し、スループットを向上させてCPU使用率を軽減することができるメカニズムです。全ページ・レベルのエラー回復がサポートされています。

IPDSパススルーは、印刷装置ファイル上の前方または後方オーバーレイなどのAFP処理機能を指定していないSCSおよびIPDSファイルで使用することができます。SCSデータは、総称IPDSに変換されます。装置構成または印刷装置ファイルにIPDSパススルーを指定することによって、IPDSパススルーに適格なスプール・ファイルだけについて、余分な変換を行わないようにすることができます。IPDSパススルーに適格でないスプール・ファイルは、AFPDSへの変換およびIPDSへの戻しの対象にまだなっています。

***NO** IPDSパススルーは行われません。

***YES** IPDSパススルーで適格なすべてのスプール・ファイルの装置に対してIPDSパススルーが実行されます。

すべての印刷サービス機能(PSF)サポート印刷装置では、IPDSパススルーは無効です。IPDSパススルーで使用できるのは、常駐フォントをサポートしている印刷装置だけです。印刷装置が常駐フォントをサポートしていない場合には、データ・ストリームのフォント参照は、印刷装置にダウンロードされるホスト・フォントにマップしなければなりません。これには、AFPDSへの変換およびIPDSへの逆変換が必要です。

次のIPDS印刷装置はIPDSパススルーをサポートすることができません。

- 3820, 3825, 3827, 3828, 3829, 3831, 3835, 3900-001
- 分散印刷機能(DPF)接続印刷装置。DPFは、INFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によってサポートされている、印刷装置常駐フォントの使用をブロックする機能です。

解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)

解放タイマーが活動化される時点を指定します。解放タイマー (RLSTMR)に指定された値は、セッションを解放する前に、書き出しプログラムが印刷装置を「保持」することになる時間の長さを決定します。

***NORDYF**

印刷装置の出力待ち行列に使用可能(RDY)なスプール・ファイルがなく、処理された最後のスプール・ファイルの最後のページが印刷されると、解放タイマーが活動化されます。解放タイマーが満了している場合には、印刷装置に対するセッションは解放されますが、書き出しプログラムは終了されません。そのセッションが解放されると、別の印刷サービス機能(PSF)が印刷装置に対するセッションを開始することができます。

セッションを解放する前にすべての使用可能なスプール・ファイルを書き出しプログラムで印刷したい時に、この値を使用します。

*NORDYFがサポートされるのは、APPCまたはTCP/IPを使用してシステムに接続されている印刷装置および装置の場合だけです。APPC接続でこの値が使用されるのは、INFOPRINT MANAGER FOR AIX またはINFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によって提

供されるPSF直接サポートの場合だけです。TCP/IP接続では、この値は任意の印刷装置に使用することができます。この値は平衡型接続の印刷装置にはサポートされていません。

***IMMED**

PSFが印刷装置に正常にリンクされた直後に、解放タイマーが活動化されることとなります。解放タイマーが満了している場合には、印刷装置に対するセッションは解放されますが、書き出しプログラムは終了されません。解放タイマーが満了した時にファイルを印刷していた場合には、書き出しプログラムは、スプール・ファイルのすべてのページが印刷された後でセッションを解放します。そのセッションが解放されると、別のPSFがその印刷装置に対するセッションを開始することができます。

書き出しプログラムで印刷装置を別の印刷装置書き出しプログラムと共用したい時には、この値を使用してください。

*IMMEDがサポートされるのは、APPCまたはTCP/IPを使用してシステムに接続されている印刷装置および装置の場合だけです。APPC接続でこの値が使用されるのは、INFOPRINT MANAGER FOR AIX またはINFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によって提供されるPSF直接サポートの場合だけです。TCP/IP接続では、この値は任意の印刷装置に使用することができます。この値は平衡型接続の印刷装置にはサポートされていません。

***PRTNORDYF**

この値は、IPDSデータ (IPDSダイアログ) の交換を制御できる印刷装置を使用している場合に指定することができます。印刷装置がこの機能をサポートしているかどうか判別するには、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。

この値は、以下のすべての条件と一致すると解放タイマーが活動化されることを指定します。

- 書き出しプログラムがIPDSダイアログを解放する指示を印刷装置から受信する。
- 使用可能なスプール・ファイルが印刷装置の出力待ち行列にない。
- 最後に処理されるスプール・ファイルの最後のページが印刷された時

解放タイマーが満了した場合には、書き出しプログラムは印刷装置とのIPDSダイアログを解放します。セッションは解放されず、書き出しプログラムが使用中のポートは別のPSFに対して使用可能になりません。別の印刷装置ドライバーは、異なった印刷装置ポート上にある印刷装置とのダイアログを開始することができます。

印刷装置がIPDSダイアログを制御できないことを書き出しプログラムが検出した場合には、この値は無視され、PSFはRLSTMR(*NOMAX)が指定されているかのように作動します。

IPDSダイアログを解放する前にすべての使用可能なスプール・ファイルを書き出しプログラムで印刷したい時に、この値を使用します。

*PRTNORDYFは、平衡型、TCP/IP、またはAPPC接続でサポートされます。

***PRTIMMED**

この値は、IPDSデータ (IPDSダイアログ) の交換を制御できる印刷装置を使用している場合に指定することができます。印刷装置がこの機能をサポートしているかどうか判別するには、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。

この値は、書き出しプログラムがIPDSダイアログを解放する指示を印刷装置から受信した直後に解放タイマーが活動化されることを指定します。解放タイマーが満了した場合には、書き出しプログラムは印刷装置とのIPDSダイアログを解放しますが、セッションは解放されません。書き出しプログラムが使用中のポートは別のPSFに対して使用可能になりませんが、別の印刷装置ドライバーは、異なった印刷装置ポート上にある印刷装置とのダイアログを開始することができます。解放タ

イマーが満了した時にファイルを印刷していた場合には、書き出しプログラムは、スプール・ファイルのすべてのページが印刷された後でダイアログを解放します。

別の印刷装置ポートで印刷装置ドライバーによって印刷装置が必要とされていることを指示された後に、書き出しプログラムがその印刷装置を制御する時間の長さを指定したい時には、この値を使用してください。

データのフローを停止するよう書き出しプログラムに印刷装置が知らせることができないことを書き出しプログラムが検出した場合には、この値は無視され、PSFはRLSTMR(*NOMAX)が指定されているかのように作動します。

*PRTIMMEDは、平衡型、TCP/IP,またはAPPC接続でサポートされます。

上

解放タイマー (RLSTMR)

解放タイマーが活動化されて、使用可能な最後のスプール・ファイルの最後のページが印刷された後で、印刷装置を解放する前に待機する時間の長さを指定します。印刷サービス機能(PSF)は終了されませんが、印刷装置との接続またはIPDSダイアログを解放します。解放タイマーの追加情報については、**解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

スプール・ファイルが使用可能になると、PSFは印刷装置とセッションを確立しようとします。追加情報については、**再始動タイマー (RESTRTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

*NOMAX

印刷装置は、書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドが実行されるまで解放されません。

*SEC15

PSFは、印刷装置を解放する前に15秒間待機します。

*SEC30

PSFは、印刷装置を解放する前に30秒間待機します。

I-1440 印刷装置またはIPDSダイアログを解放する前に、印刷装置書き出しプログラムが待機する分数を指定します。

上

再始動タイマー (RESTRTMR)

印刷装置書き出しプログラムがセッションまたはダイアログのいずれかを再確立しようとする前に、待機する時間を指定します。セッションまたはダイアログを再確立するかどうかを判別するには、印刷装置書き出しプログラムは次を考慮します。

- ACTRLSTMRに指定された値。
- 印刷装置がIPDSダイアログ管理をサポートするかどうか。
- リンクのタイプ：平衡型、APPC,またはTCP/IP。

ACTRLSTMR(*NORDYF)またはACTRLSTMR(*IMMED)を指定すると、印刷装置がAPPCまたはTCP/IPを使用して接続されている場合には、セッションが再開されます。

ACTRLSTMR(*PRTNORDYF)またはACTRLSTMR(*PRTIMMED)を指定すると、印刷装置がダイアログ管理をサポートしている場合には、ダイアログが再開されます。

セッションおよびダイアログの管理制御の追加情報については、**解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

***IMMED**

印刷装置書き出しプログラムは、スプール・ファイルがRDYの状況になると同時に、セッションまたはダイアログを再確立しようとします。

1-1440 セッションまたはダイアログが解放されてスプール・ファイルがRDYの状態になった後で、接続を試みる前に印刷装置書き出しプログラムが待機する分数を指定します。

上

APPCおよびTCP/IP再試行カウント (RETRY)

印刷装置でセッションを確立しようとする時にセッション開始要求を再試行する回数を指定します。このパラメーターは、TCP/IPかAPPCのいずれかで構成された印刷装置および装置に適用されます。

15 セッションの確立に15回の再試行が試みられます。15回の再試行の後、印刷サービス機能(PSF)がまだセッションを確立できない場合には、印刷装置書き出しプログラムが終了します。

***NOMAX**

再試行回数に制限はありません。セッションが確立されるか、またはENDWTR OPTION(*IMMED)を使用して印刷装置書き出しプログラムを終了するまで、PSFはセッション開始要求を出し続けます。

1-99 セッションを確立するための再試行回数を指定します。

上

APPC再試行間の遅延 (RETRYDLY)

セッション開始要求が正常に実行されなかったという通知を受け取った後に、印刷サービス機能(PSF)が待機する秒数を指定します。指定された時間が経過すると、別のセッション開始要求が出されます。PSFによって実行される再試行回数は、パラメーターRETRYによって制御されます。このパラメーターは、APPCで構成された印刷装置および装置に適用されます。

90 再試行間に90秒の遅延が使用されます。

0-999 セッション確立の再試行間に一時停止する秒数を指定します。

上

肯定応答頻度 (ACKFRQ)

印刷サービス機能(PSF)がIPDS肯定応答要求を印刷装置に送る頻度（ページ数）を指定します。印刷装置からの肯定応答要求の応答には、印刷装置に送られたページ状況についての情報が入っています。

スプール・ファイルに入っているページがACKFRQに指定されているより少ない場合には、スプール・ファイルの最後のページが送られた後で、肯定応答が要求されます。

AUTOSSNRCY(*YES)を指定する時に、この値の調整を考慮してください。印刷装置は印刷されたページの状態を戻すことができないので、印刷装置との接続が異常終了した時に、PSFがページを再印刷する場合があります。肯定応答を送る頻度を増すことによって、切断された接続が復元された時に再印刷されるページ数が減ります。しかし、肯定応答が1ページ当たり1回というように頻繁に要求されると、パフォーマンスが低下する場合があります。

肯定応答頻度は、平衡型、APPC,およびTCP/IPのすべての接続でサポートされています。AUTOSSNRCYは、APPCおよびTCP/IP接続だけにサポートされていることに注意してください。

100 肯定応答要求を100ページおきに印刷装置に送ることを指定します。

1-32767

何ページごとにPSFが印刷装置に肯定応答要求を送るかを指定します。

上

印刷装置応答タイマー (PRTSPTMR)

TCP/IPに接続された印刷装置からの応答を待機する時間（秒）を指定します。

***NOMAX**

印刷装置書き出しプログラムは、印刷装置から1つの応答を受け取るまで待機します。書き出しプログラムがメッセージを受け取らなければ、それは終了されません。

5-3600 印刷装置書き出しプログラムが印刷装置からの応答を待機する時間（秒）を指定します。書き出しプログラムは、印刷装置がこの指定された時間の範囲内に応答しなかった場合に終了されます。これが起こった場合には、書き出しプログラムが終了して、メッセージがメッセージ待ち行列へ送られます。

上

PDF出力の生成 (PDFGEN)

スプール・ファイルの処理時にIPDSからPDFへの変換を通じてPDF出力ファイルを生成するかどうかを指定します。生成したPDFファイルをスプールする、これをストリーム・ファイルとして保管する、これを電子メールとして送信する、あるいはこれらの任意の組み合わせを実行することができます。この機能をサポートするには、INFOPRINT SERVERを導入しなければなりません。

PDFを生成するには、印刷装置記述のリモート・ロケーション名が有効なループバック・アドレスであるかまたは有効なループバック・アドレスと関連した名前であることが必要です。有効なループバック・アドレスを表すIPアドレスは、その最初のオクテットとして127を持っていないければなりません。

単一値

***NONE**

PDF出力ファイルは生成しません。

その他の値(3回までの反復)

***SPLF** 生成されたPDF出力ファイルをスプール・ファイル中に入れます。**PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)** パラメーターに指定した値は、使用される出力待ち行列を示します。

***STMF**

生成されたPDF出力ファイルをストリーム・ファイル中に入れます。**PDFディレクトリー (PDFDIR)**パラメーターに指定した値は、使用される統合ファイル・システム(IFS)ディレクトリーを示します。

***MAIL**

PDF出力ファイルを電子メールとして送信します。

上

PDF装置エミュレーションのタイプ (PDFDEVTYPE)

IPDSからPDFへの変換の仮想印刷装置がエミュレートする必要がある装置のタイプを指定します。

***IP40240**

240ピクセルの解像度で構成されたIP40印刷装置をエミュレートします。

***IP40300**

300ピクセルの解像度で構成されたIP40印刷装置をエミュレートします。

***P4028**

4028印刷装置をエミュレートします。

***P3812**

3812印刷装置をエミュレートします。

上

PDF用紙サイズ用紙入れ1 (PDFPPRDWR1)

IPDSからPDFへの変換と関連した装置の用紙入れ1の用紙のサイズを指定します。この情報は、生成したPDFページ・サイズを判別するのに使用されます。

***LETTER**

北米レターサイズの媒体(8.5 X 11インチ)

***LEGAL**

北米リーガル・サイズの媒体(8.5 X 14インチ)

***STATEMENT**

北米ステートメント・サイズの媒体(5.5 X 8.5インチ)

***EXECUTIVE**

北米エグゼクティブ・サイズの媒体(7.5 X 10.5インチ)

***LEDGER**

北米レジャー・サイズの媒体(11 X 17インチ)

***A5** ISO A5サイズの媒体(148.5 X 210 MM)

***A4** ISO A4サイズの媒体(210 X 297 MM)

***A3** ISO A3サイズの媒体(297 X 420 MM)

***B5** ISO B5サイズの媒体(176 X 250 MM)

***B4** ISO B4サイズの媒体(257 X 364 MM)

PDF用紙サイズ用紙入れ2 (PDFPPRDWR2)

IPDSからPDFへの変換と関連した装置の用紙入れ2の用紙のサイズを指定します。この情報は、生成したPDFページ・サイズを判別するのに使用されます。

***LETTER**

北米レターサイズの媒体(8.5 X 11インチ)

***LEGAL**

北米リーガル・サイズの媒体(8.5 X 14インチ)

***STATEMENT**

北米ステートメント・サイズの媒体(5.5 X 8.5インチ)

***EXECUTIVE**

北米エグゼクティブ・サイズの媒体(7.5 X 10.5インチ)

***LEDGER**

北米レジャー・サイズの媒体(11 X 17インチ)

***A5** ISO A5サイズの媒体(148.5 X 210 MM)

***A4** ISO A4サイズの媒体(210 X 297 MM)

***A3** ISO A3サイズの媒体(297 X 420 MM)

***B5** ISO B5サイズの媒体(176 X 250 MM)

***B4** ISO B4サイズの媒体(257 X 364 MM)

複数のPDFファイル (PDFMULT)

入力データ内で複数グループを見つけた時に、IPDSからPDFへの変換処置が実行されることを指定します。

単一値

***NO** グループ境界を無視して、単一出力ファイルを作成します。

要素1: 複数のグループ確認

***YES** このパラメーターの要素2に指定された値に基づき、IPDSからPDFへの変換により複数グループを処理します。

要素2: 処理オプション

***SPLIT**

複数のPDF出力ファイルが生成されます。ファイルは、グループ境界で分割されることとなります。

***INDEX**

索引タグまたはブックマークが、単一出力ファイルのグループ境界に置かれます。

***INDEX**が要求された場合には、以下に従ってブックマークがラベル付けされます。

- DDS STRPAGGRPキーワードでのグループ名、または
- CRTAFPDTAによって生成された索引項目、または
- ツールボックスによって挿入されたBNGタグ

グループ名中の文字が標準PDFエンコードで使用できない場合には、これらはスペースで表示されます。

上

PDFフォント・インライン (PDFINCFNT)

IPDSからPDFへの変換によって生成されるPDF出力が必要なフォント・インラインを含むかどうかを指定します。フォント・インラインの組み込みではフォント精度が保証されますが、PDFファイル・サイズは増加します。

フォントを組み込まないよう選択した場合には、IPDSタイプ1フォント名文字ストリングは、PDFフォント制御に移動されます。文書が表示される時、ACROBAT READERがIBMのコア・フォント名を、同等のADOBEまたはクライアント環境のコア・フォントのセットにマップします。ADOBE ACROBATに同等のものがないフォント名文字ストリングの場合、ADOBE ACROBATは、ADOBE MULTI-MASTER フォント置換プログラムを使用して、「最適」となる使用可能なフォントを選択します。

***YES** PDF出力でインラインにフォントが含まれます。

***NO** PDF出力でインラインにフォントが含まれません。

上

PDFデータ待ち行列 (PDFDTAQ)

印刷サービス機能(PSF)がIPDSからPDFへの変換の完了通知をログに記録するデータ待ち行列の名前を指定します。

このパラメーターはオプションですが、データ待ち行列を指定する場合には、このコマンドを実行する時にデータ待ち行列が存在していなければなりません。

単一値

***NONE**

IPDSからPDFへの変換の完了通知は、どのデータ待ち行列でもログに記録されません。

修飾子1: PDFデータ待ち行列

名前 使用するデータ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

PDFメール・サーバー名 (PDFMAILSVR)

IPDSからPDFへの変換からの結果PDFファイルを電子メールとして送信するために使用するメール・サーバーを指定します。このパラメーターが有効なのは、PDFGEN(*MAIL)が指定されている場合のみです。

単一値

***SNDDST**

配布の送信(SNDDST)コマンドを使用して、PDF出力を電子メールとして送信します。

その他の値(4回までの反復)

***LOCAL**

メール・サーバーとしてローカル・マシンを使用します。SMTPプロトコルが電子メールの送信に使用されます。メール・サーバーのリストの任意の位置に*LOCALを指定することができます。

文字値 PDF出力を電子メールとして送信するために使用するメール・サーバーのドメイン名またはIPアドレスを指定します。

メール・サーバーを4つまで指定することができます。書き込み機能は、リストされた順序でメール・サーバーを使用します。書き込み機能で、最初のメール・サーバーが使用できないことがわかった場合には、リストに指定された追加サーバーを使用しようとし、印刷サービス機能(PSF)は、サーバーのリストを内部で再編成し、作動していた最後のサーバーの使用を常に最初に試行することを確実にします。

使用可能なサーバーがリストにない場合には、実行される処置は、印刷装置記述のPRTERMSGパラメーターに指定された値によって決定されます。PRTERMSG(*INFO)が指定されている場合には、書き込み機能は終了されます。PRTERMSG(*INQ)が指定されている場合には、照会メッセージが出されます。

上

電子メールの送信側 (PDFSENDER)

電子メールで送信されるPDFファイルの送信側として使用する名前を指定します。

***SPLFOWN**

印刷サービス機能(PSF)は、電子メールの送信側を取得するのにスプール・ファイルの所有者のユーザー・プロファイルを使用します。

QSPLJOB

電子メールはPSFから送信されています。

名前 有効なユーザー・プロファイルを指定します。PSFは、このユーザー・プロファイルを使用して電子メールの送信側を取得します。

PSFがユーザー・プロファイルを使用して電子メールの送信側を判別する時には、このユーザー・プロファイルがシステムに存在し、またユーザーIDを指定したシステム配布ディレクトリー中に項目がなければなりません。SMTPメール・サーバーを使用してメールを送信しようとしている場合には、ディレクトリー項目にSMTPユーザーIDもなければなりません。プロファイルにSMTPユーザーIDがある場合には、SNDDSTを使用してメールを送信する場合でも、そのユーザーIDが送信側として使用されます。そうではなく、SNDDSTを使用してメールを送信し、SMTPユーザーIDがない場合には、プロファイルのユーザーIDが使用されます。

例えば、ユーザー・プロファイルMY_PROFILEがJIMのユーザーIDをもち、JIMJのSMTPユーザーIDをもつ場合には、使用されるメール・サーバーにかかわらず電子メールの送信側はJIMJとなります。ユーザー・プロファイルがSMTPユーザーIDをもたず、SNDDSTを使用してメールを送信する場合には、電子メールの送信側はJIMとなります。

上

PDF管理者 (PDFADMIN)

指定したPDF管理者の電子メール・アドレスを指定します。ファイルを指定した宛先に配信できない時に、この管理者に通知されます。システムの別のコンポーネントに配信の制御が渡された後にエラーが起こることがあるので、すべての障害が回復可能なわけではありません。例えば、PDF管理者は配信不能な電子メールを通知されません。

*NONE

PDF管理者は指定されません。電子メールの通知がPDF管理者に送信されることになっていた場合には、通知は送信されないこととなります。

'文字値'

アポストロフィに囲まれた有効な電子メール・アドレスを構成するテキストを80文字以下で指定します。

上

PDFユーザー・プログラム (PDFMAPPGM)

暗号化の指定など、PDF変換をカスタマイズするため、あるいはPDFが電子メールとして送信され、スプール・ファイル中で1つまたは複数のメール・タグを解決している時に印刷サービス機能(PSF)が呼び出すマッピング・プログラムの名前を指定します。マッピング・プログラムが指定されない場合には、PSFはメール・タグを有効な電子メール・アドレスと見なし、そのメール・タグの情報を使用してファイルを送信しようとします。

指定されたマッピング・プログラムが存在しない場合には、PSF構成オブジェクトは作成されません。スプール・ファイルを処理する前にマッピング・プログラムが削除された場合には、PDF出力ファイルは削除され、印刷装置書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列にエラー・メッセージが出されて、元のスプール・ファイルは保留されます。

単一値

*NONE

PDF変換をカスタマイズするのに、マッピング・プログラムは使用されません。

*IBMPGM

PDF変換をカスタマイズするのに、IBM提供の省略時マッピング・プログラムが使用されます。
*IBMPGMの値が指定されている場合には、PDFMAPパラメーターの値も指定しなければなりません。

修飾子1: PDFユーザー・プログラム

名前 使用するユーザー・マッピング・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 ユーザー・マッピング・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

PDFマッピング・オブジェクト (PDFMAP)

印刷サービス機能(PSF)がPDFマッピング・プログラムに渡すマッピング・オブジェクトの名前を指定します。マッピング・オブジェクトを指定しない場合には、PSFはマッピング・プログラムにこれが必要ないと見なします。PDFMAPPGMパラメーターにマッピング・プログラムとして*IBMPGMを指定する場合には、マッピング・オブジェクトが必要です。またマッピング・オブジェクトを指定した場合には、PDFMAPPGMパラメーターに*IBMPGMを指定しなければなりません。

指定されたマッピング・オブジェクトが存在しない場合には、PSF構成オブジェクトは作成されません。スプール・ファイルを処理する前にマッピング・オブジェクトが削除された場合には、PDF出力ファイルは削除され、印刷装置書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列にエラー・メッセージが出されて、元のスプール・ファイルは保留されます。

単一値

*NONE

マッピング・オブジェクトは、ファイル宛先を解決するのに指定されたマッピング・プログラムに渡されません。

修飾子1: PDFマッピング・オブジェクト

名前 ユーザー・マッピング・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 ユーザー・マッピング・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)

PDF出力の生成 (PDFGEN)パラメーターに*SPLFが指定されている時に使用する出力待ち行列を指定します。*SPLFがPDFGENパラメーターに指定されている時には、このパラメーターに値が必要となります。

修飾子1: PDF出力待ち行列

名前 使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

上

PDFディレクトリー (PDFDIR)

PDFファイルを保管する必要があるパスを指定します。PDFGENパラメーターに*STMFが指定された場合には、統合ファイル・システム・ディレクトリーを指定する必要があります。この名前は/で始まっていない限りなりません。このパス内のディレクトリー名には、次の文字を含めることはできません。\$ (半角), < > " ? : * |

変換によって作成されたサブディレクトリーは、QSPLJOBによって所有されます。こうしたサブディレクトリーは、*RXという共通データ権限と*NONEという共通オブジェクト権限をもちます。変換によって作成されたファイルは、オリジナルのスパール・ファイルの所有者によって所有されます。QSPLJOBは、*RWXというデータ権限と*ALLというオブジェクト権限をもちます。共通権限は*EXCLUDEになります。

このファイルを後で電子メールにしたい場合には、PDFディレクトリーにQDLS/ディレクトリー名を指定します。これにより、ユーザー・ファイルは次の位置に保管されることになります。

/QDLS/ディレクトリー名/ジョブ名/ジョブ番号/ジョブ・ユーザー名/ファイル番号/日付/順序番号/

ルート・ファイル・システム内の記憶域の場合には、そのファイルを保管する必要があるサブディレクトリー (ディレクトリー名) を指定するだけです。これにより、ユーザー・ファイルは次の位置に保管されることになります。

/ディレクトリー名/ジョブ名/ジョブ番号/ジョブ・ユーザー名/ジョブ番号_ファイル番号_日付_順序番号/

注: 最後のサブディレクトリーは、固有ファイル名を保証する多数の値の連結です。

ファイル名の構成要素の説明は次の通りです。

- ジョブ名元のスパール・ファイルの10文字のジョブ名
- ジョブ番号元のスパール・ファイルに割り当てられたジョブ番号 (ジョブ名の最後の2文字が接頭部に付く)
- ジョブ・ユーザー名元のスパール・ファイル所有者の10文字の名前
- ファイル番号元のスパール・ファイルのファイル番号 (ジョブ・ユーザー名の最後の2文字が接頭部に付く)
- 日付 PDFへの変換が完了した時点の4桁の年が付加された2桁の月と2桁の日
- 順序番号 6文字の順序番号。PDFMULTが*NOの場合には、これが000001に設定されます。PDFMULTが*YESの場合には、そのジョブ用に生成された各PDFファイルの固有の識別のために順序番号が増分されます。

'文字値'

使用する統合ファイル・システム(IFS)ディレクトリーの名前を指定します。

上

AFPデータの保管 (AFPSAVE)

印刷サービス機能(PSF)プロダクトが処理の完了時の出力待ち行列で、生成したAFPDSファイルを保存する機能を活動化するかどうかを指定します。このパラメーターは、PSFがSCS, AFPDS, IPDS, ポストスクリプト, PCL, またはPDF入力データ・ストリームからAFPDSファイルを生成し、出力待ち行列にAFPDSを置くことを指定します。この出力待ち行列は、セグメント印刷要求の場合にはユーザー出口プログラムによ

て、あるいはPSF構成オブジェクト中のAFPOUTQパラメーターに提供された値によって決定されます。AFPSAVEが*YESに設定されている場合には、AFPOUTQパラメーターが必要です。

この設定は、回線の入力データ・ストリームおよび混合モード・データで、IPDSパススルーが活動状態の時に無視されます。ポストスクリプト、PCL、およびPDF入力データ・ストリームをサポートするには、INFOPRINT SERVERを導入しなければなりません。

注: PDFマッピング・プログラムを使用してセグメント印刷要求を処理していない場合には、この機能を実行する印刷要求の投入時にUSRDFNDDTAパラメーターにAFPRESPOOL引数の値も指定しなければなりません。USRDFNDDTAパラメーターの使用の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

***NO** 処理が完了した後、ファイルは保管されません。

***YES** 処理が完了した後、生成したAFPDSファイルが保管されます。AFPDSファイルが保管される場合、入力データ・ストリームはAFPDSデータの保管をサポートしていなければならず、また以下の条件の1つと一致しなければなりません。

- 印刷要求がセグメントされていて、セグメントが再スプールされるようPDFマッピング・プログラムが要求している。
- 印刷要求がセグメントされておらず、印刷要求でUSRDFNDDTAパラメーター中にAFPRESPOOL引数が指定してある。

上

AFP出力待ち行列 (AFPOUTQ)

AFPデータの保管 (AFPSAVE)パラメーターに*YESが指定されている時に使用する出力待ち行列を指定します。*YESがAFPSAVEパラメーターに指定されている時には、このパラメーターに値が必要となります。PDFマッピング・プログラムを使用したセグメント印刷要求で、この値を指定変更することができます。

修飾子1: PDF出力待ち行列

名前 使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'テキスト記述'

50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定します。

上

自動セッション回復 (AUTOSSNRCY)

セッションが予期せずに装置によって終了された時に、印刷サービス機能(PSF)が自動的に印刷を再開するかどうかを指定します。このパラメーターは、APPCまたはTCP/IP接続の印刷装置記述で構成される装置に適用されます。

単一値

***NO** セッションが予期せずに装置によって終了された時に、PSFを終了することを指定します。

要素1: 使用可能

***YES** 予期せずに装置によって終了されたセッションの再確立を、PSFが試みることを指定します。

APPC接続を指定する印刷装置記述を使用している場合には、次に注意してください。

- PSFがセッションを再確立しようとする時には、PSF構成オブジェクト・パラメーターRETRYおよびRETRYDLYが使用されます。
- APPN(*YES)を指定するAPPC制御装置記述およびAPPC装置記述を使用しなければなりません。さらに、APPC制御装置記述には、MINSWTSTS(*VRYONPND)が指定されていなければなりません。

TCP/IP接続を指定する印刷装置記述を使用している場合には、PSFがセッションを再確立しようとしている時に、PSF構成オブジェクト・パラメーターRETRYが使用されます。

ページの再印刷を避けるには、このパラメーターの2番目の要素に*INQを指定するか、あるいは肯定応答頻度 (ACKFRQ)パラメーターに指定した値を減らすことができます。

肯定応答頻度を減らす場合には、PSFは印刷したページをより詳細に追跡することができます。ただし、パフォーマンスがいくらか低下する可能性があります。これは、パフォーマンスのネットワークおよび知覚によって異なります。

照会メッセージ通知(*INQ)を選択した場合には、印刷が再開されるページが明確になります。

要素2: メッセージ・オプション

***INFO** PSFが自動セッション回復を実行する時に、書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列に通知メッセージが送られます。

***INQ** PSFが自動セッション回復を実行する時に、書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列に照会メッセージが送られます。このメッセージによって、書き出しプログラムが、処理されている最後のスプール・ファイルの印刷を開始するページ番号を指定することができます。

上

ブランク・ページ (BLANKPAGE)

印刷サービス機能(PSF)が、すべての区切りページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れるかどうかを指定します。ブランク・ページによって、切り離しに適した方法で印刷装置出力を出力スタッカーに入れることができます。このパラメーターが適用されるのは、次の連続用紙の印刷装置に対してだけです。

- 3831
- 3835
- 3900-001

- すべてのAFCCU連続用紙印刷装置。

***YES** PSFは、すべての区切りページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れます。

***NO** PSFは、すべての区切りページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れません。

上

ページ・サイズの制御 (PAGSIZCTL)

印刷装置のページ・サイズ（用紙）を印刷サービス機能(PSF)によって設定するかどうかを指定します。このパラメーターは、媒体サイズ(SMS)操作をサポートするIPDS印刷装置にのみ適用されます。新規装置サポートについては、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。ただし、リストには以下が含まれています。

- インパクト印刷装置: 4224, 4230, 4234, 4247, 6400, 6408, 6412
- ワークグループ印刷装置: 3112, 3116, 3812, 3816, 3912, 3916, 3930, 4028, ネットワーク印刷装置 12/17/24, INFOPRINT 20/21/32/40/70/70+/2085/2105
- LEXMARK印刷装置: INFOPRINT 1120/1125/1130/1140/1145/1226, INFOPRINT COLOR 1220/1228 4224, 4230, 4234, 4247, 4028, 6404, 6408, 6412, およびIBMネットワーク印刷装置
- 熱転写印刷装置: 4400

***NO** 印刷装置のページ・サイズ（用紙）はPSFによって設定されません。

***YES** 印刷装置のページ・サイズ（用紙）はPSFによって設定されます。

上

常駐フォント (RESFONT)

印刷サービス機能(PSF)が常駐フォントをもつ印刷装置で常駐フォントをサポートするかどうかを指定します。常駐フォントをサポートしないとすることによって、PSFは常駐フォント参照をそれと等価のホスト・フォントにマップしてから、ホスト・フォントを印刷装置にダウンロードすることになります。

***YES** 印刷装置の常駐フォントがPSFによってサポートされます。

***NO** 印刷装置の常駐フォントがPSFによってサポートされません。PSFは、スプール・ファイルの常駐フォント参照を、それと等価のホスト・フォントにマップしてから、ホスト・フォントを印刷装置にダウンロードします。

上

資源保持期間 (RSCRET)

複数のスプール・ファイルに渡る資源保存が印刷サービス機能(PSF)によってサポートされるかどうかを指定します。

***YES** PSFは、印刷装置内のページ・セグメントとオーバーレイをスプール・ファイルの境界を超えて保管します。これは、同じ資源を参照する複数のスプール・ファイルを印刷する時には特に、データ転送を最小にします。

***NO** 印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置内のページ・セグメントとオーバーレイをスプール・ファイルの境界を超えて保管しません。これは、各スプール・ファイルの後で削除されます。

注: ページ・セグメントおよびオーバーレイは、印刷装置書き出しプログラムが終了した時に印刷装置内で削除されます。

上

エッジの方向 (EDGEORIENT)

追加ページの回転が実行されるかどうかを指定します。スプール・ファイルのページ回転値が*CORまたは*AUTOであり、システムが出力を回転する場合には、通常90度の回転が使用されます。

***NO** 出力は元の方向のままとなります。

***YES** 90度の*CORおよび*AUTOの出力は、印刷の前にさらに180度回転されます。

上

アウトライン・フォントの使用 (USEOUTLFNT)

要求したダウンロード可能なAFPラスター・フォントを同等なダウンロード可能なアウトライン・フォントと置き換えるかどうかを指定します。

***NO** ラスター・フォントが使用されます。

***YES** 同等なダウンロード可能なアウトライン・フォントが存在する場合には、ラスター・フォントの代わりにそれが使用されます。

上

PSF定義オプション (PSFDFNOPT)

IBMによって定義された値を指定します。

***NONE**

印刷サービス機能(PSF)定義オプションは指定されません。

文字値 IBMによって定義された値を指定します。オペレーティング・システムのそれぞれのリリースで1つまたは複数の値が使用可能となることがあります。値が使用可能になった場合には、PTF カバー・レターに必要な構文が入っています。

上

フォント置き換えメッセージ (FNTSUBMSG)

フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージを、印刷サービス機能(PSF)が出すかどうかを指定します。

***YES** フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージが出されます。

***NO** フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージは出されません。フォント置き換えが異常終了したことを示すメッセージは出されます。

印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)

印刷装置がホスト・ダウンロード・フォントを取り込むかどうかを指定します。

***NO** 印刷装置はホスト・フォントを取り込みません。

***YES** フォント文字セットまたはコード・ページが、印刷装置にダウンロードした後で取り込みに適合されます。印刷装置がフォント取り込みをサポートしていない場合には、この情報は無視されてフォントがダウンロードされます。

形式設定のフォント解像度 (FNTRSL)

印刷サービス機能(PSF)が以下の条件で使用する解像度を指定します。

- 複数解像度の印刷装置に印刷しようとしている
- 印刷装置が複数解像度のサポートを報告するよう構成されている
- スプール・ファイルがスプール・ファイル印刷用のフォント・メトリックおよび解像度を指定していないか、あるいはその解像度のフォントが使用可能でない

印刷装置が240ピクセル/インチまたは300ピクセル/インチのいずれかだけのサポートを報告するように構成されている場合には、PSFは、単一解像度印刷装置で実行するのと同じ結果を作成します。

ライブラリー・リストでのフォント資源の検索に使用するアルゴリズムの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

***SEARCH**

名前が一致する最初のホスト・フォントをライブラリー・リストで検索します。そのフォントの解像度を使用して、スプール・ファイルを印刷します。この値が選択された時には、最終的に選択されたフォントの解像度をユーザーに指示するためにメッセージPQT3546が出されます。

240 スプール・ファイルの印刷に使用するフォント解像度は240ピクセル/インチとなります。

300 スプール・ファイルの印刷に使用するフォント解像度は300ピクセル/インチとなります。

フォント・マッピング・テーブル (FNTTBL)

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・マッピング・テーブルの名前を指定します。印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置常駐フォントをサポートしている印刷装置に印刷しようとしていて、スプール・ファイルがサポートしていない印刷装置常駐フォントを指定している時に、このフォント・マッピング・テーブルを使用します。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つからない場合、または指定された置き換えフォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

サポートされている印刷装置常駐フォントの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。ユーザー・フォント・テーブルの詳細については、CRTFNNTBL, DSPFNNTBL, ADDFNNTBLE, CHGFNNTBLE,およびRMVFNNTBLEコマンドを参照してください。

単一値

***NONE**

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・テーブルは指定されません。印刷装置常駐フォントを参照する印刷ジョブでは、フォントが印刷装置によってサポートされていない場合にはシステムが別の常駐フォントを置き換えます。

修飾子1: フォント・マッピング・テーブル

名前 印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

単票用紙エミュレーション・モード (CSEMODE)

単票用紙エミュレーションを使用する時に、印刷サービス機能(PSF)が文書のサイズ検査を行う程度を指定します。

***NONE**

文書ページが連続用紙物理ページの半面に収まることを確認するための検査は行われません。

***CHKFIRST**

ページが連続用紙ページの半面に収まるかどうかを判別するために、各コピー・グループの1ページ目が検査されます。

***CHKALL**

ページが連続用紙ページの半面に収まるかどうかを判別するために、表側ページを検査します。

上

DBCS シミュレーション・フォントの使用 (MAPIGCFNT)

スプール・ファイルの印刷時には、データ・ストリームに指定されたDBCSラスター・フォントではなく、DBCSシミュレーション・フォントを使用することを指定します。

DBCSシミュレーション・フォントは、ラスター・フォントと同様に位置決めされるアウトライン・フォントです。これにより、アプリケーションまたは印刷出力の外観が変更されることなしに、DBCSラスター・フォントを使用するアプリケーション印刷にアウトライン・フォントを使用することができます。アウトライン・フォントはスケラブルであるため、各ポイント・サイズごとにフォント文字セットをシステムで保管したり、あるいはポイント・サイズの変更のたびに別のフォントを印刷装置にダウンロードする必要はありません。これによってシステムの記憶スペースが増加し、印刷のパフォーマンスが向上します。

***NO** DBCSシミュレーション・フォントをDBCSラスター・フォントの代替にしません。

***YES** DBCSシミュレーション・フォントをDBCSラスター・フォントの代替にします。

上

置き換え (REPLACE)

作成中のものと同じ名前の既存の印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のPSF構成オブジェクトが置き換えられます。

***NO** 同じ名前のPSF構成オブジェクトが指定されたライブラリー内に存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のPSF構成オブジェクトは置き換えられません。

上

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもたないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルがオブジェクトに対して特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーのライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの**権限作成(CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、そのオブジェクトの権限を判別します。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドの実行によって、ライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新規のCRTAUT値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

変更権限によって、ユーザーはオブジェクトに対して基本的な機能を変更し実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、すべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御、オブジェクトの機密保護を指定、オブジェクトを変更、オブジェクトに対して基本的な機能を実行、またオブジェクトの所有権を変更することができます。

***USE** 使用権限は、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトをアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTPSFCFG PSFCFG(QGPL/P5001) PDFGEN(*MAIL)
          PDFDEVTYPE(*P4028) PDFPPRDWR1(*LETTER)
          PDFPPRDWR2(*LEGAL) PDFMULT(*YES *INDEX)
          PDFDTAQ(*NONE) PDFINCFNT(*YES)
          PDFMAILSVR(*SNDDST)
          PDFSENDER(QSPLJOB) PDFMAPPGM(*NONE)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーでP5001という名前をもつ印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを作成します。PDFGENパラメーターは、スプール・ファイルがPDFに変換され、SNDDSTコマンドによって電子メールとして送信されるよう指定しています。ドロワー1および2でそれぞれレターとリーガルの用紙サイズで4028印刷装置をエミュレートするように変換が指示されています。

要求した出力はグループ境界にPDF索引タグをもち、必要なフォントは出力ファイルのあるインラインに置かれ、送信側はPSFです。マッピング・プログラムがないので、ファイルと関連したメール・タグ情報は有効な電子メール・アドレスと見なされます。

完了メッセージは、このパラメーターが*NONEの値をもつのでデータ待ち行列のログに記録されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

上

QUERY管理機能書式の作成 (CRTQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式作成(CRTQMFORM)コマンドによって、指定されたソース・ファイル・メンバーからQUERY管理機能書式を作成することができます。QUERY管理機能書式は、QUERYを実行して得られたデータを表示または印刷する時の報告書の外観を定義します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QMFMSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>QMFORM</u>	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

作成するQUERY管理機能書式を指定します。

これは必須パラメーターです。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能報告書書式

名前 作成する書式の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

書式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 書式が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成する書式のソースが入っているソース・ファイルを指定します。書式はQMFORMパラメーターに指定された名前によって識別されます。

修飾子1: ソース・ファイル

QQMFORMSRC

作成する書式のソースが入っているIBM提供のソース・ファイルQQMFORMSRC。

名前 作成する書式のソースが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

作成する書式のソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

*QMFORM

メンバー名は、QMFORMパラメーターに指定された書式名と同じです。

名前 書式ソースが入っているメンバーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

QUERY管理機能書式を簡単に記述するテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

作成するオブジェクトの記述テキストは、ソース・メンバーのテキスト記述と同じです。ソース・メンバーに記述テキストがないか、あるいはそれがブランクの場合には、外部化された書式が存在する場合はその中の注釈が使用され、存在しない場合は*BLANKと見なされます。

***BLANK**

テキストは指定されません。このコマンドによってオブジェクトが置き換えられる場合には、オブジェクトの既存のテキストがブランクのテキストと置き換えられます。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。アポストロフィは、50文字のストリングの一部にはなりません。

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ライブラリー中の同じ名前およびタイプの既存のオブジェクトを、このコマンドの出力と置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のオブジェクトがこのコマンドの出力と置き換えられます。

***NO** 既存のオブジェクトはこのコマンドの出力と置き換えられません。

例

CRTQMFORM QMFORM(FORMEMP) SRCFILE(RPTLIB/FORMSRC)

このコマンドは、現行ライブラリー中に名前FORMEMPの書式を作成します。この書式のソースは、メンバーFORMEMPにありますが、このメンバーはライブラリーRPTLIBのソース・ファイルFORMSRCに入っています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

QWM2706

&2の&1は置き換えられない。

上

QUERY管理機能プログラム作成 (CRTQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム作成(CRTQMQR)コマンドによって、指定されたソース・ファイル・メンバーからQUERY管理機能プログラムを作成することができます。QUERYのソース・レコードは、変数置換値を入れることができる1つの構造化照会言語(SQL)ステートメントです。これは、ソース・ファイル・メンバーの複数レコードに広げることができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QMQRYSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMQR	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
SRTSEQ	分類順序	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前, *SRC, *JOB RUN, *JOB, *HEX, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SRC, *JOB RUN, *JOB	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

作成するQUERY管理機能プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能プログラム

名前 作成するQUERYの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

QUERYを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 QUERYが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成するQUERYのソースが入っているソース・ファイルを指定します。QUERYは、QMQRYPARAMETERに指定された名前によって識別されます。

修飾子1: ソース・ファイル

QQMQRYSRC

作成するQUERYのソースが入っているIBM提供のソース・ファイルQQMQRYSRC。

名前 作成するQUERYのソース・レコードが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

作成するQUERYのソースが入っているソース・ファイル・メンバーのメンバーを指定します。

*QMQRYP

メンバー名は、QMQRYPARAMETERに指定されたQUERY名と同じです。

名前 QUERYソースが入っているメンバーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

QUERY管理機能プログラムを簡単に記述するテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

作成するオブジェクトの記述テキストは、ソース・メンバーのテキスト記述と同じです。ソース・メンバーにテキスト記述がないか、またはそれがブランクの場合には、TEXT(*BLANK)と見なされます。

*BLANK

テキストは指定されません。このコマンドによってオブジェクトが置き換えられる場合には、オブジェクトの既存のテキストがブランクのテキストと置き換えられます。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。アポストロフィは、50文字のストリングの一部にはなりません。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このQUERYでストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

注: このパラメーターは、QUERYを作成する場合にのみ有効です。FORMを作成する場合には、このパラメーターは正しくありません。

修飾子1: 分類順序

***SRC** ソース・ファイル・メンバーにQUERYを作成する時に使用される分類順序が入っています。

*JOBRUN

QUERY実行時のジョブのSRTSEQ値が使用されます。

***JOB** QUERY作成時のジョブのSRTSEQ値が使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

*LANGIDUNQ

LANGIDパラメーターに指定された言語の固有の重み付け分類テーブルが使用されます。

*LANGIDSHR

LANGIDパラメーターに指定された言語の共用重みづけ分類テーブルが使用されます。

名前 このQUERYの作成時に使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***SRC** ソース・ファイル・メンバーにQUERYの作成時に使用される言語IDが入っています。

*JOBRUN

ジョブのLANGID値は、QUERYの実行時に決定されます。

***JOB** ジョブのLANGID値は、QUERYの作成時に決定されます。

言語ID

QUERYで使用される言語IDを指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

出力を受け取るためのライブラリー中の同じ名前および同じタイプのオブジェクトを、このコマンドの出力で置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のオブジェクトがこのコマンドの出力と置き換えられます。

***NO** 既存のオブジェクトはこのコマンドの出力と置き換えられません。

例

```
CRTQMQRYP  QMQRYP(NEWQRYP) SRCFILE(RPTLIB/QRYSRC)
```

このコマンドは、現行ライブラリー中に名前NEWQRYPのQUERYを作成します。このQUERYのソースは、メンバーNEWQRYPにありますが、このメンバーはライブラリーRPTLIBのソース・ファイルQRYSRCに入っています。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

QWM2706

&2の&1は置き換えられない。

Q&Aデータベース作成 (CRTQSTDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース作成(CRTQSTDB)コマンドによって、新しい質問・回答(Q&A)データベースを作成することができます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションで入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドのユーザーは、データベース・ファイルが入っているライブラリーに対する*ADD権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, *SELECT	オプション, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, QUSRSYS	オプション, 定位置 2

上

Q/Aデータベース (QSTDB)

作成するQ&Aデータベースを指定します。Q&Aデータベース名を選択する場合には、名前は10文字以内で、英字で始まっていなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

Q&Aデータベースを作成する名前を指定してください。

上

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

新しいQ&Aデータベースを入れる既存のライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QUSRSYS

Q&AデータベースはQUSRSYSライブラリーの中に作成されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

上

例

CRTQSTDB

このコマンドは、Q&Aデータベース作成画面を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

Q/A データベース・ロード作成 (CRTQSTL0D)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース・ロード作成(CRTQSTL0D)コマンドによって、テープなどの代替媒体上に配布用のQ&Aデータベース・ロードを作成することができます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションで入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーには、このコマンドによって参照されるQ&Aデータベース・ファイルに対する*READ権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプションル, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, * <u>QSTLIB</u>	オプションル, 定位置 2

上

Q/Aデータベース (QSTDB)

配布するQ&Aデータベースを指定します。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

配布したいQ&Aデータベースの名前を指定してください。

上

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

ロードを作成するために使用されるQ&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに *SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

上

例

CRTQSTLOD

このコマンドは、データベース・ロード作成画面を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

RNDC構成の作成 (CRTRNDCCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RNDC構成の作成 (CRTRNDCCFG)コマンドは、RNDCの構成ファイルを生成します。これは、rndc.confファイルの書き込みおよびnamed.conf内の対応する制御およびキー・ステートメントの便利な代替になり得ます。

制約事項:

- ユーザーには、エントロピー・ソースのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- エントロピー・ソースに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、キー・ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- キー・ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、キー・ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。
- ユーザーには、出力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 出力ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、出力ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTOCFG	自動構成	*NO, *YES	オプション
KEYFILE	鍵ファイル	パス名, *DFT	オプション
RNDCADR	サーバーRNDC IPアドレス	文字値, *DFT, *ANY4, *LOOPBACK4, *ANY6, *LOOPBACK6	オプション
RNDCPORT	サーバーRNDCポート	1-65535, 953	オプション
KEYNAME	鍵名	文字値, *DFT	オプション
KEYSIZE	鍵サイズ	1-512, 128	オプション
ENTROPYSRC	エントロピー・ソース	パス名, *DFT	オプション
TOSTMF	出力ファイル	パス名, *STDOUT	オプション

上

自動構成 (AUTOCFG)

自動RNDC構成を実行するかどうかを指定します。これによって、始動時にRNDCとDNSサーバーに読み取られる/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KIDファイルが作成されます。rndc-key._KIDファイルは、RNDCがローカル・ホストでDNSサーバーと通信できるようにする、省略時のコマンド・チャンネルおよび認証鍵を定義します。

AUTO(*YES)が生成するよりも詳細な構成が必要な場合（例えば、RNDCをリモートで使用する場合）には、AUTO(*NO)を指定してCRTRNDCCFGを実行し、rndc.confおよびnamed.confを出力によって指示されるとおりに設定してください。

このパラメーターはKEYFILEおよびTOSTMFパラメーターとともにのみ使用できます。

***NO** 自動構成を作成しません。代わりに、サンプルの/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confファイルを表示します。このサンプルは、構成が機能するためにnamed.confに組み込まれる必要がある対応する行も表示します。

***YES** /QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KIDファイルを使用して、すべてのローカル・サーバーで機能する自動構成を作成します。鍵「rndc-key」を使用して、ループバック・アドレスを使用可能にするには、制御ステートメントをnamed.confファイルに追加する必要があります。これは、以下をnamed.confに挿入することによって行えます。

```
include "/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KID";
controls {
  inet 127.0.0.1
    port 953 allow {127.0.0.1;} keys {"rndc-key"};
  inet ::1
    port 953 allow {::1;} keys {"rndc-key"};
};
```

このファイルがすでに存在している場合は、上書きされます。

はじめにこのメソッドを使用してRNDCキー・ファイルを作成した場合には、定期的にこのメソッドを使用してRNDCキー・ファイルを再作成して、鍵を変更することができます。これを行った場合には、新しい鍵を選択できるようにローカルDNSサーバーを再ロードする必要もあることがあります。

上

鍵ファイル (KEYFILE)

*YESがAUTOCFGパラメーターに指定された場合に、rndc-key._KIDファイルの代替ディレクトリーの位置を指定します。

***DFT** キー・ファイルは、ディレクトリー/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/にあります。

パス名 使用するrndc-key._KIDファイルが含まれるディレクトリーのパス名を指定します。このファイルが存在している場合は、上書きされます。

上

サーバーRNDC IPアドレス (RNDCADR)

DNSサーバーがRNDCからのコマンド・チャンネル接続をlistenするIPアドレスを指定します。このIPアドレスは、named.confのcontrolsステートメントにリストされたIPアドレスに一致する必要があります。

***DFT** IPv4にはループバック・アドレス127.0.0.1を、IPv6にはループバック・アドレス「::1」を使用します。

***ANY4**

IPアドレスは、IPv4ワイルドカード・アドレスになります。ワイルドカード・アドレスは、「*」です。

***LOOPBACK4**

IPアドレスは、IPv4ループバック・アドレスになります。ループバック・アドレスは127.0.0.1です。

***ANY6**

IPアドレスは、IPv6ワイルドカード・アドレスになります。ワイルドカード・アドレスは、「::」です。

***LOOPBACK6**

IPアドレスは、IPv6ループバック・アドレスになります。ループバック・アドレスは、「::1」です。

文字値 有効なIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定してください。ドメイン名は使用しないでください。

上

DNSポート (RNDCPORT)

DNSサーバーがRNDCからの接続をlistenするコマンド・チャンネル・ポートを指定します。省略時値は953です。このポート番号は、named.confのcontrolsステートメントで指定されたポート番号に一致する必要があります。

953 ポート953をlistenします。

1から65535

有効なポート番号を指定します。

上

鍵名 (KEYNAME)

RNDC認証鍵のキー名を指定します。これは、有効なドメイン名である必要があります。

***DFT** キー名rndc-keyを使用します。

文字値 有効なドメイン名であるキー名を指定します。

上

鍵サイズ (KEYSIZE)

認証鍵のサイズをビットで指定します。

128 鍵のサイズを128ビットに設定します。

1-512 認証鍵の長さをビットで指定します。

エントロピー・ソース (ENTROPYSRC)

権限を生成するためのランダム・データのソースを指定します。何らかの理由で省略時のエントロピー・ファイルが十分に大きくない場合には、このパラメーターによってエントロピー・ソースを大きなものに変更できます。

***DFT** 省略時のエントロピー・ファイルが使用されます。コマンドが呼び出されるたびに新規エントロピー・ファイルが生成されます。省略時のエントロピー・ファイルのサイズは、4096バイトです。

パス名 エントロピー・ソースになるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

出力ファイル (TOSTMF)

すべてのコマンド出力が書き込まれるストリーム・ファイルの名前を指定します。

***STDOUT**

すべてのコマンド出力は、標準出力装置（通常はモニター）に送られます。

パス名 出力が書き込まれるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

例

例1:自動RNDC構成ファイルの作成

```
CRTRNDCCFG AUTOCFG(*YES)
```

このコマンドは自動構成を作成します。ファイル/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KIDが作成されます。

「Start of named.conf」行と「End of named.conf」行の間に表示されるテキストは、named.confファイルに挿入します。例えば、サーバーが「NS」という名前の場合、このテキストがファイル/QIBM/UserData/OS400/DNS/NS/named.confに挿入されます。これらの行は文字「#」でコメント化されているため、鍵を使用可能にするには、コメント文字を除去する必要があります。

出力例:

```
キー・ファイル/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KIDに書き込みました。
# Start of named.conf
# include "/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc-key._KID";
# End of named.conf
```

例2: RNDC構成ファイルの作成

```
CRTRNDCCFG RNDCPORT(953)
                KEYNAME('rndc-key')
                KEYSIZE(128)
```

このコマンドは、画面にサンプルのrndc.confファイルを表示します。「Start of rndc.conf」行と「End of rndc.conf」行の間に表示されるテキストは、ファイル/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confに挿入します。

同様に、「Start of named.conf」行と「End of named.conf」行の間に表示されるテキストは、named.confファイルに挿入します。例えば、サーバーが「NS」という名前の場合、このテキストがファイル/QIBM/UserData/OS400/DNS/NS/named.confに挿入されます。これらの行は文字「#」でコメント化されているため、鍵および制御ステートメントを使用可能にするには、コメント文字を除去する必要もあります。

出力例:

```
# Start of rndc.conf
key "rndc-key" {
    algorithm hmac-md5;
    secret "AQMJHsUaR3f0TUoA2Jcc2Q==";
};
options {
    default-key "rndc-key";
    default-server localhost;
    default-port 953;
};
# End of rndc.conf
# Start of named.conf
# key "rndc-key" {
#     algorithm hmac-md5;
#     secret "AQMJHsUaR3f0TUoA2Jcc2Q==";
# };
#
# controls {
#     inet 127.0.0.1
#     port 953 allow { 127.0.0.1; } keys { "rndc-key"; };
#     inet ::1
#     port 953 allow { ::1; } keys { "rndc-key"; };
# };
# End of named.conf
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0065

i5/OSのオプション33が必要ですが、導入されていません。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

上

S/36表示装置ファイルの作成 (CRTS36DSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36表示装置ファイル作成(CRTS36DSPF)コマンドは、システム/36ソース・ファイルから表示装置ファイルを作成し、既存の表示装置ファイルの様式を追加、削除、または更新します。TOFILEおよびTOMBRパラメーターを使用して、システム/36 SFGRソースをデータ記述仕様の(DDS)ソースに変換することができます。

注: データ記述仕様(DDS)のソースは、表示装置ファイルと同じライブラリーの中のDDSソース・ファイルQS36DDSSRCに保管されます。QS36DDSSRCソース・ファイルが存在していない場合には、このソース・ファイルは92のレコード長で作成されます。

制約事項: このコマンドを実行するには、オペレーティング・システムのオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、固有にかまたはシステム/36環境内で実行することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DSPFILE	表示装置ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OPTION	オプション	単一値: *CREATE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): *UPDATE, *ADD, *DELETE	オプション, 位置 2
SRCMBR	S/36 SFGRソース・メンバー	単一値: *DSPFILE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション, 位置 3
SRCFILE	S/36ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 4
	修飾子 1: S/36ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REPLACE	表示装置ファイルの置き換え	*NO, *YES	オプション
PRINT	SFGRリストの印刷	*YES, *NO, *PARTIAL	オプション
MAXDEV	最大装置数	1-256, *SRCATR	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
GENOPT	生成オプション	*GEN, *NOGEN, *CONVERT	オプション
SYNTAX	SFGRソース構文の検査	*YES, *NO	オプション
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE , *SRCMBR, *DSPFILE	オプション
HALT	エラーが起こった時,MSGを出す	*YES , *NO	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*SRCATR , *YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT , *PRV	オプション

上

表示装置ファイル (DSPFILE)

作成された表示装置ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

表示装置ファイル名

表示装置ファイル名を指定してください。

注: ファイルが既存のプログラム、メッセージ・ファイル、またはその他のタイプのファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、表示装置ファイルは作成されません。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

表示装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

オプション (OPTION)

指定された表示装置ファイルで何を実行するかを指定します。最大32のオプションを指定することができます。指定されたオプションは、**S/36 SFGR**ソース・メンバー (**SRCMBR**)パラメーターの対応する名前に適用されます。

*CREATE

表示装置ファイルは、指定された表示装置ファイル名を使用して、指定されたソース・メンバーによって定義された通りに作成されます。*CREATEを指定した場合には、他のオプションを指定することはできません。

***ADD S/36 SFGR**ソース・メンバー (**SRCMBR**)パラメーターに指定された対応する名前によって定義された通り、1つ以上の画面様式が指定された表示装置ファイルに追加されます。

*UPDATE

SRCMBRパラメーターに指定された対応する名前によって定義された通り、1つ以上の画面様式が指定された表示装置ファイルで更新されます。

*DELETE

指定された表示装置ファイルから画面様式が削除されます。削除される様式は、SRCMBRパラメー

ターに指定された対応する名前によって定義されています。表示装置ファイルのすべての様式を削除した場合には、表示装置ファイル全体が削除され、ソース・ファイル・メンバーは作成されません。

上

S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR)

作成、追加、または更新オプションの実行時にソース・ファイルで使用されるメンバーを指定します。削除オプションの場合には、削除される様式の名前を指定してください。

*DSPFILE

表示装置ファイルと同じ名前のメンバーが指定されます。

ソース・メンバー名

ソース・メンバー名を指定してください。最大32のソース・メンバー名を指定することができます。

上

S/36ソース・ファイル (SRCFILE)

画面様式生成プログラム(SFGR)のソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

表示装置ファイルの置き換え (REPLACE)

既存の表示装置ファイルを置き換えるかどうかを指定します。OPTION(*CREATE)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

*NO 既存の表示装置ファイルは置き換えられません。

*YES 既存の表示装置ファイルが置き換えられます。その他のタイプのファイルは置き換えられません。

注: ファイルがプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、表示装置ファイルは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。OPTION(*ADD), (*UPDATE),または(*DELETE)が指定された場合には、REPLACE(YES)とみなされます。

上

SFGRリストの印刷 (PRINT)

コンパイル・リストを印刷するかどうかを指定します。

***YES** SFGRソース構文検査とDDSコンパイル・ステップのために、リスト全部が印刷されます。

***NO** SFGRソース・メンバーの構文検査ステップで、リストは印刷されません。DDSコンパイル・ステップでは、*PARTIALとみなされます。

***PARTIAL**

ステップでエラーが見つかった場合には、エラー・メッセージまたは警告メッセージと一緒にそのステップに対するコンパイル・リストが印刷されます。メッセージが出されない場合には、リストは印刷されません。

上

最大装置数 (MAXDEV)

表示装置ファイルを同時に使用できる装置数を指定します。

***SRCATR**

ソース・メンバーの最初の属性から装置の最大数がとられます。ソース・メンバーでこの値をセットするためには、システム/36ソース属性変更(CHGS36SRCA)コマンドおよびシステム/36ソース属性編集(EDTS36SRCA)コマンドを使用することができます。

装置数 装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

REPLACE(*YES)が指定されていて、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。OPTION *ADD,*UPDATE,または*DELETE が指定されている時は、REPLACE(*YES)とみなされません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

上

生成オプション (GENOPT)

使用されるコンパイル・オプションを指定します。

***GEN SFGRソース構文の検査 (SYNTAX)**パラメーターに*YESを指定した場合には、SFGRソース構文が検査され、表示装置ファイルがデータ記述仕様(DDS)に変換されて、表示装置ファイル(*FILE)オブジェクトが作成されます。SYNTAXパラメーターに*NOを指定した場合には、SFGRソース構文は検査されません。

***NOGEN**

SYNTAXパラメーターに*YESを指定した場合には、SFGRソース構文は検査されます。

***CONVERT**

表示装置ファイルはデータ記述仕様(DDS)に変換されますが、表示装置ファイルは作成されません。DDSの結果を保管するには、**受取DDSソース・メンバー (TOMBR)**パラメーターにメンバー名

を指定します。SFGRソースの構文検査時に打ち切りエラーが見つかった場合には、DDSへの変換は実行されません。SYNTAXパラメーターに*YESを指定した場合には、SFGR構文が検査されません。

上

SFGRソース構文の検査 (SYNTAX)

SFGRソース構文をチェックするかどうかを指定します。

***YES** ソース・メンバーの構文がチェックされます。

***NO** ソース・メンバーの構文はチェックされません。

上

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

表示装置ファイルを作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前を指定します。このファイルは、事前に存在している必要はありません。CRTSRCPF（ソース物理ファイル作成）コマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新規ソース・ファイルが作成されます。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。このファイルは、レコード長が92 バイトでなければなりません。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーが存在していなければ追加され、存在していれば置き換えられます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

***NONE**

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。このソースはQ36DDSSRCソース・ファイルに保管されています。

***SRCMBR**

S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定された名前はメンバー名として使用されます。

***DSPFILE**

表示装置ファイル名がメンバー名として使用されます。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、それがすでに存在していれば置き換えられます。打ち切りエラーが見つかった場合には、メンバーは追加または変更されません。

上

エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)

SFGR構文エラーが検出された時にエラー・メッセージを出すかどうかを指定します。

***YES** エラー・メッセージが出されて、要求が終了します。

***NO** 診断メッセージが出されて要求が終了し、戻りコード1008がセットされます。

上

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が出されるまで、表示装置ファイルにデータが書き出されないことを指定します。出力用のデータを受け取った直後に、制御権は要求元プログラムに戻されます。この結果としてパフォーマンスが改良される場合があります。

***SRCATR**

最初のソース・メンバーのDFRWRT属性から書き出し据え置きオプションがとられます。ソース・メンバーがないか、あるいはDFRWRTソース属性がセットされていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** 表示装置ファイルに書き出し要求が出された時には、バッファの処理後に制御権が戻されます。読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作が実行された後で、データの実際の表示を行なうことができます。プログラム・バッファは、ただちに次の読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作に使用可能となります。

***NO** 表示装置ファイルに書き出し要求が出された時には、制御権は、データの表示および入出力情報を使用可能にすることを含めて、入出力要求が完了するまで要求元プログラムには戻されません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

例

```
CRTS36DSPF  DSPFILE(MYLIB/MYDISPLAY) OPTION(*CREATE)
             SRCMBR(SFGRMBR1 SFGRMBR2)
             SRCFILE(MYLIB/QS36SRC) GENOPT(*NOGEN)
```

このコマンドはSFGRソースを検査します(QPUTSFGRの名前の印刷装置リストの生成)。DDSは構築されないし、表示装置ファイルは作成されません。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5003

ソース・メンバー&1が見つからなかった。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5007

ソース・メンバー&1はすでに指定されている。

SSP5009

表示装置ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

SSP5010

&1はシステム/36表示装置ファイルでない。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5012

様式&1が表示装置ファイルに見つからない。

SSP5015

ソース・ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5016

表示装置ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

SSP9080

オブジェクト&1が使用中である－共用することはできない。

上

S/36メニューの作成 (CRTS36MNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36メニュー作成(CRTS36MNU)コマンドは、ソース・メンバーからメニュー（表示装置ファイルおよびコマンド・メッセージ・ファイル）を作成します。このメニューは、固定形式で作成するか、2つの欄にオプション1-24を配列して作成するか、あるいは自由形式で作成することができます。

制約事項: このコマンドを実行するには、オペレーティング・システムのオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、固有にかまたはシステム/36環境内で実行することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMDTXTMBR	コマンド・テキスト・ソース・メンバー##	名前	必須, 定位置 1
OPTTXTMBR	オプション・テキスト・ソース・メンバー	名前, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
CMDTXTSRC	コマンド・テキスト・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: コマンド・テキスト・ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
OPTTXTSRC	オプション・テキスト・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: オプション・テキスト・ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CMDLIB</u> , <u>*CURLIB</u>	
MNULIB	メニュー・ライブラリー (LOADLIB)	名前, <u>*CMDLIB</u> , <u>*CURLIB</u>	オプション, 定位置 5
REPLACE	メニューの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FREEFORM	自由形式メニュー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
KEEP	オプション・テキスト MSG ファイルの保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DDSLIST	DDSリスト	<u>*PARTIAL</u> , *FULL	オプション
MAXDEV	最大装置数	1-256, <u>5</u>	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, <u>QDDSSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*MNULIB</u> , *CMDLIB, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV	オプション

上

コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR)

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルを作成するために使用するシステム/36メッセージ・ソース・メンバーが入られるソース・メンバーを指定します。このメッセージ・ファイルは、オプションを選択した時に使用されるコマンドを定義します。メッセージIDはUSRで始められなければなりません。

これは必須パラメーターです。

メンバー名##

作成するコマンド・テキスト・メッセージ・ファイルに使用するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号のないメンバー名と同じです。

注: ソース・メンバー内に指定したメッセージ・ファイル名は、ソース・メンバー名と同じでなければなりません。

上

オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTMBR)

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルの作成に使用されるソース・メンバー、またはメニュー表示装置ファイルを作成するために使用される画面様式生成プログラム(SFGR)のソース・メンバーを指定します。

*NONE

オプション・テキストは、コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルからとられます。OPTTXTMBR(*NONE)を指定する場合には、FREEFORM(*NO)も指定しなければなりません。

メンバー名

作成するメニューでオプションの記述に使用するソース・メンバーの名前を指定してください。このメンバーには、SFGRまたはシステム/36メッセージ・ソース・メンバーを入れることができます。自由形式メニュー (FREEFORM)パラメーターに*YESを指定する時には、ソース・メンバーを指定しなければなりません。

上

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)

コマンド・テキスト・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っているソース・ファイル名を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTSRC)

オプション・テキスト・メンバーが入っているソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

オプション・テキスト・ソース・メンバー (OPTTXTMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CMDLIB**

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)パラメーターに指定されたライブラリーが、ファイルの検出に使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

メニュー・ライブラリー (LOADLIB) (MNULIB)

作成されたメニューを保管するために使用するメニュー・ライブラリーを指定します。

***CMDLIB**

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)パラメーターに指定されたライブラリーが、ファイルの保管に使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メニューが入れられるライブラリーの名前を指定してください。

メニューの置き換え (REPLACE)

既存の表示装置ファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存の表示装置ファイルは置き換えられません。

***YES** 既存の表示装置ファイルは、作成された新しいものに置き換えられます。

注: 既存のプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メニューは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。

上

自由形式メニュー (FREEFORM)

メニューを自由形式で作成するか、固定形式で作成するかを指定します。

***NO** 自由形式は使用されません。メニューは、2つの欄をもつ固定形式で作成されます。メッセージ番号はオプション番号と対応します。

YES** メニューは自由形式を使用して作成されます。YES**を指定した場合には、**オプション・テキスト・ソース・メンバー (OPTTXTMBR)**パラメーターに値を指定しなければなりません。オプション・テキスト・メッセージ番号は画面の行番号と対応します。

上

オプション・テキスト MSG ファイルの保管 (KEEP)

コンパイルの完了時にオプション・テキスト・メッセージ・ファイルを保管するかどうかを指定します。

***NO** オプション・テキスト・メッセージ・ファイルは保管されません。

***YES** オプション・テキスト・メッセージ・ファイルが保管されます。オプション・テキスト・ソース・メンバーに画面様式生成プログラム(SFGR)ソース仕様が入っていて、このオプション・テキスト・ソース・メンバーがメニューと同じ名前である場合には、KEEP(*YES)を指定しなければなりません。

上

DDSリスト (DDSLIST)

部分的または完全なDDSコンパイル・リストのどちらが提供されるかを指定します。

***PARTIAL**

部分リストが提供されます。

*FULL

完全なDDSリストおよび相互参照表が提供されます。

上

最大装置数 (MAXDEV)

同時にメニューを使用できる装置の最大数を指定します。

5 装置の最大数は5です。

装置数 装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

REPLACE(*YES)が指定され、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しいメニュー表示装置ファイルにコピーされます。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

上

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

メニューを作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前を指定します。このファイルは、事前に存在している必要はありません。CRTSRCPF（ソース物理ファイル作成）コマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新規ソース・ファイルが作成されません。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

DDSソースを保管するソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***MNULIB**

ソース・ファイルを見つけるために、メニュー・ライブラリーが使用されます。

***CMDLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、コマンド・ライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ソース・ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

***NONE**

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、それがすでに存在していれば置き換えられます。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

表示装置ファイルに2バイト文字データが入っているかどうかを指定します。

***NO** 表示装置ファイルに2バイト文字データは入っていません。オプション・テキスト・メッセージIDはUSRで始めなければなりません。

***YES** 表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルには2バイト文字データが入っています。オプション・テキスト・メッセージIDはUSZで始めることができます。この機能の効果を完全に引き出すには、IGCバージョンのオペレーティング・システムが導入されていなければなりません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

例

```
CRTS36MNU  CMDTXTMBR(MENU##)  OPTTXTMBR(SFGRMBR)
           CMDTXTSRC(MYLIB/QS36SRC)  OPTTXTSRC(MYLIB/QS36SRC)
           MNULIB(WORKLIB)  REPLACE(*YES)
           FREEFORM(*YES)  KEEP(*YES)
```

このコマンドは指定されたSFGRソース・メンバーから自由形式のメニュー画面を作成して、結果のメニューをライブラリーWORKLIBに入れます。SFGRソースが使用されている場合には、FREEFORM(*YES)およびKEEP(*YES)が必要です。メニュー画面のレイアウトは、SFGRソース・メンバー中にある書式定義によって制御されます。このソースで定義される表示装置ファイルがメニューとしてシステムで使用される時に、それが有効であることを確認するための特別な検査は実行されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP5750

コマンド・メッセージ・ファイルのメッセージ1-24にはブランク・テキストしか入っていない。

SSP5751

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル名は##で終わらなければならない。

SSP5755

¥BMENU作業ファイルを作成することができない

SSP5756

コマンド・メッセージ・ファイル名は2桁より長くなければならない。

SSP5758

コマンド・テキスト・ソース・メンバー&1が見つからない。

SSP5759

オプション・テキスト・ソース・メンバー&1が見つからない。

SSP5760

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルの名前が間違っている。

SSP5761

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前が間違っている。

SSP5763

オプション・テキスト・メンバー名はメニュー名と同じであってはならない。

SSP5766

オプション・テキスト・ソース・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5767

メニュー・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5768

コマンド・テキスト・ソース・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5772

自由形式メニューにはオプション・テキスト・ソース・メンバーが必要である。

SSP5773

コマンドとオプション・テキスト・メンバー名は同じであってはならない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

SSP9080

オブジェクト&1が使用中であるー共用することはできない。

上

S/36 メッセージ・ファイルの作成 (CRTS36MSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36メッセージ・ファイル作成(CRTS36MSGF)コマンドは、ユーザーのシステム/36メッセージ・ソース・メンバーからメッセージ・ファイルを作成するので、システム/36メッセージ・ソース・メンバーをこのシステムのメッセージ・ソース・メンバーに変換することができます。

システム/36のメッセージ・ソースは、次の3つのタイプのステートメントで構成されます。

1. メッセージ制御ステートメントはソースの最初のレコードでなければなりません。使用できる制御ステートメントは1つだけです。制御ステートメントの構文は次の通りです。

```
NAME<,LEVEL> <COMMENT>
```

この場合: **NAME**は作成または変更しているメッセージ・ファイルの名前です。この名前はソース・レコードの1桁目で開始していなければなりません。レベルは1, 2またはブランクでなければならず、名前をコンマで区切る必要があります。レベル1は、そのソースがメッセージ・テキスト(第1レベル・メッセージ)用であることを示し、レベル2は、そのソースがオンライン・ヘルプ情報(第2レベル・メッセージ)用であることを示します。このレベルが省略されたか、ブランクである場合には、第1レベル・メッセージと見なされます。制御ステートメントの最初のブランクの後にあるものはコメントであると見なされて、無視されます。

2. 1桁目のアスタリスク(*)で始まるコメント・レコード。コメント・レコードはすべて無視されます。
3. 1つ以上のメッセージ・テキスト・ステートメントを定義することができます。メッセージ・テキスト・ステートメントの構文は次の通りです。

```
MMMM テキスト
```

この場合: **MMMM**はシステム/36メッセージ識別コード(MIC)であり、1桁目で始まり、4桁(0-9)で構成されていなければなりません。4桁のすべてが必要で、7文字のメッセージIDは、MSGPFXパラメーターで指定したメッセージ接頭語をMICの前に追加して作成されます。5桁目は無視され、ブランクのままにしなければなりません。テキストは定義しているメッセージのテキストであり、6桁目で開始していなければなりません。MICが降順にならないように、メッセージ・テキスト・ステートメントを配置する必要があります。単一レコードにメッセージ全体を定義する十分な余裕がない場合には、MICは次のレコードの1桁目で反復することができ、テキストは6桁目で開始して続行することができます。

第1レベル・メッセージは最大75文字に制限され、第2レベル・メッセージは、RESTRICT(*NO)が指定されないかぎり、最大225文字に制限されます。各MICの最終レコードの末尾ブランクはカウントされません。SRCMBRの処理時に使用されるレコード長は、そのメンバーのRCDLENソース属性です。この属性はソース・ファイルのレコード長の省略時値ですが、CHGS36SRCA, EDTS36SRCA,またはRSTS36LIBMコマンドの使用時に設定または変更することができます。RCDLENソース属性はメンバーの論理レコード長です。RCDLENソース属性がソース・ファイルのレコード長より小さい場合は、論理レコード長の後のすべての文字は無視されます。レコードで、論理レコード長の後に非ブランク文字が含まれている場合は、警告として診断メッセージが出されます。

制約事項: このコマンドを実行するには、オペレーティング・システムのオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、固有にかまたはシステム/36環境内で実行することができます。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SRCMBR	S/36 メッセージ・ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
SRCFILE	S/36ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: S/36ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MSGLIB	メッセージ・ファイル・ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	オプション, 定位置 3
REPLACE	メッセージ・ファイルの置換	<u>*NO</u> , *YES	オプション
MSGPFX	メッセージ識別コードの接頭部	名前, <u>USR</u>	オプション
OPTION	オプション	<u>*CREATE</u> , *ADD, *CHANGE	オプション
SUBST	#置き換えフィールド使用可	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RESTRICT	S/36の制約の強制	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション
TOFILE	受け取りCLソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取りCLソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u> , *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
TOMBR	受け取りCLソース・メンバー	名前, <u>*NONE</u> , *SRCMBR	オプション
HALT	エラーが起こった時,MSGを出す	<u>*YES</u> , *NO, *IGNORE	オプション

S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)

メッセージ・ファイルの作成に使用するソース・メンバーを指定します。ソース・メンバー中のコメント・レコードでない最初のレコードは、作成または変更されるメッセージ・ファイルの名前を指定します。また、コメント・レコードでない最初のレコードは、このソース・メンバーのテキストが第1レベル・メッセージ・テキストであるか第2レベル・メッセージ・テキストであるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

S/36ソース・ファイル (SRCFILE)

メッセージ・ファイルの作成に使用するソース・ファイルを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っている、ソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

メッセージ・ファイル・ライブラリー (MSGLIB)

作成されるメッセージ・ファイルを保管するために使用されるライブラリーを指定します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、メッセージ・ファイルが保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***SRCLIB**

メッセージ・ファイルを保管するために、ソース・ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

作成されたメッセージ・ファイルが保管されるライブラリーの名前を指定してください。

上

メッセージ・ファイルの置換 (REPLACE)

既存のメッセージ・ファイルが置き換えられるかどうかを指定します。OPTION(*CREATE)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** 既存のメッセージ・ファイルは置き換えられません。

***YES** 既存のファイルは作成されたものと置き換えられます。

注: 既存のプログラムまたは表示装置ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メッセージ・ファイルは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存のメッセージ・ファイルは置き換えられません。メッセージ・ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古いメッセージ・ファイルのすべての権限はそれに置き換わる新しいメッセージ・ファイルにコピーされます。

上

メッセージ識別コードの接頭部 (MSGPFX)

メッセージを作成するために使用されるメッセージ接頭部を指定します。メッセージがメニューを構築するために使用される場合には、USRの省略時の接頭部を使用しなければなりません。

USR メッセージ接頭部USRが使用されます。

メッセージ接頭部

メッセージ識別コードで使用する3桁のメッセージ接頭部を指定してください。

上

オプション (OPTION)

ソース・メンバーに指定したメッセージ・ファイルで何を実行するかを指定します。

*CREATE

指定した名前で、メッセージ・ファイルが作成されます。

***ADD** 指定したメッセージ・ファイルにメッセージが追加されます。

*UPDATE

指定されたメッセージ・ファイルのメッセージが変更されます。メッセージが存在していない場合には、それが作成されてメッセージ・ファイルに追加されます。

上

#置き換えフィールド使用可 (SUBST)

システム/36テキスト置き換えフィールドが、メッセージ・ファイル(*MSGF)オブジェクトのテキスト置き換えフィールドを表わす表記法に変換されることを指定します。*YESが省略時の値になっていますが、すべてのユーザーがテキスト置き換えフィールドを使用するわけではないので、フィールドが誤って変換されないようにするための方法が*NOです。置き換えフィールドは、S/36ソースで対の後書き##記号によって表示されます。

***YES** 置き換えテキスト・フィールドが変換されます。メッセージ・テキスト・ソース・メンバーの#記号のストリングが置き換えテキスト・ストリングに変換されるのは、ストリングがメッセージ・テキストの先頭または最後に現われた時、あるいはストリングの前と後に次の区切り文字の1つがある時だけです。

’ ’ ブランク
.
< より小
(左括弧
+ プラス
& アンパーサンド
* アスタリスク
) 右括弧
; セミコロン

- マイナス
- , コンマ
- > より大
- ? 疑問符
- : コロン
- ' アポストロフィ
- = 等号
- " 2重引用符

***NO** 置き換えテキスト・フィールドは変換されません。

上

S/36の制約の強制 (RESTRICT)

システム/36の制約事項がメッセージ・テキストの長さに適用されるかどうかを指定します。

***YES** システム/36の制約事項が適用されます。メッセージ・テキストは75桁に制限され、メッセージのオンライン・ヘルプは225桁に制限されます。

***NO** システム/36の制約事項は適用されません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

OPTION(*CREATE)およびREPLACE(*YES)が指定されていて、メッセージ・ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視され、古いメッセージ・ファイルに対するすべての権限はそれに置き換わる新しいメッセージ・ファイルにコピーされます。OPTION(*ADD)または(*UPDATE)が指定された時には、AUTパラメーターは常に無視されます。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

上

受け取りCLソース・ファイル (TOFILE)

メッセージ・ファイルを作成するために使用されたCLソースを保管するためのソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルがまだ存在しておらず、CRTSRCPF（ソース物理ファイル作成）コマンドに対する権限がユーザーにある場合には、新規ソース・ファイルが作成されます。

QCLSRC

ソース・ファイルQCLSRCが使用されます。

ファイル名

ソース・メンバーが保管されるソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

受け取りCLソース・メンバー (TOMBR)

データ記述仕様(DDS)ソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーが存在していない場合には、これが作成されます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

*NONE

CLソースは受け取りCLソース・ファイル (TOFILE)に指定されたソース・ファイルには保管されません。

*SRCMBR

メンバー名を指定しない場合には、S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定されたメンバー名が使用されます。これにより元のシステム/36メッセージ・ソースが壊されることになるために、TOFILEパラメーターとSRCFILEパラメーターの両方に同じ名前およびライブラリーを指定してはいけません。

メンバー名

CLソース仕様を保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。指定されたメンバーが存在していれば置き換えられます。それが存在していない場合には、作成されます。打ち切りエラーが見つかった場合には、メンバーは追加または変更されません。

上

エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)

エラーが検出された時に処理を停止するかどうかを指定します。

*YES エラー・メッセージが出されて、要求が終了します。

*NO 診断メッセージが出されて要求が終了し、戻りコード2034がセットされます。

*IGNORE

ソース仕様の中で無視できるエラーが検出された場合には、診断メッセージが出されて、現行のソース・ステートメントは無視されます。次のソース・ステートメントから処理が続行されます。無視できないエラーの場合には、処理が停止し、エラー・メッセージが出されます。

上

例

```
CRTS36MSGF SRCMBR(MYMSGSRC) SRCFILE(MYLIB/QS36SRC)
           MSGLIB(WORKLIB) REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、MYMSGSRCの名前のメッセージ・ファイルをライブラリーWORKLIBに作成します。同じ名前のメッセージ・ファイルがすでに存在する場合は、新しいこのメッセージ・ファイルが既存のファイルを置き換えます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SSP1727

メッセージ・ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

上

保管ファイル作成 (CRTSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドは、保管ファイルを作成します。

保管ファイルを保管および復元コマンドで使用して、他の方法ではテープまたは光ディスク媒体に書き出されるデータを入れることができます。また、保管ファイルをデータベース・ファイルのように使用して、保管または復元情報を含むレコードの読み取りまたは書き出しを行うことができます。また、保管ファイルを使用して、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)ネットワークの別のユーザーにオブジェクトを送ることができます。

制約事項:

- オンライン保管ファイルは保管/復元データ用にのみ使用しなければなりません。保管ファイルからオブジェクトを復元する時には、ファイル中のデータは保管コマンドで作成されたものでなければなりません。高水準言語プログラムを使用してレコードを保管ファイルに書き込む時には、そのレコードには、オブジェクトを保管ファイルに保管することによって作成されたデータが入っていないなければなりません。
- 保管ファイルから検索されたレコードには、保管ファイルにレコードが挿入される時にシステムによって妥当性検査される順序付けチェックサム情報が入っています。順序が違っているか、保管ファイルからの検索以降に変更されたレコードを挿入しようとすると、拒否されます。
- 保管ファイルには1回の保管操作による出力および1つのライブラリーの出力を入れることができ、保管ファイル中のすべてのオブジェクトは同じライブラリーから保管されたものでなければなりません。保管ファイルの送信にネットワーク・ファイル送信(SNDNETF)コマンドを使用する場合には、保管ファイルの最大サイズは約20億バイトです。保管ファイルに保管されるオブジェクトの数は、ファイルの最大サイズを超えない限り、テープまたは光ディスク媒体への保管時に保管されるオブジェクトの数と同じです。保管ファイルに保管されるオブジェクトの正確な数は、オブジェクト・タイプおよびオブジェクトの内容によって異なります。
- 重複した保管ファイル・オブジェクトを作成したり、保管ファイル・オブジェクトを復元するには、CRTSAVFコマンドに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
- 保管ファイルを作成するライブラリーに対する追加(*ADD)および読み取り(*READ)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
MAXRCDS	最大レコード数	1-4293525600, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASP	ASP番号	1-32, *LIBASP	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *ALL, *CHANGE, *LIBCRTAUT, *USE	オプション

上

保管ファイル (FILE)

作成する保管ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合、ファイル名はその言語の命名規則に応じたものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 作成する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

最大レコード数 (MAXRCDS)

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。保管ファイルのスペースのバイト数は、 $8192 + (512 \times \text{保管ファイルのレコード数})$ で推定されます。1メガバイトのスペースには、およそ2000の512バイトのレコードを入れることができます。保管ファイルが約20メガバイトを超えないようにしたい場合には、40000レコード(20メガバイト \times 2000レコード/メガバイト)を指定します。

注: 保管ファイルに入れることができるデータの最大量はおおよそ2テラバイトです。ファイルがいっぱいになると、メッセージが現れます。

***NOMAX**

最大値である4293525600レコードが使用されます。

1-4293525600

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定してください。

上

補助記憶域プールID (ASP)

システムが保管ファイル用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP)を指定します。

***LIBASP**

保管ファイルの記憶域空間は、保管ファイルのライブラリーが割り振られるのと同じ補助記憶域プールから割り振られます。

1から32

補助記憶域プールのIDを指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、オブジェクトの権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTSAVF FILE(ONLINE) TEXT('ONLINE SAVE FILE')
```

このコマンドは、現行ライブラリーにONLINEという名前のオンライン保管ファイルを作成します。この保管ファイルは最大レコード数なしでシステムASPに入っています。ユーザーはこのファイルに対する権限を持たず、オブジェクト所有者とグループ・プロファイルとしてオブジェクト所有者ユーザー・プロファイルを持つユーザーだけがこの保管ファイルを使用できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

サブシステム記述作成 (CRTSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述作成 (CRTSBSD)サブシステムの操作属性を定義するサブシステム記述を作成します。作成したサブシステム記述は、サブシステム記述内のワークステーション項目およびルーティング項目を追加、変更、および除去するための各種コマンドを使用することにより、さらに細密な要件に合わせるができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - サブシステム記述を作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。
 - システム・ライブラリー・リスト項目に*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理(*SECADM)特殊権限。
 - ASPグループ名を指定する場合は、ASPグループでの補助記憶域プール(ASP)装置記述に対する使用(*USE)権限。
- ASP装置記述が存在していない場合のASPグループ名の指定は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに許可されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
POOLS	記憶域プール	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: プール識別コード	1-10	
	要素 2: 記憶域サイズ	整数, *BASE, *NOSTG, *INTERACT, *SPOOL, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	
要素 3: 活動レベル	整数		
MAXJOBS	ジョブの最大数	0-32000, * <u>NOMAX</u>	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
SGNDSPF	サインオン表示装置ファイル	単一値: * <u>QDSIGNON</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サインオン表示装置ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
SYSLIBLE	サブシステム・ライブラリー	名前, * <u>NONE</u>	オプション
AUT	権限	名前, * <u>LIBCRTAUT</u> , * <u>CHANGE</u> , * <u>ALL</u> , * <u>USE</u> , * <u>EXCLUDE</u>	オプション
ASPGRP	ASPグループ	名前, * <u>NONE</u>	オプション

上

サブシステム記述 (SBSD)

作成するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。サブシステム記述は、指定したライブラリーに保管されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 作成するサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーが存在していない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 サブシステム記述が作成されるライブラリーを指定します。

サブシステム記述の詳細については、実行管理機能の手引きを参照してください。

上

記憶域プール (POOLS)

このサブシステム記述の中にある1つまたは複数の記憶域プール定義を指定します。1つの記憶域プールに対して、次の各定義を指定します。

- **プール定義ID:** 記憶域プール定義の、サブシステム記述内のID。異なるサブシステム記述内のプール定義で、同じID (1から10)を使用することができます。
- **サイズ:** キロバイト(1K = 1024バイト)の倍数で表した記憶域プールのサイズ。これは、プールで使用できる主記憶域の容量です。
- **活動レベル:** プール内で同時に実行できるスレッドの最大数。

作成するサブシステム記述に対して、最大10個の記憶域プール定義を指定することができます。各サブシステム記述には10個まで記憶域プール定義を指定することができますが、システム内において活動状態にできる記憶域プールの数には操作上の制限があります。システムでは、基本記憶域プールおよびマシン記憶域プールを含めて、同時に活動状態にできる記憶域プールは64個までです>(*NOSTGが指定されている記憶域プールは活動状態とは見なされず、これはどのサブシステムにも割り振られません。)

サブシステムのすべての記憶域プールを割り振ると、システムの最大プール数の64個を超えてしまうサブシステムを開始した場合には、割り振ることができるプール(制限数に達するまで)を割り振って、残りの割り振りは行われません。その場合に、割り振られなかったプールの1つに通常は経路指定されるそのサブシステムが開始した各ルーティング・ステップについては、基本プールが代わりに使用されます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには10個の値を指定することができます。

要素1: プール識別コード

1から10

このサブシステムに含める記憶域プール定義のプールIDを指定します。次の値の1つによって、プールの属性も指定しなければなりません。ここでは最高10組の値を指定して、サブシステム内に10個の記憶域プールを定義することができます。

要素2: 記憶域サイズ

*BASE

指定されたプール定義は、他のサブシステムと共用できる基本システム・プールとして定義されます。基本プールの最小サイズおよび活動レベルは、システム値QBASPOOLおよびQBASACTLVLに指定します。

*NOSTG

最初は、記憶域も活動レベルもプールに割り当てられません（非活動状態）。

*INTERACT

指定されたプール定義は、対話式作業で使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、共用記憶域プールの変更 (CHGSHRPOOL)コマンドを使用して指定されます。

*SPOOL

指定されたプール定義は、スプール書き出しプログラムで使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルはCHGSHRPOOLコマンドを使用して指定します。

*SHRPOOLNN

指定されたプール定義は汎用共用プールとして定義されます。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1から*SHRPOOL60によって識別されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、CHGSHRPOOLコマンドを使用して指定されます。

整数 指定された記憶域プールの記憶域サイズ（キロバイト数）を指定します。少なくとも256（すなわち256K）を指定しなければなりません。

要素3: 活動レベル

整数 プール内で同時に実行できるスレッドの最大数を指定します。

上

ジョブの最大数 (MAXJOBS)

このサブシステム記述によって制御されるサブシステムで同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定します。この最大数は、開始され、待機または実行中であるすべてのジョブに適用されますが、ジョブ待ち行列にあるジョブまたは実行を終了したジョブには適用されません。

*NOMAX

このサブシステムにはジョブの最大数の制限はありません。

0から1000

このサブシステムで実行可能なジョブの最大数を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

サインオン表示装置ファイル (SGNDSPF)

サブシステムに割り振られたワークステーションでサインオン画面を表示する時に使用するサインオン表示ファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したサインオン表示ファイルが、サブシステム記述の作成または変更時に存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたサインオン表示ファイルの名前がシステムによって保管されるため）。サインオン表示ファイルには、SIGNONというレコード様式が入っていなければなりません。

注: サブシステムが活動状態である時には、サインオン表示ファイルを変更することができます。しかし新しいサインオン表示ファイルは、次回にサブシステムが開始されるまで、使用されません。

注: このコマンドを呼び出しているユーザーが表示ファイルに対する使用(*USE)権限およびそのライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限を持っている場合には、表示ファイルの形式検査を行うことができます。これは、サブシステムの開始時に表示が正しく機能するであろうことを予測するのに役立ちます。それ以外の場合には、形式検査は行われません。

単一値

***QDSIGNON**

サブシステムに割り振られたワークステーションにサインオン画面を表示する際に、QSYSの中のサインオン画面ファイル値QDSIGNONが使用されます。

修飾子1: サインオン表示装置ファイル

名前 使用されるサインオン画面ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サインオン表示ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL)

ライブラリー・リストのシステム部分の、他のライブラリーの前に入れられるライブラリーを指定します。このパラメーターによって、2次言語ライブラリーを使用することができます。

制約事項:

1. QSYSLIBLまたはQUSRLIBLシステム値に2次言語ライブラリーを指定してはなりません。ライブラリー・リストのシステム部分に2次言語ライブラリーを追加できるように、QSYSLIBLに含まれるライブラリーは15個より少なくなければなりません。
2. システム・ライブラリー・リスト項目に*NONE以外の値を指定するには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。

*NONE

システム・ライブラリー・リストは変更されません。

名前 システム・ライブラリー・リストに追加するライブラリーの名前を指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

USE** ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作（例えば内容の表示など）を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。USE**権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

ASPグループ (ASPGRP)

サブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースに組み込まれる補助記憶域プール(ASP)グループの名前を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。

サブシステム・モニター・ジョブがユーザー・ジョブを作成すると、サブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースによってジョブ記述が見つかります。ジョブ待ち行列、サインオン表示装置ファイル、およびサブシステム・ライブラリーが、サブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースで見つかります。

サブシステム・モニター・ジョブが、ユーザー・ジョブの代行処理をする場合は、サブシステムがユーザー・ジョブのライブラリー名スペースを使用します。プログラムおよびクラスが、ユーザー・ジョブのライブラリー名スペースで見つかります。これらのオブジェクトの場合、サブシステム記述でのASPGRPパラメーターは効果がありません。

サブシステム・モニター・ジョブがASPグループを使用すると、そのサブシステム内のジョブが同じASPグループを使用します。ASPグループがジョブ作成中に設定され、他のオブジェクトを見つけるために使用できるよう、ジョブ記述に初期ASPグループ(INLASPGRP)パラメーターを使用します。使用するジョブ記述を決めるためにサブシステムがプログラムを見つける必要があるため、サブシステム・モニター・ジョブとユーザー・ジョブ間の整合性は、事前開始ジョブ項目には特に重要です。

制約事項:

1. 制御サブシステムのサブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースは、ASPGRPを含むことができません。*NONE以外の値が、制御サブシステムのサブシステム記述で指定される場合、その値は無視されます。
2. QSYSWRKサブシステムのサブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースは、ASPGRPを含むことができません。*NONE以外の値が、QSYSWRKサブシステムのサブシステム記述で指定される場合、その値は無視されます。
3. サブシステムが始動される前に、ASPグループがオンに変更され、状況は「Available」になる必要があります。
4. ASPグループがオフに変更される前に、サブシステムを終了する必要があります。
5. このパラメーターは、サブシステムが活動状態である間に変更することはできません。

*NONE

サブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースは、ASPグループを含んでいません。

名前 サブシステム・モニター・ジョブのライブラリー名スペースに組み込まれるASPグループの名前を指定します。

上

例

例1:サインオン画面ファイルによる記述の作成

```
CRTSBSD  SBSDB(AKER) POOLS((1 *BASE)(2 2000 4))
          SGNDSPF(*LIBL/NEWSGNON)
          TEXT ('SUBSYSTEM FOR RUNNING BAKER DEPARTMENT JOBS')
```

このコマンドは、BAKERという名前のサブシステム記述を作成し、それを現行ライブラリーに保管します。現行ライブラリーがない場合には、それは汎用ライブラリー(QGPL)に保管されます。記憶域プール定義1は、プール1が基本システム・プールを共用することを指定します。記憶域プール2の定義は、2000Kの記憶域と4の活動レベルを持つことです。このサブシステム記述には、同時に活動状態にできるジョブの数に制限はありません。ただし、このサブシステムの活動レベルは、サブシステム記述内にあるワークステーション項目、ジョブ待ち行列項目、および経路指定項目に指定されたMAXACTパラメーターによって制御される場合があります。サインオン画面ファイルはNEWSGNONであり、BAKERサブシステムに割り振られたワークステーションでサインオン画面を表示する時に使用されます。NEWSGNON画面ファイルはユーザーのライブラリー・リストから検索されます。

例2:3つの記憶域プール定義を含む記述の作成

```
CRTSBSD  SBSDB(MEDLIB/MEDICAL)
          POOLS((1 1500 2) (2 *BASE) (3 *NOSTG))
          MAXJOBS(5) TEXT('MEDICAL FILES INQUIRY AND UPDATE')
```

このコマンドは、MEDICALという名前のサブシステム記述を作成し、それをMEDLIBライブラリーに保管します。サブシステム記述には3つの記憶域プール定義が含まれます: 記憶域プール1は1500Kの記憶域および2の活動レベルを持つように定義され、プール2は基本システム・プールを共用するように定義され、また、プール3は、最初に他のプールが活動状態である時は非活動状態であるように一記憶域および活動レベルは持たないように定義されます。このサブシステムでは、最大5個のジョブを同時に活動状態とすることができます。テキスト記述がこのサブシステムを簡単に説明しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1696

サブシステム記述&1は作成されなかった。

上

検索見出しの作成 (CRTSCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し作成(CRTSCHIDX)コマンドは、検索見出しを作成します。検索見出しは、1つまたは複数のパネル・グループに入っているヘルプ情報を参照するために使用されます。

見出し検索は、ヘルプ・キーを押すことによってデータ記述仕様(DDS)を介して、あるいは検索見出し開始(STRSCHIDX)コマンドを使用することによって見出し検索機能を介してアクセスすることができます。

CRTSCHIDXコマンドによって作成される検索見出しにはデータが入っていません。検索見出し項目追加(ADDSCHIDX)コマンドを使用してデータを追加してください。

制約事項:

- 検索見出しが入っているライブラリーに対する追加(*ADD)権限を持っていないとできません。
- IBM提供のパネル・グループを、CRTSCHIDXコマンドによって作成された検索見出しに追加することはできません。CRTSCHIDXコマンドによって作成された検索見出しに追加することができるのは、パネル・グループの作成(CRTPNLGRP)コマンドによって作成されたパネル・グループだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TITLE	画面タイトル	文字値	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *TITLE, *BLANK	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

検索見出し (SCHIDX)

作成する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 検索見出し

名前 検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

検索見出しを作成するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しを作成したいライブラリーの名前を指定します。

上

画面タイトル (TITLE)

検索情報が表示される時に選択したトピック画面の先頭に示したいタイトルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 55文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***TITLE**

タイトルの最初の50文字がテキストとして使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

検索見出しに使用する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定します。このパラメーターに指定する値は、この検索見出しに追加されたパネル・グループのTXTCHRIDパラメーター値と一致しなければなりません。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 検索見出しで使用される同義語の文字セットと一致する図形文字セットの値を指定してください。

要素2: コード・ページ

整数 検索見出しで使用される同義語のコード・ページと一致するコード・ページ値を指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTSCHIDX  SCHIDX(ACCOUNTING) TITLE('ACCOUNTING HELP INDEX')
           TEXT('ACCOUNTING HELP INDEX')
```

このコマンドは、名前ACCOUNTINGの検索見出しを現行ライブラリー中に作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6E11

検索見出し&2はライブラリー&3に作成されていない。

上

スペル援助辞書作成 (CRTSPADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE CREATE SPELLING AID DICTIONARY (CRTSPADCT) COMMAND ALLOWS THE USER TO CREATE A USER-DEFINED SPELLING AID DICTIONARY. THIS DICTIONARY IS USED WITH THE CREATE DOCUMENT (CRTDOC), CHECK DOCUMENT (CHKDOC), EDIT DOCUMENT (EDTDOC), OR WORK WITH DOCUMENTS (WRKDOC) COMMANDS WHEN DOING SPELL CHECK FUNCTIONS, SUCH AS SPELLING AID AND SPELLING VERIFICATION.

SPELLING AID DICTIONARIES ARE CLASSIFIED INTO IBM LANGUAGE DICTIONARIES AND USER DICTIONARIES. LANGUAGE DICTIONARIES ARE IBM-CREATED; USER DICTIONARIES ARE CREATED WITH THIS COMMAND.

THE FOLLOWING ARE IBM LANGUAGE DICTIONARY NAMES THAT ARE IN LIBRARY QDCT. THEY SHOULD NOT BE USED FOR USER-CREATED DICTIONARIES.

- AFRIKAAN
- AKTUEEL
- BRASIL
- CATALA
- DANSK
- DEUTSCH
- DSCHWEIZ
- ESPANA
- FRANCAIS
- FRA2
- GREEK
- ISLENSK
- ITALIANO
- LEGAL
- MEDICAL
- NEDERLND
- NORBOK
- NORNYN
- PORTUGAL
- RUSSIAN
- SUOMI
- SVENSK
- UK

• US

THIS COMMAND REQUIRES A SOURCE FILE TO CONTAIN ALL THE WORDS BEING PUT INTO THE SPELLING AID DICTIONARY. THE SOURCE MEMBER CAN BE CREATED BY USING THE START SOURCE ENTRY UTILITY (STRSEU) COMMAND. THE DICTIONARY SOURCE TYPE IS SPADCT.

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SPADCT	スペル援助辞書	単一値: *USRSWL その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: スペル援助辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *DCT	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
BASEDCT	基本辞書	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 基本辞書	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
VFYDCT	辞書の検査	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 辞書の検査	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LNGATR	言語属性	*VFYDCT, *NONE, *ENGLISH, *ESPANA, *FRANCAIS, *FRA2, *ITALIANO, *DANSK, *DEUTSCH, *ISLENSK, *NEDERLND, *NORSK, *SVENSK, *PORTUGAL, *DSCHWEIZ, *SUOMI, *CATALA, *AFRIKAAN, *GREEK, *BRASIL, *TURKISH, *RUSSIAN	オプション
SWLLANGID	停止語句リスト言語識別コード	文字値	オプション
BASESWL	基本停止語句リスト	*IBM, *NONE	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	*SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC	オプション, 定位置 4
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	辞書の置き換え	*YES, *NO	オプション

上

スペル援助辞書 (SPADCT)

SPECIFIES THE NAME AND LIBRARY FOR THE SPELLING AID DICTIONARY BEING CREATED.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

***USRSWL**

A USER-DEFINED STOP WORD LIST IS CREATED USING AN IBM-SUPPLIED NAME.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO STORE THE DICTIONARY. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, QGPL IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE DICTIONARY IS STORED.

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

SPECIFIES THE NAME AND LIBRARY OF THE SOURCE FILE USED WHEN THE SPELLING AID DICTIONARY IS CREATED. THE SOURCE FILE CONTAINS THE SOURCE MEMBER THAT IS USED FOR CREATING THE DICTIONARY.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE SOURCE FILE. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, QGPL IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY IN WHICH THE SOURCE FILE IS LOCATED.

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

SPECIFIES THE NAME OF THE SOURCE FILE MEMBER THAT CONTAINS THE WORDS FOR THE DICTIONARY BEING CREATED. THE MEMBER IS LOCATED IN THE SOURCE FILE SPECIFIED ON THE ソース・ファイル PROMPT (SRCFILE PARAMETER).

***DCT** THE SOURCE FILE MEMBER NAME IS THE SAME AS THAT OF THE DICTIONARY BEING CREATED.

SOURCE-FILE-MEMBER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE MEMBER IN THE SOURCE FILE THAT IS USED TO CREATE THE SPELLING AID DICTIONARY. A MEMBER NAME MUST BE SPECIFIED WHEN THE SOURCE FILE MEMBER BEING PROCESSED DOES NOT HAVE THE SAME NAME AS THE SPELLING AID DICTIONARY BEING CREATED.

上

テキスト'記述' (TEXT)

SPECIFIES THE TEXT THAT BRIEFLY DESCRIBES THE OBJECT.

***SRCMBRTXT**

THE TEXT IS TAKEN FROM THE SOURCE FILE MEMBER BEING USED TO CREATE THE SPELLING AID DICTIONARY.

'DESCRIPTION'

SPECIFY NO MORE THAN 50 CHARACTERS OF TEXT, ENCLOSED IN APOSTROPHES.

***BLANK**

NO TEXT IS SPECIFIED.

上

基本辞書 (BASEDCT)

SPECIFIES THE NAME AND LIBRARY OF THE DICTIONARY THAT CONTAINS WORDS THAT ARE ADDED TO THE DICTIONARY BEING CREATED. AN IBM LANGUAGE DICTIONARY (ONE CREATED BY IBM) CANNOT BE USED HERE.

***NONE**

NO WORDS FROM ANOTHER DICTIONARY ARE ADDED TO THE DICTIONARY BEING CREATED.

DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE NAME AND LIBRARY OF THE DICTIONARY THAT CONTAINS WORDS TO BE ADDED TO THE DICTIONARY BEING CREATED.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE DICTIONARY. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, QGPL IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE DICTIONARY IS LOCATED.

上

辞書の検査 (VFYDCT)

SPECIFIES THE NAME AND LIBRARY OF AN EXISTING DICTIONARY THAT IS SEARCHED FOR EACH WORD SPECIFIED IN THE SOURCE MEMBER. ONLY THOSE WORDS THAT ARE NOT FOUND IN THE EXISTING DICTIONARY ARE PLACED IN THE NEW DICTIONARY TO AVOID DUPLICATION.

*NONE

EVERY WORD SPECIFIED IN THE SOURCE MEMBER IS PLACED IN THE NEW SPELLING AID DICTIONARY WITHOUT VERIFYING AGAINST ANOTHER DICTIONARY.

DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE DICTIONARY THAT CONTAINS WORDS THAT ARE NOT TO BE DUPLICATED IN THE DICTIONARY BEING CREATED.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

*LIBL ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

*CURLIB

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE DICTIONARY. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, QGPL IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE DICTIONARY IS LOCATED.

上

言語属性 (LNGATR)

SPECIFIES THE LANGUAGE ATTRIBUTE ASSOCIATED WITH THE DICTIONARY BEING CREATED. THE LANGUAGE ATTRIBUTE DETERMINES THE PROCESSING RULES THAT APPLY WHEN THE DICTIONARY IS USED.

*VFYDCT

THE LANGUAGE ATTRIBUTE OF THE DICTIONARY IS THE SAME AS THE LANGUAGE ATTRIBUTE OF THE DICTIONARY THAT IS SPECIFIED ON THE 辞書の検査 PROMPT (VFYDCT PARAMETER).

*NONE

THE DICTIONARY BEING CREATED DOES NOT HAVE A SPECIFIC LANGUAGE ATTRIBUTE.

*AFRIKAAN

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS AFRIKAANS.

*BRASIL

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS BRAZILIAN PORTUGUESE.

*CATALA

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS CATALAN.

***DANSK**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS DANISH.

***DEUTSCH**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS GERMAN.

***DSCHWEIZ**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS
SWISS-GERMAN.

***ENGLISH**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS ENGLISH.

***ESPANA**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS SPANISH.

***FRANCAIS**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS FRENCH.

***FRA2**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS FRENCH,
WHERE ACCENTS ARE REQUIRED ON UPPERCASE CHARACTERS.

***GREEK**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS GREEK.

***ISLENSK**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS ICELANDIC.

***ITALIANO**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS ITALIAN.

***NEDERLND**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS DUTCH.

***NORSK**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS NORWEGIAN.

***PORTUGAL**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS PORTUGUESE.

***RUSSIAN**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS RUSSIAN.

***SUOMI**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS FINNISH.

***SVENSK**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS SWEDISH.

***TURKISH**

THE LANGUAGE ATTRIBUTE USED BY THE SPELLING AID DICTIONARY IS TURKISH.

上

停止語句リスト言語識別コード (SWLLANGID)

SPECIFIES THE LANGUAGE IDENTIFIER (ID) FOR THE STOP WORD LIST.

基本停止語句リスト (BASESWL)

SPECIFIES WHETHER THE IBM-SUPPLIED STOP WORD LIST WORDS ARE INCLUDED IN THE USER-CREATED STOP WORD LIST.

***IBM** THE WORDS FROM THE IBM-SUPPLIED STOP WORD LIST ARE ADDED TO THE USER-CREATED STOP WORD LIST.

***NONE**

NO WORDS FROM THE IBM-SUPPLIED STOP WORD LIST ARE ADDED TO THE USER-CREATED STOP WORD LIST.

注: WORD ENTRIES IN THE IBM-SUPPLIED STOP WORD LIST SOURCE FILE PRECEDED BY A DASH, (&NDASH.), ARE NOT ADDED TO THE USER-CREATED STOP WORD LIST EVEN WHEN BASESWL(*IBM) IS SPECIFIED.

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

SPECIFIES THE TYPE OF OUTPUT LISTING THAT IS PRODUCED WHEN THE DICTIONARY IS CREATED.

***SRC OR *SOURCE**

A LISTING OF THE SOURCE STATEMENTS THAT ARE USED TO CREATE THE DICTIONARY, AS WELL AS A LISTING OF ANY ERRORS THAT OCCUR, IS CREATED.

***NOSRC OR *NOSOURCE**

NO LISTING OF THE SOURCE STATEMENTS IS GENERATED UNLESS ERRORS OCCUR.

上

権限 (AUT)

SPECIFIES THE AUTHORITY YOU ARE GIVING TO USERS WHO DO NOT HAVE SPECIFIC AUTHORITY FOR THE OBJECT, WHO ARE NOT ON AN AUTHORIZATION LIST, AND WHOSE GROUP PROFILE OR SUPPLEMENTAL GROUP PROFILES DO NOT HAVE SPECIFIC AUTHORITY FOR THE OBJECT.

***LIBCRTAUT**

THE AUTHORITY FOR THE OBJECT IS THE SAME AS THE VALUE SPECIFIED ON THE 作成権限 PROMPT (CRTAUT PARAMETER) OF THE LIBRARY IN WHICH THE OBJECT IS BEING CREATED. IF THE VALUE SPECIFIED ON THE 作成権限 PROMPT (CRTAUT PARAMETER) IS CHANGED, THE NEW VALUE WILL NOT AFFECT ANY EXISTING OBJECTS.

***CHANGE**

THE USER CAN CHANGE THE DICTIONARY AND USE IT TO CHECK THE SPELLING OF THE CONTENT OF A TEXT DOCUMENT.

***ALL** THE USER CAN PERFORM ALL OPERATIONS EXCEPT THOSE LIMITED TO THE OWNER OR CONTROLLED BY AUTHORIZATION LIST MANAGEMENT (*AUTLMGT) AUTHORITY. THE USER CAN CONTROL THE OBJECT'S EXISTENCE, SPECIFY THE SECURITY FOR THE OBJECT, CHANGE THE OBJECT, AND PERFORM BASIC FUNCTIONS ON THE OBJECT. THE USER ALSO CAN CHANGE OWNERSHIP OF THE OBJECT.

***USE** THE USER CAN PERFORM BASIC OPERATIONS ON THE OBJECT, SUCH AS RUNNING A PROGRAM OR READING A FILE. THE USER CANNOT CHANGE THE OBJECT. USE (*USE) AUTHORITY PROVIDES OBJECT OPERATIONAL (*OBJOPR), READ (*READ), AND EXECUTE (*EXECUTE) AUTHORITIES.

***EXCLUDE**

THE USER CANNOT ACCESS THE OBJECT.

AUTHORIZATION-LIST-NAME

SPECIFY THE NAME OF AN AUTHORIZATION LIST TO BE USED FOR AUTHORITY TO THE OBJECT. USERS INCLUDED IN THE AUTHORIZATION LIST ARE GRANTED AUTHORITY TO THE OBJECT AS SPECIFIED IN THE LIST. THE AUTHORIZATION LIST MUST EXIST WHEN THE OBJECT IS CREATED.

上

辞書の置き換え (REPLACE)

SPECIFIES WHETHER AN EXISTING DICTIONARY IS REPLACED WHEN A NEW DICTIONARY IS CREATED USING THE SAME NAME AS AN EXISTING DICTIONARY.

***YES** THE DICTIONARY BEING CREATED REPLACES AN EXISTING DICTIONARY WITH THE SAME NAME.

***NO** THE DICTIONARY BEING CREATED DOES NOT REPLACE AN EXISTING DICTIONARY WITH THE SAME NAME.

上

例

```
CRTSPADCT  SPADCT(MYLIB/MYDCT)  SRCFILE(MYLIB/SRC)
           SRCMBR(WORDS)  OPTION(*NOSRC)
           BASEDCT(QGPL/BASDCT)  VFYDCT(QDCT/US)
           LNGATR(*ENGLISH)  REPLACE(*YES)
```

THIS COMMAND CREATES A SPELLING AID DICTIONARY NAMED MYDCT IN THE LIBRARY MYLIB. THE WORDS USED IN THE SPELLING AID DICTIONARY ARE FROM SOURCE MEMBER WORDS OF THE SRC SOURCE FILE IN MYLIB. THE DICTIONARY INCLUDES WORDS FROM A DICTIONARY NAMED BASDCT, BUT DOES NOT CONTAIN ANY WORDS THAT ARE FOUND IN THE DICTIONARY NAMED US. THE DICTIONARY BEING CREATED HAS THE *ENGLISH ATTRIBUTE. IF AN EXISTING DICTIONARY IS NAMED MYDCT, IT IS REPLACED.

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF4102

メンバー&4を含むファイル&2がライブラリー&3に見つからない。

CPF4104

&3のファイル&2, メンバー, 装置, またはプログラム装置&4に対する操作はユーザーに認可されていない。

CPF411B

メンバー&4の共用オープンが正常に行なわれなかった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9832

DDMファイル&2はこの機能でサポートされていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

SQLパッケージの作成 (CRTSQLPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SQLパッケージ作成(CRTSQLPKG)コマンドによって、既存の配布SQLプログラムからリレーショナル・データベースに関するSQLパッケージを作成（または再作成）することができます。分散SQLプログラムは、CRTSQLXXXコマンド（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI）コマンドにリレーショナル・データベース (RDB)パラメーターを指定することによって作成されたプログラムです。

詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のDB2 for i5/OS SQLプログラミングのトピック・コレクションを参照。にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RDB	リレーショナル・データベース	単純名, *PGM	オプション, 定位置 2
USER	RDBユーザー	名前, *CURRENT	オプション
PASSWORD	RDBユーザー・パスワード	文字値, *NONE, ' '	オプション
DFTRDBCOL	省略時のコレクション	名前, *PGM, *NONE	オプション
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*PGM, *SRVPGM	オプション
MODULE	モジュール・リスト	単一値: *ALL その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *PGMTXT, *BLANK	オプション
GENLVL	重大度レベル	0-40, 10	オプション
REPLACE	置き換え	*YES, *NO	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

プログラム (PGM)

SQLパッケージが作成されるプログラムの名前を指定します。このプログラムは、CRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの1つを使用した作成された分散SQLプログラムでなければなりません。

修飾子1: プログラム

名前 SQLパッケージが作成されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

SQLパッケージが作成されるリレーショナル・データベースの名前を指定してください。

***PGM** 最初にプログラムを作成したCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドのリレーショナル・データベース (RDB)パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース名が使用されます。

名前 SQLパッケージが作成されるリレーショナル・データベースの名前を指定します。リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目処理(WRKRDDBDIRE)コマンドを使用して、このパラメーターに有効なリレーショナル・データベース名を表示してください。

上

RDBユーザー (USER)

会話を開始した時にリモート・システムに送られるユーザー名を指定します。

*CURRENT

現行ジョブと関連したユーザー名が使用されます。

名前 アプリケーション・リクエスター・ジョブに使用されるユーザー名を指定してください。

上

RDBユーザー・パスワード (PASSWORD)

リモート・システムで使用されるパスワードを指定します。

***NONE**

パスワードは送られません。この値が指定された場合には、**RDBユーザー (USER)**パラメーターに指定されたユーザー名は無効です。

文字値 USERパラメーターに指定されたユーザー名のパスワードを指定します。ブランクのパスワードは、*NONEの指定と同じに扱われます。

上

省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリガーの修飾されていない名前に使用されるスキーマ名を指定します。このパラメーターが適用されるのは、パッケージ内の静的SQLステートメントに対してだけです。

***PGM** SQLパッケージが作成されるプログラムを作成するために使用されるCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの**省略時のコレクション**パラメーターに指定されたスキーマ名が使用されます。

***NONE**

プログラムをプリコンパイルするために使用されるCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの**プリコンパイラー・オプション (OPTION)**パラメーターに指定された**命名規則**を使用して、スキーマ名が決定されます。

名前 修飾されていないテーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリガーに使用されるスキーマ名を指定します。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

作成されるSQLパッケージが関係するプログラムのタイプを指定します。

***PGM** **プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたプログラムからSQLパッケージを作成します。

***SRVPGM**

PGMパラメーターに指定されたサービス・プログラムからSQLパッケージを作成します。

上

モジュール・リスト (MODULE)

結合済みプログラムのモジュールのリストを指定します。

単一値

***ALL** プログラム中のすべてのモジュールにSQLパッケージが作成されます。プログラム中のどのモジュールにもSQLステートメントが含まれていない場合、あるいはモジュールのどれも配布プログラムでない場合には、エラー・メッセージが送られます。

その他の値 (最大256個指定可能)

名前 SQLパッケージが作成されるプログラム内のモジュールを指定します。パッケージ化を必要とする

モジュールが256より多く存在する場合には、複数のCRTSQLPKGコマンドを使用しなければなりません。SQLステートメントを含む少なくとも1つのモジュールをもつプログラムには最大1024個のモジュールを入れることができます。

同じプログラムで重複モジュール名を使用することができます。このコマンドは、プログラム中の各モジュールを検索し、MODULEパラメーターに*ALLまたはモジュール名が指定されている場合には、処理が続行され、SQLパッケージを作成する必要があるかどうか判断されます。モジュールがSQLを使用して作成され、プリコンパイル・コマンドにリレーショナル・データベース (RDB)パラメーターが指定されている場合には、そのモジュールにSQLパッケージが作成されます。そのSQLパッケージは結合済みプログラムのモジュールと関連付けられます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

SQLパッケージおよびその機能を簡単に記述するテキストを指定します。

***PGMTXT**

SQLパッケージが作成されるプログラムのテキストが使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

重大度レベル (GENLVL)

SQLパッケージの作成時に検出されたエラーに使用可能な最大の重大度レベルを指定します。指定したレベルを超えるレベルでエラーが起こった場合には、SQLパッケージは作成されません。

10 最大の重大度レベルは10です。

0から40

最大の重大度レベルを指定してください。

上

置き換え (REPLACE)

指定したライブラリー中の同じ名前の既存のSQLパッケージを新しいSQLパッケージで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 同じ名前の既存のSQLパッケージは、新しいSQLパッケージで置き換えられます。

***NO** 同じ名前の既存のSQLパッケージは置き換えられません。すでに存在している場合には、新しいSQLパッケージは作成されません。

上

印刷ファイル (PRTFILE)

SQLパッケージの作成のエラー・リストが送られる印刷装置ファイルを指定します。SQLパッケージの作成中にエラーが検出されなかった場合には、リストは作成されません。

修飾子1: 印刷ファイル

QSYSPRT

SQLパッケージの作成のエラー・リストは、IBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

名前 SQLパッケージの作成のエラー・リストが送られる印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
CRTSQLPKG PGM(PAYROLL) RDB(SYSTEMA) TEXT('PAYROLL PROGRAM')
```

このコマンドは、リレーショナル・データベースSYSTEMA上の分散SQLプログラムPAYROLLからSQLパッケージを作成します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

SQL9004

SQLパッケージの作成が正常に実行されなかった。

SQL9006

DB2 Query Manager and SQL Development Kitのインストール・レベルがオペレーティング・システムと同じでない。

上

ソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース物理ファイル作成(CRTSRCPF)コマンドは、ソース物理ファイルを作成します。

ソース物理ファイルには、制御言語(CL)ソース・ステートメントなどのオブジェクトの作成に必要なソース・データが入っていて、これはCLプログラムの作成、あるいはデータベースまたは装置ファイルの作成に順次使用されるデータ記述仕様(DDS) の作成に使用されます。

ソース物理ファイルは1つまたは複数のメンバーを持つことができます。ファイルに追加できるメンバーの最大数は、メンバーの最大数 (MAXMBRS)パラメーターで指定します。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)が指定されている場合には、このコマンドはタイプ*SNAの分散データ管理機能 (DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく失敗します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RCDLEN	レコード長	整数, <u>92</u>	オプション, 定位置 2
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, *NONE, *FILE	オプション, 定位置 3
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*MAX1TB, *MAX4GB	オプション
PAGESIZE	アクセス・パス論理ページ・サイズ	*KEYLEN, 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512	オプション
ACCPH	アクセス・パス・タイプ	*ARRIVAL, *KEYED	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*IMMED, *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, <u>10000</u>	
	要素 2: 増分レコード数	整数, <u>1000</u>	
	要素 3: 最大増分値	整数, <u>499</u>	
ALLOCATE	記憶域割り振り	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CONTIG	連続記憶域	<u>*NO</u> , *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, <u>*ANY</u>	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, <u>*NONE</u>	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>*IMMED</u> , *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>60</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大 %	1-100, <u>*NONE</u>	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, <u>*JOB</u> , *HEX	オプション
ALWUPD	更新操作可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWDLT	削除操作可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

上

ファイル (FILE)

作成するソース物理ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 ソース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

レコード長 (RCDLEN)

ソース物理ファイルに記憶されるレコードの長さ（バイト数）を指定します。レコード様式には、ソース順序番号、日付、およびソース・ステートメントの3つのフィールドが入っています。

このパラメーターは、各レコードに必要なソース順序番号フィールドおよび日付フィールドのために12桁を提供します。これらのフィールドは固定属性および名前で定義され、順序番号に対してキー順アクセス・パスをもっています。

92 レコード長は92バイトです。ソース順序番号が6バイト、日付が6バイト、およびソース・ステートメントが80バイトです。

整数 ファイル内の各ソース・レコードのレコード長を指定してください。この値には、ソース順序番号のための6バイトと日付のための6バイトを含めなければなりません。有効な値の範囲は13から32766バイトです。

2バイト文字セットに関する考慮事項

IGCDTA(*YES)を指定した場合には、RCDLENパラメーターはソース順序番号に6桁、日付フィールドに6桁、そしてソースの開始に少なくとも4桁を指定しなければなりません。2バイト文字セット(DBCS)の有効な値の範囲は16から32766です。

上

メンバー (MBR)

ファイルの作成時に追加するソース・ファイル・メンバーを指定します。

***NONE**

ファイルの作成時にメンバーを追加しません。

***FILE** 追加するメンバーの名前は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 追加するメンバーの名前を指定してください。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っているかどうかを指定します。

***NO** ファイルにはDBCSデータは使用できません。

***YES** ファイルにDBCSデータが入っています。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

システム (SYSTEM)

ソース物理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

***LCL** ソース物理ファイルはローカル・システム上に作成されます。 **ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたファイルは、まだシステム上に存在してはいけません。

***RMT** ソース物理ファイルはリモート・システムで作成されます。 **FILE**パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムを識別するDDMファイルの名前および作成されるソース物理ファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、ソース物理ファイルはローカル・システムで作成されます。そうでない場合には、**FILE**パラメーターのファイルはDDMファイルでなければならず、ソース物理ファイルはリモート・システムで作成されます。 **DDM**ファイルはリモート・システムおよび作成するソース物理ファイルの名前を識別します。

上

メンバーの満了日 (EXPDATE)

ソース物理ファイルの作成時にソース・ファイル・メンバーを追加する場合には、そのソース・ファイル・メンバーの満了日を指定します。

***NONE**

ファイルに追加されるメンバーには満了日がありません。

日付 追加されるメンバーが次の日から使用できなくなる日付を指定します。

上

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

ソース物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

***NOMAX**

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

整数 ファイルに入れることができるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767メンバーです。

上

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

キー順ソース物理ファイルと関連付けられるアクセス・パスが占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。このパラメーターは、論理ファイル用に作成されるアクセス・パスや、ソース物理ファイル中のデータを参照するQUERYのために作成されるアクセス・パスには適用されません。

***MAX1TB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

***MAX4GB**

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

上

アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)

アクセス・パスの作成時に使用されるアクセス・パス論理ページ・サイズを指定します。

アクセス・パス論理ページ・サイズは、索引の各ページのサイズを決定するためにシステムによって使用されます。この論理ページ・サイズは、ページ不在の場合に補助記憶域からジョブの記憶域プールに移動できるアクセス・パスのバイト数です。

***KEYLEN**

アクセス・パス論理ページ・サイズは、1つ以上のキーの合計長によって決定されます。

- 8** 8Kの論理ページ・サイズ。
- 16** 16Kの論理ページ・サイズ。
- 32** 32Kの論理ページ・サイズ。
- 64** 64Kの論理ページ・サイズ。
- 128** 128Kの論理ページ・サイズ。
- 256** 256Kの論理ページ・サイズ。
- 512** 512Kの論理ページ・サイズ。

上

アクセス・パス・タイプ (ACCPH)

ソース物理ファイル内のすべてのメンバーが使用するアクセス・パスのタイプを指定します。

***ARRIVAL**

アクセス・パスは到着順アクセス・パスです。

***KEYED**

アクセス・パスはキー順アクセス・パスです。

上

アクセス・パスの保守 (MAINT)

ソース物理ファイルのすべてのメンバーに対して使用されるアクセス・パスのメンテナンスのタイプを指定します。

***IMMED**

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行われるたびに更新されます。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスは、メンバーがクローズされるまで維持されます。その後、アクセス・パスは削除されません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、物理ファイル・メンバーが使用のためにオープンされるまでは延期されます。アクセス・パスは、ファイルが最後にオープンされた以降に追加、削除、または変更されたレコードについてのみ変更されます。ファイルがオープンされている間は、そのメンバーに対して行われたすべての変更は、MAINTパラメーターに何が指定されていても、直ちにそれらのメンバーのアクセス・パスに反映されます。ファイルをオープンする時に再作成時間が長くなるのを防ぐには、アクセス・パスに対する変更数が少ない時にだけ*DLYを指定する必要があります。

クローズと次のオープンの間の変更の数がほぼアクセス・パスのサイズの10パーセントに達すると、システムは変更の保管を停止し、次にファイルがオープンされる時にアクセス・パス全体が再作成されます。

上

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パス上に即時または遅延保守を備えているファイルの場合に、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった後で、ファイルの回復処理がいつ実行されるかを指定します。このパラメーターが有効なのは、キー順アクセス・パスを持つファイルの場合だけです。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMED または*DLYが指定されている場合には、アクセス・パスは初期プログラム・ロード(IPL) (ユーザーがジョブを実行する前)、IPLの終了後 (並行ジョブの実行中)、または次のファイル・オープン時に再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL中は、アクセス・パス回復一時変更画面に、回復すべきパス、および各パスに対するRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされる時に再作成されます。

***NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。*NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

***AFTIPL**

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了直後に処理を開始することができます。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。固有キーが必要なファイルの場合の省略時の値は*AFTIPLです。

***IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(*IPL)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

上

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

アクセス・パスの変更をソース物理ファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。

***NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に書き出されません。

***YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連レコードが補助記憶装置に書き出されます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*REBLDが指定されている場合には、*YESを指定することはできません。

上

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバー・サイズに追加される各部分のレコード数、および追加された部分が自動的に適用される回数を指定します。各ファイル・メンバーのレコード数は、メンバーに入ることができるレコード数として指定します（この数には削除済みレコードが含まれます）。

レコードの最大数に達すると、（メンバーがいっぱいであることを告げる）メッセージがシステム操作員に送られ、要求を終了するのか、あるいはメンバー・サイズを拡張するのかが選択できるようにします。メッセージが受け取られるたびに、操作員は、メンバーを10%、あるいは増分値で指定されたレコード数のいずれか大きい方だけ拡張することができます。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに追加できるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大サイズは、システムによって決定されます。*NOMAXが指定されている場合には、記憶域割り振り (ALLOCATE)パラメーターに*NOを指定しなければなりません。

要素1: 初期レコード数

各メンバーの初期レコード数を指定してください。

10000 最初に、最大10,000のレコードをファイルの各メンバーに書き出すことができます。

1から2147483646

メンバー・サイズが自動的に拡張される前に、ファイルの各メンバーに書き込むことのできるレコード数を指定してください。

要素2: 増分レコード数

メンバーのレコード数が初期メンバー・サイズより大きい場合にメンバーに自動的に追加されるレコードの数を指定します。増分値の最小サイズはレコードの最大数に達した時点のメンバーのサイズの10%です。

1000 ファイル・サイズは、10%または1000レコードのどちらか大きい方で増やされます。

整数 レコードの最大数に達した時に追加するレコード数がメンバーのサイズの10%より大きい場合に、自動的にメンバーに追加する追加のレコード数を指定してください。

指定された数がメンバー・サイズの10%より大きくなく、ゼロと等しくない場合には、メンバー・サイズが10%ずつ増加されます。

指定された増分値が0の場合には、メンバーは自動的に拡張されません。増分の数の値が0の場合には、この値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。

499 最大499回の増分がメンバー・サイズに自動的に追加されます。

整数 メンバー・サイズに自動的に追加される最大増分回数を指定してください。有効な値の範囲は0から32767です。0を指定した場合には、メンバーは自動的に拡張されません。

上

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに追加された各物理ファイル・メンバーに初期記憶スペースが割り振られるかどうかを指定します。この割り振りでは、**メンバー・サイズ (SIZE)**パラメーターに指定されたレコード数を保持するだけの十分なスペースが提供されます。その容量を超えないでメンバーにレコードを追加できない時に起こる割り振りは、システムおよび**SIZE** パラメーター値によって決定されます。

***NO** ファイルに追加された各メンバーに割り振る記憶スペースの容量は、システムによって決定されず。

YES** 新しいメンバーが追加されるたびに、**SIZE**パラメーターの最初の値に指定された容量の記憶スペースが割り振られます。YES**が指定された場合には、**SIZE**パラメーターに***NOMAX**を指定してはいけません。

上

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、i5/OSのバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、*Recovering your system book (SD88-5008)*を参照してください。

このパラメーターには値***ANY**または1から255の値を指定することができます。

上

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。

論理ファイルに対して指定する強制書き出し率を、その基礎となるファイルの最小強制書き出し率より小さいか等しくすることはできません。より大きい強制書き出し率を指定した場合には、それは無視され、ユーザーに処置を指示するメッセージが出されます。

例えば、3つの物理ファイルの強制書き出し率が2, 6,および8,である場合には、これらの3つの物理ファイルに基づく論理ファイルの強制書き出し率はそれらの最小のものに限定しなければなりません。すなわち、この場合は2です。FRCRATIOパラメーターが指定されていない場合でも2が使用されます。このように、プログラムが論理ファイルに2つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに（基礎となるどの物理ファイルが影響を受けるかに係わらず）、これらのレコードは強制的に永続記憶域に入られます。

この論理ファイルに関連する物理ファイルをジャーナル処理する場合には、大きい強制書き出し率または*NONEを指定します。ジャーナル管理の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

***NONE**

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムで使用可能な最大で、32767秒です。

整数 プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

注: **メンバー (MBR)**パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

ソース物理ファイル内の各メンバーに対する削除済みレコードの最大比率を指定します。比率の検査はメンバーのクローズ時に行われます。削除済みレコードの比率がこのパラメーターで指定した値より大きい場合には、ジョブ・ログにメッセージが送られます。

***NONE** ファイル・メンバー中の削除レコードの比率は検査されません。

1から100

ファイル内の任意のメンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定してください。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ソース・ファイルのフィールドの文字データを記述するために使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

整数 使用するCCSIDを指定してください。

上

更新操作可能 (ALWUPD)

このソース物理ファイルのレコードを更新できるかどうかを指定します。

***YES** このソース・ファイル中のレコードを更新することができます。

***NO** このソース・ファイルのレコードを更新することはできません。

上

削除操作可能 (ALWDLT)

このソース物理ファイルのレコードを削除できるかどうかを指定します。

***YES** このソース・ファイル中のレコードを削除することができます。

***NO** このソース・ファイルのレコードは削除することができません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: メンバーなしのファイルの作成

CRTSRCPF FILE(SRCLIB/PAYTXS)

このコマンドは、SRCLIBライブラリーにPAYTXSという名前のソース・ファイルを作成します。このファイルはメンバーなしで作成されるので、後でメンバーが追加されるまでデータをファイルに入れることはできません。このファイルには、32,767個までのメンバー(*NOMAX)を追加できます。

メンバーの容量に1000レコードを追加する自動拡張（最大増分499）が行われるまで、それぞれのメンバーは最大10000レコードを持つことができます。各メンバーには最小初期記憶域だけが割り振られ、スペースが接続されるかどうかの制限はありません。ユーザーはこのファイルに対するオブジェクト操作、読み取り、追加、削除、および更新権限を持っていますが、オブジェクト管理またはオブジェクト存在権限はありません。

例2: メンバーを持つファイルの作成

```
CRTSRCPF FILE(ORDERCTL/ORDERS) MBR(*FILE) SIZE(100 50 5)
```

このコマンドは、ORDERCTLライブラリーにORDERSという名前のソース物理ファイルを作成します。ファイルに入れられるレコードの記憶スペースが連続している必要はありません。記憶域の初期割り振りでは最大100レコード分が提供され、50レコードごとに最大5つの追加増分スペースを自動的に追加することができます。これらの割り振り値は、後で追加されるこのソース・ファイルの各メンバーにも適用されます。

例3: DBCSデータが入っているファイルの追加

```
CRTSRCPF FILE(IGCLIB/IGCSRC) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、IGCSRCという名前のソース物理ファイルを作成します。これは、ライブラリーIGCLIBに保管され、DBCSデータを入れることができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

サービス構成の作成 (CRTSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の作成 (CRTSRVCFG)コマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)、およびエレクトロニック・サービス・エージェントのために必要なサービス構成を作成します。

接続性オプションは、ローカルまたはリモートのシステムあるいは論理区画から使用できます。このサービス構成には基本構成またはバックアップ構成を作成できます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROLE	役割	*PRIMARY, *BACKUP	必須, 定位置 1
CNNTYPE	接続タイプ	*DIRECT, *OTHERISP, *LCLDIAL, *MULTIHOP, *RMTDIAL	必須, 定位置 2
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, * <u>SELECT</u>	オプション
STATE	都道府県コード	文字値, * <u>SELECT</u>	オプション
TELNBR1	PRIMARY TELEPHONE NUMBER	文字値, * <u>SELECT</u>	オプション
TELNBR2	ALTERNATE TELEPHONE NUMBER	文字値, * <u>SELECT</u>	オプション
RSRCNAME	資源名	名前, * <u>CALC</u> , * <u>SELECT</u>	オプション
MODEM	モデム情報名	文字値, * <u>RSRCNAME</u> , * <u>SELECT</u>	オプション
DIALTONE	ダイヤル音待機中	* <u>WAIT</u> , * <u>NOWAIT</u>	オプション
RMTSYS	リモート・システム	文字値	オプション
PROXY	プロキシ・サーバー	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレスまたはホスト名	文字値, * <u>NONE</u>	
	要素 2: ポート番号	1-65535, * <u>IBMSVR</u>	
	要素 3: 相対優先順位	* <u>TRYAFTER</u> , * <u>TRYBEFORE</u>	
	要素 4: 認証ユーザーID	文字値, * <u>NONE</u>	
	要素 5: 認証パスワード	文字値, * <u>NONE</u>	
ISPPRF	ISPプロファイル名	文字値, * <u>SELECT</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CNNPNT	他への接続性	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 接続ポイント	<u>*YES</u>	
	要素 2: インターフェース	値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	
	要素 1: インターフェース	文字値, <u>*ALL</u> , <u>*SELECT</u>	
	要素 2: L2TPプロファイル名	文字値, <u>*GEN</u> , <u>*SELECT</u>	
CNNPNTPRX	接続ポイント・プロキシー	要素リスト	オプション
	要素 1: ポート番号	1-65535, <u>*IBMSVR</u>	
	要素 2: 認証ユーザーID	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 3: 認証パスワード	文字値, <u>*NONE</u>	

上

役割 (ROLE)

このサービス構成を基本サービス構成にするかバックアップ・サービス構成にするかを指定します。まず、システムまたは論理区画が、基本サービス構成を使用してIBMへの接続を試みます。基本サービス構成で失敗すると、システムまたは論理区画はバックアップ・サービス構成を使用して、この接続を試みます。

これは必須パラメーターです。

*PRIMARY

作成されたサービス構成はIBMへの基本接続になります。先に基本サービス構成を作成しなければ、バックアップ・サービス構成を作成できません。

*BACKUP

作成されたサービス構成はIBMへのバックアップ接続になります。この値は、基本サービス構成が作成されていない場合は指定できません。

上

接続タイプ (CNNTYPE)

システムまたは論理区画がIBMへの接続時に使用する接続タイプを指定します。現行のシステムまたは論理区画を使用するか、別のシステムまたは論理区画を通じて、IBMに接続できます。

これは必須パラメーターです。

*DIRECT

現行のシステムまたは論理区画を通じ、インターネットへの直接接続を接続タイプとして使用して、IBMに接続します。このオプションは、システムまたは論理区画が1つ以上のアクティブTCP/IPインターフェースを使用してインターネットにアクセスできる場合に、使用してください。

*OTHERISP

現行のシステムまたは論理区画を通じ、インターネット・サービス・プロバイダー(ISP)を接続タイプとして使用して、IBMに接続します。このオプションは、システムまたは論理区画がPOINT-TO-POINT (PPP)接続プロファイルを使用してISPに接続できる場合に、使用してください。

***LCLDIAL**

現行のシステムまたは論理区画を通じ、AT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)を使用して、ダイヤル接続によってIBMに接続します。

***MULTIHOP**

別のシステムまたは論理区画を通じ、インターネットへのマルチホップ接続を接続タイプとして使用して、IBMに接続します。このオプションは、接続を提供するシステムまたは論理区画が、CNNTYPE(*DIRECT)、CNNTY PE(*OTHERISP)、またはCNNTYPE(*MULTIHOP)を使用するように構成されている場合に、使用してください。

***RMTDIAL**

別のシステムまたは論理区画を通じ、AT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)を接続タイプとして使用して、IBMに接続します。このオプションは、接続を提供するシステムまたは論理区画が、AT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)を使用してIBMにダイヤルするように構成されている場合に、使用してください。

上

国別または地域ID (CNTRYID)

サービス構成に使用する国または地域のIDを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、役割 (ROLE)パラメーターに*PRIMARYが指定されたときのみです。

***SELECT**

国または地域のIDを選択できるパネルが表示されます。

注: この値が有効なのは、このコマンドが対話式ジョブで実行される場合だけです。

文字値 使用する国または地域の2文字のIDを指定してください。

上

都道府県コード (STATE)

サービス構成に使用する都道府県コードを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、役割 (ROLE)パラメーターに*PRIMARYが指定されたときのみです。

***SELECT**

都道府県コードを選択できるパネルが表示されます。指定された国または地域に都道府県がない場合には、選択パネルは表示されません。

注: この値が有効なのは、このコマンドが対話式ジョブで実行される場合だけです。

文字値 使用する2文字の都道府県コードを指定してください。

上

PRIMARY TELEPHONE NUMBER (TELNBR1)

AT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)に接続するためにダイヤルする代表電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*LCLDIALが指定されたときのみです。

*SELECT

代表電話番号を選択できるパネルが表示されます。該当する電話番号を選択すると、その電話番号を編集できる追加のパネルが表示され、外線発信やダイヤル中の一時停止その他に必要な数字や文字を追加することができます。

文字値 ダイヤルする代表電話番号を指定してください。 48文字まで指定できます。

上

ALTERNATE TELEPHONE NUMBER (TELNBR2)

代表電話番号を使用してAT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)に接続しようとしたとき、その接続に失敗した場合にダイヤルする代替電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*LCLDIALが指定されたときのみです。

*SELECT

代替電話番号を選択できるパネルが表示されます。該当する電話番号を選択すると、その電話番号を編集できる追加のパネルが表示され、外線発信やダイヤル中の一時停止その他に必要な数字や文字を追加することができます。

文字値 ダイヤルする代替電話番号を指定してください。 48文字まで指定できます。

上

資源名 (RSRCNAME)

このサービスが使用する通信資源を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*LCLDIALが指定されたときのみです。

*CALC

資源名は、次のようにして判別されます。

内蔵モデムを使用できる内部通信資源が決定されます。内蔵モデムが1つしか定義されていない場合は、その資源がこのサービス構成のために使用されます。複数の内蔵モデムが定義されている場合は、値*CALCは無効です。

内蔵モデムを使用できない場合は、資源は計算できないので、明示的に指定する必要があります。

*SELECT

使用する資源名を選択できるパネルが表示されます。

名前 使用する通信資源の名前を指定してください。

注: 資源名を容易に判別するには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

モデム情報名 (MODEM)

このPOINT-TO-POINTサービス構成のために使用するモデム記述の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*LCLDIALが指定されたときのみです。

*RSRCNAME

モデム名は、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに指定された値に基づいて判別されます。資源が内蔵モデムを使用するように定義されている場合には、適切な内部モデム記述が使用されます。資源に定義済みのモデム記述がない場合は、MODEM(*RSRCNAME)を使用できないので、モデム記述を明示的に指定する必要があります。

*SELECT

使用するモデム記述を選択できるパネルが表示されます。

文字値 使用するモデムの名前を指定してください。

注: このモデム名は、システムまたは論理区画に対して定義された、いずれかのモデムと一致するものでなければなりません。

上

ダイヤル音待機中 (DIALTONE)

モデムがダイヤルアウトの前にダイヤル音を待機するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*LCLDIALが指定されたときのみです。

*WAIT

モデムは、ダイヤルアウトの前にダイヤル音を待機します。

*NOWAIT

モデムは、ダイヤル音を待たずにダイヤルアウトします。

上

リモート・システム (RMTSYS)

IBMへのサービス構成接続性を提供するリモート・システムとして使用されるリモート・システムまたは論理区画のIPアドレスまたはホスト名(最大255文字)を指定します。有効なIPのアドレスが受け入れられません。

ローカル・システムまたは論理区画にCNNTYPE(*RMTDIAL)で作成されたサービス構成があり、リモート・システム(RMTSYS)パラメーターが定義されている場合は、リモート・システムまたは論理区画にCNNTYPE(*LCLDIAL)およびCNNPNT(*YES)で作成されたサービス構成がなければなりません。

ローカル・システムまたは論理区画にCNNTYPE(*MULTIHOP)で作成されたサービス構成があり、リモート・システム(RMTSYS)パラメーターが定義されている場合は、リモート・システムまたは論理区画に*DIRECT, *OTHERISP,または*MULTIHOPの接続タイプ(CNNTYPE)および*YESの接続ポイント(CNNPNT)値で作成されたサービス構成がなければなりません。

文字値 IBMへのサービス構成接続を提供するリモート・システムまたは論理区画のIPアドレスまたはホスト名を指定してください。

上

プロキシ・サーバー (PROXY)

HTTPまたは「サービスおよびサポート」プロキシ接続を構成するための情報を指定します。プロキシ接続の構成はオプションです。プロキシ接続は、前もって構成された基本接続またはバックアップ接続に対する代替接続です。プロキシ接続はどの接続タイプの場合にも使用できます。

この情報は、宛先プロキシ・サーバーに接続するために必要な情報をサーバーに提供します。

単一値

***NO** IPアドレスもホスト名も指定されていません。プロキシ接続構成は作成されません。

要素1: IPアドレスまたはホスト名

***NONE**

IPアドレスもホスト名も指定されていません。プロキシ接続構成は作成されません。

文字値 このサーバーが接続を試みるときに経由するプロキシ・サーバーのIPアドレスまたはホスト名を指定してください。

要素2: ポート番号

***IBMSVR**

「サービスおよびサポート」プロキシ・サーバーは、省力時のポートを使用して接続を受け入れます。

1から65535

「サービスおよびサポート」プロキシ・サーバーが接続を受け入れるポート番号を指定してください。

要素3: 相対優先順位

***TRYAFTER**

プロキシ接続構成は、すでに定義されている構成の後に試みられます。

***TRYBEFORE**

プロキシ接続構成は、すでに定義されている構成の前に試みられます。

要素4: 認証ユーザーID

***NONE**

ユーザーIDは不要です。

文字値 プロキシ・サーバーが認証を必要とする場合は、使用するユーザーIDを指定してください。

要素5: 認証パスワード

***NONE**

パスワードは不要です。

文字値 プロキシ・サーバーが認証を必要とする場合は、使用するパスワードを指定してください。

上

ISPプロファイル名 (ISPPRF)

使用するインターネット・サービス・プロバイダー(ISP)プロファイルを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*OTHERISPが指定されたときのみです。

***SELECT**

使用するISPプロファイルを選択できるパネルが表示されます。

文字値 使用するISPプロファイルの名前を指定してください。

上

他への接続性 (CNNPNT)

他のシステムまたは論理区画がこのシステムまたは論理区画を通じてIBMへのサービス構成接続を使用できるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**役割 (ROLE)**パラメーターに*PRIMARYが指定されたときのみです。

単一値

***NO** 他のシステムまたは論理区画は、このシステムまたは論理区画で構成されたIBMへのサービス構成接続を使用できません。

要素1: 接続ポイント

***YES** 他のシステムまたは論理区画は、このシステムまたは論理区画で構成されたIBMへのサービス構成接続を使用できます。

要素2: インターフェース

接続を聴取するインターフェースを指定します。 L2TP終端装置プロファイルと「サービスおよびサポート」プロキシの両方が（構成されていれば）同じインターフェースで聴取します。 最大12個の値を指定できます。

要素1: インターフェース

***ALL** 使用可能なすべてのインターフェースが接続を聴取します。

***SELECT**

選択されたインターフェースのみが接続を聴取します。

文字値 接続を聴取するインターフェースを指定してください。

要素2: L2TPプロファイル名

***GEN** 終端装置プロファイルとして使用するL2TPプロファイルを自動的に生成して名前を付けます。

***SELECT**

終端装置プロファイルとして使用する既存のL2TPプロファイルを選択します。

文字値 他のシステムまたは論理区画に接続性を提供するために使用するL2TP終端装置プロファイルの名前を指定してください。

上

接続ポイント・プロキシー (CNNPNTPRX)

他のシステムまたは論理区画のための接続性を提供する「サービスおよびサポート」プロキシー・サーバーを指定します。

要素1: ポート番号

***IBMSVR**

「サービスおよびサポート」プロキシー・サーバーは、省力時のポートを使用して接続を受け入れます。

1から65535

「サービスおよびサポート」プロキシー・サーバーが接続を受け入れるポート番号を指定してください。

要素2: 認証ユーザーID

***NONE**

ユーザーIDは不要です。

文字値 プロキシー・サーバーが認証を必要とする場合は、使用するユーザーIDを指定してください。

要素3: 認証パスワード

***NONE**

パスワードは不要です。

文字値 プロキシー・サーバーが認証を必要とする場合は、使用するパスワードを指定してください。

上

例

例1:基本直接サービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*PRIMARY)  CNNTYPE(*DIRECT)  CNTRYID(US)
            STATE(MN)  CNNPNT(*YES ((*ALL)))
```

このコマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)およびエレクトロニック・サービス・エージェント）のために使用される基本直接インターネット・サービス構成を作成します。ローカル・システムまたは論理区画は、すべてのインターフェースで接続要求を聴取する接続ポイントです。

例2:既存のISPを使用したバックアップ・サービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*BACKUP)  CNNTYPE(*OTHERISP)  CNTRYID(US)
           STATE(MN)  ISPPRF(MYISP)
```

このコマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)およびエレクトロニック・サービス・エージェント）のために使用されるインターネット・サービス・プロバイダを使用して、バックアップ・インターネット・サービス構成を作成します。ローカル・システムまたは論理区画は、すべてのインターフェースで接続要求を聴取する接続ポイントです。

例3:基本ローカル・ダイヤル・サービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*PRIMARY)  CNNTYPE(*LCLDIAL)  CNTRYID(US)
           STATE(MN)  TELNBR1(1111111)  TELNBR2(2222222)
```

このコマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)およびエレクトロニック・サービス・エージェント）のために使用されるAT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)への基本ローカル・ダイヤル接続を作成します。

例4:バックアップ・マルチホップ・サービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*BACKUP)  CNNTYPE(*MULTIHOP)
           CNTRYID(US)  RMTSYS(ABCDEFGF)
```

このコマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)）およびエレクトロニック・サービス・エージェントのために使用される別のリモート・システムまたは論理区画を使用して、バックアップ・インターネット・サービス構成を作成します。この構成には、ABCDEFGFという名前のリモート・システムを通じ、マルチホップ接続構成を使用して接続されます。

例5:リモートPOINT-TO-POINTサービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*PRIMARY)  CNNTYPE(*RMTDIAL)  CNTRYID(US)
           STATE(MN)  RMTSYS(ABCDEFGF)
```

このコマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション（エレクトロニック支援(ECS)）およびエレクトロニック・サービス・エージェントのために使用されるAT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)への基本リモート・ダイヤル接続を作成します。この構成には、ABCDEFGFという名前のリモート・システムでダイヤル接続構成を使用して接続されます。

例6:ダイヤリング前にダイヤル音を待機するモデムをもつ基本ローカル・ダイヤル・サービス構成の作成

```
CRTSRVCFG  ROLE(*PRIMARY)  CNNTYPE(*LCLDIAL)  CNTRYID(US)
           STATE(MN)  DIALTONE(*WAIT)
           TELNBR1(1111111)  TELNBR2(2222222)
```

このコマンドは、ダイヤルアウトの前にダイヤル音をモデムが待機するように構成されたローカル・ダイヤル接続を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFB040

RSRCNAME(*SELECT)を指定したら、MODEM(*RSRCNAME)を指定することはできません。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP8290

TCP/IP POINT-TO-POINTモデム情報がない

CPF8813

項目が存在していない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

上

サービス・プログラムの作成 (CRTSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドは、1つのセットのモジュールとバインド・ディレクトリーからバインドされたサービス・プログラムを作成します。

制約事項:

- サービス・プログラムを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- 指定されたモジュール、サービス・プログラム、およびバインド・ディレクトリーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されたファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および*READ権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MODULE	モジュール	単一値: *SRVPGM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
EXPORT	エクスポート	*SRCFILE, *ALL	オプション
SRCFILE	ソース・ファイルのエクスポート	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイルのエクスポート	名前, QSRVSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバーのエクスポート	名前, *SRVPGM	オプション
TEXT	テキスト・記述	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BNDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	
	要素 2: 活動化	<u>*IMMED</u> , *DEFER	
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, <u>*CALLER</u>	オプション
OPTION	作成オプション	値 (最大 5 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *NODUPPROC, *DUPPROC, *NODUPVAR, *DUPVAR, *WARN, *NOWARN, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	<u>*NONE</u> , *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション
ALWUPD	更新可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWLIBUPD	*SRVPGMライブラリー更新可能	*YES, <u>*NO</u>	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*USER</u> , *OWNER	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
ALWRINZ	再初期設定可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	<u>*SINGLVL</u> , *TERASPACE, *INHERIT	オプション
ARGOPT	引き数最適化	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IPA	プロシージャー間分析	*YES, <u>*NO</u>	オプション
IPACTLFILE	IPA制御ファイル	パス名, <u>*NONE</u>	オプション

上

サービス・プログラム (SRVPGM)

作成するサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 作成するサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

サービス・プログラムはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サービス・プログラムが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

モジュール (MODULE)

サービス・プログラム・オブジェクトを作成するために複写されてバインドされるモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。このリストのモジュールは、最終サービス・プログラム・オブジェクトに複写されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***SRVPGM**

サービス・プログラム (SRVPGM)パラメーターに指定されたモジュールおよびライブラリー名が使用されます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーで、すべてのモジュール・オブジェクトを検索します。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのモジュール・オブジェクトを指定します。

名前 サービス・プログラム・オブジェクトの作成のために複写されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

エクスポート (EXPORT)

このサービス・プログラムがエクスポートするデータおよびプロシージャの名前を指定します。

***SRCFILE**

ソース・ファイル (SRCFILE)およびソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターで識別されたソース・ファイル・メンバーには、サービス・プログラムからエクスポートするデータおよびプロシージャを識別するEXPORTステートメントが入っています。

***ALL** また、指定されたモジュールからエクスポートされるすべてのデータおよびプロシージャも、このサービス・プログラムからエクスポートされます。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

このサービス・プログラムからデータおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイルのエクスポート

QSRVSRC

データおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルはQSRVSRCという名前です。

名前 データおよびプロシージャのエクスポートのための仕様が入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

このサービス・プログラムからデータおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***SRVPGM**

ソース・ファイル・メンバーの名前は、サービス・プログラム (SRVPGM)パラメーターに指定されたサービス・プログラム名と同じです。

名前 データおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

サービス・プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

モジュールのインポート要求が満たされているかどうかを確認するために、バインド時に調べるサービス・プログラムのエクスポートのリストを指定します。サービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、一連のモジュールのエクスポートによって満たされない未解析のモジュールのインポート要求がある場合だけです。BNDSRVPGM パラメーターに指定したモジュールのインポート要求を満たしているサービス・プログラムは、作成されるサービス・プログラムにバインドされます。BNDSRVPGMパラメーターに指定したサービス・プログラム名およびライブラリーは、実行時に使用するために保管されます。最大300の名前を指定することができます。

各サービス・プログラムの活動化を制御できます。参照サービス・プログラムを、サービス・プログラムの作成と同時に活動化するかどうか、または参照サービス・プログラムからエクスポートされたプロシージャが呼び出されるまで据え置くかどうかを指定できます。活動化の遅延によってアプリケーションのパフォーマンスが向上することがあります。

単一値

*NONE

記号の分析解決のためにサービス・プログラムは提供されません。

要素1: サービス・プログラム

修飾子1: サービス・プログラム

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのサービス・プログラム・オブジェクトを検索します。

注: この値をユーザー制御環境で指定する必要があるのは、何がサービス・プログラムにバインドされるのか正確に分かっている場合だけです。*ALLと一緒に*LIBLを指定すると、サービス・プログラムの実行時に予測できない結果が起こる場合があります。何がサービス・プログラムにバインドされるのかをより正確に制御するには、総称サービス・プログラム名または特定のライブラリーを指定してください。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリー内で、後ろに*がある文字で始まるすべてのサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

名前 記号の分析解決時に検査されるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 指定されたサービス・プログラムのジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。サービス・プログラムの1つに、モジュール・インポートを満たすエクスポートがある場合には、このサービス・プログラムを見つけるために、実行時にライブラリー・リストが検索されます。

名前 サービス・プログラムを見つけるライブラリーの名前を指定してください。サービス・プログラムの1つに、モジュール・インポートを満たすエクスポートがあり、特定のライブラリーが指定された場合には、実行時に指定されたライブラリーを検索して、このサービス・プログラムを見つけます。

注: QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

要素2: 活動化

***IMMED**

バインド・サービス・プログラムは、作成中のサービス・プログラムが活動化されるとすぐに活動化されます。

***DEFER**

バインド・サービス・プログラムの活動化は、そのプログラムがエクスポートした関数が呼び出されるまで据え置かれることがあります。

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーのリストを指定します。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

バインド・ディレクトリーは指定されません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループを呼び出す時に、このサービス・プログラムと関連している活動化グループを指定します。活動化グループは次を提供します。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- アプリケーションのクリーンアップを処理するための論理境界

***CALLER**

このサービス・プログラムが呼び出される時に、サービス・プログラムは呼び出し元の活動化グループで活動化されます。

名前 呼び出されるこのサービス・プログラムと関連したグループの名前を指定してください。サービス・プログラムが呼び出される時に、活動化グループが指定された名前で現在存在している場合には、サービス・プログラムはすでに存在している既存の活動化グループと関連付けられます。サービス・プログラムが呼び出される時に、活動化グループが指定された名前で現在存在しない場合には、新しい活動化グループが作成されて、サービス・プログラムは新しく作成された活動化グループと関連付けられます。

上

作成オプション (OPTION)

サービス・プログラム・オブジェクトを作成する時に使用されるオプションを指定します。

このパラメーターには最大5個までの値を指定することができます。

サービス・プログラム・オブジェクト

***GEN** サービス・プログラム・オブジェクトが生成されます。

***NOGEN**

サービス・プログラム・オブジェクトは生成されません。

重複プロシージャ名

***NODUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各プロシージャ名は固有でなければなりません。

***DUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされるプロシージャ名が固有である必要はありません。複数の重複プロシージャが許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムのリストで最初のエクスポート・プロシージャが、選択されるプロシージャとなります。

重複変数名

***NODUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各変数名は固有でなければなりません。

***DUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる変数名が固有である必要はありません。複数の重複変数が許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよび要求サービス・プログラムのリスト中の最初のエクスポート変数が選択される変数となります。

診断メッセージの発行

***WARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断メッセージが出されます。

***NOWARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、診断メッセージが出されません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

サービス・プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されていなければなりません。

***UNRSLVREF**

サービス・プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されている必要はありません。実行時にサービス・プログラムがこれら未解決の1つのインポートを使用しようとした場合には、MCH4439実行時例外が出されます。

上

明細のリスト (DETAIL)

印刷する詳細のレベルを指定します。

***NONE**

リストは生成されません。

***BASIC**

CRTPGMに渡すオプションのリスト、および処理統計が入っています。また、このリストには、簡単な要約表も入っています。

***EXTENDED**

*BASICリストで提供される情報の他に、このリストには、拡張要約表およびバインド情報リストも入っています。

***FULL**

このリストには、*EXTENDEDリストおよび相互参照表が入っています。

注: 印刷リストが要求された場合には、印刷装置ファイル*LIBL/QSYSPRTを使用してリストが生成されます。

上

更新可能 (ALWUPD)

サービス・プログラム更新(UPDSRVPGM)コマンドを使用した作成中のサービス・プログラムの更新が可能かどうかを指定します。

***YES** サービス・プログラムはUPDSRVPGMコマンドを使用して更新することができます。

***NO** 作成中のサービス・プログラムを更新するために、UPDSRVPGMコマンドは使用することができません。

上

*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)

UPDSRVPGMコマンドを使用して更新する時に、作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を変更できるかどうかを指定します。

***NO** 更新可能 (ALWUPD)パラメーターに*YESが指定されている場合であっても、UPDSRVPGMコマンドで作成中サービス・プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することはできません。

***YES** ALWUPD(*YES)が指定されている時に、UPDSRVPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することができます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

権限の検査はこのサービス・プログラムを実行しているユーザーについてだけ行うか、あるいはサービス・プログラムを実行しているユーザーとサービス・プログラムの所有者の両方について行うかを指定します。

***USER**

サービス・プログラムの実行時に、サービス・プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。

***OWNER**

サービス・プログラムの実行時に、サービス・プログラム所有者とサービス・プログラム・ユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

上

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーに同じ名前のサービス・プログラムがすでに存在している場合に、既存のサービス・プログラムを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のサービス・プログラムをQRPLOBJライブラリーに移動して、これを置き換えます。サービス・プログラムの現在の活動化は、QRPLOBJライブラリー内のサービス・プログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

注: 処理のために置き換えられる両方のサービス・プログラムは、同じユーザーが所有していなければなりません。

- *NO 置き換えは行われません。 サービス・プログラム (SRVPGM)パラメーターに指定された名前とライブラリーをもつサービス・プログラムがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- *ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- *USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

- 名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

再初期設定可能 (ALWRINZ)

サービス・プログラムがまだ活動状態である間に、そのサービス・プログラムの静的記憶域を再初期設定できるかどうかを指定します。

***NO** サービス・プログラムがまだ活動状態である間は、そのサービス・プログラムの静的記憶域を再初期設定することはできません。

***YES** サービス・プログラムがまだ活動状態である間に、そのサービス・プログラムの静的記憶域の再初期設定が可能です。

上

ストレージ・モデル (STGMDL)

サービス・プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

***SNGLVL**

サービス・プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・サービス・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域サービス・プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***TERASPACE**

サービス・プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・サービス・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域サービス・プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***INHERIT**

サービス・プログラムは継承記憶域モデルで作成されます。サービス・プログラムは、活動化されると、それが活動化されて入れられる活動化グループの記憶域モデルを採用します。言い換えれば、呼び出し元の記憶域モデルを継承します。*INHERIT記憶域モデルを選択する場合は、*CALLERを活動化グループ (ACTGRP)パラメーターに指定する必要があります。

引き数最適化 (ARGOPT)

引数の最適化(ARGOPT)がサービス・プログラムの作成中に実行されるかどうかを指定します。引数の最適化は、呼び出し集中型アプリケーションのパフォーマンスを向上するために、ILEプロシージャーに引数(パラメーター)を渡す手法です。このオプションによって、サービス・プログラムの作成に必要な時間が増えることがあります。

***NO** 引数の最適化はサービス・プログラムの作成中には実行されません。

***YES** 引数の最適化はサービス・プログラムの作成中に実行されます。

上

プロシージャー間分析 (IPA)

サービス・プログラムの作成時にプロシージャー間分析(IPA)を使用するかどうかを指定します。IPAの詳細については、ILE概念 (SD88-5033)を参照してください。

***NO** プロシージャー間分析は実行されません。

***YES** プロシージャー間分析が実行されます。

上

IPA制御ファイル (IPACTLFILE)

プロシージャー間分析(IPA)サブオプション情報が入っているファイルのパス名を提供します。このパラメーターは、IPA(*YES)が指定された時にだけ有効です。

***NONE**

IPA(*YES)が指定されている時には、IPA制御ファイル情報は使用されません。

パス名 IPA(*YES)が指定された時に使用するIPA制御ファイルのパス名を指定してください。名前が修飾名の場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾IPA制御ファイル名の例は '/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYIPA CTLFNAME'などです。

上

例

```
CRTSRVPGM SRVPGM(WORKDOC)
```

このコマンドは、WORKDOCという名前のサービス・プログラム・オブジェクトを現行ライブラリーに作成します。このサービス・プログラムは、これもWORKDOCという名前で、ジョブの現行ライブラリーを使用して見つけられる1つのモジュール・オブジェクトから作成されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF5D05

サービス・プログラム&1は作成されなかった。

CPF5D07

搬出ソース・ファイル・レコード長が240より大きい。

CPF5D12

プログラムまたはサービス・プログラムの準備中にエラーが起こった。

上

テープ・カテゴリの作成 (CRTTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリ作成(CRTTAPCGY)コマンドは、ユーザー定義カテゴリ名を作成し、それをシステム名に割り当てます。カテゴリは、ボリュームIDをまとめて「グループ化」するために使用することができます。次の特殊値のカテゴリはオペレーティング・システムによって提供されていて、すべてのライブラリ装置のために定義されています。

- *NOSHARE

D/T3494テープ媒体ライブラリーの場合、ボリュームIDは、*NOSHAREの権限を所有するシステムのみが使用することができます。他のテープ媒体ライブラリーは、*NOSHAREカテゴリにカートリッジIDを持つことができますが、*NOSHAREの機密保護はオペレーティング・システムでは扱われません。

- *SHARE400

カートリッジIDは、ライブラリー装置に接続されたすべてのシステムで共用することができます。

- *IPL

このカテゴリは、代替IPLで使用されるカートリッジIDに使用しなければなりません。このカテゴリのカートリッジの管理は、ユーザーが行わなければなりません。

- *NL

このカテゴリのカートリッジIDは、それを使用するための論理ボリュームIDを持ってはなりません。論理ボリュームIDを持っていた場合には、それを使用できるようにするには、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを実行して、テープ・ボリュームをラベルなしテープに初期設定しなければなりません。

- *INSERT

カートリッジIDはライブラリー装置に入っていますが、まだシステムに追加されていません。テープ・ボリュームに入出力を行うには、その前にテープ・カートリッジ追加(ADDTAPCTG)コマンドを実行しなければなりません。

- *EJECT

ボリュームIDはテープ・カートリッジ除去(RMVTAPCTG)コマンドによってシステムから除去されていて、ライブラリー装置で使用できなくなっています。

- *CNV

このカテゴリのテープがENDOPT(*UNLOAD)を指定してアンロードされると、システムは自動的にテープを通常端末にエクスポートします。

- *SYSGEN

カートリッジIDは*SYSGENカテゴリに存在しています。ライブラリー装置記述が*SYSGENモードになっていると、*SYSGENカテゴリはすべてのカートリッジに使用されます。装置記述のGENCTGIDパラメーターが*SYSGENである場合には、ライブラリー装置記述は*SYSGENモードになっています。

*SYSGENモードは、すべての論理ボリュームIDのテープからの直接のロードおよび読み取りの代わりに、非バーコード・ライブラリーのIDを生成するために使用されます。ライブラリー装置が*SYSGENモードになっている場合には、カートリッジは*SYSGEN カテゴリーから移動できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CGY	カテゴリー	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: カテゴリー名	文字値	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, <u>*CURRENT</u>	

上

カテゴリー (CGY)

作成するカテゴリーを指定します。

要素1: カテゴリー名

文字値 作成するカテゴリーの名前を指定してください。

要素2: カテゴリー・システム

カテゴリーが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの現行システム名フィールドから取られます。

*CURRENT

現在コマンドを実行中のシステム。

文字値 カテゴリーが所属するシステムの名前を指定してください。カテゴリーが指定のシステムですでに定義されていない限り、カテゴリーを作成する時に、*CURRENT以外の所有システムを指定しないでください。例えば、システムAとシステムBがライブラリー装置LIB01に接続されている場合には、カテゴリーCAT1を作成し、その所有者としてシステムAを割り当てるCRTTAPCGY CGY(CAT1 A)をシステムBで実行する前に、カテゴリーCAT1を作成し、その所有者としてシステムAを割り当てるCRTTAPCGY CGY(CAT1 A)をシステムAで実行しなければなりません。これらの作成コマンドの両方が正常に実行された場合には、システムAによって所有されるCAT1は、論理的に同じカテゴリーと見なされ、ライブラリーLIB01のカートリッジに使用することができます。

上

例

CRTTAPCGY CGY(CAT1 RCHAS215)

このコマンドは、ユーザー定義のCAT1という名前のカテゴリーを作成し、その基本所有者システムとしてRCHAS215を割り当てます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67DD

カテゴリーが作成されなかった。

CPF67E2

カテゴリーがすでに存在している。

上

テープ・ファイル作成 (CRTTAPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置ファイル作成(CRTTAPF)コマンドはテープ装置ファイルを作成します。この装置ファイルには、使用される装置を識別するファイル記述が入っており、データは入っていません。テープ装置ファイルはテープ上のレコードを読み書きするために使用されます。入力および出力操作の両方に同じ装置ファイルを使用することができます。

注: このコマンドは、保管または復元操作に使用する装置ファイルの作成には使用されません。保管または復元操作には、ユーザー作成の装置ファイルは必要ありません。

テープ・ファイルにはデータ記述仕様(DDS)は入っていません。テープ・ファイル記述の中の情報は、それを作成したコマンドから得られます。テープ・ファイルは入出力操作に対する1つのレコード様式をもっています。レコード様式は、装置から検索された入力データまたは装置に書き出される出力データが入っている1桁のフィールドから成っています。装置ファイルを使用するプログラムは、テープ・ファイル記述によって指定された方法で装置との間で送受信されたデータを調整できるように、レコード様式にフィールドを記述しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
DEV	テープ装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
REELS	テープ・リール仕様	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*SL, *NL, *NS, *BLP, *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255, 1	
SEQNBR	順序番号	1-16777215, 1, *END, *NEXT	オプション
LABEL	テープ・ラベル	文字値, *NONE	オプション
FILETYPE	ファイル・タイプ	*DATA, *SRC	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
RCDLEN	レコード長	整数, *CALC	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *CALC	オプション
BUFOFSET	バッファー・オフセット	整数, 0, *BLKDSC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RCDBLKFM	レコードのブロック形式	<u>*FB</u> , *F, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
EXTEND	拡張	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル拡張	*YES	
	要素 2: ファイル検査	<u>*NOCHECK</u> , *CHECK	
DENSITY	テープ密度	文字値, <u>*DEVTYPE</u> , *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, 1600, 3200, 6250	オプション
COMPACT	データ短縮	<u>*DEV</u> , *NO	オプション
CODE	コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
CRTDATE	作成日	日付, <u>*NONE</u>	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*NONE</u> , *PERM	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USRLBLPGM	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>*IMMED</u> , *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCR</u> <u>AUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

上

ファイル (FILE)

作成するテープ装置ファイルを指定します。

ファイルを高水準言語プログラムで使用する場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラム自体の中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成するテープ装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

テープ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 テープ・ファイルを入れるライブラリーを指定してください。

上

装置 (DEV)

データの読み取りおよび書き込み操作を実行するためにこのテープ装置ファイルで使用される1つ以上のテープ装置、1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定します。媒体ライブラリー装置は、1つ以上のテープ駆動機構、テープ・カートリッジ、およびカートリッジ保管スロットとテープ駆動機構間でテープ媒体を移動するためのパーツ（キャリッジとピッカーのアセンブリー）から成るテープ記憶装置です。

単一値

*NONE

装置名は指定されません。装置名は後からテープ・ファイル変更(CHGTAPF)またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドで指定するか、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムで指定しなければなりません。

その他の値

名前 このテープ装置ファイルで使用される最大4つのテープ装置、1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。ここで指定される装置名の順序は、装置上のテープが処理される順序です。処理されるボリュームの数がこのパラメーターにリストされた装置の数を超えている時には、指定された順に装置が使用され、必要に応じて最初の装置に循環します。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定します。ボリュームは、ここで指定される（またDEVパラメーターに指定される）IDと同じ順序で導入されなければなりません。ファイルが逆方向読み取りのためにオープンされている場合には、リスト中のボリュームIDは最後から最初に処理されます（しかし、装置リストの装置は最初から最後の順に使用されます）。ファイルにボリュームIDのリストが提供されている場合には、操作員メッセージで必要なボリュームの名前が示されます。

単一値

*NONE

このファイルにはテープ・ボリュームIDは指定されません。これらは、装置ファイルをオープンする前に、CHGTAPFまたはOVRTAPFコマンド、あるいは高水準言語プログラムのいずれかで提供されます。装置ファイルをオープンする前にボリュームIDが指定されない場合には、正しいラベル・タイプ・ボリュームが装置上にあること、およびボリューム名が操作員メッセージの中に入っていないことを確認した後のボリューム検査が実行されません。VOL(*NONE)が指定されている時に、*NL, *NS, *BLP,または*LTM入力ファイルについて処理される最大リール数は、REELS(リールの数)パラメーター値によって決まります。

その他の値 (最大50個指定可能)

文字値 1つまたは複数のボリュームのIDを、それらが装置に入られている順序で指定してください。各ボリュームIDには、最大6個の英数字が入っています。複数のIDをリストする時には、区切り文字としてブランクを使用してください。最大50個までのボリュームIDを指定することができます。これらのIDは、処理中に操作員に送られるメッセージで使用されます。*NL, *NS, *BLP,または*LTMの入力ファイルで処理されるリールの最大数は、リスト中のボリュームIDの数によって決定されます。

注: ファイルに使用されるVOLパラメーターの値がVOL(*NONE)ではなく、IDのリストを指定している場合には、REELSパラメーターの「リールの数」の部分は、指定される位置に関係なく無視されます。一時変更が使用された時にファイルのパラメーター値がどのように決定されるかについての説明、高水準言語インターフェースの説明、およびファイルをオープンした時の装置ファイルについての説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリを参照してください。テープ装置ファイルによって処理されるボリュームを制御するために(VOL IDのリストではなく) REELSパラメーターのリール数部分を使用されるようにするためには、REELSパラメーターを指定したのと同じコマンドにVOL(*NONE)を指定してください。

上

テープ・リール仕様 (REELS)

ボリュームIDのリストが指定されていないで (VOLパラメーター) , この装置ファイルが*NL, *NS, *LTM,または*BLP入力ファイルのいずれかで使用されている場合に、テープ・リールで使用されるラベル付けのタイプ、および処理される最大リール数を指定します。リール数がこのパラメーターの2番目の要素として指定されている時に、ラベル付きテープを処理する場合には、ボリューム上のボリュームIDは無視されます。その代わりに、装置にリールを入れる順序を操作員がチェックしなければなりません。

「リールの数」の値は標準ラベルまたは出力ファイルに対する限定値ではありません。標準ラベルの入力ファイルの場合には、データ・ファイルのラベルは、ファイルの終わりを示すことによって処理されるボリュームの数を制限します。出力ファイルの場合には、リールの数の値は無視されます。システムは、ファイルがクローズされるまで追加のボリュームを装置上に保持するように要求します。

システムは、テープ上のロード・ポイントの後の最初のレコードを検査して、(1) EBCDICの場合に80バイトちょうど、ASCIIの場合に少なくとも80バイト入っているかどうか、(2)最初の4バイトに値のVOLと1が入っているか確認します。その場合には、リールに標準ラベルが入っています。*SLおよび*BLPファイルには標準ラベルのテープ・ボリュームが必要です。*NL, *NS,および*LTMのテープ・ファイルは、標準ラベル・ボリュームを処理することはできません。

注: 値*SL, *NL,および*LTMは、装置ファイルがテープ上での読み取りまたは書き出しに使用される場合に指定することができます。値*NSおよび*BLPは、装置ファイルがテープの読み取りに使用される場合にだけ有効です。

要素1: ラベル処理タイプ

***SL** ボリュームは標準のラベルをもっています。ボリュームIDのリストが (VOLパラメーターで) 指定されている場合には、システムは、正しいテープ・ボリュームが指定された順序で装置上にあるかどうかを検査します。

- ボリュームIDのリストが指定されていないで、ファイルが出力用にオープンされている場合には、任意の標準ラベル・ボリュームを装置上に入れることができます。

- ボリュームIDリストが指定されていないで、ファイルが入力用にオープンされている場合には、最初のボリュームにどのようなボリュームIDがあってもかまいませんが、ファイルが続く場合には、システムは（データ・ファイルのラベルをチェックして確認し）正しい継続ボリュームが処理されるように要求します。入力ファイルの場合には、処理される最後のボリューム上のラベルがデータ・ファイルの最後のボリュームであることを示している時に、使用中のプログラムにファイルの終わりメッセージが送られます。

***NL** ボリュームにはラベルがありません。ラベルのないボリュームでは、各データ・ファイルの終わりおよびボリュームの終わりを示すために、テープ・マークが使用されます。入力ファイルの場合には、ボリューム・リストで指定されたボリューム数が処理されるか、あるいはボリュームIDのリストがない場合にはREELSパラメーターで指定されたリール数が処理されたときに、ファイルの終わりメッセージがプログラムに送られます。

***NS** ボリュームには非標準ラベルがあります。各ボリュームはある種のラベル情報で始まらなければなりません、この前には任意にテープ・マーカがつき、また常にその後テープ・マーカが続きます。この標準外ラベル情報は無視されます。システムは標準外ラベルの後のテープ・マーカを超えた地点まで正方向に進み、テープをファイルのデータに位置付けます。各リールは、ファイルのデータの終わりにテープ・マーカが必要です。この終わりのテープ・マーカより後の情報は無視されます。非標準ラベルのテープに存在できるデータ・ファイルは1つだけです。標準ラベルのボリュームは、*NSラベル処理を使用して処理することはできません。

入力ファイルの場合には、ボリューム・リストで指定されたボリューム数が処理されるか、あるいはボリュームIDのリストがない場合にはREELSパラメーターで指定されたリール数が処理されたときに、ファイルの終わりメッセージがプログラムに送られます。

***BLP.** 標準ラベル処理は迂回されます。各リールには標準ラベルがなければなりません。各リールは標準ボリューム・ラベルの有無を検査され、各ファイルには少なくとも1つの標準見出しラベル(HDR1)と1つの標準後書きラベル(EOV1またはEOF1)がなければなりません、他の大部分のラベル情報（データ・ファイルのレコード長やブロック長など）は無視されます。ボリューム上の各ファイルの順序番号は、ボリュームとテープの始まりの間のテープ・マーカの数によってのみ決定されます（データ・ファイルを見つけるために、各ファイルの見出しラベルと後書きラベルに記憶されているファイル順序番号が使用される*SL処理と対比）。

データ・ファイルの後書きラベルのほとんどの情報は無視されますが、ファイルの終わり(EOF)後書きラベルが見つかり、ファイルの終わりメッセージがテープ・ファイルを使用するプログラムに送られます。指定された数のボリュームまたはリールが処理された時点で（ボリュームIDリストおよびREELSパラメーター）、ファイルの終わり後書きラベルが見つからなかった場合には、テープ・ファイルを使用するプログラムにただちにファイルの終わりメッセージが送られます。ユーザーが使用するファイルの名前を知らない場合、あるいは一部のファイル・ラベル情報が間違っている場合には、ラベル迂回処理を使用することができます。

***LTM** ボリュームにはラベルがありませんが、最初のデータ・ファイルの前に1つの先行テープ・マーカがあります。テープに最初のデータ・ファイルを作成するために出力ファイルに対してSEQNBR(1)が指定されている時は、最初のデータ・ブロックの前のテープの開始位置に先行テープ・マーカが書き込まれることを除いて、REELS(*LTM)はREELS(*NL)と同様に処理されます。

要素2: リールの数

1 ボリュームIDのリストが指定されていない（VOLパラメーター）場合には、*NL、*LTM、*NS、または*BLPテープ・ファイル入力操作では、1つのテープ・リールしか処理されません。

1から255

ボリュームIDのリストが指定されていない（VOLパラメーター）時に、*NL、*LTM、*NS、または

*BLP入力テープ操作で処理されるリールの最大数を指定してください。現在処理中のテープの終わりに達した時に、次のリールが装置上にない場合には、次のテープ装置に次のテープを入れるように要求するメッセージが操作員に対して出されます。標準ラベル(*SL)ファイルまたはすべての出力ファイルの場合には、「リールの数」の値は無視されます。

上

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。

- 標準ラベル・テープが使用される時には、データ・ファイルの最初の見出しラベルから4桁のファイル順序番号が読み取られます。
- ラベル迂回処理が使用される時、あるいは標準ラベル・テープを使用しない時には、処理する正しい順序番号のデータ・ファイルを見つけるために、システムはテープの始めからテープ・マーカをカウントします。
- 複数ファイル、マルチボリュームのテープをREELS(*SL)を使用して処理する時には、ファイル順序番号は複数のボリュームにわたって連続して続きます。したがって、新しい各データ・ファイルは、そのボリュームの位置に関係なく、前のファイルより1つ大きい順序番号をもつことになります。

1 標準ラベル・テープ（ラベル迂回処理を使用しない）の場合には、順序番号1のデータ・ファイルが処理されます。ラベルなしテープの場合および標準ラベル・テープのラベル迂回処理の場合には、テープ上の最初のデータ・ファイルが処理されます。

***END** ファイルはテープの終わりに書き出されます。この値はテープに書き出されるファイルの場合にだけ使用されます。

テープから読み取るためにテープ装置ファイルが使用された時、およびテープ装置ファイルに***END**特殊値が指定された時には、画面上にエラー・メッセージが表示されます。

***NEXT**

次の順序のファイルが処理されます。この値はテープから読み取られたファイルに対してのみ使用されます。テープが現在、最初のファイルより前の位置にある場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。

テープに書き出すためにテープ・ファイルを使用した時、およびテープ・ファイルに***NEXT**特殊値が指定された時には、画面上にエラー・メッセージが表示されます。

1から16777215

ファイルの順序番号を指定してください。

上

テープ・ラベル (LABEL)

このテープ装置ファイルによって処理されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定します。IDは標準ラベルのテープに対してのみ定義され、データ・ファイルのすぐ前のヘッダー・ラベルに記憶されます。

*SL以外のラベル処理タイプにデータ・ファイルIDが指定されている場合には、無視されます。

標準ラベルの出力ファイルにはIDが必要ですが、処理するデータ・ファイルは順序番号が固有に識別するので、入力ファイルの場合は任意指定です。

642 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

EXTEND(*YES)が指定された入力ファイルまたは出力ファイルの場合には、このパラメーターは、テープ上のデータ・ファイルのIDを指定します。指定するIDは、SEQNBRパラメーターが指定するデータ・ファイルのラベルの中にあるものと一致しなければなりません。そうでない場合には、この装置ファイルを使用するプログラムに対してエラー・メッセージが出されます。EXTEND(*NO)が指定された出力ファイルの場合には、このパラメーターはテープ上に作成されるデータ・ファイルのIDを指定します。

***NONE**

データ・ファイルIDを指定しません。

文字値 このテープ装置ファイルで使用するデータ・ファイルのID（最大17桁の英数字）を指定してください。このIDが基本交換形式で書き出されるテープ用のもので、System i5以外のシステムで使用される場合には、最大8文字または修飾子当たりで8文字を超えない修飾IDを使用しなければなりません。

上

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成するテープ・ファイルがプログラムまたは別のファイルのデータ・レコードを記述するかあるいはソース・レコード（ステートメント）を記述するかを指定します。

***DATA**

テープ・ファイルはデータ・レコードを記述します。

***SRC** テープ・ファイルはソース・レコードを記述します。

注: *SRCが指定された場合には、システムはすべてのレコードの始めに12バイトを追加して、ソース順序番号および日付フィールドを置き換えます。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS属性を指定します。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

レコード長 (RCDLEN)

この装置ファイルで処理されるデータ・ファイルの中に入っているレコードの長さをバイト数で指定します。システムは常に、EXTEND(*YES)が指定されている任意の標準ラベルの入力ファイルまたは出力ファイルのデータ・ファイル・ラベルに指定されているレコード長およびブロック長を使用します(2番目のヘッダー・ラベル(HDR2)がテープ上にあり、*BLPラベル処理が指定されていない場合)。

*CALC

処理されるデータ・ファイルにレコード長は指定されません。*CALCを指定した場合には、システムはファイルのオープン時に適切なレコード長の計算を試みます。ファイルに対して*CALC以外のBLKLEN値が指定されていて、RCDBLKFMNTが測定またはブロックされたレコードを指定していない場合には、ラベルなしテープの場合またはHDR2 ラベルがない場合にRCDLEN(*CALC)を使用することができます。この場合には、システムは、ファイルに指定されたブロックの長さ、レコードのブロック形式、およびバッファ・オフセット(ASCIIファイルの場合)から適切なレコード長を計算します。その他の場合には、CHGTAPFコマンドまたはOVRTAPFコマンドによって、あるいは装置ファイルをオープンする高水準言語プログラムの中で、実際のレコード長を指定しなければなりません。システムはファイルのオープン時に、適切なレコード長の計算を試みます。

整数 データ・ファイルの各レコードの長さを指定してください。有効な値の範囲は1から32767バイトです。

表 1. 図: EBCDIC RCDLENの範囲

RCDFBLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*V *VB	1 - 32759	13 - 32767
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

表 2. 図: ASCII RCDLENの範囲

RCDFBLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*D *DB	1 - 9995	13 - 10007
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

上

ブロックの長さ (BLKLEN)

読み取りまたは書き出し操作のためにテープに転送またはテープから転送するデータ・ブロックの最大長(バイト数)を指定します。

*CALC

処理中のデータ・ファイルのブロック長は指定されません。ファイルのオープン時に、システムは適切なブロック長の計算を試みます。

1から524288

処理するデータ・ファイルの各ブロックの最大長を指定してください。正常に処理できるブロックの最小長は、テープ装置のハードウェアおよびSystem i5システムのマシン・サポート機能によって決定されます。

入力ファイルの最大ブロック長は常に524288バイトですが、ASCII出力ファイルのブロック記述子を作成する必要がある場合は、9999バイトに制限されます。

次の表は、出力ファイルに認められる最小および最大のブロック長値を示しています。

表 3. 図: **BLKLEN**の最小値と最大値

コード	BUFOFSET	MIN BLKLEN	MAX BLKLEN
*EBCDIC	無視	18	524288
*ASCII	0	18	524288
*ASCII	*BLKDSC	18	9999

上

バッファー・オフセット (BUFOFSET)

テープ・データ・ファイルの各ブロックの最初のレコードの始めを示すバッファー・オフセットの値を指定します。バッファー・オフセット値は、任意のレコード・ブロック形式のASCIIファイルに使用できませんが、EBCDIC C テープ・ファイルの場合は無視されます。テープ上の2番目のヘッダー・ラベル(HDR2)の値が入っていて、*BLPラベル処理が指定されていない場合には、システムは、EXTEND(*YES)が指定されている任意の標準ラベル入力ファイルまたは出力ファイルに対して、データ・ファイル・ラベルに指定されているバッファー・オフセットを使用します。

バッファー・オフセット・パラメーターは、ブロック中の最初のレコードより前にあるすべての情報の長さを指定します。*D、*DB、*VS、および*VBSのレコード・ブロック様式の場合には、各レコードまたはレコード・セグメントより前に、レコードまたはセグメントの長さが入っている記述子があります。バッファー・オフセット値は、各ブロックの最初のレコードの記述子の前または各ブロックの最初の固定長レコードまたは不定形式レコードのデータの前に情報があることを示すために使用されます。

テープに、バッファー・オフセット値が入っている2番目のファイルのヘッダー・ラベル(HDR2)が含まれている場合には、このパラメーターは、入力用に処理される標準ラベル・ファイルには不必要です。バッファー・オフセット値は、テープ・ファイル作成(CRITAPF)コマンド、テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンド、またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドによって指定するか、あるいは各ブロック中の最初のレコードより前にあるすべての情報（ブロック記述子など）が入っている入力ファイルのファイル・ラベルによって、指定しなければなりません。テープ・ファイルの作成時にユーザーがバッファー・オフセット値を指定しなかった場合には、ファイルの読み取り時にオフセット値を指定する必要はありません。

出力ファイルにだけ使用できるバッファー・オフセット値はゼロおよび*BLKDSCです。HDR2ラベルの中にバッファー・オフセット値のある既存の標準ラベル・データ・ファイルは、バッファー・オフセット値が0または4である場合にのみ拡張することができます。HDR2ラベルのバッファー・オフセット値0は、バッファー・オフセットのないデータ・ブロックを追加します。HDR2ラベルの中にオフセット値4が入っている既存のテープ・データ・ファイルを拡張するためには、BUFOFSET(*BLKDSC)を指定しなければなりません。

0 バッファー・オフセット情報が各データ・ブロックの最初のレコードの前にはありません。

*BLKDSC

この装置ファイルを使用して作成されたテープ・ファイルには、4バイトのブロック記述子が作成されます。この装置ファイルを使用して読み取られる入力ファイルは、各データ・ブロックの最初

のレコードの前に4バイトのバッファ・オフセット情報があるものと仮定します。この値が有効なのは、レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)パラメーターに*Dまたは*DBが指定されている場合だけです。

整数 各データ・ブロックの最初のレコードの前にあるバッファ・オフセット情報の長さ (バイト数) を指定します。有効な値は0から99の範囲です。

上

レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)

処理されるテープ・データ・ファイルのレコードのタイプおよびブロック化属性を指定します。

レコード・ブロック形式*Vおよび*VBのレコードは、EBCDICファイルの場合にのみ処理することができます。*Dおよび*DBのレコードは、ASCIIファイルの場合のみ処理することができます。標準ラベル・テープ (ラベル・タイプ*SLまたは*BLP)が処理されていて、ボリューム・コードに矛盾のあるレコード・ブロック形式が指定されている場合には、レコード・タイプは正しいボリューム・コード(VまたはD)と見なされ、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。ラベルのないボリューム (ラベル・タイプが*NL, *LTM,または *NS) に対してレコード・タイプおよびコードが矛盾している場合には、正しいボリューム・コードを確認するラベルがないので、エラー・メッセージが出され、ファイルはオープンされません。

固定長レコードに有効なレコード長、ブロック長、およびバッファ・オフセット値(ASCIIファイルの場合)が指定されているが、ブロック属性が正しくない場合には、正しいブロック属性であると見なされ (レコード・ブロック形式を*Fから*FBに変更するか、レコード・ブロック形式を*FBから*Fに変更)、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

最大長のレコードを処理するために必要以上に大きいブロック長を指定した場合には、レコード・ブロック形式が*V, *D,または*VSから*VB, *DB,または*VBSに変更され、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

注: ファイルにBUFOFSET(*BLKDSC)が指定されている時には、テープ上の既存のファイル・ラベルが異なる値を指定していない限り、BLKLEN演算のBUFOFSET部分には値の4を使用してください。

- *FB** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの固定長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *F** EBCDICまたはASCIIコードの固定長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *V** EBCDICタイプV形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *VB** EBCDICタイプV形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *D** ASCIIタイプD形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *DB** ASCIIタイプD形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *VS** EBCDICまたはASCIIコードの可変長、非ブロック化、スパン・レコードが処理されます。
- *VBS** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの可変長、ブロック化、スパン・レコードが処理されます。テープ上のスパン・レコードの表し方は、EBCDICファイルとASCIIファイルとで異なっていますが、システムはファイル・コードに基づいて正しい形式を選択します。
- *U** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの未定義 (不定) 形式レコードが処理されます。

表 4. 図: 必要なRCDLEN/BLKLEN/BUFOFSETの関係

コード	RCDLKFMT	BLKLEN1
=====	=====	=====
*EBCDIC	*F *U	= RCDLEN
*ASCII	*F *U	= RCDLEN + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*FB	= RCDLEN * N
*ASCII	*FB	= (RCDLEN * N) + BUFOFSET (Nは最大長 ブロックの レコード数)
-----	-----	-----
*EBCDIC	*V	= RCDLEN * 8
*ASCII	*D	= RCDLEN * 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VB	>= RCDLEN + 8
*ASCII	*DB	>= RCDLEN + 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VS *VBS	>= 18
*ASCII	*BS *VBS	>= 6 + BUFOFSET (最小18)
-----	-----	-----

注: ブロック長(BLKLEN)は、レコード長(RCDLEN)と
バッファ・オフセット(BUFOFSET)の関数です。

上

ファイル拡張 (EXTEND)

テープへの出力操作の場合に、現在テープ上にあるデータ・ファイルの終わりに新しいレコードを追加するかどうかを指定します。データ・ファイルが拡張される場合には、テープ・ボリューム上の最終ファイルになります。

注: このパラメーターは1/4インチ・カートリッジ・テープ装置の場合は正しくありません。

単一値

***NO** レコードは、指定のデータ・ファイルの終わりに追加されません。

要素1: ファイル拡張

***YES** このデータ・ファイルの使用時に、テープ上の指定したデータ・ファイルの終わりにレコードが追加されます。

要素2: ファイル検査

***NOCHECK**

ファイルは、活動状態であるかどうかの検査を受けずに拡張されます。

***CHECK**

ファイルが拡張される前に、活動状態であるかどうかを検査されます。

上

テープ密度 (DENSITY)

この装置ファイルの作成時にテープ・ボリューム上に書き出されるデータの密度を指定します。このパラメーターは、テープに書き出されるテープ・ファイルの場合にのみ使用されます。テープから読み取られるテープ・ファイルの場合には無視されます（テープから読み取られるファイルの場合には、そのテープの密度が使用されます）。

標準ラベル・ボリュームの密度は、INZTAPコマンドに指定します（このコマンドは、テープにボリューム・ラベルを書き込むことによってテープを標準ラベル・ボリュームとして初期設定します）。このパラメーターに指定された密度が標準ラベルのテープの密度と異なる場合には、テープを指定された密度に合わせて再初期化しなければなりません。

*DEVTYPE

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX
*FMT3570E

3580-001
*ULTRIUM1

3580-002
*ULTRIUM2

3580-003
*ULTRIUM3

3580-004
*ULTRIUM4

3590-BXX
*FMT3590

3590-EXX
*FMT3590E

3590-HXX
*FMT3590H

3592-E05
*FMT3592A2

3592-J1A
*FMT3592A1

4685-001
*VXA2

5755 *ULTRIUM2

6258 *DAT72
6279 *VXA3
6344 *QIC2GB
6349 *QIC2GB
6369 *QIC2GB
6380 *QIC2GB
6381 *QIC2DC
6382 *QIC4DC
6383 *QIC5010
6384 *SLR60
6386 *MLR3
6387 *SLR100
6390 *FMT7GB
63B0 *VRT256K
7207-122
 *QIC4DC
7208-002
 *FMT2GB
7208-012
 *FMT5GB
7208-222
 *FMT7GB
7208-342
 *FMT20GB
7208-345
 *FMT60GB
9348 6250

***CTGTYPE**

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

文字値 使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。
3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。
6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

***DAT72**

このテープの形式はDAT72です。これは、標準長のカートリッジに36ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***DDS3** このテープの形式はDDS3です。これは、標準長のカートリッジに12ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***DDS4** このテープの形式はDDS4です。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***FMT3480**

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3490E**

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3592A1**

このテープの形式はFMT3592A1です。これは、標準長のカートリッジに300ギガバイトのデータを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

FMT3592A1E

このテープの形式はFMT3592A1Eです。これは、標準長のカートリッジに300ギガバイトの暗号化データを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

***FMT3592A2**

このテープの形式はFMT3592A2です。これは、標準長のカートリッジに500ギガバイトのデータを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

FMT3592A2E

このテープの形式はFMT3592A2Eです。これは、標準長のカートリッジに500ギガバイトの暗号化データを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM3**

このテープの形式はULTRIUM3です。これは、標準長のカートリッジに400ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM4**

このテープの形式はULTRIUM4です。これは、標準長のカートリッジに800ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VRT32K**

ボリュームの形式はVRT32Kです。これは、32KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、サポートされるすべてのテープ装置に複製することができます。

***VRT64K**

ボリュームの形式はVRT64Kです。これは、64KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、64KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT240K**

ボリュームの形式はVRT240Kです。これは、240KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、240KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT256K**

ボリュームの形式はVRT256Kです。これは、256KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、256KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VXA1**

このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2**

このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA3**

このテープの形式はVXA3です。これは、標準長のカートリッジに160ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、System i5ナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。使用中のテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターはファイルのオープン時に無視されます。

***DEV D**

使用中の装置がデータ短縮をサポートしている場合に、装置データの短縮が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

コード (CODE)

このテープ装置ファイルを使用するジョブによるテープ・データの読み取りまたは書き込み時に使用される文字コードのタイプを指定します。

***EBCDIC**

このテープ・ファイルでは、EBCDIC文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

上

作成日 (CRTDATE)

データ・ファイルがテープに作成された（書き出された）日付を指定します。データ・ファイルの作成日はテープのファイル・ラベルに記憶されます。*SL以外のラベル処理タイプに作成日を指定した場合には、作成日は無視されます。

***NONE**

作成日は指定されません。

日付 このテープ・ファイルによって使用されるデータ・ファイルの作成日を指定してください。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

テープ出力データ・ファイルの場合にだけ、この装置ファイルによって使用されるデータ・ファイルの満了日を指定します。データ・ファイルの満了日は、テープ上のファイル・ラベルに記憶されます。*SL以外のラベル処理のタイプに対して満了日を指定した場合には、それが無視されます。データ・ファイルは、指定した満了日まで保護され、重ね書きすることができません。

*NONE

データ・ファイルの満了日は指定されません。データ・ファイルは保護されません。

*PERM

データ・ファイルは永続的に保護されます。テープに書き込まれる日付は999999です。

日付 その日以降はデータ・ファイルが保護されなくなる日付を指定してください。

上

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープ・ファイルのクローズ時にテープ・ボリウムに対して自動的に実行される位置決め操作を指定します。マルチボリウム・データ・ファイルの場合には、このパラメーターは最後のリールに適用されるだけです。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

注: ENDOPTパラメーターに*LEAVEが指定されていても、このリールに対してオープンされる次のテープ・ファイルは、オープン時にデータ・ファイルの開始位置または終了位置に置かれます。

上

ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

ユーザー定義テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムを指定します。出力ファイルの場合には、ユーザー・ラベル・プログラムがテープに書き出されるユーザー・ラベルを渡します。入力ファイルの場合には、ユーザー・ラベルはユーザー・ラベル・プログラムに渡されます。

単一値

*NONE

この装置ファイル用のユーザー・ラベル・プログラムはありません。

修飾子1: ユーザー・ラベル・プログラム

名前 ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 同じ名前およびライブラリーの新しいテープ装置ファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいテープ装置ファイルを作成することはできません。

上

例

例1: テープ装置ファイルの記述の作成

```
CRTTAPF FILE(BACKHST) DEV(QTAPE1 QTAPE2 QTAPE3)
        REELS(*BLP 10) RCDLEN(256) BLKLEN(1024)
        RCDBLKfmt(*FB) EXTEND(*YES)
        ENDOPT(*UNLOAD) WAITFILE(60)
```

このコマンドは、テープ装置QTAPE1, QTAPE2,およびQTAPE3で使用されるBACKHSTという名前のテープ装置ファイルの記述を現行ライブラリーに作成します。この装置ファイルでこれらの装置で処理されるボリュームはすべて標準ラベルを持っていないければなりません。テープ・ボリュームの各データ・ブロック (EBCDIC文字コード) には、それぞれ256バイトの4つのレコードが入っています。レコードがテープに書き出されると、それらはデータ・ファイルの最後に追加されます。このテープには作成日や有効期限は指定されておらず、アンロードと巻き戻しの両方の操作は最後のテープ・ボリュームが処理されて装置ファイルがクローズされたときに行われます。このテープ装置ファイルを使用するプログラムは、このファイルのオープン時にファイル資源が割り振られる間60秒待機し、この装置ファイルは現行プログラムの実行時だけ使用されます。

例2: DBCSデータが入っているテープ・ファイルの作成

```
CRTTAPF FILE(IGCLIB/IGCTAP) LABEL(GENINF) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、GENINFというラベルでライブラリーIGCLIBに保管される、DBCSデータが入るテープ・ファイルIGCTAPを作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

テーブル作成 (CRTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テーブル作成(CRTTBL)コマンドは、指定のテーブルを作成します。テーブルを使用して、システムと装置との間で移動するデータの変換を行うことができます。また、テーブルを使用して、代替照合順序またはフィールド変換機能を指定することもできます。

テーブルは、ソース情報のプロンプトによるか、またはソース・メンバーを指定することによって作成することができます。

プロンプト・サポートを使用してテーブルを作成するためには、SRCFILEパラメーターに*PROMPTを指定してください。テーブル値を表示しあるいは変更することができる画面が表示され、この画面で選択した値に基づいて新しいテーブルが作成されます。

ソース・メンバーを使用して*CVTテーブルを作成するためには、8レコードが入っているソース・メンバーを指定しなければなりません。このメンバーのそれぞれのレコードには64文字の16進数が入っていなければなりません(64桁目より後の文字は使用されません)。この入力(512文字の16進数)は、CRTTBLコマンドによって256バイトとして内部的に変換および保管されます。

ソース・メンバー内の桁に指定する値は、その桁が見つかった時にはつねにQDCXLATE（またはその他のシステム・プログラム）によって戻されるのと同じ値です。

たとえば、ソースのレコード1の最初の部分として"C0C1C2C3C4C5C6..."を指定した場合には、16進数"00"を指定した場合には16進数"C0"が戻され、16進数"01"を指定した場合には16進数"C1"が戻されます。

ソース・メンバーを使用して*UCSSRTSEQテーブルを作成するためには、次のレイアウトの情報が入っているソース・メンバーを指定しなければなりません。

- 1から4桁目=記憶される16進コード点
- 6から10桁目=10進数としてこのコード点の重み
- 11から80桁目=使用されません。注記などを入れることができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *PROMPT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QTBLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*TBL</u>	オプションル, 定位置 3
TBLTYPE	テーブル・タイプ	<u>*CVT</u> , *SRTSEQ, *UCSSRTSEQ	オプションル
BASETBL	基底テーブル	単一値: <u>*HEX</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 基底テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
BASESRTSEQ	基底ソート順序	単一値: *LANGIDSHR, *HEX, <u>*JOB</u> , *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 基底ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
BASELANGID	基底言語ID	文字値, <u>*JOB</u>	オプションル
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, <u>*JOB</u> , *HEX, 65535	オプションル
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプションル
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプションル

上

テーブル (TBL)

作成されるテーブルのライブラリー名およびテーブル名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ジョブのライブラリーを使用して、テーブルを見つけます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

テーブル名

作成されるテーブルの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成しようとするか、あるいはプロンプト・サポートを使用するテーブルの記述が入っているソース・ファイルの修飾名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*PROMPT

ユーザーは、ソース情報をアクセスして使用することができます。

QTBLSRC

テーブルを作成するためにこのコマンドで使用されるソース・レコードは、QTBLSRCという名前のシステムソース・ファイルに入っています。

ソース・ファイル名

テーブルを作成するためにこのコマンドで使用されるソース・レコードが入っているソース・ファイルの名前（ライブラリー名/ソース・ファイル名）を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

作成されるテーブルの記述が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***TBL** ソース・ファイル・メンバー名はテーブルの名前と同じです。

ソース・ファイル・メンバー名

テーブルを作成するためには、ソース・ファイルプロンプト（SRCFILEパラメーター）で指定したソース・ファイルの、メンバーの名前を指定してください。

総称*テーブル名テーブルの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、名前がその総称名で始まり、ユーザーが権限を持っているすべてのテーブルが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なテーブル名とみなします。

上

テーブル・タイプ (TBLTYPE)

作成されるテーブル・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CVT** 変換タイプのテーブルが作成されます。

***SRTSEQ**

分類順序タイプのテーブルが作成されます。

***UCSSRTSEQ**

ISO-10646 UCS-2分類順序タイプのテーブルが作成されます。

基底テーブル (BASETBL)

変換テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本テーブルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***HEX** 1対1のマッピング・テーブルが使用されます。

テーブルの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テーブル名

基本として使用するテーブル・オブジェクトを指定してください。

基底ソート順序 (BASESRTSEQ)

分類順序テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本テーブルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

***LANGIDSHR**

共用の重み付け分類テーブルが使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み付け分類テーブルが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。16進数データのCCSIDは65535です。

テーブルの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テーブル名

基本として使用するテーブル・オブジェクトの名前を指定してください。

上

基底言語ID (BASELANGID)

分類順序テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本言語を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

言語ID

作成中の分類順序テーブルに使用する有効な言語IDを指定してください。

上

コード化文字セットID (CCSID)

分類順序テーブル情報を記憶するコード化文字セットID(CCSID)を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

コード化文字セットID

分類順序テーブル情報に使用するCCSIDを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限**プロンプト

(CRTAUTパラメーター)に指定された値と同じです。**作成権限**プロンプト(CRTAUTパラメーター)で指定された値を変更しても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTTBL TBL(SCRAMTBL) SRCFILE(USERTABLES) SRCMBR(SCRAMBLE)
      TEXT('TRANSLATE TABLE FOR SCRAMBLING TEXT CHARACTERS')
```

このコマンドは、SCRAMTBLという名前のテーブルを作成し、それを(省略時の値)によって現行ライブラリーに保管します。USERTABLESという名前のソース・ファイルに、テーブルの作成時に使用されるソース・レコードが入っています。ソース・ファイル・メンバーの名前はSCRAMBLEです。TEXTパラメーターは、このテーブルが混合テキスト文字のための変換テーブル(TRANSLATE TABLE FOR SCRAMBLING TEXT CHARACTERS)として使用されることを記述しています。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2614

テーブル&1はすでに&2に存在している。

CPF2623

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2678

&2のソース・ファイル&1のデータが正しくない。

CPF3BF7

ソース・ファイルの中の行&1のデータが正しくない。

CPF3FC9

CCSIDに対する値&1は正しくない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

時間帯記述作成 (CRTTIMZON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述作成 (CRTTIMZON)コマンドは、時間帯のプロパティを定義する時間帯記述オブジェクトを作成します。時間帯記述オブジェクトはQSYSライブラリーに作成されます。これらのプロパティは、時間値を協定世界時(UTC)形式とローカル形式の間で変換するために使用されます。これらのプロパティは、また、時間値をローカル形式で表すために使用されます。

制約事項:

- QSYSライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TIMZON	時間帯記述	名前	必須, 定位置 1
OFFSET	オフセット	-779-779	必須, 定位置 2
STDNAME	標準時間	単一値: *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: フルネーム	文字値	
DSTNAME	夏時間調整時間(DST)	単一値: *NONE, *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: フルネーム	文字値	
STDMSG	標準時間メッセージ	名前	オプション
DSTMSG	夏時間調整時間メッセージ	名前	オプション
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
DSTSTR	夏時間調整時間開始	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	*JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	*LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DSTEND	夏時間調整時間終了	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	*JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	*LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻	
DSTSHIFT	夏時間調整時間シフト	0-120, 60	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
YEAROFS	年オフセット	-140-140, 0	オプション
ALTNAME	別名	文字値	オプション
AUT	権限	名前, *USE , *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE	オプション

上

時間帯記述 (TIMZON)

作成する時間帯記述を指定します。時間帯記述はQSYSに作成されます。

これは必須パラメーターです。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

上

オフセット (OFFSET)

この時間帯と協定世界時(UTC)の間の時差(分数)を指定します。この値をローカル時間から減算すると、UTC時間が得られます。負の時差は、時間帯がUTCより西側であることを示し、正の時差は、その時間帯がUTCより東側であることを示します。

これは必須パラメーターです。

-779から779

時差(分数)を指定します。有効な値の範囲は-779分から779分です。

上

標準時間 (STDNAME)

夏時間調整時が守られていない場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。

単一値

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は、文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「S」です。オフセットは、定様式の時分の値として表示されます。時間帯記述の

フルネームは省略名と同じになります。例えば、オフセットが-360分の時間帯は、「UTC-06:00S」という省略名およびフルネームを持つことになります。

***MSG** 省略名とフルネームは、**標準時間メッセージ (STDMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの第2レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には、**STDMSG**パラメーターおよび**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターにも値を指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名、すなわち短い名前、を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: フルネーム

文字値 この時間帯のフルネーム、すなわち長い名前、を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

上

夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)

夏時間調整時が守られている場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。

単一値

***NONE**

この時間帯では夏時間調整時は守られません。

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は、文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「D」です。オフセットは、定様式の時分の値として表示されます。時間帯記述のフルネームは省略名と同じになります。例えば、オフセットが-360分の時間帯は、「UTC-06:00D」という省略名およびフルネームを持つことになります。

***MSG** 省略名とフルネームは、**夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの第2レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には、**DSTMSG**パラメーターおよび**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターにも値を指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名、すなわち短い名前、を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: フルネーム

文字値 この時間帯のフルネーム、すなわち長い名前、を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

上

標準時間メッセージ (STDMSG)

夏時間調整時が守られていない場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ、次の50文字にフルネームが入れられます。**標準時間 (STDNAME)**パラメーターに***MSG**が指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

名前 メッセージIDを指定してください。

夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)

夏時間調整時が守られている場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ、次の50文字にフルネームが入れられます。夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)パラメーターに*MSGが指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

名前 メッセージIDを指定してください。

メッセージ・ファイル (MSGF)

標準時メッセージおよび夏時間調整時メッセージが検索されるメッセージ・ファイルを指定します。指定されたメッセージ・ファイル名およびライブラリー名は、時間帯記述に保管されます。メッセージが省略名とフルネームの指定に使用される場合には、その省略名とフルネームが検索されるたびにメッセージが検索されます。メッセージをメッセージ・ファイルから検索できない場合には、名前は*Nとして戻されます。標準時間 (STDNAME)パラメーターまたは夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)パラメーターに*MSGが指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** メッセージが検索される時には、スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーからメッセージ・ファイルが検索されます。値*LIBLは時間帯記述に保管され、このコマンドによってライブラリー名に解決されることはありません。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

夏時間調整時間開始 (DSTSTR)

夏時間調整時(DST)を開始する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを開始する月、DSTを開始する日付、DSTを開始する月の相対日、およびDSTを開始する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)パラメーターに*NONE以外の値が指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。このパラメーターに指定する値を夏時間調整時間終了 (DSTEND)パラメーターに指定された値と同一にすることはできません。

要素1: 月

***JAN** 夏時間調整時は1月に始まります。

***FEB** 夏時間調整時は2月に始まります。

***MAR** 夏時間調整時は3月に始まります。

- ***APR** 夏時間調整時は4月に始まります。
- ***MAY** 夏時間調整時は5月に始まります。
- ***JUN** 夏時間調整時は6月に始まります。
- ***JUL** 夏時間調整時は7月に始まります。
- ***AUG** 夏時間調整時は8月に始まります。
- ***SEP** 夏時間調整時は9月に始まります。
- ***OCT** 夏時間調整時は10月に始まります。
- ***NOV** 夏時間調整時は11月に始まります。
- ***DEC** 夏時間調整時は12月に始まります。

要素2: 日

- ***MON** 夏時間調整時は月曜日に始まります。
- ***TUE** 夏時間調整時は火曜日に始まります。
- ***WED** 夏時間調整時は水曜日に始まります。
- ***THU** 夏時間調整時は木曜日に始まります。
- ***FRI** 夏時間調整時は金曜日に始まります。
- ***SAT** 夏時間調整時は土曜日に始まります。
- ***SUN** 夏時間調整時は日曜日に始まります。

要素3: 月の相対日

***LAST**

夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで始まります。

- 1 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで始まります。
- 2 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで始まります。
- 3 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで始まります。
- 4 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで始まります。

要素4: 時刻

時刻 夏時間調整時を開始する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブに指定された時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5文字または8文字のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

夏時間調整時間終了 (DSTEND)

夏時間調整時(DST)を終了する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを終了する月、DSTを開始する日、DSTを終了するの相対日付、およびDSTを終了する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)パラメーターに*NONE以外の値が指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。このパラメーターに指定する値を夏時間調整時間開始 (DSTSTR)パラメーターに指定された値と同一にすることはできません。

要素1: 月

- *JAN 夏時間調整時は1月に終わります。
- *FEB 夏時間調整時は2月に終わります。
- *MAR 夏時間調整時は3月に終わります。
- *APR 夏時間調整時は4月に終わります。
- *MAY 夏時間調整時は5月に終わります。
- *JUN 夏時間調整時は6月に終わります。
- *JUL 夏時間調整時は7月に終わります。
- *AUG 夏時間調整時は8月に終わります。
- *SEP 夏時間調整時は9月に終わります。
- *OCT 夏時間調整時は10月に終わります。
- *NOV 夏時間調整時は11月に終わります。
- *DEC 夏時間調整時は12月に終わります。

要素2: 日

- *MON 夏時間調整時は月曜日に終わります。
- *TUE 夏時間調整時は火曜日に終わります。
- *WED 夏時間調整時は水曜日に終わります。
- *THU 夏時間調整時は木曜日に終わります。
- *FRI 夏時間調整時は金曜日に終わります。
- *SAT 夏時間調整時は土曜日に終わります。
- *SUN 夏時間調整時は日曜日に終わります。

要素3: 月の相対日

*LAST

夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで終わります。

- 1 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで終わります。
- 2 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで終わります。
- 3 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで終わります。
- 4 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで終わります。

要素4: 時刻

時刻 夏時間調整時を終了する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブに指定された時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5文字または8文字のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

夏時間調整時間シフト (DSTSHIFT)

夏時間調整時間開始の時に進める現地時間分数、または夏時間調整時間終了の時に戻す分数を指定します。

60 夏時間調整時間は、夏時間調整時間開始の時に60分進めるか、あるいは夏時間調整時間終了の時に60分戻します。

0から120

夏時間調整時間開始または終了の時に変更する現地時間分数を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

年オフセット (YEAROFS)

この時間帯で使用している暦体系の現在の年と、現在のグレゴリオ年との差異を年数で指定します。暦の年と現在のグレゴリオ年が違う場合は、暦の現在の年から現在のグレゴリオの年を引いて、このパラメータの値を算出してください。例えば、現在のグレゴリオ年が2006年で、現在の暦体系の年が1949年の場合、年オフセットは-57 (1949 - 2006)になります。

0 この時間帯はグレゴリオ暦を使用していることを意味します。

-140から140

この時間帯で使用している暦体系の現在の年と、現在のグレゴリオ年との差異を年数で指定します。現在のグレゴリオ年に年オフセットを足しこんだ結果は、システムがサポートする1929年から2061年までの期日の範囲内になければなりません。

上

別名 (ALTNAME)

時間帯記述を記述するための追加の情報を提供する別名を指定します。

文字値 この時間帯の別名をアポストロフィで囲んで指定します。別名の最大長は128文字です。

上

権限(AUT)

オブジェクトに対する特定権限をもたず、権限リスト上に存在せず、そのグループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定権限をもたないユーザーに認可する権限を指定します。

***USE** ユーザーは、時間帯記述に対して基本的な操作（例えば内容の検索など）を実行することができます。ユーザーは時間帯記述を変更することはできません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値から取られます。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

変更権限によってユーザーは、オブジェクトの基本的な機能を変更および実行することができます。ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行します。

*EXCLUDE

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

例1:時間帯記述の作成

```
CRTTIMZON  TIMZON(CENTRAL) OFFSET(-360)
            STDNAME(CTZ 'CENTRAL TIME ZONE')
            TEXT('CENTRAL TIME ZONE WITH STANDARD TIME ONLY')
```

このコマンドは、CENTRAL時間帯記述を作成します。この時間帯のオフセットは負の6時間(-360分)です。この時間帯の標準時省略名は「CTZ」であり、標準時フルネームは「CENTRAL TIME ZONE」です。時間帯記述オブジェクトと関連したテキスト記述は「CENTRAL TIME ZONE WITH STANDARD TIME ONLY」です。この時間帯記述では夏時間調整時は守られません。

例2:夏時間調整時をサポートする時間帯記述の作成


```
CRTTIMZON  TIMZON(CENTRALDST) OFFSET(-360)
            STDNAME(CTZ 'CENTRAL TIME ZONE')
            DSTNAME(CDTZ 'CENTRAL DAYLIGHT TIME ZONE')
            TEXT('CENTRAL TIME ZONE WITH DAYLIGHT SAVING TIME')
            DSTSTR(*MAR *SUN 2 '02:00:00')
            DSTEND(*NOV *SUN 1 '02:00:00')
            ALTNAME('America/Chicago')
```

このコマンドは、CENTRALDST時間帯記述を作成します。この時間帯のオフセットは負の6時間(-360分)です。この時間帯の標準時省略名は「CTZ」であり、標準時フルネームは「CENTRAL TIME ZONE」です。この時間帯の夏時間調整時省略名は「CDTZ」であり、夏時間調整時フルネームは「CENTRAL DAYLIGHT TIME ZONE」です。時間帯記述オブジェクトと関連したテキスト記述は「CENTRAL TIME ZONE WITH DAYLIGHT SAVING TIME」です。この時間帯記述では夏時間調整時が守られます。夏時間調整時は3月の第2日曜日の2:00 AMに始まり、11月の最初の日曜日の2:00 AMに終わります。時間帯の代替名は「America/Chicago」です。

例3:非グレゴリオ暦の時間帯記述の作成

```
CRTTIMZON  TIMZON(SAMPLETIMZ) OFFSET(+420)
            STDNAME(*GEN) DSTNAME(*NONE)
            TEXT('Time Zone for Thai Buddhist Calendar')
            YEAROFS(-57)
```

このコマンドは、タイ仏教暦で使用できるSAMPLETIMZ時間帯記述を作成します。この時間帯のオフセットは正の7時間(+420分)であり、この時間帯記述では夏時間調整時間は守られません。グレゴリオ暦の2006年はタイ仏教暦の2549年(平成18年)でした。したがって、グレゴリオ暦の2006年の平成18年に多くのシステムが稼働しました。これは、負の57年の差異を表しています(1949-2006=-57)。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF09A1

時間帯記述&1は作成されていません。

上

ユーザー定義FSの作成 (CRTUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム作成(CRTUDFS)コマンドは、マウント・ファイル・システム追加(ADDMFS)またはMOUNTコマンドを介して残りの統合ファイル・システム名スペースを見えるようにできるファイル・システムを作成します。

UDFSはオブジェクト・タイプ*BLKSFまたはブロック特殊ファイルによって表されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
- オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- 最大で約4,000のユーザー定義ファイル・システムを独立補助記憶域プール(ASP)に作成できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通権限	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通権限	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション
DFTDISKSTG	省略時ディスク記憶域オプション	*NORMAL, *MINIMIZE, *DYNAMIC	オプション
DFTMAINSTG	省略時主記憶域オプション	*NORMAL, *MINIMIZE, *DYNAMIC	オプション
CASE	大文字小文字の区別	*MIXED, *MONO	オプション
DFTFILEFMT	省略時のファイル形式	*TYPE1, *TYPE2	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	テキスト・記述	文字値, *BLANK	オプション

上

ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

作成するファイル・システムのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの1つでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`,ここで、`XX`は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール (ASP)番号の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`,ここで`ASPNAME`はシステムの有効な独立ASP名の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された`QASPXX`または`ASPNAME`ディレクトリー内で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語 (CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

データの共通権限 (DTAAUT)

新しいユーザー定義ファイル・システム (UDFS) に対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

作成するUDFSの権限は、それが作成されるディレクトリーによって決定されます。このことは、新しいUDFSがその1次グループ、権限リスト、およびその共通、専用、および1次グループ権限を`/DEV/QASPXX`または`/DEV/ASPNAME`ディレクトリーから継承することを意味します。値***INDIR**が**オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)**パラメーターまたは**DTAAUT**パラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに***INDIR**を指定する必要があります。

RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(OBJEXIST**)、オブジェクト管理(***OBJMGT**)、オブジェクト変更(***OBJALTER**)、およびオブジェクト参照(***OBJREF**)権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、および実行(***RWX**)権限は、オブジェクト操作(***OBJOPR**)および全データ権限を提供します。

RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、および書き込み(RW**)権限は、***OBJOPR**およびデータ読み取り(***READ**)、追加(***ADD**)、更新(***UPD**)、削除(***DLT**)権限を提供します。

***RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行す

ることができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、および実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ、*EXECUTE権限を提供します。

***WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、および実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ、*UPD、*DLT、*EXECUTE権限を提供します。

***R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。

***W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ、*UPD、*DLT権限を提供します。

***X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対してデータ権限を与えられていません。この値は、OBJAUT値が*NONEの場合には使用できません。

権限リスト名

権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

上

オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)

ユーザー定義ファイル・システムのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

作成するUDFSのオブジェクト権限は、それが作成されるディレクトリーによって決定されます。このことは、新しいUDFSがその1次グループ、権限リスト、およびその共通、専用、および1次グループ権限を/DEV/QASPPXまたは/DEV/ASPNAMEディレクトリーから継承することを意味します。OBJAUTパラメーターまたはデータの共通権限 (DTAAUT)パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST、*OBJMGT、*OBJALTER、または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST、*OBJMGT、*OBJALTER、または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

***OBJREF**

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

上

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このユーザー定義ファイル・システム内に作成されたルート・ディレクトリー・オブジェクトの監査値を指定します。

***SYSVAL**

UDFS内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定のユーザーに対する監査をオンにするために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されず。

上

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかで登録される時に、ユーザー定義ファイル・システムに作成されたルート・ディレクトリー・オブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QP0L_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QP0L_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」 カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

この属性はユーザー定義ファイル・システムに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるそのユーザー定義ファイル・システムだけがスキャンされます。

***PARENT**

このユーザー定義ファイル・システムの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

上

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性は、このディレクトリーのS_ISVTXモード・ビットと同じです。

- *NO** ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。
- *YES** ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。
1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

上

省略時ディスク記憶域オプション (DFTDISKSTG)

ユーザー定義ファイル・システムに作成されるストリーム・ファイル(*STMF)に、システムが補助記憶域をどのように割り振るかを指定します。このオプションは、*TYPE1ストリーム・ファイルの場合は無視されます。

***NORMAL**

補助記憶域が通常通り割り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、それは現行のスペース所要量を収容するために論理的にサイズ決定されたエクステントに割り振られ、ディスク入出力操作の回数を最小化する時に、将来の所要量が予測されます。

***MINIMIZE**

補助記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するために割り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、それは現行のスペース所要量を入れるための小さいサイズのエクステントに割り振られます。多くの小さなエクステントから成るオブジェクトにアクセスすると、そのオブジェクトのディスク入出力操作の回数が多くなる場合があります。

***DYNAMIC**

システムは、使用されるスペースとディスク入出力操作回数とのバランスをとりながら、オブジェクトに対して最適な補助記憶域の割り振りを動的に決定します。例えば、ファイルの中に多くの小さなエクステントがあり、さらに読み取りおよび書き込みが頻繁に行われる場合には、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、将来の補助記憶域の割り振りはより大きいエクステントとなります。あるいは、ファイルが頻繁に切り捨てられる場合は、将来の補助記憶域の割り振りは、使用されるスペースを最小化するように、小さいエクステントとなります。さらに、このシステムおよびその活動の情報は、ストリーム・ファイル・サイズで保守されます。このファイル・サイズ情報は、このオブジェクトが他のオブジェクト・サイズと関連している時に、このオブジェクトの最適な補助記憶域割り振りを決定するのに役立つために使用することもできます。

上

省略時主記憶域オプション (DFTMAINSTG)

ユーザー定義ファイル・システムに作成されるストリーム・ファイル(*STMF)に、システムが主記憶域をどのように割り振り、どのように使用するかを指定します。

***NORMAL**

主記憶域が通常通り割り振られます。すなわち、できるだけ多くの主記憶域が割り振られ、使用されます。情報は主記憶域にキャッシュされるので、これはディスク入出力操作の回数を最小化します。

***MINIMIZE**

主記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するように割り振られます。すなわち、できるだけ少ない主記憶域が割り振られ、使用されます。少ない情報が主記憶域にキャッシュされるので、これは主記憶域使用量を最小化し、一方でディスク入出力操作の回数を増やしません。

***DYNAMIC**

システムは、他のシステム活動および主記憶域の競合に応じて、オブジェクトに対する最適な主記憶域の割り振りを動的に決定します。すなわち、主記憶域の競合がほとんどない時は、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、できるだけ多くの記憶域が割り振られて使用されます。著しい主記憶域の競合がある時は、主記憶域の競合を最小化するために、より少ない主記憶域が割り振られて使用されます。このオプションは、記憶域プールのページング・オプションが*CALCの時のみ効果があります。記憶域プールのページング・オプションが*FIXEDである時は、動作は*NORMALの場合と同じになります。オブジェクトがファイル・サーバーを通じてアクセスされる時は、このオプションは効果がありません。代わりに、その動作は*NORMALと同じになります。

上

大文字小文字の区別 (CASE)

このファイル・システムの大文字小文字の区別を指定します。

***MONO**

ファイル・システムの大文字・小文字は区別されません。例えば、名前FILEA（大文字と小文字）では同じオブジェクトが参照されます。

***MIXED**

ファイル・システムの大文字・小文字は区別されます。例えば、名前FILEA（大文字と小文字）では同じオブジェクトは参照されません。

上

省略時のファイル形式 (DFTFILEFMT)

ユーザー定義ファイル・システムに作成されるストリーム・ファイル(*STMF)の形式を指定します。

***TYPE2**

*TYPE2 *STMFはハイパフォーマンス・ファイル・アクセスが可能であり、I5/OSのバージョン4リリース4で新規のものでした。最小のオブジェクト・サイズは4096バイトで、最大オブジェクト・サイズは約1テラバイトです。*TYPE2ストリーム・ファイルをメモリー・マッピングに使用できるだけでなく、ディスク記憶域の割り振りを最適化する属性も指定できます。

***TYPE1**

*TYPE1 *STMFは、I5/OSのバージョン4リリース4より前のリリースで作成された*STMFオブジェクトと同じ形式です。最小サイズは4096バイトで、最大オブジェクト・サイズは約128ギガバイトです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ユーザー定義ファイル・システムのテキスト記述。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字 50桁以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: システムASPへのUDFSの作成

```
CRTUDFS  UDFS('/DEV/QASP01/JOE.UDFS) TEXT('JOE SMITH')
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP 1)に**JOE.UDFS**という名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)を作成します。

例2: ASP 3へのUDFSの作成

```
CRTUDFS  UDFS('/DEV/QASP03/HARRY.UDFS') CASE(*MIXED)
```

このコマンドは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3に**HARRY.UDFS**という名前の大文字と小文字が区別されるユーザー定義ファイル・システムを作成します。

例3: UDFS選択ストレージ・オプションの作成

```
CRTUDFS  UDFS('/dev/IASPNAME/mary.udfs')  
          DFTDISKSTG(*DYNAMIC) DFTMAINSTG(*DYNAMIC)
```

このコマンドは、IASPNAMEという名前の独立補助記憶域プール(ASP)に、**mary.udfs**という名前のUDFSを作成します。さらに、ディスクおよび主記憶割り振りを最適化するために、このUDFSに作成されるストリーム・ファイルはすべてディスクおよび主記憶オプションが***DYNAMIC**に設定されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドは、システムに対してユーザーを識別し、これによって、ユーザーはシステムでの表示方法をカスタマイズすることができます。プロファイルが作成されると、プロファイルにそのプロファイル自体の*CHANGEおよび*OBJMGT権限が与えられます。システムはプロファイル自体にこれらの権限を持つプロファイルに依存しているので、除去してはいけません。

制約事項: このコマンドのユーザーには、以下が必要です。

- 機密保護管理者(*SECADM)特殊権限
- 現行ライブラリー、プログラム、メニュー、ジョブ記述、メッセージ待ち行列、印刷装置、出力待ち行列、およびATTNキー処理プログラムに対する使用(*USE)権限 (指定された場合)
- グループ・プロファイルおよび補足グループ・プロファイルに対する変更(*CHANGE)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限 (指定された場合)。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名	必須, 定位置 1
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値, *USRPRF, *NONE	オプション, 定位置 2
PWDEXP	パスワードを満了にセット	*NO, *YES	オプション
STATUS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション
USRCLS	ユーザー・クラス	*USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM, *SECOFR	オプション
ASTLVL	援助レベル	*SYSVAL, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *CRTDFT	オプション
INLPGM	呼び出す初期プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 呼び出す初期プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INLMNU	初期メニュー	単一値: *SIGNOFF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期メニュー	名前, MAIN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LMTCPB	制限機能	*NO, *PARTIAL, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SPCAUT	特殊権限	単一値: *USRCLS, *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *ALLOBJ, *AUDIT, *IOSYSCFG, *JOBCTL, *SAVSYS, *SECADM, *SERVICE, *SPLCTL	オプション, 定位置 3
SPCENV	特殊環境	*SYSVAL, *NONE, *S36	オプション
DSPSGNINF	サインオン情報の表示	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
PWDEXPITV	パスワード満了間隔	1-366, *SYSVAL, *NOMAX	オプション
PWDCHGBLK	パスワード変更のブロック	1-99, *SYSVAL, *NONE	オプション
LCLPWDGMT	ローカル・パスワード管理	*YES, *NO	オプション
LMTDEVSSN	装置セッション限界	*SYSVAL, *YES, *NO, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
KBDBUF	キーボード・バッファ方式	*SYSVAL, *NO, *TYPEAHEAD, *YES	オプション
MAXSTG	最大許容記憶域	整数, *NOMAX	オプション
PTYLMT	最高スケジュール優先順位	0-9, 3	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QDFTJOB</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GRPPRF	グループ・プロファイル	名前, *NONE	オプション
OWNER	所有者	*USRPRF, *GRPPRF	オプション
GRPAUT	グループ権限	*NONE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
GRPAUTYP	グループ権限タイプ	*PRIVATE, *PGP	オプション
SUPGRPPRF	補足グループ	単一値: *NONE その他の値 (最大 15 回の繰り返し): 名前	オプション
ACGCDE	アカウント・コード	文字値, *BLANK	オプション
DOCPWD	文書パスワード	名前, *NONE	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DLVRY	配布	*NOTIFY, *BREAK, *HOLD, *DFT	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *WRKSTN, *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *WRKSTN, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ATNPGM	アテンション・プログラム	単一値: *NONE, *SYSVAL, *ASSIST その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: アテンション・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SYSVAL, *HEX, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *SYSVAL, *HEX	オプション
CHRIDCTL	文字識別コードの制御	*SYSVAL, *DEVD, *JOBCCSID	オプション
SETJOBATR	ロケール・ジョブ属性	単一値: *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *CCSID, *DATFMT, *DATSEP, *DECfmt, *SRTSEQ, *TIMSEP	オプション
LOCALE	ロケール	パス名, *SYSVAL, *NONE, *C, *POSIX	オプション
USROPT	ユーザー・オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *CLKWD, *EXPERT, *ROLLKEY, *NOSTMSG, *STSMSG, *HLPFULL, *PRTMSG	オプション
UID	ユーザーID番号	1-4294967294, *GEN	オプション
GID	グループID番号	1-4294967294, *NONE, *GEN	オプション
HOMEDIR	ホーム・ディレクトリー	パス名, *USRPRF	オプション
EIMASSOC	EIM関連	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: EIM ID	文字値, *USRPRF	
	要素 2: 関連タイプ	*TARGET, *SOURCE, *TGTSRC, *ADMIN, *ALL	
	要素 3: 関連アクション	*REPLACE, *ADD, *REMOVE	
	要素 4: EIM IDの作成	*NOCRTEIMID, *CRTEIMID	
AUT	権限	*ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

作成するユーザー・プロファイルを指定します。数字のユーザー・プロファイルを指定することができません。ユーザー・プロファイルが数字の場合には、**Q**で始めなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 作成するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

ユーザーがシステムにサインオンできるパスワードを指定します。このパスワードはユーザー・プロファイルと関連付けられて、システム内のユーザーを表わすためにシステムによって使用されます。このパスワードは、個々のユーザーのみが知っている必要があります。数字のパスワードを指定することができます。

このシステムがパスワード・レベル0または1で作動中であり、パスワードが数字である場合は、そのパスワードは**Q**で始めなければなりません。例えば、**Q1234**。ここで、**1234**はシステムにサインオンするためのパスワードです。

注: パスワード・レベルは、パスワード・レベル(QPWDVL)システム値によって制御されます。

注: 新しいパスワードはパスワードの妥当性検査規則に対して検査されません。パスワードの妥当性検査規則は、I5/OSシステム値によって定義されます。パスワードの妥当性検査規則については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

*USRPRF

このユーザーのパスワードは、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー名と同じです。システムがパスワード・レベル2または3で作動していて、ユーザー・プロファイル・パスワードに*USRPRF値が指定された場合には、そのパスワードは大文字を使用して入力する必要があります。

*NONE

このユーザー・プロファイルに対応するパスワードはありません。ユーザーは、PASSWORD(*NONE)を指定したプロファイルでシステムをサインオンすることはできません。

ユーザー・パスワード

システムがパスワード・レベル0または1で作動している場合には、10文字またはそれ以下の英数字ストリングを指定してください。最初の文字は英字で、その他の文字は英数字でなければなりません。

システムがパスワード・レベル2または3で作動している場合には、128文字またはそれ以下の文字ストリングを指定してください。パスワード・レベル2または3では、大文字小文字の区別が行われます。

ローカル・パスワード管理(LCLPDMGT)パラメーターが*NOの場合には、ローカルI5/OSパスワードが*NONEに設定されるので、ユーザーは、パスワードに*NONEを指定した場合と同じ制約を受けます。指定されたパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM製品（例えば、BladeCenterおよびSystem xとのSystem iの統合(<http://www.ibm.com/systems/i/bladecenter/>)）またはソリューションに送られます。ユーザー・プロファイルに対してLCLPDMGT(*NO)が指定されている場合に、パスワードの管理については、その製品またはソリューションの資料を参照してください。

パスワードを満了にセット (PWDEXP)

このユーザーのパスワードが満了にセットされるかどうかを指定します。パスワードが満了にセットされている場合には、ユーザーはシステムにサインオンするパスワードを変更する必要があります。ユーザーがシステムのサインオンを試みると、サインオン情報画面が表示され、パスワードを変更するオプションを選択することができます。

***NO** パスワードは満了にセットされません。

***YES** パスワードは満了にセットされます。

状況 (STATUS)

ユーザー・プロファイルの状況を指定します。

パスワード確認を試みて失敗した回数がQMAXSIGNシステム値で指定された限界に達し、QMAXSGNACNシステム値でオプション2または3が指定されていた場合には、システムはユーザー・プロファイルを使用不能にします。

***ENABLED**

ユーザー・プロファイルはサインオンに対して有効です。

***DISABLED**

ユーザー・プロファイルは、許可ユーザーが再び使用可能にするまで、サインオンには無効です。非活動化されたユーザー・プロファイルのバッチ・ジョブは投入することができます。

ユーザー・クラス (USRCLS)

このユーザー・プロファイルと関連したユーザーのタイプを指定します。すなわち、機密保護担当者、機密保護管理者、プログラマー、システム操作員、またはユーザーなどです。ユーザー・クラスは、メニューに示されるオプションを制御します。特殊権限が付与されるのは、*USRCLSが**特殊権限 (SPCAUT)**パラメーターに指定されている場合だけです。SPCAUT(*USRCLS)が指定された場合には、認可される特殊権限はQSECURITY値によって異なります。

***USER**

QSECURITYレベル10または20では、ユーザーは*ALLOBJおよび*SAVSYS権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

***SECOFR**

機密保護のすべてのレベルで、機密保護担当者には次の特殊権限が認可されます。

- *ALLOBJ
- *SAVSYS
- *JOBCTL
- *SERVICE

- *SPLCTL
- *SECADM
- *AUDIT
- *IOSYSCFG

***SECADM**

QSECURITYレベル10または20では、機密保護管理者は*ALLOBJ, *SAVSYS, *SECADM,および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SECADM特殊権限を持ちます。

***PGMR**

QSECURITYレベル10または20では、プログラマーは*ALLOBJ, *SAVSYS,および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

***SYSOPR**

QSECURITYレベル10または20では、システム操作員は*ALLOBJ, *SAVSYS,および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SAVSYSおよび*JOBCTL特殊権限を持ちます。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***SYSVAL**

システム値QASTLVLに定義された援助レベルが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。さらにリスト項目を表示できるようにするために、オプション・キーと機能キーは表示されません。コマンドに拡張(*ADVANCED)レベルがない場合には、中間(*INTERMED)レベルが使用されます。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの制限機能(LMTCPB)パラメーターに*PARTIALまたは*YESが指定された場合には、ユーザーは、サインオンまたはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドで現行ライブラリーを変更することはできません。

***CRTDFT**

このユーザーには現行ライブラリーがありません。省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

呼び出す初期プログラム (INLPGM)

対話式ジョブの場合は、要求処理プログラムとしてQCMDを持つ新しいルーティング・ステップが開始されると常に呼び出されるプログラムの名前を指定します。*PARTIALまたは*YESが**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターに指定されている場合は、プログラム値はサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによって変更することができません。このプログラムにはパラメーターを渡すことができません。

システム/36環境プロシージャ名は、そのプロシージャが（ライブラリー・リスト中または指定されたライブラリー内の）ファイルQS36PRCのメンバーである場合および次の条件のいずれかが真である場合は初期プログラムとして指定することができます。

- *S36がSPCENVパラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

***NONE**

ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムはありません。初期メニュー (INLMNU)パラメーターにメニュー名を指定すると、そのメニューが表示されます。

修飾子1: 呼び出す初期プログラム

名前 ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期プログラムがあるライブラリーの名前を指定してください。

上

初期メニュー (INLMNU)

ユーザーのルーティング・プログラムがコマンド・プロセッサQCMDである場合は、ユーザーがシステムにサインオンすると表示される初期メニューを指定します。*YESが**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターに指定されている場合は、ユーザーはサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドを使用してメニューを変更することができません。

システム/36環境メニューは、次の条件のいずれかが真である場合には、初期メニューとして指定することができます。

- *S36が特殊環境 (SPCENV)パラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

MAIN MAINという名前のメニューが探し出されて表示されます。

*SIGNOFF

システムはプログラムが完了した時点でユーザーをサインオフします。これは、プログラムを実行するためだけのために認可されたユーザーを対象としています。

修飾子1: 初期メニュー

名前 ユーザーがシステムにサインオンした後に呼び出される初期メニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期メニューがあるライブラリーの名前を指定してください。

上

制限機能 (LMTCPB)

ユーザーがプログラム、メニュー、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムの値を制御できる限界を指定します。それはユーザーがコマンド入力行からコマンドを実行することができるかどうかも決定します。機密保護レベルが10の時には、このパラメーターは無視されます。

注: 他のユーザーのユーザー・プロファイルを作成または変更する時には、ユーザー自身のユーザー・プロファイルがユーザーに認可する以上の能力を他のユーザーに認可する値をこのパラメーターで指定することはできません。例えば、ユーザーのユーザー・プロファイルにおいて**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターで*PARTIALが指定されている場合には、他のユーザーに対して*PARTIALまたは*YESを指定することができます。他のユーザーに対して*NOを指定することはできません。

***NO** ユーザーがシステムにサインオンする時に、プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値を変更することができます。ユーザーは、プロファイル変更(CHGPRF)コマンドで、自分のユーザー・プロファイル中のプログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキー処理プログラムの値を変更することができます。コマンドはコマンド入力行から実行することができます。

*PARTIAL

プログラムおよび現行ライブラリーをサインオン画面で変更することはできません。メニューを変更することができ、またコマンド入力行からコマンドを実行することができます。ユーザーはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによってメニューの値を変更することができます。プログラム、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムは、CHGPRFコマンドを使用して変更することができます。

***YES** プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値をサインオン画面で変更することはできません。コマンドをコマンド入力行からかまたはCMDADDのようなコマンド・グループ化メニューからオプションを選択することによって出した場合には、コマンドを実行することはできませんが、

コマンド入力画面からであれば実行することができます。CHGPRFコマンドを使用して、プログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキーのプログラム処理値を変更することはできません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

特殊権限 (SPCAUT)

ユーザーに付与される特殊権限を指定します。システム上のある種の機能を実行するためには、特殊権限が必要です。特殊権限は、多くのシステム提供のユーザー・プロファイル(QSECOFRまたはQSYSを含む)から除去することができません。

通常、次の特殊権限が認可されます。

- システムの操作が必要なユーザーに対して、システム保管(*SAVSYS)特殊権限。
- システム入出力構成を変更する必要があるユーザーに対して、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限。
- ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、システム上で実行中のすべてのジョブ、またはジョブ待ち行列上にあるジョブ、あるいはOPRCTL (*YES)が指定された出力待ち行列上にあるジョブを変更、表示、保留、解放、取り消し、およびすべての消去を行なう権限が与えられます。また、ユーザーはシステムをロードし、書き出しプログラムを開始し、活動サブシステムを停止する権限も持っています。
- ユーザー・プロファイルの作成、変更、または削除が必要なユーザーに対して、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限。
- システム資源の処理が必要なユーザーに対して、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限。
- 保守機能を実行する必要があるユーザーに対して、保守(*SERVICE)特殊権限。
- すべてのスプール関連機能を実行する必要があるユーザーに対して、スプール制御(*SPLCTL)特殊権限。
- 監査機能を実行する必要があるユーザーに対して、監査(*AUDIT)特殊権限。

制約事項:

- 別のユーザー・プロファイルを作成または変更しようとするユーザー・プロファイルには、付与しようとする特殊権限のすべてが必要です。すべての特殊権限を別のユーザー・プロファイルに付与するには、すべての特殊権限が必要です。
- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*SECADM特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。
- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*AUDIT特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJ、*SECADM、および*AUDIT特殊権限が必要です。

単一値

***USRCLS**

ユーザー・クラス (**USRCLS**)パラメーターに指定された値に基づいて、このユーザーに特殊権限が認可されます。

***NONE**

このユーザーに認可される特殊権限はありません。

その他の値

***ALLOBJ**

全オブジェクト権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、専用権限の有無にかかわらず、すべてのシステム資源にアクセスすることができます。

***AUDIT**

このユーザーには監査権限が認可されます。このユーザーには、監査機能を実行する権限が与えられます。監査機能には、システムに対する監査のオンまたはオフとオブジェクトまたはユーザーに対する監査レベルの制御が含まれます。

***JOBCTL**

ジョブ制御権限がユーザーに付与されます。ユーザーには、システム上で実行中のすべてのジョブ、およびOPRCTL (*YES)が指定されているジョブ待ち行列または出力待ち行列上にあるすべてのジョブを変更、表示、保留、保留解除、取り消し、および消去する権限があります。このユーザーはまた、書き出しプログラムを開始したり、活動サブシステムを停止する権限ももっています。

***SAVSYS**

このユーザー・プロファイルにシステム保管権限が与えられます。このユーザーには、オブジェクト管理権限があってもなくても、システム上のすべてのオブジェクトの保管、復元、および記憶域解放を行なう権限があります。

***IOSYSCFG**

入出力(I/O)システム構成権限がユーザーに付与されます。ユーザーはシステムの入出力構成を変更する権限を持ちます。

***SECADM**

機密保護管理者権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)、ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)、およびユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドに対して認可されている場合は、ユーザー・プロファイルを作成、変更、または削除することができます。この権限では、このユーザー・プロファイルが持っていない特殊権限を付与することはできません。別のユーザーに*SECADM特殊権限を付与するためには、ユーザーは*ALLOBJと*SECADMの両方の特殊権限を持っていない限りなりません。

***SERVICE**

保守権限がこのユーザーに付与されます。ユーザーはサービス機能を実行することができます。

***SPLCTL**

スプール制御権がユーザーに付与されます。ユーザーはすべてのスプール機能を実行することができます。

上

特殊環境 (SPCENV)

ユーザーがサインオン後に操作を行なう特殊環境を指定します。

***SYSVAL**

システムにサインオンした後のユーザーのシステム環境を決めるために、システム値QSPCENVが使用されます。

***NONE**

ユーザーは、システムにサインオンした後に、I5/OSシステム環境で操作を行いません。

***S36** ユーザーは、システムにサインオンした後に、システム/36環境で操作を行いません。

上

サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)

サインオン情報画面が表示されるかどうかを指定します。

***SYSVAL**

サインオン情報画面が表示されるかどうかを決めるために、システム値QDSPSGNINFが使用されます。

***NO** サインオン情報画面は表示されません。

***YES** サインオン情報画面が表示されます。

上

パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)

パスワード満了間隔（日数）を指定します。

***SYSVAL**

パスワード満了間隔を決定するためには、システム値QPWDEXPITVが使用されます。

***NOMAX**

パスワードは満了しません。

1から366

パスワードが変更される日付からパスワードが満了する日付までの日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

上

パスワード変更のブロック (PWDCHGBLK)

前の正常なパスワード変更操作の後にパスワードが変更されないようにブロックする時間枠を指定します。この値を使用して、パスワードを単に満了パスワード値に戻すように何度も変更することによって同じ満了パスワード値をユーザーが再利用すること（およびQPWDRQDDIFシステム値の目的を無効化すること）ができないようにすることが可能です。このパラメーターは、セキュリティー管理者がユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)などのコマンドを使用してパスワードを変更する行為に関しては制限しません。

また、このパラメーターは、ユーザーが満了設定パスワード(PWDEXP)値が*YESの場合にプロファイルのパスワードを変更することもブロックしません。これによって、セキュリティー管理者は満了パスワードでユーザー・プロファイルを作成して、さらにユーザーがパスワード変更ブロック値によって妨げられることなく、(1回) サインオンしてパスワードを変更できるようにできます。

***SYSVAL**

パスワード変更ブロック値を決定するためには、システム値QPWDCHGBLKが使用されます。

***NONE**

パスワードはいつでも変更することができます。

1から99

前の正常なパスワード変更操作後に、ユーザーが再びパスワードを変更できるようになるまでに待機する必要がある時間数を示します。

上

ローカル・パスワード管理 (LCLPDMGT)

ユーザー・プロファイルのパスワードをローカル側で管理かするかどうかを指定します。

***YES** パスワードはローカル・システム上で管理されます。

***NO** パスワードはローカル・システム上で管理されません。この値を指定すると、ローカルi5/OSパスワードが*NONEに設定されることとなります。パスワード・パラメーターに指定されたパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM製品（例えば、BladeCenterおよびSystem xとのSystem iの統合(<http://www.ibm.com/systems/i/bladecenter/>))またはソリューションに送られます。

ユーザーは、パスワード変更(CHGPWD)コマンドを使用して自分のパスワードを変更できなくなります。また、システムに直接サインオンすることもできなくなります。

この値を指定すると、パスワード同期を実行する他のIBM製品(BladeCenterおよびSystem xとのSystem iの統合(<http://www.ibm.com/systems/i/bladecenter/>)など)またはソリューションに影響が及ぶこととなります。詳細については、製品の資料またはソリューションを参照してください。

この値を使用する必要があるのは、ユーザーが他のどれかのプラットフォームによってシステムにアクセスする必要しかない場合です。

上

装置セッション限界 (LMTDEVSSN)

ユーザーに許される装置セッションの数を制限するかどうかを指定します。これはSYSREQおよび2番目のサインオンを制限しません。

***SYSVAL**

ユーザーが特定の装置セッション数に制限されるかどうかを決めるために、システム値QLMTDEVSSNが使用されます。

***NO** ユーザーは特定の装置セッション数に制限されません。

***YES** ユーザーは1装置セッションに制限されます。

0 ユーザーは特定の装置セッション数に制限されません。この値には*NOと同じ意味があります。

1 ユーザーは1装置セッションに制限されます。この値には*YESと同じ意味があります。

2から9 ユーザーは特定の装置セッション数に制限されます。

上

キーボード・バッファ方式 (KBDBUF)

このユーザー・プロファイルのジョブが初期設定される時に使用されるキーボード・バッファリング値を指定します。先行入力機能が活動状態の場合には、キーボード・キー・ストロークをバッファに入れておくことができます。ATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態の場合には、ATTNキーはその他のキーと同じようにバッファに入れます。ATTNキー・バッファ方式オプションが非活動状態である場合は、ATTNキーはバッファに入られず、表示装置が入力禁止状態であってもシステムに送られます。また、この値はユーザー・アプリケーションによっても設定することができます。詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションにあります。

*SYSVAL

キーボード・バッファリング値を決定するために、システム値QKBDBUFが使用されます。

*NO 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態になっていません。

*TYPEAHEAD

先行入力機能は活動状態ですが、ATTNキー・バッファリング・オプションはそうではありません。

*YES 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションは活動状態になっています。

上

最大許容記憶域 (MAXSTG)

このユーザー・プロファイルによって所有される永続オブジェクトを記憶するために割り当てられる補助記憶域の最大容量（キロバイト数）を指定します(1Kバイトは1024バイトと等しくなります)。対話式ユーザーがオブジェクトを作成しようとしているときに最大数を超えると、エラー・メッセージが表示され、そのオブジェクトは作成されません。オブジェクトをバッチ・ジョブで作成時に最大数を超えると、エラー・メッセージが（ジョブのロギング・レベルに応じて）ジョブ・ログに送られ、そのオブジェクトは作成されません。

記憶域は4Kの増分で割り振られます。したがって、MAXSTG(9)を指定した場合には、プロファイルは、12Kの記憶域を割り振られます。

ユーザー・プロファイルのための最大記憶域を計画する時には、以下のシステム処置を考慮してください。

- 復元操作により、記憶域が復元を実行中のユーザーに割り当てられてから、オブジェクトが所有者に転送されます。大容量の復元の場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- レシーバー・サイズが増大すると、ジャーナル・レシーバーを作成するユーザー・プロファイルには記憶域が割り当てられます。JRNRCV(*GEN)を使用して新規レシーバーを作成すると、アクティブ・ジャーナル・レシーバーを所有しているユーザー・プロファイルに記憶域が割り当て続けられます。きわめてアクティブなジャーナル・レシーバーを所有している場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- 作成したオブジェクトを自分のグループ・プロファイルに転送するユーザー・プロファイルには、そのオブジェクトをグループ・プロファイルに転送する前に、作成済みオブジェクトを入れるために十分な記憶域がユーザー・プロファイルに必要です。
- オブジェクトが別のユーザー・プロファイルによって所有されている場合でも、ライブラリーの所有者には、そのライブラリーに保管されるオブジェクトの記述用の記憶域が割り当てられます。このようなオブジェクトの例は、テキストおよびプログラム参照です。

*NOMAX

必要なだけの記憶域がこのプロファイルに割り当てられます。

番号 ユーザー用の記憶域の最大容量をキロバイト数(1Kバイトは1024バイトです) で指定してください。

上

最高スケジューリング優先順位 (PTYLMT)

ユーザーがシステムに投入する各ジョブごとに指定できる最高スケジューリング優先順位を指定します。この値は、このユーザー・プロファイルのもとで実行中のすべてのジョブのジョブ処理優先順位および出力優先順位を制御します。つまり、ジョブ・コマンドのJOBPTYおよびOUTPTYパラメーターに指定された値は、ジョブが実行されるユーザー・プロファイルのPTYLMT値を超えることができません。スケジューリング優先順位は0から9の範囲の値とすることができます。0は最高の優先順位、9は最低の優先順位です。

3 このプロファイルに指定されたユーザーは、システム上のジョブのスケジューリングに、3より高い優先順位値を使用することはできません。

0から9 ユーザーに許される最高スケジューリング優先順位の値(0から9)を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBBD)

サブシステム・ワークステーション項目を介して開始されるジョブに使用されるジョブ記述を指定します。ユーザー・プロファイルの作成または変更時にジョブ記述がない場合には、ジョブ記述名がユーザー・プロファイルに保持されるので、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

修飾子1: ジョブ記述

QDFTJOBBD

ライブラリーQGPLにある省略時のシステム提供のジョブ記述が使用されます。

名前 ジョブ記述パラメーター値でユーザーJOBBD(*USRPRF)が指示されている、ワークステーション項目に使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

グループ・プロファイル (GRPPRF)

特定権限がユーザーに付与されていない場合に、権限を使用するユーザーのグループ・プロファイル名を指定します。このコマンドの現行ユーザーには、**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注：

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。
2. 次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターでは正しくありません。

QANZAGENT, QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIBMHELP, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFSANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

*NONE

このユーザー・プロファイルはグループ・プロファイルではありません。

名前 このユーザー・プロファイルと一緒に使用するグループ・プロファイルの名前を指定してください。

上

所有者 (OWNER)

このユーザーが作成したオブジェクトの所有者となるユーザー・プロファイルを指定します。

*USRPRF

ジョブに関連したユーザー・プロファイルがオブジェクトの所有者になります。

*GRPPRF

グループ・プロファイルは新しく作成したオブジェクトの所有者が作成して、そのオブジェクトに対するすべての権限を持ちます。ジョブと関連したユーザー・プロファイルは、オブジェクトに対するどんな特定権限も持っていません。*GRPPRFを指定する場合は、ユーザー・プロファイル名を**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定しなければならず、**グループ権限 (GRPAUT)**パラメーターを指定することはできません。

上

グループ権限 (GRPAUT)

新しく作成されたオブジェクトについてのグループ・プロファイルに付与される特定権限。**所有者 (OWNER)**パラメーターに*GRPPRFが指定されている場合には、このパラメーターの指定はできません。

*NONE

グループ権限が付与されません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

上

グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)

新しく作成されるオブジェクトのグループ・プロファイルに認可する権限のタイプを指定します。グループ権限 (GRPAUT)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターの指定は無視されます。

***PRIVATE**

グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトに対して専用権限が認可されます。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます

***PGP** グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトの1次グループになります。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます

上

補足グループ (SUPGRPPRF)

ユーザーの補足グループ・プロファイルを指定します。ここに指定されたプロファイルを、グループ・プロファイル (GRPPRF)パラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用して、そのジョブに特定のユーザー権限が指定されない場合に、どんな権限をユーザーがもつかを判別します。このパラメーターにプロファイルが指定された場合には、このユーザー・プロファイルに対して (このコマンドか前のユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)またはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドのいずれかで) GRPPRFパラメーターにグループ・プロファイル名を指定しなければなりません。このコマンドの現行ユーザーには、これに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注:

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。
2. 次のIBM提供ユーザー・プロファイルはこのパラメーターでは無効です。

QANZAGENT, QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIBMHELP, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

***NONE**

補足のグループ・プロファイルは、このユーザー・プロファイルと一緒に使用されません。

名前 既存のオブジェクトにアクセスするためのジョブの適格性および特殊権限を判別するために、このユーザー・プロファイルおよびGRPPRFパラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用される最大15のグループ・プロファイル名を指定します。

上

アカウント・コード (ACGCDE)

このユーザー・プロファイルと対応した会計コードを指定します。

***BLANK**

15個のブランクからなる会計コードが、このユーザー・プロファイルに割り当てられます。

文字値 このユーザー・プロファイルから会計コードを受け取る、ジョブが使用する15文字の会計コードを指定してください。15文字未満が指定されると、ストリングの右側にブランクが埋め込まれます。

上

文書パスワード (DOCPWD)

文書交換アーキテクチャー(DIA)文書配布サービス・ユーザーが他のユーザーが個人配布機能の代行するユーザーによる使用から保護できる文書パスワードを指定します。

***NONE**

このユーザーが使用する文書パスワードはありません。

名前 このユーザーに割り当てる文書パスワードを指定してください。パスワードは、1から8文字の範囲の英数字（英字AからZおよび数字0から9）でなければなりません。文書パスワードの先頭文字は英字でなければなりません。残りの文字は英数字にすることができます。組み込みブランク、先行ブランク、および特殊文字は無効です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

メッセージの送り先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: メッセージ待ち行列は、まだ存在していないと作成されます。ユーザー・プロファイル (USRPRF) パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルはそのメッセージ待ち行列の所有者です。

単一値

***USRPRF**

USRPRFパラメーターに指定したのと同じ名前のメッセージ待ち行列がこのユーザーのメッセージ待ち行列として使用されます。このメッセージ待ち行列はQUSRSYSライブラリーにあります。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 このプロファイルで使用するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

配布 (DLVRY)

このユーザー用のメッセージ待ち行列に送られるメッセージの配信方法を指定します。

***NOTIFY**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブに通知されます。ワークステーションでの対話式ジョブの場合は、音響アラームが鳴り（アラーム機能が設定されている場合）、メッセージ待機中ライトがオンになります。メッセージ待ち行列が別のジョブによって使用されている場合には、転送モードを*NOTIFYに変更することはできません。

***HOLD**

メッセージは、ユーザーまたはプログラムによって要求されるまでメッセージ待ち行列に保留されます。

***BREAK**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブが中断されます。ジョブが対話式ジョブの場合には、音響アラームが鳴ります（アラーム機能が設定されている場合）。メッセージ待ち行列が別のジョブによっても使用されている場合には、転送モードを*BREAKに変更することはできません。

***DFT** 照会メッセージに対する省略時の応答が送られます。照会メッセージのメッセージ記述に省略時の応答が指定されていない場合には、システムの省略時の応答の*Nが使用されます。

上

重大度コード・フィルター (SEV)

中断または通知モードでユーザーに転送することができる最低のメッセージの重大度コードを指定します。このパラメーターで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、音響アラームまたはメッセージ待機中ライトはオンになります。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドを使用することによって要求されるまで、待ち行列に保留されます。*BREAKまたは*NOTIFYが**配布 (DLVRY)**パラメーターに指定されていて、メッセージが待ち行列に届いた時に有効な場合には、このメッセージと関連した重大度コードがここで指定した値と等しいかより大きい場合には、メッセージが配信されます。そうでない場合には、メッセージは要求されるまで待ち行列に保留されます。

0 重大度コードが指定されていない場合には、0が使用されます。

0から99

00から99の範囲の重大度コードを指定してください。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このユーザーの省略時プリンターを指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでデータをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられません。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの**出力待ち行列 (OUTQ)**パラメーターに指定されると見なされます。

*WRKSTN

ユーザーのワークステーションに割り当てられた印刷装置が使用されます。

*SYSVAL

システム値QPRTDEVに指定された値が使用されます。

名前 このユーザー用の出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

このユーザー・プロファイルで使用される出力待ち行列を指定します。このコマンドが実行される時には、この出力待ち行列がすでに存在していなければなりません。

単一値

*WRKSTN

ユーザーのワークステーションに割り当てられた出力待ち行列が使用されます。

***DEV 印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列の名前は印刷装置と同じです。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF, CHGPRTF,またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの**出力待ち行列 (OUTQ)**パラメーターに指定されると見なされます。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 このユーザー・プロファイルによって使用される出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

アテンション・プログラム (ATNPGM)

このユーザーのアテンション(ATTN)キー処理プログラムとして使用するプログラムを指定します。ATTNキー処理プログラムは、対話式ジョブ中にATTNキーを押すと呼び出されます。このプログラムがアクティブになるのは、ユーザーがシステム提供のQCMDコマンド・プロセッサに経路指定されている場合だけです。ATTNキー処理プログラムは、初期プログラム(ある場合)が呼び出され、プログラムとメニューの両方にアクティブになる前に、オンに設定されています。プログラムがATNPGMを(SETATNPGMコマンドを使用して)変更すると、新規プログラムがアクティブなままになっているのはそのプログラムの期間だけです。制御が戻され、QCMDがメニューを呼び出すと、元のATTNキー処理プログラムは再びアクティブになります。SETATNPGMコマンドがメニューから実行されるか、アプリケーションがメニューから呼び出されると、指定されている新規ATTNキー処理プログラムがATTNキー処理プログラムを指定変更します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの制限機能(LMTCPB)パラメーターに*YES または*PARTIALを指定した場合には、ATTNキー処理プログラムを変更することはできません。

単一値

***SYSVAL**

システム値QATNPGMが使用されます。

***NONE**

このユーザーによってATTNキー処理プログラムは使用されません。

***ASSIST**

操作援助機能ATTNキー処理プログラム(QEZMAIN)が使用されます。

修飾子1: アテンション・プログラム

名前 このユーザー・プロファイルに使用するATTNキー処理プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このプロファイルのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

*SYSVAL

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。 分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されません。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 このプロファイルで使用する分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

このユーザーに対して使用される言語IDを指定します。

*SYSVAL

システム値QLANGIDが使用されます。

言語ID

使用する言語IDを指定してください。有効な言語IDの詳細はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照のこと。に記載されています。

上

国別または地域ID (CNTRYID)

このユーザーに使用される国別または地域IDを指定します。

*SYSVAL

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 国別または地域IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。

上

コード化文字セットID (CCSID)

このユーザーに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

CCSIDは、エンコード・スキームIDの特定セット、文字セットID、コード・ページID、および使用されているコード化図形表現を固有に識別する追加のコーディング関連情報を識別する16ビットの数値です。

注: CCSIDの値を変更する場合は、その変更は現在実行中のジョブには影響を及ぼしません。

*SYSVAL

システム値QCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

ID このユーザー・プロファイルに使用するCCSIDを指定してください。正しいCCSIDの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報を参照してください。

上

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

ジョブの文字ID制御(CHRIDCTL)を指定します。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループについて行われるコード化文字セットID(CCSID)変換のタイプを制御します。この属性が使用される前に、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対する作成、変更、または一時変更コマンドの文字識別コード (CHRID)パラメーターに*CHRIDCTL特殊値を指定しなければなりません。

*SYSVAL

システム値QCHRIDCTLが使用されます。

***DEV**

*DEV特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

***JOBCCSID**

*JOBCCSID特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

上

ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)

ジョブが開始される時にロケール (LOCALE)パラメーターに指定されたロケールから取られるジョブ属性を指定します。

単一値

*SYSVAL

ロケールから取られるジョブ属性を決定するためにシステム値QSETJOBATRが使用されます。

*NONE

ロケールからジョブ属性が取られません。

その他の値

*CCSID

ロケールのコード化文字セットIDが使用されます。ロケールからのCCSID 値はユーザー・プロファイルCCSIDを一時変更します。

*DATFMT

ロケールから日付の形式が使用されます。

*DATSEP

ロケールから日付区切り記号が使用されます。

*DECfmt

ロケールからの10進数形式が使用されます。

*SRTSEQ

ロケールから分類順序が使用されます。ロケールの分類順序はユーザー・プロファイルの分類順序を一時変更します。

*TIMSEP

ロケールから時刻区切り記号が使用されます。

上

ロケール (LOCALE)

このユーザーのLANG環境変数に割り当てられたロケールのパス名を指定します。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

*SYSVAL

このユーザーに割り当てられるロケール・パス名を決定するためにシステム値QLOCALEが使用されます。

*NONE

このユーザーにロケール・パス名は割り当てられません。

*C

このユーザーにCロケール・パス名が割り当てられます。

*POSIX

このユーザーにPOSIXロケール・パス名が割り当てられます。

’パス名’

このユーザーに割り当てられるロケールのパス名を指定してください。

上

ユーザー・オプション (USROPT)

表示するヘルプ情報詳細のレベルおよび省略時の値による前ページまたは次ページ・キーの機能を指定します。システムは、不慣れなユーザーに適切な数画面を表示します。もっと経験のあるユーザーは詳細を表示するために追加の処置を実行しなければなりません。このパラメーターに値を指定すると、システムは経験のあるユーザーによるさらなる処置なしで詳細情報を示します。

単一値

***NONE**

詳細情報は表示されません。

その他の値

***CLKWD**

制御言語(CL)コマンドのプロンプトが表示される時に、指定できるパラメーター値の代わりに、パラメーター・キーワードが表示されます。

***EXPERT**

詳細情報が表示されるのは、ユーザーがシステムを定義または変更するための表示および編集オプション（オブジェクト権限の編集または表示など）を実行中です。

***ROLLKEY**

前ページおよび次ページ・キーの処置を逆にします。

***NOSTMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときには表示されません。

***STMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときに表示されます。

***HLPFULL**

ヘルプ・テキストはウィンドウではなく全画面に表示されます。

***PRTMSG**

このユーザーのスプール・ファイルを印刷するか、印刷装置書出プログラムによって保留されるときは、メッセージはこのユーザーのメッセージ待ち行列に送られます。

上

ユーザーID番号 (UID)

このユーザー・プロファイルのユーザーID番号(UID番号)を指定します。このUID番号は、ユーザーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのユーザーを識別するために使用されます。ユーザーのUID番号は、そのユーザーの1つ以上の活動ジョブがある場合は、変更することができません。

***GEN** ユーザーのUID番号が生成されます。システムは、他のユーザー・プロファイルにまだ割り当てられていないUID番号を生成します。生成されるUID番号は100より大きくなります。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるUID番号を指定してください。1から4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるUID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

上

グループID番号 (GID)

このユーザー・プロファイルのグループID番号(GID番号)を指定してください。このGID番号は、グループのメンバーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのグループ・プロファイルを識別するために使用されます。ユーザーのGID番号は次の場合には変更することができません。

- ユーザー・プロファイルがディレクトリー内のオブジェクトの1次グループである。
- ユーザーには1つ以上のアクティブ・ジョブがあります。

*NONE

ユーザーがGID番号を持っていないか、またはGID番号が除去されています。

***GEN** ユーザーのGID番号が生成されます。システムは、他のユーザーにまだ割り当てられていないGID番号を生成します。生成されるGID番号は100より大きくなります。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるGID番号を指定してください。1から4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるGID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

上

ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)

このユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリーのパス名を指定します。ホーム・ディレクトリーはユーザーの初期作業用ディレクトリーです。処理に関連付けられた作業用ディレクトリーは、スラッシュ(/)で始まっていないパス名について、ディレクトリー・ファイル・システムでパス名の解決のために使用されます。ユーザーのサインオン時に指定されたホーム・ディレクトリーが存在しない場合には、ユーザーのホーム・ディレクトリーはルート(/)ディレクトリーとなります。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

*USRPRF

ユーザーに割り当てられるホーム・ディレクトリーは/HOME/USRPRFで、この場合のUSRPRFはユーザー・プロファイルの名前です。

’パス名’

このユーザーに割り当てるホーム・ディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

上

EIM関連 (EIMASSOC)

EIM（エンタープライズ識別マッピング）関連をこのユーザーのEIM IDに追加するかどうかを指定します。

注。

1. この情報はユーザー・プロファイルに保管されません。この情報は、ユーザー・プロファイルと一緒に保管または復元されません。
2. このシステムがEIM用に構成されていない場合は、無処理です。EIM操作を実行できないと、コマンドが失敗する原因になります。

単一値

*NOCHG

EIM関連は追加されません。

要素1: EIM ID

この関連のEIM IDを指定します。

*USRPRF

EIM IDの名前はユーザー・プロファイルと同じ名前です。

文字値 EIM IDの名前を指定してください。

要素2: 関連タイプ

関連のタイプを指定します。I5/OSユーザーのターゲット関連を追加することをお勧めします。

ターゲット関連は、既存データを保護するために主として使用されます。それらはマッピング・ルックアップ操作（つまり、EIMGETTARGETFROMSOURCE()）の結果として見つかりますが、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用することはできません。

ソース関連は主として確認の目的のためにあります。それらは、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用できますが、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

管理関連は、識別がEIM IDと関連付けられていることを示すために使用されますが、マッピング・ルックアップ操作のソースとして使用することはできず、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

*TARGET

ターゲット関連を処理します。

*SOURCE

ソース関連を処理します。

*TGTSRC

ターゲット関連とソース関連を両方とも処理します。

*ADMIN

管理関連を処理します。

*ALL すべての関連タイプを処理します。

要素3: 関連アクション

***REPLACE**

指定されたタイプの関連は、このユーザー・プロファイルおよびローカルEIMレジストリーの関連があるすべてのEIM IDから除去されます。新規関連は指定されたEIM IDに追加されることとなります。

***ADD** 関連を追加します。

***REMOVE**

関連を除去します。

要素4: EIM IDの作成

EIM IDがまだ存在していない場合は、それを作成するかどうかを指定します。

***NOCRTEIMID**

EIM IDを作成しません。

***CRTEIMID**

EIM IDが存在していない場合は作成します。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

上

例

例1:ユーザー・プロファイルの作成

```
CRTUSRPRF  USRPRF(JJADAMS)  PASSWORD(S1CR2T)  SPCAUT(*SAVSYS)
           INLPGM(ARLIB/DSPMENU)
```

このコマンドは、ユーザー名JJADAMSおよびパスワードS1CR2Tをもつユーザー・プロファイルを作成します。サインオン後に、ARLIBライブラリー内のDSPMENUという名前のプログラムが呼び出されます。ユーザー

ザーにはシステム保管特殊権限が認可されます。他のパラメーターが指定されていなかったのに、(1)プロフィールには、所有永続オブジェクト用に割り当てられた記憶域の容量についての制限はありません。(2)スケジューリング優先順位3は、ユーザーのジョブのすべてがもてる最高の優先順位です。(3)ユーザー定義の記述テキストはブランクです。(4)このユーザー・プロフィールと関連付けられたグループ・プロフィールはありません。さらに、(5)他のユーザーに対するユーザー・プロフィールの権限は何も認可されていません。

例2:同じユーザー名およびパスワードをもつユーザー・プロフィールの作成

```
CRTUSRPRF  USRPRF(TMSMITH)  MAXSTG(12)  INLPGM(PROGMR/CALC)
           TEXT('TED SMITH, DEPT 410, APPLICATION PROGRAMS')
```

このコマンドは、ユーザー名TMSMITHをもつユーザー・プロフィールを作成します。パスワードが指定されていなかったのに、パスワードもTMSMITHです。ユーザーが全オブジェクトに使用できる最大永続記憶域スペースは12K（または12,288バイト）です。サインオンの後で呼び出される初期プログラムは、PROGMRという名前のライブラリー内にあるCALCです。テキスト・パラメーターでは、ユーザー名、部門、および部門名を指定します。省略時の値は他のパラメーターに割り当てられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22CE

&1の値&2は別のユーザー・プロフィールで使用されている。

CPF22CF

このユーザー・プロフィールをグループ・プロフィールとすることはできない。

CPF22DB

変更するユーザー・プロフィールにGIDがなければならない。

CPF22DF

ユーザー・プロフィール&1に対する要求を処理することができない。

CPF22EB

ユーザー・プロフィール&1に対する要求を処理することができない。

CPF22E1

USROPTパラメーターに*STSMMSGと*NOSTSMMSGを指定することはできない。

CPF22F1

コード化文字セット識別コード&1は正しくない。

CPF22F3

&1は許されないLMTCPB値を指定しました。

CPF22F5

新規パスワードの値はパスワード・レベル&2の時は使用できません。

CPF2202

ユーザー・プロフィールを作成する権限をもっていない。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

- CPF2213**
ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。
- CPF2214**
ユーザー・プロファイル&1はすでに存在している。
- CPF2225**
内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。
- CPF224A**
ユーザー・プロファイル&1はGIDをもつことはできず、グループのメンバーでなければならない。
- CPF2242**
タイプ*&2のオブジェクト&1がライブラリー・リストに見つからなかった。
- CPF2244**
タイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。
- CPF225A**
USRPRFおよびSUPGRPPRFパラメーターの両方にユーザー・プロファイル名が指定されている。
- CPF2259**
グループ・プロファイル&1が見つからない。
- CPF2260**
ユーザー・プロファイル&2は作成または変更されなかった。理由コードは&3です。
- CPF2261**
OWNERまたはGRPAUTの値は許されない。
- CPF2262**
GRPAUTの値が正しくない。
- CPF2269**
*SECADMまたは*AUDITを認可する時には特殊権限*ALLOBJが必要である。
- CPF2272**
ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。
- CPF2291**
ユーザー・プロファイルは、認可するすべての特殊権限をもっていない。
- CPF2292**
ユーザー・プロファイルを作成または変更するためには*SECADMが必要である。
- CPF2293**
ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。

上

妥当性検査リストの作成 (CRTVLDL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

妥当性検査リスト作成(CRTVLDL)コマンドは、妥当性検査リストを作成します。妥当性検査リストには、ID,記憶時にシステムによって暗号化されるデータ、およびフリー・フォーム・データから構成される項目が入っています。項目を追加、変更、除去、検索し、その妥当性を検査することができます。項目の妥当性は、正しい項目ID および暗号化されるデータを指定することによって検査されます。妥当性検査リストの使用方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
VLDL	妥当性検査リスト	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *USE, *CHANGE, *ALL	オプション

上

妥当性検査リスト (VLDL)

作成する妥当性検査リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 妥当性検査リスト

名前 妥当性検査リスト・オブジェクトに割り当てられる名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

妥当性検査リストは、現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 妥当性検査リストが作成されるライブラリーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

作成する妥当性検査リストを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定権限をもっていないくて、権限リスト上に存在せず、そのグループ・プロファイルまたは追加グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに付与しようとする権限。

*EXCLUDE

排他権限は、ユーザーがオブジェクトをアクセスできないようにします。

***USE** 使用権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目の検索と妥当性検査を実行することができます。

*CHANGE

変更権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目を追加、変更、除去、検索し、その妥当性を検査することができます。

***ALL** 全権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目を追加、変更、除去、検索して、その妥当性を検査し、また、妥当性検査リストを削除することができます。

名前 オブジェクトに対する権限用を使用する権限リストの名前。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTVLDL  VLDL(WEBLIB/WEBUSRS)  AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('MY WEB USERS')
```

このコマンドは、WEBLIBライブラリー内で妥当性検査リスト(WEBUSRS)を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2183

オブジェクト&1をライブラリー&3に移動することができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9819

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

上

WSCSTの作成 (CRTWSCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって、ユーザーはライブラリーにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *WSCST	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, *SRCMBRTXT	オプション
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QXTSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

作成するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトが作成される場所のライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

オブジェクト名

作成されるオブジェクトの名前を指定します。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

テーブル属性を含むソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*WSCST

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト名がソース・メンバー名として使用されることを指定します。

ソース・ファイル・メンバー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの作成に使用される、SRCFILE パラメーターに指定されたソース・ファイル中のメンバーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明したテキストを指定します。このパラメーターの詳細説明については、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の「付録A. パラメーターの詳細説明」に示されています。

考えられる値は、次の通りです。

*SRCMBRTXT

テキストは、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーから取り入れられます。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' オブジェクトの記述を指定します。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

カスタマイズ・テーブル属性を含むソース・ファイル・メンバーが存在しているソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルが存在していない場合には、エラー・メッセージが表示されます。ソース・ファイルのコード化文字セットIDは*HEXでなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QTXTSRC

IBM提供ソース・ファイルQTXTSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通認可はターゲット・ライブラリー（そのオブジェクトを入れるライブラリー）のCRTAUT値から取られます。この値はオブジェクトの作成時に決められます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。ユーザーは、オブジェクトに対する基本的な機能を変更および実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーは、ファイルの存在を制御し、ファイルの機密保護を指定し、ファイルを変更し、ファイルに対する基本的な機能を実行することができます。ユーザーはファイルの所有権を移すことができます。

USE** ユーザーはプログラムの実行またはファイルの読み取りなどの基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。USE**権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることができません。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

既存のオブジェクトを置き換えるかどうかを指示します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 既存のワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを置き換えます。

*NO 既存のワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを置き換えません。

上

例

CRTWSCST WSCST(MYLIB/MYWSCOBJ)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに名前MYWSCOBJのワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

CLソース変換 (CVTCLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLソース仕様変換(CVTCLSRC)コマンドは、制御言語(CL)ソース仕様コードを、システム/38構文からi5/OSで使用される構文に変換するために使用されます。次のものが変換されます。

- システム/38のオブジェクト名.ライブラリー名は、
 - ライブラリー名/オブジェクト名に。
- システム/38のジョブ名.ユーザー名.ジョブ番号は、
 - ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名に。
- 注釈開始文字: (*)から(*)へ
- コマンド名
- キーワードの名前および値
- コマンドで脱落している必須パラメーターは、追加の必要があることがあります。

ユーザー定義のコマンドの変換は、修飾名の再編成と、注釈の構文の修正のみに限定されます。

CVTCLSRCコマンドは、ソース・ファイルの変換の成功または失敗を示す報告書を作成します。この報告書は、'CVTCLSRC'という名前の印刷装置ファイルに入れられます。システム/38ソースの正常な変換は、そのメッセージとともに報告書に注記されます。

CPF0786 メンバーが変換されました。

正常に行なわれない変換では、エラー・メッセージが印刷されます。変換できない機能および報告書にエラー・メッセージとして印刷されることがあるいくつかの例は次の通りです。

STMT# CPF0785 コマンドを変換することはできません。
STMT# CPF0789 キーワードを変換することはできません。

変換の成功または失敗に基づいて報告書进行处理するために、スプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドなどを使用して、プログラムを作成することができます。

制約事項: 変換およびサポートされていない機能の検出をサポートするためには、システムにライブラリーQSYS38が存在していなければなりません。サポートされないコマンド名、キーワード名、またはキーワード値のあるコマンドは変換されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 3

上

FROMファイル (FROMFILE)

構文を変換するシステム/38 CLソース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOファイル (TOFILE)

変換したCLソースを入れるファイルを指定します。これは、FROMFILEパラメーターに指定された名前とは異なるものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバー (FROMMBR)

FROMファイル (**FROMFILE**)パラメーターに指定されたファイルのメンバーのうち、変換されるメンバーを指定します。

***ALL** 指定されたソース・ファイルのすべてのメンバーが変換されます。

総称名 変換するメンバーの総称名を指定してください。

名前 変換するメンバーの名前を指定してください。最大50個の名前を指定することができます。変換済みソース・メンバーのメンバー名は、**FROMFILE**パラメーターに指定されたファイルの未変換のソース・メンバーのメンバー名と同じであることに注意してください。

上

例

```
CVTCLSRC FROMFILE(OLDLIB/FILEA) TOFILE(NEWLIB/FILEB)
          FROMMBR(PGM1 PGM2 PGM3)
```

このコマンドは、ライブラリーOLDLIBにあるシステム/38ソース・ファイル(FILEA)の3つのメンバー(PGM1, PGM2, PGM3)を、System i5ソース・ファイルに変換します。変換されたソース・ファイル・メンバーは、ライブラリーNEWLIB内のFILEBに入れられます。変換されたメンバーは、それぞれ元のメンバー名(PGM1, PGM2,およびPGM3)を保存します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF0781

ライブラリー&2のファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF0784

指定した受け取りファイルが取り出しファイルと同じである。

上

日付形式変換 (CVTDAT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

日付形式変換(CVTDAT)コマンドは、日付の値の形式を別の形式に変換します（値自体は変わりません）。このコマンドでは、旧形式の中で使用されている日付区切り記号は無視されますが、変換結果に区切り記号を含める場合には、コマンドで区切り文字を指定することができます。

有効な日付だけを変換することができます。変換前の形式または変換後の形式が年を指定するのに2桁だけを使用する場合（たとえば*MDY, *DMY, *YMD,または*JUL）には、有効な日付は1940年1月1日から2039年12月31日までの範囲です。そうでない場合には、有効な日付は1928年8月24日から2071年5月9日の範囲です。年が2桁だけで指定される場合には、40から99の範囲は1940から1999と見なされ、00から39の年は2000から2039と見なされます。このコマンドは、QLEAPADJシステム値と一緒に機能します。

制約事項:このコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャー内でのみ有効です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DATE	変換される日付	文字値	必須, 定位置 1
TOVAR	変換された日付のCL変数	文字値	必須, 定位置 2
FROMFMT	開始日付形式	*SYSVAL, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *JOB, *MDYY, *DMYY, *YYMD, *CYMD, *ISO, *USA, *EUR, *JIS, *LONGJUL	オプション, 定位置 3
TOFMT	終了日付形式	*SYSVAL, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *JOB, *MDYY, *DMYY, *YYMD, *CYMD, *ISO, *USA, *EUR, *JIS, *LONGJUL	オプション, 定位置 4
TOSEP	終了日付区切り文字	*SYSVAL, *NONE, *JOB, *BLANK, ' ', '!', ':', '.', ','	オプション, 定位置 5

上

変換される日付 (DATE)

変換される日付が入っている定数またはCL変数を指定します。区切り文字が入っている定数が指定された時には、それを単一引用符で囲む必要があります（変換では、区切り文字は無視される）。定数で区切り記号を使用する場合には、日付の各部分の先行ゼロを省略することができます（3/3/88または03/03/88は両方とも有効である）。変数が指定される場合には、日付タイプとその日付区切り記号（使用される場合）を入

れることができる長さでなければなりません。日付区切り記号として使用できる文字は、スラッシュ(/)、ハイフン(-)、ピリオド(.)、およびコンマ(,)です。すべてブランクを含む変数(X'40')は、長さゼロの日付と見なされ、これは無効です。

これは必須パラメーターです。

上

変換された日付のCL変数 (TOVAR)

変換後の日付の値を入れるCL変数の名前を指定します。

年間通算日を除くどの形式でも、変換結果の月と日のサブフィールドはそれぞれ2バイトの長さで、右寄せにされ、2バイトのフィールドとするために必要であれば埋め込み文字として先行ゼロが使用されます。

年間通算日および長年間通算日形式の場合には、日フィールドは3バイトの長さで、必要であればゼロが埋め込まれます。年フィールドの長さは年間通算日の場合は2バイトで、長年間通算日の場合は4バイトです。

以下の表を使用して、変数の必要最小長を決定してください。

フィールドのサイズと変数の最小長

TO FMT	TO SEP	変数の最小長
*JUL	*NONE	5
*JUL	任意	6
*MDY, *DMY, *YMD	*NONE	6
*MDY, *DMY, *YMD	任意	8
*MDYY, *DMYY, *YYMD	*NONE	8
*MDYY, *DMYY, *YYMD	任意	10
*CYMD	*NONE	7
*CYMD	任意	9
*LONGJUL	*NONE	7
*LONGJUL	任意	8
*ISO, *USA, *EUR, *JIS		10
*JOB		ジョブの日付形式によって決まります
*SYSVAL		QDATFMTの値によって決まります

TO FMT	フィールド・サイズ		
	月	日	年
*JUL	N/A	3	2
*MDY, *DMY, *YMD	2	2	2
*MDYY, *DMYY, *YYMD	2	2	4
*ISO, *USA, *EUR, *JIS	2	2	4
*CYMD	2	2	2 (+1バイトの世紀フィールド)

これは必須パラメーターです。

上

開始日付形式 (FROMFMT)

変換する日付の現在の形式を指定します。

***JOB** 日付はジョブ属性DATFMTによって指定された形式となります。

***SYSVAL**

日付はシステム値QDATFMTによって指定された形式となります。

***MDY** 日付は月日年の形式MMDDYYとなります。

***MDYY**

日付は月日年の形式MMDDYYYYとなります。

***DMY** 日付は日月年の形式DDMMYYとなります。

***DMYY**

日付は日月年の形式DDMMYYYYとなります。

***YMD** 日付は年月日の形式YYMMDDとなります。

***YYMD**

日付は年月日の形式YYYYMMDDとなります。

***CYMD**

日付は世紀, 年, 月, 日の形式CYMMDDとなります。ここで, Cは1928から1999年の場合は0,2000から2071年の場合は1です。

***JUL** 日付は年間通算日形式YYDDDとなります。

***ISO** 日付は国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDとなります。

***USA** 日付は米国日付形式MM/DD/YYYYとなります。

***EUR** 日付は欧州日付形式DD.MM.YYYYとなります。

***JIS** 日付は日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDとなります。

***LONGJUL**

日付は長年間通算日形式YYYYDDDです。

上

終了日付形式 (TOFMT)

変換後の日付の形式を指定します。

***JOB** 日付の形式はジョブ属性DATFMTで指定された形式に変換されます。

***SYSVAL**

日付形式はシステム値QDATFMTによって指定された形式に変換されます。

***MDY** 日付形式は月日年の形式MMDDYYに変換されます。

***MDYY**

日付形式は月日年の形式MMDDYYYYに変換されます。

***DMY** 日付形式は日月年の形式DDMMYYに変換されます。

***DMYY**

日付形式は日月年の形式DDMMYYYYに変換されます。

***YMD** 日付形式は年月日の形式YYMMDDに変換されます。

***YYMD**

日付形式は年月日の形式YYYYMMDDに変換されます。

*CYMD

日付形式は世紀、年、月、日の形式CYYMMDDに変換されます。Cは1928から1999年の場合は0,2000から2071年の場合は1です。現行形式の年が2桁のみである場合には、Cは40から99の場合は0,00から39の場合は1にセットされます。

*JUL 日付形式は年間通算日形式YYDDDに変換されます。

*ISO 日付形式は国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDに変換されます。

*USA 日付形式は米国日付形式MM/DD/YYYYに変換されます。

*EUR 日付形式は欧州日付形式DD.MM.YYYYに変換されます。

*JIS 日付形式は日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDに変換されます。

*LONGJUL

日付は長年間通算日形式YYYYDDDです。

上

終了日付区切り文字 (TOSEP)

変換日（存在する場合）で使用する日付区切り記号のタイプを指定します。

*JOB 変換後の日付では、ジョブ属性DATSEPによって指定された区切り記号が使用されます。

*SYSVAL

変換後の日付では、システム値QDATSEPによって指定された区切り記号が使用されます。

*NONE

変換後の日付では区切り記号は使用されません。

*BLANK

変換後の日付では、ブランク・スペースが日付区切り記号として使用されます。

区切り文字

変換後の日付の中で日付区切り記号として使用する文字を指定してください。区切り記号として使用できる文字は、スラッシュ(/)、ハイフン(-)、ピリオド(.)、およびコンマ(,)です。

上

例

例1: DMY形式への変換

```
DCL VAR(&DATE) TYPE(*CHAR) LEN(8)
:
CVTDAT DATE('12-24-88') TOVAR(&DATE) TOFMT(*DMY)
```

このコマンドは日付12-24-88を変換します。この日付はMDY形式です。FROMFMTパラメーターが指定されていないので、その省略時値*JOBによって、ジョブ属性DATFMTがMDY形式を含むことが指示されます。日付はDMY形式に変換され、ジョブ属性DATSEPに指定された区切り文字が挿入されます。DATSEPがスラッシュを含んでいれば、変換結果は24/12/88になります。

例2: ジョブ属性によって指定された形式への変換

```

DCL  &PAYDAY  *CHAR  6
DCL  &NEWPDAY *CHAR  6
:
CVTDAT  DATE(&PAYDAY)  TOVAR(&NEWPDAY)
        FROMFMT(*YMD)  TOSEP(*NONE)

```

このコマンドは、&PAYDAYに入っている日付の形式を、年、月、日からジョブ属性DATFMTによって指定された形式に変換します。例えば、DATFMTにMDY形式が入っていると、変換された日付の形式は月、日、および年になります。変換された日付は、変数&NEWPDAYに入れられます。&NEWPDAYは6文字の変数として宣言されているので、TOSEP(*NONE)が必要であり、変換結果は区切り文字を含むことができません。

例3: CYMD形式への変換

```

DCL  &NEWDAY1  *CHAR  7
DCL  &NEWDAY2  *CHAR  7
:
CVTDAT  DATE('01/24/1939')  TOVAR(&NEWDAY1)
        FROMFMT(*MDYY)  TOFMT(*CYMD)  TOSEP(*NONE)
CVTDAT  DATE('01/24/39')  TOVAR(&NEWDAY2)
        FROMFMT(*MDY)  TOFMT(*CYMD)  TOSEP(*NONE)

```

最初のCVTDATコマンドは、DATEパラメーターに指定された日付を、月、日、4桁の年の形式から世紀、年、月、日の形式に変換します。年は4桁で指定されており、最初の2桁は"19"なので、世紀桁は"0"に設定され、したがって"NEWDAY1の値は"0390124"になります。

2番目のCVTDATコマンドは、DATEパラメーターに指定された日付を、月、日、年の形式から世紀、年、月、日の形式に変換します。年は2桁だけで指定されており、年は40より小さいので、世紀桁は"1"に設定され、したがって"NEWDAY2の値は"1390124"になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0550

指定した形式では日付が短すぎる。

CPF0551

日付の区切り記号が正しくない。

CPF0552

日付に、位置が正しくないかあるいは余分な区切り記号がある。

CPF0553

日付の数字が多すぎるか少なすぎる。

CPF0554

変換した日付形式に指定した変数が短すぎる。

CPF0555

日付が指定形式になっていないか、あるいは日付が正しくない。

CPF0556

日付に2種類以上の区切り記号が入っている。

CPF0557

日付が使用可能な範囲外になっている。

上

ディレクトリー変換 (CVTDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー変換 (CVTDIR)コマンドは、統合ファイル・システムのディレクトリーを*TYPE1形式から*TYPE2形式に変換する処理を行います。"ルート"(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのディレクトリーは、*TYPE2ディレクトリーをサポートします。*TYPE2ディレクトリーは、*TYPE1形式のディレクトリーに比べて、パフォーマンス、サイズ、および信頼性について最適化されています。

CVTDIRコマンドはファイル・システムの現行ディレクトリー形式を提供することができ、ディレクトリー変換機能の優先順位も変更できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OPTION	オプション	*CHECK, *CHGPTY	必須, 定位置 1
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME, *DFT	オプション
FILESYS	ファイル・システム	*NONE, *ROOT, *QOPENSYS, *UDFS, *ALL	オプション
FORMAT	形式	*TYPE2, *TYPE1	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *EXTENDED	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32	オプション

上

オプション (OPTION)

実行する機能を指定します。

*CHECK

現在システム上にあるファイル・システムを検査して、それらの現行ディレクトリー形式を判別します。メッセージCPIA084が、"ルート"(/),およびQOPENSYSファイル・システム、および現行のディレクトリー形式を識別するシステム上のすべての活動補助記憶域プールに送られます。

*CHGPTY

ディレクトリー変換機能の実行優先順位を変更します。

上

実行優先順位 (RUNPTY)

ディレクトリー変換機能の新しい実行優先順位を指定します。これは、OPTION(*CHGPTY)が使用されている場合に指定しなければなりません。

注: ディレクトリー変換機能の新しい実行優先順位が有効になる前に遅延することがあります。

*SAME

実行優先順位は変更されません。

*DFT 実行優先順位はシステムの省略時値にリセットされます。

1から99

ディレクトリー変換機能の実行優先順位を指定してください。

上

ファイル・システム (FILESYS)

このパラメーターはもはやサポートされていないので、無視されます。これは、I5/OSのバージョン5リリース4モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が厳重に保たれています。

上

形式 (FORMAT)

このパラメーターはもはやサポートされていないので、無視されます。これは、I5/OSのバージョン5リリース4モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が厳重に保たれています。

上

詳細 (DETAIL)

このパラメーターはもはやサポートされていないので、無視されます。これは、I5/OSのバージョン5リリース4モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が厳重に保たれています。

上

補助記憶域プールID (ASP)

このパラメーターはもはやサポートされていないので、無視されます。これは、I5/OSのバージョン5リリース4モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が厳重に保たれています。

上

例

例1:ディレクトリー形式情報の検査

```
CVTDIR OPTION(*CHECK)
```

このコマンドは、ファイル・システムの現行ディレクトリー形式を表示します。

例2:ディレクトリー変換機能の実行優先順位の変更

```
CVTDIR OPTION(*CHGPTY) RUNPTY(50)
```

このコマンドは、ディレクトリー変換機能の実行優先順位を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9890

機能がサポートされていない。要求は拒否されます。

CPFA099

要求されたディレクトリー変換オプションは実行できません。

CPFA09A

ディレクトリー変換中にエラーが起きました。

上

DLS名の変換 (CVTDLSNAM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・サービス名変換(CVTDLSNAM)コマンドは、QDLS（文書ライブラリー・サービス・ファイル・システム）によってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDの変更の前または後に使用されます。このコマンドは、CCSIDの変更のために異なるものとなったQDLSオブジェクト名の識別を助け、QDLSオブジェクトの名前を変更して元の名前を残すようにすることができます。また、QDLSと別のファイル・システムの間でコピーされた時にその名前が変更されたオブジェクトの名前を訂正することもできます。このコマンドは、選択したオブジェクトとそれらのオブジェクトに行なわれたアクションをリストするジョブのスパール出力によって報告書を印刷します。

EBCDICから（またはEBCDICへ）のオブジェクト名の変換時に、QDLSはジョブの省略時CCSIDを使用します。ただし、データ域QUSRSYS/QODEC500が存在する場合には、QDLSはCCSID 500を使用します（データ域によって、QDLSの前のバージョンの状態に戻すことができます）。したがって、QDLSによって使用されるCCSIDはデータ域を作成または削除し、あるいは（データ域が存在しない場合には）ジョブの省略時CCSIDを変更することによって変更されます。

CCSIDは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントによるQDLSオブジェクト名のビューに影響を与えるので、オブジェクト名をEBCDICから（またはEBCDICに）変換しなければなりません。これらのクライアントに次のものが含まれます。

- DSPLNK, CPY, MOV, およびRNMなどの統合ファイル・システム・コマンド
- 統合ファイル・システムによって提供されるアクセス、オープン、名前変更、およびリンク解除などのUNIXタイプのAPI
- IBM System i Access for Windows

CCSIDは、直接EBCDICオブジェクト名を処理するQDLSのクライアントには影響を与えません。

- CRTDOC, CPYDOC, WRKDOC, CRTFLR, WRKFLR, DLTDLO, およびRNMDLOなどの文書およびフォルダー・コマンド
- QHFDLTSF, QHFOPNDR, QHFOPNSF, およびQHFRNMSFなどの階層ファイル・システム(HFS)のAPI

CCSIDは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントの場合であっても問題にしません。ただし、EBCDICのクライアントによっても使用されるオブジェクトを除きます。その場合には、QDLSオブジェクト名は、その名前に可変文字が入っていてクライアントが別のCCSIDを使用している場合には、異なってしまうことがあります（統合ファイル・システムのクライアントはすでに述べたようにCCSIDを使用し、EBCDICのクライアントはジョブの省略時CCSIDを使用する傾向があります）。

制約事項:

- オブジェクト・リンクを含むディレクトリーに対して読み取り(*R)権限、およびパス中の他のディレクトリーに対して実行(*X)権限が必要です。
- オブジェクトの名前を変更する場合には、RNMコマンドからの追加の権限の制約が適用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*OBJ , *DIR , *ALL	オプション
ACTION	処置	*LIST , *RENAME	オプション
PREVIEW	結果の事前表示	*NO , *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65535, 500 , *JOB , *SYSVAL , *HEX	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65535, *JOB , *SYSVAL , *HEX	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

処理するオブジェクトを指定します。最大300のパス名を指定できますが、すべてのパスが同じファイル・システムに対するものでなければなりません。それぞれのパス名は、単純名かまたはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にはパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の文字数と一致し、疑問符(?)は1文字と一致します。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

CVTDLSNAMコマンドは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントです。すなわち、そのオブジェクト名のビューはEBCDICのクライアントのビューと異なることがあります。したがって、オブジェクト名を指定する際には注意してください。通常は、可変文字の代わりに総称文字を使用すれば安全です (たとえば、オブジェクト名としてX!XでなくX?Xを指定します)。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを処理するかどうかを指定します。

***OBJ** 所定のパス名と一致するオブジェクトだけが処理されます。パス名がディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリー内のオブジェクトは処理されません。

***DIR** 所定のパス名と一致するそれぞれのディレクトリーの最初のレベルのオブジェクトが処理されます。

***ALL** 所定のパス名と一致するそれぞれのディレクトリーのサブツリー全体が処理されます。

上

処置 (ACTION)

選択したオブジェクトに実行するアクションを指定します。

***LIST** QDLSの場合には、この値は、QDLSによってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDが指定の古い値から指定の新しい値に変更された場合に異なる名前を持つとみられる選択したオブジェクトをリストします。他のファイル・システムの場合には、この値は、QDLSからコピーされた後で、予期しない値を持つ選択したオブジェクトをリストし、この場合には指定したCCSIDは使用されません。

***RENAME**

選択したオブジェクトの名前を訂正します。1つのオブジェクトに*RENAMEが複数回使用された場合には、その結果は意味を持たないものとなる可能性があります。

一部のオブジェクトでは、新しい名前がすでに存在するなどの場合に、要求時に名前変更が失敗する場合があります。しかし、コマンドはすぐには失敗となりません。残りのオブジェクトの処理が続行されます。

QDLSの場合には、*RENAMEによってオブジェクト名は、QDLSによってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDが指定の古い値から指定の新しい値に変更された後で、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントに変更される前と同じに表されます。

他のファイル・システムの場合には、指定したオブジェクトは、指定の古いCCSID で作成されたと見なされ、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントによってQDLSからコピーされると、指定の新しいCCSIDを使用して暗黙に名前変更されます。*RENAMEによって、オブジェクトの名前は元のQDLSオブジェクトの名前と同じになるように変更されます。

注: 名前変更の効果は、別のCCSIDによる名前変更で逆転して取り消すことができます。たとえば、FROMCCSID(500)およびTOCCSID(273)を使用して名前変更を行った場合には、元の名前(1つまたは複数)はFROMCCSID(273)およびTOCCSID(500)を使用した名前変さらによって復元することができます。

上

結果の事前表示 (PREVIEW)

選択したアクションの結果を事前表示するかどうかを選択します。

***NO** 選択した処置を実行します。

***YES** 選択したアクションを抑制して、結果がどのようなようになるかを報告します。この値を使用できるのは、ACTION(*RENAME)が指定されている場合だけです。

上

変換元CCSID (FROMCCSID)

EBCDICオブジェクト名のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。ACTIONが*LISTである場合には、QDLS以外のファイル・システムのオブジェクトを処理するときに、この値は無視されます。

500 CCSID 500が使用されます。これはQDLSの前のバージョンで使用されるCCSIDです。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEXまたは65535**

QDLSによって現在想定されているEBCDICオブジェクト名のCCSIDが使用されます。

1から65535

使用するCCSIDを指定してください。有効なCCSIDの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。

上

変換先CCSID (TOCCSID)

QDLSによって想定されているEBCDICオブジェクト名のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。ACTIONが*LISTである場合には、QDLS以外のファイル・システムのオブジェクトを処理するときに、この値は無視されます。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEXまたは65535**

別のジョブが別のCCSIDを使用する場合などに、新しいCCSIDが不明です。この値はACTION(*RENAME)と一緒に使用することはできません。

1から65535

使用するCCSIDを指定してください。有効なCCSIDの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。

上

例

例1: CCSID変更の影響の及んだQDLSオブジェクトのリスト

オペレーティング・システムの新規リリースがインストールされていて、現在QDLSは、EBCDICオブジェクト名に対してCCSID 500の代わりにジョブの省略時のCCSIDを想定します。現在、ジョブのCCSIDは37に設定されています。次のコマンドは、QDLSの統合ファイル・システム・クライアントに対する新規名を事実上もっていないオブジェクトを識別するために使用されます。ACTION, FROMCCSID,およびTOCCSIDパラメーターには、この場合は省略時の値が指定されているので、すべてがコマンドから省略済みでもかまわないことに注意してください。

```
CVTDLSNAM OBJ('/QDLS') SUBTREE(*ALL) ACTION(*LIST)
          FROMCCSID(500) TOCCSID(37)
```

以下のような出力が生成されると考えられます。

```
/QDLS/FLRA/X? --> X!
/QDLS/FLRB/X! --> X|
```

各行には、CCSID 500およびCCSID 37を使用しているクライアントが見える通りにオブジェクトの2つの名前が表示されています (TOCCSIDが*HEXになっている2番目の名前は表示されません)。出力には、2つのオブジェクトには前提したCCSIDの変更による影響が及んでいることが示されています。変更の前に統合ファイル・システム・クライアントがX?と認識したオブジェクトは、その後はX!と認識され、X!はX|に名前変更されます。

名前X!はX?またはX!のいずれよりも妥当のように思われるので、X!が両方の場合に正しい名前と想定します。最初の場合には、新規名は妥当です。オブジェクトはCCSID 37を使用しているクライアントによってX!として作成されたと推測されます。2番目の場合には、新規名は望ましくありません。たぶん、このオブジェクトはCCSID 500を使用しているクライアントによって作成されました。

例2: CCSID変更に対して調整するためのQDLSオブジェクトの名前変更

上記の例の2番目のオブジェクト名は次のコマンドを使用して訂正されます。この例の場合は、ジョブCCSIDは500（オブジェクト名X!の正しい認識を保障するために必要）です。総称名(X!の代わりに*またはX?など）は同様の状態で使用され、ジョブCCSIDを調整する必要をなくします。

```
CVTDLNAM  OBJ('/QDLS/FLRB/X!') ACTION(*RENAME)
           FROMCCSID(500) TOCCSID(37)
```

以下のような出力が生成されると考えられます。

```
/QDLS/FLRB/X! --> X?
```

また、各行にはオブジェクトの2つの名前が表示されますが、今回は名前は両方ともCCSID 500クライアントに見える内容です。出力には、X!がX?に名前変更されていることが示されています。新規名はCCSID 500クライアント(X?)には誤って表示されることがありますが、CCSID 37クライアント(X!)には望み通りに表示されます。

上

エラー・メッセージ

*STATUS メッセージ

CPI8A22

&1を処理中。

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

上

研修の変換 (CVTEDU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

研修変換(CVTEDU)コマンドは、ライブラリーに記憶されているオンライン研修コースをSystem i5で使用できる形式に変換します。このコマンドにより、モジュールがASCIIからEBCDICに変換されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COURSE	コースID	名前, *ALLADDED	必須, 定位置 1
LNG	言語識別コード	*SYSVAL, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2928, 2929, 2931, 2932, 2933, 2937, 2938, 2939, 2940, 2942, 2950, 2956, 2957, 2958, 2962, 2963, 2961, 2966, 2980, 2981, 2984, 2986, 2987, 2989, 2996	オプション

上

コースID (COURSE)

変換するコースを指定します。

考えられる値は次の通りです。

コースID

コース・モジュールが記憶されているライブラリーの名前を使用して、変換したい特定のコースを指定してください。

*ALLADDED

以前にシステムに追加されたすべてのコースが変換されます。

上

言語識別コード (LNG)

コースを変換するために使用する言語IDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SYSVAL

システムの現在の基本言語設定値が使用されます。

言語ID

システムの言語IDを指定します。この言語IDは、特定の各言語に割り当てられた4桁の数字です。言語のリストおよびその識別番号を表示するためには、言語IDパラメーター・フィールドにカーソルを移動して、コマンド・プロンプト画面が表示された時に、「F4（プロンプト）」キーを押してください。

上

例

CVTEDU COURSE(*ALLADDED)

このコマンドは、研修管理システムを介して以前に追加されたすべてのコースをASCIIからEBCDICに変換します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1D47

CVTEDUコマンドの使用は認可されていない。

CPF1D49

コマンドの処理中に、エラーが起こった。

上

IPアドレスの変換 (CVTIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAインターフェースの変換(CVTIPSIFC)コマンドは、IP (インターネット・プロトコル) アドレスを対応するSNAネットワークIDおよびロケーション名に変換します。IP OVER SNAロケーション項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで定義されたロケーション項目は、入力インターネット・アドレス(INTNETADR)に対応するSNAロケーション名およびSNAネットワークIDを見つけるために検索されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

IPアドレス (INTNETADR)

変換されるローカル・ホストまたはリモート・ホストのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

制約事項:

1. インターネット・アドレスを0で始めることはできません (たとえば, 0.NNN.NNN.NNN)。
2. インターネット・アドレスを127で始めることはできません (たとえば, 127.NNN.NNN.NNN)。このアドレス範囲はTCP/IPループバック・アドレス用に予約されています。
3. インターネット・アドレスをクラスDまたはクラスEアドレスとすることはできません。有効なクラスDアドレスは224.NNN.NNN.NNNから239.NNN.NNN.NNNの範囲です。有効なクラスEアドレスは240.NNN.NNN.NNNから255.NNN.NNN.NNNの範囲です。

上

出力 (OUTPUT)

結果をどこへ戻すかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

例

例1:変換されたIPアドレスの印刷

```
CVTIPSIFC INTNETADR('128.1.2.3') OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、IPアドレス128.1.2.3と関連したSNAネットワークIDおよびロケーション名を検索し、その結果をジョブのスパール出力に書き込みます。

例2:変換されたIPアドレスの表示

```
CVTIPSIFC INTNETADR(128.2.3.4)
```

このコマンドは、IPアドレス128.2.3.4と関連したSNAネットワークIDおよびロケーション名を検索し、その結果を対話式ジョブの画面に書き込みます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA111

IPアドレスは変換されなかった。

CPFA118

関連したSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名が見つからなかった。

上

ネットワーク ID/ロケーションの変換 (CVTIPSLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAロケーション項目変換(CVTIPSLOC)コマンドは、指定されたSNAネットワークIDおよびロケーション名を対応する1つまたは複数のIPアドレスに変換するために使用します。IP OVER SNAロケーション項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで定義されたロケーション項目は、入力SNAロケーション名(LOC)およびSNA ネットワークID (NETID)に対応する1つまたは複数のIPアドレスを見つけるために検索されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NETID	ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	オプション, 定位置 1
LOC	ロケーション名	通信名	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 3

上

ネットワーク識別コード (NETID)

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのSNAネットワークIDを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NETATR

このホストのネットワーク属性のネットワークIDが使用されます。

ネットワークID

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのネットワークIDを指定してください。ネットワークIDの長さは1から8文字とすることができます。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならない、その後0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #,または@が続けられます。

上

ロケーション名 (LOC)

変換されるSNAロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

ロケーション名

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのSNAロケーション名を指定してください。この名前の長さは1から8文字とすることができます。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #,または@が続けられます。

上

出力 (OUTPUT)

結果をどこへ戻すかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

例

CVTIPSLOC LOC(LUNAMEX) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ロケーション名LUNAMEXをネットワーク属性に指定された省略時のネットワークIDで変換し、その結果をジョブのスパール出力に書き込みます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA115

SNAネットワーク識別コードおよびロケーション名は変換されなかった。

CPFA119

関連したIPアドレスが見つからなかった。

上

光ディスク・バックアップ変換 (CVTOPTBKU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・バックアップ変換(CVTOPTBKU)コマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームを光ディスク基本ボリュームに変換します。そうすると、ユーザー・アプリケーションおよびプログラムは変換されたそのボリュームに書き出すことができます。

注: いったん光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームから基本ボリュームに変換された後は、光ディスク・ボリュームを再びバックアップ・ボリュームに変換するためには、その光ディスク・ボリュームを初期設定しなければなりません。光ディスク・ボリュームを初期設定すると、結果的にその光ディスク・ボリューム上のすべての既存の情報が失われることとなります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、変換されるボリュームを保護するために権限リストに対する *ALL権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BKUVOL	バックアップ・ボリュームID	文字値	必須, 定位置 1
PRIVOL	1次ボリューム識別コード	文字値, <u>*PRVPRIVOL</u>	オプション, 定位置 2

上

バックアップ・ボリュームID (BKUVOL)

基本ボリュームに変換される光ディスク・バックアップ・ボリュームのボリュームIDを指定します。

上

1次ボリューム識別コード (PRIVOL)

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームに変換された後で、そのボリュームのIDを指定します。

注: このIDは、使用中のシステム内で固有でなければなりません。光ディスク・ボリューム名の詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

*PRVPRIVOL

新しい基本光ディスク・ボリュームのIDは、以前このボリュームがバックアップであった基本光ディスク・ボリュームのIDと同じです。

光ディスク・バックアップ・ボリュームを最初に使用する時には、システムは基本ボリュームのボリュームIDを媒体に記録します。これは、他の基本ボリュームが同じバックアップ・ボリュームIDを使用できないようにするためです。また、これによって、光ディスク・バックアップ・ボリュームが変換される時点で基本ボリュームの元の名前が分かるようになります。

基本ボリュームID

新しいボリュームIDを指定してください。これは、このコマンドが正常に完了した後のボリュームのIDです。

上

例

```
CVTOPTBKU BKUVOL(VOL01BACKUP) PRIVOL(VOL02)
```

このコマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームVOL01BACKUPを1次光ディスク・ボリュームに変換します。VOL02は、変換後の光ディスク・ボリュームのIDです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT1345

媒体上に使用可能なフリー・スペースがありません。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗しました。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

- OPT1375**
光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。
- OPT1460**
光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。
- OPT1462**
操作が完了していない。光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームではありません。
- OPT1530**
&1は有効な光ディスク装置を表していない。
- OPT1605**
媒体または装置エラーが起きました。
- OPT1790**
操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。
- OPT1805**
光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT1810**
光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT1815**
内部プログラム・エラーが起きました。
- OPT1820**
光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。
- OPT1825**
光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。
- OPT1860**
光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。
- OPT1861**
装置&1に構成された装置記述がない。
- OPT1862**
資源&1に活動状態の装置記述がない。
- OPT1863**
光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。
- OPT1872**
光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。
- OPT2030**
光ディスク・バックアップの変換でエラー。
- OPT2301**
内部システム・オブジェクトが使用中である。
- OPT7740**
ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上

パフォーマンス収集の変換 (CVTPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の変換 (CVTPFRCOL)コマンドは、前のリリースからのパフォーマンス・データを、現行リリースのPerformance Tools for i5/OS (TM)による処理に必要な形式に変換します。

このコマンドは、最初に、データが収集されたリリース・レベルを判別します。次に、必要なすべてのファイルのメンバーが変換されます。変換は、現行データが入っている同じライブラリーで実行することができます。コマンドが異常終了した場合に古いデータが破壊されるリスクを回避するため、データを変換して別のライブラリー(TOLIB)に入れ、後で古いライブラリー(FROMLIB)からデータを削除するようにしてください。

変換が別のライブラリーで実行される場合、古いデータは現行ライブラリー(FROMLIB)に残り、新しいデータは新しいライブラリー(TOLIB)に入ります。新しく変換されるデータ用に新しいライブラリーを指定した場合には、変換する必要がないファイルも含めて、すべてのファイルが新しいライブラリーにコピーされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMLIB	FROMライブラリー	名前	必須、定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須、定位置 2
COLTYPE	収集タイプ	文字値、*CSFILE, *DWFILE, *PEXFILE	オプション

上

FROMライブラリー (FROMLIB)

変換されるファイルが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変換されるファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

TOライブラリー (TOLIB)

変換後のファイルを入れるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変換後のファイルを入れるライブラリーの名前を指定してください。

上

収集タイプ (COLTYPE)

変換される収集のタイプを指定します。

*CSFILE

FROMライブラリー (**FROMLIB**)に指定された、収集サービスのファイル・ベースの収集のみが変換されます。

*PEXFILE

FROMライブラリー (**FROMLIB**)に指定された、Performance Explorerのファイル・ベースの収集のみが変換されます。

タイプ 変換される収集のタイプを指定してください。

有効な値は、システムによってサポートされるパフォーマンス収集によって異なります。このコマンド・パラメーターのプロンプトが表示されている間にF4を押すと、有効な収集タイプ値のリストが表示されます。

上

例

例1:パフォーマンス・データを対話式に変換

```
CVTPFRCOL FROMLIB(MIKE) TOLIB(TERESA)
```

このコマンドは、ライブラリーMIKE中のパフォーマンス・データを変換し、変換が完了した後、ライブラリーTERESAに入れます。この変換は、ユーザーの待機中に対話式に行なわれます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0A0B

パフォーマンス・ツール・ファイルは変換されなかった。

CPF22F7

権限数は1-&1でなければならない。

CPF22FA

権限値&1は正しくない。

CPF22FB

唯一の権限値として*EXCLUDEまたは*AUTLを指定しなければならない。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF4102

メンバー&4を含むファイル&2がライブラリー&3に見つからない。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

PFRスレッド・データの変換 (CVTPFRTHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・スレッド変換(CVTPFRTHD)コマンドは、ジョブ・パフォーマンス・データ・レコードを変換します。これは、STRPFRMON（パフォーマンス・モニターの開始）コマンドにより収集されたデータ、またはCRTPFRTA（パフォーマンス・データの作成）コマンドによって生成されたデータをサポートします。

ファイルQAPMJOBSまたはQAPMJOBの指定されたメンバー(MBRパラメーター)に、スレッド・レベル・パフォーマンス・データを含むレコードが入っています。CVTPFRTHDを使用し、このデータを変換して、結果のレコードをファイルQAPMTJOB内の同じ名前のメンバー(MBRパラメーター)に書き込むことができます。出力ファイル・メンバーには、ジョブ内で実行されるすべてのスレッドのパフォーマンス情報の合計である、ジョブ・レベル・パフォーマンス・データを含むレコードが入れられます。

入力ファイル(QAPMJOBSまたはQAPMJOB)は、LIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在していなければなりません。ファイルQAPMTJOBが指定されたライブラリー (LIBパラメーター) に存在していない場合には、それが自動的に作成されます。指定された名前のファイル・メンバー(MBRパラメーター)が存在していなければ、それが自動的にファイルQAPMTJOBに追加されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
REPLACE	置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

上

メンバー (MBR)

処理されるコレクションが入っている、ファイルQAPMJOBSまたはファイルQAPMJOBのメンバーを指定します。このメンバーは、存在していなければQAPMTJOBファイルに作成され、存在している場合には置き換えられます。

名前 スレッド・レベル・パフォーマンス・データが入っているメンバーの名前を指定してください。

上

ライブラリー (LIB)

入力ファイルが存在し、QAPMTJOBファイルが存在するかまたは作成されるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、入力データベース・ファイルを入れるのに使用されます。

名前 入力データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

置き換え (REPLACE)

ファイルQAPMTJOB内の指定されたメンバーが置き換えられるかどうかを指定します。

***YES** まだメンバーが存在していなければ、メンバーが作成されます。メンバーがすでに存在している場合には、そこに入っているデータが置き換えられます。

***NO** まだメンバーが存在していなければ、メンバーが作成されます。メンバーがすでに存在している場合には、そこに入っているデータは置き換えられないで、エラー・メッセージが通知されます。

上

例

CVTPFRTHD MBR(MYDATA)

このコマンドは、パフォーマンス・データ・レコードを変換します。ライブラリーQPFRDATA中のファイルQAPMJOBまたはファイルQAPMJOBSのメンバーMYDATAには、処理される収集が含まれています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0A83

パフォーマンス・スレッド・データが変換されていない。

CPF0A84

このメンバーはすでに存在している。

CPF0A85

ユーザー・プロファイル&1にはライブラリー&2が認可されていない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ファイルからCコードを生成します。生成されたCコードを使用して、RPCプロトコルを実装することができます。

このコマンドは、UNIXシステムでRPCGENユーティリティを実行するのと同じです。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RPCGEN

制約事項:

- 入力ファイルと出力ファイルの両方のパス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 入力ファイルに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- 出力ファイルのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	FROMファイル	パス名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *XDR, *HDR, *CLTSTUB, *SVRSTUB, *CLTSAMP, *SVRSAMP, <u>*NOSAMP</u>	オプション
PROTOCOL	プロトコル	値 (最大 2 回の繰り返し): <u>*NONE</u> , *TCP, *UDP	オプション
TOFILE	TOファイル	パス名	オプション

上

FROMファイル (FROMFILE)

リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ソース・ファイルのパス名を指定します。入力ソース・ファイルは、ルート(/)またはQOPENSYSファイル・システム内のファイルでなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オプション (OPTION)

コンパイル・オプションを指定します。

***NOSAMP**

サンプル・ファイル(*CLTSAMPおよび*SVRSAMP)以外のすべてのファイル・タイプが生成されません。

***ALL** すべてのファイル・タイプが生成されます。

***XDR** 入力ファイルは、XDR（外部データ表示形式）ルーチンにコンパイルされます。

***HDR** 入力ファイルは、Cデータ定義（ヘッダー・ファイル）にコンパイルされます。

***CLTSTUB**

入力ファイルは、クライアント側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。

***SVRSTUB**

入力ファイルは、サーバー側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。ただし、「メイン」ルーチンは生成されません。

***CLTSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・クライアントが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

***SVRSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・サーバーが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

プロトコル (PROTOCOL)

指定されるトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャにコンパイルします。指定された値は、サーバー・アプリケーションの実行時に/ETC/NETCONFIGファイルに存在していなければなりません。このパラメーターが有効なのは、OPTION(*SVRSTUB)が指定されている場合だけです。次のオプションの1つまたは複数指定することができます。

***NONE**

/ETC/NETCONFIGファイルにあるすべてのトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***TCP** TCPトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***UDP** UDPトランスポートのサーバー側スタブをコンパイルします。

TOファイル (TOFILE)

出力ファイルのパス名を指定します。このオプションを使用できるのは、OPTION(*ALL)もOPTION(*NOSAMP)も指定されない場合だけです。OPTION(*ALL)またはOPTION(*NOSAMP)が指定されているか、あるいは別のオプションを使用しているときにTOFILEパラメーターが指定されなかった場合には、次のように **FROMファイル (FROMFILE)**パラメーターを使用してTOFILE名が生成されます。ここで、FILENAMEはFROMFILEパラメーターからの入力ファイル名の名前です。

- FILENAME.H -ヘッダー・ファイルの場合
- FILENAME_XDR.C - XDRファイルの場合
- FILENAME_CLNT.C -クライアント側スタブの場合
- FILENAME_SVC.C -サーバー側スタブの場合
- FILENAME_CLIENT.C -クライアント側サンプル・ファイルの場合
- FILENAME_SERVER.C -サーバー側サンプル・ファイルの場合

サンプル・コードの出力ファイルは存在してはいけません。サンプル出力ファイルのいずれかが存在していると、コマンドは正常に実行されません。その他の出力ファイルは、存在していると上書きされます。

'TOファイル・パス名'

TOFILE名を生成するために使用するパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

上

例

例1:省略時のファイルへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC') OPTION(*ALL)
```

これは、RPC言語ファイル'/MYRPC'を4つのファイル・タイプ(*XDR, *HDR, *CLTSTUB,および*SVRSTUB)すべてに変換します。サーバー側のスタブ・プログラムの生成には、省略時の値PROTOCOL(*TCP)が使用されます。ファイルは次のファイル名に入れられます。

- ヘッダー・ファイルの場合にはMYRPC.H
- XDRファイルの場合にはMYRPC_XDR.C
- クライアント側スタブの場合にはMYRPC_CLNT.C
- サーバー側スタブの場合にはMYRPC_SVC.C

例2:クライアント・スタブのみへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC2') OPTION(*CLTSTUB)
           TOFILE('/MYCLNT.C')
```

このコマンドは、RPC言語ファイル'/MYRPC2'をクライアント側スタブ・プロシージャーに変換します。結果は、指定されているファイル'/MYCLNT.C'に入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF416

CVTRPCSRCまたはRPCGENコマンドが正しく実行されなかった。

上

TCP/IP CLソースの変換 (CVTTCPCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP CLソースの変換 (CVTTCPCL)コマンドは、TCP/IPコマンドをバージョン3、リリース1、モディフィケーション0 (V3R1M0)より前のリリースから現行リリースのコマンド構文に変換するために使用されます。ソース物理ファイルの中に、変換される前のV3R1M0 TCP/IP CLコマンドが存在していなければなりません。

次のコマンドが、それらの指定されたパラメーター値に基づいて変換されます。場合によっては、変換後のコマンドを手操作で更新しなければならない場合があります。手操作による更新を必要とするコマンド・ステートメントを識別するのに役立つメッセージが出されます。

- ADDTCPLNK
- CHGTCPLNK
- RMVTCPLNK
- STRTCPLNK
- ENDTCPLNK
- ADDTCP RTE
- CHGTCPRTE
- RMVTCPRTE
- ADDTCP PORT
- RMVTCPPORT
- ADDTCP RSI
- RMVTCPRSI
- CHGTC PA
- ENDTCPCNN
- STRTCP TELN
- CHGVT1MAP
- SETVT1MAP
- DSPVT1MAP
- ENDSBS SBS(QTCP)
- STRSBS SBS(QTCP/QTCP)

CVTTCPCLコマンドは、名前CVTTCPCLの印刷出力ファイルを作成します。この印刷出力ファイルには、ソース・ファイル変換の成功または失敗を指示する報告書が入っています。

CVTTCPCLコマンドを出した時にジョブのライブラリー・リストに名前CVTTCPCLの印刷装置ファイルが存在している場合には、この印刷装置ファイルを使用して、印刷出力ファイルが作成されます。存在しない場合には、CVTTCPCLコマンドは、印刷装置ファイル一時変更(OVRPRTF)コマンドを使用し、印刷出力ファイルの作成に印刷装置ファイルQSYS/QSYSPRTを使用します。

注: 印刷装置ファイルの作成には、印刷装置ファイル作成(CRTPRTE)コマンドを使用します。

TCP/IPコマンド・ソースの正常な変換は、報告書中に次のメッセージで通知されます。

TCP1E08 メンバーは変換されました。

コマンドの変換が正常に行われなかった場合には、通知メッセージが印刷されます。(通知メッセージは変換時にジョブ・ログにも送られます。また任意の通知メッセージが送信されている場合で、CVTTCPCCLコマンドが完了した時には、1つのエスケープ・メッセージが送られます。) 変換できない機能の例、および通知メッセージとして報告書の中に印刷される機能のいくつかの例は次の通りです。

TCP1E07 コマンド&1は変換できません。

TCP1E10 コマンド&1の中のパラメーター・キーワードは変換できません。

変換の成功または失敗に基づいて報告書进行处理するために、スプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドなどを使用して、プログラムを作成することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 3

上

FROMファイル (FROMFILE)

TCP/IPコマンドを含む、変換されるCLソース・ファイルを指定します。

修飾子1: FROMファイル

名前 変換するCLソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOファイル (TOFILE)

変換されたソースが入っているファイルを指定します。この名前はFROMFILEパラメーターの名前と異なるものでなければなりません。

修飾子1: TOファイル

名前 変換されたソース・ファイルが入れられる名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

FROMメンバー (FROMMBR)

変換するソース・ファイル・メンバーのメンバーを指定します。

***ALL** 可能な場合には、指定されたソース・ファイルのすべてのメンバーがV3R1M0 TCP/IPコマンド構文に変換されます。

総称名 変換するソース・ファイル・メンバーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索される場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合にかぎり、複数のオブジェクトを変換することができます。総称名の基準に適合する最初の50個のメンバーだけが変換されることになります。

名前 変換するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。50を超える名前を指定してはいけません。

処理されるソース・メンバーは、メンバー・タイプCL, CLP,またはTXTのメンバー だけ であることにご注意ください。FROMFILE中のメンバーで、メンバー・タイプに他の値をもったメンバーは、CVTTCPCPLコマンドでは無視されます。ソース・メンバーが処理されると、TOFILE中の変換されたソース・メンバーの名前は、FROMFILE中のメンバー名と同じです。

上

例

```
CVTTCPCPL FROMFILE(OLDLIB/QCLSRC) TOFILE(NEWLIB/QCLSRC)
          FROMMBR(TCPPGM1 TCPPGM2 TCPPGM3)
```

このコマンドは、ライブラリーOLDLIB内にあるCLソース・ファイル(QCLSRC)の3つのメンバー(TCPPGM1, TCPPGM2, TCPPGM3)中のTCP/IPコマンドをすべて新しいコマンド名および形式に変換します。変換後のソース・ファイル・メンバーはライブラリーNEWLIB内のQCLSRCにあります。変換後のメンバーの元のメンバー名(TCPPGM1, TCPPGM2,およびTCPPGM3)は保持されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

TCP1E02

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

TCP1E03

ライブラリー&2のファイル&1がソース・ファイルでない。

TCP1E06

指定したTOFILEがFROMFILEと同じである。

上

フォルダーへの変換 (CVTTOFLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォルダーへの変換(CVTTOFLR)コマンドは仮想ディスクをフォルダーおよびPC 文書に変換します。仮想ディスクのファイルおよびディレクトリーは指定されたフォルダーにコピーされ、これがルート・ディレクトリーになります。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CVTTOFLR

*ESCAPE メッセージ

IWS1613

仮想ディスクが変換された。エラーが起っています。

IWS1614

仮想ディスクをフォルダーに変換することができない。

*STATUS メッセージ

IWS1621

仮想ディスクをフォルダーに変換中。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMVDSK	取り出し仮想ディスク	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出し仮想ディスク	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値	必須, 定位置 2
REPLACE	文書置き換え	*NO, *YES	オプション, 定位置 3

上

取り出し仮想ディスク (FROMVDSK)

変換される仮想ディスクの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 仮想ディスクを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

仮想ディスクを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

仮想ディスクが入っているライブラリーを指定してください。

上

受け取りフォルダー (TOFLR)

仮想ディスクの変換先のフォルダーの名前を指定します。これはすべて修飾されたパス名とすることができます。

仮想ディスクのすべてのファイルおよびディレクトリーが変換されます。パスの最後のフォルダーを除きすべてのフォルダーが存在していなければなりません。最後のフォルダーが存在していない場合にはそれが作成されます。

これは必須パラメーターです。

上

文書置き換え (REPLACE)

仮想ディスクのファイルが文書と同じ名前の時に、既存の文書を置き換える必要があるかどうかを指定します。

***NO** 置き換えられません。

***YES** 既存の文書が、仮想ディスクからのファイルによって置き換えられます。

警告:

仮想ディスクのファイルと同じ名前のすべての文書が、エラー・メッセージを送ることなく置き換えられます。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

IWS1613

仮想ディスクが変換された。エラーが起っています。

IWS1614

仮想ディスクをフォルダーに変換することができない。

*STATUS メッセージ

IWS1621

仮想ディスクをフォルダーに変換中。

上

ユーザー証明書の変換 (CVTUSRCERT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー証明書変換(CVTUSRCERT)コマンドによって、システム上でローカルの保管およびマップから、マップするためにエンタープライズ識別マッピング(EIM)および記憶装置へのLDAP (LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL)の使用へのユーザー証明書を変換することができます。

制約事項:

- 全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- このコマンドを実行する前に、デジタルID構成設定(QSYSETDIGITALIDCONFIG) APIまたはデジタル証明書マネージャー(DCM)を使用してデジタルID構成を設定しておかなければなりません。
- このシステムがEIMドメインに参加するように構成済みでなければなりません。
- EIM接続情報設定(QSYSETEIMCONNECTINFO) APIまたはEIM構成GUIを使用してシステム接続情報を設定しておかなければなりません。
- このコマンドで指定されたユーザー・プロファイルの場合は、EIMドメインに参加するようにシステムを構成する場合に指定されたローカル・レジストリーのEIM IDに対するターゲット関連がなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CVTRMV, *RMV, *CVT	オプション, 定位置 2

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

証明書を変換するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単純名 ユーザー・プロファイル名を指定してください。

上

オプション (OPTION)

ユーザー証明書に対して実行するオプションを指定します。

***CVTRMV**

EIMを使用するマッピング情報を変換し、証明書そのものをLDAPに移動します。既存の証明書およびマッピング情報は、ユーザー・プロファイルから除去されます。

***RMV** マッピング情報および証明書をユーザー・プロファイルから除去します。

***CVT** マッピング情報をEIMにコピーし、証明書をLDAPにコピーします。既存の証明書およびマッピング情報は、ユーザー・プロファイルに残ります。

上

例

```
CVTUSRCERT USRPRF(JOHNSON) OPTION(*CVTRMV)
```

このコマンドは、情報のマップにEIMを使用し、証明書の保管にLDAPを使用するように、ユーザー・プロファイルJOHNSONのデジタル証明書のすべてを変換します。ユーザー・プロファイルと現在は一緒に保管されている証明書およびマッピング情報が除去されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF4AB9

ユーザー証明書機能が失敗しました。

上

データ (DATA)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

データ(DATA)コマンドは、インライン・データ・ファイルの始めを示すために入力ストリーム中で使用しなければなりません。この入力ストリームは、スプール読み取りプログラムによって読み取られます。データ(DATA)コマンドは、データ・ファイルの終わりを示すためにどの区切り文字を使用しなければならないかも指定します。インライン・データ・ファイルはこのジョブの間でのみ存在し、ジョブ終了後は破棄されます。名前のないインライン・ファイルは、ジョブの中で1回だけ使用することができます。

制約事項

1. DATAコマンドはワークステーションから実行できません。
2. DATAコマンドは、データ・レコードの1桁目および2桁目にスラッシュが2つ(/)が必要です。
3. スラッシュとコマンド名(/DATA)をブランクで分離できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	入力ファイル	名前, <u>QINLINE</u>	オプション、定位置 1
FILETYPE	ファイル・タイプ	<u>*DATA</u> , *SRC	オプション、定位置 2
ENDCHAR	データの終わり文字	文字値, <u>/'</u>	オプション、定位置 3
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	<u>*NO</u> , *YES	オプション

上

入力ファイル (FILE)

インライン・データ・ファイルの名前を指定します。この名前は、ファイル进行处理するプログラム内でも指定されます。

QINLINE

インライン・データ・ファイルの名前はQINLINEです。このファイルは、名前のないインライン・ファイルとして処理されます。名前のないファイルは、プログラムがファイル名としてQINLINEを指定した場合、あるいは入力のためにデータのスプール (SPOOL)パラメーターに*YESを指定する装置ファイルがオープンされた場合に処理することができます。名前のないインライン・ファイルは、ジョブで1回だけ使用することができます。

名前 ジョブの1つまたは複数のプログラムによって使用されるインライン・データ・ファイルの名前を指定します。ファイルは、プログラムがファイル名を指定してファイルをオープンした時点で、プログラムに接続されます。名前のあるインライン・データ・ファイルは、ジョブで2回以上アクセスすることができます。

ファイル・タイプ (FILETYPE)

このコマンドの後に続くインライン・データを、ソース・ファイルの標準形式にするかまたはデータ・ファイル形式にするかを指定します。標準ソース・ファイル形式は、順序番号（6文字のソース番号）の後に6文字のシステム日付が続き、その後にデータが続くものです。

***DATA**

インライン・データはソース・ファイルの標準形式ではありません。データ・ファイルはプログラムに渡され、プログラムはそれをデータ形式で使用します。

***SRC** インライン・データは順番に番号付けされます。それは、別のファイルまたはプログラムを作成するために使用できるソース・ファイルです。

データの終わり文字 (ENDCHAR)

インライン・データ・ファイルの終わりを示すために使用される文字のストリングを指定します。認識されるためには、この文字ストリングはレコードの1桁目から開始しなければなりません。区切り文字として//（省略時の値）以外を使用する文字ストリングを指定した場合には、ファイルの終わりレコードまでのすべてのレコード（1桁目から指定の文字ストリングを持つレコード）がデータとして扱われます。これによって、データ・ストリームに読み取りプログラム・コマンドを組み込むことができます。ENDCHAR値（省略時の値ではない）のファイルの終わりレコードはデータ・ファイルに入れられず、有効な読み取りプログラム・コマンドかどうかは検査されません。これは、データ・ストリームの終わりを判別するためだけに使用され、その後は廃棄されます。

**///
/** 省略時の値は2個のスラッシュです。2個のスラッシュをパラメーターにコーディングしても、あるいはパラメーターそのものを省略しても、コマンドは同じ働きをします。省略時の値を使用すると、レコードの1桁目および2桁目のスラッシュが（データ・ファイルまたはソース・ファイルのいずれの場合も）ファイルを超えた最初のレコードを識別します。

文字値 ファイル中の最後のレコードを識別するために、文字ストリング（アポストロフィで囲まれた最大25桁の長さ）を入力することができます。この文字ストリングには、英数字と特殊文字の両方を入れることができます。データの終わり文字 (ENDCHAR)パラメーターに「///
/」以外の文字の組み合わせが指定されている場合には、読み取りプログラム・コマンドをデータ中に安全に組み込むことができます。読み取りプログラムは、指定されたストリングの検索時には、読み取りプログラム・コマンドを含めて他のすべてのデータを無視します。

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

このコマンドの後に続くインライン・データに、2バイト文字セット(DBCS)データが含まれるかどうかを指定します。

***NO** インライン・ファイルにDBCSデータは含まれていません。

***YES** インライン・ファイルにDBCSデータが含まれる場合があります。

例

例1:データ・ファイル形式のインライン・データ・ファイル

```
//DATA FILE(FILE1)
```

このコマンドは、インライン・データ条件の終わり(1桁目および2桁目の2つのスラッシュ)が見つかるまで、それに続くデータに名前FILE1を割り当てます。

例2:終わりの文字ストリングの指定

```
//DATA FILE(FILE2) ENDCHAR('STOPIT')
```

このコマンドは、それに続くデータに名前FILE2を割り当て、ファイルは1から6桁目に文字STOPITを含むレコードが見つかるまで続けられます。この区切り記号によって、//BCHJOB, //ENDBCHJOB,および//DATAコマンドとインライン・ファイル中の1桁目および2桁目に//を組み込んだレコードが可能になります。

例3: DBCSデータを含むファイルの指定

```
//DATA FILE(FILE3) IGCDA(*YES)
```

このコマンドは、それに続くデータに名前FILE3を割り当てます。このファイルにはDBCSデータを含めることができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1753

コマンドを実行することができない。

LDIF へのコピー (DB2LDIF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LDIF へのコピー (DB2LDIF)コマンドは、ディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリー内容をLDAPデータ交換形式(LDIF)ファイルにコピーするために使用されます。ディレクトリー・サーバーは、i5/OS上にLightweight Directory Access Protocol (LDAP)サーバーを提供します。

制約事項:このコマンドを使用するには、以下のいずれかの条件を実行または満たす必要があります。

- 全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 管理者の識別名およびパスワードを指定します。
- Directory Services管理者になります。許可されたユーザーに管理者権限を認可するようにDirectory Servicesサーバーが構成されており、呼び出し元がオペレーティング・システムの「Directory Services管理者」機能に対して許可されている場合は、その呼び出し元がDirectory Services管理者となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INSTANCE	インスタンス	名前, <u>QUSRDIR</u>	オプション, 定位置 2
LDIFSTMF	LDIFストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
ADMIN	管理者	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別名	文字値	
	要素 2: パスワード	文字値	
SUBTREE	サブツリー識別名	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
LOCALHOST	cn=localhostのコピー	<u>*NOCOPY</u> , *COPY	オプション
PWDPOLICY	cn=pwdpolicyのコピー	<u>*NOCOPY</u> , *COPY	オプション
NESTRPLC	ネストされたレプリカのコピー	<u>*COPY</u> , *NOCOPY	オプション
OPRATR	操作属性のコピー	<u>*COPY</u> , *NOCOPY	オプション
PASSPHRASE	パスフレーズ	文字値	オプション
ENCSALT	暗号化ソルト	文字値	オプション

上

インスタンス (INSTANCE)

ディレクトリー項目をコピーするディレクトリー・サーバー・インスタンスを指定します。

QUSRDIR

システムの省略時のディレクトリー・サーバー・インスタンスの名前。

名前 ディレクトリー・サーバー・インスタンス名を指定します。この名前の文字数は、最小で1文字、最大で8文字です。

上

LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに統合ファイル・システム・パスを指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名 ディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリー項目のコピーを入れるLDIFストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

管理者 (ADMIN)

ディレクトリー・サーバー管理者を指定します。これを指定しない場合、ユーザーは全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要になります。

要素1: 識別名

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者の識別名を指定します (例えば, cn=administrator)。最大50文字まで指定できます。

要素2: パスワード

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者のパスワードを指定します。パスワードは大/小文字の区別があり、アポストロフィで囲む必要があります。最大50文字まで指定できます。

上

サブツリー識別名 (SUBTREE)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするディレクトリー・サブツリーのルートを示す識別名(DN)を指定します。このオブジェクトとすべての下位オブジェクトがコピーされます。

***ALL** 全ディレクトリー・ツリーをコピーします。

文字値 コピーするサブツリーの識別名を指定します。最大50文字まで指定できます。

上

cn=localhostのコピー (LOCALHOST)

識別名cn=localhostにあるデータをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

***NOCOPY**

cn=localhostの内容はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

***COPY**

cn=localhostの内容がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

上

cn=pwdpolicyのコピー (PWDPOLICY)

識別名cn=pwdpolicyにあるデータをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

***NOCOPY**

cn=pwdpolicyの内容はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

***COPY**

cn=pwdpolicyの内容がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。これは、サブツリーDN (SUBTREE)パラメーターに*ALLが使用されている場合のみ指定できます。

上

ネストされたレプリカのコピー (NESTRPLC)

ネストされた複製コンテキストをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。例えば、ディレクトリーに複製コンテキストo=acmeおよびcn=external users,o=acmeが含まれる場合、このオプションを使用すると、識別名cn=external users,o=acmeのすべての項目を除いて、識別名o=acmeのデータをコピーできます。

***COPY**

ネストされた複製コンテキストのデータがLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

***NOCOPY**

ネストされた複製コンテキストのデータはLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。これは、サブツリーDN (SUBTREE)が指定されている場合のみ指定できます。

上

操作属性のコピー (OPRATR)

次の4つの運用属性をLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

- creatorsName
- createTimestamp
- modifiersName
- modifyTimestamp.

***COPY**

運用属性がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

***NOCOPY**

運用属性はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

上

パスフレーズ (PASSPHRASE)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに格納された暗号化対象情報を暗号化するために使用する次世代暗号化標準(AES)パスフレーズを指定します。このパスフレーズは、ディレクトリー・サーバー・インスタンス（このLDIFストリーム・ファイルからの情報をコピーするもの）で使用されるパスフレーズと一致する必要があります。また、これは、ターゲットのディレクトリー・サーバー・インスタンスがAES暗号化方式を使用してデータを暗号化する場合のみ指定する必要があります。

文字値 パスフレーズを指定します。指定できる文字数は、最小で12文字、最大で1016文字です。パスフレーズは大／小文字の区別があるため、アポストロフィで囲む必要があります。有効な文字は次のとおりです。

```
! # ¥ @ ¯ ¸ $ ? ^ ` { } | ~
" % & ' ( ) * + , - . / ? > = < ; :
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
```

上

暗号化ソルト (ENCSALT)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに格納された暗号化対象情報を暗号化するために使用する次世代暗号化標準(AES)ソルトを指定します。この暗号化ソルトは、ディレクトリー・サーバー・インスタンス（このコマンドで作成されるLDIFストリーム・ファイルからの情報をコピーするもの）で使用される暗号化ソルトと一致する必要があります。また、これは、ターゲットのディレクトリー・サーバー・インスタンスがAES暗号化方式を使用してデータを暗号化する場合のみ指定する必要があります。

文字値 暗号化ソルトを指定します。使用する文字数は、厳密に12文字でなければなりません。暗号化ソルトは大／小文字の区別があるため、アポストロフィで囲む必要があります。有効な文字は次のとおりです。

```
! # ¥ @ ¯ ¸ $ ? ^ ` { } | ~
" % & ' ( ) * + , - . / ? > = < ; :
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
```

上

例

例1: QUSRDIRディレクトリー全体のコピー

```
DB2LDIF      INSTANCE(QUSRDIR) LDIFSTMF('/ldap/qusrdir.ldif')
```

このコマンドは、QUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーの項目を**ldap**ディレクトリーの**qusrdir.ldif**ストリーム・ファイルにコピーします。この方法でコマンドを実行するユーザーは、全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

例2: o=ibmサブツリーのみのコピー

```
DB2LDIF      INSTANCE(QUSRDIR) LDIFSTMF('/ldap/ibmsubtree.ldif')
              SUBTREE('o=ibm') ADMIN('cn=admin' 'secret')
```

このコマンドは、QUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーから、o=ibmサブツリー項目をldapディレクトリーのibmsubtree.ldifストリーム・ファイルにコピーします。

例3: cn=localhost項目のコピー

```
DB2LDIF      INSTANCE(DOGGIES)
              LDIFSTMF('/ldap/include/local.ldif')
              SUBTREE(*ALL) LOCALHOST(*COPY)
              ADMIN('cn=fluffy' 'poodle')
```

このコマンドは、cn=localhost内の項目も含めて、DOGGIESインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーの項目をldapディレクトリーのincludelocal.ldifストリーム・ファイルにコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

GLD0202

管理者のDNまたはパスワードが正しくない。

GLD0213

ファイルをオープンまたは作成中にエラー。

GLD0215

ディレクトリー・サーバー・インスタンス&1が見つかりません。

GLD0218

不十分な権限または誤った識別名およびパスワードが指定されています。

GLD022B

オブジェクト&1が見つからない。

GLD0234

エクスポート・サブツリーが複製コンテキストではありません。

GLD0413

妥当性検査リスト項目エラーが起こった。

上

CL変数宣言 (DCL)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

CL変数宣言(DCL)コマンドは、CLプログラムまたはILE CLプロシージャで使用される制御言語(CL)プログラム変数を定義します。CL変数は、データを記憶して更新し、呼び出しでの別のプログラムからパラメーターを受け取るために使用されます。CL変数は、それを宣言するプログラム内だけで名前によって知られています。これはCLプログラムまたはILE CLプロシージャの外側で使用することができませんが、プログラムのデバッグのために一部のコマンド (DSPPGMVARコマンドなど) によって参照される場合は例外です。ただし、変数中の値をパラメーターとして別のプログラムに渡すことはできます。変数が宣言されているが、CLプログラムまたはILE CLプロシージャの別のコマンドによって参照されない場合には、その変数はコンパイルされる時にプログラムに組み込まれません。各DCLコマンドは1つのCL変数の属性を定義し、それが使用されるプログラム内にその名前を宣言します。

プログラムのCL変数は2つの宣言コマンドの1つによって識別されなければなりません。ファイル宣言(DCLF)コマンドは、表示装置ファイルおよびデータベース・ファイルのCL変数を宣言します。DCLコマンドはその他のすべてのCL変数を宣言します。

制約事項:このDCLコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内でのみ有効です。すべての宣言コマンド(DCL, COPYRIGHT, DCLF,およびDCLPRCOPT)は、PGM (プログラム) コマンドの後に続き、プログラム中の他のすべてのコマンドより前になければなりません。宣言コマンドの4つのタイプはどの順序でも混用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VAR	CL変数名	CL 変数名	必須, 定位置 1
TYPE	タイプ	*DEC, *CHAR, *LGL, *INT, *UINT, *PTR	必須, 定位置 2
STG	記憶域	*AUTO, *BASED, *DEFINED	オプション
LEN	変数の長さ	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 長さ	整数	
	要素 2: 小数点以下の桁数	整数	
VALUE	初期値	文字値	オプション, 定位置 4
BASPTR	基底ポインター変数	CL 変数名	オプション
DEFVAR	変数で定義	要素リスト	オプション
	要素 1: CL変数名	CL 変数名	
	要素 2: 位置	1-32767, <u>1</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ADDRESS	アドレス	単一値: *NULL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CL変数名	CL 変数名	
	要素 2: オフセット	0-32766, <u>0</u>	

上

CL変数名 (VAR)

CLプログラムまたはILE CLプロシージャー内で宣言するCL変数を指定します。変数が存在するのは、それが宣言されたプログラム内だけです。これは呼び出しのパラメーターとして別のプログラムに渡すことができ、その場合、呼び出されるプログラムによってこれを処理することができます。この名前はアンパーサンド(&)で始まっていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

タイプ (TYPE)

宣言するCL変数に含まれる値のタイプを指定します。このパラメーターの値はCL変数によって指定することができません。

これは必須パラメーターです。

***DEC** パック10進数値を含む10進変数。

***CHAR**

文字ストリング値を含む文字変数。

***LGL** 論理値'1'または'0'のいずれかを含む論理変数。

***INT** 符号付き2進値を含む整数変数。

***UINT** 符号なし2進値を含む整数変数。

***PTR** アドレスが入っているポインター変数。

上

記憶域 (STG)

変数の記憶域タイプを指定します。このパラメーターの値はCL変数によって指定することができません。

***AUTO**

この変数の記憶域は、自動記憶域内で割り振られます。

***BASED**

この変数の記憶域は、**基底ポインター変数 (BASPTR)**パラメーターに指定されたポインター変数に基づいています。基礎となるCL変数は、基底ポインター変数が有効なアドレスに設定されていない限り、使用することはできません。

*DEFINED

この変数の記憶域は、**変数で定義(DEFVAR)**パラメーターに指定されたCL変数によって提供されません。

上

変数の長さ (LEN)

宣言するCL変数の長さを指定します。変数が10進数値の場合には、小数点の右側の10進の桁数を任意に指定することができます。このLENパラメーターの値はCL変数によって指定することはできません。

注: TYPEパラメーターに*PTRが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定できません。ポインターは、16バイトの固定長です。

要素1: 長さ

長さ 文字または整数のCL変数の場合、CL変数のバイト数を指定してください。10進CL変数の場合、CL変数の最大桁数を指定してください。この長さは、このタイプの変数の最大値より大きくすることはできません。長さは、整数CL変数の場合は2または4でなければなりません。

要素2: 小数点以下の桁数

小数点以下の桁数

この要素は10進変数の場合にのみ有効です。変数の値の長さには、その値の小数点以下の桁数も含まれます。10進数値の最大長は15桁で、小数点の右側の桁数も含まれます。最大9桁の小数点以下の桁数を指定することができます。9桁の小数点以下の桁数を指定した場合には、15桁のうち6桁だけが整数値に残されているために、小数点の左の値は999,999より大きくすることはできません。

10進数変数の長さ(桁数)が指定され、小数点以下の桁数が指定されない場合には、小数点以下の桁数は0と見なされます。

5つのタイプのそれぞれの最大長は次の通りです。

- 10進数— 15桁(小数点以下の桁数は9桁)
- 文字— 32767バイト

注: CL変数の初期値(VALUEパラメーターに指定)は、5000桁より大きくすることはできません。

- 論理— 1バイト
- 整数— 4バイト
- 符号なし整数— 4バイト

5つのタイプのそれぞれの省略時の長さは次の通りです。

- 10進数 — 15桁で、小数点以下の桁数は5
- 文字— 32バイト
- 論理— 1バイト
- 整数— 4バイト
- 符号なし整数— 4バイト

注: 10進数および文字タイプでは、VALUEパラメーターに1が指定された場合には、省略時の長さは初期値の長さと同じです。

初期値 (VALUE)

初期値をプログラムで宣言する時に、CL変数に割り当てる初期値を指定します。この値は、TYPEパラメーターによって指定されたタイプでなければなりません。値を指定しない場合には、文字変数はブランクに設定され、10進変数、整変数、または符号なし整変数はゼロの値に設定され、さらに、論理変数は「0」に設定されます。VALUEパラメーターの値はCL変数によって設定することはできません。

*PTR CL変数または記憶域 (STG)パラメーターに指定された*DEFINED または*BASEDによって宣言されたCL変数には、VALUEパラメーターを指定できない場合があります。

変数が宣言された同じプログラムのPGMコマンドのPARMパラメーターに、宣言された変数の名前を指定した場合には、その変数の初期値を指定することはできません。その場合には、変数は呼び出し側プログラムからその値を受け取ります。

基底ポインター変数 (BASPTR)

*BASEDの記憶域で宣言されたCL変数の基底ポインターを指定します。

注: 記憶域 (STG)パラメーターに*BASEDを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

CL変数名

宣言する基底付きCL変数の基底ポインターとして機能し、TYPE(*PTR)として宣言されたCL変数の名前を指定してください。基底付き変数を使用するには、このポインターをある値に初期設定する必要があります。

この名前はアンパースンド(&)で始まっていなければなりません。

変数で定義(DEFVAR)

宣言する変数の定義の基礎となるCL変数を指定します。

注: 記憶域 (STG)パラメーターに*DEFINEDを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

注: STG(*DEFINED)として宣言された変数は、定義の基礎となるCL変数の最終バイトを超えて拡張することはできません。

要素1: CL変数名

CL変数名

宣言する変数の定義の基礎となるCL変数の名前を指定してください。

要素2: 開始桁

1 宣言する変数は、定義の基礎となる変数の先頭から始まります。

1から32767

定義の基礎となる変数の先頭から数えた宣言する変数の開始位置を指定してください。

上

アドレス (ADDRESS)

*PTRでTYPE値として宣言されたCL変数の初期アドレスを指定します。

注: 宣言する変数がポインター変数で、STGパラメーターに*AUTOを指定しない限り、このパラメーターに値を指定することはできません。

要素1: CL変数名

CL変数名

ポインター変数の初期アドレスとなるCL変数の名前を指定します。

この名前はアンパサンド(&)で始まっていなければなりません。

要素2: オフセット

0 ポインター変数は、アドレス指定されるCL変数の先頭バイトに設定されます。

0から32766

アドレス指定され、ポインターが設定される変数の先頭からのバイト数を指定してください。

上

例

例1: CL変数の長さの指定

```
DCL  &ABLE  *DEC  LEN(5 2)
```

このコマンドは、10進値を含む、&ABLEという名前のCL変数を宣言します。LENは最大5桁を指定し、そのうち2桁は小数点の右側にあるので、999.99より大きい値は不可能です。VALUEパラメーターが指定されておらず、値は数値なので、&ABLEの値はゼロ(000.00)に設定されます。

例2: 論理値の指定

```
DCL  &SWITCH  *LGL
```

このコマンドは、論理値を含む、&SWITCHという名前のCL変数を宣言します。タイプ・パラメーターが論理を指定しているため、変数は1文字の長さで、'0'に設定されます。

例3: CL変数の初期値の指定

```
DCL  &FILNAM  *CHAR  VALUE(FILEA)
```

このコマンドは、値がFILEAである、&FILNAMという名前のCL変数を宣言します。値は5文字で、LENパラメーターが指定されていないので、変数の長さも5文字です。

例4: 定義済みCL変数の指定

```
DCL  &QUALOBJ  *CHAR  LEN(20)
DCL  &OBJ      *CHAR  LEN(10)  STG(*DEFINED)  DEFVAR(&QUALOBJ 1)
DCL  &LIB      *CHAR  LEN(10)  STG(*DEFINED)  DEFVAR(&QUALOBJ 11)
```

最初のDCLコマンドは、プログラムの自動記憶域内の20文字の変数を宣言します。2番目のDCLコマンドは、&QUALOBJ変数の最初の10文字を参照する&OBJという名前の変数を宣言します。最後のDCLコマンドは、&QUALOBJ変数の最後の10文字を参照するために使用できる&LIBという名前の変数を宣言します。

例5: ポインターCL変数の指定

```
DCL &CHAR *CHAR LEN(10)
DCL &PTR *PTR ADDRESS(&CHAR)
```

2番目のDCLコマンドは、プログラムの自動記憶域内の&CHAR変数を示すように初期設定されたポインター変数を宣言します。

例6: 基礎となるCL変数の指定

```
DCL &PTR *PTR
DCL &CHAR *CHAR LEN(10) STG(*BASED) BASPTR(&PTR)
```

2番目のDCLコマンドは、&PTR変数によってアドレス指定されたロケーションで見つかる文字変数を宣言します。&CHAR変数を使用するには、%ADDRESS組み込み関数を使用して&PTR変数を有効なアドレスに初期設定する必要があります。

例7: 定義済みポインターCL変数の指定

```
DCL &CHAR *CHAR LEN(48)
DCL &PTR *PTR STG(*DEFINED) DEFVAR(&CHAR 17)
```

2番目のDCLコマンドは、変数&CHARの17から32バイトのポインター変数を宣言します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ファイル宣言 (DCLF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ファイル宣言(DCLF)コマンドは、制御言語(CL)プログラムに対して、1つのファイルを名前で宣言します。最大で5つのDCLFコマンドをCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内で使用することができます。各DCLFコマンドは、表示装置ファイルまたはデータベース・ファイルの名前、プログラムで使用するファイル・レコード様式、およびCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内のファイルの宣言されたインスタンスを一意的に識別するために使用される**オープン・ファイルID** (オプション) を指定します。 **オープン・ファイル識別コード (OPNI D)**パラメーターに指定された値が固有であれば、複数のDCLFコマンドが同じファイルを参照することができます。CLプログラムまたはILE CLプロシージャは、ファイルに対するDCLFコマンドの後に、データ操作コマンドを含むことができます。表示装置ファイルの場合は、次のコマンドを使用して、ワークステーションにデータを送ったり、ワークステーションからデータを受け取りたりすることができます。ファイル送出し(SNDF)、ファイル受け取り(RCVF)、ファイル送出し/受け取り(SNDRCVF)、受け取り終了(ENDRCV)、および待機(WAIT)コマンド。データベース・ファイルの場合は、RCVFコマンドを使用して、ファイルからレコードを読み取ることができます。

CLプログラムまたはILE CLプロシージャをコンパイルする時には、CL変数は、プログラムで使用される各レコード様式の各フィールドに対して自動的に宣言されます。ファイルがレコード・レベルのデータベース・ファイルの場合には、レコード様式には、そのレコード様式の名前をもつ1つのフィールドが入っています。OPNI Dパラメーターに指定された値が*NONEの場合は、変数名はアンパーサンド(&)を接頭部として持つフィールド名です。OPNI Dパラメーター値が*NONEでない場合は、変数名は、アンパーサンド(&),OPNI Dパラメーターに指定された値、および下線を接頭部として持つフィールド名です。

例えば、宣言されたファイルがCUSTNAMEというフィールドを含むレコード様式を持っていて、DCLFコマンドに指定されたオープン・ファイルIDがFILE1であったとすると、宣言された変数は次のようになります。

```
&FILE1_CUSTNAME
```

宣言された各フィールドの属性は、ファイル・レコード様式内のフィールドの属性と同じです。レコード様式で数値として定義されたフィールドは、10進数変数として定義されます。参照ファイル・レコード様式で定義された標識は、変数名を持つ論理変数としてINNNの形式(最後の2つの'NN'が標識番号)で宣言されます。

DCLFコマンドによって自動的に宣言された変数は、DCLコマンドで宣言された変数と同じようにプログラム中で使用することができます。たとえば、標識は論理変数として宣言されているので、式およびIFステートメントで使用することができます。

ユーザーは変数名ではなく、変数の内容を表示します。画面には、そのレコード様式の1つのフィールド、一部のフィールド、あるいはすべてのフィールドが表示され、ユーザーはこれに埋め込むことができます。DDSによって表示形式が決定されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内でのみ有効です。すべての宣言コマンド (DCL, COPYRIGHT, DCLF, および DCLPCOPT) は、PGM (プログラム) コマンドの後に続き、プログラム中の他のすべてのコマンドより前になければなりません。宣言コマンドの4つのタイプはどの順序でも混用することができます。
- ファイルは、1つだけのレコード様式のデータベース・ファイルであるか、あるいは表示装置ファイルでなければなりません。
- 混合ファイルで表示装置だけが定義されている場合でも、このファイルを混合ファイルにすることはできません。
- データベース・ファイルは物理または論理のいずれかとすることができ、フィールド・レベルまたは非フィールド・レベルのいずれかとすることができます。
- プログラムの作成前に参照ファイルが存在していなければなりません。

参照ファイルのレコード様式の各フィールドに対してCL変数が自動的に宣言されるので、次の制約事項が適用されます。

- ファイルが変更されている (さらに、レベル検査の実行がファイル記述で指定している) 場合には、新しいファイル記述と一致させるために、CLプログラムまたはILE CLプロシージャを再コンパイルしなければなりません。レベル検査の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「データベース」カテゴリおよびAPPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715) に示されています。
- 表示装置ファイルの複数のレコード様式にフィールド名が定義された場合には、一般の名前のついたフィールドの各レコード様式の属性は一致していなければなりません。
- また、(参照フィールドで) 自動的に宣言されたCL変数と同じ名前の、DCLコマンドによってプログラムに宣言されたCL変数は、参照フィールドのDDSに指定された同じ属性をもっていなければなりません。
- ファイルで使用される変数は、CL変数でサポートされているデータ・タイプでなければなりません。パック10進数形式またはゾーン10進数形式として定義されたフィールドは、10進変数として宣言されます。2進数形式として定義されたフィールドは、省略時では10進変数として宣言されますが、以下のすべての条件が真である場合に限り、整数変数として宣言されます。
 - 2進数フィールドの宣言 (DCLBINFLD) パラメーターに*INTが指定されている。
 - フィールドのサイズが10桁未満である。
 - フィールドの精度が0である。

ファイルで使用される変数は、CL変数で有効な属性をもっていなければなりません。10進数変数では、この制限は15桁と、小数点以下の桁数が9桁です。15桁以上の変数では、CLは、桁数を2で割って、1をプラスした $(N / 2 + 1)$ 長さの文字変数を宣言します。変換が実行されたことを示すメッセージCPI0306が出力され、これはプログラム・リスト中に表示することができます。文字変数の場合、制限は32767バイトです。

追加の考慮事項:

CLプログラムまたはILE CLプロシージャのファイル処理は、DCLFコマンドに指定されたファイルが表示装置ファイルまたはデータベース・ファイルのいずれであるかによって異なって処理されます。

ファイルがコンパイル時に表示装置ファイルである場合には、次のステートメントが適用されます。

- 実行時のファイルは表示装置ファイルでなければなりません。
- プログラムには次のコマンドの一部または全部を入れることができます。すなわち、SNDF, RCVF, SNDRCVF, ENDRCV, およびWAITのコマンドです。

- 入力および出力でファイルがオープンされます。

ファイルがコンパイル時にデータベース・ファイルである場合には、次のステートメントが適用されます。

- このファイルは、実行時に単一レコード様式のデータベース・ファイルでなければなりません。
- プログラムに入れることができるのはRCVFコマンドだけです。SNDF, SNDRCVF, ENDRCV,およびWAITコマンドを使用することはできません。
- ファイルは入力の場合にかぎりオープンされます。
- データベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドを使用しなくても、RCVFコマンドが実行されると、ファイルは暗黙的にオープンされます。
- ファイルは、CLプログラムまたはILE CLプロシージャが終了すると暗黙的にクローズされるか、または同じCLプログラムかILE CLプロシージャ内のデータベース・ファイル・クローズ(CLOF)コマンドを使用して明示的にクローズされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RCDFMT	レコード様式	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, *NONE	オプション
ALWVARLEN	可変長フィールド可能	*NO, *YES	オプション
ALWNULL	ヌルのフィールド値可能	*NO, *YES	オプション
ALWGRAPHIC	グラフィックス使用可能フィールド	*NO, *YES	オプション
DCLBINFLD	2進数フィールドの宣言	*DEC, *INT	オプション

上

ファイル (FILE)

CLプログラムまたはILE CLプロシージャが使用するファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

レコード様式 (RCDFMT)

ファイルに含まれている1つまたは複数のレコード様式を指定します。これらのレコード様式は、CLプログラムまたはILE CLプロシージャーの中で、ファイル送出し(SNDF)、ファイル受け取り(RCVF)、およびファイル送出し/受け取り(SNDRCVF)コマンドにより使用されます。データベース・ファイルを処理できるのは、RCVFによる処理の場合だけです。CL変数名は、RCDFMTに指定することはできません。使用できるのは、レコード様式の名前だけです。RCDFMTに指定された各レコード様式のそれぞれのフィールドおよび標識に対して、1つのCL変数がプログラム中に自動的に宣言されます。

注: 物理ファイルには、1つのレコード様式を含めることができます。論理ファイルが複数の物理ファイル・メンバーについて定義された場合には、複数のレコード様式がDDSに定義済みの論理ファイルを使用することができます。物理ファイルに複数のレコード様式が入っている場合には、エラー・メッセージが送られ、コンパイル手順は正常に実行されません。

単一値

***ALL** ファイル内のすべてのレコード様式（ただし最大99個）のフィールドが、CLプログラムの中で宣言されます。ファイル内に99個を超えるレコード様式がある場合には、最初の99個だけが使用されます。

その他の値（最大50個指定可能）

名前 CLプログラムまたはILE CLプロシージャーの中で変数として宣言するフィールドを含むファイル・レコード様式の名前を指定してください。CL変数を使用して名前を指定することはできません。

上

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

ファイル (FILE)パラメーターに指定されたファイルと関連付けるオープン・ファイルIDを指定します。このIDは、CLプロシージャーの中で宣言されるすべてのファイルについて固有でなければなりません。

*NONE

ファイルはオープン・ファイルIDを持っていません。オープン・ファイルIDとして*NONEが指定されているCLプログラムまたはILE CLプロシージャーでは1つのファイルしか宣言できません。

単純名 ファイルのオープン・ファイルIDとして使用する名前を指定してください。

上

可変長フィールド可能 (ALWVARLEN)

可変長フィールドをレコード様式で使用できるかどうかを指定します。

***NO** 可変長フィールドをレコード様式で使用することはできません。

***YES** 可変長フィールドをレコード様式で使うことができます。可変長フィールドに宣言されたCL変数は、2バイトに、最大フィールド長をプラスした長さに等しい長さの*CHARタイプとして扱われます。可変長フィールドのRCVFの後の、CL変数の最初の2バイトにはデータの長さが入っています。フィールドから受け取られたデータは、使用可能な最大長(32765バイト)になるまで右側にブランクの埋め込みが行われます。

上

ヌルのフィールド値可能 (ALWNULL)

ヌルのフィールド値を使用できるかどうかを指定します。

***NO** ヌルの値を使用することはできません。RCVF時にヌル値が入っている各フィールドでは、レコード全体の診断メッセージが単一のエスケープ・メッセージとともに送信されます。CL変数には省略時の値が入れます。

***YES** ヌルの値を使用することができます。

上

グラフィックス使用可能フィールド (ALWGRAPHIC)

図形データ・フィールドをレコード様式で使うことができるかどうかを指定します。

***NO** レコード様式に図形データ・フィールドを含めることはできません。図形データ・フィールドがファイル中でサポートされている場合には、コンパイル時に診断メッセージが送られます。

***YES** レコード様式に図形データ・フィールドを含めることができます。図形データ・フィールドについて宣言されたCL変数は、長さ(バイト数)が図形データ・フィールド長と等しいタイプ*CHARとして処理されます。

上

2進数フィールドの宣言 (DCLBINFLD)

レコード様式の2進数フィールドに宣言された変数がパック10進数であるか、整数であるかを指定します。

***DEC** レコード様式内の2進数フィールドに宣言されたCL変数は、TYPE(*DEC)を使用します。

***INT** レコード様式内の精度0、長さが9以下の2進数フィールドに宣言されたCL変数は、TYPE(*INT)を使用します。

上

例

例1:すべてのレコード様式のフィールドを変数として宣言

```
DCLF FILE(ABLE) RCDfmt(*ALL)
```

このコマンドは、CLプログラムがユーザーとプログラム間のデータの受け渡しにABLEという名前のファイルを使用することを指定します。ライブラリーが指定されていないので、ライブラリー・リストを使用してファイルを見つけます。すべてのレコード様式のすべてのフィールドおよび標識が自動的に変数として宣言され、ファイル内のどのレコード様式（最初の99まで）のどのフィールドからのデータも、プログラムとユーザー間で受け渡しが可能です。

例2:複数のレコード様式の使用

```
DCLF FILE(BAKER) RCDfmt(REC2 REC6)
```

表示装置ファイルBAKERは、制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャがユーザーとプログラム間のデータの受け渡しに使用します。省略時の解釈によってFILEのライブラリー修飾子が*LIBLであるとする、ライブラリー・リストを使用してファイルを見つけます。REC2とREC6の両方のレコード様式が使用されます。

例3:オープン・ファイルIDの使用

```
DCLF FILE(MYLIB/CHARLES) OPNID(CTLFIL1)
```

ライブラリーMYLIB内のファイルCHARLESは、制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャがデータベース・ファイルからレコードを読み取るために使用します。CUSTNUMBERという名前のフィールドがレコード様式に入っている場合は、次の変数が宣言されます。

```
&CTLFIL1_CUSTNUMBER
```

上

エラー・メッセージ

なし

上

処理オプションの宣言 (DCLPRCOPT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

処理オプション宣言(DCLPRCOPT)コマンドによって、コンパイラー処理オプションを定義できます。これらのオプションはコンパイラーの振る舞いを制御し、CLコンパイラーによって生成されるプログラムまたはモジュール・オブジェクトの属性を変更することができます。

CLコンパイラー(CRTCLPGM, CRTCLMODまたはCRTBNDCL)を呼び出すために使用するCLコマンドで同じパラメーターを指定する代わりに、DCLPRCOPTコマンドを使用してCLソース・プログラムでコンパイラー・パラメーターを設定することができます。

- DCLPRCOPT上のこれらのパラメーターには省略時の値がありません。値を指定しない場合には、CLコンパイラーは、CLコンパイラーを呼び出すために使用されるCLコマンドで指定される値または省略時の値を使用します。
- DCLPRCOPTでパラメーター値を設定すると、CRTCLPGM, CRTCLMOD,またはCRTBNDCLコマンドの対応するパラメーターに指定した値または省略時値として指定した値が一時変更されます。
- コンパイラー・リストが生成される場合、最初のページには、CLコンパイラーを呼び出すために使用されるCLコマンドから受け渡されたコンパイラー・パラメーターが表示されます。DCLPRCOPTコマンドで一時変更されたこれらのパラメーターのいずれかは、生成されたCLプログラムまたはCLモジュールに影響は与えますが、コンパイラー・リストの最初のページには反映されません。
- パラメーターおよびパラメーター値には、オリジナル・プログラム・モデル(OPM) CLコンパイラーまたは統合化言語環境(ILE) CLコンパイラーにのみ適用されるものもあります。例えば、ALWRTVSRCパラメーターはCRTCLPGMコマンドによって呼び出されるOPM CLコンパイラーにのみ適用できます。CLソース・プログラムのコンパイルに呼び出されるCLコンパイラーに適用できないDCLPRCOPTで指定されるパラメーターは、無視されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャー内でのみ有効です。すべての宣言コマンド(DCL, COPYRIGHT, DCLF,およびDCLPRCOPT)は、PGM (プログラム) コマンドの後に続き、プログラム中の他のすべてのコマンドより前になければなりません。宣言コマンドの4つのタイプはどの順序でも混用することができます。
- CLコンパイラーではDCLPRCOPTコマンドを1つしか使用できません。CLソース・プログラムで複数のDCLPRCOPTコマンドを指定した場合には、メッセージCPD0323が送られ、コンパイルは失敗します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SUBRSTACK	サブルーチン・スタックの深さ	20-9999, <u>99</u>	オプション的, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
ALWRTVSRC	RTVCLSRC可能	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト・記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOBRUN, *JOB	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	*SNGLVL, *TERASPACE	オプション
DFACTGRP	省略時の活動化グループ	*YES, *NO	オプション
ACTGRP	活動化グループ	名前, *STGMDL, *NEW, *CALLER	オプション
BNDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: サービス・プログラ ム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
	要素 2: 活動化	*IMMED, *DEFER	
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバ インド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	

上

サブルーチン・スタックの深さ (SUBRSTACK)

サブルーチン・スタックで使用できるようにしたい項目の数を指定します。CALLSUBR (サブルーチン呼び出し) コマンドが実行されるたびに、項目がサブルーチン・スタックに追加されます。RTNSUBR (サブルーチンからの戻り) またはENDSUBR (サブルーチン終了) コマンドが実行されるたびに、項目が除去されます。CALLSUBR コマンドがサブルーチン内から実行される場合は、サブルーチン・スタックに複数の項目を入れることができます。サブルーチンは別のサブルーチンから呼び出すことも、自身を再帰的に呼び出すこともできます。

99 このCLプログラムが実行されるときに使用できるサブルーチン・スタック項目の最大数は99です。

20から9999

このCLプログラムが実行されるときに使用できるサブルーチン・スタック項目の最大数を指定してください。

上

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムまたはモジュールに対するロギング・オプションを指定します。

***JOB** 実行中のCLプログラムの中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況によって決まります（ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照してください）。ログされたコマンドをリストするためには、ジョブのロギング・レベルが3または4でなければなりません。

*YESまたは*NOの値は、CHGJOBコマンドに指定されたどの値よりも優先します。

***YES** コマンドはすべての場合にログされます。

***NO** コマンドはログされません。

上

RTVCLSRC可能 (ALWRTVSRC)

CLプログラムのソース仕様をプログラムと一緒に保管するかどうかを指定します。保管したソース仕様は、CLソース・ステートメント検索(RTVCLSRC)コマンドを使用して検索することができます。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTCLPGMコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTBNDCLおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

***YES** CLプログラムのソース仕様がプログラムと一緒に保管されます。

***NO** CLプログラムのソース仕様がプログラムとともに保管しません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

コンパイル済みCLプログラムまたはモジュール・オブジェクトを簡単に記述するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLプログラムまたはモジュールを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・データ・ファイルまたは装置ファイルであった場合には、このテキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に実行される権限検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはプログラムを実行中のユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。プログラムの作成後にユーザー・プロファイル属性を変更できるのは、プログラム所有者または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーのみです。

注: REPLACE(*YES)が指定されており、CRTCLPGMまたはCRTBNDCLコマンドでPGMパラメーターが指定した名前をもつプログラムが既に存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTCLPGMまたはCRTBNDCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

*USER

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

*OWNER

プログラムの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時にオブジェクトを検索してアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにあるオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行プログラムの権限には組み込まれません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

注: REPLACE(*YES)が指定され、名前指定されたオブジェクトが指定されたライブラリーに既に存在するときは、このパラメーターは無視されます。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このCLプログラムまたはモジュールのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されます。

***JOB** 使用される分類順序は、CLプログラムまたはモジュールの作成時のジョブと関連したSRTSEQです。

***JOBRUN**

使用される分類順序は、CLプログラムまたはモジュールの実行時のジョブと関連したSRTSEQです。

***LANGIDUNQ**

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みで使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLプログラムまたはモジュールで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

*JOBRUN

使用される言語IDは、CLプログラムまたはモジュールの実行時のジョブと関連したLANGIDです。

*JOB 使用される言語IDは、CLプログラムまたはモジュールの作成時のジョブと関連したLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

ストレージ・モデル (STGM DL)

ILE CLプログラムの記憶域モデル属性を指定します。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTBNDCCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTCLPGMおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

*SNGLVL

プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

*TERASPACE

プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。DFTACTGRP(*YES)が指定されている場合には、STGM DL(*TERASPACE)を指定することはできません。

上

省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)

ILE CLプログラムが省略時の活動化グループと関連付けられるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTBNDCCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTCLPGMおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

*YES プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられます。

注: この値を指定した場合には、ACTGRPパラメーターを指定することはできません。

*NO プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられません。

上

活動化グループ (ACTGRP)

ILE CLプログラムが呼び出された時に関連付けられる活動化グループを指定します。活動化グループにより、次のものが提供されます。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- アプリケーションのクリーンアップを処理するための論理境界

注: このパラメーターは、CLソースがCRTBNDCCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTCLPGMおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

*STGMDL

STGMDL(*SNGLVL)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILE活動化グループに入れられます。STGMDL(*TERASPACE)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILETS活動化グループに入れられます。

*CALLER

このプログラムが呼び出される時に、プログラムは呼び出し元の活動化グループ内で活動化されません。

*NEW このプログラムが呼び出されると、システムは新しい活動化グループを作成します。

名前 このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

上

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

モジュールのインポート要求が満たされているかどうかを確認するために、バインド時に調べるサービス・プログラムのエクスポートのリストを指定します。サービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、一連のモジュールのエクスポートによって満たされない未解析のモジュールのインポート要求がある場合だけです。BNDSRVPGM パラメーターに指定したモジュールのインポート要求を満たしているサービス・プログラムは、作成されたプログラムにバインドされます。BNDSRVPGMパラメーターに指定したサービス・プログラム名およびライブラリーは、実行時に使用するために保管されます。最大300の名前を指定することができます。

各サービス・プログラムの活動化を制御できます。参照サービス・プログラムを、プログラムの作成時に同時に活動化するかどうか、または参照サービス・プログラムからエクスポートされたプロシージャーが呼び出されるまで据え置くかどうかを指定できます。活動化の遅延によってアプリケーションのパフォーマンスが向上することがあります。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTBNDCCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用されます。 CRTCLPGMおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

単一値

***NONE**

サービス・プログラムは指定されません。

要素1: サービス・プログラム

修飾子1: サービス・プログラム

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのサービス・プログラム・オブジェクトを検索します。

注: この値をユーザー制御環境で指定する必要があるのは、何がユーザー・プログラムにバインドされるか正確に分かっている場合だけです。 *ALLと一緒に*LIBLを指定すると、プログラムの実行時に予測できない結果になることがあります。何がユーザー・プログラムにバインドされるかうまく制御されるように、総称サービス・プログラム名または特定のライブラリーを指定してください。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリー内で、後ろに*がある文字で始まるすべてのサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

名前 記号の分析解決時に検査されるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

要素2: 活動化

***IMMED**

参照サービス・プログラムは、作成中のプログラムが活動化されると活動化されます。

***DEFER**

参照サービス・プログラムは、エクスポートしたプロシージャが呼び出されると活動化されません。

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーのリストを指定します。バインド・ディレクトリーのモジュールおよびサービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、モジュールおよびサービス・プログラムからのエクスポート (MODULEまたはBNDSRVPGMパラメーターに指定された) で満たせない未解決のモジュール・インポート要求がある場合だけです。最大300の名前を指定することができます。

注: このパラメーターは、CLソースがCRTBNDCCLコマンドを使用してコンパイルされる場合にのみ適用できます。CRTCLPGMおよびCRTCLMODの場合には、このパラメーターに指定される値はすべて無視されます。

単一値

*NONE

バインド・ディレクトリーは指定されません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1: サブルーチン・スタックの深さの宣言

```
DCLPRCOPT  SUBRSTACK(50)
```

このコマンドは、サブルーチン・スタック項目の最大数を50に設定します。サブルーチン・スタックの深さが50を超える場合に、このCLプログラムが実行されると、エスケープ・メッセージCPF0822が送られます。

例2: CRTCLPGMを一時変更するコンパイラー・オプションの宣言

```
DCLPRCOPT  ALWRTVSRC(*NO)  USRPRF(*OWNER)
```

このコマンドは、CLプログラム作成 (CRTCLPGM)コマンドで指定された RTVCLSRC可能 (ALWRTVSRC)およびユーザー・プロファイル (USRPRF)値を一時変更します。この結果、制御言語プログラムは*PGMオブジェクトからCLソース・コードを検索できないようにし、このプログラム・オブジェクトの呼び出し時に*PGMオブジェクトを所有するユーザー・プロファイルの権限を取り込みます。

例3:CRTCLMODを一時変更するコンパイラー・オプションの宣言

```
DCLPRCOPT LOG(*NO) AUT(*USE)
```

このコマンドは、CRTCLMODコマンドで指定されたログ・コマンド (LOG)および権限 (AUT)値を一時変更します。この結果のILE CLモジュールがILEプログラムまたはサービス・プログラムにバインドされ、ILE CLプロシージャが呼び出されると、このプロシージャから実行されたCLコマンドはジョブ・ログに記録されなくなります。CLモジュールの作成(CRTCLMOD)コマンドで作成された*MODULEオブジェクトの共通権限は、*USEとなります。

例4:CRTBNDCLを一時変更するコンパイラー・オプションの宣言

```
DCLPRCOPT DFTACTGRP(*NO) ACTGRP(MYAPP) +  
          BNDIR(MYAPPLIB/MYBNDIR)
```

このコマンドは、バインドCL PGMの作成 (CRTBNDCL)コマンドで指定された省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)、活動化グループ (ACTGRP)、およびディレクトリーのバインド (BNDIR)値を一時変更します。結果のILE制御言語プログラムは、MYAPPという名前の活動化グループ内で実行されます。CRTBNDCLがプログラムの作成(CRTPGM)コマンドを実行すると、ディレクトリーのバインド (BNDIR)パラメーターのライブラリーMYAPPLIB内にバインド・ディレクトリーMYBNDIRが追加されます。これにより、そのバインド・ディレクトリーが参照するサービス・プログラムおよびILEモジュールがILE制御言語プログラム内で使用されるILEプロシージャを解決できるようになります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

オブジェクトの圧縮解除 (DCPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト圧縮解除(DCPOBJ)コマンドによって、プログラム、パネル・グループ、メニュー、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、モジュール、およびサービス・プログラムを永続的に圧縮解除することができます。

- 圧縮されたオブジェクトでは圧縮解除されたオブジェクトより使用される記憶域スペースが少なくなります。圧縮されたオブジェクトが使用されるか、あるいは圧縮されたプログラムが呼び出される時には、圧縮解除されたバージョンのオブジェクトが自動的にユーザーに使用可能になります。
- 圧縮解除されたオブジェクトは、それに割り振られたシステム記憶域スペースを使用し、最終的な使用可能状態になります。
- 一時的に圧縮解除したオブジェクトは圧縮済みオブジェクトの一時的な圧縮解除されたコピーです。システムまたはユーザーが一時記憶域スペースを再利用する必要があると判断するまで、システムは一時コピーに記憶域スペースを割り振ります。

次の場合に、一時記憶域は自動的に再利用されます。

- RCLTMPSTGコマンドが実行されます。
- 次の初期プログラム・ロード(IPL)が実行された。
- オブジェクトが頻繁に使用され、システムがそのオブジェクトを永続的に圧縮解除するようになる。

オブジェクトが永続的に圧縮解除された場合には、そのオブジェクトのすべての一時形式の他にオブジェクトの圧縮バージョンも破棄されます。しかし、圧縮済みバージョンは、そのオブジェクトが一時的な圧縮解除である限り元のまま残ります。

制約事項: コマンドで指定されたオブジェクトに対する*USE権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する実行権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	値 (最大 6 回の繰り返し): *ALL, *FILE, *MENU, *MODULE, *PGM, *PNLGRP, *SRVPGM	必須, 定位置 2
PGMOPT	プログラム・オプション	*ALL, *INS	オプション

オブジェクト (OBJ)

圧縮解除するオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー中の、**オブジェクト・タイププロンプト** (OBJTYPE パラメーター) で指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが圧縮解除されます。

総称*オブジェクト名

圧縮解除するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

オブジェクト名

圧縮解除するオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVRxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRDARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```


1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

圧縮解除するオブジェクトのタイプを指定します。*ALLを指定することができるし、あるいはその他の1つまたは複数の使用できる値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つ圧縮されたすべてのメニュー、パネル・グループ、表示装置および印刷装置ファイル、プログラム、モジュール、およびサービス・プログラムが圧縮解除されます。

***FILE** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つ表示装置および印刷装置ファイルが圧縮解除されます。

*MENU

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つメニューが圧縮解除されます。

*MODULE

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つモジュールが圧縮解除されます。

***PGM** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つプログラムが圧縮解除されます。

*PNLGRP

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つパネル・グループが圧縮解除されます。

*SRVPGM

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つサービス・プログラムが圧縮解除されます。

上

プログラム・オプション (PGMOPT)

プログラムまたはサービス・プログラムの全体を圧縮解除するのか、それとも命令ストリームだけを圧縮解除するのかを指定します。このパラメーターは、**オブジェクト・タイププロンプト** (OBJTYPEパラメーター) に*PGM, *SRVPGM, または*ALLが指定されている場合にのみ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** プログラムまたはサービス・プログラムの全体 (命令ストリームおよびプログラム識別情報テーブル) が圧縮解除されます。

***INS** プログラムまたはサービス・プログラムの命令ストリームだけが圧縮解除されます。

上

例

```
DCPOBJ OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中の圧縮されたすべての表示装置および印刷装置ファイルを圧縮解除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF3B01

&2のオブジェクト&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B02

&2のファイル&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B05

圧縮解除されたオブジェクトはない。

CPF3B06

&1個のオブジェクトが圧縮解除された。&3個は圧縮解除されなかった。&8個は含まれなかった。

CPF3B08

&2のオブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF8108

&9の装置ファイルまたは保管ファイル&4に損傷がある。

- CPF812E**
&9のモジュール&4に損傷がある。
- CPF8129**
&9のプログラム&4に損傷がある。
- CPF813D**
&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。
- CPF8150**
&9のパネル・グループ&4に損傷がある。
- CPF8151**
&9のメニュー&4に損傷がある。
- CPF9570**
デバッグ・データの作成またはアクセス中にエラーが起こった。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9803**
ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。
- CPF9804**
ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。
- CPF9806**
ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。
- CPF9807**
ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。
- CPF9808**
ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。
- CPF9811**
ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9821**
ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。
- CPF9822**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF9838**
ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

リンクの除去 (DEL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (DEL)コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドはリンクの除去 (RMVLNK)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- ERASE
- RMVLNK

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- "ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
- QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL)権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
- その他のファイル・システムの権限要件については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
- 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- ディレクトリーをリンク解除することはできません。
- ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
- 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF,および*SYMLNKのI5/OSオブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去するオブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はI5/OSオブジェクト・

タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。例えば、オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。例えば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単体を削除するには、モジュールの削除 (DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去 (RMVLNKまたは別名DEL あるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去 (RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

上

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名前規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

例

DELの代替コマンド名はRMVLNKです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、DELはそれらのすべてで直接RMVLNKに置き換えることができます。

例1:オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

従属定義 (DEP)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

従属定義(DEP)コマンド定義ステートメントは、チェックしなければならないパラメーターとパラメーター値との間の必要な関係を定義します。この関係は、1つ以上のパラメーターに特定の値が必要なことを示すこともあれば、パラメーター自体の存在が必要であることを示すこともあります。

DEPステートメントは、CLコマンドの第2レベル・パラメーター構文検査を行います。第1レベルは、値のタイプ(*NAMEや*DATEなど)を定義するPARM, QUAL,および ELEMステートメント、さらには有効な値の範囲や有効な値のリストなどのパラメーター値制限によって行われます。DEPステートメントによって、パラメーター値の組み合わせがコマンド・ストリング内で構文的に正しいかを検証することができます。

DEPステートメントは、指定されたパラメーターの最初の値しかチェックできません。値のリストを受け入れるパラメーターまたは複数の要素または修飾子をもつパラメーターの構文検査を行いたい場合には、コマンド・ストリングに第3レベルの構文検査を行う妥当性検査出口プログラムを作成することができます。PARM, QUAL, ELEM,または DEPステートメント、あるいは妥当性検査プログラムで構文検査を行うと、コマンド処理プログラムでパラメーター構文検査コードを除外するか、大幅に単純化できます。

パラメーターに省略時の値があり、パラメーターが指定されていない場合には、DEPステートメントが仕様チェックを実行するのか、関係の検査を実行するのかによって検査方法が異なります。未指定のパラメーターについて仕様の検査(そのパラメーターに値があるかどうかの検査)が行なわれる場合には、システムは値が指定されていないものと見なし、省略時の値は使用されません。未指定のパラメーターについて関係の検査が行なわれる場合には、その関係の検査でそのパラメーター値として省略時の値が使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTL	制御条件	単一値: *ALWAYS その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: キーワードまたはキーワード参照	文字値	
	要素 2: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 3: 値またはキーワード参照	文字値	
PARM	従属パラメーター	値 (最大 25 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: キーワードまたはキーワード参照	文字値	
	要素 2: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 3: 値またはキーワード参照	文字値	
NBRTRUE	真の従属の数	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 真となる番号	0-25	
MSGID	メッセージ識別コード	名前, *NONE	オプション, 定位置 4

制御条件 (CTL)

PARMステートメントに定義されたパラメーターの依存関係が真となる前に、真でなければならない制御条件を指定します。最初に指定されたキーワードは、制御パラメーターを示します。制御条件は、キーワード名だけで指定するか、あるいはキーワード名および制御条件に依存するパラメーターの存在が必要であるかどうかを決定するテスト関係で指定することができます。制御パラメーターと指定された値との関係は、指定された条件と一致しているかどうかを調べるために、テストすることができます。その場合には、制御パラメーターが依存するパラメーターは、PARMキーワードおよびNBRTRUEキーワードに指定された要件と一致していなければなりません。

単一値

*ALWAYS

パラメーターの依存関係は、コマンドの形式に関係なく常に検査されます。

その他の値

キーワード名

依存関係を制御するために値を指定しなければならないパラメーターのキーワード名を指定してください。キーワード名は、これを定義するPARMステートメントの**キーワード (KWD)**パラメーターに指定されたパラメーターの名前です。キーワードが指定された場合には、パラメーターの依存関係が検査されます。キーワード名は、TYPE(*NULL)で定義されたコマンド・パラメーターを参照することはできません。

&キーワード名 比較演算子 値

制御パラメーターのキーワード名を指定し、その後に比較演算子(*LE, *EQなど)とテストする値を指定してください。テスト条件が一致していた場合には、制御パラメーターが依存しているパラメーターは、PARMキーワードに指定された要件と一致していなければなりません。値は32バイトを超えてはいけません。キーワード名は、TYPE(*NULL)で定義されたコマンド・パラメーターを参照することはできません。

PARMステートメントのSPCVALパラメーターまたはSNGVALパラメーターを使用して、テストの対象とする値が特殊値または単一値として指定されている場合は、置き換え値ではなく比較値を使用しなければなりません。

比較演算子および値を指定した場合には、キーワードの値がテストされることを示すために、キーワード名の前にアンパーサンド(&)を付けなければなりません。比較演算子および値を指定しない場合には、アンパーサンドを使用してはいけません。

(&キーワード名比較演算子 &キーワード名)

制御パラメーターのキーワード名を指定し、その後に比較演算子(*EQなど)と、値が制御パラメーターの値と比較される別のパラメーターのキーワード名を指定してください。キーワード名は、TYPE(*NULL)またはPASSVAL(*NULL)で定義されたコマンド・パラメーターを参照することはできません。

従属パラメーター (PARM)

CTLパラメーターによって定義された制御条件が真である場合にテストしなければならないパラメーターの依存関係を指定します。依存関係には、存在をテストされる1つ以上のパラメーターの名前、あるいはキーワード値と他のキーワード値または定数値との1つ以上のテスト関係を指定することができます。最大25のパラメーター依存関係をこのパラメーターに指定することができます。キーワード名は、TYPE(*NULL)で定義されたコマンド・パラメーターを参照することはできません。

キーワード名

値が指定されていない各パラメーターのキーワード名を指定してください。

&キーワード名 比較演算子 値

各パラメーターのキーワード名を、比較演算子およびテストする値を後に付けて指定してください。キーワードの値がテストされることを示すために、キーワード名の前にアンパサンドを付けなければなりません。値は32バイトを超えてはいけません。

比較の対象とする値が、PARMステートメントの**特殊値 (SPCVAl)**パラメーターまたは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターを用いて特殊値または単一値として指定されている場合には、比較値ではなく置き換え値を使用しなければなりません。

&キーワード名比較演算子 &キーワード名

1つのパラメーターのキーワード名の後に、比較演算子と別のパラメーターのキーワード名とを続けて指定してください。最初のパラメーターと2番目のパラメーターの値が比較されます。キーワード名は、PASSVAL(*NULL)で定義されたコマンド・パラメーターを参照することはできません。

上

真の従属の数 (NBRTRUE)

真となければならないパラメーター依存関係（このDEPステートメントのPARMパラメーターで定義）の数を指定します。真とならないと、診断メッセージ（このDEPステートメントのMSGIDパラメーターで定義）が送られ、コマンドは実行されません。

このパラメーターのいずれの要素にもCL変数をコーディングすることはできません。

単一値

***ALL** すべてのパラメーター依存関係が真でなければなりません。これは、NBRTRUE(*EQ N)を指定することと同じです。Nは、PARMパラメーターに定義されたパラメーター依存関係の数です。

要素1: 比較演算子

比較演算子

比較演算子を指定してください。有効な値は*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, および*NGです。

要素2: 真となる番号

0から25

指定した関係を満たすために真でなければなければならないパラメーター依存関係の数を指定してください。

上

メッセージ識別コード (MSGID)

NBRTRUEパラメーターによって指定された論理式が偽として評価された場合に、ユーザーに送られる診断メッセージを指定します。

*NONE

特定の診断メッセージが送られません。代わりに、汎用メッセージCPD0150が送られます。コマンドのパラメーターの数によっては、汎用メッセージのテキストからパラメーター間構文エラーの原因を判別することが非常に困難になる場合があります。

メッセージID

ユーザーに送られる診断メッセージのメッセージIDを指定してください。

IDが3文字の接頭部CPFまたはCPDで始まるメッセージは、弊社提供のメッセージ・ファイルQCPFMSGから検索されます。ここに指定された他のすべてのメッセージは、これらの依存関係によって定義中のコマンドを作成するために使用されるCRTCMDコマンドのMSGFパラメーターによって識別されるメッセージ・ファイルから検索されます。このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

上

例

例1:パラメーターの存在の検査

```
DEP CTL(&TYPE *EQ LIST) PARM(ELEMLIST)
```

TYPE(LIST)を指定する場合は、ELEMLISTパラメーターを指定する必要があります。TYPE(LIST)を指定したが、ELEMLISTパラメーターに値を指定しない場合には、汎用診断メッセージCPD0150が送られ、コマンドは実行されません。

例2:複数パラメーターの存在の検査

```
DEP CTL(FILE) PARM(VOL LABEL) +  
NBRTRUE(*EQ 2) MSGID(USR1234)
```

FILEパラメーターを指定する場合は、VOLパラメーターとLABELパラメーターの両方を指定する必要があります。VOLパラメーターとLABELパラメーターのうち的一方しか値を指定しない場合、あるいはいずれのパラメーターも指定しない場合には、診断メッセージUSR1234が送られ、コマンドは実行されません。コマンド分析プログラムは、CRTCMDコマンドのMSGFパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルでメッセージ USR1234を検索します。

例3:一緒には指定できないパラメーターの検査

```
DEP CTL(*ALWAYS) PARM(J1 D J2) NBRTRUE(*EQ 1)
```

J1, D,およびJ2パラメーターのうち1つだけに値を指定しなければなりません。これらのパラメーターのどれも指定しない場合、あるいは複数指定した場合には、汎用診断メッセージCPD0150が送られ、コマンドは実行されません。

例4:1つ以上の条件が真であるかどうかの検査

```
DEP CTL(&LIB *EQ MYLIB) +  
PARM((&PASSWORD *EQ XYZ5) (&USRPRF *EQ B0BJ)) +  
NBRTRUE(*GE 1) MSGID(MSG1001)
```

LIBパラメーター値がMYLIBである場合には、PASSWORDパラメーター値がXYZ5であるか、USRPRFパラメーター値がBOBJであるか、両方をPASSWORD(XYZ5)とUSRPRF(BOBJ)として指定する必要があります。LIB(MYLIB)であり、指定された依存関係条件のどちらも真でない場合は、診断メッセージMSG1001が送られ、コマンドは実行されません。

例5: 条件付き必要パラメーターの検査

```
DEP CTL(&OUTPUT *EQ *OUTFILE) PARM((&OUTFILE *NE ' ')) +
    NBRTRUE(*EQ 1) MSGID(CPD9861)
DEP CTL(&OUTPUT *NE *OUTFILE) PARM((&OUTFILE *EQ ' ')) +
    NBRTRUE(*EQ 1) MSGID(CPD9862)
DEP CTL(&OUTMBR *NE *FIRST) PARM((&OUTFILE *EQ ' ')) +
    NBRTRUE(*EQ 0) MSGID(CPD9867)
```

関連する3つのパラメーター間の関係は次のようにチェックされます。

1. OUTPUTパラメーターが*OUTFILEである場合は、OUTFILEパラメーターに空白でない値を指定する必要があります。さもないと、メッセージCPD9861が送られます。メッセージIDは「CPD」で始まるので、オペレーティング・システムは、メッセージ・ファイルQCPFMSG内でこのメッセージを検索します。OUTFILEパラメーターが修飾オブジェクト名であると、最初のQUALの値だけがチェックされません。
2. OUTFILEパラメーターがMIN(0)としてコーディングされていて、省略時の値(DFT)がないと、OUTPUTパラメーターの値が*OUTFILE以外である場合は、OUTFILEパラメーターは空白でなければなりません。さもないと、メッセージCPD9862が送られます。
3. OUTMBRパラメーターの値が*FIRST以外の値である場合には、OUTFILEパラメーターには空白でない値を指定する必要があります。さもないと、メッセージCPD9867が送られます。OUTMBRパラメーターが2つの要素からなる値のリストであると、最初のELEMの値だけがチェックされます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

DIG照会の開始 (DIG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DIG照会の開始 (STRDIGQRY)コマンドまたはその別名DIGは、ドメイン情報グローパー・ツール(DIG)を開始します。

DIGは、ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバーから情報を取得したりその応答をテストすることを可能にする強力なQUERYツールです。DNSサーバーを使用するためにシステムを構成する前に、そのDNSサーバーが正しく応答していることを確認することができます。また、ホスト、ドメイン、およびその他のDNSサーバーに関するDNS情報を検索することもできます。

特定のネーム・サーバーにQUERYを出すことを指定されない限り、DIGはCHGTCPDMNにリストされたそれぞれのサーバーを試行します。

制約事項:

- ユーザーには、バッチ入力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- バッチ入力ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、キー・ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- キー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、トラステッド鍵ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- トラステッド鍵ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、出力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 出力ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、出力ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
HOSTNAME	照会名	文字値, <u>*DFT</u>	オプション, 定位置 1
TYPE	照会タイプ	<u>*A</u> , *AAAA, *ANY, *AXFR, *CNAME, *MX, *NS, *PTR, *SOA, *SRV, *TXT	オプション, 定位置 2
CLASS	照会クラス	<u>*IN</u> , *CH, *HS, *ANY	オプション
REVERSE	リバース・ルックアップ	<u>*NO</u> , *YES, *IP6INT	オプション
DMNNAMSVR	ドメイン・ネーム・サーバー	文字値, <u>*CFG</u>	オプション
PORT	DNSポート	1-65535, <u>53</u>	オプション
TIMEOUT	照会タイムアウト	1-100, <u>5</u>	オプション
USEDMNSCHL	ドメイン検索リストの使用	*YES, <u>*NO</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
DMNSCHLIST	ドメイン検索リスト	文字値, *CFG, *NONE	オプション
SRCADR	ソース・アドレス	文字値, *DFT, *ANY4, *LOOPBACK4, *ANY6, *LOOPBACK6	オプション
BCHFILE	バッチ入力ファイル	パス名, *NONE	オプション
IPVSN	IPバージョン	*ALL, *IPV4ONLY, *IPV6ONLY	オプション
PROTOCOL	ネットワーク・プロトコル	*UDP, *TCP	オプション
SETRDFLAG	反復が必要	*YES, *NO	オプション
SETAAFLAG	権限のある応答のみ	文字値, *NO, *YES	オプション
SETADFLAG	認証データ	*NO, *YES	オプション
SETCDFLAG	DNSSEC検査を使用不可にする	*NO, *YES	オプション
MULTILINE	複数行の印刷	*NO, *YES	オプション
SHORT	短応答の印刷	*NO, *YES	オプション
IDENTIFY	短応答内のプリント・サーバー	*NO, *YES	オプション
PRTQRY	照会の印刷	*NO, *YES	オプション
PRTCLASS	RRクラスの印刷	*YES, *NO	オプション
PRTTTL	RR TTLの印刷	*YES, *NO	オプション
PRTALL	すべての照会照会の印刷	*YES, *NO	オプション
CMD	照会コマンドの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
COMMENTS	照会コメントの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
STATS	照会統計の印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
QUESTION	質問セクションの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
ANSWER	応答セクションの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
AUTHORITY	権限セクションの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
ADDITIONAL	追加セクションの印刷	*DFT, *YES, *NO	オプション
KEYFILE	鍵ファイル	パス名, *NONE	オプション
KEYNAME	鍵名	文字値, *NONE	オプション
STOPFAIL	SERVFAILで停止	*YES, *NO	オプション
UDPTRUNC	切り捨てられた応答を無視	*RETRY, *IGNORE	オプション
NSSCH	権限サーバーのリスト	*NO, *YES	オプション
TRACE	代行パスのトレース	*NO, *YES	オプション
UDPTRIES	UDP照会の試行回数	1-100, <u>3</u>	オプション
UDPNBRTRY	UDP再試行	0-100, <u>2</u>	オプション
NBRDOTS	ドット数	0-10, <u>1</u>	オプション
BUFSIZE	EDNSのUDP bufferサイズ	0-65535, <u>0</u>	オプション
EDNS	EDNSバージョンの設定	0-255, <u>0</u>	オプション
NOEDNS	EDNSバージョンのクリア	*NO, *YES	オプション
BESTEFFORT	ベスト・エフォート表示	*NO, *YES	オプション
DNSSEC	DNSSECレコードの要求	*NO, *YES	オプション
SIGCHASE	DNSSECチェーンの追跡	*NO, *YES	オプション
TRUSTEDKEY	トラステッド鍵ファイル	パス名, *NONE	オプション
TOPDOWN	DNSSECトップダウン検査	*NO, *YES	オプション
TOSTMF	出力ファイル	パス名, *STDOUT	オプション

上

照会名 (HOSTNAME)

ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバーに情報を提供させる対象の名前を指定します。リソース・レコードを指定するために、名前またはIPアドレスを使用することができます。例えば、名前は「mycomputer.mycompany.com」が考えられます。IPアドレスの場合には、「10.0.1.100」のようなIPv4アドレスや「2001:D88::1」のようなIPv6アドレスが考えられます。アドレスを取得するには名前を使用し、名前を取得するにはアドレスを使用することができます。

***DFT** ルート・サーバー「.」にQUERYを出します。

domain-name

DNSサーバーQUERYに使用する名前を指定します。これは通常、QUERY対象のホスト名（例：mycomputer.mycompany.com）またはドメイン（例：mycompany.com）です。

internet-address

小数点表記法でIPv4アドレスまたはコロン区切りのIPv6アドレスを指定します。IPアドレスを使用する場合には、REVERSE(*YES)パラメーターを使用してPTR（ポインター）タイプのQUERYを単純化することを検討してください。詳細については、このコマンドの例を参照してください。

上

照会タイプ (TYPE)

QUERYのタイプを指定します。省略時のタイプは*Aです。サポートされているQUERYタイプのリストは時とともに変わり、すべてのサーバーが存在しているすべてのタイプをサポートしているわけではありません。このリストは便宜上一部の一般的なQUERYタイプを提供します。完全なリストではありません。使用したいQUERYがこのリストにない場合でも、そのQUERYタイプを表す文字ストリングを入力することができます。このBINDバージョンでそのタイプが不明な場合には、QUERYは省略時の*A QUERYになって、それに対応する結果が表示されます。

***A** IPv4アドレス・レコード。これは文字ストリング「a」です。

***AAAA**

IPv6アドレス・レコード。これは文字ストリング「aaaa」です。

***ANY** リソース・レコード。これは文字ストリング「any」です。

***AXFR**

ゾーン転送。これは文字ストリング「axfr」です。

***CNAME**

正規名前レコード。真の（正規）ホスト名の別名のリストが存在していれば、それを戻します。これは文字ストリング「cname」です。

***MX** メール交換レコード。これは文字ストリング「mx」です。

***NS** ゾーンのネーム・サーバー(DNSサーバー) 情報。これは文字ストリング「ns」です。

***PTR** ポインター・レコード。IPアドレスに対する名前を戻します。これは文字ストリング「ptr」です。

***SOA** 権限の開始レコード。これは文字ストリング「soa」です。

***SRV** サービス位置の選択。これは文字ストリング「srv」です。

***TXT** テキスト・レコード。これは文字ストリング「txt」です。

照会クラス (CLASS)

情報のプロトコル・グループを指定します。

***IN** インターネット・クラス。

***CH** CHAOSクラス。サーバーは、CHAOSクラスの多くの組み込みゾーンで、有益な診断情報を提供します。

バージョン

BINDサーバーのnamed.confに「version」オプションが構成されている場合には、CHAOSクラスを使用してそれに対してQUERYを出すことができます。これは、タイプがTXTでクラスがCHAOSである、名前「version.bind」のQUERYでサーバーが報告するバージョンです。省略時値は、このサーバーの本当のバージョン番号です。

```
DIG HOSTNAME('version.bind') TYPE(*TXT) CLASS(*CH)
```

hostname

BINDサーバーのnamed.confに「hostname」オプションが構成されている場合には、CHAOSクラスを使用してそれに対してQUERYを出すことができます。これは、タイプがTXTでクラスがCHAOSである、名前「hostname.bind」のQUERYでサーバーが報告するホスト名です。この省略時値は、ネーム・サーバーをホストしているマシンのホスト名です。このようなQUERYの主な目的は、どのグループのエニーキャスト・サーバーがQUERYに対して実際に応答しているのかを特定することです。

```
DIG HOSTNAME('hostname.bind') TYPE(*TXT) CLASS(*CH)
```

server-id

BINDサーバーのnamed.confに「server-id」オプションが構成されている場合には、CHAOSクラスを使用してそれに対してQUERYを出すことができます。これは、タイプがTXTでクラスがCHAOSである、名前「ID.SERVER」のQUERYでサーバーが報告するIDです。このようなQUERYの主な目的は、どのグループのエニーキャスト・サーバーがQUERYに対して実際に応答しているのかを特定することです。省略時のserver-idは、noneです。

```
DIG HOSTNAME('ID.SERVER') TYPE(*TXT) CLASS(*CH)
```

***HS** MIT Athena Hesiodクラスを指定します。MIT Project Athenaによって開発されたHesiodは、BINDに構築された情報サービスです。その意図は、インストール済み環境全体のユーザー、グループ、ネットワークでアクセスできるファイル・システム、printcap、およびメール・サービスに関する情報を提供することです。言い換えれば、テキスト・ストリングとして保管された任意のデータを保持しているのです。HSクラスを使用するQUERYは、TXTリソース・レコードとして保管されたデータを取得します。ルート・ネーム・サーバーのリストで、Hesiodクラスにルート・サーバー（一般的にMITのもの）は指定できません。

***ANY** これは任意のクラスのQUERYを表し、ワイルドカードのQUERYです。

server-domain-name

DNSサーバーの名前を指定してください。

server-internet-address

DNSサーバーのIPアドレスを指定してください。

上

DNSポート (PORT)

使用する省略時のTCP/UDPネーム・サーバー・ポートを指定します。

53 省略時のポートは53です。

1から65535

有効なポート番号を指定します。

上

照会タイムアウト (TIMEOUT)

応答を待機するタイムアウト間隔を秒数で指定します。

5 タイムアウト値5秒が使用されます。

1から100

有効なタイムアウト値を秒数で指定します。

上

ドメイン検索リストの使用 (USEDMNSCHL)

ドメイン検索リスト (DMNSCHLIST)パラメーターによって定義された検索リストを使用するかどうかを指定します。検索リストは省略時には使用されません。

***NO** 検索リストを使用しません。

***YES** DMNSCHLISTパラメーターに指定された検索リストを使用します。

上

ドメイン検索リスト (DMNSCHLIST)

検索リストに単一ドメイン名を指定します。省略時の検索リストは、TCP/IPドメインの変更(CHGTCPDMN)コマンドを実行してDMNSCHLISTパラメーターを指定することによって設定します。複数のドメイン名が検出された場合には、最初のドメイン名のみが使用されます。

DMNSCHLISTが指定された場合には、USEDMNSCHL(*YES)も指定する必要があります。

***CFG** CHGTCPDMNコマンドでDMNSCHLISTパラメーターに指定された検索リストで検出された最初のドメイン名を使用します。

***NONE**

検索リストを指定しません。

830 System i: プログラミング i5/OS コマンド CRTJRNRCV (ジャーナル・レシーバー作成) ~

文字値 使用する有効なドメイン名ストリングを指定します。ドメイン名のみを指定できます。

上

ソース・アドレス (SRCADR)

QUERYの送信時に使用するソースIPアドレスを指定します。一部のDNSサーバーは、特定のソース・アドレスからのQUERYのみを許可するように構成されています。このパラメーターによって、システムに複数のネットワーク・インターフェースがある場合に、特定のソース・アドレスを使用することができます。

***DFT** スタックに提供された省略時値を使用します。

***ANY4**

任意のIPv4アドレス、つまり「0.0.0.0」。

***LOOPBACK4**

IPv4ループバック、つまり「127.0.0.1」。

***ANY6**

任意のIPv6アドレス、つまり「::」。

***LOOPBACK6**

IPv6ループバック、つまり「::1」。

文字値 QUERYのソースIPアドレスとして使用するIPアドレスを指定します。

上

バッチ入力ファイル (BCHFILE)

バッチ入力として使用するQUERY要求のリストが入ったファイルを指定します。ファイルには多くのQUERY (1行ごとに1つ) 入っています。ファイルの各項目は、PASEコマンド入力行インターフェースを使用してDIGへのQUERYとして提示されるのと同じように編成される必要があります。ファイルを使用する目的は、バッチ・モードまたはスクリプト操作を可能にするためです。

***NONE**

バッチQUERYファイルを指定しません。

パス名 入力を読み取られるストリーム・ファイルのパスを指定します。ストリーム・ファイルの行の内容は次のようになっています。

```
形式: [@global-server][ domain][ q-type] [q-class] {q-opt}
      または
      {global-d-opt} domain [@local-server] {local-d-opt}
      または
      [domain [@local-server] {local-d-opt} [...]]
```

ここで、

domainはドメイン・ネーム・システムにあります。

q-typeは(a,any,mx,ns,soa,...)のうちの1つです。 [default:a]
(タイプixfrにはixfr=versionを使用)

q-classは、(in,hs,ch,...)のうちの1つです。 [default: in]

q-optは、次のもののうちのいずれかです。

-x	ドット表記	(in-addrルックアップのショートカット)
-i		(IP6.INTリバースIPv6ルックアップ)
-f	filename	(バッチ・モード)
-b	address[#port]	(ソース・アドレス/ポートにバインド)
-p	port	(ポート番号を指定)
-q	name	(QUERY名を指定)
-t	type	(QUERYタイプを指定)

```

-c class          (QUERYクラスを指定)
-k keyfile        (TSIGキー・ファイルを指定)
-y [hmac:]name:key (名前付きBase64 TSIG鍵を指定)
-4               (IPv4 QUERYトランスポートのみを使用)
-6               (IPv6 QUERYトランスポートのみを使用)
d-optは形式が+keyword[=value]で、keywordは次のものです。
+[no]vc          (TCPモード)
+[no]tcp         (TCPモード、代替構文)
+time=###       (QUERYタイムアウトの設定) [5]
+tries=###      (UDP試行回数の設定) [3]
+retry=###      (UDP再試行回数の設定) [2]
+domain=###     (省略時のドメイン名の設定)
+bufsize=###    (EDNS0 Max UDPパケット・サイズの設定)
+ndots=###      (NDOTS値の設定)
+edns=###       (EDNSバージョンの設定)
+[no]search     (検索リストを使用するかどうかの設定)
+[no]showsearch (中間結果で検索)
+[no]defname    (同上)
+[no]recurse    (再帰モード)
+[no]all        (すべての表示フラグの設定または消去)
+[no]qr         (送信前に質問の印刷)
+[no]nssearch   (権限ネーム・サーバーの検索)
+[no]identify   (短い応答のID応答者)
+[no]trace      (ルートからのトレースの委任)
+[no]dnssec     (DNSSECレコードの要求)
+[no]sigchase   (DNSSEC署名の追跡)
+trusted-key=#### (トラステッド鍵追跡DNSSEC署名)
+[no]topdown    (DNSSEC検証トップダウンの実行)
+[no]multiline  (拡張フォーマットでのレコードの印刷)

```

グローバルなd-optとサーバー (ドメインの前) はすべてのQUERYに影響します
ローカルなd-optとサーバー (ドメインの後) はそのQUERYにのみ影響します
例えば、以下の行をファイルに入れることができます。

```

ibm.com aaaa in
aol.com mx
-q microsoft.com -t aaaa -c in
+recurse cisco.com @10.0.0.1 @10.0.0.2
@10.0.0.1 aa.com

```

上

IPバージョン (IPVSN)

QUERYをIPv4またはIPv6ネットワークに限定するかどうかを指定します。

***ALL** QUERYをIPv4またはIPv6に限定しません。

***IPV4ONLY**

QUERYをIPv4ネットワーク・インターフェースからのみ送信します。

***IPV6ONLY**

QUERYをIPv6ネットワーク・インターフェースからのみ送信します。

上

ネットワーク・プロトコル (PROTOCOL)

要求をサーバーに送信する際にTCPとUDPのどちらを使用するかを指定します。

***UDP** UDPを使用してQUERYを送信します。ただし、ゾーン転送(AXFR)要求などTCPが必要なQUERYには自動的にTCPが選択されます。

*TCP TCPを使用してQUERYを送信します。

上

反復が必要 (SETRDFLAG)

再帰が必要(RD)フラグをQUERYに設定するかどうかを指定します。これによって、現行サーバーに情報がない場合に、現行のDNSサーバーに他のDNSサーバーにQUERYを送信させます。

*YES RDフラグの設定。

*NO RDフラグを設定しません。

上

権限のある応答のみ (SETAAFLAG)

権限応答(AA)フラグをQUERYに設定するかどうかを指定します。これは、応答が権限サーバーのもので、非権限サーバーのキャッシュからではないようにすることを示します。権限サーバーは、QUERY対象のドメインを所有しています。

*NO AAフラグを設定しません。

*YES AAフラグを設定します。

上

認証データ (SETADFLAG)

認証されたデータ(AD)フラグをQUERYに設定するかどうかを指定します。ADビットは現在応答でのみ標準の意味を持っており、QUERYでは持っていません。しかし、QUERYにビットを設定する機能が完全性のために提供されています。

*NO ADフラグを設定しません。

*YES ADフラグを設定します。

上

DNSSEC検査を使用不可にする (SETCDFLAG)

検査使用不可(CD)フラグをQUERYに設定するかどうかを指定します。これは、サーバーが応答のDNSSEC検証を実行しないことを要求します。

*NO CDフラグを設定しません。

*YES CDフラグを設定します。

上

複数行の印刷 (MULTILINE)

人間が解読可能なコメントを付けた詳細な複数行フォーマットで、SOAレコードのようなレコードを印刷するかどうかを指定します。

***NO** 複数行フォーマットは使用しません。各レコードを単一行に印刷します。これによってマシンが出力を構文解析しやすくなることがあります。

***YES** 複数行フォーマットを使用します。

上

短応答の印刷 (SHORT)

DIGが簡潔な応答を提供するかどうかを指定します。

***NO** 簡潔な応答を印刷しません。応答を詳細形式で印刷します。

***YES** 簡潔な応答を印刷します。

上

短応答内のプリント・サーバー (IDENTIFY)

SHORT(*YES)パラメーターが指定された場合に応答したサーバーのIPアドレスおよびポート番号を表示するかどうかを指定します。

注: SHORT(*NO)が指定された場合にはこのパラメーターは無視されます。

***NO** 応答したサーバーのIPアドレスおよびポート番号を印刷しません。

***YES** 応答したサーバーのIPアドレスおよびポート番号を印刷します。

上

照会の印刷 (PRTQRY)

QUERYを送信されたとおりに印刷するかどうかを指定します。

***NO** QUERYを送信されたとおりに印刷しません。

***YES** QUERYを送信されたとおりに印刷します。

上

RRクラスの印刷 (PRTCLASS)

レコードの印刷時にCLASSを印刷するかどうかを指定します。

***YES** レコード出力でCLASSを印刷します。

***NO** レコード出力でCLASSを印刷しません。

上

RR TTLの印刷 (PRTTTL)

存続時間(TTL)をレコード出力で印刷するかどうかを指定します。

***YES** レコード出力でTTLを印刷します。

***NO** レコード出力でTTLを印刷しません。

上

すべての照会照会の印刷 (PRTALL)

すべての印刷フラグを設定するか消去するかを指定します。このパラメーターは他の印刷パラメーターと一緒に使用します。これによって、興味のある出力のみを印刷できます。出荷時の省略時値は、CMD, COMMENTS, STATS, QUESTION, ANSWER, AUTHORITY,およびADDITIONALパラメーターは*YESです。

***YES** すべての印刷フラグを設定します。

***NO** すべての印刷フラグを消去します。

例えば、PRTALLパラメーターを以下のように使用できます。

```
DIG PRTALL(*NO) QUESTION(*YES) ANSWER(*YES)
```

PRTALL(*NO)パラメーターはすべての印刷フラグをオフにし、QUESTION(*YES)およびANSWER(*YES)フラグはPRTALL(*NO)パラメーターをオーバーライドして、DIG出力の質問および応答セクションのみを印刷します。

上

照会コマンドの印刷 (CMD)

出力でDIGのバージョンおよび適用されたQUERYオプションを特定する初期コメントを印刷するかどうかを指定します。

***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。

***YES** 初期コメントを印刷します。

***NO** 初期コメントを印刷しません。

上

照会コメントの印刷 (COMMENTS)

出力でコメント行を印刷するかどうかを指定します。

***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。

***YES** コメント行を印刷します。

***NO** コメント行を印刷しません。

上

照会統計の印刷 (STATS)

QUERYの作成時や応答サイズなど、QUERY統計を印刷するかどうかを指定します。

- ***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。
- ***YES** QUERY統計を印刷します。
- ***NO** QUERY統計を印刷しません。

上

質問セクションの印刷 (QUESTION)

応答の質問セクションを印刷するかどうかを指定します。

- ***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。
- ***YES** 応答の質問セクションを印刷します。
- ***NO** 応答の質問セクションを印刷しません。

上

応答セクションの印刷 (ANSWER)

応答の権限セクションを印刷するかどうかを指定します。

- ***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。
- ***YES** 応答の応答セクションを印刷します。
- ***NO** 応答の権限セクションを印刷しません。

上

権限セクションの印刷 (AUTHORITY)

応答の権限セクションを印刷するかどうかを指定します。

- ***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。
- ***YES** 応答の権限セクションを印刷します。
- ***NO** 応答の権限セクションを印刷しません。

上

追加セクションの印刷 (ADDITIONAL)

応答の追加セクションを印刷するかどうかを指定します。

- ***DFT** すべての照会照会の印刷 (PRTALL)パラメーターに指定された値を使用します。
- ***YES** 応答の追加セクションを印刷します。
- ***NO** 応答の追加セクションを印刷しません。

鍵ファイル (KEYFILE)

DNS QUERYに署名するTSIG (Transaction Signature)キー・ファイルを指定します。QUERYが送られるDNSサーバーは、TSIG鍵および使用されているアルゴリズムで構成されている必要があります、そうならない場合にはトランザクションが失敗します。

この鍵は、HMAC-MD5鍵のBase64エンコードである必要があります。

注: このパラメーターが指定されている場合には、KEYNAMEパラメーターを指定することはできません。

*NONE

キー・パス名を指定しません。

パス名 使用する鍵が入ったストリーム・ファイルのパス名を指定します。例えば、「/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/my-tsig-key._KID」です。

QUERY対象のDNSサーバーは、クライアントからこのTSIG鍵を受け入れるためには、構成にこのキー名およびアルゴリズムが組み込まれている必要があります。

鍵名 (KEYNAME)

DNS QUERYに署名するTSIG (Transaction Signature)鍵を指定します。鍵は、Base64エンコード・ストリングです。QUERYが送られるDNSサーバーは、TSIG鍵および使用されているアルゴリズムで構成されている必要があります、そうならない場合にはトランザクションが失敗します。

注: このパラメーターが指定されている場合には、KEYFILEパラメーターを指定することはできません。

*NONE

キー名を指定しません。

文字値 使用するTSIG鍵を指定します。フォーマットは、*name:key* (*name*はキー名で、*key*はBase64エンコード・ストリングの実際の鍵です)。例:

```
my-tsig-key:JNvcpxysbJ2hsd0qQ5qrQ==
```

この場合のキー名は「my-tsig-key」で、Base64エンコード鍵は「JNvcpxysbJ2hsd0qQ5qrQ==」です。

QUERY対象のDNSサーバーは、クライアントからこのTSIG鍵を受け入れるためには、構成にこの鍵およびアルゴリズムが組み込まれている必要があります。

SERVFAILで停止 (STOPFAIL)

SERVFAIL応答の受信時に停止するか次のサーバーを試すかを指定します。省略時には、次のサーバーを試しません。これは、通常のスタブ・リゾルバーの動作の逆です。

***YES** SERVFAIL応答の受信時に次のサーバーを試しません。これは通常のスタブ・リゾルバーの動作の逆です。

***NO** SERVFAIL応答の受信時に次のサーバーを試します。

上

切り捨てられた応答を無視 (UDPTRUNC)

UDP応答で切り捨てを無視するかTCPで再試行するかを指定します。

***RETRY**

UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYを再試行します。

***IGNORE**

UDP応答で切り捨てを無視します。UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYを再試行しません。

上

権限サーバーのリスト (NSSCH)

DIGがルックアップされる名前(HOSTNAMEパラメーター)を含んだゾーンの権限DNSサーバーを検索して、各ネーム・サーバーがゾーンに対して持つ権限の開始(SOA)レコードを印刷しようとする必要があるかどうかを指定します。

***NO** HOSTNAMEを含むゾーンのすべてのDNSサーバーのSOAレコードを検索しません。

***YES** HOSTNAMEを含むゾーンのすべてのDNSサーバーのSOAレコードを検索します。

上

代行パスのトレース (TRACE)

ルックアップされる名前についてルート・ネーム・サーバーから委任パスをトレースするかどうかを指定します。トレースが使用可能にされた場合には、DIGは反復QUERYを作成して、ルックアップされる名前を解決します。これはルート・サーバーからの委託に従って、ルックアップの解決に使用された各サーバーからの応答を表示します。このオプションでは、ルート・サーバーに対するアクセス権限が必要です。

***NO** ルックアップされる名前(HOSTNAMEパラメーター)について、ルート・サーバーからの委任パスをトレースしません。

***YES** ルックアップされる名前(HOSTNAMEパラメーター)について、ルート・サーバーからの委任パスをトレースします。

上

UDP照会の試行回数 (UDPTRIES)

TCP QUERYの試行前に現在のDNSサーバーに対して何回UDP QUERYを試行するかを指定します。

3 TCP QUERYの試行前にUDP QUERYを3回試行します。

1から100

TCP QUERYの試行前にUDP QUERYを試行する回数を指定します。このパラメーターを使用する場合には、UDPNBRRTYパラメーターを使用する必要はありません。

UDP再試行 (UDPNBRTY)

TCP QUERYの試行前に現在のDNSサーバーに対して何回UDP QUERYを再試行するかを指定します。

2 2回のUDP再試行が使用されます。これは、初期QUERYに加えて行われるものです。

0-100 UDP再試行回数を指定します。通常、QUERYは3から5回の再試行しか必要ありません。このパラメーターを使用する場合には、UDPTRIESパラメーターを使用する必要はありません。

上

ドット数 (NBRDOTS)

絶対名と見なされるために、ドメイン名に表示する必要があるドット（ピリオド文字）の数を指定します。

ドットの数が少ない名前は、相対名として解釈され、DMNSCHLISTパラメーターにリストされたドメインで検索されます。

1 ドメイン名に1つのドットが含まれる場合には、絶対名と見なされます。

0-10 ドメイン名が絶対名と見なされるためにドメイン名に必要なドット数を指定します。

上

EDNSのUDP bufferサイズ (BUFSIZE)

EDNS(0)を使用して公開されるUDPメッセージ・バッファ・サイズを指定します。

0 UDPメッセージ・バッファ・サイズは0です。

0から65535

UDPメッセージ・バッファ・サイズとして使用するバイト数を指定します。通常、UDPの切り捨てられたパケットを避けるために、このバッファ・サイズを設定します。省略時には、このオプションでオーバーライドされない限り、UDPは最大パケット・サイズ(512バイト)を送信します。これは、TCP接続がファイアウォールでブロックされている場合に便利です。

上

EDNSバージョンの設定 (EDNS)

QUERYで使用するEDNSバージョンを指定します。EDNSバージョンを設定すると、EDNS QUERYが送信されます。**EDNSバージョンのクリア (NOEDNS)**パラメーターは記憶されているEDNSバージョンを消去します。

EDNSが指定された場合には、NOEDNSパラメーターは指定できません。

0 従来より、バージョン0を使用して、サポートするクライアントおよびサーバーで512バイトを超えるUDPパケットを許可します。

0から255

0以外の値は、DNSSECゾーンで使用されます。

リゾルバーおよびサーバーは、他のサーバーとネゴシエーションして、省略時値の512バイトより大きなUDPメッセージ・サイズを設定することができます。通常、リモート・サーバーと4096バイトのUDPパケット・サイズのネゴシエーションを試みます。このネゴシエーションには、EDNSをサポートするリモート・サーバーが必要です。リモート・サーバーがEDNSをサポートしていない場合には、元の512バイト制限はUDPの省略時値のままです。

BUFSIZEパラメーターを使用して、ネゴシエーションされたUDPパケットのサイズを制御できます。

上

EDNSバージョンのクリア (NOEDNS)

EDNSバージョンの設定 (EDNS)パラメーターを指定した前のDIG呼び出しで設定された値を消去するかどうかを指定します。

NOEDNSが指定された場合には、EDNSパラメーターは指定できません。

***NO** 記憶されたEDNSバージョンを消去しません。

***YES** 記憶されたEDNSバージョンを消去します。

上

ベスト・エフォート表示 (BESTEFFORT)

誤った形式のメッセージの内容を印刷しようとするかどうかを指定します。

***NO** 誤った形式の応答を印刷しません。

***YES** 誤った形式の応答を印刷します。

上

DNSSECレコードの要求 (DNSSEC)

QUERYの追加セクションのOPTレコードにDNSSEC OKビット(DO)を設定することによって、DNSSECレコードが送信されるように要求するかどうかを指定します。

***NO** DNSSECレコードを要求しません。

***YES** DNSSECレコードを要求します。

上

DNSSECチェーンの追跡 (SIGCHASE)

DNSSEC署名チェーンを追跡するかどうかを指定します。これによって、レコードに属するSIGレコードの検査を試行して、自己署名または符号なし鍵までの信頼の連鎖を形成するすべての鍵およびDSについて反復的に検査しようとします。

***NO** DNSSEC署名チェーンを追跡しません。

***YES** DNSSEC署名チェーンを追跡します。

SIGCHASE(*YES)を指定する場合には、DNSSEC(*YES)も指定する必要があります。

上

トラステッド鍵ファイル (TRUSTEDKEY)

SIGCHASEパラメーターで使用するトラステッド鍵が入ったファイルを指定します。各DNSKEYレコードはそれぞれの行に存在している必要があります。

*NONE以外の値を指定する場合には、SIGCHASE(*YES)も指定する必要があります。

*NONE

トラステッド鍵を指定しません。

パス名 トラステッド鍵があるストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

DNSSECトップダウン検査 (TOPDOWN)

DNSSEC署名チェーンの追跡時に、トップダウン検証（ルート「.」からリーフ・ノードまで）を実行するかどうかを指定します。

TOPDOWN(*YES)を指定する場合には、SIGCHASE(*YES)も指定する必要があります。

***NO** トップダウン検証を実行しません。

***YES** トップダウン検証を実行します。

上

出力ファイル (TOSTMF)

すべてのコマンド出力が書き込まれるストリーム・ファイルの名前を指定します。

*STDOUT

すべてのコマンド出力は、標準出力装置（通常はモニター）に送られます。

パス名 出力が書き込まれるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

例

例1: フォワード・ルックアップの例ーロング

```
STRDIGQRY  HOSTNAME('ibm.com')
            DMNNAMSVR(*CFG)
```

このコマンドは、「ibm.com」という名前のドメインの単純なQUERYを示します。これは、システム上に構成されたDNSサーバーを使用します。省略時には、レコード・タイプ*A、クラス*INをルックアップします。このコマンドの出力は次のようなものです。

```

; <<>> DiG 9.4.1.i5/OS.V6R1M0 <<>> ibm.com @10.0.1.100
; (1 server found)
;; global options: printcmd
;; Got answer:
;; -->HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 510
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 3, AUTHORITY: 3, ADDITIONAL: 3
;; QUESTION SECTION:
;ibm.com.                IN      A
;; ANSWER SECTION:
ibm.com.                9559   IN      A      129.42.18.103
ibm.com.                9559   IN      A      129.42.16.103
ibm.com.                9559   IN      A      129.42.17.103
;; AUTHORITY SECTION:
ibm.com.                9559   IN      NS     leda2.ibm.com.
ibm.com.                9559   IN      NS     castor.ibm.com.
ibm.com.                9559   IN      NS     pollux.ibm.com.
;; ADDITIONAL SECTION:
leda2.ibm.com.          9559   IN      A      9.14.1.3
castor.ibm.com.        9559   IN      A      9.78.1.2
pollux.ibm.com.        9559   IN      A      9.46.1.2
;; Query time: 13 msec
;; SERVER: 10.0.1.100#53(10.0.1.100)
;; WHEN: Sat Aug 5 11:11:18 2006
;; MSG SIZE rcvd: 183

```

例2: フォワード・ルックアップの例 - ショート

```

DIG HOSTNAME('ibm.com')
    DMNNAMSVR(*CFG)
    SHORT(*YES)
    IDENTIFY(*YES)

```

このコマンドは、例1と同じQUERYを示しますが、短い出力で示します。

```

129.42.18.103 from server 10.0.1.100 in 1 ms.
129.42.16.103 from server 10.0.1.100 in 2 ms.
129.42.17.103 from server 10.0.1.100 in 2 ms.

```

例3: リバース・ルックアップの例

```

DIG HOSTNAME('10.0.1.100')
    REVERSE(*YES)

```

このコマンドは、IPv4アドレス「10.0.1.100」のホストの単純なリバースQUERYを示します。これは、システム上に構成されたDNSサーバーを使用します(CHGTCPPDMNコマンドで表示)。省略時には、名前「100.1.0.10.in-addr.arpa」、レコード・タイプPTR、およびクラス*INをルックアップします。これは次のコマンドと等価です。

```

DIG HOSTNAME('100.1.0.10.in-addr.arpa')
    TYPE(*PTR)
    CLASS(*IN)

```

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```

; <<>> DiG 9.4.1.i5/OS.V6R1M0 <<>> -x 10.0.1.100 @10.0.1.100
; (1 server found)
;; global options: printcmd
;; Got answer:
;; -->HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 609
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 1, ADDITIONAL: 1
;; QUESTION SECTION:
;100.1.0.10.in-addr.arpa.    IN      PTR
;; ANSWER SECTION:
100.1.0.10.in-addr.arpa.    86400  IN      PTR     mydns1.i5os.ibm.com.
;; AUTHORITY SECTION:
0.10.in-addr.arpa.         86400  IN      NS      mydns1.i5os.ibm.com.

```



```
;; ADDITIONAL SECTION:
mydns2.i5os.ibm.com.      47409 IN      A      10.0.2.200
;; Query time: 994 msec
;; SERVER: 10.0.1.100#53(10.0.1.100)
;; WHEN: Sat Aug 5 11:32:16 2006
;; MSG SIZE rcvd: 119
```

例4:検索リストによるDIG

```
STRDIGQRY  HOSTNAME(time)
           TYPE(*ANY)
           CLASS(*IN)
           USESCHDMNL(*YES)
           DMNSCHLIST(nist.gov)
```

このコマンドは、「time」に関連したすべてのレコードに対してQUERYを実行します。このQUERYが失敗すると、DIGは、検索リストのドメイン「ibm.com」を名前に付加してQUERYを再試行します。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
<<<> DiG 9.4.1.i5/OS.V6R1M0 <<<> -q time -t any -c in @10.0.1.100
+search +domain=nist.gov
; (1 server found)
;; global options: printcmd
;; Got answer:
;; -->HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 1336
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 2
;; QUESTION SECTION:
time.nist.gov.          IN      ANY
;; ANSWER SECTION:
time.nist.gov.         287    IN      A      192.43.244.18
;; AUTHORITY SECTION:
nist.gov.              65982  IN      NS     ns1.nist.gov.
nist.gov.              65982  IN      NS     dns-x.boulder.nist.gov.
;; ADDITIONAL SECTION:
ns1.nist.gov.         283    IN      A      129.6.13.2
dns-x.boulder.nist.gov. 40652  IN      A      132.163.4.9
;; Query time: 1038 msec
;; SERVER: 10.0.1.100#53(10.0.1.100)
;; WHEN: Sat Aug 5 11:36:18 2006
;; MSG SIZE rcvd: 125
```

例5:応答セクションの抑止

```
DIG  HOSTNAME(time.nist.gov)
     TYPE(*ANY)
     CLASS(*IN)
     PRTALL(*NO)
     QUESTION(*YES)
     ANSWER(*YES)
```

このコマンドは、PRTALL(*NO)パラメーターを使用して応答セクションのほとんどを抑止して、QUESTION(*YES)を使用して質問セクションの設定を、ANSWER(*YES)を使用して応答セクションの設定をオーバーライドしている点を除いて、例4と同様です。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
;time.nist.gov.          IN      ANY
time.nist.gov.         673    IN      A      192.43.244.18
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0065

i5/OSのオプション33が必要ですが、導入されていません。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

上

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)コマンドは、指定されたオブジェクトの割り振りを解放します。1つ以上のオブジェクト割り振り (ALCOBJ)コマンドによって前に割り振られたオブジェクトは、他のジョブまたはスレッドによる使用のために解放されます。ロックが存在していない時にDLCOBJコマンドを使用しても、エラーは起こりません。

DLCOBJコマンドを使用しない場合には、オブジェクトは自動的に割り振り解除される可能性があります。割り振られたジョブ有効範囲のロックはジョブの終了時に自動的に解放されます。割り振られたスレッド有効範囲のロックはスレッドの終了時に自動的に解放されます。スレッドがジョブ有効範囲のロックを受け取った場合には、ジョブは、要求側のスレッドが終了した後もそのロックを維持し続けます。ロック・スペース有効範囲のロックは自動的に解放されることはありません。

DLCOBJコマンドは、ALCOBJコマンドで明示的に割り振られていないオブジェクトには出さないでください。DLCOBJをこのように使用すると、オブジェクトの内部ロックが解除されてオブジェクトを削除可能になります。

1つのDLCOBJコマンドでオブジェクトについての複数のロックを解放するためには、解放したい各ロックごとに、オブジェクト名、タイプ、およびロック状態をリスト中で反復して指定しなければなりません。

注:

- 分散データ管理機能(DDM)ファイルおよび分散ファイルを割り振り解除する時には、通信の確立およびリモート・システム上のファイルの割り振り解除に時間が必要であるために、コマンドを完了するには追加の時間が必要です。
- オブジェクトのライブラリーに対して*LIBLを指定することによってオブジェクトを割り振り、スレッドのライブラリー・リストを変更し、次に、オブジェクトのライブラリーに対して*LIBLを指定することによってそのオブジェクトを割り振り解除しようとする時、間違ったオブジェクトに対して割り振り解除を出す結果となる可能性があります。これが内部ロックを解除してしまう場合があります。

制約事項:

- このコマンドは、拡張プログラム間通信(APPC)装置またはシステム内(INTRA)装置の装置記述*DEVVDを割り振り解除するためには使用できません。
- このコマンドは、次のデータベース*FILEタイプだけを割り振り解除するために使用できます。
 - 物理ファイル
 - 論理ファイル
 - 分散ファイル

これは、ノード・グループで各ノード上のファイルの部分を割り振り解除します。

- DDMファイル

これは、ローカル・システム上のDDMファイルおよびDDMファイルで識別されるリモート・システム上のファイルの両方を割り振り解除します。

3. マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではありません。このコマンドは、また、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してもスレッド・セーフではありません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクトの仕様	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*AUTL, *BNDDIR, *CLD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *IMGCLG, *IPXD, *LIB, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGQ, *NODL, *NTBD, *NWSCFG, *NWSD, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *SBSD, *SCHIDX, *SQLPKG, *SRVPGM, *SSND, *S36, *TIMZON, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
要素 3: ロック状態	*SHRRD, *SHRNUP, *SHRUPD, *EXCLRD, *EXCL		
要素 4: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *FIRST		
SCOPE	ロック有効範囲	*JOB, *THREAD, *LCKSPC	オプション

上

オブジェクトの仕様 (OBJ)

ジョブ、スレッドまたはロック・スペースから割り振り解除される1つまたは複数のオブジェクトの修飾名、指定された各オブジェクトのタイプ、各オブジェクトのロック状態、およびメンバー名（オブジェクトがデータベース・ファイルまたはDDMファイルの場合）を指定します。

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)コマンドには、一部のオブジェクト・タイプだけを指定することができます。もちろん、一部のオブジェクト・タイプでは、すべてのロック状態を使用できるわけではありません。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

割り振り解除するオブジェクトのタイプを指定します。詳細については、「オブジェクト・タイプ別の有効なロック状態」の図を参照してください。

要素3: ロック状態

***SHRRD**

ロック状態は読み取り共用です。

***SHRNUP**

ロック状態は更新なし共用です。

***SHRUPD**

ロック状態は更新共用です。

***EXCLRD**

ロック状態は読み取り許可排他です。

***EXCL**

ロック状態は読み取りなし排他です。

要素4: データベース・ファイルの場合にメンバー

注: 次の値を指定できるのは、オブジェクト・タイプがデータベース・ファイルの場合だけです。

***FIRST**

データベース・ファイルの最初のメンバーが割り振り解除されます。

名前 割り振られるメンバーの名前を指定します。指定されたファイルが論理ファイルの場合には、論理ファイルのメンバーに対応する物理ファイル・メンバーも割り振り解除されます。

オブジェクトで複数のロックを指定する方法、装置記述のロックを指定する方法、または割り振りできるタイプ・オブジェクトを指定する方法についての説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションに示されています。

データベース・ファイル・メンバーが割り振り解除される場合には、ライブラリー・リスト中で最初にファイルが見つかる、そのファイルから指定したメンバーが検索されます。ライブラリー・リスト中でその後と同じ名前のファイルにメンバーがあっても、最初のファイルに見つからない場合には、そのメンバーは見つかりません。データベース・ファイルにメンバー名が指定されていない場合には、メンバー名は、省略時の値として*FIRSTが使用され、ファイル中に最初に作成されたメンバーが割り振り解除されます。

表 5. 図: オブジェクト・タイプ別の有効なロック状態

オブジェクト ・タイプ	オブジェクト・タイプの定義	ロック状態						
		*EXCL	*EXCLRD	*SHRUPD	*SHRNUP	*SHRRD		
*AUTL	権限リスト	X	X	X	X	X		
*BNDDIR	結合ディレクトリー	X	X			X		
*CLD	Cロケール記述	X	X	X	X	X		
*CRQD	変更要求 記述	X	X	X	X	X		
*CSI	通信サイド 情報	X	X	X	X	X		
*DEVD	装置記述		X	X				
*DTAARA	データ域	X	X	X	X	X		
*DTADCT	データ・ディクショナリー	X	X	X	X	X		
*DTAQ	データ待ち行列	X	X	X	X	X		
*FCT	用紙制御テーブル	X	X	X	X	X		
*FILE	ファイル	X	X	X	X	X		
*FNTRSC	フォント資源	X	X	X	X	X		
*FNNTBL	フォント・マッピング・テーブル			X	X	X	X	X
*FORMDF	書式定義	X	X	X	X	X		
*IMGCLG	イメージ・カタログ	X	X	X	X	X		
*IPXD	INTERNET PACKET EXCHANGE記述	X	X	X	X	X		
*LIB	ライブラリー	X	X	X	X			
*LOCALE	ロケール・スペース・オブジェクト			X	X	X	X	X
*MEDDFN	媒体定義	X	X	X	X	X		
*MENU	メニュー	X	X	X	X	X		
*MGTCOL	管理収集	X	X	X	X	X		
*MODULE	モジュール	X	X			X		
*MSGQ	メッセージ待ち行列	X				X		
*NODL	ノード・リスト	X	X	X	X	X		
*NTBD	NETBIOS記述	X	X	X	X	X		
*NWSCFG	ネットワーク・サーバー 構成	X	X	X	X	X		
*NWS	ネットワーク・サーバー 記述	X	X	X	X	X		
*OVL	オーバーレイ	X	X	X	X	X		
*PAGDFN	ページ定義	X	X	X	X	X		
*PAGSEG	ページ・セグメント	X	X	X	X	X		
*PDFMAP	PDFマップ	X	X	X	X	X		
*PDG	印刷記述子グループ	X	X	X	X	X		
*PGM	プログラム	X	X			X		
*PNLGRP	パネル・グループ	X	X	X	X	X		
*PSFCFG	印刷サービス機能 構成	X	X	X	X	X		
*QMFORM	QUERY管理機能書式	X	X	X	X	X		
*QMQR	QUERY管理機能プログラム	X	X	X	X	X		
*QRYDFN	QUERY定義	X	X	X	X	X		
*S36	S/36マシン 記述	X	X	X	X	X		
*SBSD	サブシステム記述	X						
*SCHIDX	検索索引	X	X	X	X	X		
*SQLPKG	構造化照会 言語パッケージ	X	X	X	X	X		
*SRVPGM	サービス・プログラム	X	X	X	X	X		
*SSND	セッション記述	X	X	X	X	X		
*TIMZON	時間帯記述	X	X	X	X	X		
*USRIDX	ユーザー索引	X	X	X	X	X		
*USRQ	ユーザー待ち行列	X	X	X	X	X		
*USRSPC	ユーザー・スペース	X	X	X	X	X		
*VLDL	妥当性検査リスト・オブジェクト	X	X	X	X	X	X	
*WSCST	ワークステーション・ カスタマイズ・オブジェクト	X	X	X	X	X		

'X'はオブジェクト・タイプにロック状態が許されることを示します。

上

ロック有効範囲 (SCOPE)

このロック要求の有効範囲を指定します。

***JOB** ロックの有効範囲はジョブとなります。

***LCKSPC**

ロックの有効範囲は、現行のスレッドに付加されたロック・スペースとなります。ロック・スペースが付加されない場合は、そのロックの有効範囲はジョブとなります。

***THREAD**

ロックの有効範囲はスレッドとなります。

OBJパラメーターによってサポートされるすべてのオブジェクト・タイプは、ジョブ有効範囲のロックをサポートします。OBJパラメーターによってサポートされるすべてのオブジェクト・タイプは、ロック・スペース有効範囲のロックをサポートします。ロック・スペース有効範囲とともにDDMオブジェクトを割り振る場合には、リモート・システムのロックの有効範囲はジョブとなります。オブジェクトがスレッド有効範囲のロックをサポートするかどうかを判別するには、「スレッド有効範囲のロックをサポートするオブジェクト・タイプ」の図を参照してください。

ロックの有効範囲は、ジョブまたはスレッドに現在割り振られているロックの有効範囲と一致しなければなりません。

表 6. 図: スレッド有効範囲のロックをサポートするオブジェクト・タイプ

オブジェクト ・タイプ	オブジェクト・タイプの定義	スレッド 有効範囲
*AUTL	権限リスト	
*BNDDIR	結合ディレクトリー	
*CLD	Cロケール記述	
*CRQD	変更要求記述	
*CSI	通信サイド情報	
*DEVD	装置記述	X
*DTAARA	データ域	X
*DTADCT	データ・ディクショナリー	X
*DTAQ	データ待ち行列	X
*FCT	用紙制御テーブル	
*FILE	ファイル	X
*FNTRSC	フォント資源	
*FNTTBL	フォント・マッピング・テーブル	
*FORMDF	書式定義	
*IMGCLG	イメージ・カタログ	X
*IPXD	INTERNET PACKET EXCHANGE記述	X
*LIB	ライブラリー	X
*LOCALE	ロケール・スペース・オブジェクト	X
*MEDDFN	媒体定義	
*MENU	メニュー	
*MGTCOL	管理収集	X
*MODULE	モジュール	
*MSGQ	メッセージ待ち行列	X
*NODL	ノード・リスト	
*NTBD	NETBIOS記述	X
*NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	
*NWSD	ネットワーク・サーバー記述	X
*OVL	オーバーレイ	
*PAGDFN	ページ定義	
*PAGSEG	ページ・セグメント	
*PDFMAP	PDFマップ	X
*PDG	印刷記述子グループ	
*PGM	プログラム	X
*PNLGRP	パネル・グループ	
*PSFCFG	印刷サービス機能構成	
*QMFORM	QUERY管理機能書式	
*QMORY	QUERY管理機能プログラム	
*QRYDFN	QUERY定義	
*S36	S/36マシン記述	
*SBSD	サブシステム記述	X
*SCHIDX	検索索引	
*SQLPKG	構造化照会言語パッケージ	
*SRVPGM	サービス・プログラム	X
*SSND	セッション記述	
*TIMZON	時間帯記述	X
*USRIDX	ユーザー索引	X
*USRQ	ユーザー待ち行列	X
*USRSPC	ユーザー・スペース	X
*VLDL	妥当性検査リスト・オブジェクト	X
*WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	

'X'はオブジェクト・タイプにスレッド有効範囲ロックが使用できることを示します。

上

例

例1:ジョブのファイルの割り振り解除

```
DLCOBJ OBJ((LIBB/FILEA *FILE *SHRRD))
```

このコマンドは、ジョブによって保留されているライブラリーLIBBのファイルFILEAの最初のメンバーの読み取り共用割り振りを解放します。

例2:スレッドのデータ域の割り振り解除

```
DLCOBJ OBJ((LIBY/DATAAREAX *DTAARA *SHRRD )) SCOPE(*THREAD)
```

このコマンドは、スレッドによって保留されているライブラリーLIBYのデータ域DATAAREAXの読み取り共用割り振りを解放します。

例3:ロック・スペースのファイルの割り振り解除

```
DLCOBJ OBJ((LIBB/FILEA *FILE *EXCL MEMBERA))  
SCOPE(*LCKSPC)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBBのファイルFILEAのメンバーMEMBERAを、現行スレッドに接続されているロック・スペースから割り振り解除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1005

オブジェクトは割り振り解除されなかった。

上

警報の削除 (DLTALR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報削除(DLTALR)コマンドによって、警報データベースから1つ以上の警報を削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLTOPT	削除オプション	*ALL, *RCV, *LOCAL, *HELD	オプションナル, 定位置 1
DAYS	日数	0-999, 30	オプションナル, 定位置 2
ALRTYPE	警報タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値, *TEMP, *PERM, *PERF, *IMPEND, *UNKNOWN	オプションナル
ALRRSC	資源警報	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプションナル
ALRRSCTYPE	警報資源タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプションナル
ASNUSER	ユーザー割り当て	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプションナル
GROUP	グループ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *NONE, *DEFAULT	オプションナル

上

削除オプション (DLTOPT)

どの警報が削除されるかを指定します。

***ALL** 残りのキーワードの選択基準を満たすすべての警報が削除されます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、30日を越えている警報のすべてが削除されます。

***RCV** 他のシステムから受け取った警報だけが削除されます。受け取った警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、受け取った警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

*LOCAL

ローカルで作成された警報だけが削除されます。ローカル警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、ローカルで作成された警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

*HELD

システムのフォーカル・ポイントに送ることができず、「保留」とマークされているすべての警報が削除されます。保留中の警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、保留中の警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

注: このシステムが送信または転送する保留中の警報と別のシステムが受信する保留中の警報との間には区別があります。DLTOPT(*HELD)の場合には、このシステムが送信または転送できなかった保留中の警報(あるいはALRHLCNTネットワーク属性に基づいて現在保留されている警報)だけが削除されます。

上

日数 (DAYS)

この値より古い警報が削除されることを指定します。この値より新しい警報は削除されません。この値は0または任意の日数とすることができます。残りのキーワードでさらに選択基準を指定することができます。

30 30日より前のすべての警報が削除されます。

0から999

日数を指定してください。

上

警報タイプ (ALRTYPE)

どのタイプの警報が削除されるかを指定します。警報タイプは、警報の重大度を示します。

単一値

***ALL** すべてのタイプの警報が削除されます。

その他の値 (最大5個指定可能)

***TEMP**

一時的な問題を報告しているすべての警報が削除されます。

***PERM**

永続的な問題を報告しているすべての警報が削除されます。

***PERF**

パフォーマンスの問題を報告しているすべての警報が削除されます。

***IMPEND**

切迫した問題を報告しているすべての警報が削除されます。

***UNKNOWN**

重大度が不明の問題を報告しているすべての警報が削除されます。

文字値 警報タイプのコード点を指定してください。コード点は2桁の16進数によって指定されます。

上

資源警報 (ALRRSC)

問題を報告している資源の名前を指定します。最大50個の警報資源名を指定することができます。

単一値

***ALL** 障害のあるすべての資源についての警報です。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 問題を報告している資源の名前を指定してください。

上

警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)

問題を報告している資源のタイプを指定します。最大50個の資源タイプを指定することができます。各資源名にはその資源と関連した資源タイプがあります。例えば、ディスクット(DKT)やテープ(TAP)などの資源タイプがあります。

単一値

***ALL** すべての資源タイプの警報です。

その他の値 (最大50個指定可能)

文字値 割り当てられた資源タイプと関連した問題を報告している警報の資源タイプを指定してください。

上

ユーザー割り当て (ASNUSER)

削除されている警報が割り当てられたユーザーを指定します。この値は、警報処置項目追加 (ADDALRACNE)コマンドのASNUSERパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が削除されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

***NONE**

ユーザーに割り当てられていない警報が削除されます。

文字値 削除されている警報が割り当てられたユーザーの名前を指定してください。

上

グループ (GROUP)

削除されている警報が割り当てられたグループを指定します。この値は、警報選択項目追加 (ADDALRSLTE) コマンドの GROUP パラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が削除されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

***DEFAULT**

省略時のグループに割り当てられていない警報が削除されます。

***NONE**

グループに割り当てられていない警報が削除されます。

名前 削除されている警報が割り当てられたグループの名前を指定してください。

上

例

例1: 一時および永続警報タイプの削除

```
DLTALR  DLTOPT(*LOCAL) DAYS(10) ALRTYPE(*TEMP *PERM)
        ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドは、警報データベース中にローカル側で作成された一時および永続警報を削除します。削除される警報が、ディスクットに関して問題を報告中です。これらの基準と一致している10日より古い警報が削除されます。

例2: ディスケット資源と関連付けられた警報の削除

```
DLTALR  DLTOPT(*RCV) DAYS(0) ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドは、ディスクット資源と関連付けられた受け取った警報を削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル削除(DLTALRTBL)コマンドは、警報テーブルを指定したライブラリーから削除します。警報テーブル削除の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

警報テーブル (ALRTBL)

削除する警報テーブルの修飾名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

警報テーブル名

削除する警報テーブルの名前を指定してください。

総称警報テーブル名*

削除する警報テーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。ALRTBLパラメーターに総称名を指定した場合には、総称警報テーブル名と同じ接頭部の付いた名前をもつ、すべての警報テーブルが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために現行ライブラリー・リストが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

上

例

```
DLTALRTBL  ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBから警報テーブルALRTBLNBR1を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

APARデータの削除 (DLTAPARDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APARデータ削除(DLTAPARDTA)コマンドは、正式問題分析報告書(APAR)ライブラリーおよびAPARデータ復元(RSTAPARDTA)コマンドによって作成されたデータを削除します。このコマンドはまた、新しい情報で問題ログ項目を更新し、APARライブラリーに対する参照を除去します。

制約事項:

- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRVBAS
 - QSRV

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRBID	問題識別コード	文字値	必須, 定位置 1
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点名	通信名, <u>*NETATR</u>	

上

問題識別コード (PRBID)

APARデータが削除されることになる問題のID (ID) を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 使用する問題IDを指定します。

上

起点 (ORIGIN)

問題が起こったネットワークIDおよび制御点を指定します。

要素1: ネットワーク識別コード

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル・ネットワークIDを持つシステムで起こった問題。

通信名 問題が起こったシステムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点名

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じ制御点名を持つシステムで起こった問題。

通信名 問題が起こったシステムの制御点を指定してください。

上

例

DLTAPARDTA PRBID(9202448748)

このコマンドは、問題ID 9202448748のAPARライブラリーとAPARデータを削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF39FA

問題&1 &2 &3が見つからない。

CPF39FE

APARデータが問題&1と対応していない。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF39F5

問題&1の照会が正常に実行されなかった。

CPF39F9

問題&1 &2 &3は使用中。

上

権限ホルダー削除 (DLTAUTHLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限ホルダー削除(DLTAUTHLR)コマンドによって、タイプ*FILEのオブジェクトを保護するための権限ホルダーを削除できます。

制約事項:

- 権限ホルダーを削除できるのは、その権限ホルダーが保護するオブジェクトに対する全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限またはすべて(*ALL)の権限を持っているユーザーです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

上

オブジェクト (OBJ)

削除する権限ホルダー・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 使用される権限ホルダー・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 権限ホルダーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTAUTHLR OBJ(QGPL/FIL1)

このコマンドは、QGPLライブラリー内のFIL1の権限所有者を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPC2213

権限ホルダーが削除された。

CPF22B1

権限ホルダーが存在していない。

CPF22B2

権限ホルダーの作成または削除は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

上

権限リスト削除 (DLTAUTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト削除(DLTAUTL)コマンドによって、ユーザーは権限リストを削除することができます。オブジェクトの保護のために権限リストが使用中である場合には、権限リストを削除することはできません。権限リストを削除するユーザーは、その権限リストに対して全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているか、あるいはその権限リストの所有者でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

権限リスト (AUTL)

削除する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 削除する権限リストの総称名を指定してください。総称権限リスト名を指定した場合には、総称権限リスト名と同じ接頭部を持ち、ユーザーに正当な権限のある権限リストはすべて削除されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 削除する権限リストの名前を指定してください。

上

例

例1:権限リストの削除

```
DLTAUTL AUTL(PROGMR)
```

このコマンドは、PROGMR権限リストを削除します。

例2:総称権限リストの削除

```
DLTAUTL AUTL(FR*)
```

このコマンドは、文字FRで始まっている権限リストをすべて削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2279

権限リスト&1を削除することはできない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

上

バインド・ディレクトリーの削除 (DLTBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの削除(DLTBNDDIR)コマンドは、バインド・ディレクトリーを削除します。

制約事項

- ・ バインディング・ディレクトリーの削除元のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限およびそのバインディング・ディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

削除するバインド・ディレクトリーまたはバインド・ディレクトリーのグループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

総称名 削除するバインド・ディレクトリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には, その総称名で始まる名前のバインド・ディレクトリーで, それに対してユーザーが権限をもっているすべてのバインド・ディレクトリーが削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 削除されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #SDALIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

上

例

```
DLTBNDIR  BNDIR(DISPLAYS)
```

このコマンドは、バインド・ディレクトリーを見つけるために、ジョブ・ライブラリーを使用してDISPLAYSという名前のバインド・ディレクトリーを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

上

構成リスト削除 (DLTCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト削除(DLTCFGL)コマンドは、指定された構成リストを削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CFGL	構成リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

構成リスト (CFGL)

削除する1つまたは複数の構成リストの名前を指定します。特定の構成リストまたは総称の構成リストを指定することができます。

構成リスト名

削除したい構成リストの名前を指定してください。

総称*構成リスト名

削除したい構成リストの総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
DLTCFGL CFGL(CONFIG01)
```

このコマンドは、構成リストCONFIG01をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

上

C ロケール記述の削除 (DLTCLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C ロケール記述削除コマンドは、CLDパラメーターに指定したC/400*ロケール記述を削除します。ロケール名として総称名を指定することによって、複数のロケールを削除することができます。C ロケール記述に特定の名前を指定した場合には、DLTCLD の処理時に最初のロケールだけが削除されます。システムは、指定されたライブラリーに基づいてロケールを検索します。そのロケールが存在していないか、あるいは指定したライブラリーに見つからなかった場合には、そのロケールは削除されません。

エラー・メッセージ: DLTCLD

なし

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ロケール名 (CLD)

削除したいCロケール記述の名前を指定します。特定のロケール名または総称ロケール名を入力しなければなりません。

ロケール名

削除したいCロケール記述の名前を指定します。

総称*Cロケール記述名

削除したいCロケール記述の総称名を指定します。総称名には1つまたは複数のアスタリスク(*)をつけた文字ストリングを含めることができます。CLDパラメーターに総称名を指定した場合には、同じ接頭部がついた名前をもつすべてのCロケール記述が削除されます。たとえば、ロケール名MY*を入力すると、指定したライブラリーでMYで始まるすべてのロケールが削除されます。総称機能の使用については、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)を参照してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 指定されたロケールを見つけるために、ライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分の両方が検索されます。特定のCロケール記述名(総称名ではなく)を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、システムは、指定されたロケールを見つけるためにQGPLを検索します。

*USRLIBL

指定されたロケールを見つけるために、ライブラリー・リストのユーザー部分が検索されます。特定のCロケール記述名（総称名ではなく）を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

*ALL 指定されたロケールを見つけるために、QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。特定のCロケール記述名（総称名ではなく）を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー定義ライブラリーおよびQGPLを含むすべての非システム・ライブラリーが検索されます。これには、ライブラリー・リスト中のライブラリーと、リスト中に指定されていないライブラリーの両方が含まれます。QGPL以外の、Qで始まるすべてのライブラリーはシステム・ライブラリーであるので検索されません。

ライブラリー名

指定したロケールを検索したいライブラリーの名前を入力してください。これは、DLTCLDコマンドの処理時に検索される唯一のライブラリーです。指定したライブラリーに対する*USE権限がなければなりません。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

なし

上

クラス削除 (DLTCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス削除 (DLTCLS)コマンドは、1つのクラス・オブジェクトまたは1グループのクラス・オブジェクトをシステムから削除します。クラスを使用して実行中のルーティング・ステップは、クラスの削除の影響を受けません。しかし、このクラスを使用する追加のルーティング・ステップは開始することはできません。削除されるクラスが既存のルーティング項目で参照されている場合には、そのルーティング項目を（別のクラスを参照するように）変更するか、あるいは同じ名前で作成しなければなりません。サブシステムのルーティング項目が削除されたクラスを指定している場合には、そのサブシステムは、そのルーティング項目を使用するどのジョブも開始することはできません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、クラスに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

クラス (CLS)

削除するクラス名およびライブラリーを指定します。特定のクラスまたは総称クラスを指定することができます。どちらも、必要に応じてライブラリー名により修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

総称名 削除するクラスの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称クラスと同じ接頭部を持つ名前のすべてのクラスが削除されます。

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB   QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS    QUSRVRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRXMXユーザー・ライブラリーのVRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

上

例

DLTCLS CLS(CLASS1)

このコマンドは、CLASS1という名前のクラスをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

上

コマンド削除 (DLTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド削除(DLTCMD)コマンドは、ユーザー定義コマンド（またはコマンドのグループ）が入っているライブラリーからそれを削除します。コマンド定義オブジェクトだけが除去されます。すなわち、コマンド定義ソース、コマンド処理プログラム、および妥当性検査プログラムは影響を受けません。

制約事項:

- 削除するコマンドに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

コマンド (CMD)

削除するコマンドを指定します。特定のコマンド名または一般のコマンド名を指定することができ、ライブラリー名によってオプションで修飾することができます。

修飾子1: コマンド

名前 削除するコマンドの名前を指定してください。

総称名 削除するコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべてのコマンドが削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

(総称名ではなく) 特定のコマンド名が指定された場合には、最初に見つかったその名前のコマンドだけが削除されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVRxRmX
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTCMD  CMD(LIB01/PAYROLL)
```

このコマンドは、PAYROLLという名前のコマンドをライブラリーLIB01から削除します。コマンドに対する任意の専用権限が、すべての許可ユーザーのユーザー・プロファイルから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan